

授 業 名	ブッダの教え u a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE1101
英 文 名	Teaching of Buddha			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	本講義は仏教の起源である開祖ブッダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブッダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブッダの生涯」「ブッダの教え」というテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブッダの生涯、ブッダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 建学の精神を理解出来る。 2) 仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解出来る。 3) 仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解出来る。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	佛教大学仏教学科編『仏教入門 - 釈尊と法然上人の教え』（学術出版社、2000年）								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	確認テストを回収後、解答を解説する。								
留 意 事 項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義にて指示します。								
実践的教育									

授業名	ブッダの教え u a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「宗教とは何か」	(学修内容) 宗教とは？仏教とはどのような教え？何故仏教を学ぶの？仏教を学ぶ基本の基本を学び、宗教の本質をざっくりと学びます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読んでおく。
第2回	「仏教から学ぶこと」	(学修内容) 仏教を学ぶ目的と意義について概説します。学園の建学の精神を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 建学の精神をまとめてください。
第3回	「仏教とは何か」	(学修内容) 私たちの日常生活にみえる仏教を確認してみましょう。インドの習俗は、私たちの生活にみえています。日常生活から仏教を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊について一通り、教科書を読んでみてください。授業後、プリントを整理してください。
第4回	「仏教成立の時代背景-インドの歴史」	(学修内容) 仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアリア人のインド侵入の時期までを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 古代インドについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業の後、ノートを整理する。
第5回	「仏教成立の時代背景-業思想について」	(学修内容) アリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想(業・輪廻)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 業思想について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第6回	「仏教成立の時代背景-六師外道」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、仏教という新宗教誕生の必然性を考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 六師外道について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業の後、ノートを整理する。
第7回	「ブッダの生涯-誕生」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 誕生について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第8回	「ブッダの生涯-四門出遊」	(学修内容) ブッダの出家の経緯(四門出遊)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四門出遊について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第9回	「ブッダの生涯-苦行」	(学修内容) ブッダの出家・修業時代から悟りへの道を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 苦行について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第10回	「ブッダの生涯-成道について」	(学修内容) ブッダの「さとり」を中心に概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) さとりについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第11回	「ブッダの教え-縁起」	(学修内容) 縁起説について概説します。理解度テストを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 縁起について、該当する教科書の範囲を読んでください。前回授業のノートを読み返しておくこと。
第12回	「ブッダの教え-四諦八正道」	(学修内容) 四諦説と八正道について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四諦について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第13回	「ブッダの教え-十大弟子」	(学修内容) 釈尊の伝道について概説します。また十大弟子の様々なエピソードを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 十大弟子について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第14回	「ブッダの生涯-三宝の成立」	(学修内容) ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 三宝について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでのノートを読み返してください。自分なりに釈尊の生涯をまとめること。

授 業 名	ブツダの教え u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1102
英 文 名	Teaching of Buddha			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	本講義は仏教の起源である開祖ブツダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブツダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブツダの生涯」「ブツダの教え」というテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブツダの生涯、ブツダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 建学の精神を理解出来る。 2) 仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解出来る。 3) 仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解出来る。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	佛教大学仏教科編『仏教入門 - 釈尊を法然上人の教え』(学術図書出版会、2000年)								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	理解度テストを回収後、解答を解説する。								
留 意 事 項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授業名	ブッダの教え u b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「オリエンテーション」	(学修内容) 宗教とは？仏教とはどのような教え？何故仏教を学ぶの？仏教を学ぶ基本の基本を学び、宗教の本質をざっくりと学びます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読んでおく。
第2回	「仏教から学ぶこと」	(学修内容) 仏教を学ぶ目的と意義について概説します。学園の建学の精神を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 建学の精神をまとめてください。
第3回	「仏教とは何か」	(学修内容) 私たちの日常生活にみえる仏教を確認してみましょう。インドの習俗は私たちの生活にみえています。日常生活から仏教を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊について、一通り教科書を読んでみてください。授業後、プリントを整理する。
第4回	「仏教成立の時代背景-インドの歴史」	(学修内容) 仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアリア人のインド侵入の時期までを概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 古代インドについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第5回	「仏教成立の時代背景-業思想について」	(学修内容) アリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想(業・輪廻)について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 業思想について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業の後、ノートを整理する。
第6回	「仏教成立の時代背景-六師外道について」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、仏教という新宗教誕生の必然性を考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 六師外道について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第7回	「ブッダの生涯-誕生」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ブッダの誕生について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第8回	「ブッダの四門出遊」	(学修内容) ブッダの出家の経緯について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四門出遊について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第9回	「ブッダの生涯-修行」	(学修内容) ブッダの苦行について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 苦行について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第10回	「ブッダの生涯-さとり」	(学修内容) ブッダの「さとり」を中心に概説します。理解度テストを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ブッダのさとりについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第11回	「ブッダの教え-縁起」	(学修内容) ブッダの教説「縁起」を概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 縁起について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第12回	「ブッダの教え-四諦八正道」	(学修内容) 「四諦説」と「八正道」について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四諦八正道について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第13回	「ブッダの教え-十大弟子」	(学修内容) 釈尊の伝道について概説します。また十大弟子の様々なエピソードを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 十大弟子について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第14回	「ブッダの生涯-三宝の成立」	(学修内容) ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 三宝について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 全授業のノートを読み返しておくこと。釈尊についてまとめてください。

授 業 名	法然上人の思想と生涯 u a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1116
英 文 名	Saint Honen's Thought and His Life			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	本講義は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という4つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 建学の精神を理解出来る。 2) 法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解出来る。 3) 法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解出来る。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	佛教大学仏教学科編『仏教入門 - 釈尊と法然上人の教え』（学術出版社、2000年）								
参 考 書	使用しない								
課題に対する フィードバック の方法	理解度テストを回収後、解答の解説をします。								
留 意 事 項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義にて指示します。								
実践的教育									

授業名	法然上人の思想と生涯 u a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読み返すこと
第2回	「法然上人御廟参詣」	(学修内容) 法然上人の御廟を参詣します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 知恩院御廟参拝について感想をまとめる。
第3回	「釈尊滅後の仏教」	(学修内容) 大乘仏教について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大乘仏教について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第4回	「仏教の伝来とは」	(学修内容) インド・中国・日本にわたる仏教の伝来を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大乘仏教について、ノートを読み返しておくこと。授業後、ノートを整理する。
第5回	「日本仏教の特色」	(学修内容) 日本仏教の特色を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 仏教伝来について、授業のノートを読み返しておくこと。授業後、ノートを整理する。
第6回	「法然上人の生きた時代 末法思想」	(学修内容) 法然上人の生きた時代の背景を学びます。末法思想を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 末法思想について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第7回	「法然上人の生涯 誕生」	(学修内容) 法然上人の誕生から出家まで概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 誕生から出家について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第8回	「法然上人の生涯 修学」	(学修内容) 法然上人の修学時代を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 比叡山修学、南都遊学について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第9回	「法然上人の生涯 浄土宗開宗」	(学修内容) 求道の遍歴から浄土宗開宗について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 立教開宗の過程について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第10回	「法然上人の教え」	(学修内容) 浄土宗の教えを概説します。理解度テストを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 浄土宗の教えについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第11回	「法然上人の教え 『選択本願念仏集』」	(学修内容) 法然上人の教え「選択本願念仏」について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 浄土宗の教えについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第12回	「法然上人の周辺」	(学修内容) 法然上人の信者、弟子たちについて概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 門弟や信者について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第13回	「法然上人の生涯 大原問答」	(学修内容) 東大寺講説、大原問答等について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大原問答・東大寺講説について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第14回	「法然上人の生涯 法難と臨終」	(学修内容) 念仏の興隆と法難、法然上人の入滅。専修念仏教団の展開について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法難・臨終について、該当する教科書の範囲をよんでください。授業後、ノートを整理する。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの授業のノートを読み返しておくこと。法然上人についてまとめてください。

授 業 名	法然上人の思想と生涯 u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE1116
英 文 名	Saint Honen's Thought and His Life			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	本講義は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という4つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 建学の精神を理解する。 2) 法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解する。 3) 法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解する。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	佛教大学仏教学科編『仏教入門 釈尊と法然上人の教え』(学術図書出版社、2000年)								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	理解度テストの回収後、解答の説明をします。								
留 意 事 項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授業名	法然上人の思想と生涯 u b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「オリエンテーション」	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読み返しておくこと。
第2回	「法然上人御廟所参詣」	(学修内容) 知恩院の御廟所を参詣します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 御廟参拝について感想をまとめてください。
第3回	「釈尊滅後の仏教」	(学修内容) 大乘仏教を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大乘仏教について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第4回	「仏教の伝来とは」	(学修内容) インド・中国・日本にわたる仏教の伝来を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大乘仏教について、ノートを読み返してください。授業後、ノートを整理する。
第5回	「日本仏教について」	(学修内容) 日本仏教の特色を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 仏教伝来について、授業のノートを読み返してください。授業後、ノートを整理する。
第6回	「法然上人の時代背景 末法思想」	(学修内容) 末法思想を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 末法思想について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第7回	「法然上人の生涯 誕生」	(学修内容) 法然上人の誕生から出家を概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 誕生から出家について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第8回	「法然上人の生涯 修学」	(学修内容) 法然上人の修学時代を概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 比叡山修学、南都遊学について、教科書の該当する範囲を読んでください。
第9回	「法然上人の生涯 浄土宗開宗」	(学修内容) 求道の遍歴から浄土宗開宗について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 立教開宗について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第10回	「法然上人の教え」	(学修内容) 法然上人の教えについて概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の教えについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第11回	「法然上人の教え 『選択本願念仏集』」	(学修内容) 『選択本願念仏集』について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の教えについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第12回	「法然上人の周辺」	(学修内容) 法然上人の弟子や信者について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 門弟や信者について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第13回	「法然上人の生涯 大原問答」	(学修内容) 大原問答・東大寺講説について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大原問答・東大寺講説について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第14回	「法然上人の生涯 臨終」	(学修内容) 念仏の興隆と法難、臨終までを概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法難・臨終について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでの授業のノートを読み返しておくこと。法然上人についてまとめてください。

授 業 名	総合基礎演習 s a ・ s b ・ s c ・ s d				開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1102
英 文 名	Freshman Seminar				開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	山川 宏和・斧出 節子・藤井 伸生・流石 智子				対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	何を身につけたいか、何を学びたいか、どのような学生生活を送りたいか、各学生が考える機会にする。他の学生と考えを交流し相互理解を深めながら、各学生の学びの方向性を明確にする。 発表資料の作成方法を学んで発表し、プレゼンテーション能力を身につける。また、レポート作成の方法を学んで、実際にレポートを作成し、意見を主張する技術を習得する。									
学 修 成 果 到 達 目 標	1) コミュニケーション能力の基礎力を身につけ、他者の意見をもとに自分の意見を述べることができる。 2) プレゼンテーション能力の基礎力を身につけ、発表資料を作成することができる。 3) マネージメント能力の基礎力を身につけ、課題を発見し、必要な資料を収集することができる。									
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能				
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション			
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技		
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社									
参 考 書	初年次教育用の冊子を配布・使用する									
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションの際は、良かった点や改善点を口頭でフィードバックする。 提出されたレポートは、コメントを書いて返却する。									
留 意 事 項	ゼミを通して大学でのネットワークづくりをし、楽しみながら学べる環境作りを目的とするため、個々の学生の積極的な取り組みが望まれる。									
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。									
実践的教育										

授 業 名	総合基礎演習 sa・sb・sc・sd	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	高校と大学の違い(1) 履修登録	(学修内容)講義、演習、実習などの位置づけ、必修・選択・資格科目、インターンシップ等の授業形態の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 履修要項の該当部分を確認し、授業に持参する。
第2回	高校と大学の違い(2) 学生生活をデザインする	(学修内容)大学教員の役割(教育と研究、研究日、研究室の利用方法)や、ポータルサイト、Gmailの使い方 (事前事後学修課題の内容)(30分) ポータルサイトを確認し、必要な情報を入手する。履修要項を持参する。
第3回	目標と方法(1) 学びの動機付け	(学修内容)大学生活における目標と方法、長期目標と短期目標を設定する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) ディプロマポリシーについて振り返る。
第4回	目標と方法(2) 目標づくり	(学修内容)目標の立て方を学び、ステップアップシートに記入する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料を読んで過不足のない目標を確認する。
第5回	大学での学び方	(学修内容)講義の受け方、ノートの取り方、単位の実質的意味を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 学んだ内容を他の授業で実践する。
第6回	レポートの書き方(1) 書式	(学修内容)レポートと論文の違い、体裁や書式について (事前事後学修課題の内容)(45分) レポートを作成する。
第7回	レポートの書き方(2) 添削	(学修内容)前回の事後学習課題を持参し、添削を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 添削された内容を基に、修正・再提出する。
第8回	発表用資料の作成方法	(学修内容)口頭発表のレジュメ作成の方法について (事前事後学修課題の内容)(60分) レポートの内容をレジュメとして作成する。
第9回	発表用資料の作成	(学修内容)レジュメ作成の実際について (事前事後学修課題の内容)(60分) レポートの内容をレジュメとして作成する。
第10回	個人別プレゼンテーションと討論 第1グループ	(学修内容)個人発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料を作成する。
第11回	個人別プレゼンテーションと討論 第2グループ	(学修内容)個人発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料を作成する。
第12回	個人別プレゼンテーションと討論 第3グループ	(学修内容)個人発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料を作成する。
第13回	PROGテストの活用	(学修内容)PROGテストの見方、活用方法、目標設定について (事前事後学修課題の内容)(30分) PROGテストの強化書を参照する。
第14回	1回生ゼミ連絡会	(学修内容)夏季休暇中のレポート課題発表・夏季ボランティア等紹介 (事前事後学修課題の内容)(45分) 夏季休暇中の課題に必要な情報を収集する。
第15回	レポート・文章の書き方(基本)まとめ	(学修内容)発表を終えての文章の書き方・1200字程度のレポート作成について (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期の振り返りをしておくこと。

授 業 名	総合基礎演習 t a ・ t b ・ t c			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1102
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	竹市 仁美・猿渡 綾子・岩佐 真代			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>大学で何を身につけたいか、何を学びたいか、どのような学生生活を送りたいか、各学生が考える機会にする。他の学生と考えを共有し相互理解を深めるとともに、これから大学で学んでいくための基礎力を身につける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. 大学教育に必要な学修方法を身につける 2. 他者と適切なコミュニケーションをとることができる 3. プレゼンテーションの基礎を身につける</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	<p>『栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル』 化学同人 『図解 栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』化学同人</p>								
参 考 書	<p>適宜紹介する 第1回目～第3回目は「Campus Life」と「履修要項」を持参する</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>グループワークの成果、または各自の課題に対してコメントを返し、指導を行う。</p>								
留 意 事 項	<p>ゼミを通して自ら大学でのネットワークづくりをし、楽しみながら学べる環境づくりを実現するために、積極的に取り組んでください。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>初回時に伝えます</p>								
実 践 的 教 育									

授業名	総合基礎演習 ta・tb・tc	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	高校と大学の違い(1)履修登録	(学修内容)講義・演習・実習・実験の位置づけを理解する 必修・選択・資格取得・インターンシップなどの授業形態を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自、履修内容の確認ができるよう準備する
第2回	高校と大学の違い(2)学生生活をデザインする	(学修内容)大学教員を知る ポータルサイト・Gメールの使い方を知り、連絡の取り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所の予習復習を行う
第3回	目標と方法(1)学びへの動機付け	(学修内容)学科のディプロマポリシーを深く理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う
第4回	目標と方法(2)実際に目標をたててみよう	(学修内容)目標の立て方を学び、ステップアップシートを記入する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う
第5回	大学での学び方 図書館ツアー	(学修内容)自立的に学ぶための基本を理解する・図書館の利用方法を知る 講義の受け方・ノートの取り方について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う
第6回	レポートの書き方(1)	(学修内容)簡単な実験を通して、ノートの取り方、データ収集方法、レポート作成 方法を習得する・レポートと論文の違いを理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること
第7回	レポートの書き方(2)	(学修内容)添削結果より、レポートの書き方への理解を深める (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること
第8回	発表用資料作成の方法	(学修内容)レジュメ・口頭などの発表方法を学ぶ 要約の方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること
第9回	グループプレゼン実践・Aグループ	(学修内容)実際にプレゼンを行い、学びを実践し課題を発見する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること
第10回	グループプレゼン実践・Bグループ	(学修内容)実際にプレゼンを行い、学びを実践し課題を発見する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること
第11回	グループプレゼン実践・Cグループ	(学修内容)実際にプレゼンを行い、学びを実践し課題を発見する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること
第12回	グループプレゼン実践・Dグループ	(学修内容)実際にプレゼンを行い、学びを実践し課題を発見する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること
第13回	課題に取り組むためのPDCAサイクルとは	(学修内容)PDCAサイクルを通して、発見した課題の改善策や次への計画の立て方を 学ぶ(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること
第14回	自己分析の方法	(学修内容)ステップアップシートやPROGテストの結果を通して、自己の特性につい ての課題を見つける (事前事後学修課題の内容)(60分) じっくりと考えるだけではなく、家族や友人からコメントをもらうこと
第15回	自己分析結果と気づき	(学修内容)見つけた課題に対して、長所・短所などに気づき、今後の取り組み方針 を決定する (事前事後学修課題の内容)(60分) 全体的な復習を行うこと

授 業 名	総合基礎演習 t a ・ t b ・ t c			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1117
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	竹市 仁美・猿渡 綾子・岩佐 真代			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	総合演習 にひき続き、大学でのこれからの学びの基礎力を身につけるとともに、2年生以降の学びの目標をどこに置くかを考え、自分自身の課題設定を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 4年間の学生生活の基礎となる友人や教員との適切なコミュニケーションを実践できる。 2. 資料を収集し、レポートを作成する能力を身につけ、他の学生に向けてプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル』 化学同人 『図解 栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』化学同人								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	プレゼンテーションのための資料作成、レポートの内容などに対し、個別でのアドバイスを行う。								
留 意 事 項	各自の分担課題に対し、責任を持って期日までに準備してください。テキスト以外の根拠ある情報の検索を積極的に行い取り入れてください。 他者のプレゼンテーションを真剣に聴き、積極的に質問してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に伝えます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		総合基礎演習 t a ・ t b ・ t c
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 秋学期の授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (30分) 夏季課題を忘れずに持参すること シラバスをよく読んでおき、授業の内容を確認しておくこと
第2回	プレゼンテーションの企画・準備(推薦図書)	(学修内容) 各自が夏休みに選んだ図書についてプレゼンテーションの企画・準備を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 夏休みの間に読んだ図書の内容を振り返っておくこと その図書を持参すること
第3回	レポートの書き方・説明	(学修内容) 実験レポートの書き方の基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を読んでおくこと
第4回	レポートの書き方・説明	(学修内容) 実際にレポートを作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) データをまとめ準備し、持参すること
第5回	夏季課題のプレゼンテーション・グループA	(学修内容) グループAによる夏季課題に基づいたプレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) グループ全員で協力し、プレゼンの準備をしておくこと
第6回	夏季課題のプレゼンテーション・グループB	(学修内容) グループBによる夏季課題に基づいたプレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) グループ全員で協力し、プレゼンの準備をしておくこと
第7回	夏季課題のプレゼンテーション・グループC	(学修内容) グループCによる夏季課題に基づいたプレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) グループ全員で協力し、プレゼンの準備をしておくこと
第8回	夏季課題のプレゼンテーション・グループD	(学修内容) グループDによる夏季課題に基づいたプレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) グループ全員で協力し、プレゼンの準備をしておくこと
第9回	夏季課題のプレゼンテーション・グループE	(学修内容) グループEによる夏季課題に基づいたプレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) グループ全員で協力し、プレゼンの準備をしておくこと
第10回	夏季課題のプレゼンテーション・グループF	(学修内容) グループFによる夏季課題に基づいたプレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) グループ全員で協力し、の準備をしておくこと
第11回	個人別プレゼンテーションと討論・グループ1のプレゼン	(学修内容) グループ1が個人別にプレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) プレゼンの準備をしておくこと
第12回	個人別プレゼンテーションと討論・グループ2のプレゼン	(学修内容) グループ2が個人別にプレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) プレゼンの準備をしておくこと
第13回	個人別プレゼンテーションと討論・グループ3のプレゼン	(学修内容) グループ3が個人別にプレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) プレゼンの準備をしておくこと
第14回	個人別プレゼンテーションと討論・グループ4のプレゼン	(学修内容) グループ4が個人別にプレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) プレゼンの準備をしておくこと
第15回	2回生に向けて	(学修内容) 1回生である1年間を振り返り、2回生に向けての課題を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己の学びと気づきをまとめておくこと

授 業 名	総合基礎演習 sa・sb・sc・sd				開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1117	
英 文 名	Freshman Seminar				開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修		
担 当 者	山川 宏和・斧出 節子・藤井 伸生・流石 智子				対 象 学 生	現代家政1回生					
授業の概要	<p>大学生活に必要な、プレゼンテーションの方法、資料作成の方法、レポート作成の方法について学ぶ。プレゼンテーションの方法は、個人あるいはグループとし、適宜、アンケート調査を実施したり、文献調査を行ったり、インターネットの情報を収集したりして、プレゼンテーションに必要な資料を作成する。また、その発表を期末レポートにまとめ、2年次以降の学びにつなげる。</p>										
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 資料を収集し、プレゼンテーションに必要な発表資料を作成することができる。 2) 4年間の学生生活の基礎となるプレゼンテーション能力を身につけ、発表することができる。 3) マネージメント能力を身につけ、発表した内容をレポートにまとめることができる。</p>										
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能						
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力						
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技			
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社										
参 考 書											
課題に対するフィードバックの方法	<p>プレゼンテーションの際は、良かった点や改善点を口頭でフィードバックする。 提出されたレポートは、コメントを書いて返却する。</p>										
留 意 事 項	主体的にゼミ運営をしていくことが期待される。発表の形式は各ゼミの運営によって変更することがある。										
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。										
実践的教育											

授 業 名	総合基礎演習 sa・sb・sc・sd	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	夏季レポートのプレゼンテーション 第1グループ	(学修内容) 夏季レポートに基づく発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表の準備をしておく。
第2回	夏季レポートのプレゼンテーション 第2グループ	(学修内容) 夏季レポートに基づく発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表の準備をしておく。
第3回	企画に基づいたグループ活動 企画	(学修内容) 企画に基づいた活動計画をたてる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 企画実施に必要なことを考えておく。
第4回	企画に基づいたグループ活動 実践	(学修内容) 計画に基づいて役割分担を決め、必要な準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自の役割に沿って、必要なものを用意する。
第5回	プレゼンテーションに向けた情報検索 資料(紙媒体) 検索実践演習	(学修内容) 学術書等の紙媒体からの資料検索の実践 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの第2章を読んでおく。
第6回	プレゼンテーションに向けた情報検索 インターネット検索実践演習	(学修内容) インターネットを中心とした資料検索の実践 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第2章を読んでおく。
第7回	プレゼンテーション資料の作成 PowerPoint	(学修内容) PowerPointによる発表資料作成について (事前事後学修課題の内容) (30分) PowerPointでの作成に必要な資料を探し、持参する。
第8回	プレゼンテーション資料の作成 Word, Excel	(学修内容) Word, Excel等による発表資料作成について (事前事後学修課題の内容) (30分) Word, Excelでの作成に必要な資料を探し、持参する。
第9回	プレゼンテーションと討論 第1グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第10回	プレゼンテーションと討論 第2グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第11回	プレゼンテーションと討論 第3グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第12回	プレゼンテーションと討論 第4グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第13回	プレゼンテーションと討論 第5グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第14回	レポートの書き方(応用)	(学修内容) 発表を踏まえたレポートの作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表の資料を振り返り、持参する。
第15回	秋学期の到達度確認	(学修内容) 春学期、秋学期の自己到達点を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学びステップアップシートに記述する。

授業名	英語 u a			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1103
英文名	English			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	奥 尚子			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	この授業ではリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進めます。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的な知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードし、native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	Robert Ben Garant / Thomas Lennon著、Night at the Museum、松柏社								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し、返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業をするので、シラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	担当授業前に実施する。(13時40分～14時40分)								
実践的教育	実践的教育 教員の業務経験など：高等学校英語科臨時講師、非常勤講師として4年間勤務								

授業名	英語 u a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入しUnit1に目を通しておくこと。
第2回	Unit 1 ラリーの職探し	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。
第3回	Unit 2 ラリーの博物館第一夜	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。
第4回	Unit 3 ラリー、テディから種を学ぶ	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。
第5回	Review1	(学修内容) これまでの復習をする (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した語彙や表現の復習をする。
第6回	Unit 4 ラリー、歴史を習う	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。
第7回	Unit 5 ラリー、もう一度やってみる	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。
第8回	Review2	(学修内容) これまで学習した単語や表現の復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した単語や表現の総復習をする
第9回	Unit 6 博物館は大混乱	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。
第10回	Unit 7 明かされた真実	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。
第11回	Unit 8 ラリー、ヒーローに	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。
第12回	Review3	(学修内容) これまでの復習をする (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した単語や表現の復習をする
第13回	Unit 9 団結すれば立つ!	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。
第14回	Unit 10 すべてはうまくおさまる!	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。
第15回	Review 4	(学修内容) これまでの総復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) テストのためにこれまで学習した単語や表現の総復習をする

授 業 名	英語 u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1103
英 文 名	English			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	和田 未穂子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	この授業では、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。内容に関する会話を聞いて、ペアワークで会話の練習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	Notting Hill / 映画総合教材 『ノッティング・ヒルの恋人』新装版								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留 意 事 項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	英語 ub	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 William's Notting Hill & She's	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。子音の省略になれる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Unit2 Surreal, But Nice	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Unit3 A Goddess Is A Movie Star	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。音の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Transcript	(学修内容) Review Unit1~3までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第6回	Unit4 Birthday Party	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Unit5 A Date With Anna	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。haveの省略に慣れる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Transcript	(学修内容) Review Unit4~5までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第9回	Unit6 She's Gone	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いを知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語調べ本文を読んでおくこと。
第10回	Unit7 She's Back	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。音の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Unit8 Rude Awakening - Ain't No Sunshine	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Transcript	(学修内容) Review Unit6~8までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第13回	Unit9 Like Me Again	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。日常会話でよく使われる省略表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Unit10 The Right Decision - The Meaning of My Life Is She	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Transcript	(学修内容) Review Unit9~10までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習

授 業 名	英語 U C			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1103
英 文 名	English			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	和田 未穂子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	この授業では、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。内容に関する会話を聞いて、ペアワークで会話の練習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	Notting Hill / 映画総合教材 『ノッティング・ヒルの恋人』新装版								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留 意 事 項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	英語 UC	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 William's Notting Hill & She's	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。子音の省略になれる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Unit2 Surreal, But Nice	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Unit3 A Goddess Is A Movie Star	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。音の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Transcript	(学修内容) Review Unit1~3までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第6回	Unit4 Birthday Party	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Unit5 A Date With Anna	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。haveの省略に慣れる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Transcript	(学修内容) Review Unit4~5までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第9回	Unit6 She's Gone	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いを知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Unit7 She's Back	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。音の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Unit8 Rude Awakening - Ain't No Sunshine	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Transcript	(学修内容) Review Unit6~8までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第13回	Unit9 Like Me Again	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。日常会話でよく使われる省略表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Unit10 The Right Decision - The Meaning of My Life Is She	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Transcript	(学修内容) Review Unit9~10までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習

授 業 名	英語 u d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1103
英 文 名	English			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	和田 未穂子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	この授業では、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。内容に関する会話を聞いて、ペアワークで会話の練習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	Notting Hill / 映画総合教材 『ノッティング・ヒルの恋人』新装版								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留 意 事 項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	英語 u d	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 William's Notting Hill & She's;	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。子音の省略になれる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Unit2 Surreal, But Nice	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Unit3 A Goddess Is A Movie Star	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。音の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Transcript	(学修内容) Review Unit1~3までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第6回	Unit4 Birthday Party	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Unit5 A Date With Anna	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。haveの省略に慣れる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Transcript	(学修内容) Review Unit4~5までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第9回	Unit6 She's Gone	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いを知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Unit7 She's Back	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。音の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Unit8 Rude Awakening - Ain't No Sunshine	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Transcript	(学修内容) Review Unit6~8までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第13回	Unit9 Like Me Again	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。日常会話でよく使われる省略表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Unit10 The Right Decision - The Meaning of My Life Is She	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Transcript	(学修内容) Review Unit9~10までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習

授業名	英語 u a			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1118
英文名	English			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	奥 尚子			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進めます。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的な知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードし、native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	Aline Brosh McKenna著、『ブラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語、松柏社								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し、返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業をするので、シラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	担当授業後に実施する。(14時40分～15時40分)								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：比叡山高等学校、桂高校などで英語科非常勤講師、臨時講師として勤務								

授業名	英語 u a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入しUnit1に目を通しておくこと。
第2回	Unit 1 Job Interview	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第3回	Unit 2 First Day on the Job	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第4回	Unit 3 Hurricane on the Weekend	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第5回	Unit 4 Andy ' s Makeover	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第6回	Unit 5 Andy Meets Christian	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第7回	Unit 6 Miranda's Request	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第8回	Review1	(学修内容) Review 1 これまでの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した語彙や表現の復習をする
第9回	Unit 7 Nate ' s Birthday	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第10回	Unit 8 Andy ' s Decision	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第11回	Unit 9 Breakup with Nate	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第12回	Unit 10 The Dream Job	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第13回	Unit 11 Announcement at the Party	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第14回	Unit 12 Andy ' s Final Choice	(学修内容) 前回指示した箇所を読み進める。会話部分はペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第15回	Review2	(学修内容) Review 総復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) テストのためにこれまで学習した語彙や表現の総復習をする

授 業 名	英語 u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1118
英 文 名	English			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	和田 未穂子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進める。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『ブラダを着た悪魔』 で学ぶコミュニケーション英語 Aline Brosh McKenna (松柏社)								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留 意 事 項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育									

授業名	英語 ub	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	1 Job Interview	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。過去完了形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第3回	2 First Day on the Job	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。助動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第4回	3 Hurricane on the Weekend	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。関係代名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第5回	4 Andy's Makeover	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。現在進行形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第6回	5 Andy Meets Christian	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。助動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第7回	6 Miranda's Request	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。分詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第8回	Review	(学修内容) これまでの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した語彙や表現の復習をする。
第9回	7 Nate's Birthday	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。仮定法について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第10回	8 Andy's Decision	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。現在完了形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第11回	9 Breakup with Nate	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。動名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第12回	10 The Dream Job	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。受動態について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第13回	11 Announcement at the Party	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。関係代名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第14回	12 Andy's Final Choice	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。使役動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第15回	Review	(学修内容) Review 2 総復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) テストのための家庭学習。

授業名	英語 UC			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1118
英文名	EnglishII			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	和田 未穂子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進める。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を行う。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	『ブラダを着た悪魔』 で学ぶコミュニケーション英語 Aline Brosh McKenna (松柏社)								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	英語 UC	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	1 Job Interview	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。過去完了形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第3回	2 First Day on the Job	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。助動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第4回	3 Hurricane on the Weekend	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。関係代名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第5回	4 Andy's Makeover	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。現在進行形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第6回	5 Andy Meets Christian	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。助動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第7回	6 Miranda's Request	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。分詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第8回	Review	(学修内容) これまでの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した語彙や表現の復習をする。
第9回	7 Nate's Birthday	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。仮定法について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第10回	8 Andy's Decision	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。現在完了形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第11回	9 Breakup with Nate	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。動名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第12回	10 The Dream Job	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。受動態について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第13回	11 Announcement at the Party	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。関係代名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第14回	12 Andy's Final Choice	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。使役動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第15回	Review	(学修内容) Review 2 総復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) テストのための家庭学習。

授業名	英語 u d			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1118
英文名	EnglishII			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	和田 未穂子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進める。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を行う。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	『ブラダを着た悪魔』 で学ぶコミュニケーション英語 Aline Brosh McKenna (松柏社)								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	英語 u d	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	1 Job Interview	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。過去完了形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第3回	2 First Day on the Job	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。助動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第4回	3 Hurricane on the Weekend	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。関係代名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第5回	4 Andy's Makeover	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。現在進行形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第6回	5 Andy Meets Christian	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。助動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第7回	6 Miranda's Request	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。分詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第8回	Review	(学修内容) これまでの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した語彙や表現の復習をする。
第9回	7 Nate's Birthday	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。仮定法について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第10回	8 Andy's Decision	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。現在完了形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第11回	9 Breakup with Nate	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。動名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第12回	10 The Dream Job	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。受動態について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第13回	11 Announcement at the Party	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。関係代名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第14回	12 Andy's Final Choice	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。使役動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第15回	Review	(学修内容) Review 2 総復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) テストのための家庭学習。

授 業 名	英語コミュニケーション u a ・ u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1104
英 文 名	English Communication			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、保育英語検定の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワーク、クリッカー使用（ICT活用）を多く取り入れた授業を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで5往復やりとりすることができる。 2) 読みやすさレベルYL0.8までの英語本を英語のまま理解し、英語又は日本語であらすじを書くことができる。 3) 保育英語や日常に使用する英単語（配布プリントに準ずる）を250個以上知っている。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社 2017年 2,000円＋税								
参 考 書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒロ前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円＋税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト（改訂版）』本の泉社 1,900円＋税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブック（保育英語検定3級問題集）』本の泉社 1,363円＋税								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は解答と解説を付して、答案返却期間中（9月12～19日予定）に希望者に返却する。 授業内テストや提出物については、テスト終了時や返却時に解説を行うか、またはコメントを付して返却する。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 講師								

授業名	英語コミュニケーション u a ・ u b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容)到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介、多読紹介 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:本授業のシラバスを読む。 事後:英語本を5冊以上読む。
第2回	Unit 1 人 または 物 は/が~する	(学修内容)多読、Unit1の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit1の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第3回	Unit 2 人 に 物 を~する	(学修内容)多読、Unit2の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit2の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第4回	保育英語を使ったワークショップ (時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(学修内容)保育英語を使用し、幼児や児童を対象とした理科×アートのワークショップを体験する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:ワークショップに参加した感想をA4半頁以上書いて次回提出。本読み500単語以上。小テスト勉強。
第5回	Quiz 1 Unit 3 人や物を説明する:第2文型をとる動詞	(学修内容)Lesson 1小テスト、多読、Unit3の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit3の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第6回	Quiz 2 Unit 4 人や物を説明する:第5文型をとる動詞	(学修内容)Lesson 2小テスト、多読、Unit4の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit4の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第7回	Quiz 3 Unit 5 「いつも~している」と「~した」	(学修内容)Lesson 3小テスト、多読、Unit5の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit5の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第8回	Quiz 4 Unit 6 「これから~するつもりだ」	(学修内容)Lesson 4小テスト、多読、Unit 6の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit6の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第9回	Quiz 5 Unit 7 「今~している」と「その時~していた」	(学修内容)Lesson 5小テスト、多読、Unit 7の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit7の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第10回	Quiz 6 Unit 8 過去のことが現在まで影響する形	(学修内容)Lesson 6小テスト、多読、Unit 8の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit8の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第11回	Quiz 7 Unit 9 「話し手の気持ち」を表す表現	(学修内容)Lesson 7小テスト、多読、Unit 9の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit9の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第12回	Quiz 8 Unit 10 「相手の気持ち」を表す表現	(学修内容)Lesson 8小テスト、多読、Unit 10の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit10の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第13回	Quiz 9 Unit 11 「~すること」を表す2種類の形	(学修内容)Lesson 9小テスト、多読、Unit 11の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit11の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第14回	Quiz 10 Unit 12 2種類の「~すること」の形を区別する方法	(学修内容)Lesson 10小テスト、多読、Unit 12の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit12の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第15回	Review	(学修内容)多読、Units 1-12の復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Units1-12を復習し、分からないところにチェックする。 事後:定期試験に向けて、Units1-12を復習する。

授業名	英語コミュニケーション uc・ud			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1104
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	松尾 章子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、TOEIC (Test of English for International Communication) テスト・TOEIC Bridgeテストの練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。								
学修成果到達目標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで5往復やりとりすることができる。 2) 読みやすさレベルYL0.8までの英語本を英語のまま理解し、英語又は日本語であらすじを書くことができる。 3) TOEICや日常に使用する英単語(配布プリントに準ずる)を250個以上知っている。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社 2017年 2,000円+税								
参考書	TOEICテスト受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒロ前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は解答と解説を付して、答案返却期間中(9月12~19日予定)に希望者に返却する。 授業内テストや提出物については、テスト終了時や返却時に解説を行うか、またはコメントを付して返却する。								
留意事項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。 ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 講師								

授業名	英語コミュニケーション uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容)到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介、多読紹介 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:本授業のシラバスを読む。 事後:英語本を5冊以上読む。
第2回	Unit 1 人 または 物 は/が~する	(学修内容)多読、Unit1の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit1の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第3回	Unit2 人 に 物 を~する	(学修内容)多読、Unit2の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit2の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第4回	Interview(時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(学修内容)フィールドワーク:街に出て外国人に英語でインタビューを行う。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:インタビュー項目を5問以上作成し、オッケーをもらう。 事後:インタビュー内容を書いて次回提出する。本読み500単語以上。
第5回	Quiz 1 街路・交通に関する語句 Unit 3 人や物を説明する:第2文型をとる動詞	(学修内容)Lesson 1小テスト、多読、Unit3の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit3の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第6回	Quiz 2 旅行に関する語句 Unit 4 人や物を説明する:第5文型をとる動詞	(学修内容)Lesson 2小テスト、多読、Unit4の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit4の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第7回	Quiz 3 人物の外見・動作に関する語句 Unit 5 「いつも~している」と「~した」	(学修内容)Lesson 3小テスト、多読、Unit5の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit5の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第8回	Quiz 4 住宅・不動産に関する語句 Unit 6 「これから~するつもりだ」	(学修内容)Lesson 4小テスト、多読、Unit6の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit6の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第9回	Quiz 5 買い物・値段に関する語句 Unit 7 「今からしている」と「その時~していた」	(学修内容)Lesson 5小テスト、多読、Unit7の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit7の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第10回	Quiz 6 商売・取引に関する語句 Unit 8 過去のことが現在まで影響する形	(学修内容)Lesson 6小テスト、多読、Unit8の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit8の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第11回	Quiz 7 注文・運送に関する語句 Unit 9 「話し手の気持ち」を表す表現	(学修内容)Lesson 7小テスト、多読、Unit9の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit9の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第12回	Quiz 8 営業・宣伝・クレーム・保険に関する語句 Unit 10 「相手の気持ち」を表す表現	(学修内容)Lesson 8小テスト、多読、Unit10の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit10の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第13回	Quiz 9 ビジネス・会社の経営に関する語句 Unit 11 「~すること」を表す表現	(学修内容)Lesson 9小テスト、多読、Unit11の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit11の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第14回	Quiz 10 会社の組織に関する語句 Unit 12 2種類の「~すること」の形を区別する方法	(学修内容)Lesson 10小テスト、多読、Unit12の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit12の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第15回	Review	(学修内容)多読、Units 1-12の復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Units1-12を復習し、分からないところにチェックする。 事後:定期試験に向けて、Units1-12を復習する。

授 業 名	英語コミュニケーション u a ・ u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1119
英 文 名	English Communication			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、保育英語検定の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワーク、クリッカー使用（ICT活用）を多く取り入れた授業を行う。								
学 修 成 果 対 達 目 標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで7往復やりとりすることができる。 2) Graded Readerの読みやすさレベルYL0.8~1.1程度の英語本を英語のまま理解し、英語又は日本語であらすじを書くことができる。 3) 保育英語や日常に使用する英単語（配布プリントに準ずる）を200個以上知っている。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社 2017年 2,000円＋税								
参 考 書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒロ前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円＋税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト（改訂版）』本の泉社 1,900円＋税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブック（保育英語検定3級問題集）』本の泉社 1,363円＋税								
課題に対する フィードバック の方法	定期試験は解答と解説を付して、答案返却期間中（3月27日～4月6日予定）に希望者に返却する。 授業内テストや提出物については、テスト終了時や返却時に解説を行うか、またはコメントを付して返却する。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。 ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 講師								

授業名	英語コミュニケーション u a ・ u b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Unit 13 「～するために」と「～して」	(学修内容)多読、Unit 13の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:Unit13の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。小テスト勉強。
第2回	Quiz 11 Unit 14 「～するための」と「～するという」	(学修内容)Lesson 11小テスト、多読、Unit 14の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:Unit14の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第3回	Quiz 12 Unit 15 「～される」	(学修内容)Lesson 12小テスト、多読、Unit 15の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:Unit15の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第4回	Quiz 13 Unit 16 「～している」	(学修内容)Lesson 13小テスト、多読、Unit 16の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit16の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第5回	Quiz 14 Unit 17 「～された」	(学修内容)Lesson 14小テスト、多読、Unit 17の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit17の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第6回	Interview(時間割等の都合により実施回が前後することがある-華頂祭の次週に実施予定)	(学修内容)フィールドワーク:街に出て外国人に英語でインタビューを行う (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:インタビュー項目を5問以上作成し、オッケーをもらう。 事後:インタビュー内容・感想次回提出。本読み1,500単語以上。
第7回	Quiz 15 Unit 18 2つの文を1つにする方法:関係代名詞の主格と目的格	(学修内容)Lesson 15小テスト、多読、Unit 18の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit18の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み1,500単語以上、サンタカード1枚目作成。
第8回	Quiz 16 Unit 19 2つの文を1つにする方法:関係代名詞の所有格とwhat	(学修内容)Lesson 16小テスト、多読、Unit 19の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 1枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit19の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み1,500単語以上、サンタカード2枚目作成。
第9回	Quiz 17 Unit 20 2つのものをつないでみよう	(学修内容)Lesson 17小テスト、多読、Unit 20の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 2枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit20の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み2,000単語以上、サンタカード3枚目作成。
第10回	Quiz 18 Unit 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法	(学修内容)Lesson 18小テスト、多読、Unit 21の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 3枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit21の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み2,000単語以上、サンタカード4枚目作成。
第11回	Quiz 19 Unit 22 「現実離れたこと」を表す形	(学修内容)Lesson19小テスト、多読、Unit 22の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 4枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit22の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み2,000単語以上、サンタカード5枚目作成。
第12回	Quiz 20 Secret Santa(時間割等の都合により実施回が前後することがある-12月最終週の授業日に実施予定)	(学修内容)Lesson20小テスト、Secret Santa発表、Secret Santa 5枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:小テスト勉強。 事後:本読み2,000単語以上。
第13回	Unit 23 「2つのもの」を比べる表現	(学修内容)多読、Unit 23の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit23の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み2,000単語以上。
第14回	Unit 24 「順位」を表す表現	(学修内容)多読、Unit 24の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit24の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み2,000単語以上。
第15回	Review	(学修内容)多読、Units 13-24復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Units13-24を復習し、分からないところにチェックする。 事後:定期試験に向けて、Units13-24を復習する。

授業名	英語コミュニケーション uc・ud			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1119
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	松尾 章子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、TOEICテスト・TOEIC Bridgeテスト形式の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワーク、クリッカー使用（ICT活用）を多く取り入れた授業を行う。								
学修成果到達目標	<p>1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで7往復やりとりすることができる。</p> <p>2) Graded Readerの読みやすさレベルYL0.8~1.1程度の英語本を英語のまま理解し、英語又は日本語であらすじを書くことができる。</p> <p>3) TOEICや日常に使用する英単語（配布プリントに準ずる）を200個以上知っている。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社 2017年 2,000円+税								
参考書	TOEICテスト受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒコ前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は解答と解説を付して、答案返却期間中（3月27日～4月6日予定）に希望者に返却する。 授業内テストや提出物については、テスト終了時や返却時に解説を行うか、またはコメントを付して返却する。								
留意事項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 講師								

授 業 名		英語コミュニケーション uc・ud	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	Unit 13 「～するために」と「～して」	(学修内容)多読、Unit 13の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:Unit13の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。小テスト勉強。	
第2回	Quiz 11 雇用・人事に関する語句 Unit 14 「～するための」と「～するという」	(学修内容)Lesson 11小テスト、多読、Unit 14の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:Unit14の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み500単語以上。	
第3回	Quiz 12 勤務条件・労務管理に関する語句 Unit 15 「～される」	(学修内容)Lesson 12小テスト、多読、Unit 15の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:Unit15の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。	
第4回	Quiz 13 事務・オフィスに関する語句 Unit 16 「～している」	(学修内容)Lesson 13小テスト、多読、Unit 16の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit16の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。	
第5回	Quiz 14 通信・連絡に関する語句 Unit 17 「～された」	(学修内容)Lesson 14小テスト、多読、Unit 17の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit17の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリントを解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。	
第6回	Interview(時間割等の都合により実施回が前後することがある-華頂祭の次週に実施予定)	(学修内容)フィールドワーク:街に出て外国人に英語でインタビューを行う。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:インタビュー項目を5問以上作成し、オッケーをもらう。 事後:インタビュー内容・感想次回提出。本読み1,500単語以上。	
第7回	Quiz 15 財務・会計に関する語句 Unit 18 2つの文を1つにする方法:関係代名詞の主格と目的格	(学修内容)Lesson 15小テスト、多読、Unit 18の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit18の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み1,500単語以上、サンタカード1枚目作成。	
第8回	Quiz 16 契約・交渉に関する語句 Unit 19 2つの文を1つにする方法:関係代名詞の所有格とwhat	(学修内容)Lesson 16小テスト、多読、Unit 19の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 1枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit19の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み1,500単語以上、サンタカード2枚目作成。	
第9回	Quiz 17 会議・議論に関する語句 Unit 20 2つのものをつないでみよう	(学修内容)Lesson 17小テスト、多読、Unit 20の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 2枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit20の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み2,000単語以上、サンタカード3枚目作成。	
第10回	Quiz 18 マスコミ・大学に関する語句 Unit 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法	(学修内容)Lesson 18小テスト、多読、Unit 21の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 3枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit21の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み2,000単語以上、サンタカード4枚目作成。	
第11回	Quiz 19 製造・研究・品質に関する語句 Unit 22 「現実離れたこと」を表す形	(学修内容)Lesson 19小テスト、多読、Unit 22の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 4枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit22の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み2,000単語以上、サンタカード5枚目作成。	
第12回	Quiz 20 時間・地理・位置関係に関する語句 Secret Santa(時間割等の都合により実施回が前後することがある-12月最終週の授業日に実施予定)	(学修内容)Lesson 20小テスト、Secret Santa発表、Secret Santa 5枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:小テスト勉強。 事後:本読み2,000単語以上。	
第13回	Unit 23 「2つのもの」を比べる表現	(学修内容)Unit 23の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 23の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み2,000単語以上。	
第14回	Unit 24 「順位」を表す表現	(学修内容)Unit 24の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 24の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント、本読み2,000単語以上。	
第15回	Review	(学修内容)多読、Units 13-24復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Units13-24を復習し、分からないところにチェックする。 事後:定期試験に向けて、Units 13-24を復習する。	

授 業 名	健康スポーツ科学 u a ・ u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1105
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	石倉 忠夫			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	講義では運動活動が心身に及ぼす効果と運動活動の継続法について理解を深める。実技では各種スポーツがどのような運動特性に該当するかについて理解するとともに、ルールを理解し基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的に運動・スポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定を実施し、自己の運動・スポーツ実践状況の検討を加え、レポートにまとめる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 2) 運動が心身に及ぼす影響について学習し、将来における健康についての理解をスポーツの実践をとおして深める。 3) 運動習慣を身に付ける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 (リーダーシップ)				
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康スポーツの心理学」 竹中 晃二 編(大修館書店)								
課題に対するフィードバックの方法	レポート回収後、講評を口頭で行います。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後、体育準備室で行う。								
実践的教育									

授 業 名	健康スポーツ科学 u a ・ u b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、顔写真(3cm×3cm)
第2回	講義1:運動・スポーツと健康	(学修内容)運動・スポーツ活動が心身の健康に及ぼす影響 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、プリントを配付する
第3回	講義2:運動・スポーツの継続	(学修内容)運動・スポーツ活動の継続法 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、プリントを配付する
第4回	体力測定1:筋力、柔軟性、投力、走力の測定	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第5回	体力測定2:跳躍力、筋持久力、敏捷性、持久性の測定	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第6回	バドミントン1:基礎スキルの習得	(学修内容)フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの基本技術を調べる
第7回	バドミントン2:ルールの理解	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンのルールを調べる
第8回	バドミントン3:基礎スキルの実践	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの戦術を調べる
第9回	バドミントン4:基礎スキルの応用	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの戦術を調べる
第10回	ソフトバレーボール1:基礎スキルの習得	(学修内容)パス、サーブ、レシーブ、スパイク (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの基本技術を調べる
第11回	ソフトバレーボール2:ルールの理解	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールのルールを調べる
第12回	ソフトバレーボール3:基礎スキルの実践	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第13回	ソフトバレーボール4:基礎スキルの応用	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第14回	講義3:体力測定データの評価	(学修内容)体力測定の結果を検討、評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、体力測定の結果を検討・評価する
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、体力測定の結果を検討・評価する

授 業 名	健康スポーツ科学 uc・ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1105
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	山本 武司			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深め、実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定を実施し自己の体力の現状を認識する。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 運動が身体に及ぼす影響について学習し、将来における健康についての理解をスポーツの実践をとおして深めることができる。 2) 体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識し健康についての理解を深めることができる。 3) スポーツの実践を通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修(杏林書院)								
課題に対するフィードバックの方法	口頭で講評する。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実践的教育									

授 業 名		健康スポーツ科学 uc・ud
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) 筆記用具、顔写真(3cm×3cm)、プリントを配布する
第2回	バドミントン1	(学修内容)バドミントンの基本技術(フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントン基本技術を調べる
第3回	バドミントン2	(学修内容)基本技術の習得、バドミントン・ダブルスの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンのルールを調べる
第4回	バドミントン3	(学修内容)バドミントン・ダブルスの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第5回	バドミントン4	(学修内容)バドミントン・ダブルスの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第6回	バドミントン5	(学修内容)バドミントン・ダブルスの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第7回	講義1	(学修内容)健康と体力、運動とトレーニング (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布したプリントを読んでおく
第8回	体力測定1	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(30分) 体調管理
第9回	体力測定2	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(30分) 体調管理
第10回	ソフトバレーボール1	(学修内容)ソフトバレーボールの基本技術(パス、レシーブ、スパイク)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの基本技術を調べる
第11回	ソフトバレーボール2	(学修内容)基本技術の習得、ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールのルールを調べる
第12回	ソフトバレーボール3	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第13回	ソフトバレーボール4	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第14回	講義2	(学修内容)体力測定の結果を検討、評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力測定の結果を検討、評価する
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力テストの結果を検討、考察する

授 業 名	健康スポーツ科学 u a ・ u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1120
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	石倉 忠夫			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	講義受講時と各種スポーツ実践時における気分と心拍数の変化を測定し、考察を加えレポートにまとめる。また、後半週には各種スポーツを実践する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 講義受講時と各種スポーツ実践時の気分と心拍数を測定し、運動活動が心身に及ぼす影響について検討する。 2) 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践をとおして、適切な運動強度による運動・スポーツを生涯に亘り実践する意義について理解する。 3) 運動習慣を身に付ける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 (リーダーシップ)		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康スポーツの心理学」 竹中 晃二 編(大修館書店)								
課題に対するフィードバックの方法	レポート回収後、講評を口頭で行います。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後、体育準備室で行う。								
実践的教育									

授 業 名	健康スポーツ科学 u a ・ u b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具
第2回	講義1:運動スポーツの継続法	(学修内容)運動・スポーツ活動の継続法の事例 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、プリントを配付する
第3回	運動時の気分と心拍数の測定1:ウォーキングの基礎	(学修内容)ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第4回	運動時の気分と心拍数の測定2:強制ベースのウォーキング	(学修内容)ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第5回	運動時の気分と心拍数の測定3:快適自己ベースのウォーキング	(学修内容)ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第6回	各種スポーツの実践1:からだのコントロール	(学修内容)縄跳び (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第7回	各種スポーツの実践2:ボールを使ったからだのコントロール	(学修内容)ドッジボール (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第8回	バスケットボール1:基礎スキルの習得	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールのルールを調べる
第9回	バスケットボール2:基礎スキルの実践	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第10回	バスケットボール3:基礎スキルの応用	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第11回	卓球1:基礎スキルの習得	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球のルールを調べる
第12回	卓球2:基礎スキルの実践	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球の戦術を調べる
第13回	卓球3:基礎スキルの応用	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球の戦術を調べる
第14回	講義2:運動前後の気分と心拍数データの評価	(学修内容)測定資料の整理、検討、考察 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の整理・検討・考察
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の整理・検討・考察

授業名	健康スポーツ科学 uc・ud			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1120
英文名	Health and Sports Science			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	山本 武司			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	運動実践時にハートレートモニターを装着し、心拍数を測定する。測定結果から各運動の強度を調べ、運動の内容について検討を加えレポートにまとめる。各種スポーツの実践を通して日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。								
学修成果到達目標	<p>1) 運動実践時の心拍数、継続時間を測定して運動強度を判定し、運動内容について理解することができる。</p> <p>2) 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践を通して、適切な運動強度による運動を生涯に亘り実践する意義について理解することができる。</p> <p>3) スポーツの実践を通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 (リーダーシップ)		
テキスト	使用しない。								
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修(杏林書院)								
課題に対するフィードバックの方法	口頭で講評する。								
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。ウォーキング時は運動靴を使用すること。								
オフィスアワー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実践的教育									

授 業 名		健康スポーツ科学 uc・ud
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) 筆記用具
第2回	講義 1	(学修内容)健康を維持増進するための運動 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布したプリントを読んでおく
第3回	ウォーキング時心拍数の測定 1	(学修内容)ウォーキング時の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 正しい歩き方を調べる
第4回	ウォーキング時心拍数の測定 2	(学修内容)ウォーキング時の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 正しい歩き方と適正強度を調べる
第5回	ウォーキング時心拍数の測定 3	(学修内容)ウォーキング時の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 適正強度を調べる
第6回	ウォーキング時心拍数の測定 4	(学修内容)ウォーキング時の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 適正強度を調べる
第7回	各種スポーツの実践 1	(学修内容)綱引きの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 綱引きの基本技術、戦術を調べる
第8回	各種スポーツの実践 2	(学修内容)大縄跳び (事前事後学修課題の内容)(60分) 大縄跳びについて調べる
第9回	各種スポーツの実践 3	(学修内容)ドッジボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ドッジボールのルール、戦術を調べる
第10回	バスケットボール1	(学修内容)バスケットボールの基本技術(ドリブル、パス、シュート)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの基本技術を調べる
第11回	バスケットボール 2	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第12回	バスケットボール 3	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第13回	バスケットボール 4	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第14回	講義 2	(学修内容)心拍数測定資料の整理、検討、考察 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の整理、検討
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の検討、考察

授 業 名	人権と社会 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1106
英 文 名	Human Rights and Society			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>本授業では、まず、差別と偏見の捉え方から始まり、ジェンダーの視点から、女性労働における人権の問題を中心に考察していくことを目指している。目に見える差別を観察し、その背後にある目に見えない心の闇や偏見を考えるにあたって、いくつかの研究成果を踏まえながら、現代の人権問題を考察していく。グループワークの回以外においても、各回、自分で考え、「自身の考え」を書く時間を設けます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 人権を視点に現代の女性労働の問題をとらえることができる。 2) 差別と偏見の問題を捉えることができる。 3) 日常生活の中で人権尊重の意識・態度を自己点検する姿勢を持つことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	適宜資料を配布する								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に関して、授業内、メールにて、評価基準の具体的な内容について解説します。								
留 意 事 項	覚える学びでなく調べ考える学びを重視する。積極的・主体的な学習参加を期待する(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実 践 的 教 育									

授業名	人権と社会 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	人に備わる利他性	(学修内容)心理学以外の社会科学において「心」をどのように扱ってきたのか考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 日常生活において利他性があらわれているところを整理してみる。
第3回	差別と偏見 「行動」から「心」を探る	(学修内容)我々が普段行う選択と選好の問題に関して考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 日常生活において、選択と選好の問題を整理してみる。
第4回	差別と偏見 市場理論からの分析	(学修内容)市場理論から差別と偏見の問題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 日常生活でみられる、差別と偏見の問題について整理してみる。
第5回	ジェンダーの視点について	(学修内容)ジェンダーの視点について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 女性問題に関して、どのような問題があげられるのか、新聞記事などから調べてみる。
第6回	グループワーク--女性問題に関する整理	(学修内容)グループワークで、女性問題に関して、どのような問題があげられるのか整理してみる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループにおける意見の違いなど整理してみる。
第7回	男女の行動の違いについて リスクの取り方に性差あり?	(学修内容)リスクの取り方の性差について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) リスクの取り方の性差に関して、自分ならどう考えるのか、具体例をあげながら整理してみる。
第8回	男女の行動の違いについて 性差の刷り込みの影響	(学修内容)性差の刷り込みの影響について考察します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 性差の刷り込みの影響に関して、自分ならどう考えるのか、具体例をあげながら整理してみる。
第9回	男女の行動の違いについて 社会環境が性差を生む?	(学修内容)社会環境により性差を生む側面について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 社会環境により生じる性差に関して、自分ならどう考えるのか、具体例をあげながら整理してみる。
第10回	グループワーク 性差を超えた取り組みに関して考察する	(学修内容)これまでの内容をふまえ、グループワークで、人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループにおける意見の違いなど、自分で整理してみる。
第11回	女性労働の問題 女性の社会進出の現状	(学修内容)国際比較をまじえて日本の女性の社会進出の現状について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 女性の社会進出に関して、自分ならどう考えるのか、具体例をあげながら整理してみる。
第12回	女性労働の問題 女性労働の壁について	(学修内容)女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 出産や育児に関して、自分ならどう考えるのか、具体例をあげながら整理してみる。
第13回	女性労働の問題について 社会保障のありかた	(学修内容)女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 育児休暇の問題など、新聞記事などから、自分で整理してみる。
第14回	グループワーク:女性の労働参加に関して考察する	(学修内容)これまでの内容をふまえ、グループワークで、女性の労働参加において解決しなければならない問題を考察し、レポートとしてまとめる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループにおける意見の違いなどを整理してみる。
第15回	まとめ	(学修内容)本講義のポイント整理。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの内容を整理する(整理するポイントは授業時に説明する)。

授 業 名	日本語表現法			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1108
英 文 名	Japanese Writing			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	大学でのレポートや卒業論文、実習先での学習、就職活動などで必要な正しい日本語や文章表現力を修得するための訓練を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	日本語の基礎的な知識、表現方法を理解し、使うことができる。 日本語能力を高め鍛える方法を修得し、生活の中で実践できる。 的確な日本語の文章を作成することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	各回プリント配付								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	練習問題や文章作成など、積極的に取り組むこと。毎回、国語辞典またはそれに類するものを持参すること。漢字や熟語について自由に使いこなすための練習もおこないます。私語・飲食(ガム・のど飴も含む)の一切禁止								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回に提示する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	日本語表現法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	自己紹介（句読点と記号の使い方） 原稿用紙の使い方	（学修内容）演習問題を通して、正しい方法を確認する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 3分程度の自己紹介を準備しておく
第2回	文体（書き言葉と話し言葉）	（学修内容）普通体、丁寧体、論文体など文章の種類と注意点について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（45分） テキスト適用箇所を読んでおく
第3回	言葉の選択	（学修内容）最適な言葉を引き出す練習をする。 （事前事後学修課題の内容）（45分） テキスト適用箇所を読んでおく
第4回	文の構成	（学修内容）修飾、被修飾による相関関係を学習する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト適用箇所を読んでおく
第5回	説明の仕方	（学修内容）自分以外の人に的確に伝わる説明の仕方について練習する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト適用箇所を読んでおく
第6回	要約文の作り方	（学修内容）レポートを書く、学会や研修の報告をする時の、文章内容の要約のポイントについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト適用箇所を読んでおく
第7回	意見文・基礎	（学修内容）自分の考えを述べるだけにとどまらず、考慮する客観的な根拠や判断について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト適用箇所を読んでおく
第8回	意見文・発展形	（学修内容）賛成か反対かという意見分とは違った択一問題ではない要件に関する意見文について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト適用箇所を読んでおく
第9回	敬語（待遇表現） 敬語を用いた表現	（学修内容）日常行う会話やメール以外に、敬語について学ぶ。 実際に敬語を使う練習をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト適用箇所を読んでおく
第10回	実用文書の書き方	（学修内容）履歴書や報告書など、実用分としての体裁や表現方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト適用箇所を読んでおく
第11回	小論文の書き方（文章の構成） 小論文作成	（学修内容）小論文の文章校正のポイントについて学ぶ。 課題について小論文を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト適用箇所を読んでおく
第12回	手紙の書き方	（学修内容）必要事項以外の文章の膨らませ方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） お世話になった方への手紙を持参する
第13回	ディベート（準備）	（学修内容）提示課題について、班に分かれて準備する （事前事後学修課題の内容）（90分） 課題について情報を集めておく。
第14回	ディベート（実践）	（学修内容）実際のディベートを体験する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 肯定する立場と否定する立場のそれぞれの意見を整理し、総括する。
第15回	まとめ	（学修内容）授業内容のまとめと各自の学びを確認する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として各自の学びをまとめる。復習として到らなかった点などの反省点を列挙し、今後の課題とする。

授業名	京都の歴史u			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE1124
英文名	History of Kyoto			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	京都において、染織業は主要な産業として発展してきた。古代から近代における京都の歴史について、染織文化の面から講義する。さらに、京都の染織文化に対する理解を深めるためフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションする。								
学修成果到達目標	1. 京都の染織業の歴史を理解することができる。 2. 京都で製作された染織品について理解することができる。 3. 現代に伝わる京都の染織文化について理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	指定しない								
参考書	授業で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項									
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授業名	京都の歴史 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 科目ガイダンス (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	平安時代：平安京と染織業	(学修内容) 平安京の成立と織物業について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	染織技術の基礎	(学修内容) 織りと染めの基本的な技術について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第4回	中世京都の染織：西陣織	(学修内容) 西陣織の発展と名物裂、能装束について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	桃山時代の京都と染織品	(学修内容) 外来の染織品と染織業の発展について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第6回	中世・近世京都の染織技術と職人	(学修内容) 京都における染織業に関わる職人の姿と技術について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第7回	近世京都の染織：呉服商	(学修内容) 呉服商の活躍と染織業の発展について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第8回	近世京都の染織：友禅染	(学修内容) 友禅染の出現と染織文様について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第9回	近代京都の染織：染織技術の近代化	(学修内容) 京都における近代織物業の導入と生産について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第10回	近代京都の染織：染織品の流通と消費	(学修内容) 百貨店の発展と染織品の流通・消費について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第11回	フィールドワーク	(学修内容) 京都における染織業にかかわる場所でのフィールドワークを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 当該地域について調べる
第12回	京都の染織品について調べる 時代と概要	(学修内容) 京都に残っている染織品について概要を調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 京都にある染織品について情報を得る
第13回	京都の染織品について調べる 文様と技法	(学修内容) 京都に残っている染織品を取り上げ、文様や技能の特色を調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 染織品について調べる
第14回	発表	(学修内容) フィールドワークの成果と調べた染織品についてプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (30分) プレゼンテーションの準備と資料の作成
第15回	まとめ	(学修内容) 全体のまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容を振り返る

授 業 名	こころの科学 u			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1109
英 文 名	Mental Science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	小川 徳子			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食 物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	心理学が“人間の心の働きと行動を理解する”ために、どのような研究をおこない、その結果何が明らかになってきたのか、解説していきます。視聴覚資料や紙媒体の資料も使い、主に、実験系の心理学によって蓄積されてきた知見を取り上げて紹介します。資料の内容を参考に、心の働きについて、自分なりに考えた内容や、ディスカッションを通して考えた内容をまとめるレポート課題を実施します。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 心理学の基礎領域について、全体像を把握できている。 2) 心にはどのような働きがあるのか、理解できている。 3) 人の心の動きについて、科学的・合理的に判断し、その内容を自分なりに説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (論理的な記述力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	心理学 心のはたらきを知る 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ)								
参 考 書	北尾 倫彦、中島 実、他(1997)グラフィック心理学 サイエンス社								
課題に対する フィードバック の方法	レポート課題を実施した後、課題について回答例を挙げ、解説します。								
留 意 事 項	毎回、授業時間内に提出を求めるショートレポートの課題を用意します。提示したテーマについて、自分の考えを記述する課題です。考えをまとめる前に、グループでの話し合う時間を取る場合もあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業の開始前か終了後。								
実 践 的 教 育									

授業名	こころの科学 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	心理学とは	(学修内容) 心理学の基礎領域 (事前事後学修課題の内容) (30分) 心の働きだと思いをリストアップしてみよう
第2回	感覚・知覚・認知	(学修内容) 情報を取り入れる働き (事前事後学修課題の内容) (30分) 五感と心の関係とは? 説明してみよう
第3回	記憶(1)	(学修内容) 「覚える」・「忘れる」働き (事前事後学修課題の内容) (30分) 記憶にはどんな種類がある? 考えておこう
第4回	記憶(2)	(学修内容) 記憶の発達 (事前事後学修課題の内容) (30分) 記憶の何が変わると発達? 考えておこう
第5回	言語(1)	(学修内容) 言葉の働き (事前事後学修課題の内容) (30分) 言葉の働きとは何? 考えておこう
第6回	言語(2)	(学修内容) 言葉の発達過程 (事前事後学修課題の内容) (30分) 言葉の習得に必要な力は? 考えておこう
第7回	思考(1)	(学修内容) 「考える」働き (事前事後学修課題の内容) (30分) 「考える」とは何すること? 説明してみよう
第8回	思考(2)	(学修内容) 思考の発達 (事前事後学修課題の内容) (30分) 言語と思考のつながりを説明してみよう
第9回	行動	(学修内容) 学習と動機づけ (事前事後学修課題の内容) (30分) 人の行動を変える要因とは? 考えておこう
第10回	感情	(学修内容) 感情と他の心の働きの関係 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「感情」はどんな働き? 説明してみよう
第11回	知能	(学修内容) 知的な能力とはどのような能力なのか、知能検査について (事前事後学修課題の内容) (30分) 「知能」について説明してみよう
第12回	パーソナリティ	(学修内容) 個性の捉え方、性格検査について (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分や友人の性格を説明してみよう
第13回	自己の認知	(学修内容) 自己概念の発達と対人関係 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分を知る手がかりとは? 考えておこう
第14回	社会的認知	(学修内容) 他者の捉え方とそれに影響する要因 (事前事後学修課題の内容) (30分) どんなことが他者の印象を左右しているのか、考えてみよう
第15回	社会的行動	(学修内容) 他者の存在が個人に及ぼす影響、集団の認知 (事前事後学修課題の内容) (30分) 集団で行動する時の傾向とは? 考えておこう

授業名	自然科学（生物）			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1121
英文名	Natural Science I (Biology)			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	豊原 容子			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	この講義では、生命活動の構造の単位である細胞、その活動である代謝および体内環境の維持など生物に関する基礎的知識について学ぶことにより、生体について深く理解していく。理解を深めるため、グループワークやディスカッションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 生物に関する基礎的事項について理解できる 2) 日常生活における生命科学における情報を理解できる 3) 生きていることについて考えることができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	岡田隆夫「楽しくわかる 生物・化学・物理」羊土社 2017								
参考書	適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは採点して返却する。返却時解説を行う。								
留意事項	高校生物を履修していない者を対象とし、今後の学びの土台となるように講義を進めていく								
オフィスアワー	掲示によりお知らせします								
実践的教育									

授 業 名	自然科学 (生物)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 生物学を学ぶ意義について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	細胞について	(学修内容) 細胞の種類について、グループでどのような種類があるかまた違いについて考えディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書P66-71を読んでおく
第3回	細胞の機能	(学修内容) 生体膜の構造と物質輸送の仕組みについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書P72-74を読んでおく 前回までの復習をして小テストに備える
第4回	細胞小器官とその働き 1 ミトコンドリア	(学修内容) ミトコンドリアの構造とエネルギー産生に係わる部位について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p77,79-85を読んでおく
第5回	細胞小器官とその働き 2 その他の小器官	(学修内容) リボソーム、小胞体、ゴルジ装置、リソソーム、中心体などについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書P79-85を読んでおく
第6回	人体の構造 1 組織について	(学修内容) 人体の各組織の働きについて、グループで考えディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p137-144を読んでおく
第7回	人体の構造 2 器官について	(学修内容) 人体の器官について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p143-155を読んでおく 生体を構成する成分について復習し小テストに備える
第8回	人体の構造 3 成長と老化	(学修内容) 成長と老化による変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p194-205を読んでおく
第9回	細胞分裂について	(学修内容) 細胞周期、分裂しない細胞などについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p118-135を読んでおく
第10回	免疫のしくみ 1 非特異的生体防御と自然免疫	(学修内容) 病原菌の侵入防止のしくみと自然免疫について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p177-189を読んでおく
第11回	免疫のしくみ 2 獲得免疫とアレルギーについて	(学修内容) 獲得免疫とアレルギー発症の仕組みについて グループでアレルギーへの対応策についてディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p189-193を読んでおく
第12回	体内環境の維持 1 ホメオスタシス	(学修内容) ホメオスタシスはなぜ必要か (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p158-160を読んでおく 免疫についての小テストに備えまとめておく
第13回	体内環境の維持 2 維持機構について	(学修内容) 体液と循環器および体循環などについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p160-174を読んでおく
第14回	遺伝情報とその発現 1 染色体とゲノム	(学修内容) 遺伝情報の存在場所について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p102-104を読んでおく
第15回	遺伝情報とその発現	(学修内容) 遺伝のしくみと遺伝子発現の制御について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p104-116を読んでおく 全体のまとめをしておく

授 業 名	自然科学 (化学)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1110
英 文 名	Natural Science II (Chemistry)			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	化学は自然科学の基礎であり、化学の基礎的な知識を修得することによって、関連する生化学、栄養学、食品学等の科目の学習が容易になる。本講義では高校の化学の復習を主とした内容とし、これからの土台を築いていけるように授業を進めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 化学の基礎的事項について理解できる。 2) 生体中の溶液の性質を理解できる。 3) 溶液やモル濃度など実験に必要な具体的な計算ができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	土居純子著「栄養科学イラストレイテッド 基礎化学」羊土社 2017年								
参 考 書	授業中に適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	確認テストや提出物を求めた翌週に解答の解説を行なう。								
留 意 事 項	計算力をつけるように、常に暗算で計算をするようにするとよい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	自然科学 (化学)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) これからの学びに必要な化学とは (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	化学の基礎 1 単位について	(学修内容) 日常使われている単位について (事前事後学修課題の内容) (60分) いろいろな単位の概念について考えておく
第3回	化学の基礎 2 数について	(学修内容) 計算の基本について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回だされた課題をやっておく
第4回	水について	(学修内容) 体にとって重要な水について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p23-30を読んでおく
第5回	原子と元素について	(学修内容) 原子、元素、分子とはなにか (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p41-42を読んでおく
第6回	原子の構造	(学修内容) 電子の軌道と原子の電子配置について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p43-46を読んでおく
第7回	周期表	(学修内容) 周期表からわかる元素の性質について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p47-50 を読んでおく
第8回	化学結合 1	(学修内容) 原子間の結合について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p50-52を読んでおく
第9回	化学結合 2	(学修内容) 共有結合について (事前事後学修課題の内容) (60分) どのようなものがあるか考えてみる
第10回	化学結合 3	(学修内容) イオン結合について (事前事後学修課題の内容) (60分) どのようなものがあるか、またその性質について考えてみる
第11回	化学結合 4	(学修内容) 配位結合について (事前事後学修課題の内容) (60分) どのようなものがあるか、またその性質について考えてみる
第12回	分子間に働く力	(学修内容) ファンデアールス相互作用、水素結合などについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p67-68を読んでおく
第13回	溶けるということ	(学修内容) 溶液・溶媒・溶質とは (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p73-98を読んでおく
第14回	溶液の性質	(学修内容) 沸点上昇・凝固点降下、浸透圧とは (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書P109-123を読んでおく
第15回	酸と塩基	(学修内容) 酸・塩基、電離度、pHについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書P139-155を読んでおく

授 業 名	くらしと法律（日本国憲法）			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1122
英 文 名	Law and Our living (The Constitution of Japan)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡辺 暁彦			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食 物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	<p>近年、日本国憲法に関する注目・関心が高まっています。選挙権年齢も18歳に引き下げられました。本講義では、小・中 学校や高等学校などでの憲法学習で得られた知識をもとに、より体系的に日本国憲法の全体像を理解することを目的とし ています。特に、私たちの人権保障をめぐる問題を中心に、あらためて憲法の意義や役割について受講者全員で考え直し てみたいと思います。</p> <p>なお、内容の理解を深めるために、ビデオを見たり、受講者同士で話し合い、適宜、発言等も行ってもらえるよう配慮し たいと考えています。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 日本国憲法の意義や内容について、私たちの身のまわりの生活と結びつけて理解できる。</p> <p>2) 自由・平等に関する諸問題について、人権保障の現状と課題を理解することができる。</p> <p>3) 国家と個人との関係に着目し、民主主義社会における市民としての責務を自覚することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	長瀬拓也ほか編『ここから始める「憲法学習」(仮)』(ミネルヴァ書房、2019年4月刊行予定) *詳細については、 参考文献のこととあわせて初回に説明します。								
参 考 書	芦部信喜『憲法 [第七版]』(岩波書店、2019年)、吉田仁美・渡辺暁彦編『憲法判例クロニクル』(ナカニシヤ出版、 2016年)、その他、適宜授業中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認のための小テスト等については、授業時に解説・コメントを行います。								
留 意 事 項	日々の新聞および雑誌記事の切り抜きを心がけて下さい。適宜、講義のなかでそれについて発言・コメントを求めます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	くらしと法律（日本国憲法）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ～法とは何か、そして憲法とは？～	（学修内容）授業概要の説明、社会規範としての法、法の体系、憲法の意味などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、シラバス及びテキストの目次、プロローグに目を通しておくこと。
第2回	比較のなかの日本国憲法	（学修内容）憲法の歴史、諸外国の憲法との比較、最高法規としての憲法。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、新聞記事の切り抜きと、テキスト第1章、第2章13に目を通しておくこと。
第3回	日本国憲法の成立過程を振り返る	（学修内容）日本国憲法の成立過程を振り返りながら、憲法の意義及び目的について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、第3章4に目を通しておくこと。また復習として、ビデオを視聴して気づいたことをレポートにまとめて提出。
第4回	人権とは何かを考える	（学修内容）人権の観念、権利と義務、私人間効力をめぐる問題などについて学ぶ。グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、「身のまわりの人権問題」についてまとめておくこと。
第5回	人権は誰のもの？ ～外国人の人権、法人の人権～	（学修内容）外国人の人権を中心に、人権の享有主体性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、テキスト第4章20、第5章4に目を通しておくこと。
第6回	人権保障の現在（1）幸福追求権、自己決定権、プライバシー	（学修内容）個人の尊重と公共の福祉、幸福追求権について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、テキスト第4章6、7、8に目を通しておくこと。
第7回	人権保障の現在（2）法の下での平等	（学修内容）男女平等をめぐる問題などを中心に、私たちの社会のなかの「自由」「平等」について学ぶ。グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、私たちの普段の生活のなかで「これは平等に反するのではないか」と考えたことについてまとめておくこと。
第8回	人権保障の現在（3）精神的自由	（学修内容）表現の自由の現代的意義について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、テキスト第4章11、12に目を通しておくこと。
第9回	人権保障の現在（4）経済的自由	（学修内容）経済的自由と様々な規制のあり方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、テキスト第4章14に目を通しておくこと。（30分）
第10回	人権保障の現在（5）社会権	（学修内容）教育を受ける権利を中心に、社会権の保障について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、テキスト第4章16、17、22、23に目を通しておくこと。
第11回	人権保障と権力分立	（学修内容）人権保障とのための制度的基盤、国民主権と選挙制度、政党の役割について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、テキスト第3章9、12に目を通しておくこと。また復習として、参議院議員選挙に関する話題を調べてまとめること。
第12回	民主政治のしくみ（1）国会	（学修内容）国会の地位と構成、国会の権能などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、テキスト第4章26～30に目を通しておくこと。
第13回	民主政治のしくみ（2）内閣	（学修内容）内閣の組織、議院内閣制、行政の民主的コントロールなどについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、テキスト第4章31、32に目を通しておくこと。
第14回	民主政治のしくみ（3）裁判所	（学修内容）裁判所の役割、裁判員制度について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、テキスト第4章33、34に目を通しておくこと。
第15回	まとめ ～憲法改正論議と私たち～	（学修内容）昨今の憲法改正論に言及しながら、いま日本国憲法を学ぶ意味について考える。 （事前事後学修課題の内容）（80分） 予習として、第2章を参考に「いま、なぜ憲法を学ぶのか」についてレポートにまとめて提出。

授 業 名	社会学概論			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1111
英 文 名	Introduction to Sociology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食 物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	人間関係のありかたを視点に、「何故、我々は悩むのか?」という日常生活の身近な問題を出発点として、映像資料を用いながら、次のように授業を進めていきます。まず、人の中で生じる相互作用についての考察から初めて、個人の側から現代社会のありかたを捉えていきます。次に、グローバル化という大きな社会現象から現代社会のありかたを捉えることを通じて、その現象によって個人のありかたはどのように変わったのかを捉えて行きます。これらのことを通じて、現代社会のありかたについて考察していきます。グループワークの回以外においても、各回、自分で考え、それを書く時間を設けます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 物事を観察する力を身につけ、現代社会のありかたを「自分なり」に客観的に分析することができる。 2) 人とのつながりを視点に、日常の問題を分析することができる。 3) 自分なりの視点で、新聞やニュースを見ることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	授業時に資料を配布します。								
参 考 書	『社会学』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志編，有斐閣 2007年。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容に関して解説します。								
留 意 事 項	普段の生活においても、新聞やニュース、ドキュメンタリー報道には目を通すように心がけ、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題(ミニツツペーパー)にも、その成果を出せるようにする。(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実 践 的 教 育									

授業名	社会学概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容と進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	現代の社会問題について	(学修内容) 人間関係を視点に現代の社会問題を考察することの有効性を説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常生活における自分の人間関係をめぐる問題について整理してください。
第3回	人間の相互作用について	(学修内容) 日常生活における分析に適用・応用できる人の間で生じる相互作用のありかたの類型について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の家族や友人など、どのような内容を持つ関係なのか整理してみてください。
第4回	相互作用の類型について	(学修内容) 「人間の相互作用」を踏まえた上で、映像資料を通じて、人間の感情の動きを考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常における自分の人間関係を分析し、整理してみてください。
第5回	人間関係の変化について	(学修内容) 「人間の相互作用」を踏まえた上で、相互作用を通じた人間関係の変化について考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから見える人間関係を分析してみてください。
第6回	人間の絆について	(学修内容) 現代の社会において「人間の絆」はどのように捉えられるのかについて考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の身の周りに存在する「人間の絆」について整理してみてください。
第7回	グループワーク：人間の絆についての分析	(学修内容) グループワークで、家庭、学校、サークル・クラブ、バイト先などにおける人間の絆の強さのありかたを整理し、レポートとしてまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループワークをふまえた上で、日常生活における「人間の絆」について、その純粋性とは何かを考察してみてください。
第8回	人間の絆とは何か	(学修内容) 「人間の絆について」を踏まえた上で、「純粋な人間関係」について考察を進めて行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから「純粋な人間の絆」について考察してみてください。
第9回	組織と個人について	(学修内容) 人間は、どのようにすれば「一致団結=まとまる」ことができるのか。ここでは「組織」を捉える枠組みについて考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が、これまで所属している・してきた組織(クラブなど)は、どのように運営されていたのか、整理してみてください。
第10回	グループワーク：組織と個人の関係の分析	(学修内容) グループワークで、組織に関する分析組みを用いて、家庭、学校、バイト先などの組織を分析してみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループにおいて、異なった意見などを整理してみる。
第11回	組織と個人の関係とは	(学修内容) クラブ活動などの経験を事例に、人間は、どうすれば、一致団結し、まとまるのか、を考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから見える「組織と個人のありかた」について分析してみてください。
第12回	グローバル化について	(学修内容) グローバル化の進展により、どのような社会問題が生じているのか、説明して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 食や衣服など、自分の身の周りの商品が、どこで作られているのか、注意深く観察してみてください。
第13回	グローバル化の現状	(学修内容) グローバル化が進展していく中で、必要となる異文化の理解について考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから見える「グローバル化」という現象を分析してみてください。
第14回	日常生活を振り返って - コミュニケーション	(学修内容) 日常における他者との関係において自己を表現する問題、他者の存在を理解しようとする動き、そのなかで生じる相互作用について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから「純粋な人間の絆」について考察してみてください。
第15回	グループワーク：コミュニケーションについて考察する	(学修内容) グループワークで、仲間同士で盛り上がっているときなど、メンバーの各々の役割を考察し、レポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を整理する(整理するポイントは授業時に説明する)。

授 業 名	消費者教育			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1123
英 文 名	Consumer Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	大谷 和海			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>消費者教育は、2012年の「消費者教育の推進に関する法律」が制定されて以来、その在り方も変化しつつあります。ところで、私たちの多くは労働者として働いて賃金収入を得て、それを貯蓄や支出に利用しています。支出の多くは生活に必要な商品やサービスの購入にあてています。</p> <p>しかし、仮に高収入を得ても、商品等の価値が分からなかったり、騙されたりしては商品等の購入に使ったお金の値打ちを減少させることになりかねません。そこで、消費生活に関わる知識を習得し、これを適切な行動に結びつける実践的能力の育成や、主体的に消費者市民社会の形成に参画し、その発展に寄与できる資質を育むことが重要になっています。本講座では消費者教育の意義と課題について考えつつ、具体的な事例を通して、消費者教育についての理解を深め、その力量を形成することを目指します。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 消費者問題の実情を知り、その背後にある市場メカニズムや消費者保護施策の必要を理解することができる。</p> <p>2) 自らが、賢い消費者として、日常の生活行動の中で具体的な体験から問題の所在を身近に考えることができ、また行動することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (授業での質疑応答による理解力と回答力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	神山久美・中村年春・細川幸一編著『新しい消費者教育』慶應義塾大学出版会。								
参 考 書	授業内で適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	制作物に関しては、課題発見・解決能力の観点から評価を伝える。また、プレゼンテーション等の口述に関しては、発表後に評価を伝える。								
留 意 事 項	消費者教育に関する基本的な知識・理解をもとに、積極的な授業参加のもと、Q & Aの力や、プレゼンテーション能力を身に付けてもらいます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授業名	消費者教育	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：新しい消費者教育の推進に向けて	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第2回	消費者教育とはー理念と目的(第1章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第3回	消費者教育の歴史と体系(第2章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第4回	経済社会の発展と消費者問題の発生(第3章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第5回	消費者政策の展開(第4章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第6回	国・地方の消費者行政(第5章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第7回	商品の安全性(第6章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第8回	契約と消費者トラブル(第7章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第9回	生活設計(第8章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第10回	消費者信用(第9章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第11回	情報化社会と消費者(第10章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第12回	幼児期・小学生期(第11章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第13回	中学生期・高校生期(第12章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第14回	成人期(若者・成人一般・高齢者)(第13章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第15回	消費者市民社会の構築に向けて(第14章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。

授 業 名	ジェンダー論u			開 講 学 年	2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Gender Studies			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授業の概要	「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、現実の生活の中でジェンダーがどのように機能し、どのような課題を含んでいるのかを探っていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ジェンダーとは何かについて理解することができる。 2) 現代社会におけるジェンダー差の課題について理解することができる。 3) 自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	『女性学・男性学 ジェンダー論入門』伊藤公雄ほか（有斐閣アルマ）								
参 考 書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著（大月書店）、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著（ミネルヴァ書房）、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか著（有斐閣）、『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編（ミネルヴァ書房）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）ほか、随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、リアクションペーパーに対してコメントをします。								
留 意 事 項	遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてください。ディスカッションも行き、受講者は授業への積極的な参加が求められます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭（家庭科・保健科） 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 （財）21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 （公財）京都市男女共同参画推進協会 理事長 （公財）世界人権研究センター 嘱託研究員								

授 業 名	ジェンダー論u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	セックスとジェンダーの違い	(学修内容) 概念説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業計画の全体像を把握しておく。
第2回	「らしさ」とは何か	(学修内容) 男らしさ、女らしさについて考える(グループワーク含む)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第3回	男女二分法について	(学修内容) 二つに分けることはどういうことを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の講義について復習すること。
第4回	性における多様性: 性の複数の次元	(学修内容) 性の複数の次元について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第5回	性における多様性: 性の少数派	(学修内容) 性の少数派について理解する。ビデオ学習し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第6回	文化とジェンダー	(学修内容) 文化によるジェンダーの違いを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第7回	幼児期の性の社会化	(学修内容) 親と子どもの相互作用について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第8回	シンデレラとジェンダー	(学修内容) 映像を分析する(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グリム童話について調べておくこと。
第9回	メディアがジェンダーに与える影響	(学修内容) メディアが与える影響について考える(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題レポートを作成しておくこと。
第10回	教育とジェンダー: 隠れたカリキュラム	(学修内容) 隠れたカリキュラムについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業内容をまとめておくこと。
第11回	教育とジェンダー: 隠れたカリキュラムの実態	(学修内容) 自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える(グループワーク、ディスカッションを含む)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第12回	デートDVとジェンダー	(学修内容) デートDVの実態とメカニズムを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) DVとは何か調べておく。
第13回	子育てとジェンダー	(学修内容) 家庭における子育ての実態について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第14回	子育てにおけるジェンダー問題	(学修内容) ジェンダーの視点からみた子育ての課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ジェンダーの視点からみて、子育てにはどのような問題があるか調べておく。
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめと今後の課題を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 疑問点をまとめておくこと。

授 業 名	国際理解			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1112
英 文 名	International Understanding			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食 物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	グローバル化の進む現在、世界全体が一つのシステムに統合されつつあるように見える局面がある。しかし、今 なお国家単位、あるいは近隣国家群（地域）において、それぞれの風土、歴史、民族、宗教、文化などに由来する独自性 が息づいている。本講義ではそれらを地域別に概観し、世界の多様性に関する知識を得て、諸外国に対する理解を深める ことを目的とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 世界の諸国・諸地域の現状について歴史をふまえて理解することができる。 2) 様々な事柄について、国際的な視野のもとで考えることができる。 3) 関心のあるテーマについて国による多様性を知ることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内でコメントする。								
留 意 事 項	諸外国・地域について知的好奇心がある人にすすめます。毎回の予習と最後のグループワークに積極的に取り組むことが 必要です。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実 践 的 教 育									

授業名	国際理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション：国家と地域	(学修内容)「国家」と複数の国家を含む「地域」について (事前事後学修課題の内容)(5分) シラバスを読んでおく
第2回	東アジア	(学修内容)東アジア地域の歴史と国家間関係 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第3回	東南アジア	(学修内容)東南アジア地域の歴史と地域性 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第4回	オセアニア	(学修内容)オセアニア地域の歴史と地域性 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第5回	インド	(学修内容)インドのなりたちと特徴 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第6回	西南アジア	(学修内容)西南アジア地域の特徴と西洋社会との関係 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第7回	アフリカ1	(学修内容)植民地以前、植民地時代、独立後について (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第8回	アフリカ2	(学修内容)現代のアフリカの多様性 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第9回	中南米1	(学修内容)植民地以前、植民地時代、独立後について (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第10回	中南米2	(学修内容)現代の中南米地域の国家と地域性 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第11回	北米	(学修内容)北米地域のなりたちと特徴 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第12回	ヨーロッパ1	(学修内容)ヨーロッパの歴史 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第13回	ヨーロッパ2	(学修内容)現代のヨーロッパ (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習
第14回	グループワーク	(学修内容)独自のテーマで特定の国家・地域について調べる (事前事後学修課題の内容)(30分) 調べたいテーマと地域について考えてくる
第15回	グループワーク発表会	(学修内容)グループ研究の発表 (事前事後学修課題の内容)(120分) 発表準備

授 業 名	産官学連携実践 u a ・ u b			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE1113
英 文 名	Practice of society cooperation			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	<p>大学生として学ぶ意味と実社会との結びつきを実感し、大学生としてのキャリア形成のスタートを図る。地域の企業や学校への関心を涵養し、進路選択の選択肢としての視野を広げることを意識する。具体的には事前学習を行い、実践体験先である企業や学校の現場に入り、多様な価値観が存在することに気づき、「仕事とは何か」「働くこととは何か」を考察できることをねらいとする。また、実践体験からの気づきと課題などを整理し、社会の担い手として貢献できる姿勢を身につける。この授業は、グループワークを行いながら授業を進めるので積極的に参加してほしい。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 社会に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。 2) 社会人に必要な基礎的なマナーを身に付けることができる。 3) 自己覚知ができる。 4) 進路や今後の目標を意識することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	教員が作成したプリントを配布する								
参 考 書	稲本恵子、白井弘子、吉浦昌子著『社会人基礎力』、晃洋書房、2018								
課題に対するフィードバックの方法	実習前レポート、オリエンテーション後レポート、実習後レポート個別面談を通して確認し、本人へ返却を行う。振り返りレポートは確認後、本人へ返却を行う。								
留 意 事 項	本授業は、学びと実社会のつながりを認識しながら、学びを深めるという目的から、意欲のある学生の受講を求める。大学での事前授業・事後授業に加えて、スクールボランティアやインターンシップに主体的に参加することが単位の条件となる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は、1回目の授業で広報を行う。								
実践的教育									

授 業 名	産官学連携実践 u a ・ u b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 産官学連携実践の意義と目的	(学修内容) 授業の計画・内容・注意事項等、シラバスをたどりながら産官学連携実践の意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 シラバスを読んでおくこと。
第2回	自己覚知 1 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	(学修内容) 非言語コミュニケーションによって人に与える影響を考える。 I C T教室でクリッカーを使用する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自己紹介ができるように考え文字におこす。
第3回	自己覚知 2 他者からの自分に気づく	(学修内容) グループワークを通して、グループ内の自分の役割等に気づき、自己覚知を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 振り返りレポートを書く。
第4回	実践体験に向けた目的の設定 社会人基礎力について	(学修内容) 実践対象について学び、実践の目的・目標について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 実習対象を「保育所」に仮定し、到達目標とその方法を作成する
第5回	社会人としてのマナーの基本 1 心構えやマナーについて	(学修内容) 事前の連絡・事前の訪問・挨拶・打ち合わせ等の心構えを学び、自己紹介・挨拶の仕方等の演習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 自分が実践する対象の到達目標とその方法を作成する。
第6回	社会人としてのマナーの基本 2 文章の基本的な書き方(お礼状、メール等)	(学修内容) 自分の書いてきたお礼状を友達と添削しあう。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 封筒・便箋を選択し、お礼状を書いてくる。
第7回	事前レポートの確認及び目標指導	(学修内容) 事前レポートに目標等を記入し、個別で面談を行う。 Gメールを通してアポイントをとること。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実践体験にむけた事前オリエンテーションのアポイントをとる
第8回	企業・学校の現場を知る 1	(学修内容) 現場での実践 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践記録を書く
第9回	企業・学校の現場を知る 2	(学修内容) 現場での実践。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践記録を書く
第10回	企業・学校の現場を知る 3	(学修内容) 現場での実践。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践記録を書く
第11回	企業・学校の現場を知る 4	(学修内容) 現場での実践 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践記録を書く
第12回	企業・学校の現場を知る 5	(学修内容) 現場での実践 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践記録を書く
第13回	企業・学校の現場を知る 6	(学修内容) 実践体験の成果を振り返り、経験の共有、成長点の認識などをグループで話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践記録を書く
第14回	事後レポートの確認及び個別面談	(学修内容) 実践体験からの気づきと課題などを整理し、今後の目標を明確にするとともに、実践体験報告書をまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 事後レポートを完成させる。
第15回	実践体験の報告会での発表	(学修内容) 実践体験報告会を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 発表の事前準備とリハーサルを行う I C T教室でクリッカーを使用し、発表を行う。

授 業 名	産官学連携実践 u a ・ u b			開 講 学 年	2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Practice of society cooperation			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授業の概要	本講では、自らキャリアを形成したいという意欲を高めるために、他者とのコミュニケーションを通じて多様な価値観を取り込みながら「社会人」として必要な資質・技能を習得していくことを目的とする。スクールボランティアや福祉施設でのボランティア、企業でのインターンシップに参加することを通して、社会で生きていくために必要な力を身に付けていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自主的・主体的に行動する力を習得する。 2) 課題を発見し、解決に向け提案する力を習得する。 3) わかりやすく書くこと・話すことができる自己表現力を身に付ける。 4) 他者と力を合わせて取り組むことのできるチームワーク力を身に付ける。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	随時資料を配布する。								
参 考 書	講義時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートや課題については、適宜コメントを行う。								
留 意 事 項	1) 学生のみなさんの自主的・主体的活動を理論と実践の両側面から支援するための講座です。 2) ボランティアやインターンシップの場を自ら開拓し、準備を入念に行う姿勢が大切です。 3) スクールボランティアや福祉施設でのボランティア、企業でのインターンシップなどへの積極的な参加を求めます。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	講義初回時にお知らせします。 基本的には研究室に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授業名	産官学連携実践 ua・ub	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ～「産官学連携実践」であることの意識～	(学修内容)本講の進め方や成績評価の方法について説明し、「」であることを意識しながら今後の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 「」をふりかえりながら、自らの進路・就職イメージについて考えておく。
第2回	キャリアプランニングに向けて	(学修内容)キャリアプランニングと進路決定に必要な要素とプロセス理解を深め、グループ・ワークを行う。 (事前事後学修課題の内容)(45分) キャリアプランニングについて調べておくこと。
第3回	プレゼンテーション ～「」のふりかえりと今後に向けて～	(学修内容)自分を動機づけてきたものは何か、言語表現で明らかにする。受講人数によるが、一人当たり10分を予定している。 (事前事後学修課題の内容)(60分) キャリアプランニングに必要な動機づけについて考え、まとめておくこと。
第4回	働く意味を考える	(学修内容)働く意味を考え、自分が形成したいキャリアの形を見出す。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 働くことに対して自分もつイメージをまとめておく。
第5回	産官学連携とは	(学修内容)産官学連携について考える。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回までの復習をしておく。
第6回	企業でのインターンシップ ～食品・販売系～	(学修内容)食品・販売系の企業でのインターンシップに係る心得と準備について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) インターンシップに向けた事前準備を行う。
第7回	企業でのインターンシップ ～商社・総合職系～	(学修内容)商社での受付や総合職系のインターンシップに係る心得と準備について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) インターンシップに向けた事前準備を行う。
第8回	学校でのボランティア ～小学校・中学校・高等学校～	(学修内容)学校関係でのボランティアもしくはインターンシップに係る心得と準備について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) スクールボランティアに向けた事前準備を行う。
第9回	保育所・幼稚園でのボランティア	(学修内容)保育所や幼稚園でのボランティアに係る心得と準備について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ボランティアに向けた事前準備を行う。
第10回	福祉施設でのボランティア	(学修内容)障害者・高齢者の施設でのボランティアに係る心得と準備について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ボランティアに向けた事前準備を行う。
第11回	ボランティア・インターンシップにおける守秘義務	(学修内容)個人情報・企業情報の機密性と倫理性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定された文献を読んでおくこと。
第12回	事後レポートの作成	(学修内容)実習活動をふりかえり、事後レポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習活動時の資料等をまとめておく。
第13回	実習活動報告用の資料作成	(学修内容)収集した資料を整理し、プレゼンテーションに向けた準備を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習活動時の資料等をまとめておく。
第14回	プレゼンテーション ～実習活動報告～	(学修内容)事後レポートに基づきながら、実習活動のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 実習活動での内容に基づきながら、報告資料を作成する。
第15回	プレゼンテーション ～実習活動報告ならびに総評～	(学修内容)事後レポートに基づきながら、実習活動のプレゼンテーションを行う。最後に教員より総評を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 実習活動での内容に基づきながら、報告資料を作成する。

授 業 名	ライフステージ栄養学			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Nutrition of Life			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	人間の一生を乳幼児期・児童期・成年期・高齢者期に区分し、妊娠や発育・加齢による人体の構造や機能などの生理的変化を学習し、各ライフステージでの栄養の特徴とそれらに合わせた栄養アセスメントの原理について理解する。また、各ライフステージと関連の深い疾病の病態と概要についても学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養状態の評価・判定について理解できる。 2) ライフステージ各期の栄養および食事に関する諸問題について理解できる。 3) 加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	カレント 応用栄養学 辻 悦子 編（建帛社）								
参 考 書	日本人の食事摂取基準（2015年版） 菱田 明、佐々木 敏 監修（第一出版）								
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	専門用語について充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務								

授 業 名		ライフステージ栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	1、オリエンテーション 栄養ケア・マネジメントと食事摂取基準の理解	(学修内容) 1、授業の進め方と栄養ケア・マネジメントの定義、食事摂取基準の基礎について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスと教科書を予習しておくこと。	
第2回	2、成長・発達・加齢の概念と栄養	(学修内容) 2、誕生から成長過程における人体の発達や加齢の概念と、人の成長・発達・加齢における影響と栄養について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第3回	3、妊娠期の栄養	(学修内容) 3、妊娠期における母体・胎児の栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第4回	4、授乳期の栄養	(学修内容) 4、授乳期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第5回	5、新生児期の栄養	(学修内容) 5、新生児期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第6回	6、乳児期・離乳期の栄養	(学修内容) 6、乳児期及び離乳期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第7回	7、幼児期の栄養	(学修内容) 7、幼児期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第8回	8、学童期の栄養	(学修内容) 8、学童期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第9回	9、思春期の栄養	(学修内容) 9、思春期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第10回	10、成人期の栄養	(学修内容) 10、成人期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第11回	11、更年期の栄養	(学修内容) 11、更年期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第12回	12、高齢期の栄養	(学修内容) 12、高齢期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第13回	13、運動・スポーツと栄養	(学修内容) 13、運動・スポーツ時における生理的特徴と栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第14回	14、環境と栄養	(学修内容) 14、ストレス時における栄養ケア、及び特殊環境と栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第15回	15、まとめと評価(到達度の確認)	(学修内容) 15、まとめと総合評価 (グループワークでまとめを発表する) (事前事後学修課題の内容) (60分) 全体の復習をしておくこと。	

授業名	TOEIC			開講学年	2・3・4回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	TOEIC			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	松尾 章子			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授業の概要	TOEICやTOEIC Bridgeでの得点アップを目指し、練習問題を多く解く。TOEIC、TOEIC Bridge受験時の解答テクニックを磨き、勉強方法を知る。英語に関する弱点を見つけ克服できるよう取り組む。授業では、グループワークやクリッカーの使用による双方向型授業を取り入れ、コミュニケーション力を培います。TOEIC400点又はTOEIC Bridge130点取得を目指します。								
学修成果到達目標	1) TOEICテスト・TOEIC Bridgeテスト形式を知っている。 2) Part 2とPart 5の問題は他のPartよりも容易に解くことができる。 3) TOEICに関連する単語・表現を、受講開始時より150個多く知っている。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	妻鳥千鶴子 & 田平真澄著 『はじめてのTOEIC受験徹底対策 改訂版』 センゲージラーニング株式会社 2016年 2,000円 + 税								
参考書	自分のレベルに合ったテキスト/問題集を使用して、語彙力やスキルアップに取り組むことを強く望みます。								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は、解答・解説とともに答案返却期間中(9月12~19日予定)に希望者に返却します。授業内でのテスト・小テスト(単語テスト)は、テスト終了後またはテスト返却時に解説を行います。								
留意事項	学期後半にTOEIC又はTOEIC Bridgeテストの団体受験を実施予定です。積極的に受験してください。30分までの遅刻は0.5回の欠席扱い、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。								
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実際経験など：英会話スクールAEON 講師(TOEICクラス他担当)								

授業名	TOEIC	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction, Pre-test	(学修内容)到達目標の確認、進め方の説明、学習前テスト (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:本授業のシラバスを読む 事後:pp.14-21の問題を再度解く。
第2回	Unit 1 Shopping	(学修内容)Unit 1の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:pp.22, 26-29を読み、問題を解く。 事後:Unit1復習。
第3回	Unit 2 Daily Life Unit 1 Quiz	(学修内容)小テスト1、Unit 2の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.30, 34-37を読み、問題を解く。Unit1小テスト勉強。 事後:Unit2復習。
第4回	Unit 3 Transportation Unit 2 Quiz	(学修内容)小テスト2、Unit 3の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.38, 42-45を読み、問題を解く。Unit2小テスト勉強。 事後:Unit3復習。
第5回	Unit 4 Jobs Unit 3 Quiz	(学修内容)小テスト3、Unit 4の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.46, 50-53を読み、問題を解く。Unit3小テスト勉強。 事後:Unit4復習。
第6回	Unit 5 Meals Unit 4 Quiz	(学修内容)小テスト4、Unit 5の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.54, 58-61を読み、問題を解く。Unit4小テスト勉強。 事後:Unit5復習。
第7回	Unit 6 Communication Unit 5 Quiz	(学修内容)小テスト5、Unit 6の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.62, 66-69を読み、問題を解く。Unit5小テスト勉強。 事後:Unit6復習。
第8回	Unit 7 Fun Unit 6 Quiz	(学修内容)小テスト6、Unit 7の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.70, 74-77を読み、問題を解く。Unit6小テスト勉強。 事後:Unit7復習。
第9回	Unit 8 Office Work Unit 7 Quiz	(学修内容)小テスト7、Unit 8の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.78, 82-85を読み、問題を解く。Unit7小テスト勉強。 事後:Unit8復習。
第10回	Unit 9 Meeting Unit 8 Quiz	(学修内容)小テスト8、Unit 9の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.86, 90-93を読み、問題を解く。Unit8小テスト勉強。 事後:Unit9復習。
第11回	Unit 10 Travel Unit 9 Quiz	(学修内容)小テスト9、Unit 10の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.94, 98-101を読み、問題を解く。Unit9小テスト勉強。 事後:Unit10復習。
第12回	Unit 11 Finance Unit 10 Quiz	(学修内容)小テスト10、Unit 11の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.102, 106-109を読み、問題を解く。Unit10小テスト勉強。 事後:Unit11復習。
第13回	Unit 12 Business Unit 11 Quiz	(学修内容)小テスト11、Unit 12の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:pp.110, 114-117を読み、問題を解く。Unit11小テスト勉強。 事後:Unit12復習。
第14回	Post-test (日程が前後することがあります) Unit 12 Quiz	(学修内容)小テスト12、学習後テスト (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Units1-12復習。Unit12小テスト勉強。
第15回	Review	(学修内容)復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:pp.122-129の問題を再度解く。 事後:定期試験に向けて、授業内容を再度復習。

授 業 名	TOEIC			開 講 学 年	2・3・4回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	TOEIC			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授 業 の 概 要	TOEICやTOEIC Bridgeでの得点アップを目指し、練習問題を多く解く。TOEIC、TOEIC Bridge受験時の解答テクニックを磨き、勉強方法を知る。英語に関する弱点を見つけ克服できるよう取り組む。グループワークやクリッカー使用による双方向型授業を取り入れ、コミュニケーション力を培います。TOEIC450点又はTOEIC Bridge150点取得を目指します。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) TOEICテスト・TOEIC Bridgeテスト形式に慣れ、時間配分を視野に入れて問題を解くことができる。 2) Parts 1, 2, 5, 6の問題は他のPartよりも容易に解くことができる。 3) TOEICに関連する単語・表現を、受講開始時より100個多く知っている。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テ キ ス ト	横山綾子 & Tony Cook著 『TOEIC TEST解答力アップ徹底トレーニング 改訂版』セнгеージラーニング株式会社 2016年 2,000円+税								
参 考 書	自分のレベルに合ったテキスト/問題集を使用して、語彙力やスキルアップに取り組むことを強く望みます。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	定期試験は、解答・解説とともに答案返却期間中(3月27日~4月6日予定)に希望者に返却します。授業内でのテスト・小テストは、テスト終了後またはテスト返却時に解説を行います。								
留 意 事 項	学期後半にTOEIC又はTOEIC Bridgeテストの団体受験を実施予定です。積極的に受験してください。30分までの遅刻は0.5回の欠席扱い、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実際経験など：英会話スクールAEON 講師(TOEICクラス他担当)								

授業名	TOEIC	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction, Pre-test	(学修内容) 到達目標の確認、進め方の説明、学習前テスト (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 本授業のシラバスを読む。 事後: pp.14-21の問題を再度解く。
第2回	Unit 1 テスト形式を知る	(学修内容) Unit 1の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: pp.22-25を読み、pp.26-29の問題を解く。 事後: pp.30-31を解きわからない単語・表現を調べる。
第3回	Unit 2 基本戦略 人物 風景 のチェックポイント Unit 1 Quiz	(学修内容) 小テスト1、Unit 2の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前: pp.32-35を読み、pp.36-39の問題を解く。 事後: pp.40-41を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第4回	Unit 3 基本戦略 聞いてわかる生活語彙を増やす! Unit 2 Quiz	(学修内容) 小テスト2、Unit 3の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前: pp.42-45を読み、pp.46-49の問題を解く。 事後: pp.50-51を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第5回	Unit 4 英文の基本構造を見抜く Unit 3 Quiz	(学修内容) 小テスト3、Unit 4の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前: pp.52-55を読み、pp.56-59の問題を解く。 事後: pp.60-61を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第6回	Unit 5 解答根拠の登場順 Unit 4 Quiz	(学修内容) 小テスト4、Unit 5の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: pp.62-65を読み、pp.66-71の問題を解く。 事後: pp.72-73を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第7回	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る Unit 5 Quiz	(学修内容) 小テスト5、Unit 6の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前: pp.74-77を読み、pp.78-81の問題を解く。 事後: pp.82-83を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第8回	Unit 7 機能疑問文を聞き取る Unit 6 Quiz	(学修内容) 小テスト6、Unit 7の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前: pp.84-87を読み、pp.88-91の問題を解く。 事後: pp.92-93を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第9回	Unit 8 動詞の時制を見極める Unit 7 Quiz	(学修内容) 小テスト7、Unit 8の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前: pp.94-97を読み、pp.98-101の問題を解く。 事後: pp.102-3を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第10回	Unit 9 接続詞 VS. 前置詞 Unit 8 Quiz	(学修内容) 小テスト8、Unit 9の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前: pp.104-107を読み、pp.108-111の問題を解く。 事後: pp.112-3を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第11回	Unit 10 複数パッセージの攻略 Unit 9 Quiz	(学修内容) 小テスト9、Unit 10の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: pp.114-117を読み、pp.118-123の問題を解く。 事後: pp.124-5を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第12回	Unit 11 接続副詞に強くなる Unit 10 Quiz	(学修内容) 小テスト10、Unit 11の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: pp.126-129を読み、pp.130-135の問題を解く。 事後: pp.136-7を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第13回	Unit 12 NOT型設問のコツ Unit 11 Quiz	(学修内容) 小テスト11、Unit 12の内容確認、練習問題 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: pp.138-141を読み、pp.142-147の問題を解く。 事後: pp.148-9を解きわからない単語・表現を調べる。小テスト勉強。
第14回	Post-test (日程が前後することがあります) Unit 12 Quiz	(学修内容) 小テスト12、学習後テスト (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: Units1-12復習。Unit12小テスト勉強。
第15回	Review	(学修内容) 復習 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: pp.154-161の問題を再度解く。 事後: 定期試験に向けて、授業内容を再度復習。

授業名	中国語 U			開講学年	2・3・4回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Chinese			開講時期	春学期	必修選択		選択	
担当者	中尾 弥継			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授業の概要	本授業では中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、中国人と初歩的なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。学期末には中国語によるプレゼンテーションにより、その学習成果を披露してもらいます。また適宜映像資料などを鑑賞し、文化や国内事情への理解も深めたい。								
学修成果到達目標	1) 正確な中国語の発音ができる。 2) 基本的な単語や文法が理解できる。 3) 自力で簡単な文章を作ったり、相手と簡単な会話を行ったりできる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	『初級テキスト カンフー中国語』(坂井有・中尾弥継・楊韜 著、ブックウェイ、2018年)								
参考書	『プログレッシブ中国語辞典 第2版』(小学館)								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは添削をして返却します。								
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりとやること。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	中国語 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 「発音」(声調、単母音)	(学修内容)講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストを事前に一覧しておく。
第2回	「発音」(子音、複母音)	(学修内容)中国語の基本的な発音を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第1回」の復習。次回内容に関する予習。
第3回	「発音」(声調変化、よく使う表現 など)	(学修内容)中国語の基本的な発音を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第2回」の復習。次回内容に関する予習。
第4回	「第一課」(人称代名詞、疑問文 など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第3回」の復習。次回内容に関する予習。
第5回	「第二課」(いろいろな動詞、語気助詞など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第4回」の復習。次回内容に関する予習。
第6回	復習 「第一課」「第二課」	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第一課」「第二課」の復習。次回内容に関する予習。
第7回	「第三課」(形容詞述語文、疑問詞など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第6回」の復習。次回内容に関する予習。
第8回	「第四課」(数詞、量詞 など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第7回」の復習。次回内容に関する予習。
第9回	復習 「第三課」「第四課」	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第三課」「第四課」の復習。次回内容に関する予習。
第10回	「第五課」(方位詞、存在を表す“在” など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第9回」の復習。次回内容に関する予習。
第11回	「第六課」(時間の言い方、連動文 など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第10回」の復習。次回内容に関する予習。
第12回	復習 「第五課」「第六課」	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第五課」「第六課」の復習。次回内容に関する予習。
第13回	「第七課」(完了、変化“了” など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第12回」の復習。次回内容に関する予習。
第14回	総復習	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「発音」から「第7課」の復習。次回内容に関する予習。
第15回	プレゼンテーション	(学修内容)今学期の学習内容を生かして中国語によるプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第1回」から「第14回」の総復習。

授業名	中国語 u			開講学年	2・3・4回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Chinese			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	中尾 弥継			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授業の概要	本授業では「中国語 u」の学習成果をふまえ、引き続き中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、中国人と初歩的なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。学期末には中国語によるプレゼンテーションにより、その学習成果を披露してもらいます。また適宜映像資料などを鑑賞し、文化や国内事情への理解も深めたい。								
学修成果到達目標	1) より正確な中国語の発音ができる。 2) より多くの単語や、より高度な文法が理解できる。 3) 自力で複雑な文章を作ったり、相手とより具体性のある会話を行ったりできる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	『初級テキスト カンファー中国語』(坂井有・中尾弥継・楊韜 著、ブックウェイ、2018年) 「中国語 u」で購入したテキストを継続して使用								
参考書	『プログレッシブ中国語辞典 第2版』(小学館)								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは添削をして返却します。								
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりとやること。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授 業 名	中国語 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 「中国語 u」の復習	(学修内容) 講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「中国語 u」で学習した部分の復習。次回内容に関する予習。
第2回	「第八課」(助動詞、“会”“能”“可以”など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第1回」の復習。次回内容に関する予習。
第3回	「第九課」(進行“正在-?”、持続“-着”など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第2回」の復習。次回内容に関する予習。
第4回	復習 「第八課」「第九課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第八課」「第九課」の復習。次回内容に関する予習。
第5回	「第十課」(補語 結果補語、比較 A“比”B“”など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第4回」の復習。次回内容に関する予習。
第6回	「第十一課」(“是~的”構文、二重目的語など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第5回」の復習。次回内容に関する予習。
第7回	復習 「第十課」「第十一課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第十課」「第十一課」の復習。次回内容に関する予習。
第8回	「第十二課」(補語 方向補語“来”“去”、“把”処置式の文 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第7回」の復習。次回内容に関する予習。
第9回	「第十三課」(主述述語文、存現文 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第8回」の復習。次回内容に関する予習。
第10回	復習 「第十二課」「第十三課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第十二課」「第十三課」の復習。次回内容に関する予習。
第11回	「第十四課」(受身、使役 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第10回」の復習。次回内容に関する予習。
第12回	「第十五課」(複文、動詞A+也+動詞A+可能補語の否定形 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第11回」の復習。次回内容に関する予習。
第13回	復習 「第十四課」「第十五課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第十四課」「第十五課」の復習。次回内容に関する予習。
第14回	総復習	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第8課」から「第15課」の復習。次回内容に関する予習。
第15回	プレゼンテーション	(学修内容) 今学期の学習内容を生かして中国語によるプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第1回」から「第14回」の総復習。

授 業 名	ハンゲル u			開 講 学 年	2・3・4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Hangul u			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	韓 亨 模			対 象 学 生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授業の概要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. ハンゲルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基本的な文法を使って、まとまりのある文章が書ける。 3. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (汎用的能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 (積極性)		
テ キ ス ト	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著（国書刊行会）								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	理解度テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	特になし。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育									

授業名	ハンゲル u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 講義の進め方、韓国語について、あいさつ (事前事後学修課題の内容) (90分) 韓国語のあいさつを復習して使えるようにする。教材等の準備。
第2回	基礎・第2課 基本母音	(学修内容) 10の基本母音、あいさつ (事前事後学修課題の内容) (90分) 基本母音の復習をして発音できるようにする。書けるようにする。 韓国語でのあいさつを復習して使えるようにする。
第3回	基礎・第3課 基本子音	(学修内容) 平音、激音、濃音、鼻音、流音、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) (90分) 平音、激音、濃音、鼻音、流音を復習して発音できるようにする。書けるようにする。韓国での自己紹介を復習して使えるようにする。
第4回	基礎・第4課 複合母音	(学修内容) 11の複合母音、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) (90分) 11の複合母音を復習して発音できるようにする。書けるようにする。 韓国語での自己紹介を復習して使えるようにする。
第5回	基礎・第5課 パッチム	(学修内容) 代表子音、実用表現 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで勉強した子音を復習して発音と書き方を総復習する。 韓国語の実用表現を復習して使えるようにする。
第6回	基礎・第6課 発音の変化	(学修内容) 有声音化、連音、流音化、激音化、実用表現 (事前事後学修課題の内容) (90分) 有声音化、連音、流音化、激音化のルールを復習してしっかり覚える。 韓国語の実用表現を復習して使えるようにする。
第7回	基礎・第6課 発音の変化	(学修内容) hの弱化、濃音化、口蓋音化、鼻音化、実用表現 (事前事後学修課題の内容) (90分) hの弱化、濃音化、口蓋音化、鼻音化のルールを復習してしっかり覚える。 韓国語の実用表現を復習して使えるようにする。
第8回	復習	(学修内容) 文字(ハンゲル)と発音のまとめ (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでに勉強した文字(ハンゲル)を総復習する。 発音のルールを総復習する。
第9回	第1課 私は浅井ゆかりです	(学修内容) ~は / ~です (事前事後学修課題の内容) (90分) 「~は / ~です」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。
第10回	第2課 出身はソウルですか	(学修内容) ~が / ~ですか (事前事後学修課題の内容) (90分) 「~が / ~ですか」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。
第11回	第3課 図書館ではありません	(学修内容) ~ではありません / ~ではありませんか (事前事後学修課題の内容) (90分) 「~ではありません / ~ではありませんか」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。
第12回	第4課 時間がありますか	(学修内容) います・あります / いません・ありません (事前事後学修課題の内容) (90分) 「います・あります / いません・ありません」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。
第13回	第5課 インターネットをします	(学修内容) します・しますか / 何 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「します・しますか / 何」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。
第14回	第6課 貿易会社で働いています	(学修内容) (うちとけた) します・しますか/います・いません (事前事後学修課題の内容) (90分) 「(うちとけた) します・しますか/います・いません」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。
第15回	まとめ	(学修内容) 春学期のまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの総復習 文字、発音のルール、文法、表現を総復習する

授 業 名	ハングル u			開 講 学 年	2・3・4回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Hangul u			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	韓 亨 模			対 象 学 生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授 業 の 概 要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基本的な文法を使って、まとまりのある文章が書ける。 3. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (汎用的能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 (積極性)		
テ キ ス ト	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著(国書刊行会)								
参 考 書	随時指示する。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	理解度テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	ハングルが読めることが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育									

授業名	ハンゲル u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 講義の説明、あいさつ、自己紹介、実用表現 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前学期の復習
第2回	第7課 東大門市場に行きます	(学修内容) (かしこまった)です・ます (事前事後学修課題の内容) (90分) 「(かしこまった)です・ます」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第3回	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	(学修内容) ヨ体、(打ちとけた)丁寧 / ~しに (事前事後学修課題の内容) (90分) 「ヨ体、(打ちとけた)丁寧 / ~しに」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第4回	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	(学修内容) 母音の縮約 / 変則用言の丁寧形 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「母音の縮約 / 変則用言の丁寧形」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第5回	第9課 それは1万ウォンです	(学修内容) 漢数詞 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「漢数詞」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第6回	第10課 今、何時ですか	(学修内容) 時間 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「時間」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第7回	第10課 今、何時ですか	(学修内容) 固有数詞、助数詞 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「固有数詞、助数詞」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第8回	第11課 日本語を話されますか	(学修内容) 尊敬語 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「尊敬語」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第9回	第12課 そんなに遠くありません	(学修内容) 用言の否定 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「用言の否定」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第10回	第12課 そんなに遠くありません	(学修内容) ~するといいです (事前事後学修課題の内容) (90分) 「~するといいです」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第11回	復習	(学修内容) 敬語(丁寧語・尊敬語)の復習 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでの「敬語(丁寧語・尊敬語)」の復習
第12回	第13課 いつ韓国に来ましたか	(学修内容) 過去形 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「過去形」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第13回	第13課 いつ韓国に来ましたか	(学修内容) 変則用言の過去形 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「変則用言の過去形」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。
第14回	第14課 民俗村に一緒に行きましょう	(学修内容) 勧誘の表現(~しましょう / ~しよう) (事前事後学修課題の内容) (90分) 「勧誘の表現(~しましょう / ~しよう)」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。総復習。
第15回	まとめ	(学修内容) 秋学期のまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの復習

授 業 名	日本語表現法			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名				開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	大学でのレポートや卒業論文、実習先での学習、就職活動などで必要な正しい日本語や文章表現力を修得するための訓練を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	日本語の基礎的な知識、表現方法を理解し、使うことができる。 日本語能力を高め鍛える方法を修得し、生活の中で実践できる。 的確な日本語の文章を作成することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	各回プリント配付								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	練習問題や文章作成など、積極的に取り組むこと。毎回、国語辞典またはそれに類するものを持参すること。漢字や熟語について自由に使いこなすための練習もおこないます。私語・飲食(ガム・のど飴も含む)の一切禁止								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回に提示する。								
実践的教育									

授 業 名	日本語表現法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	自己紹介(句読点と記号の使い方) 原稿用紙の使い方	(学修内容) 演習問題を通して、正しい方法を確認する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 3分程度の自己紹介を準備しておく
第2回	文体(書き言葉と話し言葉)	(学修内容) 普通体、丁寧体、論文体など文章の種類と注意点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト適用箇所を読んでおく
第3回	言葉の選択	(学修内容) 最適な言葉を引き出す練習をする。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト適用箇所を読んでおく
第4回	文の構成	(学修内容) 修飾、被修飾による相関関係を学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト適用箇所を読んでおく
第5回	説明の仕方	(学修内容) 自分以外の人に的確に伝わる説明の仕方について練習する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト適用箇所を読んでおく
第6回	要約文の作り方	(学修内容) レポートを書く、学会や研修の報告をする時の、文章内容の要約のポイントについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト適用箇所を読んでおく
第7回	意見文・基礎	(学修内容) 自分の考えを述べるだけにとどまらず、考慮する客観的な根拠や判断について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト適用箇所を読んでおく
第8回	意見文・発展形	(学修内容) 賛成か反対かという意見分とは違った択一問題ではない要件に関する意見文について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト適用箇所を読んでおく
第9回	敬語(待遇表現) 敬語を用いた表現	(学修内容) 日常行う会話やメール以外に、敬語について学ぶ。 実際に敬語を使う練習をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト適用箇所を読んでおく
第10回	実用文書の書き方	(学修内容) 履歴書や報告書など、実用分としての体裁や表現方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト適用箇所を読んでおく
第11回	小論文の書き方(文章の構成) 小論文作成	(学修内容) 小論文の文章校正のポイントについて学ぶ。 課題について小論文を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト適用箇所を読んでおく
第12回	手紙の書き方	(学修内容) 必要事項以外の文章の膨らませ方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) お世話になった方への手紙を持参する
第13回	ディベート(準備)	(学修内容) 提示課題について、班に分かれて準備する (事前事後学修課題の内容)(90分) 課題について情報を集めておく。(
第14回	ディベート(実践)	(学修内容) 実際のディベートを体験する。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 肯定する立場と否定する立場のそれぞれの意見を整理し、総括する。(
第15回	まとめ	(学修内容) 授業内容のまとめと各自の学びを確認する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として各自の学びをまとめる。復習として到らなかった点などの反省点を列挙し、今後の課題とする。

授業名	情報処理 u a ・ u b ・ u e			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE1107
英文名	Information Processing			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	猿渡 綾子・岩佐 真代・谷口 永里子			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピュータを介した記録や情報検索などが日常におこなわれ必要不可欠となっている。コンピュータを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学修成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版(オーム社)								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します								
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。								
オフィスアワー	授業初回にアナウンスします。 研究室前にも掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		情報処理 u a ・ u b ・ u e
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル	(学修内容) 授業概要の説明、情報処理室の使用手法、Gメールの送受信 アカウントの追加、情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章を読む 入学時に配布されたGメール、ポータルサイトの冊子を読み持参
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意、Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け、ページ設定、書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) USBメモリを購入し持参する、教科書第1章1-3、第3章3-1、3-2を読む 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をメールに添付し提出
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-3、3-4を読む 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をメールに添付し提出
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入、テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をメールに添付し提出
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む、第5回課題 (Word・表) を印刷し提出 文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6回課題 (Word・レジメ) をメールに添付し提出
第7回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明、データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-1、4-2-1を読む 第7回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をメールに添付し提出
第8回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-2を読む 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をメールに添付し提出
第9回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 棒、折線、円、複合などのグラフ、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む 第9回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出
第10回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる
第11回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をメールに添付し提出
第12回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更、スライドマスターの編集、箇条書き インデント、Tabキーの使い方、画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をメールに添付し提出
第13回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成、ノートの記入、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-7を読む 第13回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出
第14回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法 最終プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読む 発表用スライドを完成させ、メールに添付し提出
第15回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表用原稿を作成する

授業名	情報処理 u c ・ u d			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE1107
英文名	Information Processing			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	猿渡 綾子・岩佐 真代			対象学生	食物栄養1回生・2回生・3回生・4回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピュータを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピュータを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学修成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版（オーム社）								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します								
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。								
オフィスアワー	授業初回にアナウンスします。 研究室前にも掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		情報処理 u c ・ u d
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 情報セキュリティ、モラル メールの基本操作	(学修内容) 授業概要の説明、情報処理室の使用手法、Gメールの送受信 アカウントの追加、情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章を読む 入学時に配布されたGメール、ポータルサイトの冊子を読み持参
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意、Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け、ページ設定、書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) USBメモリを購入し持参する、教科書第1章1-3、第3章3-1、3-2を読む 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をメールに添付し提出
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-3、3-4を読む 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をメールに添付し提出
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入、テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をメールに添付し提出
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む、第5回課題 (Word・表) を印刷し提出 文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6回課題 (Word・レジメ) をメールに添付し提出
第7回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明、データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-1、4-2-1を読む 第7回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をメールに添付し提出
第8回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-2を読む 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をメールに添付し提出
第9回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 棒、折線、円、複合などのグラフ、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む 第9回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出
第10回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる
第11回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をメールに添付し提出
第12回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更、スライドマスターの編集、箇条書き インデント、Tabキーの使い方、画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をメールに添付し提出
第13回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成、ノートの記入、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-7を読む 第13回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出
第14回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法 最終プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読む 発表用スライドを完成させ、メールに添付し提出
第15回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表用原稿を作成する

授 業 名	和食学			開 講 学 年	3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Japanese Food			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	堀越 昌子			対 象 学 生	食物栄養3回生、4回生				
授業の概要	人は生きていくために、食物を獲得し、貯蔵・加工し、安全でおいしく食べる工夫と努力を重ね、食文化を発展させてきた。世界には気候風土によって、特色ある食文化圏が形成されている。東アジアの日本では、稲作を基盤とする伝統的な和食文化が生まれ、魚や野菜など四季ごとの豊かな食材で彩られ、健康的な食文化圏として注目されている。この和食文化を社会的背景や歴史の変遷を追って理解を深めていく。和食の優れた点を把握して、将来の食のあり方を考えていくとともに、健康的な食生活の維持、増進に役立てていくことを目指す。班を作り、フィールド調査を実施し、班で討論し、授業の中で発表する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 和食の特徴を気候風土、食材、加工法、調理法、食べ方などの面から捉えることができる。 2) 和食文化を自然風土、社会的背景、歴史的観点から考察することができる。 3) 世界の食文化を比較しながら、和食の優れた点を把握し、継承について考えることができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	奥村彪生監修 『和食の基本がわかる本』農文協 2015年								
参 考 書	『聞き書 日本の食生活全集』農文協								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、小テストで理解度を確認し、返却する。								
留 意 事 項	食生活は何をどれだけ食べるかだけでなく、食べ方、文化、歴史、交流、楽しむ要素など多角的に把握していくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：滋賀県における伝統食調査と調理実践、食育活動、またタイ、ラオスでの食生活調査経験を基に食生活研究の面白さを紹介していく。								

授業名	和食学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	和食の特徴	(学修内容)和食の特徴 (事前事後学修課題の内容)(30分) 和食を特徴を箇条書きでまとめておく。
第2回	世界の食文化と和食	(学修内容)世界の食文化と和食を比較しながら、和食の特徴を把握していく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 世界の食文化と和食を比較して、まとめておく。
第3回	気候風土と主食文化	(学修内容)気候風土や主食文化の違いによる食文化圏について、それぞれの特徴を把握する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した食文化圏マップについて、発表の準備をする。
第4回	日本の風土と和食の形成	(学修内容)日本の風土と和食の形成、アジアモンスーンの稲作文化圏としての特徴 (事前事後学修課題の内容)(30分) アジアモンスーン圏の風土の特徴を調べておく。
第5回	縄文時代の採集・漁労生活と食構成	(学修内容)縄文時代の採集・漁労生活とその食構成 (事前事後学修課題の内容)(30分) 縄文時代の食べものを下調べして、発表する準備をする。
第6回	弥生時代の稲作と「米と魚」の食の形成	(学修内容)弥生時代の稲作と「米と魚」の食の形成 (事前事後学修課題の内容)(30分) 稲作が本格的に始まった弥生時代の社会について下調べをする。
第7回	奈良時代律令国家の成立と食	(学修内容)奈良時代律令国家の成立と稲作との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 奈良時代の食料構成について発表する準備をする。
第8回	平安時代の公家文化と宮廷料理	(学修内容)平安時代の公家文化と宮廷料理、大饗料理について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 平安時代の公家文化と大饗料理の特徴を調べて発表する
第9回	鎌倉・室町時代の武家社会と本膳料理、茶の文化	(学修内容)鎌倉・室町時代の武家社会と本膳料理、茶の文化 (事前事後学修課題の内容)(30分) 武家社会の成立と本膳料理、茶文化発展について討論できる準備をする。
第10回	戦国時代と江戸時代、町民の食の発展	(学修内容)戦国時代と江戸時代、庶民の文化の芽生えと食の多様化 (事前事後学修課題の内容)(30分) 戦国時代と江戸時代、町民の食の発展について調べ、発表する。
第11回	明治・大正・昭和・平成の食	(学修内容)明治維新後の日本の発展と食生活の変容。明治・大正・昭和・平成の食 (事前事後学修課題の内容)(30分) 明治維新後の日本の発展と食生活の変容について、班で分担して調べ、まとめて発表する。
第12回	日本各地の郷土食(1) 西日本と東日本	(学修内容)日本各地の郷土食(1)西日本と東日本の共通点と違い (事前事後学修課題の内容)(30分) 郷土食(1)西日本と東日本の差を発表する準備をしておく。
第13回	日本各地の郷土食(2) 山村・農村・漁村の食	(学修内容)日本各地の郷土食(2)山村・農村・漁村の食について調べ学習の成果を発表しながら、郷土食の特徴を捉える (事前事後学修課題の内容)(30分) 出身地の食生活をフィールド調査して報告し、山村・農村・漁村の食の特徴を予習してまとめておく。
第14回	和食のスタイルと食構成	(学修内容)和食のスタイルを他の食文化圏と比較しながら、食構成の特徴を学び、栄養面から「和食の優秀性」について、議論していく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 和食のスタイルを欧米食、中華食と比較しながら、特徴をまとめておき、また栄養面から「和食の優秀性」についてもまとめ、発表する。
第15回	和食文化の継承の課題	(学修内容)和食文化の継承の課題を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 和食文化の優れた点をあげて、継承の課題をあげておく。

授業名	現代家政学論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1201
英文名	Theory of Contemporary Home Economics			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	吉田 博子			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	現代の「家族・家庭」「地域」「社会」のそれぞれをめぐる問題を見据えて、人間生活の幸福なあり方、真の豊かさに関わる学習課題・研究課題の把握をめざす。具体的には、家族・家庭・地域・社会における人間としての広範な関わりに目を向けて、過去・歴史を振り返り、<今・現在>を考える。さらに、<未来>を探求する創造力を養い、問題解決に必要な行動力・実践力につなげる。								
学修成果到達目標	1)現代日本の家族・家庭・地域・社会の現状（諸問題・諸課題）についての自らの理解を深めることができる。 2)家族・家庭・地域・社会を中心とした「人間生活の幸福なあり方」「真の豊かさ」の探求ができる。 3)「何のために学ぶのか」「自分には何ができるのか」について考えることを通して「自らのテーマ」を見つけることができる。 4)未来を切り拓くための自らの学習課題・研究課題を見つけることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『イギリスのいい子 日本のいい子～自己主張とがまんの教育学～』佐藤淑子（中公新書）								
参考書	『オイコノミクスー家政について』クセノフォン（リーベル出版） 『人間発達と生涯学習の課題』小口忠彦編（明治図書）								
課題に対するフィードバックの方法	理解度の確認の後、解説を行う								
留意事項	テキスト・配付資料をしっかりと読み込むこと。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	現代家政学論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 現代家政学とは、家政学とは、ホームエコノミクスとは	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	ホームエコノミクスの歩み：アメリカにおける家政学の歩み	(学修内容) 「ホームエコノミクス」の歩みを学び、その意義 (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(「ホームエコノミクスの歩み」)に取り組む
第3回	ホームエコノミクスの歩み：アメリカから日本へ	(学修内容) 「家政学」「ホームエコノミクス」の歩み、その意義 (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(「ホームエコノミクスの歩み」)に取り組む
第4回	ホームエコノミクスの歩み：日本における家政学の歩み	(学修内容) 日本における「家政学」「ホームエコノミクス」の歩み、その意義 (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(「ホームエコノミクスの歩み」)に取り組む
第5回	ホームエコノミクスの歩み：ホームエコノミクスと現代家政学	(学修内容) ホームエコノミクスと現代家政学、その意義 (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(「ホームエコノミクスの歩み」)に取り組む
第6回	「世界の中の日本」について：日本の家族・家庭・親子	(学修内容) 日本の家族・家庭・親子について (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく テキスト(まえがき・第1章・第2章)を読んでおく
第7回	「世界の中の日本」について：日本・イギリス・アメリカの家族・親子	(学修内容) 日本・イギリス・アメリカの家族・親子について (事前事後学修課題の内容) (40分) テキストを読んで前回のまとめをしておく テキスト(第3・4章)を読んでおく
第8回	「世界の中の日本」について：自己主張・自己抑制・自己評価・自己肯定感	(学修内容) 自己主張・自己抑制・自己評価・自己肯定感について (事前事後学修課題の内容) (40分) テキストを読んで前回のまとめをしておく テキスト(第5・6章)を読んでおく
第9回	「学ぶ」ということ：何のために学ぶのか	(学修内容) 「学ぶということ」について考える (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(「“学ぶ”ということ」)に取り組む
第10回	「学ぶ」ということ：意見交換	(学修内容) 「何のために」学ぶのかについての事例検討・意見交換 (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(「“学ぶ”ということ」)に取り組む
第11回	「働く」ということ：何のために働くのか	(学修内容) 「働くということ」について事例検討・意見交換 (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(「“働く”ということ」)に取り組む
第12回	「生きる」ということ：何のために生きるのか	(学修内容) 「生きるということ」について事例検討・意見交換 (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(「“生きる”ということ」)に取り組む
第13回	「愛する」ということ：愛するとは、愛されるとは	(学修内容) 「愛するということ」について事例検討・意見交換 (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(「“愛する”ということ」)に取り組む
第14回	「人間生活の幸福なあり方」「真に豊かなあり方」の探求	(学修内容) 「人間生活の幸福なあり方」「真に豊かなあり方」を探求する (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(「人間生活の幸福・豊かさ」)に取り組む
第15回	授業のまとめ	(学修内容) 「人間生活の幸福なあり方」「真に豊かなあり方」についての意見交換 (事前事後学修課題の内容) (40分) 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題(学んだこと・自ら考えたことのまとめ)に取り組む

授業名	現代家政学論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1204
英文名	Theory of Contemporary Home Economics			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	流石 智子			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>現代の家庭生活実態について考える。私たちの生活は、多くの人たちに支えられ、またいろいろな生活環境で生活する人がいる。本授業では、日本においてはどのような家庭があり、地域社会での家庭はどのような状況なのか。これらについて考えたい。</p> <p>家庭生活の変遷と現代の家庭、家族、地域、社会についてグループ討議などを通して互いの考えを理解し、討論しながら「現代社会」について理解を深めたい。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 日本の現代社会を理解できる。</p> <p>2) 日本の社会、地域、家庭、家族の現状を理解できる。そこでの問題を明らかにできる。</p> <p>3) 問題の発見から、どのようにしていくと人間が生活しやすくなるか、幸せに日々を過ごせるかについて考察できる。特に子どもたちが幸せになるための生活保障について考えることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	使用しない。プリントを配布するなど必要なときに、資料の提供をする。映像資料を参考にすることがある。								
参考書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題のレポートを授業時に提出する。その後、返却時に解説をする。								
留意事項	グループでの討議、意見の発表も行う。資料を読み込み、自分の考えをしっかりと記述できるようにしてください。また、授業に関連した課題を出し、レポートの提出をする。								
オフィスアワー	研究室前に掲示、学生演習室に掲示。研究室に在室している時は、時間があれば対応。								
実践的教育									

授業名	現代家政学論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 現代社会とは何か	(学修内容) 本科目の進め方、現代社会について (事前事後学修課題の内容) (20分) 本授業を理解するために、シラバスを読んで、学びの目標を理解する。
第2回	家庭・家族の理解	(学修内容) 現代の家庭はどのような家庭なのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、「家庭が記事になっている資料を持参(新聞でも良い)」気になることをまとめる(レポート提出 : 800字程度)
第3回	家庭、家族の生活	(学修内容) 家庭生活の実態: 家族の人数、家事の現状、共働きなど。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、現代の家庭の抱えている問題を、レポート (800字程度) にまとめて提出。(子どもの問題、食事の問題、介護の問題など)
第4回	家庭をもつことは、結婚すること。	(学修内容) 結婚について考え、現代の結婚観について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、あなたは結婚についてどのようなイメージをもっていますか。レポート で提出。する、しない、子どもを育てたいなど。
第5回	子どもを育てること	(学修内容) 家庭は子どもを育てるために、どのような役割をしているか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、子どもは家庭で育つか。調べてみる。
第6回	食べることと家庭生活	(学修内容) 朝ごはんについて考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、子どもは、何を食べているのか。食べられない理由。子どもにとっての食事とはを考える。レポート課題
第7回	子どもを育てるのは、親。	(学修内容) 親のいない子どもは、親が育てられない子どもは、どう育つか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、親以外の子育てについて調べる。
第8回	ひとり親家庭、ふたり親家庭	(学修内容) モデル家族、ひとり親家庭などについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、現代、どのような家庭があるのか。レポート課題
第9回	貧困家庭の理解	(学修内容) 子どもが育つ家庭の貧困について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、貧困について調べる。貧困とはどのようなことか。レポート課題
第10回	子ども食堂・子どもの居場所	(学修内容) 日本の子ども食堂について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、あなたは、子ども食堂にいったことはあるか。それが、どのような役割をしているか調べる。レポート課題
第11回	地域で生活する子どもを守るには	(学修内容) どのようにすれば、地域で生活する子どもの生活を守れるのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、地域で生活する子どもの不安とは、どのようなことがあるか調べる。SOSを発信している子どもがいるかも。
第12回	児童養護施設、母子生活支援施設、(乳児院)等で生活する子どもたち	(学修内容) 大人の都合で、子どもの生活実態は変わる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設で生活する子どもと地域で生活する子どもの実態を知る
第13回	現代の少子社会について	(学修内容) 女性が家庭で子育てをすれば、少子社会は解消するか (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、女性が家庭で子育てをすれば、少子化は解消するか。レポート課題
第14回	社会・地域・家庭をテーマに、それぞれにプレゼンテーションしてもらおう。(1)	(学修内容) 発表を中心にする。(1) 授業の状況で変更あり。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、今までの授業でまとめた学びを、発表するので、自分の考えをしっかりと持ち、発表できるように準備する。
第15回	社会・地域・家庭をテーマに、それぞれにプレゼンテーションしてもらおう。(2)	(学修内容) 発表を中心にする。(2) 授業の状況で変更あり。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、今までの授業でまとめた学びを、発表するので、自分の考えをしっかりと持ち、発表できるように準備する。

授 業 名	生活構造論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Theory of Living Structure			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>生活の基礎単位は世帯（家族・家庭）にあるが、この世帯の現状と変化をまず検討したい。そして生活の場である地域の現状と変化を検討しながら生活の実情を考えていきたい。さらに生活は身近な地域を超えた社会の仕組みとの関係によって成り立っているといえ、この社会の仕組みの現状と変化から生活を考えていきたい。以上は生活の広がりという視点で述べたが、一方、今日の生活の中身は、 暮らしの基盤である労働、 日常的な交流と連帯、 生活の社会化によって規定されているといえる。講義形式の授業によって、これらのことについて実態調査等をもとに構造的な分析・把握をしていきたい。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 生活に対して、健康問題、世帯の変化、地域の変化等を押さえながら認識できる。 2) 人間らしい生活（暮らし）には、暮らしの基盤である仕事、日常的な協力・共同といったヨコのつながりが欠かせないことを認識できる。 3) 人間らしい生活（暮らし）には、社会政策・公共一般施策・社会福祉といった生活の社会化の発展・拡充が欠かせないことを認識できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (論理的な展開力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』、高菅出版。								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	テストの採点結果を返却し、その時に模範解答等を解説します。								
留 意 事 項	暮らしについて家族と一緒に考える機会を設けて下さい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。								
実践的教育									

授 業 名		生活構造論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	生活とは？ - いのちとくらしは一体 -	(学修内容) 生活をとらえる視点について (事前事後学修課題の内容) (30分) 自らの生活を振り返る。	
第2回	くらしの実態把握 - 視点と枠組み -	(学修内容) 生活問題の視点と枠組み (事前事後学修課題の内容) (30分) くらし・地域について考察する。	
第3回	くらしの実態把握 - くらしの中身 -	(学修内容) くらしの中身について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしの中身について考察する。	
第4回	くらしの実態把握 - 健康状態 -	(学修内容) くらしと健康状態について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしと健康について考察する。	
第5回	くらしの実態把握 - くらしの単位 -	(学修内容) くらしの単位について (事前事後学修課題の内容) (30分) 家族・家庭について考察する。	
第6回	くらしの実態把握 - 世帯構成の変化 -	(学修内容) 世帯構成の変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) わが家の歴史を振り返る。	
第7回	くらしの実態把握 - くらしの場 -	(学修内容) くらしの場について (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域とくらしの関係性を考察する。	
第8回	くらしの実態把握 - 地域の変化 -	(学修内容) 地域の変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域の変化を考える。	
第9回	くらしの実態把握 - くらしの基盤・しごと -	(学修内容) くらしの基盤について (事前事後学修課題の内容) (30分) しごととくらしの関係性を考察する。	
第10回	くらしの実態把握 - ヨコのつながり -	(学修内容) ヨコのつながりについて (事前事後学修課題の内容) (30分) ヨコのつながりとくらしについて考察する。	
第11回	くらしの実態把握 - 日常的協力・共同 -	(学修内容) 日常的な協力・共同について (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な協力・共同とくらしについて考察する。	
第12回	くらしの実態把握 - 生活の社会化 -	(学修内容) 生活の社会化について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしを支える制度について考察する。	
第13回	くらしの実態把握 - 社会政策とくらし -	(学修内容) 生活の社会化・社会政策について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしを支える制度・社会政策について考察する。	
第14回	くらしの実態把握 - 公共一般施策とくらし -	(学修内容) 生活の社会化・公共一般施策について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしを支える制度・公共一般施策について考察する。	
第15回	くらしの実態把握 - 社会福祉とくらし -	(学修内容) 生活の社会化・社会福祉について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしを支える制度・社会福祉について考察する。	

授 業 名	ライフデザイン論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Theory of Life Design			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	現在、少子高齢化やグローバル化した経済の変化といった社会変動が生じている。それに伴い、家族や個人の生活も変化しつつある。これまで一般的とされてきたライフコースも多様化し、個人の中での家族・職業の位置づけ方も再編成していかなければならない。本講義では、「ワーク・ライフ・バランス」、「ジェンダー」などの視点を含めながら、新しい社会に向けたライフデザインを考えていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代の女性と男性のさまざまなライフコースの実態を知ることができる。 2) 自分自身のライフデザインを描くことができるようになる。 3) 社会的な課題を理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	適宜資料を配布する。								
参 考 書	『ライフストーリー分析—質的調査入門』大久保孝治(学文社)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、『育児は仕事の役に立つ』浜屋祐子ほか編(光文社新書)、『働く女子のキャリア格差』国保祥子(ちくま新書)								
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーに対して、コメントする プレゼンテーションに対して、コメントする								
留 意 事 項	講義だけでなく半期間で大きな課題(インタビュー調査)に挑戦するので、積極的な取り組みが必要である								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 嘱託研究員								

授 業 名		ライフデザイン論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業全体の内容を把握しておく
第2回	社会変動と人生：ライフコースの変化	(学修内容) ライフコースとは何かを学び、その変動を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第3回	社会変動と人生：高度経済成長期の人生	(学修内容) ライフコースと社会変動の関連性についてビデオを用いながら学び、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第4回	インタビュー調査について	(学修内容) インタビュー調査の目的について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第5回	インタビュー調査の方法	(学修内容) インタビューの方法について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを呼んでおく
第6回	親子関係と自立	(学修内容) 現代の親子関係について統計資料などを用いながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 身近な親子関係について観察しておく
第7回	女性と就労：事例からみる実態	(学修内容) 日本女性の就労の実態について、ビデオを用いながら理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 身近な女性の就労状況を調べておく
第8回	働くことの意味	(学修内容) 働くことの意味を様々な角度から考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が考える働く意味をまとめておく
第9回	女性の就労状況と課題	(学修内容) 日本女性の就労の実態について統計資料から理解し、課題を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第10回	インタビュー調査のケース報告書作成	(学修内容) インタビューデータの整理をする (事前事後学修課題の内容) (180分) データの文字お越しをしておく
第11回	ケーススタディ1：グループワーク	(学修内容) グループワークを行うことにより、多くのインタビュー調査の結果を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備をしておく
第12回	ケーススタディ2：さまざまな就労の実態	(学修内容) グループワークで学んだことを生かしながら、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) グループワークのまとめをし、発表者は発表の準備をしておく
第13回	ライフデザインと政策：ライフコースと政策	(学修内容) 仕事と家庭生活を支える政策について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 女性の就労に関する政策について調べておく
第14回	ライフデザインと政策：外国の政策とライフコース	(学修内容) 外国のケースを例に考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りをする (事前事後学修課題の内容) (30分) 半期間のまとめをしておく

授業名	現代家政学演習 s a			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	社会学の入門書を輪読することにより、読む力とまとめる力を付ける。また、地域のさまざまな取り組みから1つを選び、調べてまとめたものをパワーポイントで発表する。毎回の発表と討論を通じて、視野を広げ、考える力をつける。個人研究のテーマを考えながら、地域が抱えている現代的課題について学ぶ。発表担当者は発表資料を必ず事前に提出する。								
学修成果到達目標	1) 学術的な入門書を読み解き、まとめることができる。 2) 社会的な視点から現代的課題を説明することができる。 3) 適切な方法を用いた調査研究計画を立案することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	篠原清夫・栗田真樹 編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房 2016年								
参考書	寛裕介 監修、issue + design project 著『地域を変えるデザイン』英治出版 2011年								
課題に対するフィードバックの方法	授業内でコメントする								
留意事項	課題には真摯に取り組んでください。夏休み中に個人研究を進めてもらいます。								
オフィスアワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授 業 名		現代家政学演習 s a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション、自己紹介、担当者決め	(学修内容)オリエンテーション、輪読の担当者決め (事前事後学修課題の内容)(15分) シラバスとテキストの「はじめに」を読んでおく	
第2回	・社会学とは何か ・社会を観察する方法	(学修内容)第1章・第2章、輪読の発表資料の作り方 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第1章・第2章を読んでおく	
第3回	・社会で生きる「私」 ・変容する家族のかたち	(学修内容)第3章・第4章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第3章・第4章を読んでおく	
第4回	・性の多様なあり方を考える ・「現実を生きる」ための社会学	(学修内容)第5章・第6章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章・第6章を読んでおく	
第5回	・日本で進展する環境・災害社会学 ・社会学から医療を見つめる	(学修内容)第7章・第8章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第7章・第8章を読んでおく	
第6回	・社会学は教育とどう向き合うのか ・逸脱行動と社会問題	(学修内容)第9章・第10章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第9章・第10章を読んでおく	
第7回	・「格差」の社会学 ・生活空間としての地域社会	(学修内容)第11章・第12章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第11章・第12章を読んでおく	
第8回	・グローバル社会とエスニシティ ・宗教から社会を捉える	(学修内容)第13章・第14章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第13章・第14章を読んでおく	
第9回	・個人研究のテーマ選定と研究方法 ・地域の取り組みの事例研究	(学修内容)課題設定と研究方法、事例研究の例 (事前事後学修課題の内容)(30分) 個人研究のテーマを考える	
第10回	地域の取り組み 1	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく	
第11回	地域の取り組み 2	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく	
第12回	地域の取り組み 3	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく	
第13回	地域の取り組み 4	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく	
第14回	論文検索	(学修内容)参考文献(論文)の見つけ方 (事前事後学修課題の内容)(30分) 個人研究のテーマを再検討する	
第15回	研究テーマと調査方法	(学修内容)個人研究のテーマ・方法 (事前事後学修課題の内容)(60分) 研究テーマと調査方法を具体的に考えてくる	

授業名	現代家政学演習 SC			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	藤井 伸生			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>松田道雄著『私は女性にしか期待しない』（岩波新書）を使って、その内容について順番に発表してもらい討論し、女性・家族・社会のあり方を見つめていきたいと思います。女性がおかれていた過去のことも知り、これからの女性のあり方、女性をめぐる社会のあり方について、話し合いたいと思います。家族などからも情報を得て、実りある話し合いをしていきたいと思っています。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 書かれていることの内容を正確に把握することができる。 2) 自分の意見をまとめ人に伝えることができる。 3) 話し合いに積極的に参加することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	松田道雄著『私は女性にしか期待しない』岩波新書								
参考書	授業時に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	発表に関して、その都度アドバイスする。								
留意事項	積極的に取り組むことが重要。多くの発言を期待しています。								
オフィスアワー	設定はしますが、研究室に在室していれば対応します。								
実践的教育									

授 業 名		現代家政学演習 S C	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスに目を通し、準備する。	
第2回	発表・ディスカッション 嫁のつとめ他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第3回	発表・ディスカッション 個人他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第4回	発表・ディスカッション ヨメ・シュウトメ他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第5回	発表・ディスカッション ブライバシー他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第6回	発表・ディスカッション 企業としきたり他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第7回	発表・ディスカッション 結婚式幻想他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第8回	発表・ディスカッション シングル他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第9回	発表・ディスカッション 病院企業他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第10回	発表・ディスカッション テレビ学校他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第11回	発表・ディスカッション マザコン他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第12回	発表・ディスカッション 新人類他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第13回	発表・ディスカッション タバコテスト他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第14回	発表・ディスカッション 女の三重苦他	(学修内容) 指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指定された箇所を読み、論点を整理しておく。	
第15回	春学期のまとめ	(学修内容) 春学期を振り返り、今後の課題検討を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートの準備を行い、わからない点について明らかにしておく。	

授業名	現代家政学演習 s b			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学では、女性の生活設計関わる課題や衣食住に関する問題について探究することが重要である。本演習では、テーマを設定しグループワークをすることにより多様な視点、考え方が学べることを学ぶ。また、グループの意見をまとめてプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。さらに、グループワークのまとめをふまえて各自で課題を設定し、文献を読み自分の意見をまとめてレポートを作成する。								
学修成果到達目標	1. 現代家政学で取り組む課題を認識することができる。 2. 課題に対して人の意見を聞き、議論することができる。 3. 課題に対して自分の考えをまとめて説明することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	使用しない。								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項	積極的に取り組むことが重要。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。 ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授 業 名		現代家政学演習 s b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方の説明とグループ分け (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読み、課題について考える
第2回	生活を取り巻く課題について考える	(学修内容) 生活に関する課題について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 現代生活における課題について考えてくる
第3回	課題に対する資料収集	(学修内容) 課題に関する資料を集めて読む (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考えてくる
第4回	中間発表	(学修内容) 課題に対する資料について中間発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第5回	課題に対する議論しグループの意見を集約する	(学修内容) 課題に対してグループワークを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでくる
第6回	発表準備	(学修内容) プレゼンテーション資料を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料をまとめておく
第7回	グループ発表とディスカッション - A・Bグループ	(学修内容) グループワークの成果をプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の意見をまとめてくる
第8回	グループ発表とディスカッション - C・Dグループ	(学修内容) グループワークの成果をプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の意見をまとめてくる
第9回	課題に対する考察を深める	(学修内容) グループワークを踏まえて各自の課題を設定する (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考えてくる
第10回	課題に対する文献資料を収集する	(学修内容) 課題に関する文献を検索し集める (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考えてくる
第11回	文献の解説	(学修内容) 文献を読み内容をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 文献を読んでくる
第12回	発表準備	(学修内容) 文献の内容と自分の意見をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 考えをまとめてくる
第13回	個人発表・1回目	(学修内容) 課題に対する文献の内容と自分の意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料を作成する
第14回	個人発表・2回目	(学修内容) 課題に対する文献の内容と自分の意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料を作成する
第15回	総括	(学修内容) 総括 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの内容を振り返る

授 業 名	現代家政学演習 t a ~ t c			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	豊原 容子・富安 広幸・平 正人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	現代家政学演習 では、1回生で学んできた管理栄養士関連科目に関連させながら、現代日本における健康問題や管理栄養士の職場での役割などについてプレゼンテーションやディスカッション、グループワークなどを行いながら考えていく。さらに現代家政学部で学ぶ学生として、生活者としての視野を広げ、社会の食にかかわるものとして寄与していく力を培っていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 適切なプレゼンテーション方法を選択することができわかりやすく説明することができる。 2) 要点を把握して聞き取ることができる。 3) プレゼンテーション・コミュニケーションの力を高め、人とのかかわりの場面で活かすことができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	西川真理子著『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』 化学同人2016								
参 考 書	適宜参考書を紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	返却時に、解説し、問題点などについて討議する。								
留 意 事 項	積極的に発言・発表するようこころがけてほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付する。それ以外でも対応は可能なので、メール等でアポをとってください。								
実践的教育									

授業名	現代家政学演習 ta ~ tc	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 現代家政学演習 の進め方の確認 (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを読んでおく
第2回	プレゼンの方法について	(学修内容) パワーポイント、レジメなどプレゼンの方法について (事前事後学修課題の内容) (60分) 1回生で行ったプレゼンの方法を振り返っておく
第3回	個人別プレゼンテーション1 - 1 一回生の学びの振り返り プレゼン準備	(学修内容) 個人別プレゼンテーション (パワーポイント使用) (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備
第4回	個人別プレゼンテーション1 - 2 一回生の学びの振り返り 発表	(学修内容) 個人別プレゼンテーション (パワーポイント使用) (事前事後学修課題の内容) (60分) わかりやすい発表について考えておく 聞いた内容の要点をまとめて書く
第5回	個人別プレゼンテーション1 - 3 一回生の学びの振り返り 発表	(学修内容) 個人別プレゼンテーション (パワーポイント使用) (事前事後学修課題の内容) (60分) わかりやすい発表について考えておく 聞いた内容の要点をまとめて書く
第6回	文献・資料検索法について	(学修内容) 文献・資料の検索について (事前事後学修課題の内容) (60分) 調べたい事柄についてどのように情報を収集することができるかについて考えておく
第7回	グループでのプレゼンテーション準備 1 - 1 方法の検討	(学修内容) 発表内容にあったプレゼンの方法について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンの方法、内容の準備
第8回	グループでのプレゼンテーション準備 1 - 2 文献・資料の検索および発表資料の準備	(学修内容) 発表内容を理解してもらうための工夫について (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ発表の準備
第9回	グループでのプレゼンテーション1 - 1	(学修内容) グループプレゼンテーションを行い、聞いた人の意見聴取 (事前事後学修課題の内容) (60分) 聞く人にわかりやすくするための工夫についてまとめておく 聞いた人の意見を反映させたプレゼン資料を作り直し提出する
第10回	グループでのプレゼンテーション1 - 2	(学修内容) グループプレゼンテーションを行い、聞いた人の意見聴取 (事前事後学修課題の内容) (60分) 聞く人にわかりやすくするための工夫についてまとめておく 聞いた人の意見を反映させたプレゼン資料を作りなおし提出する
第11回	グループでのプレゼンテーション1 - 3	(学修内容) グループプレゼンテーションを行い、聞いた人の意見聴取 (事前事後学修課題の内容) (60分) 聞く人にわかりやすくするための工夫についてまとめておく 聞いた人の意見を反映させたプレゼン資料を作りなおし提出する
第12回	食に関する問題 1 - 1 情報の収集	(学修内容) 様々な情報資源から興味のある食に関する問題に関する資料をみつける (事前事後学修課題の内容) (60分) 情報源について考えておく
第13回	食に関する問題 1 - 2 社会的背景	(学修内容) 問題の社会的背景について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味ある食の問題についての社会的な背景について考えておく
第14回	食に関する問題 1 - 3 発表	(学修内容) 各自の取り上げた問題について口頭発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 言葉でわかりやすく決められた時間内で説明するためにどのようにしたらよいか考えておく
第15回	食に関する問題 1 - 4 発表およびまとめ	(学修内容) 各自の取り上げた問題について口頭発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 言葉でわかりやすく決められた時間内で説明するためにどのようにしたらよいか考えておく、さらにまとめのレポート作成

授 業 名	現代家政学演習 s a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学演習 をふまえて、学生が自身の興味関心に基づいてより個別的・具体的なテーマを定め、深く調査研究をすすめる。自身の調査テーマが、現代日本社会においてどのように位置づけられるのかについて文献などから学び、個人研究を相対化するための視座をもつ。春学期と同様に、地域の取り組みを題材にした調べ学習も行う。地域社会・コミュニティを素材にして現場取材と発表と討論を重ね、調査研究の基礎を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 調査研究の手法や論文へのまとめ方について、基本的なことを身につけることができる。 2) 自身や他の学生たちの発表を通して調査研究の実際について実践的に学ぶことができる。 3) 参考文献や現場取材などを通して視野を広げることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内でコメントする。								
留 意 事 項	学生の発表そのものが全員の学びのための教材になります。しっかりした準備と活発な発言を心がけてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		現代家政学演習 s a
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	夏休みの成果報告	(学修内容)夏休み中に行った取材や読んだ論文、テーマの再検討などについて報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 報告準備
第2回	発表資料の作り方	(学修内容)発表資料の作り方について (事前事後学修課題の内容)(30分) 個人研究の概要を話す用意をしておく
第3回	文献発表 1	(学修内容)読んだ論文の内容をプレゼンする (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)
第4回	文献発表 2	(学修内容)読んだ論文の内容をプレゼンする (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)
第5回	文献発表 3	(学修内容)読んだ論文の内容をプレゼンする (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)
第6回	パソコンでの資料作成	(学修内容)地図やExcelの図表を発表資料に用いる (事前事後学修課題の内容)(60分) 個人研究のデータを整理して持ってくる
第7回	調査研究発表 1 - 1	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)
第8回	調査研究発表 1 - 2	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)
第9回	調査研究発表 1 - 3	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)
第10回	調査研究発表 2 - 1	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)
第11回	調査研究発表 2 - 2	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)
第12回	調査研究発表 2 - 3	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)
第13回	調査研究発表 3 - 1	(学修内容)学生の調査研究発表 3 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)
第14回	調査研究発表 3 - 2	(学修内容)学生の調査研究発表 3 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)
第15回	調査研究発表 3 - 3	(学修内容)学生の調査研究発表 3 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)

授 業 名	現代家政学演習 S C			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	各自の問題意識（テーマは現代家政学に関すること）に基づき、レジメを作成し発表をしてもらい、討論します。家族・家庭の実態を踏まえ、家庭の力・子育て力を強めていくには何が必要かについて、労働者保護制度や保育制度等の社会的な仕組みのあり方を含めて一緒に考えていきましょう。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な調査研究の手法が身についている。 2) 聞く人を意識したわかりやすい発表ができる。 3) 発表を聞き要点を把握し疑問点を明らかにすることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表について、その都度アドバイスする。								
留 意 事 項	積極的な取り組みが重要。ネット情報に依存しすぎないようにして下さい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応します。								
実践的教育									

授 業 名		現代家政学演習 S C
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 秋学期の進め方について (事前事後学修課題の内容) (15分) 春学期のレポートを読み直しておく。
第2回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第3回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第4回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第5回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第6回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第7回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第8回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第9回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第10回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第11回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第12回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第13回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第14回	個人発表・ディスカッション	(学修内容) 各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容の準備をする。
第15回	秋学期のまとめ	(学修内容) これまでの学習の振り返りと卒論ゼミにむけた検討 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートの準備と振り返り。

授業名	現代家政学演習 s b			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学演習 での考察をふまえて、各自が秋学期に取り組む課題を設定する。課題に関する文献資料やデータを収集し、考えをまとめてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションとディスカッションを行うことにより多角的な視点を得、さらに考えを深めてレポートにまとめる。一つの課題に主体的に取り組むことにより、問題意識を深め、卒論での研究テーマの設定につなげる。								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に関する文献を検索し、読んで理解することができる。 2. 自分の意見をまとめてプレゼンテーションすることができる。 3. 課題について考えを深め、レポートにまとめることができる。 								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	使用しない。								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項	積極的に研究に取り組むことが重要。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。 ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授 業 名		現代家政学演習 s b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、課題について考えておく
第2回	課題設定	(学修内容) 課題を決め、文献を検索する (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考えてくる
第3回	各自が設定した課題について発表する	(学修内容) 探究したい課題について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について説明する資料を準備する
第4回	課題に対する文献を読む	(学修内容) 文献を読み、自分の考えをまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 先行研究のリストを作成する
第5回	発表資料を作成する	(学修内容) プレゼンテーション資料を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表の資料をまとめておく
第6回	発表1	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表の資料を完成させる
第7回	発表2	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表の資料を完成させる
第8回	発表3	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表の資料を完成させる
第9回	発表4	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表の資料を完成させる
第10回	課題に関する論文を検索する	(学修内容) 論文を検索し読む (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考えてくる
第11回	論文を読む	(学修内容) 論文を読み内容を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 論文を読み始める
第12回	論文内容をまとめる	(学修内容) 論文内容を理解し考察をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 論文を読んでくる
第13回	論文内容と考察の発表1	(学修内容) 発表とディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表準備を行う
第14回	論文内容と考察の発表2	(学修内容) 発表とディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表準備を行う
第15回	総括	(学修内容) 意見交換と総括 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容を振り返る

授業名	現代家政学演習 t a ~ t c			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	豊原 容子・富安 広幸・平 正人			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	春学期での学びを踏まえて、個人で研究発表を行う。各自で興味関心のあるテーマを決め、先行研究を収集し、レジュメを作り、プレゼンテーションを行う。先行研究を学ぶことにより、研究方法、分析、考察などの論文の構成やまとめ方について学ぶことを目指す。								
学修成果到達目標	1) テーマに適した論文の収集ができる。 2) プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高め、人を納得させる話ができる。 3) 論文の構成について理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	西川真理子 著 「栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック」化学同人2016								
参考書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物はコメントを付けて返却する。								
留意事項	積極的に個人研究や食育活動に取り組む。								
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。								
実践的教育									

授業名	現代家政学演習 ta ~ tc	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 現代家政学演習 の進め方の確認 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	個人プレゼンテーション1 - 1	(学修内容) 春学期の振り返りの個人別プレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備 プレゼンに対するコメントへの対応策を考える
第3回	個人プレゼンテーション1 - 2	(学修内容) 春学期の振り返りの個人別プレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備 プレゼンに対するコメントへの対応策を考える
第4回	個人プレゼンテーション1 - 3	(学修内容) 春学期の振り返りの個人別プレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備 プレゼンに対するコメントへの対応策を考える
第5回	現代社会における食の問題1 現場の管理栄養士の視点から	(学修内容) 現代社会に存在する食の問題について多角的にとらえる (事前事後学修課題の内容) (60分) 聞いた話をメモし内容を整理してレポートにする
第6回	現代社会における食の問題2 生活者の視点から	(学修内容) 現代社会に存在する食の問題について多角的にとらえる (事前事後学修課題の内容) (60分) 視点を変えてみたときの問題点の違いについてまとめておく
第7回	研究テーマの決め方	(学修内容) 研究テーマを決めるの方法について (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.48~53を読んでおく 研究テーマについて考えておく
第8回	研究資料収集について	(学修内容) 研究テーマに関連する資料収集の手法について (事前事後学修課題の内容) (60分) 決定したテーマについての資料を検索してみる
第9回	個人研究の発表テーマの決定	(学修内容) 研究テーマを決定し選択理由の発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が選んだ理由について簡潔にまとめておく 他の人のテーマや選択した理由など他の人の視点について考えて見る
第10回	個人研究のテーマに関する先行研究の収集	(学修内容) 先行研究の収集および閲覧について (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表資料を収集し読んでいく
第11回	個人研究の発表準備	(学修内容) 発表資料を作る (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の方法を考え資料準備をする
第12回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換1 - 1	(学修内容) 個人研究の発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備 ほかの人の話の要点をまとめてみる
第13回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換1 - 2	(学修内容) 個人研究の発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備 ほかの人の話の要点をまとめてみる
第14回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換1 - 3	(学修内容) 個人研究の発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備 ほかの人の話の要点をまとめてみる
第15回	秋学期到達度確認・次年度の取り組みについて	(学修内容) 秋学期の振り返りと次年度の取り組み (事前事後学修課題の内容) (60分) 次年度に向けての課題を考えておく

授業名	キャリア教育			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Career Design Including Internship			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にある。同時に、企業組織と従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」ではなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくことが必要になっている。</p> <p>自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性・自律性をもったキャリア開発を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識するため、講義と共にグループワークやプレゼンテーションを行う。授業を通した学びを基盤として今後の大学生活、インターンシップ、実習、就職活動をより主体的に臨む態度を伸ばす。</p> <p>また、今社会で求められる人材として、コミュニケーション能力や仲間との協力や他者との協調性が求められる。そのため、グループワークやプレゼンテーションを授業に導入する。1時間かけて行うグループワークも設定しているが、毎回、数分間、隣や前後で意見交換したり簡単なワークを行ったりする時間も設ける。</p>								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自らの将来を切り拓くため、働く意味、キャリアやキャリア・デザインの重要性を説明することができる。 2) 自分の大学生生活の送り方について明確な意識と進路実現に向けた具体的な行動計画を立てることができる。 3) 進路実現のためインターンシップや実習や就職活動に取り組み意義と心構えを表現することができる。 4) 課題解決に向けて自主的に、また、仲間と積極的にコミュニケーションを取り協力して臨むことができる。 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テキスト	noa出版 『書き込み式 キャンパスライフデザインBook 社会で活躍できる「なりたい自分」への道のり』 noa出版 2013年								
参考書	授業時に随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出を求める課題に対して、授業中での講評、あるいは、適宜、コメントを付けて返却することで学修成果へのフィードバックを行います。 グループでのプレゼンテーションの際は事前に評価指標を公表します。その指標に沿って、発表後に各グループへコメントを返します。								
留意事項	書き込み式のテキストを採用します。授業中に書き込むワークを行い提出を求めます。各自一冊必ずテキストは購入してください。対人関係に関する基本的な力を習得をめざしているため、授業中にグループワークをおこなう。いつも一緒にいるメンバーとグループワークを行ってばかりでは、上記の力はのばせないため、多くの受講生と対話できるワークを実施するので積極的に関わりを持ってください(対人関係など配慮事項のある受講生は早めに相談してください)。毎回ふりかえりシートや清書へのプリントを配布する。授業担当の指示をよく聞き適切に提出しましょう。								
オフィスアワー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実践的教育									

授業名	キャリア教育	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	・ガイダンス ・「キャリア」の意味	(学修内容) 授業の目的・ゴールを説明できる キャリアの定義を説明できる(テキストpp.2-5) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: シラバスを読み、授業の概要を把握する 事後: 次週までに「働く意味」「働く理由」を周りの有職者や退職者に聴き取る
第2回	・いまの「自分」 ・自分の「強み」発見	(学修内容) 今までの自分を振り返りその結果を記述することができる 自分の「強み」を相手に説明できる(テキストpp.7-14) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 各学校段階で印象に残っている思い出をテキストp.6に書き出す 事後: 配布資料「自分の強みを証明しよう」を清書、次回提出する
第3回	・自己PR文の作成	(学修内容) 前回授業の学修成果を踏まえ、就職活動を意識した自己PR文を作成することができる(テキストpp.15-19) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 清書した配布資料「自分の強みを証明しよう」を家族、先輩等に見せてコメントを得る 事後: 配布資料「自己PR文」を清書し次回提出
第4回	・なりたい「自分」 ・これから目指す自分像を発見する	(学修内容) 自分の憧れの存在から自分が求める理想の自分像を説明できる(テキストpp.20-28) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: テキストp.20を参考に、憧れの存在を3名挙げし、理由を考える 事後: 今後大切にしたい価値観をコメントカードにまとめ次回に提出
第5回	・社会の流れとキャリア ・商品やサービスが消費者に届くまでの仕組み	(学修内容) 商品・サービスの製造・流通・販売の例から「業界」「企業」「職種」について説明できる(テキストpp.29-34) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 今まで憧れた仕事を思い出し書き出してくる 事後: テキストp.34を完成させる
第6回	・業界研究入門 ・業界研究する上の基礎基本	(学修内容) 業界研究をインターネット等を活用して行い、現時点で自らが目指す業界を2つ選び出すことができる(テキストpp.35-37) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 業界研究する上で有益な資料を探す 事後: 配布資料「自分の目指す業界」を清書し次回提出
第7回	・社会で求められる資質・能力 ・社会で求められる「人財」像	(学修内容) 社会や企業で求められる資質・能力について説明できる(テキストp.38-44) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 自分が目指す業界から一社抽出し、企業が掲げる「人財」像を書き出す 事後: テキストp.44を完成させる
第8回	・大学での学び ・大学での自身の学びを振り返る	(学修内容) テキストの質問に書き出す過程で、大学生活を振り返り、進路を実現していくための大学での学修環境を整える(テキストp.45-50) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 高校での学び(生活)と大学での学び(生活)との違いを考えてくる 事後: テキストp.50を完成させる
第9回	・これからの大学生活 ・今後の大学生活をイメージする	(学修内容) 「大学生すごろく」を自ら作る過程で今後の進路を検討する(テキストpp.51-54) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 卒業までに考えられるイベントを考えてくる 事後: テキストp.54を完成させる
第10回	・大学を活用して「なりたい自分」へ ・大学生活を通じた目標設定	(学修内容) 「なりたい」自分を目指し、大学での学びの目標を書き出すことができる(テキストpp.55-59) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 理想の大学生活を考えてくる 事後: テキストp.59を完成させる
第11回	・行動計画の作成 ・マイルストーンを活用した行動計画作り	(学修内容) 前回の目標設定に基づき「なりたい自分」を実現するための行動計画を作成できる(テキストpp.60-63) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: テキストp.60を参考に、行動計画のマイルストーンを考えてくる 事後: テキストpp.62-63を完成させる
第12回	・行動計画表(ガンチャート)の作成 ・「なりたい自分」を目指した行動計画表作り	(学修内容) 前回の行動計画に基づいて行動計画表(ガンチャート)を作成できる(テキストpp.64-66) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 「ガンチャート」など表にまとめるメリットを調べ考えてくる 事後: 配布資料「行動計画表」を次回までに完成させ提出
第13回	・キャンパスライフカレンダーの作成 ・時系列シートを活用し卒業までのカレンダーの作成	(学修内容) 前回までの行動計画をカレンダーに落とし込み、行動計画を具体化できる(テキストpp.67-71) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 「キャンパスライフ」から一年間のスケジュールを確認してくる 事後: 配布資料「キャンパスカレンダー」を次回までに完成させ提出
第14回	・「なりたい自分」を一緒に目指す仲間作り ・同じ業界を目指す仲間とのグループワーク	(学修内容) 【グループワーク】行動作成表とキャンパスカレンダーを見せ合い、共通して取り組める点を抽出しグループ独自の行動計画を立てる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 「行動作成表」と「キャンパスカレンダー」をできるように 事後: 次回の発表に向けて、スライド資料をグループで協力して作成する
第15回	・仲間との学習成果の共有 ・学修成果の発表	(学修内容) 【プレゼンテーション】前回の「グループワーク」の学修成果を発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 発表用スライド資料を完成し、授業日までに担当教員に提出 事後: 最終レポート作成に向けて、他者の意見などを書き残す(60分)

授業名	文献講読 a			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Literature Reading			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>グローバル化とは「どういう現象なのか」をとらえていくことは重要である。というのは、現在も進展している、その現象は、我々の日常生活に大きな影響を与えているからである。授業を通して、まず、我々の身近なものから、グローバル化という現象がとらえられることを学びます。次に、グローバル化により生じた問題に対して、に近年、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」であるフェアトレードが進められています。「なぜ、このような運動が進められているのか」、グローバル化における問題に関して理解を深めます。</p> <p>授業では、テキストの内容を分担して発表し、質疑応答することにより理解を深める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 文献内容を理解し、説明することができる。</p> <p>2) 自分が理解したこと、疑問に思ったことを説明することができる。</p> <p>3) 問題意識を持ち、さらにそれを深めることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	鶴見良行『バナナと日本人』岩波新書								
参考書	授業で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、評価基準の具体的な内容を授業内あるいはメールにて解説します。								
留意事項	初回到授業の進め方の詳細を提示するので必ず出席すること(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授 業 名	文献講読 a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業進め方。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	文献の「読み方」	(学修内容) 文献の読み方を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本におけるフェアトレードの取り組みについて調べてきてください。
第3回	とりあげられている対象となっているものの背景を知る。	(学修内容) 何が対象となっており、その背景をとらえる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP1-15を読む。
第4回	テキストの課題をとらえる。	(学修内容) テキストの課題となっていることを整理していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP15-26を読む。
第5回	テキストにおける対象地域の歴史をとらえる。	(学修内容) 地域の歴史がどのように整理されているのかをとらえる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP27-42を読む。
第6回	テキストにおける対象地域と日本とのつながりをとらえる。	(学修内容) 日本とフィリピンとのつながりを整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP42-55を読む。
第7回	テキストがとりあげる対象地域における農園の暮らしをとらえる。	(学修内容) 農園におけるフィリピン人の暮らしを整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP57-69を読む。
第8回	テキストがとりあげる対象地域の農園と日本とのつながりをとらえる。	(学修内容) フィリピンの農園と日本とのつながりを整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP69-84を読む。
第9回	フィリピンでバナナ農園が発した背景をとらえる。	(学修内容) 当時、フィリピンでは新産業であったバナナの農園の始まりについて整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP85-95を読む。
第10回	多国籍企業によるバナナ農園の開発をとらえる。	(学修内容) フィリピンにおいて、多国籍企業が、どのようにバナナ農園の開発を進めたのか整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP95-108を読む。
第11回	バナナ農園をめぐる多国籍企業の動きをとらえる。	(学修内容) バナナ農園めぐって、各多国籍企業は、どのような戦略をたてていたのか整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP109-120を読む。
第12回	地場農園の動向をとらえる。	(学修内容) 多国籍企業が進出してきた結果、フィリピンの地場の農園はどのような状況をたどったのか整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP121-134を読む。
第13回	契約農家の問題をとらえる--企業との関係	(学修内容) フィリピンのバナナ農園における契約農家と企業との関係を整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP135-150を読む。
第14回	契約農家の問題をとらえる--経済的な状況	(学修内容) バナナ園の契約農家となった結果、どのような経済状況に陥ったのか、整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP150-164を読む。
第15回	今後の課題	(学修内容) テキストの内容全体を整理し、理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP165-225までを読む。

授 業 名	文献講読 b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Literature Reading			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	現代の家族・家庭の実態を把握すると同時に、そこで発生している諸問題を明確にし、その解決方法を探っていきたい。そのために、スウェーデンでの実情を把握する文献を購読することで、国際的な観点からわが国の課題を考察していきたい。私たちの暮らしを世界的な視点から客観的にみつめ、これからの方向性を明らかにしていきたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 文章の内容を正確に理解できるようになる。 2) 文章の論理構造を把握し、何が提起されているかを認識できるようになる。 3) 自分が理解した内容を、他者に適切に伝えられるようになる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	三瓶恵子著『女も男も生きやすい国、スウェーデン』岩波書店								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表の都度、アドバイスする。								
留 意 事 項	しっかり読んで、しっかり考えよう。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室しているときはいつでもOKです。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	文献講読 b		
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容と進め方について説明する (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく。	
第2回	テキスト はじめに、2 - 19頁	(学修内容) テキスト はじめに、2 - 19頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト はじめに、2 - 19頁を考察。	
第3回	テキスト 20 - 38頁	(学修内容) テキスト 20 - 38頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 20 - 39頁を考察。	
第4回	テキスト 38 - 57頁	(学修内容) テキスト 38 - 57頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 38 - 57頁を考察。	
第5回	テキスト 58 - 73頁	(学修内容) テキスト 58 - 73頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 58 - 73頁を考察。	
第6回	テキスト 74 - 95頁	(学修内容) テキスト 74 - 95頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 74 - 95頁を考察。	
第7回	テキスト 95 - 112頁	(学修内容) テキスト 95 - 112頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 95 - 112頁を考察。	
第8回	テキスト 112 - 130頁	(学修内容) テキスト 112 - 130頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 112 - 130頁を考察。	
第9回	テキスト 131 - 144頁	(学修内容) テキスト 131 - 144頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 131 - 144頁を考察。	
第10回	テキスト 144 - 165頁	(学修内容) テキスト 144 - 165頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 144 - 165頁を考察。	
第11回	テキスト 165 - 181頁	(学修内容) テキスト 165 - 181頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 165 - 181頁を考察。	
第12回	テキスト 184 - 205頁	(学修内容) テキスト 184 - 205頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 184 - 205頁を考察。	
第13回	テキスト 205 - 212頁	(学修内容) テキスト 205 - 212頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 205 - 2012頁を考察。	
第14回	テキスト 213 - 219頁	(学修内容) テキスト 213 - 219頁を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 213 - 219を考察。	
第15回	テキストのまとめ	(学修内容) テキスト全体からの学びを振り返る (事前事後学修課題の内容) (45分) テキストを通して何を学んだかをまとめておく。	

授 業 名	文献講読 c・d			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Literature Reading			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	豊原 容子・湯浅 俊郎			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	文献を精読し、内容についてディスカッションすることにより、汎用な読解力を養うとともに、自らがもつ疑問がどこまで明らかにされており残されている課題がどこにあるのかについて考えていく力をつけていくことを目指す。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図表を正しく読み取ることができる 2) 文献内容を理解し説明することができる 3) 問題点を明確にしていくことができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (論理的思考力)	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	プリントを使用。各自で対象の文献をプリントアウトして用意してもらうこともあります。								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	文献を適切に読みこなすことができているか、コメントを付けて返却するとともに解説を行う。								
留 意 事 項	しっかりと自分で読んでいくことが大切ですので、授業時間中、ランダムに指名し質問をしていきます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	掲示にてお知らせします。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方と資料についての説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく	
第2回	論文を読むための基礎 1 統計学とは	(学修内容) 講読を通して統計学とは何かについて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「そもそも『統計学』とは?」を読んでくる。	
第3回	論文を読むための基礎 2 データの特徴を視覚的に明らかにする	(学修内容) 講読を通して、「分布」の隠れた意味を明らかにしていく方法を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「資料の整理法」を読んでくる	
第4回	論文を読むための基礎 3 データを客観的に分析する指標 --平均値について	(学修内容) 講読を通して、平均値・中央値・最頻値などのもつ意味について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 論文中の図表の意味する事柄について考えておく	
第5回	論文を読むための基礎 4 データを客観的に分析する指標 --分散と標準偏差について	(学修内容) 講読を通して分散と標準偏差について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「ヒストグラム、平均値、分散、標準偏差表」を読んでくる	
第6回	論文を読むための基礎 5 データ分析の応用例	(学修内容) 講読を通して、2つの異なるデータを比較することができる統計指標について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「データ分析の応用例」を読んでくる	
第7回	論文を読むための基礎 6 調査票をどうつくるか	(学修内容) 講読を通して、調査票の作成手順と注意点について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「調査票をどうつくるか」を読んでくる	
第8回	文献中のデータから読み取れること	(学修内容) データ分析におけるポイントを整理していきます (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を復習しておくこと	
第9回	文献の種類と検索方法	(学修内容) 栄養関連の文献の検索方法について (事前事後学修課題の内容) (60分) 現代家政学演習 で学習した文献検索法などの内容を復習しておく	
第10回	論文を読む 和文論文 1 - 1 要旨	(学修内容) 論文の輪読・ディスカッションを通して理解していく 今回は要旨について (事前事後学修課題の内容) (60分) わからない語句について調べておく	
第11回	論文を読む 和文論文 1 - 2 本文、データを読み取る	(学修内容) 論文の輪読・ディスカッションを通して理解していく 今回は論文中のデータの読み方、データの意味について (事前事後学修課題の内容) (60分) 論文中の図表に目を通しておく	
第12回	論文を読む 和文論文 1 - 3 考察	(学修内容) 論文の輪読・ディスカッションを通して理解していく 今回は考察について (事前事後学修課題の内容) (60分) 理解できない語句を調べておく	
第13回	論文を読む 和文論文 1 - 4 参考文献	(学修内容) 論文の輪読・ディスカッションを通して理解していく 参考文献について (事前事後学修課題の内容) (60分) 理解できない語句を調べておく	
第14回	英文論文の検索	(学修内容) 英文の文献検索の方法について (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養関係の英文誌について調べておく	
第15回	英文論文を読む	(学修内容) 英文論文の要旨を読んで理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 理解できない語句を調べておく	

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s f			開 講 学 年	3回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	西川 由紀子・湯浅 俊郎・秋山 裕之・馬場 まみ・ 藤井 伸生・松浦 真理			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	3回生秋学期には、3回春学期の学習を踏まえて、先行研究や関連資料を収集し、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について学び把握する。ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して、卒業研究のテーマを確定する。同時に、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目指す。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。								
学 修 成 果 対 象 業 績	1) 卒業研究テーマとして取り上げる自身の関心領域についてどのような面から分析し、考察を進めていくのかを明確に記述、説明することができる。 2) 卒業研究テーマを自ら決定し、何をどこまで、どのような方法で明らかにするのか、研究目的と研究方法を決定することができる。 3) 学士論文としてふさわしい卒業研究論文を完成させるための分析考察方法、結果のまとめ方などを身につけることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表時においては、内容に対してコメントをつけます。レポート、論文に関して、個別指導を行います。								
留 意 事 項	3回生春学期の学習を通して興味関心の幅を広げるとともに、積極的に先行研究や関連資料にあたる。3回生春学期に卒業演習プレゼミを実施することもある。 研究テーマにかかわる事象や事例に興味関心を持ち、意見交換・考察・討議する習慣をもつ。 主体的積極的に研究を進める。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスパワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。								
実践的教育									

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s f	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	3 回生秋学期ガイダンス 自己紹介、研究テーマの紹介、プレゼミ課題・夏期課題の提出	(学修内容) 3 回秋から 4 回秋のスケジュール、卒業論文作成要項、3 回秋ゼミの進め方の確認。プレゼミ課題・夏期課題提出。研究発表日程等を定める。 (事前事後学修課題の内容) (90分) プレゼミ課題・夏期課題の提出
第2回	研究発表 1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第3回	研究発表 1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第4回	研究発表 1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第5回	個別指導(面談) 1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第6回	個別指導(面談) 1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第7回	個別指導(面談) 1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第8回	研究発表 2 - (先行研究・資料の研究)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第9回	研究発表 2 - (先行研究・資料の研究)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第10回	研究発表 2 - (先行研究・資料の研究)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第11回	個別指導(面談) 2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第12回	個別指導(面談) 2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第13回	個別指導(面談) 2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第14回	研究発表 3 - (研究テーマの確定)(3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握)	(学修内容) 研究テーマの確定・3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第15回	研究発表 3 - (研究テーマの確定)(3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握)	(学修内容) 研究テーマの確定・3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t e			開 講 学 年	3回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	豊原 容子・富安 広幸・坂本 裕子・竹市 仁美・塩 田 二三子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	3回生秋学期の卒業演習（卒論ゼミ）では、卒業論文のテーマを決めるために、関心が高い分野の先行研究や関連資料を収集して、課題を整理し、研究方法、調査法、分析法、結果の出し方と考察法を学んでいく。ゼミの中で、関連文献を紹介し、意見交換し、卒論研究のテーマを絞っていく。課題探究力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 先行研究から学び、明らかにしたい課題を絞っていき、卒業研究テーマを自ら決定することができる。 2) 研究目的を明らかにし、そのための研究方法を検討し、決めていくことができる。 3) 様々な情報をもとに、論理的な文章を書くことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	コメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	3回生春学期までの学習を通して、関心の幅を広げて、卒論研究のテーマを自ら決定できるよう、関連の先行研究や資料を集め、学んでおく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	ゼミ担当者より指示する。								
実 践 的 教 育									

授業名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t e	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	卒論研究の概要について	（学修内容）卒業演習のスケジュールと進め方について （事前事後学修課題の内容）（60分） プレゼミでの課題（卒業研究テーマ）について考えておく
第2回	研究発表1-1（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第3回	研究発表1-2（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第4回	研究発表1-3（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第5回	個別指導（面談）1-1（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究テーマを決めるための学びの進捗状況をレポートで報告する （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料の作成と提出
第6回	個別指導（面談）1-2（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究テーマを決めるための学びの進捗状況をレポートで報告する （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料の作成と提出
第7回	研究発表2-1（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第8回	研究発表2-2（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第9回	研究発表2-3（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第10回	個別指導（面談）2-1（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究進捗状況の報告および検討を行う （事前事後学修課題の内容）（90分） 面談資料としてレポートを作成する 検討事項を整理し、研究を進めていく
第11回	個別指導（面談）2-2（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究進捗状況の報告および検討を行う （事前事後学修課題の内容）（90分） 面談資料としてレポートを作成する
第12回	研究発表3-1（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメ、討論テーマの準備を行う 問題点を整理し、方向性を検討する
第13回	研究発表3-2（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメ、討論テーマの準備を行う 問題点を整理し、方向性を検討する
第14回	研究発表3-3（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメ、討論テーマの準備を行う 問題点を整理し、方向性を検討する
第15回	3回生秋学期の卒論演習の振り返り	（学修内容）3回生秋学期の卒論演習の振り返り 研究進捗状況を確認し、研究計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒論研究進捗状況の報告と研究方法、研究計画を作成し提出する

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s f			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	西川 由紀子・川島 智生・斧出 節子・馬場 まみ・ 藤井 伸生・松浦 真理			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	卒論テーマについて、先行研究や関連資料を読み込み、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について、ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して深めていく。課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目指す。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 卒業論文題目を確定し、主体的積極的に研究を進めることができる。 2) 各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において研究の進捗状況、研究成果を発表することができる。 3) 各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において、出された質問に対して適切に回答できると同時に今後の研究課題を認識できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表時においては、その都度アドバイスする。								
留 意 事 項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかむ。 意見交換・考察・討議する習慣をもち、主体的積極的に自らの研究を進める。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。								
実践的教育									

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s f	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	研究進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（学修内容）研究の目的、研究進捗状況の確認をする （事前事後学修課題の内容）（60分） 先行研究を読み込んでおく
第2回	研究発表1 - （研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（学修内容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第3回	研究発表1 - （研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（学修内容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第4回	研究発表1 - （研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（学修内容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第5回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第6回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第7回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第8回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第9回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第10回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第11回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第12回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第13回	個別指導（面談）2 - （現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第14回	個別指導（面談）2 - （現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第15回	個別指導（面談）2 - （現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s f			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	西川 由紀子・川島 智生・斧出 節子・馬場 まみ・ 藤井 伸生・松浦 真理			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>先行研究や関連資料を読み込み、学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文を完成させる。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 自ら決定した研究テーマについて、主体的積極的に自らの研究を進めることができる。 2) 学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文として完成させることができる。 3) 卒業論文の作成でどのような研究成果があったかを「口頭試問」で明確に伝えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	研究進捗状況を確認し、適宜アドバイスをする。								
留 意 事 項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかみ、自分の研究を進めていく。 学士論文としてふさわしい内容の卒業研究論文を完成させる。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスパワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		卒業演習（論文を含む。）s a ~ s f	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（学修内容）研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認 （事前事後学修課題の内容）（90分） 先行研究を読み込んでおく	
第2回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究発表、レジュメの準備	
第3回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究発表、レジュメの準備	
第4回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究発表、レジュメの準備	
第5回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第6回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第7回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第8回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第9回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（90分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備	
第10回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（90分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備	
第11回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出 （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒業論文の提出原稿の準備	
第12回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出 （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒業論文の提出原稿の準備	
第13回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出 （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒業論文の提出原稿の準備	
第14回	口頭試問準備	（学修内容）口頭試問に向けての準備 （事前事後学修課題の内容）（90分） 口頭試問の質疑応答準備	
第15回	口頭試問準備	（学修内容）口頭試問に向けての準備 （事前事後学修課題の内容）（90分） 口頭試問の質疑応答準備	

授 業 名	未来につなぐ生活学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1301
英 文 名	Life Science for the Future			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	流石 智子・秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	現代家政学を広い範囲の領域から学ぶ。各先生の専門分野の授業を受け、現代社会の現状や問題の発見、その対策を考察する手がかりになる学びをする。担当の先生によっては、グループワーク等の授業が実施される。その中で、ディスカッションをし課題発見の力をつけてもらいたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1、現代社会の現状を把握することができる。 2、生活に関する現状、課題、その解決方法について自分なりの考えをまとめることができる。 3、各先生からの学びのヒントをしっかりと理解し、これからの専門分野の学びに活かすことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解							汎用的技能
		態度・志向性							総合的な学習経験と創造的思考力
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学习支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (文章作成力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	授業にて資料を配布する。								
参 考 書	授業担当より、提示する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業時のミニレポート、レポート課題の提出等は、各先生方の授業によって異なる。返却等についても、各先生の方法で実施され、解説等のことが行われる。								
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、ゲストスピーカーの先生から授業をしていただく。（詳しくは1回目の授業で説明する） ・授業で印象に残った点等を、授業ごとにノートを整理しておくこと、定期試験の時に役立つ。 ・自分のノート作成に工夫をして取り組むことが必要。 								
オ フ ィ ス ア ワ ー	先生方のオフィスアワーを各自で確認する。演習室等に掲示している。								
実 践 的 教 育									

授業名	未来につなぐ生活学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) これからの授業について説明を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスを読む。私たちの生活状況で、気になることについて、400字程度にまとめておく。1回目の授業終了後、提出する。
第2回	環境学の基礎	(学修内容) 持続可能性、MSY理論、宇宙船地球号 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 「持続可能な社会」について考える。
第3回	地球温暖化のメカニズムと環境	(学修内容) 地球温暖化、炭素循環 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 地球温暖化について調べておく。
第4回	地球温暖化への取り組み	(学修内容) 脱炭素社会、家庭生活 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 家庭生活でできることを考えてくる。
第5回	経済活動との関係	(学修内容) モノと現金、交換・配分、産業化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 現金とモノとの違いを考えてくる。
第6回	生活の中の音楽	(学修内容) 人はなぜ歌を歌うのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 人間の生活のさまざまな場面に発露する音楽的行為とその背景・意味について考えてくる。
第7回	子どもの発達と音楽	(学修内容) 乳幼児期における発達と音楽・音環境との関係 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 自分の乳幼児期における音楽との関わりを考えてくる。
第8回	日本の高度経済成長期における農村と都市の生活	(学修内容) 日本の高度経済成長期について、ビデオを用いて農村と都市の生活の状況について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 予習として、高度経済成長期について調べてくること。
第9回	日本における地域間格差	(学修内容) さまざまな生活領域の地域間格差をデータからみる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 予習として、どのような格差があるか考えてくる。
第10回	保育所の役割	(学修内容) 保育所の役割 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 保育所について調べてくる。
第11回	保育所の中で子どもたちの育ち	(学修内容) 保育所の中で子どもたちの育ち (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 自分の幼児期の思い出をたどってくる。
第12回	生活習慣病	(学修内容) 生活習慣病予防からみた食のあり方について。人が一生涯で食べる分量とその内容から考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 自分の生活場面で、食べる分量やその内容を調べておく。
第13回	食の重要性	(学修内容) 生活習慣病(特に糖尿病、高血圧症、脂質異常症)の予防について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 糖尿病とは何か? 高血圧症とは何か? 脂質異常症とは何か? について調べておく。
第14回	現代社会の現状	(学修内容) 現代社会の現状、日本はどのような社会か考える (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: 「日本は豊かな社会なのか」自分の考えを具体的にレポートにまとめて提出。600字程度。
第15回	まとめ	(学修内容) 14回の授業からの学びについて考える (事前事後学修課題の内容) (50分) 事前: 自分が興味関心をもった授業について800字程度にまとめておくこと。授業内で、レポート作成して提出する。

授 業 名	食生活論 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1303
英 文 名	Theory of Dietary Life			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	食に関するさまざまな資料をみながら、食にまつわる問題が生じる原因についてグループで話し合ったり、意見交換をしたりして考えていく。また理想的な食生活をめざしていくための指針となる事項について学び、実生活での応用をいかに進めていくかについて考えていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食の問題点とその原因について理解できる。 2) 自らの食と環境との関連性について理解できる。 3) 理想的な食生活を営むために、情報を取捨選択し正しい判断基準をもち行動することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	食生活 健康に暮らすために 第2版 市川朝子、下坂智恵編著、八千代出版								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題についてコメントをつけて返却する。さらに気づきについて紹介するとともに授業内で取り上げ考える時間を持つ。								
留 意 事 項	自分で考えることが大切です。自分の身の回りではどうか、常に意識してください。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	食生活論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「食べる」とは	(学修内容)なぜ食べなくてはいけないのかについて考える (事前事後学修課題の内容)(60分) シラバスを読んでおく、食事の役割についてまとめる
第2回	若年者の食生活の問題点1 欠食	(学修内容)若年者の欠食の状況とその弊害について 欠食の問題点についてグループで話し合う (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分の食生活を振り返ってみる
第3回	若年者の食生活の問題点2 肥満	(学修内容)肥満の定義、肥満と疾病との関連性について (事前事後学修課題の内容)(60分) 理想的な体型について考えておく
第4回	若年者の食生活の問題点3 やせ	(学修内容)やせの定義、やせと疾病との関連性について 痩せていることのデメリットについてグループで話し合っ発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 若年者の食の問題について考えまとめる
第5回	ライフステージと食生活1 乳幼児・学童期	(学修内容)乳児期・学童期の食生活の問題点について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p61-86を読んでおく 自分のライフコースについて考えておく
第6回	ライフステージと食生活2 成人・高齢期	(学修内容)成人期・高齢期の食生活の問題点について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p86-98を読んでおく 高齢期の家族を抱えた家庭の食生活についてまとめる
第7回	食事の評価方法1 食事バランスガイド	(学修内容)食事バランスガイドを用いた1日の食事の評価方法について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p30-33を読んでおく 食事バランスガイドを用いて自分の食事内容をチェックしてみる
第8回	食事の評価方法2 六つの基礎食品群・食生活指針	(学修内容)六つの基礎食品群や食生活指針を用いた食生活の評価方法について 自分の食事についてほかの人との違いについて話し合ってみる (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p1-17を読んでおく 食べたものを六つの基礎食品群に食品をわけてみる
第9回	食に関する情報1 誤った情報	(学修内容)フードファディズム、食の流行などを生む食の情報について 流行に流された事例について話し合っ発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 誤った食の情報を集めてみる 情報に扇動される理由について考えてみる
第10回	食に関する情報2 情報の取捨選択	(学修内容)食品を選択する場合、信頼できる情報をどこから得るのかについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分は食の情報を主にどこから得ているのかについて考える
第11回	目に見えない食の危険について	(学修内容)食べ物に含まれる有害物質やさまざまなリスクの除去について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p33-39を読んでおく 安全な食のために自分ができることは何か考えてまとめる
第12回	飢餓と食糧輸入	(学修内容)世界の食糧事情についておよび日本の食との関連性について概説する (事前事後学修課題の内容)(60分) 日常用いられている外国の食品について調べてみる
第13回	世界の食	(学修内容)世界各地の食事内容や食のタブーなどについて宗教や環境から考察する (事前事後学修課題の内容)(60分) 日本の食のタブーについて調べておく
第14回	環境問題と食	(学修内容)環境にやさしい食生活を目指して各自ができることについて考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自家庭の食糧購入状況について調べ、無駄について考えてみる
第15回	まとめ	(学修内容)自らの食生活をどのように営んでいったらよいかについて考えていく これから自分が留意することについて発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 講義内容を振り返って問題点を整理し解決の方策についてまとめる

授 業 名	子どもの保健 U			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1416
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	中村 洋子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	乳幼児期・学童期のからだやこころを健康に保つために、育てる大人、保護者、親、専門職は知識と実践が大切となる。子ども時代を健康に過ごす、また健康増進するために、医学的知識を中心に健康・病気の予防を学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	胎児期、乳幼児期、学童期の子どものからだのしくみや精神的発達が理解できる どのように支援援助したらいいのか等、基本となる生活や対応の仕方等の知識が理解できる。 医学的基礎知識を理解し、保育・育児の場で対応できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	大澤 眞木子監修 「子どもの保健診断と～健康と安全～」(日本小児医事出版社)最新版								
参 考 書	「図表で学ぶ子どもの保健」(健昂社)「大人が知らない子どもの身体の不思議」(講談社)								
課題に対する フィードバック の方法	小テストを実施し、次回に回答の解説する。								
留 意 事 項	子どもの健康については小児医学や保健知識が重要になるので、事前に教科書等読んでおくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室にいる時は対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：市役所、医療少年院にて、保健師として勤務。								

授 業 名	子どもの保健 U	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 子どもの健康と保健と意義	(学修内容) 授業の目的・内容・評価方法等 子どもの保健活動の意義と目的 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと 本講義の目的と意義を理解し、学習にのぞむ
第2回	現代社会における子供の健康に関する現状と課題	(学修内容) 小児保健統計 最近の子どもの置かれている状況把握 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと
第3回	胎児の成長と母体の健康	(学修内容) 胎児の成長と発達と母体の健康について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料、該当する教科書の部分を読んでおくこと (30分)
第4回	身体発育と保健	(学修内容) 身体発育の仕方、影響する因子について 発育状況の評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 母子手帳持参し、自身の発育状況を見ておくこと。
第5回	運動機能の発達	(学修内容) 乳児期、幼児期、学童期の運動機能の発達について (事前事後学修課題の内容) (30分) 年齢ごとの運動機能の発達段階をまとめて提出のこと。
第6回	子どもの精神発達	(学修内容) 子どもの精神発達、言語の発達、情緒の発達について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料、該当する教科書の部分を読んでおくこと
第7回	子どものホメオスタシス等基本的生理機能の発達	(学修内容) 乳児期・幼児期の基本的な生理機能の発達について (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当する教科書の部分をまとめておくこと。
第8回	呼吸器・循環器・感覚器等の生理機能と発達	(学修内容) 子どもの呼吸器、循環器、感覚器、排泄器官の仕組みについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料、該当する教科書の部分を読んでおくこと
第9回	子どもの食と栄養	(学修内容) 子どもの成長過程に合わせた栄養と食行動について (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第10回	子どもの健康状態の把握	(学修内容) 子どもの健康状態の把握、健康診断等 (事前事後学修課題の内容) (30分) それぞれの時期の乳幼児健診についてまとめておくこと。
第11回	子どもの主な病気と特徴	(学修内容) 子どもがかかりやすい病気とその特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第12回	健康増進と子どもの疾病の予防	(学修内容) 子どもの健康を増進するには 子どもの病気の予防と対策 (事前事後学修課題の内容) (30分) 病気の予防についてまとめておくこと。
第13回	学校保健安全法による疾患	(学修内容) 学校保健安全法で定める疾患と予防すべき感染症 (事前事後学修課題の内容) (30分) 学校安全保険法を読み、出席停止の感染症などをまとめておくこと。
第14回	感染症対策ガイドライン 子どもの予防接種	(学修内容) 保育所における感染対策ガイドラインを理解する 予防接種法の内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) 感染症対策ガイドラインを読んでおくこと 資料を確認しておくこと
第15回	母子保健の役割・全体的なまとめ	(学修内容) 母子保健法について 全体のまとめ (事前事後学修課題の内容) (40分) 教科書・配布資料をすべての確認・見直しをすること

授 業 名	栄養学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1401
英 文 名	Dietetics			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	健康の保持・増進、疾病の予防における栄養の役割および 栄養素の代謝とその生理的意義を理解するための基礎事項について学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 五大栄養素の種類と働きについて理解できる。 2) 栄養素の代謝について理解できる。 3) 健康に対する栄養素の重要性が理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	中嶋洋子 著 「栄養の教科書 改訂新版」新星出版 2016								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については採点し返却する。返却時解説を行う。								
留 意 事 項	随時振り返りテストを行うので、復習を欠かさないこと。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授業名	栄養学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養とは	(学修内容) 栄養の定義、からだのしくみについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書のp16-19,36-47を読んでおく からだのしくみについてまとめておく
第2回	糖質について	(学修内容) 糖質の種類と構造 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書のp60-67を読んでおく 糖質がどのような食品に多く含まれているかまとめておく
第3回	糖質の働き	(学修内容) 糖質の機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておく
第4回	脂質について	(学修内容) 脂質の種類と構造について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書のp68-77を読んでおく 市販されている油脂の脂肪酸組成について調べておく
第5回	脂質の働き	(学修内容) 脂質の機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておく
第6回	タンパク質について	(学修内容) タンパク質の種類と構造 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書のp78-83を読んでおく アミノ酸系飲料について調べてみる
第7回	タンパク質の働き	(学修内容) タンパク質の機能 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておく
第8回	ビタミンについて	(学修内容) ビタミンの種類と機能 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p84-103を読んでおく ビタミンサプリメントを調べる
第9回	ミネラルについて	(学修内容) ミネラルの種類と機能 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p104-126を読んでおく 鉄とカルシウムについてまとめておく
第10回	消化のしくみ	(学修内容) 消化器系の構造及び消化の流れについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p42-43を読んでおく 消化酵素についてまとめておく
第11回	吸収のしくみ	(学修内容) 上皮細胞膜通過の仕組みについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布された資料に目を通しておく 栄養素ごとの吸収場所についてまとめる
第12回	エネルギー代謝	(学修内容) 三大栄養素とエネルギー産生、基礎代謝量に関わる因子など (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p54-56を読んでおく 基礎代謝にかかわるいんしについてまとめておく
第13回	食事摂取基準について	(学修内容) 食事摂取基準の解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p30-35を読んでおく 指針を使い毎日の食事内容を振り返ってみる
第14回	ライフステージと栄養	(学修内容) 各ステージにおける栄養の注意点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p158-176を読んでおく 自分のライフコースにおいて最も留意することは何か考えてみる
第15回	生活習慣病と栄養	(学修内容) 生活習慣病の予防と食事との関連について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p198-220を読んで、生活習慣病を理解しておく 食生活上の留意点についてまとめる

授 業 名	食生活実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Dietary Life Training			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	基本的な調理技術を習得するとともに、その理論を科学的な視点から理解することを目的とする。また、グローバル化が進む今だからこそ、日本食の伝統的文化を再確認するとともに、諸外国の食文化についても理解を深める。さらに、中学校、高等学校の調理実習で指導するうえで必要な技術と知識の習得も目指す。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な調理技術の習得。 2) 調理技術や食品の調理性について科学的に理解する。 3) 中学校、高等学校の調理実習で指導できる力を習得する。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (基本的な調理技術の習得)	プレゼンテーション能力 (主体性)	課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	新調理研究会編『これからの調理学実習 基本手法から各国料理、行事食まで』オーム社 2014年								
参 考 書	授業にて指示する								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、提出されたレポートは、コメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	4~5名を1グループとして実習を行う。食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で指示します。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション 授業計画と諸注意	(学修内容) グループの形成、レポートの書き方 計量、包丁法などの基本的な調理操作について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.2~6をよく読んでおくこと。 レポートの作成法について説明する。	
第2回	米粉の電子レンジによる糊化、 緑茶のうま味成分の抽出	(学修内容) 電子レンジを利用した和菓子の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 米粉の種類や米粉を材料とする和菓子の作り方を把握しておくこと。 お茶の種類を調べておく。レポートを作成して、次回に提出する。	
第3回	炊飯の科学、野菜の調理(クロロフィルの理解)、 煮干しのうま味成分の抽出	(学修内容) 炊飯、青茹で、みそ汁の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 米の糊化の原理、みその種類と特性について調べておくこと。 レポートを作成して、次回に提出する。	
第4回	小麦粉の膨化調理(イースト発酵)、 野菜の調理(カロテンの理解)	(学修内容) パン生地、野菜の煮物の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) イースト菌の発酵の工程や野菜の特性について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。	
第5回	加熱調理の科学 (揚げ物、炒め物)、 和え物の調理	(学修内容) 揚げ物(炸菜)、炒め物(炒菜)、和え物(拌菜)の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 揚げ油の温度変化や和え衣の種類について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。	
第6回	米飯調理(すし飯)の基本、 卵の熱凝固性(希釈卵液)	(学修内容) すし飯、希釈卵液の蒸し物の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 卵の調理特性である熱凝固性について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。	
第7回	鶏骨からのうま味成分の抽出、 ひき肉調理の科学、エマルションの科学	(学修内容) コンソメスープ、ひき肉料理、サラダの調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 肉類の種類と調理特性やマヨネーズとドレッシングの違いを 調べておく。レポートを作成し、次回に提出する。	
第8回	米飯調理(炒飯)の基本、 中華食材(干貝柱等)の理解	(学修内容) 炒飯(点心)、湯菜の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 天心の種類や作り方を調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第9回	魚の調理、ゲル化剤(ゼラチン)を用いた調理	(学修内容) ムニエル、サラダ、ゼリーの調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 魚の種類や旬、調理特性を調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第10回	加熱調理の科学 (焼き物、蒸し物)、 ゲル化剤(寒天)を用いた調理	(学修内容) 焼き物、蒸し物、寒天の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 寒天とゼラチンの違いについて調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第11回	衣揚げの基本、和え物の要点、 昆布とかつお節のうま味成分の抽出	(学修内容) 天ぷら、和え物、汁物の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 昆布やかつお節のうま味成分やだしの取り方を調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第12回	乾麺の扱い方、焼き菓子の科学、 油脂のショートニング性	(学修内容) パスタ、クッキーの調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) パスタの種類や焼き菓子の種類について調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第13回	加熱調理の科学 (あんかけ物)、卵の起泡性	(学修内容) あんかけ物(溜菜)、蒸しカステラの調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 卵の調理特性である起泡性について調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第14回	もち米の調理、煮物調理の基本	(学修内容) もてなし料理(赤飯、炊き合わせ等)の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) もち米と小豆について調理特性について調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第15回	テーブルセッティングとマナー 振り返り	(学修内容) 和洋の基本的なセッティングとマナーについて 全レポートから、改善点等について発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.34~37,72~73,110~113を読んでおく。 各グループで発表する準備をする。	

授 業 名	子どもと運動			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Children and Exercise			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	佐東 恒子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	子どもたちが将来、自らの健康生活のために、体育が生涯において生活の一部として楽しめるものになってもらいたい。そのためにも、体育をどのように進めていくのが良いかを専門的に学ぶ。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験し、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導や援助について学んでいく。グループごと模擬授業を実施し、その後模擬授業について講評しあい、指導技術のポイントを学んでいく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 楽しく様々な運動遊びを経験し、子どもの発育・発達に応じた運動遊びを自分で工夫する事ができる。 2) 遊びを展開・発展させていく上で、重要な着眼点や基本的な配慮点に気づく事ができる。 3) 運動遊びの重要性と楽しさを理解する事ができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (授業参加への意欲)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 (グループによる研究とその成果)			
テ キ ス ト	『新・体育あそびアラカルト』 西村誠・山口孝治・榎岡義明編著								
参 考 書	『幼児体育 基礎理論と指導の方法』 前橋明編著 樹村房 『幼児の運動遊び』 菊池秀範・石井美晴編著(相川書房) 『0～5歳児の運動遊び指導百科』 前橋明著(ひかりにくに株式会社)								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却する。実技については、その都度コメントをする。								
留 意 事 項	保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。毎回の学習内容・課題で提示される内容について、事前に調べておくことボランティア活動にも積極的に参加してもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：復活幼稚園・向陽幼稚園・ひかり幼稚園・篠村幼稚園(運動遊びの指導講師) 奈良教育大学附属小学校非常勤講師								

授業名	子どもと運動	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本授業のねらいは、生涯健康な生活を送るため、運動をする習慣化を身に付ける基礎を育てることをねらいとしている。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業内容を、ノートにまとめておく。
第2回	体づくり運動	(学修内容)基本的な動きを身に付け、体力を培う。体を動かす楽しさを味わう。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 基本の動きとはどんな動きかを調べ、ノートにまとめておく。
第3回	リズム運動	(学修内容)いろいろなリズムに反応して動き、リズムの変化を楽しむ。2拍子-4拍子のリズムを体で表現する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループでできるリズム打ちを考え、ノートにまとめておく。
第4回	リズムダンス	(学修内容)いろいろなリズムダンスを行う。表現力も身に付ける。(ハイテンポの曲・スローテンポの曲) (事前事後学修課題の内容)(80分) ダンスの曲を見つけ、動きを考えてノートにまとめておく。
第5回	ボール遊び	(学修内容)ボールの特性について知る。ボールの扱いになれる。少人数でのボール遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ボールの特性について調べ、ノートにまとめておく。
第6回	ボールでゲーム遊び	(学修内容)ボールゲームを楽しむ。ゲームを楽しくするための工夫をする。ルールの工夫。ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの頃に行ったゲームを思い出し、ノートにまとめて提出する。
第7回	フープ遊び	(学修内容)フープの特性について知る。まわす・くぐる・転がす・跳ぶなどの遊びを楽しむ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 簡単な遊びを考えて、ノートにまとめておく。
第8回	フープでゲーム遊び	(学修内容)フープを使ってゲーム遊びを行う。ゲーム遊びを考える。発表する。ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループでゲーム遊びを考え、レポートにまとめて提出する。
第9回	マット遊び	(学修内容)マット運動に必要な基本的な動きを行う。腕で体を支えるための力を付ける遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 腕を使った動物遊びを考えて、ノートにまとめておく。
第10回	マット運動	(学修内容)横転・前転・後転・側転・倒立を行う。補助の方法を学ぶ。(二人組で補助の練習) (事前事後学修課題の内容)(60分) 今まで行っていた補助を思い出し、レポートにまとめて提出する。
第11回	とび箱	(学修内容)とび箱に慣れる遊びから、跳び越える遊びに発展させる。跳び越えるためのポイントはどこなのかを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) とび箱を跳ぶには何が大切なのか考え、ノートにまとめておく。
第12回	学生による模擬授業(発表)	(学修内容)学生による模擬授業の発表。 (事前事後学修課題の内容)(80分) 模擬授業を発表する学生はその準備、他の学生は指導案の作成。
第13回	縄遊び	(学修内容)短い縄を使っての遊び。1人で遊ぶ・2人で遊ぶ・色々な方法で跳ぶ。長縄を使って皆で跳んでみる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 色々な跳び方を考えて、ノートにまとめておく。
第14回	体操を考える	(学修内容)子ども達が積極的に取り組みたくなるような、ウォーミングアップの方法を考える。グループでまとめる。ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体操を考えて、レポートにまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容)本授業を振り返りながら、学びや課題等について話し合う。ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 運動を生涯継続していくための良き方法を、レポートにまとめて提出する。

授 業 名	子どもの食と栄養 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Infant Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	小児にとって食生活は単に栄養補給にとどまらず、情緒面などの成長・発達にも影響を及ぼす重要なものである。本演習では、食生活に関する基本的な知識や小児の食生活の問題点などについて学び、実習やグループ討議などを通じて望ましい小児の食生活について理解していく。小児が望ましい食生活を営むことができる力をつけていくための食育の進め方などについても考えていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養に関する基礎的事項について理解できる。 2) 小児の食生活のありかたについて正しく理解できる。 3) 子どもたちに食育していくことのできる力をもつ。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用的能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	『子どもの食と栄養演習』 第4版 小川雄二編著 建帛社								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	小テストやレポートについては、返却時に理解が深まるように解説を行う。								
留 意 事 項	身近な子どもの食に関する観察や自分が子のこころの話を聞いて、子どもの食について興味をもって臨んでほしい。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	子どもの食と栄養 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食の重要性について	(学修内容) 授業の進め方についての説明および「食べる」ことの重要性についてグループで話し合う (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の食生活を振り返っておく
第2回	子どもの健康と食生活	(学修内容) 子どもの健康と心身の発育・発達における食生活の役割について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 大人と子どもの食の違いについて考えておく。教科書p1-2を読んでおく
第3回	栄養の基礎知識 糖質、脂質、タンパク質	(学修内容) 糖質、脂質、タンパク質の種類とその役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの食生活の重要性について復習しておく。教科書p11-16を読んでおく
第4回	栄養の基礎知識 ビタミン、ミネラル	(学修内容) ビタミン、ミネラルの種類とその役割について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p16-21を読んでおく
第5回	栄養の基礎知識 食事摂取基準、食構成、献立作成	(学修内容) 必要な栄養素をどのように考えて充足するかについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養素について復習しておく、教科書p34-40を読んでおく
第6回	乳児期の栄養の特性	(学修内容) 乳児期の栄養の留意点などについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p41-60を読んでおく
第7回	乳汁栄養の特徴(実習含む)	(学修内容) 母乳栄養、人工栄養の特徴について、各種ミルクの調乳・試飲を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p72-92を読んでおく、市販の育児用ミルクの情報を集めておく
第8回	離乳の進め方	(学修内容) 離乳の必要性和授乳・離乳の支援ガイドについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p92-114を読んでおく 離乳各期にふさわしい調理例についてまとめておく
第9回	離乳食の実際(実習含む)	(学修内容) 離乳食の進め方と留意点について、調理例を実際に見て違いなどを学んでいく (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p199-202を読んでおく、市販のベビーフードを観察しておく ベビーフードの長所と短所についてまとめておく
第10回	幼児期の栄養の特性	(学修内容) 幼児の食事摂取基準と食構成および献立作成時の留意点 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p114-126を読んでおく 幼児期に食べにくい食べ物についてまとめておく
第11回	幼児期の食生活の実際(実習含む)	(学修内容) 幼児期の食生活におけるおやつ的重要性、内容などについてグループで話し合い発表し、適切な内容・量・与え方などを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p122,128の演習をやってみる 咀嚼力をつけるための取り組みについて考えてみる
第12回	幼児期の食生活上の問題点、学童期の食生活	(学修内容) 幼児期の偏食、遊び食べなどの問題行動および学童期の食の留意点について、グループで話し合い対応策などを発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p126-134を読んで幼児期の問題行動の原因について、さらに教科書p140-143を読んで学童期の留意点について考えておく
第13回	特別な配慮を要する子どもの食生活の実際	(学修内容) 食物アレルギーや疾病のある子どもへの対応、障害のある子どもへの対応について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p183-198を読んでおく 食物アレルギーを持つ子供への対応について考えておく
第14回	児童福祉施設における食事	(学修内容) 児童福祉施設で提供される食事について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p172-182を読んでおく 給食の役割についてまとめる
第15回	食育計画	(学修内容) 幼児につけてあげたい力を理解し、食育指導計画をたてる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p154-164、保育所保育指針・保育所における食育に関する指針などを読み直しておく

授 業 名	健康マネジメント			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Health Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	竹市 仁美			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	生涯を通じて健康なからだところを維持することは、人生をより豊かにするために重要である。 講義・ワーク形式の授業を通して、健康に影響を及ぼすさまざまな要因についての知識を広めるとともに、より健康に生活するための思考やスキルを身に付ける。それらを自実生活の中で実践し、自分だけではなく、周囲の人たちの健康長寿を目指すことを目標とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 健康の大切さを理解することができる。 2) 生活習慣病の背景要因を理解することができる。 3) 若年女性の健康問題について理解し、予防に取り組むことができる。 4) 健康を維持するためのさまざまな実践方法を理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用的能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	日本健康マスター検定 公式テキスト（NHK出版）								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートを添削後返却する。 個人の健康意識調査結果を判定後、コメントとともに返却する。								
留 意 事 項	積極的に発言するよう努力すること。 目指す行動が習慣化するよう継続して取り組むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：管理栄養士として保健所で勤務。実務経験をもとに栄養・運動・災害対応などについて話します。								

授 業 名		健康マネジメント
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「健康」と「健康を支える仕組み」 健康状態の把握	(学修内容) WHOの健康の定義を基に、健康について改めて考える。 自分の健康状態について、血圧や体脂肪などの測定を行う。(測定) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト予習・復習
第2回	食生活と健康 「エネルギーの摂取」 食生活アセスメント	(学修内容) 食事のエネルギーについて、栄養学的な視点で学ぶ。 自分の食生活傾向を知るための調査票記入を行う。(実習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 エネルギーに関する自分の考えをまとめる。
第3回	食生活と健康 「塩分摂取」	(学修内容) 健康と塩分の関係について学ぶ。 自分の塩分摂取について確認する。(測定) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 普段飲んでいる味噌汁を持参すること
第4回	食生活と健康 「食品表示」 「自己の食生活傾向」	(学修内容) 特用途食品など、市場に出回る食品表示の見方を学ぶ。 必要な食量と栄養素の関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 おやつのパッケージを持参すること
第5回	食生活と健康 「野菜や果物の必要性」	(学修内容) 野菜や果物の役割について学び、健康問題との関係や各自の摂取する工夫などを提案する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 市販の野菜や果物についてトピックを調べる
第6回	疾病の予防 がん対策	(学修内容) 疾病の予防の段階について学ぶ。 日本のがん罹患の現状や対策を学び、予防法について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト予習・復習
第7回	嗜好を見直す 「飲酒や喫煙」	(学修内容) 嗜好品の利用実態について考える。 若者の健康問題について話題を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 飲酒・喫煙に関するのニュースを検索する
第8回	睡眠と心の健康運動と健康づくり	(学修内容) ストレスと睡眠について、健康との関係について学ぶ。 リラクセス法について体験する。(実習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト予習・復習 睡眠に影響する要因を調べる
第9回	身体活動・運動と健康	(学修内容) 健康づくりに役立つ運動について学ぶ。 日常生活に取り入れられる運動を実践する。(実習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト予習・復習 動きやすい服装を準備する。
第10回	口の健康と感染症	(学修内容) 口の中から見える全身の健康問題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習
第11回	女性の健康	(学修内容) 月経・出産・更年期など、ライフステージの変化に伴う女性の健康と生活の工夫について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習
第12回	高齢の家族の健康	(学修内容) 増加する高齢者問題や高齢者の身体的特徴について学ぶ。 家族や地域として見守る視点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習
第13回	救急の知識 災害への備え	(学修内容) 緊急事態の対処法や心構えについて学ぶ。 災害への備えについて学び、アイデアを出し合う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 家庭の備蓄や防災意識を聞きまとめる
第14回	健康観について	(学修内容) 健康観の相違について実感し、お互いの考えから良い方法を模索する。 (グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(90分) 課題について根拠を検索し、討論の準備をする。
第15回	まとめと確認	(学修内容) 授業から得た知識を総合的に考え、健康の大切さについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト全般の復習

授 業 名	道徳教育論（家庭・栄養）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1705
英 文 名	Theory of Moral Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	毛利 豊和			対 象 学 生	現代家政1回生（発展科目）、食物栄養1回生（免許科目）				
授 業 の 概 要	<p>いじめ・不登校・SNS問題をはじめとする生きる力を育てる上での現代の課題を考えた場合、道徳教育に求められるものは大きい。その道徳教育の基本的な理論と実践方法を理解し、日々の生活に生かす道徳の授業づくりのスキルを身につける。また、一人の大人として教育者として、自分自身の道徳性を高めていこうとする態度を身につける。</p> <p>授業内容 道徳授業の実践例から、道徳教育の魅力を知る。 実践例と指導要領から、道徳教育の基本知識を身につける。 指導案作成・模擬授業とスピーチ学習から、道徳教育観を確かなものにする。</p> <p>学習方法 講義 議論（全体・グループ） 演習（全体・グループ） 模擬授業（考察・実習） 授業外活動：宿題（資料収集・実施演習） 一人学習</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>到達目標 道徳教育の意義と魅力を実感する。 生活に生きる道徳の授業づくりのスキルを身につける。 道徳教育を推進するためのスキルを身につける。 社会の一員として、よりよく生きていこうとする（道徳性）意欲を高める。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	<p>「先生が楽しい！道徳授業の作り方」 出版社：三晃書房 定 価：¥ 1 5 0 0 - 発 行：平成31年3月29日 図書分類コード：C 3 0 3 7 I S B Nコード：9 7 8 - 4 - 7 8 3 0 - 8 0 1 8 - 3</p>								
参 考 書	文科省 中学校学習指導要領の解説 特別の教科道徳編（平成29年）								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	レポート：添削後返還 テスト：希望者のみ返還								
留 意 事 項	資料及び実践例は、既存のものからオリジナルまで、多様に紹介します。 授業者（毛利）による実践例や模擬授業は、学生が「面白い・大事だ」と実感するものを用意します。 今までの道徳に対する固定観念を見直し、新たに、今あるべき道徳の授業づくりの道を自分自身で見つけてください。まずは、そのための基本的な知識を身につけることから始めます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に、実施します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：実践してきた授業を模擬授業として紹介し、道徳授業を実感させる。 ・小学校道徳授業・中学校道徳授業 実践してきた取り組みを紹介し、地域保護者との連携を理解させる。 ・保護者会・学校運営（掲示物等）・家庭教育学級</p>								

授 業 名		道徳教育論（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 道徳教育の魅力	（学修内容）オリエンテーション(学習計画、授業の進め方、評価等) 理 論：道徳教育に求められること 実践例：「もしも私が神様に」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 目標	
第2回	道徳教育の目標と内容 特別の教科 道徳	（学修内容）理 論：道徳教育と内容 実践例：絵本で学ぶ「リンゴが一つ」「1こでも100このりんご」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント	
第3回	道徳教育における発達段階 教材の持つ力	（学修内容）理 論：内容と発達段階 実践例：アニメに学ぶ「ドラえもん（僕の生まれた日）」他 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント	
第4回	現代的な課題 豊かな心 指導技術 中心教材・補助教材	（学修内容）理 論：道徳教育と規範意識・自己有用感 実践例：読み物資料で学ぶ「生協の白石さん」漢字で学ぶ「辛・優」 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前時のプリント 身の回りの教材収集	
第5回	現代的な課題 豊かな心 指導技術 1時間の流れ	（学修内容）理 論：道徳教育と情報モラル・いじめ 実践例：言葉の力に学ぶ「CM」ポスターで学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 前時のプリント 身の回りの教材収集	
第6回	現代的な課題 豊かな心 指導案の書き方 主題	（学修内容）理 論：道徳教育とアドラー・ピグマリオン・論語 実践例：プラス思考に学ぶ「でも、いっか」 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント 中心発問を考える	
第7回	道徳教育と保護者・地域との連携 指導案の書き方 中心発問・導入・終末	（学修内容）理 論：考え議論する道徳授業 実践例：先人に学ぶ「ヘレンケラー」「鑑真」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案	
第8回	道徳教育における発達段階 スピーチ学習（チームザ〜）	（学修内容）理 論：問題解決的な道徳授業 実践例：エンカウンターで学ぶ「数字送り」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案	
第9回	道徳教育における評価 スピーチ学習（リーダーシップ）	（学修内容）理 論：道徳教育における評価 実践例：トランプマジックで学ぶ「謙虚・寛容」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案	
第10回	道徳教育の内容 Aの領域 スピーチ学習（フォロアーシップ）	（学修内容）理 論：Aの領域 実践例：TPOに学ぶ「謙虚・寛容」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案・教材	
第11回	道徳教育の内容 Bの領域 模擬授業 グループ	（学修内容）理 論：Bの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・声・立ち位置 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材	
第12回	道徳教育の内容 Cの領域 模擬授業 グループ	（学修内容）理 論：Cの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・教材の魅力提示の工夫 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材	
第13回	道徳教育の内容 Dの領域 模擬授業 全体	（学修内容）理 論：Dの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・発問の工夫 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材	
第14回	指導計画と全体計画 模擬授業 全体	（学修内容）理 論：指導計画と全体計画 模擬授業指導：評価者・分析・教材の力・全体協議の在り方 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材	
第15回	まとめ	（学修内容）・指導者の研究（指導力向上への意欲と自己研鑽） ・教育指導者としてのプラス思考・テストについて （事前事後学修課題の内容）（30分） 1～14回の授業プリント	

授 業 名	道徳教育論（小）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1413
英 文 名	Theory of Moral Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	三宅 康夫			対 象 学 生	現代家政1回生				
授 業 の 概 要	<p>理論的な内容から実践的な内容へ。道徳授業の実践例を挙げて展開する。 また、一般的な内容から具体的な内容へ。出来るだけ具体例を挙げて展開する。 適宜、プレゼンテーションの授業資料、動画など参考資料、レポート課題等の提示を行う。 指名発問も実施する。 演習形式を取り入れた主体的な学習を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 毎回、学びシートで学習後の思いの記入を行い、課題解決能力を高める。 2) 毎回、数名の学びシートを紹介し、課題を共有する。 3) ほぼ毎回、学生同士で話し合うなどの演習を取り入れる。コミュニケーション力を高める。 4) レポートとして作成した道徳学習指導案に従い、代表者による模擬授業を行う。 代表者はプレゼンテーション力を、出席者はコメントを通して分析力、思考力を養う。 								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>社会人として道徳教育の振興に果たす役割について理解し、実践への意欲を持つことができる。 道徳授業づくりの基本型に沿って指導案を書くことができる。 自作の指導案に基づいて模擬授業を行うと同時に他の授業時は、児童役を行うことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	文部科学省「小学校学習指導要領解説・特別の教科 道徳編」廣済堂あかつき 平成29年7月								
参 考 書	赤堀博行「『特別の教科 道徳』で大切なこと」 東洋館出版社 2018 横山利弘「道徳教育、画餅からの脱却・道徳をどう説く」 暁教育図書 2007.								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	毎回の授業で記入した振り返りに対して、毎回解説を行う。								
留 意 事 項	教職を志望する学生の履修を望む。授業資料（新学習指導要領道徳 平成27年3月告示）や学習指導要領解説を授業前に目を通し、メモを取っておくこと。また、授業の復習をすること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市の教員として、38年間勤務。								

授業名	道徳教育論（小）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 道徳教育の実際	（学修内容）オリエンテーション（授業の役割、授業の展開、評価の方法、マナーなどについて）。道徳教育の実際を知る。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の復習
第2回	「特別の教科 道徳」の概要 改訂の背景	（学修内容）「特別の教科 道徳」の設置に当たっての経過を含めたその概要を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容の復習
第3回	道徳教育と「特別の教科 道徳」	（学修内容）道徳教育と「特別の教科 道徳」のそれぞれの特質について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容の復習
第4回	道徳教育の「内容」「指導」「評価」	（学修内容）道徳教育の目標やその内容、指導、評価について実践的に理解する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容の復習
第5回	道徳科の授業づくり(基本型、教材分析)について	（学修内容）道徳科の授業づくりの基本型、教材分析について学び、考える。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容の復習
第6回	道徳科の授業づくり（導入、教材提示、発問）	（学修内容）授業づくりで大切な導入、教材提示と特に発問について演習を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容の復習
第7回	道徳科の指導方法（話し合い、表現活動、板書）	（学修内容）指導方法の話し合い、役割演技などの表現活動、板書などについて演習を通して学ぶ。平常試験のレポート課題を提示する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容の復習
第8回	生き方を考える道徳科の授業づくり(展開後段、終末)	（学修内容）生き方を考える道徳科の授業づくりに向けて大切な展開後段の発問や終末について具体例をもとに理解する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容の復習
第9回	道徳授業の指導案の作成（主題設定の理由、ねらい）	（学修内容）道徳授業の指導案の作成に取り組む。主に主題設定の理由、ねらいの作成。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容(指導案)の復習
第10回	道徳授業の指導案の作成（教材分析）	（学修内容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。主に教材分析の作成。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容(指導案)の復習
第11回	道徳授業の指導案の作成（指導方法、発問）	（学修内容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。主に指導方法、発問の作成。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容(指導案)の復習
第12回	道徳授業の指導案の作成（指導方法、板書）	（学修内容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。主に指導方法、板書の作成。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 指導資料のテキスト、プリントをもとに学習内容(指導案)の復習
第13回	作成した指導案をもとに一回目の模擬授業	（学修内容）次回も含めて代表3人の学生が、30分間の模擬授業を行う。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 模擬授業をもとに指導案の修正。
第14回	作成した指導案をもとに残り二つの模擬授業	（学修内容）模擬授業について感想、意見交流を行い、道徳科の授業づくりで大切にしたいことを考える。指導案を仕上げ提出する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 模擬授業をもとに指導案の振り返り。
第15回	道徳教育の学級経営に果たす役割について 家庭や地域社会と連携した道徳教育について	（学修内容）道徳教育の学級経営に果たす役割と家庭や地域社会と連携した道徳教育の有効性について考える。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の復習。定期試験の準備。

授 業 名	発達心理学（幼・小）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1403
英 文 名	Developmental Psychology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	発達を学ぶ意義を確認した上で、変化の著しい乳幼児期に焦点を当てて、運動、認知、言語、自我の発達などを、年齢をおって解説してゆく。また、発達の遅れや、偏りがある場合の援助についても紹介する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの発達を学ぶ意義を理解する。 2) 子どもの発達を理解する。 3) 子どもの発達の援助を行う際に留意すべき視点を獲得する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () () ()			
テ キ ス ト	西川由紀子「子どもの思いにこころをよせて」かもがわ出版 西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	授業に対する感想や質問を毎時回収し、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		発達心理学（幼・小）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	なぜ発達を学ぶのか	（学修内容）保育における発達理解の必要性を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 1章を読んでくる
第2回	乳児期前半	（学修内容）乳児期前半の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 2章を読んでくる
第3回	乳児期後半	（学修内容）乳児期後半の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 3章を読んでくる
第4回	1歳児（運動・認知）	（学修内容）1歳児の運動発達、認知発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 4章を読んでくる
第5回	1歳児（言語・社会性）	（学修内容）1歳児の言語発達・社会性の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 4章を読んでくる
第6回	2歳児	（学修内容）2歳児の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 2章を読んでくる
第7回	3歳児	（学修内容）3歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 3章を読んでくる
第8回	4歳児	（学修内容）4歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 4章を読んでくる
第9回	5歳児	（学修内容）5歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 5章を読んでくる
第10回	乳幼児期の発達のまとめ	（学修内容）乳幼児期の6年間を通してたいせつなことを解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） ここまでの授業で扱った箇所を復習してくる
第11回	児童期	（学修内容）児童期の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） プリントを読んでくる
第12回	思春期前期	（学修内容）思春期前期の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） プリントを読んでくる
第13回	思春期後期	（学修内容）思春期後期の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） プリントを読んでくる
第14回	発達の援助のあり方 自閉症スペクトラム	（学修内容）自閉症スペクトラムの障害の特性と援助方法を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト p108 - 119を読んでくる
第15回	発達の援助のあり方 ADHD	（学修内容）ADHDの特性と援助方法を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト p108 - 119を読んでくる

授 業 名	教育の基礎と制度（家庭・栄養）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1704
英 文 名	Principles of Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	現代家政1回生（発展科目）、食物栄養1回生（免許科目）				
授業の概要	洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係を踏まえながら学習する。とりわけ、学校教育に大きな影響を与えたルソー、ペスタロッチ、J.ロックの思想を中心に、教育に求められる基本概念について学ぶ。また、今後の教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べる力を身につけることが本講義の目標である。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる。 2) 教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。 3) 子どもに対する教育観について、自らの経験を踏まえながら説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	田嶋一他著『やさしい教育原理』有斐閣アルマ								
参 考 書	適宜指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては次回解説を行う。								
留 意 事 項	主として講義により授業を進める。ただ、教育に関する時事について不定期に問うため、適宜指名して意見の発表もしくは記述を求める。緊張感をもって授業に臨んでもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週木曜日の昼休み								
実践的教育									

授 業 名	教育の基礎と制度（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	（学修内容）進め方の説明後、教育学が扱う領域について説明する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） なぜ教員免許を取得したいのかを400字程度でレポートを作成する。
第2回	教育とは何か	（学修内容）教育とは何かについて考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.1-11を読み、他の生き物と人間との違いについて発表できるようにする。
第3回	学ぶことと教えること	（学修内容）「学び」と「教え」について考察する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.12-26を読み、アマラとカマラの事例からどのようなことを感じたのか、発表できるようにしておく。
第4回	教育・教化と形成	（学修内容）教育・教化と形成の違いについて考える （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.27-37を読み、自分の地元で行っているライフステージの祝い事（七五三やお宮参りなど）について発表できるようにしておく。
第5回	学校とは何か	（学修内容）なぜ学校が登場したのかについて考える （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.39-47を読み、今の学校と昔の学校の違いについて発表できるようにしておく。
第6回	近代学校の登場	（学修内容）なぜすべての子どもが学校に通うようになったのかについて考える （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.48-55を読み、近代学校の特徴について説明できるようにしておく。
第7回	我が国の教育のあゆみ	（学修内容）日本の教育の変遷について考える （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.68-86を読み、江戸時代から明治時代にかけての学校制度の変化について説明できるようにしておく。
第8回	身体の発達と道徳	（学修内容）教育と発達に関する理論について概観する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.87-110を読み、道徳性を子どもたちに身につけてもらうためには何ができるかを発表できるようにしておく。
第9回	教育計画	（学修内容）子どもたちの学びを推進するための教育計画について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.117-132を読み、授業形態と学校行事の種類を発表できるようにしておく。
第10回	教育評価を考える	（学修内容）評価の理論について概観する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.133-149を読み、自分たちの通知表がどの評価の種類だったのか、発表できるようにしておく。
第11回	理論と実践のつながりについて考える	（学修内容）フレイレや生活綴り方運動を概観し、理論と実践のつながりについて考える （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.159-168を読み、家庭科や栄養の授業でやりたいことのイメージを発表できるようにしておく。
第12回	青年期と教育	（学修内容）青年期における教育の課題について考える （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.203-218を読み、青年期の教育の課題について発表できるようにしておく。
第13回	社会教育と生涯学習	（学修内容）社会教育と生涯学習について考える （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.219-232を読み、生涯学習社会を感じる事例を取り上げ、発表できるようにしておく。
第14回	教育の権利について考える	（学修内容）知識基盤社会における子どもの権利について考える （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストpp.233-248を読み、子どもの権利が侵害されている事例を紹介できるようにしておく。
第15回	教育改革の動向とまとめ	（学修内容）現行の教育改革はどのように進んでいるのか、総括をおこなう （事前事後学修課題の内容）（60分） 自分をもっとも興味のある教育の話題をひとつ取り上げ、他の受講生に説明できるようにしておく。

授 業 名	教育の基礎と制度（幼・小）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1402
英 文 名	Principles of Education			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松浦 真理			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>教育は一人ひとりの人間に働きかけるものであると同時に、社会全体の変化にも大きく関わってくる。そのことを理解できるようになることがこの授業の大きな目的である。そのために、思想や歴史、学校教育の制度や学校経営、学校と地域、家庭との連携、社会全体との関わりなどから多角的に教育を捉え、今後の教育のあり方を模索し教職に活かせるようにする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 個人及び社会の両方と教育とのかかわりを理解し、説明できる。 2) 教育に関する歴史や思想、基本的な制度などについて理解し、説明できる。 3) 現代の世界的な教育の流れを踏まえ、これからの教育について想定できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	内海崎貴子『教職のための教育原理』（八千代出版）								
参 考 書	授業中に適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	リアクションペーパーなどの小レポートについては翌週の授業時にコメントや回答をする。授業中の発表についてはピア評価の時間を設定したあとコメントする。								
留 意 事 項	欠席時には次の授業までにその時の授業内容や配布物などの確認にくること								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼りだすのでできるだけその時間に来ること。メールでの質問やアPOINTは随時受け付ける。								
実 践 的 教 育									

授業名	教育の基礎と制度（幼・小）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業の進め方、現代社会と教育	（学修内容）進め方の説明後、自分の教育歴を振り返ると同時に、現代社会における教育の諸問題について考えてみる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを確認しておく。自分が受けてきた教育について振り返っておく。
第2回	教育の意味と役割及び限界	（学修内容）教育の意味や重要性について考える。人間の特質をもとに考える。同時に教育の限界についても知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育とは何か、教育がなかったら個人や社会はどうなるかなど、考えて自分の意見を書きだしておく。
第3回	子どもの発達と教育で育てる「力」	（学修内容）子どもの発達についての考え方を概観し、教育が関与して育てる「力」について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト4章を参考に、教育と発達との関係を整理しておく。
第4回	日本の教育史と思想	（学修内容）日本の教育史について、主として明治期以降を取り扱い、教育と社会制度との関連を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト6章を参考に、課題をしておく。
第5回	西洋の教育史と思想	（学修内容）西洋における教育概念と、今日の教育内容や方法につながる、歴史上の人物の教育思想について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト7章を参考に課題をしておく。
第6回	近代学校教育制度	（学修内容）前2回の歴史を受けて、学校の成立と発展に大きな役割果たしてきた公教育制度について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布資料を参考に課題をしておく。
第7回	道徳教育	（学修内容）近年重視されている道徳教育について歴史的経緯や、位置づけ、方法論などについて理解し、考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト10章を参考に、本時の課題について予習しておく。
第8回	人権と教育	（学修内容）子どもの人権、「権利条約」、近年の諸問題などについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト11章を参考に、本時の課題について予習しておく。
第9回	ジェンダー問題	（学修内容）教育におけるジェンダーの問題を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト12章を参考に、本時の課題について予習しておく。
第10回	特別支援教育	（学修内容）特別支援教育の今日的課題について概観する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト13章を参考に、本時の課題について予習しておく。
第11回	学校と地域社会	（学修内容）学校が存在する地域は、社会の変化によって「コミュニティ」へと変化していることを理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト15章を参考に、本時の課題について予習しておく。
第12回	子どもと学校をめぐる現代的課題	（学修内容）子どもと学校、地域、家庭そして政治経済状況をめぐる諸課題について整理する。グループごとに発表計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（90分） テキスト1～3章を参考に、教育をめぐる現代的な問題について書きだし、余裕があれば、興味のあるテーマについて調べ学習しておく。
第13回	子どもと家庭環境との関係	（学修内容）家族・家庭と子どもとの関係について整理し、問題提起し、提案をする。（グループによる発表） （事前事後学修課題の内容）（90分） グループごとに発表準備をする。（1時間）
第14回	子どもと社会状況との関係	（学修内容）親の家庭状況や地域社会とのつながりなどと子どもとの関係について整理し、問題提起し、提案をする。（グループによる発表） （事前事後学修課題の内容）（90分） グループごとに発表準備をする。（1時間）
第15回	まとめ	（学修内容）教育やそれを取り巻く諸状況について、これまでの授業を振り返り、教育について自分を取り組んでいきたいことを整理する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） これまでの授業を振り返り、教育と個人・社会とのつながりについて整理しておく。

授業名	教育心理学u(中・高・栄)			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Educational Psychology			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	藤井 裕子			対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	<p>社会の構造的変化を視野に入れて保育や学校教育の場における幼児期から青年期までの発達や学習過程を理解し、適切な教育的支援を考えることは重要なことである。本講義では心理学的側面から教育に関わる問題について学んでいく。発達や学習過程、動機づけや評価、学習環境など教育心理学の基本的知識を習得する。個別の教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解深め実際の関わりについて理解を深める。テーマによってグループ討議や発表も行うので理論と実践力を養ってほしい。</p>								
学修成果到達目標	<p>1、幼児、児童、生徒の心身の発達に対する外的および内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を踏まえ、教育における発達理解の意義、および教育心理学の基礎的知識を習得する。 2、乳幼児期から青年期の各時期における運動、言語、認知、社会性の発達とその具体的内容を理解できる。 3、主体的な学習を支える動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解できる。 4、主体的な学習を支える指導の基礎となる考え方を理解している。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)	グループワーク ICT活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	上田敬太ほか編著「対人援助職のためのこころの科学 基礎と応用」ふくろう出版								
参考書	<p>中澤潤編著「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房 北尾倫彦ほか編著「学校教育の心理学ー明日から教壇に立つ人のためにー」北大路書房</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回リアクションペーパーを用い学習状況を確認し、次回の講義で解説を行い質疑応答に対応する。 提出されたレポートはコメントをつけて返却する。</p>								
留意事項	<p>テキスト・配付資料を積極的に読み込むこと。 事前学習をしっかりと行うこと。</p>								
オフィスアワー	担当授業後に実施する。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラーおよびスーパーバイザーとして勤務、東日本大震災等における緊急支援教育活動、教員や保育者研修の講師</p>								

授 業 名		教育心理学 u (中・高・栄)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 教育心理学の意義、目的、方法	(学修内容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教育心理学の研究領域について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスを確認し疑問点をまとめておく。	
第2回	教育心理学の基礎知識(1) 感覚・知覚	(学修内容) 人の精神活動の基本的知識について習得する。感覚の働き、知覚の機能とその働き、錯視について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指定した章を読みまとめ提出する。	
第3回	教育心理学の基礎知識(2) 認知・思考	(学修内容) 認知や思考について代表的な理論を学ぶ。認知の働きや発達段階における思考の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指定した章を読みまとめ提出する。	
第4回	教育心理学の基礎知識(3) 学習・動機付け・記憶	(学修内容) 代表的な学習理論について学ぶ。学習を進める動機づけについて理解する。記憶の種類や特徴について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指定した章を読みまとめ提出する。	
第5回	教育心理学の基礎知識(4) 感情・情緒・性格	(学修内容) 情緒や性格の形成について内的要因、外的要因の相互作用を学ぶ。各時期における具体的な特徴について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指定した章を読みまとめ提出する。	
第6回	発達の理論(1) 年代別の発達特性: 乳幼児期	(学修内容) 代表的な発達の理論を学び、乳幼児期の発達と特性について理解しグループごとに発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループで意見をまとめ発表の準備をする。	
第7回	発達の理論(2) 年代別の発達特性: 学童期	(学修内容) 代表的な発達の理論を学び、学童期の発達と特性について理解しグループごとに発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループで意見をまとめ発表の準備をする。	
第8回	発達の理論(3) 年代別の発達特性: 思春期・青年期	(学修内容) 思春期・青年期特有の発達過程および心理特性について学びグループごとに発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループで意見をまとめ発表の準備をする。	
第9回	パーソナリティの理解(1) 防衛機制、適応と不適応	(学修内容) 自我の防衛機制とその働き、適応と不適応について学びを深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。	
第10回	パーソナリティの理解(2) 心理検査の活用と解釈	(学修内容) 学校現場で用いられる心理検査、知能検査について基本的知識を習得する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。	
第11回	教育の方法、学習の指導	(学修内容) 教育方法と教育評価について理解し、プロジェクト学習のDVDを視聴して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読み要点をまとめて提出する。	
第12回	教育評価と測定	(学修内容) さまざまな教育方法と教育評価について知り、実際に指導する方法を身につける。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。	
第13回	特別な配慮が必要な子ども理解と支援	(学修内容) 子どもを取り巻く社会的状況を理解し、特別支援教育の意義について学び指導計画を立案する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 特別支援教育について調べ提出する。	
第14回	問題行動への理解と指導	(学修内容) 問題行動の見られる子どもについて理解し、問題行動への指導、支援の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。	
第15回	組織の体制づくりと関係機関との協働、講義全体のまとめ	(学修内容) 組織内の協力、体制作り、専門機関との連携や協働について学ぶ。講義全体を見直し教育心理学のまとめをする (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートや資料を整理し不足分について確認しておく。	

授業名	教育心理学u (幼・小)			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Educational Psychology			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	藤井 裕子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>社会の構造的変化を視野に入れて保育や学校教育の場における幼児期から青年期までの発達や学習過程を理解し、適切な教育的支援を考えることは重要なことである。本講義では心理学的側面から教育に関わる問題について学んでいく。発達や学習過程、動機づけや評価、学習環境など教育心理学の基本的知識を習得する。個別の教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解深め実際の関わりについて理解を深める。テーマによってグループ討議や発表も行うので理論と実践力を養ってほしい。</p>								
学修成果到達目標	<p>1、幼児、児童、生徒の心身の発達に対する外的および内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を踏まえ、教育における発達理解の意義、および教育心理学の基礎的知識を習得する。 2、乳幼児期から青年期の各時期における運動、言語、認知、社会性の発達とその具体的内容が理解できる。 3、主体的な学習を支える動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解できる。 4、主体的な学習を支える指導の基礎となる考え方を理解している。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	プリント配布する								
参考書	<p>中澤潤編著「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房 北尾倫彦ほか編著「学校教育の心理学ー明日から教壇に立つ人のためにー」北大路書房</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回リアクションペーパーを用い学習状況を確認し、次回の講義で解説を行い質疑応答に対応する。 提出されたレポートはコメントをつけて返却する。</p>								
留意事項	<p>講義を中心とするがテーマによってはグループ発表も取り入れる。理論と実践を結び付けていく。事前事後学習をすること。</p>								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラーおよびスーパーバイザーとして勤務、東日本大震災等における緊急支援教育活動、教員や保育者研修の講師</p>								

授 業 名	教育心理学 u (幼・小)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育心理学の意義、目的、方法	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる 教育心理学の研究領域について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートやファイルを準備する。
第2回	教育心理学の基礎知識(1)感覚・知覚	(学修内容)人の精神活動の基本的知識を習得する。感覚の働き、知覚の機能とその働き、錯視について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめ提出する。
第3回	教育心理学の基礎知識(2)認知・思考	(学修内容)認知の発達、概念や言葉の獲得や子どもの思考の特徴について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめ提出する。
第4回	教育心理学の基礎知識(3)学習、動機づけ、記憶	(学修内容)主な学習理論を習得し、低次の学習から高次の学習への移行について理解する。動機付けの種類と学習への応用について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめ提出する。
第5回	教育心理学の基礎知識(4)感情、性格	(学修内容)感情や情緒の発達、性格の成り立ちについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめ提出する。
第6回	発達の理論(1)年代別の発達特性:乳幼児期	(学修内容)代表的な発達理論を学び乳幼児期の心理特性を理解する。グループで意見をまとめ発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布プリントを読み意見を集約する。
第7回	発達の理論(2)年代別の発達特性:学童期	(学修内容)代表的な発達理論を学び学童期の心理特性を理解する。グループで意見をまとめ発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布プリントを読み意見を集約する。
第8回	発達の理論(3)年代別の発達特性:思春期、青年期	(学修内容)代表的な発達理論を学び思春期・青年期の心理特性を理解する。グループで意見をまとめ発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布プリントを読み意見を集約する。
第9回	パーソナリティの理解(1)防衛機制、適応と不適応	(学修内容)自我の防衛機制、適応と不適応について学びを深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み演習問題を解く。
第10回	パーソナリティの理解(2)心理検査の活用と解釈	(学修内容)学校現場で用いられる心理検査、知能検査について基本的知識を習得する。さまざまな子どもの課題に向き合い理解し支援する方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み事例について考える。
第11回	教育の方法・学習指導	(学修内容)教育方法と教育評価について理解し、プロジェクト学習のDVDを視聴して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み事例について考える。
第12回	教育の評価と測定	(学修内容)さまざまな教育方法と教育評価について知り、実際に指導する方法を身につける。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み事例について考える。
第13回	個別の配慮を必要とする子どもについての理解と支援	(学修内容)特別支援教育について理解し、発達障害や個別の教育的支援を必要とする子どもへの支援を考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み事例について考える。
第14回	問題行動への理解と指導	(学修内容)問題行動や非行傾向のある子どもの背景を学び問題解決の方策を考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読み、演習問題を解く。
第15回	組織の体制づくりと関係機関との協働、講義全体のまとめ	(学修内容)組織内の協力、関係機関の役割と連携、協働の方法について学ぶ。講義全体のまとめをする (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートや資料を整理し不足分について確認する。

授 業 名	人間福祉論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1302
英 文 名	Theory of Human Welfare			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、社会福祉の役割について考える。社会福祉の歴史的社会的必然性、社会福祉の研究対象である対象・主体・方法、社会福祉制度の概要の理解をしていく。海外の社会福祉の実情も紹介し、わが国の課題を考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会事象に目を向け、授業との関連性を認識できるようになる。 2) 私たち人間のくらしにおいて社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3) くらしを支える最後の拠り所である社会福祉の重要性を理解できるようになる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (論理的な展開力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	テストの採点結果を返却し、その時に模範解答等を解説します。								
留 意 事 項	ノートをしっかり取ること。新聞を読むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：児童養護施設非常勤職員、高齢者通所介護施設非常勤生活指導員として勤務。								

授業名	人間福祉論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	なぜ我々は学ぶのか、どう学ぶか	(学修内容) 社会福祉を学ぶ姿勢について話す (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の事象に思いをよせる。
第2回	歴史的社会的存在としての社会福祉 - 慈善 -	(学修内容) 生活問題と生活保障の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の歴史を調べ考える。
第3回	歴史的社会的存在としての社会福祉 - 慈恵・博愛・相互扶助 -	(学修内容) 慈恵・博愛・相互扶助について (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の誕生について調べ考える。
第4回	社会事業・社会福祉の成立	(学修内容) 社会福祉の成立について (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の今日の役割を調べ考える。
第5回	社会福祉の動向と課題 - 対象 -	(学修内容) 社会福祉の対象理解について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしの基盤について家族と対話し考える。
第6回	社会福祉の動向と課題 - 主体 -	(学修内容) 社会福祉の主体について (事前事後学修課題の内容) (30分) 企業と社会福祉について調べ考える。
第7回	社会福祉の動向と課題 - 方法 -	(学修内容) 社会福祉の方法について (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の方法について調べ考える。
第8回	社会福祉制度の概要 - 社会保険 -	(学修内容) 社会福祉としての保険制度について (事前事後学修課題の内容) (30分) 自らの加入している保険を調べる。
第9回	社会福祉制度の概要 - 社会手当 -	(学修内容) 社会手当について (事前事後学修課題の内容) (30分) 家族が受給している手当を家族から学ぶ。
第10回	社会福祉制度の概要 - 生活保護 -	(学修内容) 生活保護制度について (事前事後学修課題の内容) (30分) 貧困について調べ考える。
第11回	社会福祉制度の概要 - 児童福祉 -	(学修内容) 児童福祉について (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所をはじめ児童について考える。
第12回	社会福祉制度の概要 - 施設・サービス -	(学修内容) 施設・サービスについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設・サービスに関わっている事象を調べ考える。
第13回	社会福祉の国際比較 - 保育 -	(学修内容) 社会福祉の国際比較 - 保育 - (事前事後学修課題の内容) (30分) 海外の保育情報に目を向ける調べる。
第14回	社会福祉の国際比較 - 介護 -	(学修内容) 社会福祉の国際比較 - 介護 - (事前事後学修課題の内容) (30分) 海外の介護情報に目を向け調べる。
第15回	社会福祉の今日的課題	(学修内容) 社会福祉の動向と課題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 新聞等から今日の話題をつかむ。

授 業 名	生涯学習論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Lifelong Learning			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	岸 優子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	人は生まれたときから死ぬまで自ら学ぶ存在であるといわれる。生涯学習の理念やその歴史的展開を学ぶことを通して、自らが生涯学び続けることの意味を考える。さらに学びを支える側の立場や考え方、支援体制を知り、生涯学習の意義と重要性を理解して、自らの生活に生かしていける視点を持つことができる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生涯学習の理念、現状と課題などについて基本的知識を習得することができる。 2) だれもが・いつでも・どこでも学習できる「学習社会」の在り方を理解することができる。 3) 人生初期の学習に限定するのではなく、成人や高齢者をも視野に入れた人生100年時代を生きるための学習活動を支援・推進する方策を提示することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	適宜、プリントを配布する。								
参 考 書	適宜、授業中に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	受講生は、毎回、「振り返り用紙(学びのポートフォリオ)」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。								
留 意 事 項	授業中に出示された課題については主体的に取り組むこと。なおフィールドワークについては、事前に受講生と充分相談・説明のうえ、見学先の開館日・時刻、場所等により、授業時間外の曜日・時刻に実施することもある。また受け入れ施設の都合により見学先を変更せざるを得ない場合もある。やむを得ず見学を欠席する場合は、必ず、事前に連絡すること。見学当日の無断欠席は、単位取得の意思がないものとみなす。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：子育て支援員(相談活動)								

授業名	生涯学習論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 予習として、シラバスを読んで内容、評価方法などを確認しておく。
第2回	生涯学習とは何か	(学修内容)生涯学習の理念について基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 予習として身近なところで生涯学習に関わることがどのように行われているかについてまとめておく。
第3回	人間形成と生涯学習	(学修内容)自らが考えるライフコースの中で「学ぶこと」の意味について考えることができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として自ら生涯にわたって学習することの意味について箇条書きにまとめる。
第4回	生涯発達と発達課題ワーク	(学修内容)人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について具体的に考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自らの今後の人生を見通し、学ぶことの意味・必要性について考えてくる。
第5回	生涯学習論の発端と経緯についてワーク	(学修内容)生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントの要点を箇条書きにする。
第6回	ラングランの生涯教育論	(学修内容)ラングランの提唱した生涯教育の理念について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んでラングランの考え方の要点をまとめる。
第7回	日本における生涯教育の理念	(学修内容)日本における生涯教育、生涯学習についての基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、日本の生涯教育・生涯学習の歴史的経緯について要点を箇条書きにまとめる。
第8回	諸外国における生涯学習論にみる学習観	(学修内容)諸外国における生涯学習論にみる歴史的経緯と学習観、人間観について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第9回	OECDのリカレント教育	(学修内容)OECDのリカレント教育について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第10回	日本における生涯教育論の展開	(学修内容)日本における生涯教育論から生涯学習論への歴史の変遷について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、生涯学習社会の制度的変遷の要点を箇条書きにまとめる。
第11回	日本における生涯学習の必要性と各種審議会答申について	(学修内容)社会教育審議会、中央教育審議会などにみられる生涯教育の理念と具体案について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントを読んで、生涯学習の考え方の歴史の変遷の要点をまとめる。
第12回	生涯学習社会を担う施設についてワーク(フィールド) 社会教育施設(図書館・博物館等)	(学修内容)生涯学習社会における社会教育施設の役割について理解することができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自らが興味・関心のある市町村の図書館、博物館などが地域社会に果たす具体的役割について調べる。
第13回	生涯学習社会を担う施設についてワーク 社会教育施設(公民館等)	(学修内容)生涯学習社会における社会教育施設の役割について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、社会教育施設が今後の自らの生涯学習との関わりについて果たす役割についてまとめる。
第14回	生涯学習社会における社会教育について	(学修内容)生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、社会教育の具体的内容について要点をまとめる。
第15回	生涯学習の事例発表プレゼンテーション	(学修内容)自らが住みたい地域社会の生涯学習の取り組みについて調べたことを発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として各自、構想した生涯学習についての発表用資料を準備する。

授 業 名	ターミナルケア論 u			開 講 学 年	3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Terminal Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	現代家政3・4回生				
授業の概要	<p>私たちは、この世に生を受けた瞬間からすでにあの世（死）へと向かう存在となっている。本講では、現代社会における誕生と死の実態を起点に、ターミナル・ケアのありようについて学んでいく。さらに、生殖補助医療や安楽死などについて正しく理解し、それに対応できるような事例を取り上げながら、その課題について考察を深めていく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 現代社会における誕生と死の実態について説明することができる。 2) 全人的な痛み背景について説明することができる。 3) 「ターミナル・ケア」「ホスピス」「ピハラー」「PCU」等の用語について理解し、説明ができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない。配布資料あり。								
参 考 書	藤腹明子著『仏教看護論』三輪書店2007年、小畑万里編著『地域・施設で死を看取るとき いのちと死に向き合う支援』明石書店2012年、垂水雄二著『生命倫理と環境倫理 生物学からのアプローチ』八坂書房2010年、マリロイド編 若林佳史訳『緩和ケアにおける心理社会的問題』星和書店 2011年、宮川俊行著『安楽死の論理と倫理』東京大学出版局1979年、中澤正夫著『死のメンタルヘルス 最期に向けての対話』岩波書店2014年、香西豊子著『流通する「人体」 献体・献血・臓器提供の歴史』勁草書房2007年、村上陽一郎著『死の臨床学 超高齢社会における「生と死」』新曜社2018								
課題に対する フィードバック の方法	<p>1) 小レポートについては、コメントを付けて返却する。 2) 授業冒頭には、前回のふりかえりを行い、必要な解説を行う。</p>								
留 意 事 項	安直な動機での履修は歓迎しない。問いかけに対して自ら問題意識をもつよう心がけること。 グループもしくはペアワークを取り入れながら、学生の意見を基調に進めていく。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	ターミナルケア論 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～「死」とは何なのか?～	(学修内容) 講義の進め方、成績評価の方法について解説した後、「死」に関する意識調査アンケートを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスから学びの道筋をイメージしておく。
第2回	現代社会における誕生と死	(学修内容) 統計資料に基づく誕生と死の現状を把握し、社会とのつながりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 『国民の福祉と介護の動向』もしくは人口動態統計のサイトを閲覧しておく。
第3回	社会問題としてのターミナル・ケア	(学修内容) ターミナル・ケアが社会問題となっている背景について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 『国民衛生の動向』を閲覧しておく。
第4回	ターミナル・ケアの歴史 ～ホスピス・PCUの成立過程～	(学修内容) ターミナルケアの歴史をその語源よりたどりながら、ホスピスならびにPCUへと変遷する過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(50分) 紹介した書籍を読む。
第5回	ターミナル・ケアの歴史 ～ビハラの誕生と成立過程～	(学修内容) 仏教を基盤としたターミナル・ケアの成立過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(50分) 紹介した書籍を読む。
第6回	ホスピス病棟の紹介 ～遺族へのケアについて～	(学修内容) 遺族へのケアについて映像を通じて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(50分) 紹介した書籍を読む。
第7回	死にゆく人の「苦しみ」と「痛み」 ～心理的・社会的ニード～	(学修内容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(50分) 紹介した書籍を読む。
第8回	死にゆく人の「苦しみ」と「痛み」 ～スピリチュアルニード～	(学修内容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(50分) 紹介した書籍を読む。
第9回	ビハラ病棟の紹介 ～患者からの最期のことば～	(学修内容) 映像を観て、シートに記録する。 演習形式 (事前事後学修課題の内容)(50分) 紹介した書籍を読む。
第10回	ビハラ病棟の紹介 ～痛みからの解放～	(学修内容) 映像を観て、シートに記録する。 演習形式 (事前事後学修課題の内容)(50分) 紹介した書籍を読む。
第11回	宗教者の役割について ～ビハラ僧の場合～	(学修内容) 映像と事例を通じて解説を行う。 (事前事後学修課題の内容)(50分) 紹介した書籍を読む。
第12回	MSWの役割と機能について	(学修内容) MSWの事例紹介を通じて、ターミナル・ケア期における福祉援助の基礎について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(50分) 紹介した書籍を読む。
第13回	生死をめぐる諸問題 ～生殖補助医療とその課題～	(学修内容) 生殖補助医療の現状と代理出産の現実から、主題に迫っていく。 資料をよく読み込んだ上でディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 生殖補助医療や代理出産について調べておく。
第14回	生死をめぐる諸問題 ～安楽死と尊厳死～	(学修内容) 安楽死と尊厳死の違いを理解し、現場にて齟齬なく援用できるようになることの必要性を事例を通して学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 安楽死・尊厳死・脳死・臓器移植について調べておく。
第15回	まとめにかえて ～「生ききる」ことを支えるケアとは～	(学修内容) 「生ききる」ことを支えるケアについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) これまでの学びについて各回の要点を押さえておくことと、配布資料に目を通しておくこと。

授 業 名	家族関係論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Theory of Family Romance			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>社会の変化に伴い、家族の形態や機能も変化している。家族のあり方が多様化する中で、家族の機能低下や家族関係の希薄化などが問題点として指摘されている。その一方でバブル経済崩壊後は「一番大切なもの」に家族を挙げる人が4割以上を占めるなど、家族は現代人にとってもっとも重要な心の拠り所である。本講義では、家族を取り巻く複雑な状況をふまえ、家族関係の実態を概観しながら、望ましい家族関係について考察する。グループワークを数回行う。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 現代日本の家族の実態について先入観にとらわれずに客観的に把握することができる。 2) 家族が持つ可能性と抱えている困難を理解したうえで望ましい家族について考えることができる。 3) グループワークを通して家族の多様性を知ることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	河合隼雄1980『家族関係を考える』講談社現代新書								
参 考 書	岡田尊司2014『母という病』2015『父という病』 尾木直樹2015『親子共依存』 すべてポプラ新書								
課題に対するフィードバックの方法	授業中にコメントを返す								
留 意 事 項	毎回の予習とグループ討議での活発な意見交換を求めます。座席は指定します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション・家族とは	(学修内容) この授業のテーマと進め方について (事前事後学修課題の内容) (5分) シラバスを読んでくる	
第2回	いま家族とは何か	(学修内容) テキスト第1章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第1章を読んでくる	
第3回	個人・家・社会	(学修内容) テキスト第2章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第2章を読んでくる	
第4回	親子であること	(学修内容) テキスト第3章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第3章を読んでくる	
第5回	夫婦の絆	(学修内容) テキスト第4章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第4章を読んでくる	
第6回	父と息子	(学修内容) テキスト第5章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第5章を読んでくる	
第7回	母と娘	(学修内容) テキスト第6章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第6章を読んでくる	
第8回	父と娘	(学修内容) テキスト第7章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第7章を読んでくる	
第9回	きょうだい	(学修内容) テキスト第8章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第8章を読んでくる	
第10回	家族の危機	(学修内容) テキスト第9章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第9章を読んでくる	
第11回	老人と家族	(学修内容) テキスト第10章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第10章を読んでくる	
第12回	家族のうち・そと	(学修内容) テキスト第11章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第11章を読んでくる	
第13回	これからの家族	(学修内容) テキスト第12章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第12章を読んでくる	
第14回	現代日本の家族 親子共依存	(学修内容) 親子共依存 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の意見をまとめてくる	
第15回	家族関係を考える	(学修内容) テキスト総復習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の意見をまとめてくる	

授 業 名	子どもと生活 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Children and Life			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	斧出 節子・山川 宏和			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>小学校及び幼稚園の生徒が、身近な人々や地域とのかかわりに関心を持つための生活について学ぶ。集団や社会への愛着、その中で果たす自らの役割について考え、適切に行動するためには何が必要かについても学ぶ。そのために、家族や学校、自然、動植物、公共が子どもの生活にどのようにかかわりを持つかについて総合的に学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 子どもが、自らをはじめ、身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもつような具体的な活動や体験とは何かが説明できる。 2) 生活が、子どもの成長・発達にどのような影響を及ぼすかを知り、身につけるべき生活上必要な習慣や技能とは何かが説明できる。 3) 近年の教育環境や教育目標の変化が、生活科に及ぼした影響について説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』文部科学省(東洋館出版社)								
参 考 書	適宜配布する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、授業内で紹介しコメントする。								
留 意 事 項	幼稚園・小学校教職に必要な科目であり、自ら実践する内容が多いので、積極的に学ぶ意欲を持つ人に履修してほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育									

授 業 名	子どもと生活 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもと生活（オリエンテーション）	（学修内容）子どもと生活の目標、授業方法について （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを読んでおく
第2回	生活科の解説	（学修内容）生活科創設の経緯・変遷について説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 指導要領解説を読んでおく
第3回	教育指導要領の解説	（学修内容）生活科に関する指導要領の内容を説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 指導要領解説を読んでおく
第4回	季節の変化と生活 秋を観察する	（学修内容）学外の自然観察に必要な内容を説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 前回のまとめをしておく
第5回	授業計画の目的と意義について	（学修内容）生活科の9領域を説明し、グループに分かれる （事前事後学修課題の内容）（30分） 生活科の9つの領域を調べておく
第6回	グループ・セッション	（学修内容）グループを移動しながら意見交換を行う （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容を振り返っておく
第7回	グループ・セッション	（学修内容）グループを移動しながら意見交換を行う （事前事後学修課題の内容）（60分） グループ内で出された意見をまとめておく
第8回	授業計画の策定 ねらい	（学修内容）授業計画をグループでまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） 計画作りに必要な材料や資料を用意しておく
第9回	授業計画の策定 方法	（学修内容）各グループ内で授業計画を完成させる （事前事後学修課題の内容）（30分） 計画作りに必要な材料や資料を用意しておく
第10回	季節の変化と生活 秋を体験する	（学修内容）学外の自然に触れ、季節の変化について体験する （事前事後学修課題の内容）（30分） 体験するための準備をしておく
第11回	ポスターセッション	（学修内容）授業計画を展示し、他グループの内容を参照する （事前事後学修課題の内容）（60分） 展示の準備をしておく
第12回	発表 前半グループ	（学修内容）ポスターセッションの内容を発表する （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表内容をまとめておく
第13回	発表 後半グループ	（学修内容）ポスターセッションの内容を発表する （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表内容をまとめておく
第14回	季節の変化と生活 秋を伝える	（学修内容）学外で体験した季節の変化について振り返る （事前事後学修課題の内容）（30分） 観察体験をまとめておく。学外での体験を授業計画に反映させる方法を 考えておく
第15回	まとめ	（学修内容）半期の学びを総括し、試験について説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 半期間のまとめをしておく

授業名	幼児理解			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Understanding Infants			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	西川 由紀子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	子ども理解は、幼児教育のあらゆる営みの基本となるものである。そこで、子どもの生活や遊びの実態に即して、幼児期にいたるまでの過程を含めて発達を解説しつつ、そこでの子どもの学びや保育者の基礎的な態度を解説する。また、その過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法も解説する。また保護者支援を念頭に置いてカウンセリングについても解説する。カウンセリングの解説では、簡単なロールプレイを行い、ディスカッションを通して、相談に乗る際に大切なことを理解できるようにする。								
学修成果到達目標	子どもを理解し保育を展開する方法を学ぶ 子ども理解の意義を理解している。子ども理解から発達や学びを捉える原理を理解している。子ども理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解している。個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。子どものつまずきを周りの子どもとの関係やその他の背景から理解している。保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。保育所や幼稚園における保育相談の意義と理論を理解している。保育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (90%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」ひとなる書房 西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	授業に対する感想や質問を毎時回収し、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留意事項									
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	子どもを理解するために必要なことは何か	(学修内容) 子ども理解に必要なことを考える (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 1章を読んでくる	
第2回	0歳児の発達と保育	(学修内容) 0歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p40から読んでくる	
第3回	1歳児の発達と保育	(学修内容) 1歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p88から読んでくる	
第4回	2歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 2歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p126から読んでくる	
第5回	2歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 2歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章を読んでくる	
第6回	3歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 3歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p146から読んでくる	
第7回	3歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 3歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでくる	
第8回	4歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 4歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p200から読んでくる	
第9回	4歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 4歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでくる	
第10回	5歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 5歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p232から読んでくる	
第11回	5歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 5歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでくる	
第12回	保育相談の留意点	(学修内容) ロジャースの3原則を解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) プリントを読んでくる	
第13回	カウンセリングの実際(ロールプレイ)	(学修内容) ロールプレイを行い、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 前週のプリントを復習する	
第14回	カウンセリングの実際(振り返り)	(学修内容) ロールプレイの振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ロールプレイの振り返りしておく	
第15回	子どもの問題行動のとらえ方	(学修内容) 子どもの問題行動をとらえる視点を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p108から読んでくる	

授 業 名	衣生活論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1302
英 文 名	Clothing and Human Life			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>私たちは、販売されている多くの既製のなかから衣服を選択し、購入して着用している。快適な衣生活を営むためには、衣服の材料やサイズ、管理の方法などの知識が必要である。本講義では、衣服の役割や機能、衣服に関する基礎的な知識について学ぶ。さらに、衣生活に関わる現代的課題について考える。理解を深めるため、適宜実習を取り入れながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣服の機能を理解し、説明することができる。 2. 衣服に関する総合的な知識を身につけ、説明することができる。 3. 衣生活にかかわる課題を指摘することができる。 								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	消費者の視点からの衣生活概論 [井上書院]								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで在室できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		衣生活論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義の目的と授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストに目を通しておく
第2回	衣服の役割	(学修内容) 衣服の役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第3回	衣服材料1: 繊維の種類	(学修内容) 繊維の種類と特色について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第4回	衣服材料2: 天然繊維	(学修内容) 天然繊維の種類と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第5回	衣服材料3: 化学繊維	(学修内容) 化学繊維の種類と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	衣服材料4: 糸の種類	(学修内容) 紡績糸とフィラメント糸について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	衣服材料5: 布の構造	(学修内容) 織物と編物の構造について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	衣服のデザイン	(学修内容) 衣服と色彩、デザインについて (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第9回	体型と衣服	(学修内容) 体型と衣服の形について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第10回	型紙の作成	(学修内容) 自分にあった原型を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第11回	型紙の完成	(学修内容) 原型を完成させる (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第12回	衣服のサイズ表示	(学修内容) 衣服のサイズ規格と表示方法について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第13回	快適な衣服: 気候と衣服	(学修内容) 衣服と体温調節について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第14回	衣服の手入れと洗濯	(学修内容) 洗濯と洗剤について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第15回	現代社会と衣服	(学修内容) 衣生活に関わる現代的課題について (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考える

授 業 名	衣生活実習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1305
英 文 名	Dress Making Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	乾 眞理子			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>市場には多種多様な衣料品が出回り、素材は日々変化している。そのような中、実習を通して、衣服の形状や布の特性、生産過程、管理の方法など衣服の基礎知識を深めることは、衣服の適切な選択、管理を行う上でも大変重要である。本実習では、基礎縫いとズボンやブラウスの布の選定から型紙製作、縫製、試着までを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 衣服材料の種類と性質、衣服製作に必要な道具の取り扱い方を説明できる。 2) 着用者に合わせたズボンとブラウスを完成できる。 3) 人体と制作物のデザインや着心地との関係について説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (基本技術の習得)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 (製作物の完成度)				
テ キ ス ト	プリントを配布する。								
参 考 書	中学校技術・家庭および高等学校家庭科の教科書								
課題に対する フィードバック の方法	制作物・レポートについては、点検し、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	教職を志望する学生は履修すること。 欠席、遅刻はしないように心がけること。万が一欠席した場合は、必ず自分で担当教員に申し出て、次回までに追いついておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回到提示する								
実践的教育									

授業名	衣生活実習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「ズボンの製作1」採寸、型紙作図	(学修内容)採寸と作図を行う。ズボン製作に必要な用具、布等の説明を聞く。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 裁縫道具の確認をして持参する。
第2回	「ズボンの製作2」裁断・縫製	(学修内容)裁断と印付け、ロックミシンの使い方を理解し、縫い代の始末を行う。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 布の地直しをしてくる。
第3回	「ズボンの製作3」縫製	(学修内容)ミシンを用い、本縫いを行う。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 前回のところまでズボン製作を行い、レポートを書いておく。
第4回	「ズボンの製作4」ウエストの始末	(学修内容)ウエストにゴムを入れ、完成させる。 試着を行い、みんなで観察し合う。 (事前事後学修課題の内容)(40分) ズボンとレポートを完成させ提出する。
第5回	「ブラウス製作1」ブラウスの作図	(学修内容)ブラウスの型紙を作図する。ブラウスに必要な布の説明を聞く。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 衣生活論の授業で描いた見頃の原型を持参する。 ブラウスに必要な布やボタンの調達と、布の地直しをする。
第6回	「ブラウス製作2」裁断と印付け	(学修内容)布を裁断し、印付けを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ブラウス用の布地・糸等を用意しておくこと。前回のところまでを完成し、レポートを作成しておく。
第7回	「ブラウス製作3」仮縫いと補正	(学修内容)布を組み立て、仮縫い合わせを行い、場合によっては補正を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ブラウスを前回のところまで完成させ、レポートを作成しておく。
第8回	「ブラウス製作4」縫い代の始末と接着芯貼り	(学修内容)縫い代を整理し、ロックミシンで縫い代の始末を行う。襟や見返しに接着芯を貼る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ブラウスを前回のところまで完成させ、レポートを作成しておく。
第9回	「ブラウス製作5」身頃作り	(学修内容)肩縫い合わせ、脇縫い合わせ、裾の始末を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ブラウスを前回のところまで完成させ、レポートを作成しておく。
第10回	「ブラウス製作6」襟作り	(学修内容)襟を作る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ブラウスを前回のところまで完成させ、レポートを作成しておく。
第11回	「ブラウス製作7」袖作り	(学修内容)袖山をいせ込み、袖下・袖口を縫う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ブラウスを前回のところまで完成させ、レポートを作成しておく。
第12回	「ブラウス製作8」襟付け	(学修内容)襟を身頃に付ける。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ブラウスを前回のところまで完成させ、レポートを作成しておく。
第13回	「ブラウス製作9」袖付け	(学修内容)袖を身頃に付ける。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ブラウスを前回のところまで完成させ、レポートを作成しておく。
第14回	「ブラウス製作10」ボタンホール、ボタン付け、仕上げ	(学修内容)ボタンホールを作り、ボタンを付ける。仕上げを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ブラウスとレポートを完成させ提出する。
第15回	試着と部分縫い	(学修内容)試着し、みんなで観察しあう。 部分縫いの製作を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 部分縫いとその使用について、調べておく。

授 業 名	カラーコーディネート論（現代家政-HE1409）、生活色彩（食物-FN1305）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Color Coordinates			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山部 泰司			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	色彩理論を学び、色彩についての基礎知識と基礎能力の修得を目指すとともに、生活の衣食住の場面において色彩が持ち得る役割について理解し、それを実際の場面計画できるを能力を深める。また、授業では配布するワークシートに実際に配色することで、色彩に対する実践的力を学ぶ。また、できた作品を相互に鑑賞することで色彩理論を感覚で確認する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 衣食住における色彩についてその意味と効果を理解できる。 2) 科学的、心理的、文化的アプローチや様々な色彩理論によって色彩計画を読解できる。 3) 配色や色彩計画の演習を行って、さまざまな場面で色彩を計画できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	『カラーコーディネーター入門色彩 改訂増補版』大井義雄、川崎秀昭著、(日本色研事業株式会社)								
参 考 書	プリント等で配布する								
課題に対するフィードバックの方法	各課題のワークシートをファイリングし、確認、適時指導する。								
留 意 事 項	実際に色カードや絵の具による配色演習を行なう 色彩検定などのアドバイスは必要に応じて適時行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施、その他、可能時間を授業時に伝える。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：美術館等でのワークショップ、作品制作								

授 業 名	カラーコーディネート論（現代家政-HE1409）、生活色彩（食物-FN1305）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	色彩について1 色とは	（学修内容）導入 色彩を学ぶこと、楽しむこと （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストに目を通しておく
第2回	色彩について2 視覚のメカニズム	（学修内容）光と色/目の働きについて理解する 視覚のメカニズム、プリズムの具体的な効果を知る （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.2～7を読んでキーワードをマーキングする
第3回	色彩の体系と属性 1	（学修内容）色名と表色系：色の記録と伝達について 系統色名、マンセルシステム、PCCS等の色相環を配色カードで学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.8～15を読んでおく。ワークシートを振り返り完成させる。
第4回	色彩の体系と属性 2	（学修内容）日本色研配色体系（PCCS）について トーン概念について、ワークシートで体験を通して学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.16～19を読んでおく。
第5回	色彩の体系と属性 3	（学修内容）マンセルシステム、オストワルトシステム他 色彩理論の多様性について知る （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.20～27を読む ワークシートを振り返り、完成させる。
第6回	色彩の混合 1	（学修内容）色の混合：加法混色、減法混色等を理解する 照明と商品の見え方についてディスカッションをする （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.28～33を読んでまとめる
第7回	色彩の混合 2	（学修内容）色の混合の実験：色彩の混合を体験する 継時加法混色、併置加法混色など（色コマを制作する） （事前事後学修課題の内容）（30分） 今までの講義内容を確認して、ワークシートをファイリングする
第8回	照明/色彩の心理 1	（学修内容）照明と色彩/色の見えの効果：見えないものが見えることについて 明度対比、色相対比、彩度対比、ハーミングリッド、縁辺対比など （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.34～39を読む。ワークシートを完成させる。
第9回	色彩の心理 2	（学修内容）色の見えの効果：見えやすさ、見え方の変化 同化現象、視認性、進出色と後退色などのワークシート （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.40～42を読む。通学途中の標識などを見ておく。
第10回	色彩の心理 3	（学修内容）色のイメージ：色の社会的な意味について 色のイメージ、色彩と連想、色彩と象徴についてワークシートで学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.43～47を読む。ワークシートを完成させる
第11回	色彩調和の理論1	（学修内容）様々な基準に基づく色彩調和について 色相を基準にした配色、明度を 基準にした配色、彩度を基準にした配色など。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.48～53を読む。ワークシートを完成させる
第12回	色彩調和の理論2	（学修内容）配色技法の体験 ベースカラーとドミナントカラー、セパレーションの 方法、アクセント効果、グラデーション、レベテーションなど （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.54～63を読む。ワークシートを完成させる
第13回	色彩計画（カラープランニング）	（学修内容）配色技法の応用：日常空間の配色を考えるイメージと配色の関係。ダウ ンジャケットの配色デザインのワークシートの制作 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.70～71を読む。ダウンジャケットのは異色についてのアイ デアをまとめる
第14回	色彩計画（カラープランニング）	（学修内容）個人空間、住空間、都市空間の配色を考えてみる ダウンジャケットの配色デザインの発表し、意見交換。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.72～73を読む
第15回	まとめ	（学修内容）色彩についてのまとめ ワークシートをファイリングし各自の資料作成 （事前事後学修課題の内容）（30分） いままでのワーキングシートを振り返り完成させ持参する

授 業 名	食の科学 (調理学)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1401
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	調理は、安全で栄養効率のよいおいしい食べ物を調製するために行なう操作である。食物のもつ特性を理解し、科学理論に基づいた操作を行なうことができるよう基礎的事項について学ぶ。実際の調理場面を想定し理論がどう活かされているかなどについてディスカッションし理解を深めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 調理の目的・調理理論を理解できる 2) おいしさに関する因子について理解できる 3) 理論を理解し日常の調理で実践することができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用的能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	調理学 フードスペシャリスト協会 編 建帛社								
参 考 書	講義内で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	前回の復習を講義冒頭に行い、返却課題に関する解説も同時に行う。								
留 意 事 項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理上の疑問を明らかにしておくこと								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授業名	食の科学（調理学）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	調理の意義と目的	（学修内容）調理の変遷、食事形態の特徴などについて知り調理の目的・意義について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p2-3を読んでおく 調理の目的について簡潔にまとめておく
第2回	おいしさに関する要因1（食べ物の因子）	（学修内容）おいしさに関与する食べ物の化学的・物理的因子などについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p3-18を読んでおく 食べ物の基本味と味の相互作用例についてまとめておく
第3回	おいしさに関する要因2（食べる人の因子）	（学修内容）おいしさに関与する喫食者側の生理的・心理的因子などについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p17-29を読んでおく おいしさに大きく寄与する因子について考え、まとめておく
第4回	食事計画と調理	（学修内容）食事計画における調理環境などの因子についての考え方について （事前事後学修課題の内容）（60分） 献立を立てるメリットについて考えておく 献立作成するときの留意点についてまとめておく
第5回	調理操作1（予備操作）	（学修内容）浸漬、洗浄、切断、混合他の操作と調理用具について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p42-51を読んでおく
第6回	調理操作2（非加熱操作）	（学修内容）生食料理の注意事項、冷凍・冷蔵について学ぶ 各家庭の冷蔵の仕方などについて意見交換 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p53-59を読んでおく
第7回	調理操作3（加熱操作）	（学修内容）湿式加熱、乾式加熱、誘電・誘導加熱の特徴について 誘導加熱のメリットについて意見交換 （事前事後学修課題の内容）（60分） 加熱調理器具の特徴について考えてまとめておく
第8回	調理操作4（調味）	（学修内容）調味料の特徴と調味操作について学ぶ 調味料の浸透と料理例および調理時間などの関連について意見交換 （事前事後学修課題の内容）（60分） 家庭にある調味料の種類と利用状況について調べておく
第9回	植物性食品の調理特性1（穀類）	（学修内容）米、小麦の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 米や小麦を使った調理例について調べておく 特徴を生かすために注意しなければならない点はどこか考えてみる
第10回	植物性食品の調理特性2（豆類、イモ類）	（学修内容）豆、イモ類の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p86-97を読んでおく 特徴を生かすために注意しなければならない点はどこか考えてみる
第11回	植物性食品の調理特性3（野菜類、果実類など）	（学修内容）野菜、果実の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p117-123を読んでおく 野菜の特徴を生かす料理法について考えてみる
第12回	動物性食品の調理特性1（食肉）	（学修内容）牛、豚、鶏肉の体組織の構造と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p99-104を読んでおく 肉の特徴をまとめ、調理例について考えてみる
第13回	動物性食品の調理特性2（魚介類）	（学修内容）魚介類の体組織の構造と調理特性について 魚の鮮度とテクスチャーとの関連性について話し合ってみる （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p105-109を読んでおく 肉の特徴をまとめ、調理例について考えてみる
第14回	動物性食品の調理特性3（卵類、乳・乳製品）	（学修内容）卵の構造・成分と調理特性、乳・乳製品の調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p109-115を読んでおく 卵の調理特性についてまとめ、調理例について考えておく
第15回	調理と摂食機能	（学修内容）食べる機能と調理の工夫について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p138-148を読んでおく 咀嚼と嚥下の仕組みについてまとめ、食べにくい食品・料理を考えてみる

授 業 名	住生活論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Living Life Theory			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	住むことと生活との関わり合いを考えていく。住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識の習得をおこない、住宅図面の基礎的な読解能力ならびに作図能力を学ぶ。現在のわれわれが抱える少子高齢化や居住福祉、ライフスタイルなどといった居住をめぐる問題の解決方法を、住居のありようから探り、本当に快適な住環境とはどのようなものかについて総合的に学習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 今後のあるべき住居の理想像を生活の観点から説明することができる。 2) 住宅図面の基礎的な読解ならびに作図をおこなうことができる。 3) 住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識を説明することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	未定								
参 考 書	図説・近代日本住宅史 内田青蔵 他 鹿島出版会 2001、住まいと家族をめぐる物語 西川祐子 集英社新書 2004								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして、住宅見学後に提出したレポートにコメントを付けて返却し、講評をおこなう。								
留 意 事 項	外部の住宅見学を実施する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授 業 名		住生活論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	住生活論を学ぶ意義	(学修内容) 住まいの意味・日本人の住居観・住まいの快適さ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が体験してきた住まいについてまとめておくこと	
第2回	生活空間の計画	(学修内容) 生活の分析・各空間の機能・寸法と単位 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第3回	住居の計画	(学修内容) 間取りの意味・室空間の取扱 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第4回	現代の住宅	(学修内容) 和風と洋風の住まい (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第5回	日本の住宅史	(学修内容) 伝統的な住まいのありよう (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第6回	住宅見学・京都の名作住宅・フィールドワーク	(学修内容) 京都市内の名作住宅の見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を事前に習熟	
第7回	外国の住宅史	(学修内容) ヨーロッパ・アメリカ・アジア・アフリカ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第8回	集合住宅の意義	(学修内容) 共同して住む家 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第9回	環境と住まい	(学修内容) 気候風土と室内環境 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第10回	都市と住まい	(学修内容) 市街化住宅(町家と長屋)と郊外型住宅(ニュータウン) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第11回	住宅見学・京都の集合住宅・フィールドワーク	(学修内容) 京都市内の集合住宅の見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を事前に習熟	
第12回	住宅見学についてのディスカッション	(学修内容) 住宅見学の講評ならびにディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が見学会の感想をまとめて用意する。	
第13回	住宅図面の読解能力	(学修内容) 設計図面の内容・表記方法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 物差しなどなどの使い方を事前に習熟	
第14回	名作住宅の紹介	(学修内容) 町家など京都の住宅を事例に (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で見た内容を整理	
第15回	より良き住生活への提案のプレゼンテーション	(学修内容) 住生活への提案のプレゼンテーションと講評 (事前事後学修課題の内容) (60分) 小レポートとしてまとめ、提出	

授 業 名	食の科学 (食品学)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1408
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	健康を維持し豊かな食生活を送るためには、食品成分の特性さらにおいしさを感じさせる要因である食品の物性や機能性成分、食品中の化学変化などをよく理解し食品選択することが必要である。本講義ではこれらの食品に関する基礎的事項について理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品に含まれている成分の特性が理解できる。 2) 食品のもつ機能について理解できる。 3) 食品の加工・調理による変化について理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()	
テ キ ス ト	露木英男、田島真 著、「食品学－栄養機能から加工まで－第3版」、共立出版、2018								
参 考 書	講義の中で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題や小テストについては返却時に解説を行い、理解が進むようにしていく。								
留 意 事 項	毎日なにげなく食べないで、食品に関心を持って生活してください。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授業名	食の科学 (食品学)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品とは	(学修内容) 食品の定義および生活の変化により生じた食品の多様性について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく。教科書の p.1、7-9を読んでおく。 食品の定義についてまとめておく。
第2回	食品の分類	(学修内容) 食品成分表の目的と概要、食品の分類法について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p2-7を予習しておく。 食品成分表の最初の解説について読んで理解を深める。
第3回	食品中の一般成分 三大栄養素	(学修内容) 炭水化物、タンパク質、脂質の特性と食品中の働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p14-32を読んでおく。 三大栄養素のそれぞれの食品中での特徴についてまとめ理解を深める。
第4回	食品中の一般成分 ビタミン、ミネラル	(学修内容) ビタミン、ミネラルの特性と働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p32-37を読んでおくこと ビタミン、ミネラルの食品中での働きについてまとめて理解を深める。
第5回	食品中の一般成分 水	(学修内容) 水の働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p13-14を読んでおく。 一般成分について復習しておく。
第6回	食品中の嗜好成分	(学修内容) 色、香、テクスチャーに関わる成分の種類とその働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p47-55を予習しておく。 おいしさの因子についてまとめて理解を深める。
第7回	食品中のその他の成分	(学修内容) 機能性成分および有毒成分の種類とその働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p39-46を予習しておくこと。 市販食品中の機能性成分について調べ理解を深める。
第8回	食品の加工による変化 褐変	(学修内容) 酵素的褐変と非酵素的褐変について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p57-63を予習しておくこと。 褐変を利用した食品についてまとめておく。
第9回	食品の加工による変化 油脂	(学修内容) 油脂の酸化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p142-145を読んでおくこと。 油脂の種類と特徴についてまとめる。
第10回	微生物・酵素を用いた食品の加工	(学修内容) 微生物・酵素を用いた食品加工における食品成分の変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p63-65を読んでおく。発酵食品についてどのようなものがあるか調べ、その特徴についてまとめておく。
第11回	植物性食品の特徴 穀類、芋類、豆類、種実類	(学修内容) 穀類、芋類、豆類、種実類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p79-99を予習しておくこと。 各食品群特徴についてまとめる。
第12回	植物性食品の特徴 野菜類、果物類、キノコ類、海藻類	(学修内容) 野菜類、果物類、キノコ類、海藻類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p101-117を予習しておくこと。 各食品の特徴についてまとめる。
第13回	動物性食品の特徴 肉類、魚類	(学修内容) 肉類と魚類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p118-136を予習しておく。 肉と魚の食品学的違いについてまとめてみる。
第14回	動物性食品の特徴 卵類、乳類	(学修内容) 卵類、乳類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の p137-142を予習しておく。
第15回	その他の食品の特徴	(学修内容) 新規に開発された食品などの特徴について (事前事後学修課題の内容) (60分) 遺伝子組み換え食品などについて調べておく。 食品の表示についてまとめておく。

授業名	家庭経済学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Home Economics			開講時期	秋学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>金銭で表わされる家庭の収入・支出関係を家計という。まず、生活経済システムの中で家庭経済はどのように位置づけられ、他のシステムとどのように関連しているのかを学ぶ。そしてさらに家計や家計費の構造、個人と家計の関係はどのようなになっているのかを理解する。多様化する個人の価値観やライフスタイルの変化も視野に入れながら、制度やシステムの課題を考える。授業はできるだけ双方向の形で進め、受講者の発表も多くとり入れていく。また、ビデオなどの視聴覚資料も用いる。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 家庭経済の基本的事実と経済システムとの関連についての基礎的知識を習得することができる。 2) 家庭経済が果たしている機能を理解することができる。 3) 家庭経済と関連する社会制度やシステムの課題を理解することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『新訂 生活経済学』重川純子(NHK出版)								
参考書	授業時に適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	グループワークやプレゼンテーションにおいてコメントする								
留意事項	アクティブ・ラーニングの方法を積極的に用い、ワークショップを催し、個々のプレゼンテーションの機会を設ける。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 嘱託研究員</p>								

授業名	家庭経済学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・家庭経済の概念	(学修内容) 家庭経済とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) 家庭経済という言葉の意味を調べておく。
第2回	近代以前の経済	(学修内容) 近代以前の経済の循環について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 「近代」の言葉の意味を調べておく
第3回	近代以降の経済	(学修内容) 近代化以降の経済の循環について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第4回	誕生から現在までの社会経済的状況	(学修内容) 自分が生まれた時から現在まで社会的経済的出来事の年表をつくり、家庭生活の変化についてグループで話し合い、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 約20年間の社会的な出来事を調べておく
第5回	家計調査	(学修内容) 家計調査とは何か理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく
第6回	家計調査分析	(学修内容) 家計調査のデータを使って具体的に分析してみる (事前事後学修課題の内容) (30分) 家計調査のデータをみておく
第7回	消費と消費者問題	(学修内容) 消費の実態と問題について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が物やサービスを購入するときの目的を考えてみる
第8回	無償労働	(学修内容) 無償労働はどのような役割を果たしているかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 無償労働とはどのようなものか考えておく
第9回	家計にみる暮らしの変化	(学修内容) 戦後の家計の変化を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく
第10回	生活設計とリスク	(学修内容) 子どもにかかる費用について、グループワークを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもにかかる費用としてどのようなものが考えられるか考えてくる
第11回	「子どもにかかる費用」についてのケースワーク	(学修内容) 前回のグループワークのまとめをプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のグループワークのまとめをしておく
第12回	妻と夫の経済関係	(学修内容) 妻と夫の経済的な分担、共同について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく
第13回	消費社会と家計	(学修内容) 消費行動と消費者問題について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく
第14回	高齢期の生活と社会保障	(学修内容) 高齢者の家計の実態と課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りをする (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容をまとめておく

授業名	生活経営学			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Life Management			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政3回生、食物栄養学科3回生				
授業の概要	個人における日常の生活は、家族や家庭外のさまざまなシステムとかがわっており、それらといかにかうまく連携し、新たなシステムを作っていくかが生活の質を決定していく。つまり、生活者がいかに自分自身のもっている資源や自分の外にある外部資源をうまくマネジメントしていくかが重要なこととなる。そこで本講義では、くらしを取り巻くシステム、システム間の連関、課題など、生活の諸次元の現状と問題点を学び、生活経営の新たな試みの現状を探っていく。								
学修成果到達目標	1) 自分自身の生活を営むことには、さまざまな社会の領域がかかわっていることを理解できる。 2) どのようなシステムが、個々のウェルビーイングの達成を可能にするのかを考えることができる。 3) 生活経営に関連する事象についてまとめ考察し、発表できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	() () ()		
テキスト	『暮らしを作りかえる生活経営力』日本家政学会生活経営学部会編(朝倉書店)								
参考書	『下層化する女性たち：労働と家庭からの排除と貧困』宮本みち子ほか編(勤草書房)、『ライフコースから見た女性学・男性学』乙部由子(ミネルヴァ書房)、『育児は仕事の役に立つ』浜屋祐子ほか編(光文社新書)、『働く女子のキャリア格差』国保祥子(ちくま新書)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、『「家事のしすぎ」が日本を滅ぼす』佐光紀子(光文社新書)、『平成の家族と食』品田知美編(晶文社)								
課題に対するフィードバックの方法	発表においては、コメントします。 リアクションペーパーに対して、コメントします。								
留意事項	アクティブ・ラーニングの方法を積極的に用い、ワークショップを催し、個々のプレゼンテーションの機会を設ける。そのため、授業の順序が異なることもある。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 嘱託研究員								

授 業 名		生活経営学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく
第2回	生活枠組みの変容と新たな生活経営主体の形成	(学修内容) 家族や雇用の変化について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第3回	生活枠組み変容の事例	(学修内容) 価値観の変化について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第4回	経済システムと家族・個人	(学修内容) 家族や個人が経済システムの中でどのように位置づけられているのかを理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第5回	家事・子育て・介護と社会保障	(学修内容) ワークショップを行い、家事・子育て・介護の社会的な位置づけについて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第6回	女性の就業と生活経営	(学修内容) ワーク・ショップを行い、女性の就業、パートナーとの家事育児分担についての現状と課題を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第7回	就業と法律	(学修内容) ワークショップを行い、就業に関連した法律について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第8回	就業と母性保護	(学修内容) ワークショップを行い、母性保護に関連した法律について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第9回	生活の社会化と生活資源	(学修内容) ワークショップを行い、生活資源の調達について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第10回	生活の社会化と生活資源をコントロールした事例研究	(学修内容) ワークショップを行い、保育の社会化の事例、家庭内での生活資源について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第11回	参加と協働でつくる組織	(学修内容) ワークショップを行い、第3セクターの実態・可能性について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第12回	新しい協働のケーススタディ	(学修内容) ワークショップを行い、コレクティブハウス等の事例について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第13回	福祉社会と生活保障	(学修内容) 福祉レジームについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく
第14回	個人と社会を結ぶ生活保障システムの構築	(学修内容) 今後の生活保障システムについて考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの授業のふりかえりをする (事前事後学修課題の内容) (30分) 半期間の授業のまとめをしておく

授 業 名	家族社会学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Family Sociology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>私たちは出生から死亡までの一生を通じて、あらゆるライフステージにおいて家族とさまざまな関わりをもちながら生活している。つまり多くの人が自分自身の「家族にかかわる体験」をもつため、個々が経験したり見聞きしたりすることを一般化しがちで、相対化することが難しい。そこで本講義では、家族にかかわる現象を理解するため、家族社会学についての基礎的な概念や家族社会学の方法を学び、家族の相対化を試みる。できるだけグループワークなどの手法を用いながら、参加型の授業にしていきたい。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 家族に関する現象を客観的に分析する視点をもつことにより、「家族問題」とされている事象を多角的に分析できるようになる 2) データを読み解く力がつく 3) 自分自身の家族体験を相対化することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	『よくわかる現代家族』神原文子ほか編著、ミネルヴァ書房 ほか配布プリント								
参 考 書	『21世紀家族へ 第3版』落合恵美子(有斐閣) 『家族を超える社会学』牟田和恵編著(新曜社) 『未来をひらく男女共同参画』西岡正子(ミネルヴァ書房)								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたりアクションペーパーに対して、コメントします。								
留 意 事 項	3回生時に「生活経営学」を履修する人は、本授業を受講してほしい。 授業時には積極的な発言が期待されます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 嘱託研究員								

授業名	家族社会学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	家族とは何かーファミリー・アイデンティティ	(学修内容) 主観的家族について考える(ディスカッションを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく
第2回	近代家族の成立	(学修内容) 近代家族の成立過程について理解をする (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第3回	家族の変化: 家族機能	(学修内容) 家族機能の変化について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第4回	家族の自助原則	(学修内容) 家族の自助原則・地域社会との関係について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく
第5回	戦後の子育ての変化1	(学修内容) 戦後から高度経済成長期までの子育てについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第6回	戦後の子育ての変化2	(学修内容) 高度経済成長期以降の子育てについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第7回	家族の変化: 家族形態	(学修内容) 家族形態の変化について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第8回	結婚の動向: 未婚化・晩婚化の実情	(学修内容) 晩婚化・未婚化の実態について統計資料をもとに学ぶ(グループワークを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第9回	結婚の動向: 未婚化・晩婚化の要因	(学修内容) 未婚化・晩婚化の要因について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第10回	出産と少子化	(学修内容) 少子化の現状とその要因・影響について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第11回	生殖技術と家族: 技術の現状	(学修内容) 生殖技術の歴史と現在の実態について理解する(グループワークを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第12回	生殖技術と家族: 課題	(学修内容) 生殖技術の家族への影響について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第13回	家族における抑圧と暴力	(学修内容) 愛情規範と暴力の関係について考える(グループワークを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第14回	親密性について	(学修内容) 親密性とは何かについて理解し、現在ではどのようなところではたされているか考える(ビデオ学習し、ディスカッションする) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第15回	まとめ	(学修内容) 半期間の学びの振り返りとまとめ (事前事後学修課題の内容)(30分) 半期間のまとめをしておく

授 業 名	比較家族論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Comparative Study of Family			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>一口に家族といってもそのありようは様々であり、社会・文化・宗教によって多様な形態をとる。本講義では「子を育て、生をつなぐための、親族を基盤とした社会的装置」として家族を位置づけ、世帯レベルだけでなくそれを内包する親族集団をも射程にとらえて、多様な家族像を通文化的かつ人類史的に概観する。それらの多様性をふまえたうえで、現代日本における家族のありようの動態をとらえ、将来の日本の家族像を展望する。ほぼ毎回グループワークを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 文化・地域・歴史などにより家族は多様であることを知ることができる。 2) 家族の形と社会のあり方の関係を理解することができる。 3) 子を育てる社会的装置としての機能に注目し、日本の家族が抱える問題について考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する。								
参 考 書	授業中に適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内でコメントする。								
留 意 事 項	グループワークを重視します。積極的に発言してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授 業 名		比較家族論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	家族とは何か～はじめに	(学修内容) 家族の定義について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、「家族とは何か」について考えておく	
第2回	家族の起源	(学修内容) 霊長類の社会集団 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第3回	アフリカ狩猟採集民 1	(学修内容) ブッシュマンの家族と親族集団 1 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第4回	アフリカ狩猟採集民 2	(学修内容) ブッシュマンの家族と親族集団 2 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第5回	東アフリカ牧畜民	(学修内容) 東アフリカ牧畜民の家族と親族集団 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第6回	アフリカ農耕民	(学修内容) アフリカ農耕民の家族と親族集団 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第7回	極北インディアン	(学修内容) ヘヤー・インディアンにおける家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第8回	イスラム圏	(学修内容) イスラム教圏における家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第9回	西洋	(学修内容) 西洋キリスト教社会における家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第10回	タイ	(学修内容) 仏教圏の家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第11回	韓国	(学修内容) 家父長制と儒教理念 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第12回	一妻多夫	(学修内容) 一妻多夫性の家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく	
第13回	多様な家族：家族と社会の関係	(学修内容) 家族と社会の関係・日本の家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 討論に備えて自分の考えをまとめておく	
第14回	子を育てる社会的装置	(学修内容) 子育ての比較文化論 (事前事後学修課題の内容) (30分) 討論に備えて自分の考えをまとめておく	
第15回	家族とは何か～おわりに	(学修内容) 授業をふまえて家族について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 討論に備えて自分の考えをまとめておく	

授業名	服装社会学			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Clothing Society			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>服装は、社会生活を営むうえで重要な役割を果たしている。歴史的にも、社会階層やジェンダーなどを反映して形成されてきた。本講義では、近代以降、服装が社会状況や規範意識を反映してどのように変化してきたのかをたどる。さらに、民族服が形成された過程や意味づけ、各国の民族服の特徴について考える。理解を深めるために、適宜プレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服装の社会的機能について理解できる。 2. 近代に日本の服装がどのように変化したのか説明することができる。 3. 民族服の成り立ちについて理解できる。 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テキスト	使用しない。								
参考書	授業で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項									
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 授業の概要 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく	
第2回	資料にみる近代の生活と服装	(学修内容) 近代初期の資料にみられる人々の服装について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく	
第3回	近代社会と服装 - 近代化と服装の変化	(学修内容) 近代化による社会の変化と服装について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく	
第4回	近代社会と服装 - 男性の服装の変化	(学修内容) 男性の服装の洋装化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく	
第5回	近代化と服装 - 女性の服装の変化	(学修内容) 女性が着用した洋服と和服について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく	
第6回	近代社会と服装 - 和服の意味づけ	(学修内容) 和服に付与された近代的な意味づけについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく	
第7回	近代社会と服装 - 和服文様の変化	(学修内容) 和服文様の近代的な変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく	
第8回	近代化と服装 - 近代的和服の形成	(学修内容) 和服の近代的な変化の様相について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく	
第9回	近代社会と服装 - 洋服・和服とジェンダー	(学修内容) 近代の服装にみるジェンダーについて (事前事後学修課題の内容) (30分) ジェンダーについて調べておく	
第10回	民族服の成り立ち	(学修内容) 世界の民族服と成り立ち (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料をよんでおく	
第11回	民族服について調べる 国の歴史と服装	(学修内容) 民族服の歴史について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 民族服について調べる	
第12回	民族服について調べる 染織技法と文様	(学修内容) 民族服に施された文様や染織技法について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 民族服について調べる	
第13回	民族服について調べる 現代社会における民族服	(学修内容) 民族服の用いられ方を調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 民族服について調べる	
第14回	プレゼンテーション	(学修内容) 民族服について調べたことをプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (30分) プレゼンテーション資料を作成する	
第15回	総括	(学修内容) 全体のまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業を振り返り考えたことをまとめておく	

授業名	ファッション論			開講学年	2・3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Clothing Culture			開講時期	秋学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政2回生・3回生				
授業の概要	ファッションは、時代により、また地域によって多様である。本講義では、日本と西洋のファッションの流れをたどり、現代ファッションの特色と現代的課題について考える。理解を深めるために、適宜映像を鑑賞しディスカッションを行う。								
学修成果到達目標	1. 日本と西洋のファッションの変化を説明することができる。 2. 現代的なファッションの成立について理解することができる。 3. 現代社会におけるファッションにかかわる課題を理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	指定しない								
参考書	授業で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項									
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授業名	ファッション論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義内容と授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく
第2回	日本のファッション：平安時代	(学修内容) 平安時代の服装と身分、ジェンダーについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	日本のファッション：江戸時代の社会と服装	(学修内容) 江戸時代の身分制と服装について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第4回	日本のファッション：江戸時代の女性の服装	(学修内容) 江戸時代の身分と女性の服装について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	日本のファッション：近代の服装	(学修内容) 近代の街頭調査にみる女性のファッションについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第6回	現代の和服産業	(学修内容) 和服産業の現状について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第7回	高度経済成長期の服飾	(学修内容) 合成繊維産業の発達と既製服について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第8回	西洋のファッション	(学修内容) ロココの時代のファッションについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第9回	西洋のファッションと近代化	(学修内容) コルセットからの解放とファッションの変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第10回	デザイナーの出現	(学修内容) 近代社会の形成とデザイナーについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第11回	デザイナーの活躍：シャネル	(学修内容) シャネルの生涯とデザインについて 映像の鑑賞とディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第12回	デザイナーの活躍：ディオール	(学修内容) ディールのデザインについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第13回	デザイナーの活躍：日本人デザイナー	(学修内容) 日本人デザイナーの活躍について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第14回	ファストファッション	(学修内容) ファストファッションの出現と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第15回	現代社会における課題	(学修内容) 現代社会における衣生活に関わる課題について (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考える

授 業 名	児童文化論			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Cultural Studies of Children			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	岸 優子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>1) 子どもの文化を創り上げてきた歴史的経緯を理解できる。 2) 遊びや玩具、児童文化財を通して、児童文化を具体的に理解できる。 3) 子ども固有のものの方、考え方、感じ方について簡潔に説明できる。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 子ども についての社会的歴史的変遷について理解できる。 2) 子ども に対するおとなのまなざしの歴史を説明できる。 3) 具体的な遊び、児童文化財および子どもの世界観の把握し、児童文化について自分の言葉で3分間のプレゼンテーションができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	適宜、プリントを配布する。								
参 考 書	適宜、紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	受講生は、毎回、「振り返り用紙(学びのポートフォリオ)」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。								
留 意 事 項	児童文化は多様なので、受講生の興味・関心に応じて、毎回のテーマは、柔軟に対応する。 なおフィールドワークについては、事前に受講生と充分相談・説明のうえ、施設の場所・実施時間等の都合により、授業時間外の曜日・時刻に変更することもある。やむを得ず欠席する場合は、必ず、事前に連絡すること。当日の無断欠席は、単位取得の意思がないものとみなすので、くれぐれも注意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で伝える。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：保育所で勤務。現場経験をもとに事例を積極的に取りあげる。 子育て支援員。								

授業名	児童文化論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 授業の目的および詳細について	(学修内容) 授業の目的や内容や評価方法を理解し、大まかな授業の流れを確認できる。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 予習としてシラバスを読んで授業の内容、評価方法などを確認しておく。
第2回	子ども とは何か 1 子どもの独自性と大人	(学修内容) 子ども という存在について考えることができる。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 復習として 子ども の定義について自分なりにまとめておく。
第3回	子ども とは何か 2 ルソーの「子どもの発見」	(学修内容) 「子どもの発見」についての考え方を理解することができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として子どもの頃の忘れられない思い出について書いてくる。
第4回	子ども とは何か 3 フィールドワーク	(学修内容) 子どものものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。 見学(場所: 博物館) (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として子どもの頃のようなことをして過ごしていたか、楽しかったこと、悲しかったことなど覚えていることを書いてくる。
第5回	子ども とは何か 4 プレゼンテーション	(学修内容) 子どもと大人の関係性について理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として幼少期の経験の中で印象に残った出来事を考えてくる。
第6回	子ども の遊びの種類について 1 プレゼンテーション	(学修内容) 遊びとは何かについて理論的に理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として子どもの頃の楽しかった遊びについて書いてくると共に、その理由を考えてくる。
第7回	子ども の遊びの種類について 2 フィールドワーク	(学修内容) 世代による、具体的な遊びの内容について理解できる。 見学(場所: 京都市学校歴史博物館) (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として子どもの頃、ひとりで熱中した遊びの詳細について書いてくる。
第8回	子ども の遊びの種類について 3 世代・年代別子どもの遊びの種類と特徴	(学修内容) 具体的な遊びの内容について理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として子どもの頃、友達と夢中になった遊びについて課題用紙に書いてくる。
第9回	子ども の遊びの種類について 4 子どもの遊び(戸外) - プレゼンテーション	(学修内容) 具体的な遊びの内容についてその意義を考えることができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として戸外の遊びについて調べて、プレゼンテーションする練習をしておく。
第10回	子ども の遊びの種類について 5 フィールドワーク	(学修内容) 具体的な遊びの内容について、その分類方法について理解できる。 見学(場所: 児童文化関連施設) (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、郷土の興味のある遊びについて調べておく。
第11回	子ども の遊びの種類について 6 発達段階にみる子どもの遊び	(学修内容) 具体的な遊びの内容について発達段階ごとに理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 予習として興味のある遊びについて年齢別に調べておく。
第12回	子ども の遊び まとめ	(学修内容) 子どもの遊びの歴史の変遷について理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として昔の遊び、現在の遊び、これからの遊びについてまとめておく。
第13回	玩具と子ども(地域における特徴) プレゼンテーション	(学修内容) 子ども向け玩具について考える。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 予習としてかつて自ら遊んだ玩具を思い出し、気に入っていた点をまとめておく。
第14回	現代の玩具 プレゼンテーション	(学修内容) 現代のさまざまな玩具を取り上げ、昔の玩具との違いについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 復習として玩具とはなにか、自分なりに簡潔な言葉でまとめておく。
第15回	これまでの内容を振り返り、児童文化について気づいたことをまとめる。	(学修内容) 授業のまとめをし、児童文化について今後の課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として児童文化とは何か、これまでの学びを振り返り、自分の言葉で考えをまとめておく。

授 業 名	保育原理 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1406
英 文 名	Principles of Child Care			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	子どもの育ちを考えると、保育の問題は社会状況と深くかかわっている。この授業では、保育の理念や概念、保育制度などの理解を深める。また、保育所保育指針や保育の特性、保育実践等について乳幼児の発達を理解しながら学ぶ。また、保育の歴史にもふれ、保育の現状と課題についても考える。ビデオをみることもあり、グループでの討議も行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代家庭の保育事情を理解することができる。 2) 保育の理念、保育制度、保育所保育指針の内容、保育実践などについて理解することができる。 3) 保育の歴史を学び、これからの日本の保育について考察することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	天野珠路・北野幸子編著 『新基本保育シリーズ 保育原理』中央法規 2019年								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出レポートの返却時に、解説をする。授業時のレポートについても、説明をして返却する。								
留 意 事 項	授業中に課題を出し、レポート提出をすることもある。そのテーマは、事前学習や事後学習との関連で行う。ビデオを見ることもあり、その内容についてレポート提出で考察を求めることもある。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室前、演習室に掲示する。在室の時は可能である。(時間が取れない時は、あとで連絡する。メールにより、予約も可能。)								
実 践 的 教 育									

授 業 名		保育原理 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	保育の理念と概念	(学修内容) 保育の理念、概念・子どもを育てること (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p2～12を読み、理解する。	
第2回	保育の社会的役割	(学修内容) 保育の社会的役割と責任 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p14～26を読み、理解する。	
第3回	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	(学修内容) 保育の制度的位置づけ (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、テキスト p28～38を読み、保育と制度を理解する。(事後に、コラム:「保育士の確保策」を読み、レポート提出・800字程度)	
第4回	保育の実施体系	(学修内容) 保育の実施体系について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p40～50を読み理解する。 コラムからの学びの提出(36ページ)	
第5回	保育所保育指針に基づく保育	(学修内容) 保育所保育指針等について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p52～66を読み、理解する。	
第6回	保育の目標と方法	(学修内容) 保育の目標と方法について理解を深め、「遊び」との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、テキスト p68～78を読み、理解する。(事後に、コラム:「保育の目標と方法」を読み、レポート提出。800字程度)	
第7回	乳児の保育	(学修内容) 乳児の発達過程や保育の基本を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p80～90を読み、理解する。	
第8回	1歳以上3歳未満児の保育	(学修内容) 1歳以上3歳未満児の保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p92～102を読み、理解する。	
第9回	3歳以上児の保育	(学修内容) 3歳以上の幼児期の保育のあり方 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、テキスト p104～114を読み、理解する。(事後に、「スタートカリキュラムについて」考察する。レポート提出、800字程度)	
第10回	子ども理解に基づく保育の過程:理論	(学修内容) 保育過程について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p116～126を読み、理解する。	
第11回	子ども理解に基づく保育の過程:実践	(学修内容) 学びの連続性と小学校との接続について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p128～138を読み、理解する。	
第12回	諸外国の保育の思想と歴史	(学修内容) 諸外国の保育の思想と歴史から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p140～149を読み、理解する。	
第13回	日本の保育の思想と歴史	(学修内容) 日本の保育の思想と歴史から現在を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p152～162を読み、理解する。	
第14回	諸外国の保育の現状と課題	(学修内容) 諸外国の保育の現状と課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、テキスト p164～174を読み、理解する。(事後に、「保育の質の維持と向上」を読んで、考察してレポート提出。800字程度)	
第15回	日本の保育の現状と課題・まとめ	(学修内容) 日本の保育の現状と課題について、理解する。本授業のまとめを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p176～186を読み、理解する。	

授 業 名	子ども家庭福祉			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1414
英 文 名	Theory of Child Welfare			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	現代の子どもを取り巻く問題には、少子化・待機児童・児童虐待など様々なものがある。それらは、現代の家庭状況と関連を密にしており、社会保障や社会福祉の動向からも大きな影響を受けている。そこで、本講義では、わが国と欧米諸国の児童福祉の歴史、子どもの権利、児童福祉法制、家族政策、実践の特徴、について内容を解説し、理解することを目的としている。各種法制度を理解するために、授業内でレポートを作成する。								
学 修 成 果 対 達 目 標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士・社会福祉士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (64 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (36 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	喜多一憲 監修 堀場純矢 編集 「児童家庭福祉」[みらい]								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、採点し、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	レポートの出来が評価に影響する。予習・復習をしっかりと行うこと。積極的な発表も評価の対象となる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	子ども家庭福祉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	現代社会と子ども	(学修内容)人口減少社会、丙午、少子化対策 (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 1を参照しておく ひのえうまや少子化など、学んだ内容を別紙にまとめる
第2回	児童の権利保障	(学修内容)コルチャック、子どもの権利条約について (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 2を参照しておく 批准や署名など、学んだ内容を別紙にまとめる
第3回	児童福祉の歴史	(学修内容)日本・欧米の児童福祉史 (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 3を参照しておく 石井十次、バナードなど学んだ内容を別紙にまとめる
第4回	児童福祉法について 児童相談所	(学修内容)児童福祉六法、行政機関について (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 4を参照しておく 児童相談所の4つの業務など学んだ内容を別紙にまとめる
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(学修内容)児童福祉法改正について (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 4を参照しておく 保育政策の変化などを別紙にまとめる
第6回	児童福祉法について 2004～2008年の改正	(学修内容)児童福祉法と児童虐待防止法について (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 4を参照しておく 虐待対応などの内容を別紙にまとめる
第7回	児童福祉法について 2012～2019年の改正	(学修内容)近年の児童福祉法改正について (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 4を参照しておく さらなる虐待対応など学んだ内容を別紙にまとめる
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(学修内容)児童虐待の定義と対策 (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 7を参照しておく 虐待の定義などの内容を別紙にまとめる
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(学修内容)児童虐待の定義と対策 (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 7を参照しておく 児童虐待防止法の内容を別紙にまとめる
第10回	児童福祉の専門職について	(学修内容)児童福祉に従事する専門職について (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 11を参照しておく 児童福祉司や保育士について内容を別紙にまとめる
第11回	母子保健について	(学修内容)妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 6を参照しておく 乳児死亡率など学んだ内容を別紙にまとめる
第12回	少子化対策について 日本	(学修内容)日本の保育政策・サービスについて (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 6を参照しておく エンゼルプランなどの内容を別紙にまとめる
第13回	少子化対策について 諸外国	(学修内容)諸外国(英仏伊瑞典)の保育政策・サービスについて (事前事後学修課題の内容)(60分) スウェーデンの取り組みの内容を別紙にまとめる
第14回	ひとり親家庭の福祉について	(学修内容)ひとり親家庭への福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 6を参照しておく ひとり親家庭支援の4本柱を別紙にまとめる
第15回	障がい児の福祉について	(学修内容)障がい児の現状と福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容)(60分) Chapter 9を参照しておく 放課後等デイサービスなどを別紙にまとめる

授 業 名	乳児保育 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	乳児保育が果たしている役割を解説した後、0歳から2歳の保育の生活とあそびを解説する。そうした乳児保育の知識を得た上で、実際の保育所保育の見学を行う。さらに、乳児向けのおもちゃや絵本を実際にみて、乳児保育のイメージをしっかりとつくり、乳児保育でたいせつにしたいことを伝える。見学で学んできたことを、受講生同士で意見交流を行うことによって様々な場面を共有したり、手作りおもちゃの工夫を伝え合うなどして、主体的な学び体験を保障したい。								
学 修 成 果 達 達 目 標	1) 乳児保育の理念と保育所における乳児保育の歩み、現状と課題について理解することができている。 2) 0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスの保育での生活とあそびについて理解している。 3) 絵本や手遊びなど3歳未満児との関わりに有効な教材を使いこなせるようになっている。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (教材の工夫力)			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	乳児保育研究会編 『改訂新版 資料でわかる乳児保育の保育新時代』(ひとなる書房) 保育計画研究会編 『改訂版 実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方(ひとなる書房)』 西川由紀子 『子どもの思いにこころをよせて』(かもがわ出版) 厚生労働省 『保育所保育指針』								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートなどについては、授業で解説を行う。授業への質問や感想については、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		乳児保育 u
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	乳児保育のとらえかた	(学修内容)子どもの発達を考えた上で、乳児保育の意義をどうとらえるかを解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章を読んでくる 第2章1、2を読んでくる
第2回	乳児保育のあゆみ	(学修内容)乳児保育の歴史を解説する (事前事後学修課題の内容)(30分) 第7章を読んでくる
第3回	0歳児保育の生活とあそび	(学修内容)0歳児保育の生活とあそびについて解説する (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1章2、第2章3、第3章の0歳児の部分、の0歳児の部分を読んでくる
第4回	0歳児の保育の実際	(学修内容)0歳児保育の実際の動画をみたのち、保育の留意点を解説する (事前事後学修課題の内容)(30分) の0歳児の部分を読んでくる。前の週の授業を復習しておく
第5回	1歳児保育の生活とあそび	(学修内容)1歳児保育の生活とあそびについて解説する (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1章2、第2章3、第3章の1歳児の部分、の1歳児の部分を読んでくる(30分)
第6回	1歳児の保育の実際	(学修内容)1歳児保育の実際の動画をみたのち、保育の留意点を解説する (事前事後学修課題の内容)(30分) の1歳児の部分を読んでくる。前の週の授業を復習しておく
第7回	2歳児の生活とあそび	(学修内容)1歳児保育の生活とあそびについて解説する (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1章2、第2章3、第3章の2歳児の部分、の2歳児の部分を読んでくる
第8回	手作りおもちゃの魅力	(学修内容)手作りおもちゃを子どもたちがどのようにあそぶかを考え、魅力的なおもちゃ像を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) さまざまな手作りおもちゃを本やネットで調べてくる
第9回	乳児保育の展開	(学修内容)保育所見学に向けて、保育の留意点を解説した後、各自が見学に際しての目標を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分なりに保育所見学のイメージをもてるよう準備をする
第10回	保育所保育の見学	(学修内容)保育所見学を実施する (事前事後学修課題の内容)(15分) 保育所見学の目標をしっかりと確認する
第11回	保育所見学から学んだこと 子どものようす・保育者連携	(学修内容)見学で学んで来て子どもの様子、保育者連携の様子を交流したのち見学から学んだきづきをまとめる (事前事後学修課題の内容)(60分) 保育所見学で学んだことをレポートとしてまとめてくる
第12回	乳児にとっての絵本の役割	(学修内容)絵本の特性を解説した後、乳児にとっての絵本の楽しさを解説する (事前事後学修課題の内容)(30分) 乳児向け絵本をみてる
第13回	手遊び・ふれあいあそびの楽しさ	(学修内容)手遊び・ふれあいあそびの楽しさを解説した後、自分で考えてきた遊び、選んできた絵本を発表し子どもにとっての楽しさを実感する。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 手遊び・ふれあいあそびを探し、発表の練習をする。発表する絵本を選び、読む練習をしてくる。またそれらのレポートを作成する。
第14回	乳児保育の指導計画、記録と評価	(学修内容)乳児保育における指導計画、記録と評価について解説する (事前事後学修課題の内容)(30分) 第4章を読んでくる 第1章3を読んでくる
第15回	手作りおもちゃの交流	(学修内容)各自が作ってきた手作りおもちゃの解説を行い、さまざまな手作りおもちゃのよさを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(180分) 手作りおもちゃを作成し持参するとともに、そのレポートをまとめる。

授 業 名	障害児保育 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Childcare for Children with Disability			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	岸 優子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>1) 障害のある乳幼児の発達を保障する場として、保育所・幼稚園・認定こども園に求められる役割を理解することができる。</p> <p>2) 障害児の理念や歴史的変遷、支援の在り方について基礎的知識を習得し、保育の場で活用することができる。</p> <p>3) 乳幼児としての発達を保障する観点を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの援助に活用することができる。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 「障害」の基礎的知識を習得し、特に乳幼児期の障害の特性を理解できる。</p> <p>2) 生活と集団を大切にする障害児保育を学ぶことで、実際の保育場面で支援する視点を理解できる。</p> <p>3) 障害児保育を通して、多様な人間発達の理解を深めることで、実際の支援方法・配慮事項について説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (6 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (4 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』平成29年3月								
参 考 書	適宜プリントを配布する。								
課題に対する フィードバック の方法	受講生は、毎回、「振り返り用紙(学びのポートフォリオ)」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。								
留 意 事 項	保育者として実際の現場で活用できるように、積極的に授業に臨んで欲しい。なお、授業内容の順番については、受講生の興味・関心に応じて柔軟に対応するので、受講生へ説明・納得の上変更することもある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：保育所で勤務。現場経験をもとに障害児保育に関する事例を積極的に取りあげる。 子育て支援員。								

授 業 名		障 害 児 保 育 u
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：「障害」概念の理解	(学修内容) 障害をどのように理解するかを考えることができる。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスをよく読み、全体の内容、評価方法などについて確認する。
第2回	障害児保育の対象と「障害」概念 ー『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』「第2節 3(1)障害のある園児などへの指導」ー	(学修内容) 障害児について理解を深めることができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の関連部分を読んでまとめておく。
第3回	障害児保育の理念と保護者支援 ー『幼稚園教育要領』「第5 特別な配慮を必要とする幼児への指導」ー	(学修内容) 「障害のある幼児などへの指導」についての基本的知識・配慮事項について説明できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、『保育所保育指針』の関連部分を読んでまとめておく
第4回	障害の基礎的知識と保育：発達の理解 ワーク	(学修内容) 子どもの発達の多様性を理解するために、MSPAを用いて14項目から発達を理解する視点を持つことができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、健常児と障害児について見極めるための視点を理解しておく。
第5回	学校教育における障害の基礎知識 ー保育および特別支援教育ー	(学修内容) 知的障害・身体障害・精神障害が理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、学校教育ではどのように障害を区分しているのか理解できる。
第6回	障害の基礎知識と保育：地域の関連機関との連携 ワーク	(学修内容) 発達に課題のある子どもの特性を理解できる。各自の居住する市町村の乳幼児検診について調べる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、定型発達・非定型発達について要点をまとめる。
第7回	障害の基礎知識と保育 ー発達障害(1)ー	(学修内容) 発達障害 自閉スペクトラム症について理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、発達障害者支援法などの法令について調べておく。
第8回	障害の基礎知識と保育 ー発達障害(2)ー	(学修内容) 発達障害 ADHD、LDなどについて理解することができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、発達障害を見分けるポイントを箇条書きにしてまとめておく。
第9回	障害に関する基礎知識と保育：小テスト	(学修内容) 今までの授業の要点を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、今までの授業内容を800字でまとめておく。
第10回	障害の基礎知識；脳・体・心からとらえる障害などの理解	(学修内容) 脳・体・心の観点から障害の要因を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、プリントから理解できる具体的な事例を考えてみる。
第11回	障害に関する基礎知識と保育：視覚・聴覚	(学修内容) 視覚障害・聴覚障害について理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておく。
第12回	障害に関する基礎知識と保育：言語発達や運動機能	(学修内容) 言語障害、運動障害および重度重複障害児などを理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、これまでのポイントを5分間で説明できるように練習しておく。
第13回	模擬保育一事例研究「合理的配慮」 ープレゼンテーション	(学修内容) 保育場面を想定して、障害児をどのように理解し支援するのかについて発表できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をして5分間で説明できるようにまとめておく。
第14回	模擬保育一事例研究「合理的配慮」 ープレゼンテーション	(学修内容) 障害のある子どもの保育の現状と課題を考え、あわせて保護者支援の仕方を理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』「障害や発達上の課題のある園児の保護者支援」を読んで、要点をまとめる。
第15回	障害に関する基礎知識と保育：小テスト これまでの学びを振り返り、次に繋がる課題を見出す	(学修内容) 今までの授業の理解を振り返り、基本的知識を確認する (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、今までの授業内容でのキーワードを書いてみる。

授 業 名	子育て支援論 u			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Child-care Support			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	現代の家庭は、親のみでは子育てすることが難しくなっている。この現状を理解して子育て支援策をどのようにするのか、検討が必要である。現代家庭の抱える問題を把握して、現在、親は子育て支援を有効に活用しているか、必要な子育て支援策は何かを検討したい。子どもの育ちにとってどのような子育て支援が良いのかも考察する。グループに分かれて、課題についての討議をし、他の人の考えについて理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 家庭における様々な子育ての問題点を理解できる。 2) 家庭における子育て支援策を具体的に理解することができる。 3) 自分の子育て観の確認ができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	松原康雄他編集『新基本保育シリーズ 子ども家庭支援論』中央法規 2019年								
参 考 書	授業中に適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートの返却時に、課題について解説を行う。								
留 意 事 項	レポート提出、ミニレポート(数回)を行う予定である。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室前に掲示、演習室にも掲示をするので、確認してください。在室の時は可能である。(時間が取れない時は、調整して連絡する。)								
実践的教育									

授 業 名	子育て支援論 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性	(学修内容) 家庭支援の意義と子育て支援 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト2頁から12頁を読み、理解しておく。事後: コラム「新しいタイプの子育て支援」について考察し、レポート800字で提出。
第2回	子ども家庭支援の目的と機能	(学修内容) 家庭支援の制度、目的等について。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキスト14頁から24頁までを読み、理解しておく。レポートの提出あり。
第3回	子育て支援施策・次世代育成支援策の推進	(学修内容) 保育所、幼稚園における新制度の理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト26頁から36頁までを読み、理解しておく。
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	(学修内容) 社会資源について理解を深め、学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト38頁から48頁までを読み、理解しておく。
第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	(学修内容) 保育者の専門性と子ども家庭支援について、学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト50頁から60頁までを読み、理解しておく。
第6回	子どもの育ちの喜びの共有	(学修内容) 子どもの育ちを共有することとは。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト62頁から72頁までを読み、理解しておく。
第7回	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	(学修内容) 地域での子育て・保育士に求められている支援について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト74頁から84頁までを読み、理解しておく。
第8回	保育士に求められる基本的態度	(学修内容) 保育士と保護者との信頼関係とは。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト86頁から95頁を読み、理解しておく。
第9回	家庭の状況に応じた支援	(学修内容) 家庭状況の把握とその支援について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト98頁から107頁までを読み、理解しておく。
第10回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	(学修内容) 子ども家庭支援と地域資源の活用。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト110頁から120頁までを理解しておく。事後: コラム「ストレングス視点」を読み、理解したことをレポート800字提出。
第11回	子ども家庭支援の内容と対象	(学修内容) さまざまな子ども家庭支援の対象: 子ども、保護者、地域。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキスト122頁から132頁までを読み、理解しておく。レポートの提出あり。
第12回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	(学修内容) 家庭がかかえる生活課題と保育所等の役割 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト140頁から149頁までを読み、理解しておく。
第13回	地域の子育て家庭への支援	(学修内容) 地域の子育て家庭への支援・支援者の姿勢 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト146頁から156頁までを読み、理解しておく。
第14回	要保護児童およびその家庭に対する支援	(学修内容) 要保護児童とその家庭に対する支援について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト158頁から168頁までを読み、理解しておく。事後: 授業で印象に残った子育て支援について論述・レポート800字。
第15回	子育て支援に関する課題と展望	(学修内容) 子育て支援のニーズの多様化と連携機関 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキスト176頁から185頁までを読み、理解しておく。レポートの提出。

授 業 名	生徒指導論（中・高・栄）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Student Guidance			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	岡田 敏之			対 象 学 生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	生徒指導の目的や意義・役割について考えるとともに、実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論と方法を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生徒指導の全体像が理解できる。 2) 実際に学校で生起している具体的な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に考察できる。 3) 仲間と協働し、問題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	「生徒指導提要」（文部科学省）								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中の実習や口述については、その都度コメントを返します。また、実習におけるレポート等については、要点にアンダーラインを付したり、必要に応じてコメントを付したりします。								
留 意 事 項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える、主体的で対話的な学びを重視します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に行います。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		生徒指導論（中・高・栄）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育を取り巻く社会の状況	（学修内容）本講義の概要。教育を取り巻く社会の状況を理解する。 P B L （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の準備
第2回	生徒指導の基礎概念	（学修内容）生徒指導の全体像を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第3回	教育相談と生徒指導 - 教育相談の概要 -	（学修内容）教育相談の全体像を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第4回	学級経営と生徒指導 - 教育相談の基本的な考え方 -	（学修内容）教育相談の基本的な考え方を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第5回	学級経営と生徒指導	（学修内容）学級担任が行う教育相談の在り方を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第6回	望ましい集団づくり - 実習CHR -	（学修内容）集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習
第7回	望ましい集団づくり - 生徒会活動を考える -	（学修内容）生徒会活動の実践例について考察する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第8回	学校不応と問題行動	（学修内容）生徒の問題行動について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第9回	子どもの規範意識を育てる - 非行防止教室 -	（学修内容）非行防止教室の実践を体験する。 ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習
第10回	いじめ問題の理解と対応 - いじめの原因 -	（学修内容）いじめ問題について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 関連報道記事の収集と前講の復習
第11回	いじめ問題の理解と対応 - 未然防止に向けて -	（学修内容）いじめ問題の対応について考える。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 関連報道記事の収集と前講の復習
第12回	不登校の理解と対応	（学修内容）不登校の現状について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第13回	保護者対応	（学修内容）保護者との連携の在り方について理解する。 ロールプレイ （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第14回	子どもの意欲を育てる - コーチングスキルより -	（学修内容）コーチングスキルの基本を身につける。 P B L、ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（30分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」、まとめ	（学修内容）本講義のポイントを整理して理解する。 ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（20分） 前講の復習

授業名	生徒指導論(小)			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Student Guidance			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	岡田 敏之			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	生徒指導の目的や意義・役割について考えるとともに、実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論と方法を習得する。								
学修成果到達目標	1) 生徒指導の全体像が理解できる。 2) 実際に学校で生起している具体的な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に考察できる。 3) 仲間と協働し、問題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	「生徒指導提要」(文部科学省)								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	授業中の実習や口述については、その都度コメントを返します。また、実習におけるレポート等については、要点にアンダーラインを付したり、必要に応じてコメントを付したりします。								
留意事項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える、主体的で対話的な学びを重視します。								
オフィスアワー	担当授業終了後に行います。								
実践的教育	実践的教育 教員の実際経験など：京都市立郁文中学校、京都市立嘉楽中学校、京都市立西賀茂中学校、京都市教育委員会生徒指導課、京都府警察本部少年課、京都市立洛友中学校、京都教育大学教授								

授 業 名		生徒指導論（小）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス 教育を取り巻く社会の状況	（学修内容）本講義の概要。教育を取り巻く社会の状況を理解する。 P B L （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の準備	
第2回	生徒指導の基礎概念	（学修内容）生徒指導の全体像を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第3回	教育相談と生徒指導 - 教育相談の概要 -	（学修内容）教育相談の全体像を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第4回	学級経営と生徒指導 - 教育相談の基本的な考え方 -	（学修内容）教育相談の基本的な考え方を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第5回	学級経営と生徒指導	（学修内容）学級担任が行う教育相談の在り方を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第6回	望ましい集団づくり - 実習CHR -	（学修内容）集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習	
第7回	望ましい集団づくり - 児童会活動を考える -	（学修内容）児童会活動の実践例について考察する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第8回	学校不応と問題行動	（学修内容）児童の問題行動について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第9回	子どもの規範意識を育てる - 非行防止教室 -	（学修内容）非行防止教室の実践を体験する。 P B L、ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習	
第10回	いじめ問題の理解と対応 - いじめの原因 -	（学修内容）いじめ問題について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 関連報道記事の収集と前講の復習。	
第11回	いじめ問題の理解と対応 - 未然防止に向けて -	（学修内容）いじめ問題の対応について考える。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 関連報道記事の収集と前講の復習	
第12回	不登校の理解と対応	（学修内容）不登校の現状について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第13回	保護者対応	（学修内容）保護者との連携の在り方について理解する。 ロールプレイ （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第14回	子どもの意欲を育てる - コーチングスキルより -	（学修内容）コーチングスキルの基本を身につける。 ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（30分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」、まとめ	（学修内容）本講義のポイントを整理して理解する。 ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（20分） 前講の復習	

授業名	教育相談（中・高・栄）			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	School Counseling			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	吉田 博子			対象学生	現代家政4回生、食物栄養4回生				
授業の概要	<p>「人間の悩みはすべて対人関係の悩みである」とアドラーが述べているように、私たちは、人と人の関わりやそのありように悩むことがしばしばである。しかし、もし身の回りのひとたちー親・保育者・教育者はもちろんのこと、家族・友人・仲間・指導者・上司・同僚ーが、相談・援助・カウンセリング・ヘルピングについて十分に理解していたならば、その基本的なスキルを身に付けていたならば、それぞれが抱えている問題や悩みをこじらせることなく、軽減させたり解決することが可能になるのではないだろうか。</p> <p>この授業では、教育相談やカウンセリングの理論・歴史・問題領域について学ぶとともに、構成的グループエンカウンター（SGE）・ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）等について学び、予防的開発的技法についての理解を深める。さらに、近年問題になっている愛着障害について学び、その理解を深める。</p> <p>本授業を通して、誰もが身につけておきたい相談・カウンセリング・ヘルピングの考え方を理解し、基本的なスキルを身につけ、コミュニケーション力を高め、日常生活で役立てられるようになることをめざす。</p>								
学修成果到達目標	<p>1)教育相談・カウンセリングにかかわる理論・人間観を理解できる。</p> <p>2)教育相談・カウンセリングの基本技法を身につけて教育・保育に役立てる。</p> <p>3)教育相談・カウンセリングの考え方や基本技法をピアヘルピング・日常生活に役立てる。</p> <p>4)「個別対応（一人ひとりの心を育てる）」「集団対応（集団を育てる）」ができるようになる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	資料を配布する								
参考書	『カウンセリングの理論』『カウンセリングの技法』國分康孝(誠信書房) 『ピアヘルパーハンドブック』『ピアヘルパーワークブック』日本教育カウンセラー協会編(図書文化社)								
課題に対するフィードバックの方法	理解度の確認の後、解説を行う								
留意事項	事前学習・事後学習を行い日常生活に役立てる								
オフィスアワー	担当授業後に実施する。								
実践的教育									

授業名	教育相談（中・高・栄）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（10分） シラバスを確認しておくこと
第2回	教育相談・カウンセリング・ヘルピングとは：定義・歴史	（学修内容）教育相談・カウンセリング・ヘルピングの定義・歴史について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（教育相談・カウンセリング・ヘルピング）に取り組む
第3回	教育相談・カウンセリング・ヘルピングとは：必要性	（学修内容）教育相談・カウンセリング・ヘルピングの必要性について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（教育相談・カウンセリング・ヘルピング）に取り組む
第4回	教育相談・カウンセリング・ヘルピングとは：動向	（学修内容）教育相談・カウンセリング・ヘルピングの最近の動向（種類・関係領域）、愛着障害・発達障害について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（愛着障害・発達障害）に取り組む
第5回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：自己理論	（学修内容）自己理論の人間観とその系譜について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（自己理論）に取り組む
第6回	教育相談・カウンセリングのスキル	（学修内容）リレーション・受容・繰り返し・質問・その他について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（ロールプレイ）に取り組む
第7回	教育相談・カウンセリングのスキル：ロールプレイ	（学修内容）「ふれあいのあるところに癒しあり」について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（ロールプレイ）に取り組む
第8回	私たちはどのようなときに無気力に陥るのか	（学修内容）無気力についての事例検討・意見交換 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（無気力）に取り組む
第9回	効力感を育てる他者の存在・仲間との交流	（学修内容）効力感を育む関わり：事例検討・意見交換 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（効力感）に取り組む
第10回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：精神分析理論	（学修内容）精神分析理論の人間観とその系譜について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（精神分析理論）に取り組む
第11回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：行動理論	（学修内容）行動理論の人間観とその系譜、行動療法について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（行動理論・行動療法）に取り組む
第12回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：アドラー心理学	（学修内容）アドラー心理学の人間観とその系譜について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（アドラー心理学）に取り組む
第13回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：論理療法・ソーシャルスキルトレーニング	（学修内容）論理療法・ソーシャルスキルトレーニングについて （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（論理療法・ソーシャルスキルトレーニング）に取り組む
第14回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：構成的グループエンカウンター	（学修内容）構成的グループエンカウンターについて （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（構成的グループエンカウンター）に取り組む
第15回	授業のまとめ	（学修内容）事例研究、授業のまとめ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（学んだこと・自ら考えたことのまとめ）に取り組む

授業名	教育相談（幼・小）			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	School Counseling			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	武田 康晴			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	保育・教育現場における「相談」の必要性は高まっている。この授業では、保育・教育現場における教育相談の意義と理論、教育相談の前提となる幼児・児童の特性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングや相談支援に関する基礎的知識も含む）を理解した上で、教育相談の具体的な進め方、ポイント、組織的な仕組みや地域の専門機関との連携について理解を深める。また、現場実践においては、理論を知っているだけでなく、実際に相談に応じることが求められるため、ワークシートの記入、考えの表明、ディスカッション等によって「自分自身の対応」を常に意識しながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 保育・教育の現場における教育相談の意義や役割について理解している。 2) 子どもの成長を促すカウンセリングや保護者に対する相談支援の基礎を身につける。 3) 保育現場や学校臨床のさまざまな問題について対応できる保育者、教員の専門性を理解する。 4) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念、相談支援の基本について理解している。 5) いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童、生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	必要に応じて資料を配布する。								
参考書	杉崎雅子『スギ先生と学ぶ 教育相談の基本』萌文書林,2018、その他については授業で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題やレポートについては口頭で回答するほか、必要に応じてコメントを記入して返却する。								
留意事項	積極的な授業への参加を求める。講義と並行して、ロールプレイやグループワークも適宜取り入れるので積極的に取り組むこと。								
オフィスアワー	研究室に掲示するほか、授業中にも口頭で伝達する。								
実践的教育									

授 業 名		教育相談（幼・小）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育相談・カウンセリング、教育相談の意義と役割	（学修内容）本講義の目標を理解する。教育相談・カウンセリング・相談支援の概要について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） シラバスに目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第2回	教育相談の基本的知識、その現状と課題	（学修内容）保育現場や学校における教育相談の意義や役割を学ぶ。現状における問題や課題について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布プリントを読んでおく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第3回	カウンセリングと相談支援の基礎知識（1）基本的な応答技法	（学修内容）カウンセリングマインド、基本的な応答技法、共感的理解、受容、支持的応答など相談支援の基礎について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布プリントを読んでおく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第4回	カウンセリングと相談支援の基礎知識（2）教育相談の技法	（学修内容）非言語的コミュニケーション、明確化・質問の技法、介入の仕方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布プリントを読んでおく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第5回	カウンセリングと相談支援の基礎知識（3）基本的な信頼関係と相談プロセス	（学修内容）カウンセリングにおけるラポール形成と相談プロセス、相談の技法の関連について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布プリントを読んでおく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第6回	カウンセリングと相談支援の基礎知識（4）同僚、養護教諭等とのチームアプローチ	（学修内容）他クラスの担任や保健室の養護教諭との連携、園内・校内ネットワークとチームアプローチのあり方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第7回	教育相談の実際（1）子どもの成長を促す	（学修内容）子どもの問題行動について理解を深め、成長を促す取り組みについて考えを深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第8回	教育相談の実際（2）いじめ問題への対応	（学修内容）いじめの問題について多面的に理解し、解決への方策を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第9回	教育相談の実際（3）不登校への理解育	（学修内容）登校しづりや不登校の問題について理解し、カウンセリングや相談支援を用いた方策を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第10回	教育相談の実際（4）非行問題への理解	（学修内容）問題行動、非行の問題について多面的に理解し、解決への糸口を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第11回	教育相談の実際（5）精神保健の向上、子ども、教員、保護者も含めたメンタルヘルスについて学ぶ。	（学修内容）子ども、教員、保護者のメンタルヘルスが向上するようにストレスの問題やその解決への手立てについて理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第12回	教育相談の実際（6）保護者対応に関する理解と保護者支援	（学修内容）保護者自身のおかれている状況や課題について理解し、信頼関係の構築や相談支援について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第13回	教育相談の実際（7）専門機関との連携	（学修内容）医療機関、教育相談機関、児童相談所などの役割や意義、連携について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第14回	教育相談の実際（8）緊急支援における教育相談	（学修内容）事故や災害時における教育相談の役割を理解し適切な支援ができるようになる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第15回	振り返りとまとめ	（学修内容）講義全体を通して振り返り、資料をまとめ学んだことを確認する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 配付資料やノートを整理する。全体を自分でも総括し、レポートを作成する。

授業名	ボランティア論u			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1305
英文名	Theory of Volunteer			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	名賀 亨			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	一人ひとりが一人の人間として尊重され、あたりまえに生きていくことができる社会を築くためには、法律や制度の充実はもちろんのこと、市民の主体的な社会参加・参画が不可欠である。その参加の方法として重要な意味を持つのがボランティア・市民活動、さらにNPO活動である。本授業ではそれらの活動の意味や具体的な内容について、さらに現代社会における必要性などについて様々な角度から学習する。授業内容やテーマに応じて適宜グループワークやまとめの発表などのアクティブラーニングも組み入れて能動的に学べるようにする。								
学修成果到達目標	1) ボランティア・市民活動の基本的な考え方を説明することができる。 2) 災害時のボランティアコーディネートの必要性とその具体的な方法について理解できる。 3) 専門職と市民ボランティアとの協働のあり方を理解できる。 4) ワークキャンプ等におけるボランティア学習について実践事例を通して学び、現代社会におけるその必要性を理解し説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力				
テキスト	ボランティア論 - 「広がり」から「深まり」へ - 編著者：柴田謙治・原田正樹・名賀亨 出版社：株式会社みらい								
参考書	学生のためのボランティア論 岡本栄一、菅井直也、妻鹿ふみ子 編 大阪ボランティア協会出版部 発行								
課題に対するフィードバックの方法	日常的な課題やレポートについて記載内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。								
留意事項	常に新聞等から社会情勢の変化を読み取り、ボランティアとの関連性について考えておく。また、授業には主体的かつ積極的に参加し、講義内容を整理し適宜プレゼンテーションできるようにする。								
オフィスアワー	水曜日 昼休み								
実践的教育									

授業名	ボランティア論u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の枠組みや授業評価など、授業の全体像を説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認するとともに、自分なりにボランティアの意味を整理しておく。
第2回	ボランティア活動の基本 自発性・社会性	(学修内容) ボランティア活動の基本的な要素である自発性、主体性、社会性などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP70の名賀のコラムを読み、ボランティアにおける自発性・主体性を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第3回	ボランティア活動の基本 根本にある思想	(学修内容) ボランティア活動の根本にある思想「ボランタリズム」について、基本的な考え方やその歴史的な変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP3~5を読み、ボランタリズムという思想について事前にまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第4回	ボランティア活動の変遷 1	(学修内容) イギリス、アメリカ、日本における戦前のボランティア活動について、社会福祉の変遷と関連させながらその歴史を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP218~221を読み、社会福祉の変遷とボランティア活動の関係性について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第5回	ボランティア活動の変遷 2 活動支援の広がり 1	(学修内容) 社会福祉協議会を中心にしたボランティア活動支援の変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP36~41を読み、ボランティア活動と社会福祉協議会について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第6回	ボランティア活動の変遷 3 活動支援の広がり 2	(学修内容) 社会福祉協議会とは違った民間のボランティア活動支援の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP51~52大阪ボランティア協会の想いを読み、その考え方を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第7回	ボランティア活動の変遷 4 ボランティア・市民活動の転換期	(学修内容) ボランティア・市民活動の歴史の中で阪神淡路大震災が大きな転換期になったことについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP63からの表4-1読み、ボランティア活動支援の変遷の概要を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第8回	災害支援とボランティア活動	(学修内容) 災害時のボランティア活動支援に不可欠な災害ボランティアセンターの意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第8章を読み、災害ボランティアについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第9回	ボランティア学習の理解 1 ワークキャンプ運動	(学修内容) ワークキャンプ運動を事例に、その内容や実践の意味、今後の必要性和可能性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットを使いワークキャンプを行っている団体を3つ選び、その団体名、活動内容を調べてまとめる。その日の授業を振り返る。
第10回	ボランティア学習の理解 2 ボランティア活動と学び	(学修内容) ボランティア活動に内在する学びとしてあるボランティア学習に関して、その意味と意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第10章を読み、ボランティア学習の考え方を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第11回	ボランティア学習の理解 3 学びの実践事例	(学修内容) ボランティア学習の具体的な学習効果について、DVDなどの教材から理解しそれぞれの可能性や学習効果を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットからボランティア学習の実践事例を調べ、今後のボランティア学習のあり方を整理しまとめる。その日の授業を振り返る。
第12回	ボランティアコーディネートの理解 1 インターメディアリーとしてのボランティアセンター	(学修内容) ボランティアセンターの必要性とその現状について、あわせてインターメディアリーの構造について理解する理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第11章を読み、ボランティアコーディネートについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第13回	ボランティアコーディネートの理解 2 ボランティアコーディネートの実際	(学修内容) ボランティアコーディネート実践を踏まえ、コーディネーターの役割や業務の特徴について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ここまでの話を踏まえてボランティアコーディネートの専門性についてまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第14回	ボランティアの可能性と展望 福祉の原点	(学修内容) ボランティア活動のこれからの可能性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの授業内容を振り返り、これからのボランティア活動の在り方についてまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第15回	まとめ	(学修内容) 全体の総括をしながら、今後のボランティア活動の在り方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業全体を踏まえて今後の展望について整理しておく。その日の授業を振り返りまとめておく。

授業名	介護学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Introduction to Nursing Care			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	野田 隆生			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>みなさんは「介護」と聞いて何を思い浮かべますか？寝たきり老人、認知症、障害者等への身の回りのお世話をすることを想像された方もいるでしょう。しかし、「寝たきり」状態や「障害のある方」は、老人に限るのでしょうか？さらには、「介護」には「介護する人」と「介護される人」の双方向の関係性が生じてきます。</p> <p>本講では、通俗的に使用される「介護」と専門分野としての「介護」を情緒的かつ科学的な視点で切り込みながら、次代を生きる上で欠かすことのできない概念として生活支援の一助となるような「介護」を理解することを目的とする。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 介護を取り巻く社会情勢について説明できる。</p> <p>2) 介護を活かす場とそこに関わる多職種の役割を説明できる。</p> <p>3) 全人的存在としての対象に対して、こころとからだの両側面より介護することの必要性を理解できる。</p> <p>4) 生活を支援する「介護」の場において生じる「なぜ」に対して、根拠に基づいた説明ができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	宮崎和加子著『認知症の人の歴史を学びませんか』中央法規 2011年								
参考書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	グループワークやプレゼンテーションでの発表後は、講評ならびに解説を行います。								
留意事項	講義を中心に進めていきますが、グループワークや口頭発表を取り込んでいくので、学生自身の主体的かつ積極的な授業参加を期待します。								
オフィスアワー	講義初回時に連絡します。 基本的に研究室(1R 404)に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授 業 名	介護学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～「介護」って何？～	(学修内容) 講義の進め方や成績評価の方法について説明する。 ミニ・グループワーク；「介護」って何？ (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスを読んでおくこと。テキストを必ず購入すること。
第2回	グループワーク 「介護」から何をイメージしますか？	(学修内容) 「介護」のイメージについてグループワークを通して考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「歴史を学ぶ前に (pp.2-11) を読んでおくこと。
第3回	介護の概念と法制度	(学修内容) 介護の定義や法制度の位置づけを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「その1 認知症の人の居場所の変遷」(pp.14-21) を読んでおくこと。
第4回	グループワーク 介護における専門職倫理	(学修内容) 社会福祉士及び介護福祉士の倫理綱領を読みながら、それぞれの専門性についてグループワークを通して考える。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回までの内容をまとめておくこと。
第5回	「介護」はなぜ社会問題となっているのか？	(学修内容) 人口動態より日本社会の「介護」をめぐる諸課題について整理する。 ワークシートを配布する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「その2 四十年前のこと」「その3 精神病院という場で」(pp.24-51) を読んでおくこと。
第6回	介護は誰がするのか？	(学修内容) 介護は誰が、誰に、どのような方法で、何をするのかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その4 身体拘束禁止にたどりつくまで」(pp.54-72) を読んでおくこと。
第7回	介護の過去・現在・未来	(学修内容) 歴史的背景を通じてどのような変遷をしているのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回までの内容をまとめておくこと。
第8回	介護の基本・演習 ～「わたし」って...～	(学修内容) 自分知るワークを通して他者を知ることの意味を体験的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回配布したワークシートを作成しておくこと。
第9回	介護の基本・演習 ～障害を体験する～	(学修内容) ブラインドウォーク、車イスなどを通して障害について体験的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回配布したワークシートを作成しておくこと。
第10回	介護の実際 ～特別養護老人ホームでの介護～	(学修内容) 介護の現場を視聴覚教材(DVD)を通して理解し、利用者への介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その5 動き出した特養ホーム」(pp.74-90) を読んでおくこと。
第11回	介護の実際 ～小規模特別養護老人ホームでの介護～	(学修内容) 介護の現場を視聴覚教材(DVD)を通して理解し、利用者への介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その6 老人保健施設とE型デイサービス」(pp.92-98) を読んでおくこと。
第12回	介護の実際 ～宅老所でのかいご～	(学修内容) 介護の現場を視聴覚教材(DVD)を通して理解し、利用者への介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その7 宅老所・グループホームの試み始まる」(pp.100-115) を読んでおくこと。
第13回	認知症の理解と介護	(学修内容) 認知症の種類や原因、周辺症状について理解し、介護の方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その8 「呆け老人をかかえる家族の会」発足と市民活動」(pp.118-125) を読んでおくこと。
第14回	グループワーク 介護の未来	(学修内容) 介護がどのような場で展開されていくのか、グループワークを通して考え、新たな介護のあり方を提案する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「その11 未来に向けて 私の歴史とともに」(pp.150-162) を読んでおくこと。
第15回	わたしが提案する「介護の未来」	(学修内容) 「介護の未来」に関して受講生がプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 紙ベースのレジュメとスライド(PowerPoint)を必ず準備すること。

授業名	消費科学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Consumption Science			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	井上 博子			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	最新の消費者問題に目を向け、安全で豊かな消費生活のための法ルールや社会システムの基礎知識を概説する。特に、「食」をめぐる消費生活の変化をはじめ、フードシステム（生産・加工・流通）の特徴や現状を取り上げ、流通システムの変化や「食」問題や消費実態を考察する。この授業では、講義のほか、学生による発表やディスカッションも取り入れながら授業を進める。								
学修成果到達目標	消費者問題の現状を理解し、消費者トラブル解決の提言やプレゼンテーションができるようになる。食消費の各段階（生産・加工・流通）の役割・特徴についての知識を習得し、説明することができる。「食」をめぐる消費者問題や課題を理解し、対応策や環境問題についての考えを述べることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	(公社)日本フードスペシャリスト協会編 『三訂 食品の消費と流通』 建帛社 2017年								
参考書	『くらしの豆知識』 国民生活センター 『18歳から考える消費者と法』 法律文化社 『大学生が知っておきたい生活のなかの法律』 慶應義塾大学出版会								
課題に対するフィードバックの方法	授業中の理解度ミニテストは、回収後、解答の解説を行う。 学生のプレゼンテーションや質問、意見などについては、その都度、講評やコメントを付けて対応する。								
留意事項	消費者問題は、政治・経済・社会システムと密接に関連しているため、時事問題や社会現象に関心を持つこと。予習、復習をしっかりとしておくこと。特に、フードスペシャリスト資格試験受験者は教科書を何度も読み返し、理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府消費生活センター（非常勤職員） 法務省「法テラス」大阪事務所（情報提供相談員）								

授業名	消費科学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	現代社会と消費者問題、「フードスペシャリスト」とは	(学修内容)授業の到達目標、具体的な進め方、受講に関する諸注意(ガイダンス) (事前事後学修課題の内容)(60分) シラバスを読んで、内容を確認し、教科書や参考書にも目を通しておく。
第2回	消費者の権利と消費者政策(消費者庁)	(学修内容)消費者の権利と責任、消費者行政について (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、復習。担当する課題(テーマ)発表の準備。
第3回	「消費者市民」とは(消費生活センターと消費生活相談)	(学修内容)消費者庁や消費生活センターによせられる若者の相談事例について (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、復習。担当する課題(テーマ)発表の準備。
第4回	契約の基礎知識(消費者契約法、クーリング・オフ制度)	(学修内容)「契約」とは、契約をやめるには、クーリング・オフの手続き方法(消費者契約法や民法など契約に関する法ルールについて) (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、復習。担当する課題(テーマ)発表の準備。
第5回	自立のための生活経済(クレジットカード、電子マネー)	(学修内容)クレジットのルールと利用のポイント、金利や利息、リボルビング払いの計算について (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、復習。担当する課題(テーマ)発表の準備。
第6回	食市場の変化	(学修内容)食生活の特徴(食の外部的化をもたらした要因)や、今後さらに拡大が見込まれる食市場について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、事前事後学習しておく。
第7回	消費者の食品消費の変化	(学修内容)消費者の食品消費について、主要食品の品目別消費量の変化から捉え、食の嗜好変化やライフスタイルの変化について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、事前事後学習しておく。
第8回	食生活の多様化	(学修内容)現在の私たちの食生活の形態の変化や変化の要因について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、事前事後学習しておく。
第9回	食品の流通	(学修内容)生鮮品の流通に大きな役割を果たしている卸売市場と加工食品を扱う食品問屋(食品卸)について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、事前事後学習しておく。
第10回	食品の小売り流通	(学修内容)スーパーや百貨店など、食品小売業について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、事前事後学習しておく。
第11回	外食産業のマーチャンダイジング	(学修内容)チェーンレストランなどを取り上げ、その運営の仕組みや食材供給システムについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、事前事後学習しておく。
第12回	中食産業のマーチャンダイジング	(学修内容)コンビニエンスストアを取り上げ、その運営の仕組みや今後の動向などについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、事前事後学習しておく。
第13回	主要食品の流通	(学修内容)主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、事前事後学習しておく。
第14回	フードマーケティング	(学修内容)フードビジネスによるマーケティングについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、事前事後学習しておく。
第15回	食料消費の課題	(学修内容)「食」にかかわる最新の消費者問題(環境問題)、フェアトレードやエシカル消費について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、事前事後学習しておく。

授 業 名	自治体公務員論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Theory of Municipal Public Servant			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 康久			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	主に公務員行政職を目指す学生を対象に、自治体が直面する行政課題をどのように解決していくかを、具体的な事例を挙げながら、課題解決のための最適な法的政策手法について考える。								
学 修 成 果 到 達 目 標	公務員の種類・仕事内容等地方公務員を目指すうえでの基礎的な知識を学ぶことができる。 行政が当面しているいくつかのテーマを担当する公務員が、どのような思いで業務に取り組んでいるかについての理解を深めることができる。 基礎的な知識と、公務員の業務への思いを踏まえて、自己の見解を述べることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリント等を配布する								
参 考 書	外山公美編『行政学』弘文社 2016 風間規男編『行政学の基礎』一藝社 2007年 秋吉貴雄『入門 公共政策学』中公新書 2017年								
課題に対するフィードバックの方法	フィールドワーク（ヒアリング）を行った後、それぞれが学んだ事項について解説を行います。								
留 意 事 項	本講義は集中講義として開講する。授業は、地方自治体でのヒアリングを中心に行う予定である。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の終了後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都府庁で30年以上の行政経験のある教員が、その経験を活かして地方自治体の役割や公務員の業務などについて、児童福祉や男女参画などの例に講義を行う。								

授 業 名	自治体公務員論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション(講義のねらい、概要、自己紹介、講義の進め方など) (事前事後学修課題の内容)(60分) 新聞、雑誌等で、興味のある行政課題に関する記事(2例)を切り抜いておくこと。
第2回	日本の行政機関の機能	(学修内容)社会構造が複雑化する中で、行政が必要となった理由について述べる。日本の行政機関である「国、都道府県、市町村」の役割を解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 参考図書を読んでおくこと
第3回	行政政策を推進する仕組み	(学修内容)行政機関が公共政策を進める「政策、施策、事業」の三段階や、法令・条例、計画策定等の基本的な事項について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 参考図書を読んでおくこと
第4回	公務員の業務	(学修内容)公務員が行っている業務内容、スケジュール、規定等について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 参考図書を読んでおくこと
第5回	行政機関へのヒアリング手法	(学修内容)質的調査であるヒアリング手法について説明と、実施時のマナー等の留意事項について指導する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 参考図書を読んでおくこと
第6回	地方行政機関へのヒアリングを行うための、事前ガイダンス	(学修内容)ヒアリングを行う事業について基本的事項について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第7回	地方行政機関(京都市)へのフィールドワーク(ヒアリング) テーマ:市民との協働(予定)	(学修内容)地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第8回	地方行政機関(京都市)へのフィールドワーク(ヒアリング) テーマ:伝統産業(予定)	(学修内容)地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第9回	地方行政機関(京都市)へのフィールドワーク(ヒアリング) テーマ:観光(予定)	(学修内容)地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第10回	地方行政機関(京都市)へのヒアリング結果についてまとめ(ディスカッション)	(学修内容)ヒアリングを行った結果についてワークショップ形式で整理する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ヒアリングを行った感想等についてまとめておくこと。
第11回	地方行政機関(京都府)へのヒアリングを行うための、事前ガイダンス	(学修内容)ヒアリングを行う事業について基本的事項について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第12回	地方行政機関(京都府)へのフィールドワーク(ヒアリング) テーマ:子育て	(学修内容)地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第13回	地方行政機関(京都府)へのフィールドワーク(ヒアリング) テーマ:学校教育	(学修内容)地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第14回	地方行政機関(京都府)へのフィールドワーク(ヒアリング) テーマ:男女共同参画	(学修内容)地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第15回	地方行政機関(京都府)へのヒアリング結果と全体についてまとめ(ディスカッション)	(学修内容)ヒアリングを行った結果についてワークショップ形式で整理する。全体のまとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) ヒアリングを行った感想等についてまとめておくこと。

授 業 名	政策評価論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Policy Evaluation			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武蔵 勝宏			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>国および地方自治体の行うすべての施策について取り上げ、その上で、近年重要性が高まっている評価の概念・手法とその現状について実際に行われる政策を改善しようとするためのアプローチを広く取り上げる。評価は、行政機関にとどまらず、公共部門に属する幅広い分野に対して適用可能なものとしても扱う。授業では、レジュメを用いた講義形式を中心とするが、適宜、受講生との質疑応答や受講生同士のディスカッションも織り交ぜることとする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>政策評価の方法論とそれを具体的に活用して個別・具体的な政策のレビューと再編成の手法に習熟するようになる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	特に指定しない								
参 考 書	<p>新川達郎「政策学入門」法律文化社、2013年。 宮澤節生他「ブリッジブック法システム入門」信山社、2018年。 三菱UFJリサーチコンサルティング編「2019年日本はこうなる」東洋経済新報社、2018年。</p>								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートについてはコメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	新聞の経済、政策関係の記事を読むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義の前後に教室で質問を受け付ける。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：参議院事務局参事</p>								

授業名	政策評価論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	政策評価とは何か。	(学修内容) 政策評価の入門 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第2回	政策評価の目的	(学修内容) なぜ政策評価が必要なのか、その目的何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第3回	政策評価の方法	(学修内容) 経済学的手法を中心に多様な手法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第4回	政策の失敗・修正・変更	(学修内容) 政策評価の結果が政策の見直しに反映されることを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第5回	日本の政策評価	(学修内容) 政策評価と行政評価の違い (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第6回	政策立案と実施のギャップ	(学修内容) 具体的事例の政策評価の試み1 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第7回	生活保護と児童虐待	(学修内容) 具体的事例の政策評価の試み2 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第8回	少子高齢化問題	(学修内容) 具体的事例の政策評価の試み3 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第9回	子ども子育て支援と認定こども園	(学修内容) 具体的事例の政策評価の試み4 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第10回	社会保障と税	(学修内容) 具体的事例の政策評価の試み5 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第11回	働き方改革	(学修内容) 具体的事例の政策評価の試み6 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第12回	外国人労働者の受け入れ	(学修内容) 具体的事例の政策評価の試み7 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第13回	人工知能(AI)の未来	(学修内容) 具体的事例の政策評価の試み8 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第14回	女性の活用はなぜ進まないのか	(学修内容) 具体的事例の政策評価の試み9 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第15回	講義全体のまとめ	(学修内容) 全体の講義を振り返り、受講生同士のディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)

授 業 名	地方自治体論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Theory of Local Government			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 康久			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	地方自治の理念、しくみ、地方自治を取り巻く課題と地方自治体の責務、住民自治と地方財政の重要性を学ぶ。それらを通し、自分が住む市町村の地方自治の在り方を考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 地方自治の理念について理解できる。 2) 住民の生活を守るための地方自治体の責務について理解できる。 3) 京都の行政機関が行っている施策・事業について説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリント等を準備する								
参 考 書	秋吉貴雄『入門 公共政策学』中公新書 2017 外山公美編『行政学』弘文社 2016 風間規男編『行政学の基礎』一藝社 2007年								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、フィールドワーク(ヒアリング)やディスカッションでの学びの結論に対するの解説を行います。								
留 意 事 項	行政職員からの話を聞く際に、フィールドワーク(ヒアリング)を行う場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都府庁で30年以上の行政経験のある教員が、その経験を活かして地方自治体の役割や政策策定などについて、京都らしい施策を中心に講義を行う。								

授業名	地方自治体論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義のねらい、概要、自己紹介、講義の進め方など (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞、雑誌等の中で、興味のある行政課題についての切り抜き(2例)を準備しておくこと。
第2回	公共政策の基礎	(学修内容) 「公共と行政政策」の違い、「行政セクター、企業セクター、市民セクターの違いと役割」など概括的な考え方を説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考図書を読んでおくこと。
第3回	日本の行政機関の形成	(学修内容) 地方自治の理念、地方自治体の歴史の変遷、国と地方自治体の役割分担について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考図書を読んでおくこと。
第4回	地方行政機関の役割と機能	(学修内容) 地方行政機関が果たす機能と役割に関する基本的な考え方を述べる。「地方行政機関の公共サービス」などに触れる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考図書を読んでおくこと。
第5回	地方行政機関が行う政策の推進	(学修内容) 地方行政機関が政策を推進するために策定する計画の内容とその実践過程を述べる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考図書を読んでおくこと。
第6回	市民協働	(学修内容) 政策実現の実践過程において重視されている「市民協働」についてNPO等との協働事例を説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考図書を読んでおくこと。
第7回	地方自治体の議会	(学修内容) 議会の機能と組織、二元代表制(首長と議会)について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考図書を読んでおくこと。
第8回	「京都らしい」の考察(グループワーク)	(学修内容) 4~5名のグループで「京都らしい」と考える内容をグループ内で議論し、京都が世界に伝えていきたい「京都らしい」事項をまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 参考図書を読んでおくこと。
第9回	京都の特性	(学修内容) 京都市と京都府の基本的な事項を説明した後、千年の都として育んできた京都の文化的な特性の一端について述べる (事前事後学修課題の内容) (60分) 参考図書を読んでおくこと。
第10回	第9回の授業で学生が検討した「京都らしい」を実現する事業(予定)に関する説明(フィールドワーク(ヒアリング))	(学修内容) 京都らしいを実現する事業の行政担当者からの事業内容、計画、効果等の説明。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 参考図書を読んでおくこと。
第11回	第9回の授業で学生が検討した「京都らしい」を実現する事業についてまとめ(ディスカッション)	(学修内容) 4~5名のグループに分かれ、第10回の実践内容について、内容をグループ内で議論しその成果等についてまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考図書を読んでおくこと。
第12回	第9回の授業で学生が検討した「京都らしい」を実現する事業に関する説明	(学修内容) 京都らしいを実現する事業の行政担当者からの事業内容、計画、効果等の説明。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事業に関係する新聞記事等を読んでおくこと。
第13回	第9回の授業で学生が検討した「京都らしい」を実現する事業についてまとめ	(学修内容) 4~5名のグループに分かれ、第12回の実践内容について、内容をグループ内で議論しその成果等についてまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考図書を読んでおくこと。
第14回	地方自治体で働く公務員	(学修内容) 公務員の業務内容等について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考図書を読んでおくこと。
第15回	全体のまとめ	(学修内容) これまでの授業で感じたことについて、4~5名のグループで議論し、理解したこと等をまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの授業内容についてまとめておくこと

授 業 名	災害と防災			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Disaster and Disaster Prevention			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	災害と防災について、東日本大震災・阪神大震災・伊勢湾台風・関西大風水害・関東大震災などの大災害を事例に被害と復興を学ぶ。歴史・都市集落・建築・復興・対策をキーワードとして、解説をおこなう。災害と防災の学習をより身近なものにするためにフィールドワークとして、災害痕跡や地域防災拠点の見学を実地する。ビデオを見たり、ディスカッション、プレゼンテーションをおこないながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	災害と防災についての内容ならびに意味を理解できる。災害と防災の現状を把握することができる。今後の防災のありようを提言することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリント配付								
参 考 書	『津波災害』『地震と防災』『都市と防災』『京都の歴史災害』								
課題に対するフィードバックの方法	被災に対する提出したレポートをコメントを付けて、返却します。、								
留 意 事 項	居眠り・スマホいじり・私語・飲食(のど飴・ガムも含む)は一切禁止								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出すること								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容) 半年間のスケジュールならびにオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストに目をとおすなどの事前学習	
第2回	災害の歴史	(学修内容) 災害の歴史についての説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を事前学習	
第3回	災害の種類	(学修内容) 地震・火災・台風・水害についての説明 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキストの該当箇所を事前学習	
第4回	構築物と災害	(学修内容) 建物や橋、堤防などの構築物と災害の関わりの説明 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキストの該当箇所を事前学習	
第5回	事例紹介1 東日本大震災1	(学修内容) 東日本大震災と津波についての説明1 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキストの該当箇所を事前学習	
第6回	事例紹介2 東日本大震災2	(学修内容) 東日本大震災と津波についての説明2 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキストの該当箇所を事前学習	
第7回	事例紹介3 阪神大震災	(学修内容) 阪神大震災と火災についての説明 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキストの該当箇所を事前学習	
第8回	事例紹介4 関西大風水害	(学修内容) 関西大風水害と建物倒壊についての説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を事前学習	
第9回	事例紹介5 関東大震災	(学修内容) 関東大震災と建物倒壊・火災についての説明 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキストの該当箇所を事前学習	
第10回	フィールドワーク1	(学修内容) 京都の災害の痕跡のフィールドワーク (事前事後学修課題の内容)(30分) 当該地域の事前学習	
第11回	防災と法整備	(学修内容) 防災と法整備についての説明 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を事前学習	
第12回	防災と地域社会	(学修内容) 防災と地域社会についての説明 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキストの該当箇所を事前学習	
第13回	防災と復興計画	(学修内容) 防災と復興計画についての説明 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキストの該当箇所を事前学習	
第14回	フィールドワーク2	(学修内容) 地域防災拠点の見学 (事前事後学修課題の内容)(30分) 当該地域の事前学習	
第15回	災害と防災のプレゼンテーション	(学修内容) 災害と防災についてのプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(90分) 各自パワ・ポイントの作成と発表の準備	

授業名	地方行政論			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Local Government			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>地方公共団体は、その財産を管理し、事務を処理し、及び行政を執行する機能を有すると、憲法に定められている。この地方公共団体、具体的には基礎自治体としての市町村、広域自治体としての都道府県、さらに道州制等の行政の役割と機能について理解することが本講義の目的である。今日、住民の身近な存在である市町村行政の役割が強調されているが、その果たすべき役割と内容等についてとくに重視していきたい。また一方で広域行政の議論が登場しているが、その意味するところは何かについても論究していきたい（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。また授業内において、グループワークだけでなくフィールドワークもおこなうことを予定しております。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 市役所や町村役場、都道府県庁、中央省庁、そこに勤める公務員と言われる人たちの活動を把握することができる。</p> <p>2) 日常生活と行政との関わりが理解できる。</p> <p>3) 行政について、マスコミなどが指摘する問題が起こる「しくみ」が理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	適宜、授業時に資料を配布する。								
参考書	授業時に適宜紹介します								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に関して、評価基準の具体的な内容を授業内やメールにて解説します。								
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する（受講者の状況や授業の進展の程度により、データを用いる実習を増やしていく）。								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実践的教育									

授 業 名	地方行政論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認してください。
第2回	行政をみる眼	(学修内容) 政治と行政との関係について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 住んでいる地域の市役所・役場にはどのような課があるのか、調べてください。
第3回	行政の国家の広がりとその変化 --福祉国家について	(学修内容) 福祉国家への道とその反転について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 住んでいる市・町・村において、どのような福祉政策(医療制度など)が進められているのか調べてきてください。
第4回	行政の国家の広がりとその変化 --行政国家について	(学修内容) 行政国家とは何かについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「行政国家とはなんだろうか」を読んできてください。
第5回	日本の行政制度の変遷と現状 --日本国憲法 行政の国家の広がりとその変化	(学修内容) 日本国憲法による原理の転換と戦前について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「日本国憲法による原理と転換」を読んできてください。
第6回	日本の行政制度の変遷と現状 --議員内閣制 行政の国家の広がりとその変化	(学修内容) 議員内閣制と内閣の位置について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「議員内閣制と内閣の位置」を読んできてください。
第7回	日本の行政制度の変遷と現状 --省庁	(学修内容) 省庁の設置と管理について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「省庁の設置と管理はどうなっているか」を読んできてください。
第8回	日本の行政制度の変遷と現状 --公務員制度	(学修内容) 公務員制度について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「公務員制度はどうなっているか」を読んできてください。
第9回	日本の行政制度の変遷と現状 --中央省庁と自治体	(学修内容) 中央省庁と自治体との関係について (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「二〇〇〇年改革後の中央省庁と自治体との関係」を読んできてください。
第10回	地方自治体の活性化への取り組み (ふるさと納税): グループワーク	(学修内容) ふるさと納税に関して、グループワークで調べていきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ふるさと納税に関する新聞記事を収集してみる。
第11回	地方自治体の活性化への取り組み (ゆるキャラ): グループワーク	(学修内容) ゆるキャラに関して、グループワークで調べていきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ゆるキャラに関する新聞記事を収集してください。
第12回	地方自治体の活性化への取り組み (B-1グランプリ): グループワーク	(学修内容) B-1グランプリに関して、グループワークで調べていきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) B-1グランプリに関する新聞記事を収集してください。
第13回	育児支援における地方行政の対応: グループワーク	(学修内容) 地域間における育児支援の違いについて、グループワークで調べていきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 育児支援に関する新聞記事を収集してください。
第14回	地域間格差の問題について	(学修内容) 地域間格差の問題をとらえ、地方自治体が置かれている状況について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 過疎問題などの新聞記事を収集してください。
第15回	道州制について --大阪都構想について	(学修内容) 道州制について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 市町村合併について調べてきてください。

授 業 名	教育制度論（家庭・栄養）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Educational Systems			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松浦 真理			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>教免法に定められた「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を学ぶ基礎理論科目として、教育を枠組み、つまり制度から見つめ、その意義とこれまでの発展を理解し、今後の展開について考察することを目的とする。制度は政治経済的な側面と大きくかわるため、それについても考えていく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教育制度、とくに学校制度に関する歴史的な変遷と現在、今後の課題について説明ができる 2) 幼稚園、小学校、中学校、の学校教育制度を理解して、課題をつかむことができる。 3) 日本の教育行政制度、教育課程行政、教職員制度、学校経営に関する基礎的な知識を身につける。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	高妻紳二郎編著『新・教育制度論』（ミネルヴァ書房、2014）								
参 考 書	教育制度研究会編『要説教育制度』（学術図書出版）、尾崎ムゲン『日本の教育改革』（中公新書）など。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された小レポートやリアクションペーパーには翌週にコメントや回答をする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼りだすので、できるだけその時間にくること。メールでの質問やアPOINTは随時受け付ける。								
実 践 的 教 育									

授業名	教育制度論（家庭・栄養）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション「制度を学ぶ意義」	（学修内容）授業の進め方、教育制度を学ぶ意義 （事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスを読んでおく。
第2回	教育制度の基本原則	（学修内容）日本の教育制度の基本原則を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト1章を参考に、課題をしておく。
第3回	諸外国の教育制度	（学修内容）諸外国の教育制度と比較して、違いと意味を考える （事前事後学修課題の内容）（40分） 興味がある国の教育制度について調べておく。
第4回	学校制度の発展と現在	（学修内容）学校制度の定義、種類、系統、設置者などを把握する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト2章を参考に、課題をしておく。
第5回	義務教育制度	（学修内容）日本の義務教育制度の確認と意味について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育基本法、学習指導要領総則を読んでおく。
第6回	教職員の職務内容と義務	（学修内容）教職員の責務と学校運営の動向について把握する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト3章を参考に、課題をしておく。
第7回	教員養成と現職研修	（学修内容）教員に求められる資質能力と免許高度化の傾向を知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト4・5章を参考に、課題をしておく。
第8回	教育委員会制度	（学修内容）教育委員会の組織と権限について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト6章を参考に、課題をしておく。
第9回	学校評価の導入と手法	（学修内容）学校評価の目的と手法について知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト8章を参考に、課題をしておく。
第10回	教員の福利厚生	（学修内容）教員の勤務実態についてその法制度と課題を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト7章を参考に、課題をしておく。
第11回	地域や親との連携に関わる諸制度	（学修内容）地域住民の学校参画、学校選択制度など最近の学校を取り巻く状況を知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト14章を参考に、課題をしておく。
第12回	教科書制度	（学修内容）教科書検定・採択の意義と特徴について把握する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト11章を参考に、課題をしておく。
第13回	学校給食の制度	（学修内容）学校給食の具体的形態と食育について知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト10章を参考に、課題をしておく。
第14回	学校の危機管理の制度	（学修内容）生活安全、交通安全、災害安全などの観点から学校を取り巻く危機管理と取り組みについて把握する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 学校で起こりうる安全の課題について具体的に書き出しておく。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの内容から教育制度の意義の再確認。 （事前事後学修課題の内容）（60分） これまでを振り返りまとめのレポートを作成しておく。

授業名	教育制度論（幼・小）			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Educational Systems			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	松浦 真理			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>教免法に定められた「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を学ぶ基礎理論科目として、教育を枠組み、つまり制度から見つめ、その意義とこれまでの発展を理解し、今後の展開について考察することを目的とする。制度は政治経済的な側面と大きくかかわるため、それについても考えていく。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教育制度、とくに学校制度に関する歴史的な変遷と現在、今後の課題について説明ができる 2) 幼稚園、小学校、中学校、の学校教育制度を理解して、課題をつかむことができる。 3) 日本の教育行政制度、教育課程行政、教職員制度、学校経営に関する基礎的な知識を身につける。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	高妻紳二郎編著『新・教育制度論』（ミネルヴァ書房、2014）								
参考書	教育制度研究会編『要説教育制度』（学術図書出版）、尾崎ムゲン『日本の教育改革』（中公新書）ほか、適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された小レポートやアクションペーパーには翌週にコメントする。予習課題については翌週のはじめにチェックし、定着を図る。								
留意事項									
オフィスアワー	研究室に日時を貼りだすのでできるだけその時間にくること。メールでの質問やアPOINTは随時受け付ける。								
実践的教育									

授業名	教育制度論（幼・小）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション「制度を学ぶ意義」	（学修内容）授業の進め方、教育制度を学ぶ意義 （事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスを読んでおく。
第2回	教育制度の基本原則	（学修内容）日本の教育制度の基本原則と世界の制度の概略を知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト1章を参考に、課題をしておく。
第3回	学校制度の発展と現在	（学修内容）学校制度の定義、種類、系統、設置者などを把握する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト2章を参考に、課題をしておく。
第4回	就学前教育制度	（学修内容）日本の就学前教育制度を確認し、こども園や保育所とのつながりを理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布資料、教育基本法、幼稚園教育要領該当箇所を読んでおく。
第5回	義務教育制度	（学修内容）日本の義務教育制度の確認と幼小連携について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育基本法、学習指導要領総則を読んでおく。
第6回	教職員の職務内容と義務	（学修内容）教職員の責務と学校運営について知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト3章を参考に、課題をしておく。
第7回	教員養成と現職研修	（学修内容）教員に求められる資質能力と免許高度化の動向を把握する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト4・5章を参考に、課題をしておく。
第8回	教育委員会制度	（学修内容）教育委員会の組織と権限について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト6章を参考に、課題をしておく。
第9回	学校評価の導入と手法	（学修内容）学校評価の意義と目的、手法について把握する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト8章を参考に、課題をしておく。
第10回	教員の福利厚生	（学修内容）教員の勤務実態についてその法制度と課題を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト7章を参考に、課題をしておく。
第11回	地域や親との連携に関わる諸制度	（学修内容）地域住民の学校参画、学校選択制度の動向について知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト14章を参考に、課題をしておく。
第12回	教科書制度	（学修内容）教科書検定の意義や採択の特徴について把握する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト11章を参考に、課題をしておく。
第13回	学校給食の制度	（学修内容）学校給食の具体的形態と食育の動向を知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト10章を参考に、課題をしておく。
第14回	学校の危機管理の制度	（学修内容）生活安全、交通安全、災害安全等の観点から学校を取り巻く危機管理と基本的な取り組みについて把握する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 学校で起こりうる安全の課題について具体的に書き出してみる。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの内容から教育制度の意義を再確認する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） これまでの振り返りレポートを書く。

授 業 名	ライフスタイルと法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Lifestyle and Law			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡辺 暁彦			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>法（法律）と聞いて、あなたはどのようなイメージをもちますか。そのようなイメージを出発点としながら、本講義では私たちの身近な生活のなかで法がどのような働きをしているのかについて考えます。その際には、裁判（所）の役割にも目を向ける必要があります。現在、小・中学校における「法教育」の取組みも進んでいます。本講義では、法のご概念や法の体系・種類、法の解釈といった法律学上の基本事項について学ぶとともに、小・中学校における法教育の可能性等についても話し合いたいと考えています。</p> <p>なお理解を深めるために、DVDを視聴したり、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進めます。ちなみに昨年度は、裁判傍聴を行いました。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 身近な生活のなかで法（法律）がどのような役割を果たしているかについて理解できる。</p> <p>2) 具体的な事件等について、法的視点（法的な考え方）から問題点と解決策を説明することができる。</p> <p>3) 小・中学校における法教育・憲法教育のあり方について学び、自分なりの実践案を作成することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テ キ ス ト	森本直子ほか編『法学ダイアリー』（ナカニシヤ出版、2017年4月） *詳細は、初回授業の際に説明します。								
参 考 書	W・キャッシュディ&R・イエーツ編『小学校で法を語ろう』（成文堂、2015年）。また、可能であれば『六法』を準備していただきたい。この点も含めて、初回に詳しい説明を行います。								
課題に対するフィードバックの方法	小レポート等については、授業時に簡単に講評・コメントを行ったうえで返却します。								
留 意 事 項	日々の新聞や雑誌記事の切り抜き（記録）を課題とします。日々の出来事や事件などを通して、私たちの生活のなかで、法や裁判がどのような役割を果たしているかについて考えてみてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授 業 名	ライフスタイルと法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ～法律学への誘い、法とは何か、法の解釈とは～	(学修内容) 授業概要の説明、法とは何か、法を学ぶことの意味について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、テキストの目次及び「プロローグ」に簡単に目を通しておくこと。
第2回	誕生と法 ～法の対象となるヒトとは?～	(学修内容) ヒト(人)の誕生をめぐる法的問題について学ぶ。調べてきたことをもとに、グループワーク及びプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 予習として、テキスト第1章に目を通すとともに、最近のニュースから気になった法的事項を一つ選び、簡単に概要をまとめて提出すること。
第3回	子どもと法	(学修内容) 子どもや学校(小・中学校を中心に)に関する法制度について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第2章に目を通しておくこと。
第4回	市民生活と法	(学修内容) 市民としての私たちの責務、特に選挙や納税をめぐる問題、そして裁判員制度等について学ぶ。グループワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第3章に目を通しておくこと。復習として、DVDを視聴して気づいたことをレポートにまとめて提出。
第5回	消費生活と法 ～消費者の権利～	(学修内容) 契約に関わる法的問題について学ぶ。新聞記事等の切り抜きをもとに、調べてきたことについてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第4章に目を通しておくこと。
第6回	職業生活と法 ～労働に関する法的ルール～	(学修内容) 労働法の基本原則等について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第5章に目を通しておくこと。
第7回	パートナーシップと法	(学修内容) 婚姻や離婚をめぐる法的問題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第6章に目を通しておくこと。
第8回	事故と法 ～学校事故の法的責任～	(学修内容) 学校事故などを例に、民法の不法行為について学ぶ。新聞記事等の切り抜きをもとに、調べてきたことについてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 予習として、テキスト第7章を参考に、具体的な学校事故に関する案件をレポートにまとめて提出すること。
第9回	犯罪と法	(学修内容) 刑法の基礎について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第8章に目を通しておくこと。
第10回	高齢化と法	(学修内容) 社会保障法の基礎について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第9章に目を通しておくこと。
第11回	終末期と法	(学修内容) 安楽死・尊厳死問題等を素材に医事法の基本について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第10章に目を通しておくこと。
第12回	人の死と法	(学修内容) 民法(特に、親族・相続法)の基本を学ぶ。新聞記事等の切り抜きをもとに、調べてきたことについてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第11章に目を通しておくこと。
第13回	情報社会と法	(学修内容) 情報公開制度や個人情報保護制度、インターネットをめぐる法的問題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第12章に目を通しておくこと。
第14回	環境と法	(学修内容) 環境法の基本について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第13章に目を通しておくこと。
第15回	まとめ ～グローバル社会に生きる私たち～	(学修内容) グローバル社会のなかで、あらためて法の役割とは何かについて皆で話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 予習として、テキスト第14章に目を通すとともに、春学期の講義内容を振り返り、あらためて法とは何かについて自らの意見をまとめておく。

授 業 名	統計学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Statistics			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の基礎的な知識をまじえながら、基本統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、サンプリングと統計的な検定の原理や、分散、相関に関する分析手法について解説する。すべての授業を通じて、具体例を用いて作業しながら学べるよう心がける。なお、この授業内容は、秋学期に開講予定の「統計」と連続している。本授業で、統計の基本的なルールを理解した上で、「統計」においては統計を研究や仕事の場面で活用できるよう実践的な力を伸ばすため応用的な課題を自ら解決する態度がもとめられる。								
学 修 成 果 達 成 目 標	テキスト内に紹介されている活用事例を通して、統計の基本的な考え方やルールを説明することができる 統計処理ソフト（Excel）を用いて、自ら、統計の分析ができるようになる。 統計の分析の結果をグラフや表などで視覚化できる。また、分析結果に対して考察を加えることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () () ()			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	向後千春 他 『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしい楽しい統計学』 技術評論社 2007年								
参 考 書	授業の進捗に合わせて、適宜、参考となる書籍や記事などを紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	提出を求める課題に対しては、添削をして後日返却します								
留 意 事 項	毎回テキストを用いた学習が中心となる。必ずテキストを購入すること。 本授業（基礎）と秋学期開講の「統計」（応用）は内容は続きになっている。 毎回の授業時にふりかえりシートを配布する。受講生は次の回に必ず提出すること。 ふりかえりシートでまとめたものが最終のレポート課題の一部となるため、毎回の授業への取り組み方が重要である。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業実施期間中の毎週水曜昼休み								
実践的教育									

授業名	統計学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 統計の授業の目的と流れを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 テキストの目次を読んでくる
第2回	平均・度数分布	(学修内容) Excelを用いて平均値を求め、度数分布表を作成できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.12-21までを読んでくる 事後 作成した度数分布表を完成させ、データを担当者に提出
第3回	分散と標準偏差	(学修内容) 数字のばらつきの意味を説明できる、Excelを用いて標準偏差を算出することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.22-30を読んでくる 事後 テキストp.32「確認テスト」をExcelで作成し、データを担当者に提出
第4回	標本と推定値	(学修内容) 確認テストの答え合せ、推定値の意味を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.34-40を読んでくる 事後 前回の確認テスト結果、誤りを正し再提出
第5回	区間推定と信頼区間	(学修内容) Excelを使用して信頼区間を求めることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.41-50を読んでくる 事後 テキストp.51「確認テスト」をExcelで作成し、データを担当者に提出
第6回	確認テストの答え合せ、帰無仮説	(学修内容) 練習問題から仮説を立て、検討し、結果を比べることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.54-61を読んでくる 事後 前回の確認テストの結果、誤りを正し再提出
第7回	カイ2乗検定	(学修内容) Excelを用いてカイ2乗値を求めることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.62-76を読んでくる 事後 テキストp.78「確認テスト」をExcelで作成し、担当者にデータを提出
第8回	確認テストの答え合せ、t検定(対応なし)	(学修内容) 対応なしのt検定をExcelで求めることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.80-97を読んでくる 事後 テキストp.98「確認テスト」をExcelで作成し、担当者にデータを提出
第9回	確認テストの答え合せ、t検定(対応あり)	(学修内容) 対応ありのt検定をExcelで求めることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.100-115を読んでくる 事後 テキストp.116「確認テスト」をExcelで作成し、担当者にデータを提出
第10回	確認テストの答え合せ、分散分析	(学修内容) 分散分析を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.118-127を読んでくる 事後 t検定の確認テストの結果で誤りを正し再提出
第11回	分散分析(1要因)	(学修内容) Excelを用いて分散分析(1要因)を操作することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.128-137を読んでくる 事後 テキストp.138「確認テスト」をExcelで作成し、担当者にデータを提出
第12回	確認テストの答え合せ、分散分析(2要因)	(学修内容) 2要因の分散分析を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.140-147を読んでくる 事後 確認テストの結果で誤りを正し再提出
第13回	2要因の分散分析	(学修内容) Excelを用いて2要因の分散分析表を作成することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストpp.148-156を読んでくる 事後 分散分析表を整えて、授業担当者へデータで提出
第14回	交互作用の意味	(学修内容) 交互作用の意味を説明することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストp.157-162を読んでくる 事後 p.163「確認テスト」をExcelで作成し、担当者にデータを提出
第15回	確認テストの答え合せ、学修成果のふりかえり	(学修内容) 確認テストの答え合せ、学修成果のふりかえり (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 これまでの授業で理解できたところ、分からなかった箇所をまとめておく 事後 授業時の意見交換を踏まえレポート試験を準備する

授業名	統計学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Statistics			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	社会調査で得られたデータの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する授業である。特に、因果関連を明らかにするために用いる分析手法である重回帰分析と、変数を要約するために用いる分析手法である因子分析について詳しくとりあげ、データを読み解く力をつけていく。								
学修成果到達目標	テキスト内に紹介されている活用事例を通して、統計の基本的な考え方やルールを説明することができる。 統計処理ソフト(Excel)を用いて、自ら、統計の分析ができるようになる。 統計の分析の結果をグラフや表などで視覚化できる。また、分析結果に対して考察を加えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () () ()			
テキスト	向後千春 他 『統計学がわかる一回帰分析・因子分析編一』 技術評論社 2009年								
参考書	授業の進捗状況に合わせて適宜指示する								
課題に対するフィードバックの方法	提出を求める課題に対しては後日添削をしたものを返却します								
留意事項	本授業は、春学期に開講された「統計」と連続した構成となっている。「統計」と「統計」の連続授業を臨む。基本的にテキストの説明に沿って、統計の手法を学び、PC操作を行うスタイルの授業である。そのため、必ずテキストを購入すること。また、エクセルの基本操作を習得しておくことが望ましい。毎回の授業時にふりかえりシートを配布する。受講生は次の回に必ず提出すること。ふりかえりシートでまとめたものが最終のレポート課題の一部となるため、毎回の授業への取り組み方が重要である。								
オフィスアワー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実践的教育									

授業名	統計学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 統計の授業の目的と流れを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 テキストの目次を読んでくる
第2回	散布図と相関	(学修内容) Excelを用いて散布図を作成し説明することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストpp.10-22までを読んでくる 事後 作成した散布図を完成させ、データを担当者に提出
第3回	相関係数	(学修内容) Excelを用いて相関係数を計算することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストpp.26-41を読んでくる 事後 授業時に作成したデータを整理し担当者に提出
第4回	相関検定	(学修内容) 無相関検定の手法を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストpp.44-61を読んでくる 事後 テキストのアンケート分析の検定結果を整理しそのデータを担当者に提出
第5回	ここまでの振り返り	(学修内容) ここまでの章の確認テストに挑戦し、解答することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 これまでのテキストの範囲を復習してくる 事後 確認テストの答えを直したものを担当者にデータで提出
第6回	回帰直線	(学修内容) 回帰直線の求め方を説明することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストpp.64-77を読んでくる 事後 授業時に作成した回帰直線の図を整理して担当者にデータで提出
第7回	偏相関	(学修内容) 偏相関について説明することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストpp.80-95を読んでくる 事後 授業時に求めた偏相関係数を整理して担当者にデータで提出
第8回	回帰直線と偏相関の振り返り	(学修内容) ここまでの章の確認テストに挑戦し、解答することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 これまでのテキストの範囲を復習してくる 事後 確認テストの答えを直したものを担当者にデータで提出
第9回	重回帰分析	(学修内容) 重回帰分析を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストpp.98-113を読んでくる 事後 重回帰分析によって求めた結果を整理して担当者にデータで提出
第10回	相関行列	(学修内容) 多変量データを整理し変数をまとめ相関係数を求めることができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストpp.116-123を読んでくる 事後 求めた相関係数を整理して次回まで担当者にデータで提出
第11回	重回帰分析と相関行列の実践	(学修内容) 実際の課題に対して自ら操作し求めることができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキスト第6章と第7章を復習してくる 事後 p.114「確認テスト」の解答を整理し次回まで担当者にデータで提出
第12回	因子分析	(学修内容) 因子分析の考え方を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストpp.139-132を読んでくる 事後 因子分析を使ってまとめた論文や調査研究データを採す
第13回	因子分析の実践	(学修内容) テキストの因子分析の事例をもとに、専用ソフトがダウンロードされているPCで因子分析を操作できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストpp.133-148を読んでくる 事後 データを整理して、次回、データで担当教員に提出
第14回	因子得点	(学修内容) 因子得点について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストpp.149-153を読んでくる 事後 最終レポートについて素材を集める
第15回	全体のまとめ	(学修内容) テキストをふりかえって学んできた知識を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストを全体的に見直してくる 事後 最終レポートの作成を進める

授 業 名	労働法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Labor Law			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	中川 直毅			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>働く人々守っていくためのワークルールである労働法の基礎的知識を体系的に、学生の皆さんと一緒に、楽しく、分かりやすい授業で学んでいきます。</p> <p>学生の皆さんが社会に出てからだけに留まらず、現時点におけるアルバイトなどでも労働法の知識が即刻役立つように、事例を豊富に組み込んで解説していきます。本年度は、学生の皆さんのキャリアの形成とワークルール(労働法)の理解が、いわば矛と盾、攻めと守りの両輪を成しているとの視点を組み込んだテキスト「要説 キャリアとワークルール」を活用して、講義を進めていきます。</p> <p>なお、成績評価は定期試験におけるレポート提出(1~2頁程度)で行います。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)働く人を保護する労働法の必須知識が身につく</p> <p>2)ワークルール(労働法)の知識が、将来のキャリア形成に役立つと実感できる。</p> <p>3)セクハラ、パワハラ、マタハラなどのハラスメントを法的に防御する知識と知恵が身につく。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	中川直毅 編著「要説 キャリアとワークルール」三恵社2019年刊 1650円(税別)								
参 考 書	必要に応じて授業で指示する								
課題に対する フィードバック の方法	授業中に1~2回程度、授業理解を確認するための授業感想メモの提出を任意に求めます。このメモにコメントをつけて返却していきます。								
留 意 事 項	特になし								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎回授業終了後に実施します。 アルバイト先などの職場で、働くルールについて疑問点がある場合の相談にも応じます。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実際経験など： キャリア指導の実務:名古屋芸術大学キャリアセンター長(現職)、一般社団法人洛陽労働法務キャリア支援機構キャリア相談室長(現職) 労働法、人事労務管理の実務:特定社会保険労務士、T R A D社会保険労務士法人顧問、安村公認会計士事務所顧問、H R社会保険労務士法人顧問(以上現職)。N K Kスイッチズ(株)などの上場会社等で人事部長、人事総務部長(元職)を歴任。</p>								

授 業 名	労働法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業概要の説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの「はしがき」と「目次」を概観しておくこと
第2回	キャリアとワークルールを考える	(学修内容) 労働法はキャリア形成を考えるのに如何に役立っているかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストのP13～P21に目を通しておくこと
第3回	労働法を知ることで、幸せに働くとは	(学修内容) 何のために働くのか、そして色々な労働法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストのP22～P34に目を通しておくこと
第4回	雇用の動向と働き方改革について	(学修内容) 働き方改革関連法/労働経済としての雇用、働き方改革について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) テキストのP35～P44と事前配布レジメに目を通しておくこと
第5回	労働契約と就業規則について	(学修内容) 労働基準法 /労働契約、採用、就業規則などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストのP91～P100に目を通しておくこと
第6回	お給料とその支払いについて	(学修内容) 労働基準法 /賃金の定義、支払い方法、最低賃金などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストのP100～P103に目を通しておくこと
第7回	お給料について法的に考えていく	(学修内容) 労働基準法 /時間外労働手当(残業代)、平均賃金、退職金などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストのP104～P106に目を通しておくこと
第8回	労働時間について	(学修内容) 労働基準法 /労働時間の種類、休憩時間、休日、振替休日などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストのP107～P114に目を通しておくこと
第9回	解雇、退職、定年について	(学修内容) 労働基準法、パート有期雇用労働法/解雇・退職・定年、雇止め、解雇権の濫用などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) テキストのP114～P116と事前配布レジメに目を通しておくこと
第10回	メンタル対策と労働安全衛生法について	(学修内容) 労働安全衛生法/健康診断、ストレスチェック制度、メンタルマネジメントなどについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストのP116～P120に目を通しておくこと
第11回	男女平等としての働き方について	(学修内容) 男女雇用機会均等法、育児介護休業法 /均等法の成立過程と内容、男女平等としての法的機能、育児休業・介護休業について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前配布レジメに目を通しておくこと
第12回	セクハラ、パワハラから身を守る	(学修内容) 男女雇用機会均等法、育児介護休業法 /ハラスメント防止に関する法的保護について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前配布レジメに目を通しておくこと
第13回	ブラック企業に近づかないようにする	(学修内容) 労働施策総合促進法/長時間労働、パワーハラスメントなどについて学び、パワハラの防止措置について受講者とディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストのP121～P128に目を通しておくこと
第14回	労働組合、団結してパワーアップ	(学修内容) 労働組合法/労使関係の仕組み、労使自治、労働協約、団体交渉などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストのP129～P139に目を通しておくことと、労働組合についての情報をホームページや図書館で収集しておくこと
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りをする (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で取り扱ったテキストの該当頁について、もう一度通読し、期間内の授業を簡単に復習しておくこと

授 業 名	男女共同参画社会論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Gender Equality			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	男女が共同参画しながら社会を形成していくことは、男女平等を達成するために必要であるとともに、ポスト経済成長時代の社会形成にも重要である。グローバル化、脱工業化といった社会の仕組みが変化するにしたがって、なぜ男女共同参画が重要となってくるのかを、ジェンダー・人権という視点を基底におきながら考える。男女共同参画の現状は諸領域においてどのような状況であるのかを検証し、これからの課題を探る。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本社会の男女共同参画の現状について、国際動向に照らし合わせながら理解できる。 2) 受講生一人一人が、男女共同参画社会の担い手になる自覚をもつことができる。 3) 具体的な課題を設定し、その課題解決に向けての提言ができるようになる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学习支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)								
参 考 書	『女性学・男性学 ジェンダー論入門』伊藤公男ほか(有斐閣アルマ)、『はじめて学ぶジェンダー論』伊田広行(大月書店)、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか(有斐閣)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、そのほか適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートは返却し、コメントします。 プレゼンテーションに対して、コメントします。								
留 意 事 項	ジェンダー論を履修しておくことが望ましい。参加型の授業を目指すので、授業内での積極的な発言を求める。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 嘱託研究員								

授 業 名	男女共同参画社会論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 男女共同参画とは	(学修内容)男女共同参画社会・男女平等とは何かについてについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの目次をみて全体の構成を把握しておく。
第2回	ジェンダーとは何か	(学修内容)ジェンダーという概念について理解する。ディスカッションも含む。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第3回	メディアのなかの男女共同参画	(学修内容)メディアが男女共同参画に与える影響について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第4回	CM分析	(学修内容)グループごとに現在のCMについて男女共同参画の視点から分析する(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第5回	CM分析のグループ発表	(学修内容)各グループごとにCM分析の結果を発表する(プレゼンテーション、ディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備をしておく。
第6回	アニメ・テレビドラマについて男女共同参画の視点からの検証	(学修内容)アニメ・テレビドラマについて男女共同参画の視点から分析された資料を検討する(ディスカッション含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 男女共同参画の視点からアニメ・テレビドラマを見ておく。
第7回	教育における男女共同参画：教科書	(学修内容)教科書における男女共同参画について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第8回	スウェーデンにおける中学校社会科の教科書分析	(学修内容)男女共同参画の視点からスウェーデンの中学校の教科書について分析する(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読んでおく。
第9回	日本とスウェーデンの中学校社会科の教科書の比較	(学修内容)前回の分析について発表する(プレゼンテーション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備をしておく。
第10回	法律と男女共同参画	(学修内容)法律における男女共同参画の現状について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第11回	法律における男女共同参画の実態	(学修内容)法律における男女共同参画の課題について考える(ディスカッション含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読んでおく。
第12回	就業と男女共同参画	(学修内容)就業に関する男女共同参画の現状について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第13回	男女共同参画と子育て：母親	(学修内容)子育てにおける母親の現状と課題について理解する(ディスカッション含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読んでおく。
第14回	男女共同参画と子育て：父親	(学修内容)子育てにおける父親の現状と課題について理解する(ディスカッション含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読んでおく。
第15回	全体のまとめと振り返り	(学修内容)これまでのまとめと振り返りをする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業全体を振り返っておく。

授業名	情報ネットワーク論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Infomation Network			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>情報ネットワークの急速な発展は、社会に様々な変化を起こすとともに、大きな可能性を秘めている。その反面、これまではない新たな社会問題にも直面する。授業では、情報ネットワークに対する幅広い基礎知識との活用力の育成が求められている。テキストでの学習を踏まえ、授業の後半は、グループ学習を導入して、わたしたちの暮らしと情報ネットワークの関係をケーススタディによって知識・理解を深める。その中で、情報倫理と情報の安全性を厳守し、情報ネットワークを利用できることをめざす。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 普段利用している情報ネットワークの基礎的な仕組みを説明できる 2) 情報ネットワークの活用や安全性を考えたり、専門家に質問したりできるようになる 3) 情報ネットワークを利用する場合、大学生として、社会人として求められる情報倫理が説明でき、実践できる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	草野真一(2014)メールは届くのか インターネットのしくみがよくわかる, 講談社								
参考書	その他、適宜、授業中に紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	コメントカードなど提出を求める課題についてはチェックをしコメントを添えて後日返却します								
留意事項	定期試験60%、平常試験40%の割合で評価する。平常試験40%のうち、25%が授業でのグループ学習や個人学習の成果、25%が毎回授業時に提出をもとめるコメントカードやショートレポートの内容、授業進捗への貢献で評価する。定期試験のレポート内容については、授業時に詳しく説明をするが、15回の授業を通して学んできた成果を集約したものとす。グループ学習や個人学習でまとめた資料を文章化しレポートにまとめ、各人の授業の学びの記録と気づきがわかるものとする。したがって、毎回の授業の出席および予習や復習の学修成果がレポートの出来に直結しているものとみなす。								
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)								
実践的教育									

授業名	情報ネットワーク論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	情報ネットワークの基礎 インターネットの誕生と発展を説明できる	(学修内容) インターネットの歴史を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを読んでくる 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.186~204
第2回	情報ネットワークの基礎 デジタルデータの特徴を説明できる	(学修内容) デジタルデータの特徴について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.14~29
第3回	情報ネットワークの基礎 ネットワークのプロトコルの必要性を説明できる	(学修内容) プロトコルについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.30~41
第4回	情報ネットワークの仕組み ウェブページを閲覧できる仕組みを説明できる	(学修内容) ウェブページの閲覧ができる仕組みを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.44~58
第5回	情報ネットワークの仕組み 電子メールの通信の仕組みを説明できる	(学修内容) 電子メールが届く仕組みを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: テキストpp.『メールはなぜ届くのか』pp.58~86
第6回	情報ネットワークの仕組み クラウドサービスの特徴と危険性を説明できる	(学修内容) クラウドサービスの特徴について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.88~119
第7回	情報ネットワークの仕組み パケット通信とIPアドレスについて説明できる	(学修内容) パケット通信とIPアドレスについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.122~160
第8回	情報ネットワークの仕組み プロトコルとOSI参照モデルについて説明できる	(学修内容) OSI参照モデルについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.160~184
第9回	情報ネットワークとネットコミュニケーション ソーシャルメディア	(学修内容) 具体的なサービスを挙げながらソーシャルメディアの「ソーシャル」の意味を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: 自らが使用しているソーシャルメディアを一つ挙げてその機能をメモしてくる
第10回	情報ネットワークとネットコミュニケーション さまざまなSNS	(学修内容) 各種SNSの長所と短所を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: 現在使用しているSNSの共通部分と特徴をメモしてくる
第11回	情報ネットワークとネットコミュニケーション SNSを支えるテクノロジー	(学修内容) SNSの発展を支える情報テクノロジーについて理解する (事前事後学修課題の内容) (90分) 予習: 新聞・雑誌、Web記事からSNSを支えるテクノロジーについて調べて紹介できるようにA4一枚にまとめてくる
第12回	情報ネットワークとネットコミュニケーション SNSがもたらす私たちの暮らしの変化	(学修内容) SNSとわたしたちの暮らしや働き方について理解する (事前事後学修課題の内容) (90分) 予習: 様々なSNSが開発される中で、私たちの暮らしや働き方がそのサービスによって受けた影響をA4一枚まとめてくる
第13回	情報ネットワークとネットコミュニケーション SNSのより便利により有効に活用するためには	(学修内容) 状況に応じたSNSの活用術を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: SNSの炎上事例とSNSによって発生している犯罪例を調べA4一枚にまとめてくる
第14回	【グループワーク】情報ネットワークとIoT わたしたちの生活を支えるIoTの技術とその効果や影響について具体的な事例をあげながら説明することができる。	(学修内容) IoTの技術について、その特徴とわたしの生活に与える効果について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) IoTの技術について、新聞や雑誌、Webサイトから興味を持った内容を、グループで共有し、発表できるように、スライド資料にまとめてくる。
第15回	【プレゼンテーション】情報ネットワークのこれから	(学修内容) 前回の授業でグループワークでまとめた成果を発表する。最後に15回の授業の振り返りを行い、キーワードを挙げる事ができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業を通してもっとも興味関心をもったテーマに沿って自ら学習した結果を発表できるようにまとめてくる。

授 業 名	社会調査の基礎			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Basics of Social Survey			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>< 授業の概要 > 社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解することを目的とする。社会調査の歴史の変遷を押さえながら、その意義と目的、調査方法としての「量的調査」（全数調査・標本調査・横断調査・縦断調査等）、「質的調査」（観察法・面接法等）の基本をふまえ、社会調査の方法（郵送法、留め置き法、訪問聴き取り法等）とその活用方法（社会福祉サービスの再考、社会福祉計画の策定等）について、実際の調査例をまじえながら概観する。講義形式の授業を通して、社会調査の倫理、社会調査における個人情報保護の重要性についても教授する。また、授業において、データセットの方法などデータ整理の実習もおこないます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会調査の種類や方法・手順が理解できる。 2) 調査設計の流れが理解できる。 3) 新聞などマスコミが公表している調査結果の妥当性など検討することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業にて、適宜資料を配布する。								
参 考 書	適宜、紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容について解説します。								
留 意 事 項	積極的・主体的な学習参加を期待する（受講者の状況や授業の進展の程度により、データ分析に関する実習を増やしていく）。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実 践 的 教 育									

授業名	社会調査の基礎	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容について確認する。
第2回	社会調査の目的と意義について 社会調査にできることについて説明します。	(学修内容) 社会調査の内容について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料『社会調査にできること』を読んでおく。
第3回	社会調査の倫理について	(学修内容) 社会調査における倫理について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などでおこなわれるアンケート調査など収集してみる。
第4回	社会調査の歴史 質的調査・量的調査の展開過程について	(学修内容) 社会調査の歴史について説明し、質的・量的調査は、どのように展開していったのか説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料『社会調査にできること』の内容を整理しておく。
第5回	社会調査の種類 目的による分類について?	(学修内容) 社会調査の3つの方法について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「社会調査とはどんなものか」を読んでおく(60分)。
第6回	社会調査の種類 方法による分類について--量的調査?	(学修内容) アンケート調査について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「サーベイ調査の方法」を読んで整理してみる。
第7回	社会調査の種類 方法による分類について--質的調査?	(学修内容) インタビューなど質的調査について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「聞き取り調査の方法」読んで整理してみる。
第8回	社会調査の種類 統計的研究について	(学修内容) 統計的な検定の考え方などについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「統計的な考え方」を読んでおく。
第9回	社会調査の種類 事例研究について	(学修内容) 事例研究について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「聞き取り調査にもとづく事例研究」を読んで整理してみる。
第10回	社会調査の種類 調査対象による分類について?	(学修内容) 社会調査の3つの方法の組み合わせ方などについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「社会調査はどうやるか」を読んでおく。
第11回	実習：聞き取り調査の方法と手順	(学修内容) インタビューの方法と手順について実習します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 雑誌・新聞などのインタビュー記事を集めてくる。
第12回	実習：統計データを加工する	(学修内容) 統計データへのアクセスの仕方と加工について実習します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「書かれた資料の収集と分析」を読んでおく。
第13回	実習：アンケート調査の方法と手順	(学修内容) アンケート調査の方法と手順について実習します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞の世論調査の記事など、きちんとサンプリングされているアンケート調査を収集する。
第14回	社会調査の実例 コミュニティ調査など	(学修内容) 「コミュニティ調査の実例」について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「コミュニティスタディ」を読んでおく。
第15回	社会調査の実例 家族調査など	(学修内容) 「家族調査の実例」について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「事例研究」を読んでおく。

授 業 名	消費者調査法			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Consumer Survey			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>これまで、消費者は、製品の情報をテレビや雑誌などのマスメディアや知人から得ていました。それが今日では、全く会ったことのない人のブログを読み、その人のコメントにひかれてネットから簡単にモノを買うようになりました。インターネットの普及により、個人がアクセスできる情報は増え、情報は「企業から消費者」という流れだけでなく、「消費者から消費者」へと展開するようになっていきます。そのような時代になっても「欲しい」と感じてもらえる消費をつくるためには、どのようなニーズがあるのか分かる必要があります、リサーチはそのために有効な手段です。本授業では、リサーチの手順・仕方について学びます。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) マーケティングにおける調査設計の流れが分かるようになる。 2) マーケティングに関するデータを読むことができる。 3) マーケティングに関わる妥当な資料を収集することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業内に適宜資料を配布する。								
参 考 書	適宜、紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容に関して説明します。								
留 意 事 項	積極的・主体的な学習参加を期待する(受講者の状況や授業の進展の程度により、データ分析に関する実習を増やしていく、また、受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実践的教育									

授 業 名	消費者調査法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	分析とは何か	(学修内容) 分析とは何かについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の関心のあることを整理してきてください。
第3回	調査設計の準備について	(学修内容) 調査設計の内容について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「食」に関して、自分の関心のあることを整理してきてください。
第4回	観察・聞き取りの手順について	(学修内容) 観察・聞き取りの手順について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の関心のあることについて、観察やインタビューをする対象について整理してきてください。
第5回	アンケート調査の進め方-手法について	(学修内容) アンケート調査の手法について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の関心のあることに関する調査票を収集してきてください。
第6回	データの捉え方	(学修内容) データの捉え方について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 家計調査の内容について調べてきてください。
第7回	グラフ化についてと文書化について	(学修内容) データのグラフ化と文章化について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 関心のあることに関するいくつかのアンケートの報告書を比較してみて、どのようにまとめられているのか整理してきてください。
第8回	仮説をたてる	(学修内容) 仮説のたてかたについて学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 関心のあることに関するいくつかのアンケートの報告書の結果を比較し、自分の問題関心を整理してきてください。
第9回	政府による統計データを利用する : グループワーク	(学修内容) グループワークで、仮説を設定し、インターネットを用いて、オープンデータから分析に用いるデータを収集します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 収集したデータを見ながら、どのようなことが指摘できるか考察してください。
第10回	政府による統計データを利用する : グループワーク	(学修内容) グループワークで、収集した統計データを加工していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループの問題関心以外で、データを見て、興味深いものを整理してください(60分)。
第11回	政府による統計データを利用する : グループワーク	(学修内容) データの結果におけるディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 収集してきたデータを整理して、そのデータが示す内容について記述してきてください。
第12回	検証する : グループワーク	(学修内容) 仮説にあったかどうか、もしあっていたら、その後どのようなことが展開できるのか、あてはまらなかったなら、その原因を考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 仮説の検証をしてきてください。もし、仮説にあてはまらなかった場合、その原因も考えてきてください。
第13回	前回の授業を踏まえた分析 : グループワーク	(学修内容) 前回の授業をふまえて、分析を展開させていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 分析に備えて、グループ内で、異なった意見など整理してみる。
第14回	報告書の作成	(学修内容) 報告書の作成について (事前事後学修課題の内容) (60分) 仮説をたて、検証した結果について整理してきてください。
第15回	総括	(学修内容) 総括 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの学習を振り返ってきてください(振り返るポイントは授業時に説明する)。

授 業 名	経営学総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1411
英 文 名	Outline of Business Administration			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	大谷 和 海			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>本講座では、受講生がはじめて経営学を学ぶことを意識して、経営学入門テキストを利用しわかりやすく講義をするようにとめます。具体的には、経営学の対象である企業事例を利用し、現代の企業経営の概要を把握する。テキストとスライドを用いて授業を展開します。受講者には、積極的な授業参加をお願いします。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 企業とは何か、株式会社の特徴や企業経営の特徴について理解し、説明することができる。 2) 企業や経営について、具体的にイメージし、意見提言できる力を身につける。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (授業での質疑応答による理解力と回答力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	上林憲雄ほか著『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣ブックス。								
参 考 書	授業内で適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	制作物に関しては、課題発見・解決能力の観点から評価を伝える。また、プレゼンテーション等の口述に関しては、発表後に評価を伝える。								
留 意 事 項	経営学に関する基本的な知識・理解をもとに、積極的な授業参加のもと、Q & Aの力や、プレゼンテーション能力を身につけてもらいます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	経営学総論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：経営学と現代家政学、経営学とはどんな学問か、会社の経営とはどんなことが（企業経営入門）（補章、第1章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第2回	会社はどのようにして社会に役立っているのか（企業）（第2章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第3回	会社は誰が動かしているのか（コーポレート・ガバナンス）（第3章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第4回	会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略）（第4章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第5回	会社はどんな仕組みで動いているのか（組織形態）（第5章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第6回	会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係）（第6章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第7回	会社はどのようにしてモノを造るのか（生産管理）（第7章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第8回	社員は仕事をどのように分担しているのか（職務構造と職務設計）（第8章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第9回	社員はなぜ働くのか（モチベーションとリーダーシップ）（第9章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第10回	社員はなぜ組織にとどまろうとするのか（雇用システム）（第10章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第11回	社員はどのような報酬を求めるのか（報酬制度）（第11章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第12回	社員はどのようにして育てられるのか（人材育成制度）（第12章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第13回	会社はどのようにして商品を提供するのか（マーケティング）（第13章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第14回	会社は海外でどのようにして経営しているのか（国際経営）（第14章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第15回	会社の利益はどのようにして測定するのか（会計制度）（第15章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。

授 業 名	循環型社会論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1303
英 文 名	Theory of Resource-circulating Society			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>今日、私たちは、多くのモノを生産、消費しながら生活している。そのような私たちの生活が自然の循環システムに乗っている状況では、問題は生じていなかった。ヒトは自然の循環システムに乗らなくなったモノを作り出し、私たちは、廃棄物が大量に発生する状況に置かれている。このように自然に再生されない資源を私たちが多量に消費し続ける状況を脱するために、私たちの社会そのもののありかたを転換しなければならない。その転換の道筋が循環型社会と言われているが、その具体的な姿はまだ見えてきていない。授業では循環型社会の形成における課題について、その入門編を目指します。グループワークの回以外においても、各回、自分で考え、それを書く時間を設けます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 物事を観察する力を身につけ、環境問題に関して自分の日常生活と結びつけながら、循環型社会のありかたについて「自分なり」に客観的に捉えて分析して行くことを試みられる力を身につけることができる。 2) 現代のライフスタイルを客観的に見ることが出来る。 3) 環境に関するデータを読むことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	授業時に資料を配布します。								
参 考 書	『環境の社会学』、関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求、有斐閣アルマ、『サステナビリティ学 資源利用と循環型社会』、小宮山宏・武内和彦・住 明正・花木啓祐・三村信男、東京大学出版会								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容などに関して解説します。								
留 意 事 項	日常生活においても、資源のリサイクルの取り組みなどに注目し、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題(ミニツツペーパー)にも、その成果を出せるようにする。(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容と進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。	
第2回	環境問題の社会史 -産業公害から高速交通公害	(学修内容) まず、環境問題の社会史を見ていき、資源循環型社会が求められる要因を考察していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の身の回りにおいて生じている環境問題を整理してください。	
第3回	環境問題の社会史 -生活公害から地球環境問題	(学修内容) 現代における環境問題を説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現代では、どのような環境問題が起こっているのか、自分で整理してみてください。	
第4回	開発と環境問題の歴史	(学修内容) 今から半世紀前から始まった高度経済成長以前の開発による環境問題について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現代のライフスタイルの中で、何が環境問題の原因となっているのか整理してみてください。	
第5回	開発と環境問題の歴史	(学修内容) 高度経済成長期以降の開発による環境問題を考察していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、環境問題のとらえ方について考察してみてください。	
第6回	グループワーク：開発と環境問題の現状に関して考察する。	(学修内容) 授業で習ったことを適用・応用し、グループワークで、現在の環境問題へと至ったプロセスについて整理してみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで、異なった意見などを整理してみる。	
第7回	地球環境問題	(学修内容) 地球環境問題の概要について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 地球温暖化に関する新聞や雑誌の記事を収集してください。	
第8回	グループワーク：地球環境問題を整理する。	(学修内容) 授業で習ったことを適用・応用し、グループワークで、地球環境問題の整理していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで、異なった意見などを整理してみる。	
第9回	リスク社会	(学修内容) 近年議論されている科学技術の発展と自然環境の問題におけるリスクについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 原発の問題に関する新聞や雑誌の記事を収集してください。	
第10回	科学技術の発展と自然環境問題の特徴	(学修内容) 科学技術の発展と環境問題との関係の特徴について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の日常生活を振り返って、科学技術と環境の問題について整理してください。	
第11回	循環型社会への取組 --生活様式の転換	(学修内容) 循環型社会に向けた生活様式の転換について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の生活様式(ライフスタイル)を振り返りながら、消費のありかたについて整理してみてください。	
第12回	循環型社会への取組 -自然と社会をデザインする。	(学修内容) 生物多様性の問題について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 生態系の問題について調べてきてください。	
第13回	循環型社会への取組 -コウノトリの野生復帰	(学修内容) 豊岡市の事例について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 生態系の再生に関する新聞や雑誌の記事を収集してきてください。	
第14回	効率よいエネルギー利用とは	(学修内容) 効率よいエネルギー利用について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 省エネなど自分の日常生活において、どのようなことが実践できるのか考えてみてください。	
第15回	グループワーク：循環型社会の形成に向けて考察する。	(学修内容) 総括として、グループワークで循環型社会の形成に向けた課題について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を整理する(整理するポイントは授業時に説明する)。	

授業名	多文化共生論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Multiculturalism			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	朝田 郁			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>多文化共生とは、異なる文化的背景や歴史的背景を持つ人たちの集団同士が、それぞれの独自性を保ったまま、お互いの価値観を尊重して共存していくことです。多文化と聞くと、私たちの生活から遠いところにあるように感じられるかもしれませんが、実は日本も例外ではありません。日本社会に暮らす外国人の割合は、すでに総人口の2%に達しています。本講義では、世界と日本における様々な事例を読み解きながら、この多文化共生社会を実現するための方策について考えていきます。</p> <p>なお、授業の中で1人1回のプレゼンテーションの機会を設けます。受講生が多数の場合は、プレゼンテーションに代えてグループワークを実施します。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 多文化共生をめぐる諸問題について、基本的な概念を説明することができる。</p> <p>2) 各回の授業テーマに沿って、自ら課題を発見し、問題解決を図ることができる。</p> <p>3) 社会に内在する多様性を認識し、共生に必要な視点を身に付けることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力		
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力				
テキスト	指定はありません。講師が用意したパワーポイント資料で授業を進めます。								
参考書	必要に応じて適宜ご紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	各回の最後に理解度テストを実施します。解答の説明は、次の最初におこないます。								
留意事項	前提知識は必要ありません。基本的なことから順番にお話しします。新鮮な気持ちで臨んでください。講義内容をより多いものにするため、受講生のみなさんの積極的な授業参加を期待します。								
オフィスアワー	授業終了後に時間を設けます。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の業務経験など：東アフリカ・中東湾岸諸国において複数回のフィールドワーク実施 京都大学アフリカ地域研究資料センター・機関研究員 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・特任助教 星槎大学/京都コンピュータ学院・非常勤講師</p>								

授 業 名	多文化共生論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：多文化共生とはなにか	(学修内容) 講義全体の進め方・授業内容についてのガイダンス (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、自分の言葉で「多文化共生」が意味する内容を考える
第2回	日本の中の外国：身近な多文化社会	(学修内容) 日本に暮らす人々の多様な背景・各地の外国人コミュニティ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が自明だと思っていることが、他者と共有できなかった経験について挙げる
第3回	民族とはなにか	(学修内容) 帰属意識の形成・民族多様性・多民族社会 (事前事後学修課題の内容) (30分) 民族とはなにか、自分の言葉で考えてみる
第4回	社会統合と多文化主義	(学修内容) 内なる「異人」をめぐる政策の諸相・世界の多文化社会の実例 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受講者自身が属するコミュニティで、どのような立場の人が排除されているか考える
第5回	異文化接触	(学修内容) 異文化交流の歴史・カルチャーショック・ボーダレス社会 (事前事後学修課題の内容) (30分) どのような時にカルチャーショックを感じたか、受講者自身の経験を挙げる
第6回	マジョリティとマイノリティ	(学修内容) 社会的マイノリティと文化的マイノリティ・異文化適応 (事前事後学修課題の内容) (30分) どのような時に人はマイノリティになるのか、自分の言葉で考えてみる
第7回	現代美術と多文化共生	(学修内容) プリミティブ・アートと『大地の魔術師』以降の現代美術 (事前事後学修課題の内容) (30分) 博物館と美術館の違いを、自分の言葉で考えてみる
第8回	移動と移住	(学修内容) 日本人の海外移住・外国人労働者と難民 (事前事後学修課題の内容) (30分) 先住民とはなにか、自分の言葉で考えてみる
第9回	子育てと教育	(学修内容) 異文化社会における子育てと教育・文化の継承・アイデンティティ (事前事後学修課題の内容) (30分) なにがアイデンティティ形成に大きく関わるか、受講者自身の経験から挙げる
第10回	ジェンダーをめぐる議論と誤解	(学修内容) 性差をめぐる権力構造・文化的コードと視点 (事前事後学修課題の内容) (30分) 2011年にフランスで施行されたヒジャブ(スカーフ)禁止令について、自分の意見をまとめる
第11回	差別とステレオタイプ	(学修内容) 差別の種類・差別意識が生起する背景 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受講者自身が持っていたステレオタイプ(思い込み)について考えてみる
第12回	メインカルチャーとサブカルチャー	(学修内容) 自文化中心主義の相対化・サブカルチャーの変遷 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受講者自身が属していると考えられるサブカルチャーを挙げる
第13回	言語・非言語コミュニケーション	(学修内容) コミュニケーションの多様性・記号的な意味 (事前事後学修課題の内容) (30分) 他者の無意識的な振る舞いから、どのようなメッセージを受け取ることがあるか自分の経験で考える
第14回	文明の衝突と対話を超えて	(学修内容) 文明の衝突論への異議申し立てとオリエンタリズム論 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自文化(日本文化)における価値観の対立の実例を挙げる
第15回	多文化共生のために	(学修内容) 多文化共生社会への参画・共生のためのしくみづくり (事前事後学修課題の内容) (30分) 多文化共生社会を実現するために、自分でなにができるか考えてみる

授業名	統計学の基礎			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Statistics for Business			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>統計学をご存知ですか？みなさんも、新聞などでグラフや図表を見たことがあるでしょうし、アンケート調査だとか調査という言葉もよく耳にされていることと思います。また、調査と名前は付いていなかったとしても、私たちの社会では、商品の売れ行きを調べるなど、さまざまな調査が行われています。統計学は、このような調査を通して得られた数的なデータを分析して、その性質を調べる学問です。つまり、統計学があるからこそ、私たちは私たちの暮らす社会の姿や、そこで起きている現象について客観的に知り、さまざまな方策を考えることができます。この講義では、統計学の基礎的な知識を身につけると同時に、統計情報を分析できるようになることを目指します。難しい話は一切抜きにして、まずは統計に慣れることから始め、少しずつ統計学の考え方を身につけていきましょう。</p> <p>受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 統計学の基礎がわかる。 2) 統計学の基本的な考え方がわかる。 3) 統計情報を分析できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (計算する力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	適宜、資料を配布します。								
参考書	授業中に紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題については、評価基準を授業内あるいはメールにて解説します。								
留意事項	一度欠席すると、次回の内容理解が困難になります。なので、できる限り、休まないでください。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	統計学の基礎	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の内容、進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく。
第2回	統計学とは?	(学修内容) 統計学とは何かについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞の世論調査などの記事を収集してみる。
第3回	データの特徴を視覚的に明らかにする。	(学修内容) 分布の隠れた方法を明らかにしていく方法を解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(量的データ・質的データの違いなど)。
第4回	データを客観的に分析する指標 --平均値について	(学修内容) 平均値・中央値・最頻値について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(度数分布表、ヒストグラムなど)。
第5回	データを客観的に分析する指標 --分散と標準偏差について	(学修内容) 分散と標準偏差について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(平均値、中央値、最頻値など)。
第6回	2つの異なるデータを比較する。	(学修内容) 2つの異なるデータを比較することができる統計指標について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(分散と標準偏差の計算など)。
第7回	2つのデータの関係を表す指標について	(学修内容) 2つのデータの関係を表す統計指標について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(共分散などについて)。
第8回	確率とは何か	(学修内容) 確率とは何かについて、基本的なところから解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(相関係数について)。
第9回	推定・検定の考え方	(学修内容) 標本から母数を推定する統計的な推定の考え方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(正規分布、二項分布などについて)。
第10回	視聴率調査のカラクリ	(学修内容) 統計の実例について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(標本分布、中心極限定理などについて)。
第11回	選挙の出口調査のカラクリ	(学修内容) 統計の実例について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(視聴率調査の実施のされかたなどについて整理する)。
第12回	データ分析の応用 : データ・セットについて	(学修内容) グループワークで、分析に用いるデータを収集し、データ・セットをします。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(選挙の出口調査の限界などを整理する)。
第13回	データ分析の応用 : 2つの商品の価格の相関を調べる。	(学修内容) グループワークで、2つの商品の価格の関係を分析します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(授業時に復習のポイントを整理する)。
第14回	データ分析の応用 : 商品価格の変動と地域差を調べる。	(学修内容) グループワークで、商品価格の変動と地域差を分析してみます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(授業時に復習のポイントを整理する)。
第15回	「証拠に基づいた議論」を練習しよう	(学修内容) 議論を展開させる根拠として、データの活用の位置づけを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(授業時に復習のポイントを整理する)。

授業名	都市と農村			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	City and Farming Village			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>「都市とは何か」という定義に関する歴史的な変遷と、日本の伝統的な農村社会のあり方についての把握を出発点として、地域社会の変容過程を理解していくために次のことを考察していく。講義形式の授業を通して、まず、日本の都市化の過程における都市 - 農村関係について、日本の農山漁村からの都市移住者の定住過程を視点を考察していく。次に、現在、グローバル化に伴う都市化の結果として生じた東京一極集中による地域間格差の問題が生じている中で、都市と農村は、どのような空間的・社会的な変容を遂げていったのかを考察していく。グループワークの回以外においても、各回、自分で考え、それを書く時間を設けます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 現代の地域社会の問題を、自分の日常生活の問題とつなげて考察することができる。 2) 自分の住んでいる地域の景観や人間関係のありかたについて、自分なりの分析ができる。 3) 地域社会に関するデータや資料などを読むことができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	適宜、講義資料を配布します。								
参考書	『都市の社会学 -社会がかたちをあらわすとき』町村敬志・西澤晃彦、2000、有斐閣アルマ								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容に関して解説します。								
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する(受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります)。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実践的教育									

授業名	都市と農村	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業についての説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	都市化とは何か? --都市の定義について	(学修内容) 都市を定義することについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「都会」の条件について考えてきてください(60分)。
第3回	都市化とは何か? --都市の人間関係について	(学修内容) 「都市」の定義について人間関係からのアプローチについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の住んでいる地域に人間関係について調べてください(60分)。また、都市化の指標となる統計データを収集してください。
第4回	グループワーク: 統計データから都市化の程度をみてる	(学修内容) グループワークで、「都市化」の程度を図る指標を開発し、データで示します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の住んでいる地域の都市化の程度を考察してみてください。
第5回	伝統的な農村社会 --村の原型	(学修内容) 自然村について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「田舎」のイメージについて、小説や映画などを参考に整理してきてください。
第6回	伝統的な農村社会 --村の人間関係について	(学修内容) 伝統的な農村社会における住民のまとまりのありかたについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の住んでいる地域において「田舎」的なことを整理してきてください(60分)。
第7回	日本社会における農村から都市への人口移動 --日本の高度経済成長期について	(学修内容) 日本社会における農村から都市への人口移動について、その実態を説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の家族や親戚などの移動経路を調べてきてください。
第8回	日本社会における農村から都市への人口移動 --地域社会の変化について	(学修内容) 農村から都市への人口移動の結果、地域社会はどのように変容していったのか説明していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の住んでいる地域住民組織について調べてきてください。
第9回	郊外化 --都市の拡大について	(学修内容) 都市化から郊外化への展開について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 買い物など目的に応じて出かける場所を整理してきてください。
第10回	郊外化 --ニュータウン開発について	(学修内容) ニュータウン開発が与える地域社会の影響について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ニュータウンと呼ばれている地域を整理してきてください。また、自分の住んでいる地域の駅前など近年の変化を整理してみてください。
第11回	グループワーク: 都心への人口回帰現象ををみてる	(学修内容) グループワークで、都心への人口回帰現象をとらえていきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで、異なった点など整理してください。
第12回	グローバリゼーション	(学修内容) グローバリゼーションという現象について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 服や電化製品など日用品の製造元について整理してきてください。
第13回	都市再生の問題 --地域間格差の問題について	(学修内容) 地域格差の問題として、地方都市の現状について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 活性化している場と衰退していると思う場を整理してきてください(60分)。
第14回	世界都市の形成	(学修内容) 世界都市について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 関西と関東の違いについて、雑誌など根拠となる資料を収集してきてください(60分)。
第15回	グループワーク: 地域性について考察する。	(学修内容) グループワークで、関西と関東の違いについて整理します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容の整理をする(整理するポイントは授業時に説明する)。

授 業 名	現代企業論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Modern Company			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	竹本 拓治			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	スタートアップからのステージごとの起業の成長戦略、企業組織、資金調達方法など、イノベーション主導型経済における現代の企業のあり方について講義する。また、講義の内容を踏まえたディスカッションを通じて、受講者の様々な関心からのアウトプットによる課題解決型を目指す。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 受講生が、現代社会における企業の役割やあり方について理解する 2) 受講生が、意見口述、ディスカッションを行うことを通じ、課題解決能力の養成を図る。 3) 受講生が、プレゼンテーション能力の向上を主体的に図る。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要に応じ資料を配布する。								
参 考 書	三枝省三・竹本拓治編著『アントレプレナーシップ教科書』中央経済社、2016年 (授業内容をより深く掘り下げたい場合に、おすすめする)								
課題に対する フィードバック の方法	課題に対する回答内容を授業内で発表し、必要なアドバイスを行う。								
留 意 事 項	現代社会は刻一刻と変化し、多数の課題を抱えている。そのため、日頃より、報道番組やインターネット記事に着目して、現代社会の抱える課題の把握に努めてほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎回授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		現代企業論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 企業の役割について事前に調べておく
第2回	アントレプレナーシップをもつこと	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) アントレプレナーシップについて事前に調べておく
第3回	イノベーションの概念と理解	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) イノベーションについて事前に調べておく(3時間程度)
第4回	起業による社会的インパクト	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 起業が社会に与える好影響について事前に調べておく
第5回	現代社会におけるビジネスを考察する	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) この10年間で新しく生まれたビジネスについて事前に調べておく度)
第6回	マーケティングの基本	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) マーケティングの概念について事前に調べておく
第7回	販路開拓の考え方	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) ものがどのように消費者に届くかについて事前に調べておく
第8回	組織作りに必要なこと	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 企業内の組織について事前に調べておく
第9回	人材育成に関する考察	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 企業内研修の事例や内容について事前に調べておく
第10回	スタートアップの資金調達	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 資金調達の方法について事前に調べておく
第11回	現代社会とグローバルビジネス	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 海外と関係しているビジネスについて事前に調べておく
第12回	地域のビジネスの考察	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 京都独自のビジネスについて事前に調べておく
第13回	地域におけるビジネスの創造	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) これからの京都に適したビジネスについて考えておく
第14回	プレゼンテーション	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 与えられたテーマについてプレゼンテーションの準備を行う
第15回	これまでのまとめ	(学修内容)スライドを利用しながら、理解を進める。 (事前事後学修課題の内容)(120分) これまでの授業を総復習しておく

授 業 名	公衆衛生学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN1306
英 文 名	Public Health			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	岩永 資隆・里村 一成			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	社会や環境と健康との関係を理解するとともに、健康情報の利用方法、情報管理や情報処理について理解する。また保健・医療・福祉・介護システムの概要を理解し、地域医療の現状や地域ケアシステム等を学ぶ。テーマに沿ったディスカッションを行い、理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会や環境と健康との関係が理解できる。 2) 健康情報の利用方法、情報管理、情報処理を理解できる。 3) 保健・医療・福祉・介護のシステム概要を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (分析力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	公衆衛生がみえる 医療情報科学研究所編 メディックメディア社								
参 考 書	プリント配布								
課題に対する フィードバック の方法	レポートに対する質問への解説を行う。								
留 意 事 項	日本、世界の健康情報に関心を持つこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：臨床医。産業界。京都府内、兵庫県内、滋賀県内の複数の市の健康づくり部会長。滋賀県後期高齢者医療広域連合健康づくり基盤事業アドバイザー。国際協力機構（JICA）「フィリピン共和国母子保健・家族計画プロジェクト」専門家。認定特定非営利活動法人AMDA のボランティア医師として国内外の災害被災地、難民キャンプなどにおける保健医療活動に従事								

授 業 名	公衆衛生学 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	公衆衛生と健康の概念	(学修内容) 健康の概念、公衆衛生の定義。プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、健康の改善、公衆衛生についてノートにまとめておく
第2回	疫学、保健統計	(学修内容) 疾病・死亡の指標。統計解析の基礎 人口静態統計・人口動態統計。死因統計・疾病統計 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、保健統計についてノートにまとめておく
第3回	社会保障	(学修内容) 社会保障制度 医療保障制度 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、社会保障制度についてノートにまとめておく
第4回	地域保健	(学修内容) 保健所の機能 地域保健法 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、自分と地域保健の関係についてノートにまとめておく
第5回	成人保健と健康増進	(学修内容) 健康増進法。健康日本21(第2次) 生活習慣病対策・がん対策。特定健康診査・特定保健指導 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、生活習慣病とヘルスプロモーションについてノートにまとめておく
第6回	母子保健	(学修内容) 母子保健法・母体保護法・児童福祉法・児童虐待防止法 出産・育児に関わる制度。母子保健の統計 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、母子の健康についてノートにまとめておく
第7回	高齢者保健	(学修内容) 老人福祉法。高齢者医療確保法。介護保険法。在宅医療 高齢者保健、老人福祉についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、高齢者の健康についてノートにまとめておく
第8回	障害者福祉・精神保健福祉	(学修内容) 障害者総合支援法。精神保健の統計。精神保健福祉法 精神障害者の社会復帰施策 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、障害者の福祉、精神障害者の福祉についてノートにまとめておく
第9回	感染症対策：総論	(学修内容) 感染症法。検疫法。予防接種法 感染症対策についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、感染症法についてノートにまとめておく
第10回	感染症対策：各論	(学修内容) 主要感染症の動向 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、感染症の現状についてノートにまとめておく
第11回	食品保健	(学修内容) 食品保健に関する法律。食品の表示 食品の種類と機能。食中毒 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、食品と健康についてノートにまとめておく
第12回	学校保健 歯科保健	(学修内容) 学校保健安全法 歯科保健 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、学校における健康、歯の健康についてノートにまとめておく
第13回	産業保健	(学修内容) 労働基準法。労働安全衛生法 労働者災害補償保険法。職業性疾病 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、職場での健康についてノートにまとめておく
第14回	環境保健	(学修内容) 地球環境の保全。公害対策。環境基本法 地球環境についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、環境と自分の健康についてノートにまとめておく
第15回	国際保健	(学修内容) 多国間協力。二国間協力。日本の経済協力 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連部分を読んで、日本の国際協力についてノートにまとめておく

授業名	解剖・生理学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN1307
英文名	Anatomy and Physiology			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	武曾 恵理			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>正常な人体の各組織・器官の構造とその機能および内部環境の恒常性の維持を保つためのシステムを学び、理解を深める。解剖・生理学では、身体の概要およびその構造と機能を理解するために必要となる細胞・組織および循環器系、血液・造血管・リンパ系、消化器系、呼吸器系および泌尿器系について学ぶ。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 人体を構成する各組織・器官の構造およびその機能について理解できる。 2) 細胞レベルから、臓器レベルまでの構造およびその機能について系統的に理解できる。 3) 各臓器の生理学的機能について原理から実際の機能との関連を理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (判断力)	プレゼンテーション能力 (統合力)	課題発見・解決能力				
テキスト	高野廣子著 解剖生理学 南山堂 志村二三夫、岡 純、山田和彦編 解剖生理学ノート 人体の構造と機能 羊土社								
参考書	多久和 紀子、多久和 陽 著 なるほど なっとく! 解剖生理学 南山堂								
課題に対するフィードバックの方法	教科書で用いる「解剖生理学ノート」のテストで理解度を確認し、解答の解説を行う。								
留意事項	学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実際経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（699床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行っている。								

授 業 名		解剖・生理学 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	細胞（細胞の基本構造とその機能）	(学修内容)細胞一般、細胞膜について (事前事後学修課題の内容)(60分) 細胞について調べておく「解剖生理学」pp1-19	
第2回	組織（上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴）	(学修内容)上皮細胞と支持組織について (事前事後学修課題の内容)(60分) 細胞と組織について調べておく「解剖生理学」pp19-36	
第3回	組織（筋組織、神経組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴）	(学修内容)筋組織、神経組織など興奮性細胞について (事前事後学修課題の内容)(60分) 興奮性細胞について調べておく「解剖生理学」pp36-55	
第4回	身体の概要（各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の機能の概説）	(学修内容)体内の各臓器・器官の位置および構造について (事前事後学修課題の内容)(60分) 臓器・器官の位置および構造について調べておく「解剖生理学」pp55-72	
第5回	身体の概要（骨格系および筋系の構造と機能の概説）	(学修内容)骨格系および筋系の構造と機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 骨格系および筋系の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp73-147	
第6回	循環器系（心臓・血管の構造とその機能）	(学修内容)心臓および血管の構造と機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 心臓および血管の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp149-170	
第7回	循環器系（血圧・循環調節機構）	(学修内容)血管と血圧の調節機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 血管と血圧の調節機能について調べておく「解剖生理学」pp170-189	
第8回	血液・造血器・リンパ系（血液・造血器・リンパ系の構成と働き）	(学修内容)血液・造血器・リンパ系の構成と働きについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 血液・造血器・リンパ系の機能について調べておく「解剖生理学」pp191-195	
第9回	血液・造血器・リンパ系（血液・造血器・リンパ系の構成と働き）	(学修内容)血液型・血液凝固・線溶系について (事前事後学修課題の内容)(60分) 血液型・血液凝固・線溶系について調べておく「解剖生理学」pp195-200	
第10回	消化器系（消化器系の構成と働き、咀嚼・嚥下の機構、消化管運動の仕組み）	(学修内容)咀嚼・嚥下の機構、消化管運動の仕組みについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 咀嚼・嚥下の機構、消化管運動について調べておく「解剖生理学」pp221-238	
第11回	消化器系 II（食べ物の消化・吸収の仕組み）	(学修内容)食べ物の消化・消化吸収の仕組みについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 食べ物の消化・消化吸収の仕組みについて調べておく(60分)「解剖生理学」pp238-255	
第12回	消化器系 III（肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能）	(学修内容)肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp255-266	
第13回	呼吸器系（呼吸器系の構造、気道・肺の構造と機能、呼吸運動ガス交換、呼吸調節機構）	(学修内容)呼吸器系の概観、肺の構造とガス交換の仕組み (事前事後学修課題の内容)(60分) 呼吸器系の構造とガス交換の仕組みについて調べておく「解剖生理学」pp267-285	
第14回	泌尿器系（腎臓の構造と尿の生成機構）	(学修内容)腎臓の構造と尿の生成機構について (事前事後学修課題の内容)(60分) 腎臓の構造と尿の生成機構について調べておく「解剖生理学」pp287-304	
第15回	泌尿器系（腎に作用するホルモン・血管作動物質、排尿機構）	(学修内容)循環血液量および血圧維持にかかわる因子、排尿の仕組みについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 体液の恒常性維持について調べておく「解剖生理学」pp302-306	

授 業 名	栄養生化学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1309
英 文 名	Nutritional Biochemistry			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	田代 操			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	本講義では、生化学で学んだ栄養素成分や生体構成成分について、体内での代謝とそれらの成分の相互関係およびホメオスタシスの仕組みについて分子・遺伝子レベルで学び、解剖生理学で学ぶ個体レベルでの生体の機能とあわせ正常な人体の構造と機能について理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 摂取された栄養素の化学エネルギーが生命活動に必要な種々のエネルギーに変換される道筋を説明できる。 2) 摂取された栄養素が生体成分に変化する道筋を説明できる。 3) 生体成分の代謝について相互の関連性を説明できる。 4) 生体成分の代謝と生体のホメオスタシスとの関連性を説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」改定第3版 園田勝 編 羊土社								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	筆記試験および口述レポート後に解答の解説を行います。								
留 意 事 項	生化学の復習をしっかりとしておくこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	栄養生化学 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	代謝について	(学修内容)物質代謝(異化と同化)とエネルギー代謝の基本概念について理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第2回	糖質の代謝(1)解糖系とクエン酸回路	(学修内容)解糖系とクエン酸回路の全体像と関連を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第3回	糖質の代謝(2)ペントースリン酸経路とグリコーゲンの代謝	(学修内容)ペントースリン酸経路とグリコーゲンの合成分解系を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第4回	糖質の代謝(3)糖新生	(学修内容)糖新生を理解し、血糖値調節への意義を知る (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第5回	脂質の代謝(1)脂肪酸の代謝	(学修内容)脂肪酸の合成分解系とエイコサノイドの代謝を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第6回	脂質の代謝(2)脂肪の代謝	(学修内容)中性脂肪の合成分解系と体内輸送を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第7回	タンパク質・アミノ酸代謝(1)タンパク質の合成と分解	(学修内容)タンパク質の合成分解系を理解し、アミノ酸プールとの関連性を知る (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第8回	タンパク質・アミノ酸代謝(2)アミノ酸代謝	(学修内容)アミノ酸の炭素成分と窒素成分の代謝、生理活性成分への代謝を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第9回	生体エネルギー	(学修内容)呼吸鎖と酸化的リン酸化を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第10回	中間代謝の概要	(学修内容)糖質代謝と脂質およびアミノ酸代謝の関連を知る (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第11回	ヌクレオチドの代謝	(学修内容)プリンヌクレオチドとピリミジンヌクレオチドの合成分解系を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第12回	遺伝子発現とその調節(1)セントラルドグマ	(学修内容)核酸とタンパク質の生合成を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第13回	遺伝子発現とその調節(2)調節	(学修内容)遺伝子発現の調節を理解し、遺伝子工学の流れを知る (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第14回	ホメオスタシス	(学修内容)ホルモンと生体調節の関連を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第15回	生体防御機構	(学修内容)免疫の仕組みと特徴を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく

授 業 名	食品学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1304
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	堀越 昌子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	食品中の成分や特性、また、食品の生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程について学び、人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価を理解する。また食品分類法、日本食品標準成分表の利用法を学ぶ。食品の栄養特性(タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル)と物性を把握するとともに、機能性成分の構造と特性を理解する。栄養素ごとにそれらを多く含む食品類の特徴と加工・保存法を学んでいく。班で分担して、食品調べを行って、授業の中で発表していく。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 食品の分類と食品に含まれる各種成分の特性が理解できる。 2) 食品の加工・貯蔵・調理における食品の取扱法、管理法が理解できる。 3) 食品中の栄養成分、機能性成分から、食品の特性と機能を理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	栄養科学シリーズNEXT「食品学 食べ物と健康」辻 英明・小西洋太郎 編 講談社サイエンティフィック								
参 考 書	日本食品標準成分表(文部科学省)								
課題に対するフィードバックの方法	毎回、小テストを課して理解度を確認し、返却し、学習内容の定着をはかる。								
留 意 事 項	授業で配布するプリント資料をしっかりと読むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授 業 名		食品学 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品と食品を取り巻く課題、食品学の役割	(学修内容) 食品と食品を取り巻く課題、食品学の役割、環境と食の課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品の役割をまとめて、口頭で発表する
第2回	食品成分表とその変遷	(学修内容) 食品成分表とその変遷、七訂日本食品標準成分表とその役割、利用法を学び、使いこなせるようにする (事前事後学修課題の内容) (40分) 食品成分の種類と表記の仕方、それぞれの分析方法について調べ、レポートを提出する
第3回	食品の分類と食品群	(学修内容) 食品の分類法を学び、食品群ごとの特性をつかむ (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品の分類法を調べ、食育で使われる食品群を選んで報告する
第4回	食品の機能性 食品中の機能性成分	(学修内容) 食品の機能性と食品中の機能性成分の種類とそれぞれの生理作用を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (40分) 食品の代表的な機能性成分をまとめて、レポートを提出し、発表する
第5回	食品成分(1) 食品中の水と水分活性	(学修内容) 食品中の水の働きと特性、水分活性と微生物の増殖 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品中の水には結合水があること、水分活性とは何かをテキストで予習しておく
第6回	食品成分(2) 炭水化物と食物繊維	(学修内容) 食品中の炭水化物、多糖類、少糖類、食物繊維の構造と特性を把握する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト炭水化物の項を読んで、食品としての特徴と動きをレポートする
第7回	炭水化物に富んだ食品 穀類、芋類	(学修内容) 炭水化物に富んだ食品 穀類、芋類について、栄養価と特性を学ぶ。 下調べしてきた食品について発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 炭水化物に富んだ穀類、芋類を分担して発表準備をしてくる
第8回	炭水化物・食物繊維を含む食品 豆類、海藻類	(学修内容) 炭水化物・食物繊維を含む食品 豆類、海藻類 (事前事後学修課題の内容) (40分) 炭水化物・食物繊維を含む豆類、海藻類を分担して発表準備をする
第9回	食品成分(3) 脂質の化学と機能、特性と性状	(学修内容) 食品中の脂質の特性と性状、生理作用、油脂の種類と管理の仕方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品ごとに脂肪酸組成が異なること、身体に及ぼす影響も違ってくることを調べ、分担して発表する。
第10回	脂質に富んだ食品 食用油脂の種類と性状、利用	(学修内容) 食用油脂の種類ごとの特徴と性状を把握しておく (事前事後学修課題の内容) (30分) 食用油脂の種類と性状を分担して下調べをし、分担して報告する
第11回	食用油脂の化学特性(けん化価、ヨウ素価)、油脂の劣化の仕組み	(学修内容) 食用油脂の化学特性(けん化価、ヨウ素価)、劣化の仕組みと管理 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食用油脂の特性と劣化指標について、テキストを予習し、理解をしておく
第12回	食品成分(4) タンパク質	(学修内容) タンパク質の種類、食品中のタンパク質の特徴を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (40分) 食品タンパク質を食品ごとに分担して口頭発表する
第13回	食品タンパク質の栄養価と必須アミノ酸	(学修内容) 食品タンパク質の栄養価の評価法とアミノ酸価 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品タンパク質の栄養価の表し方をテキストで予習し、食品ごとのアミノ酸価を比較しておく
第14回	タンパク質に富んだ食品 豆類、魚介類	(学修内容) タンパク質に富んだ食品 豆類、魚介類の特性と利用法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 魚類、豆類などタンパク質に富んだ食品を分担して順に発表し、質疑を受ける
第15回	タンパク質に富んだ食品 肉類、卵類、乳類	(学修内容) タンパク質に富んだ食品 肉類、卵類、乳類の特性と利用法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) タンパク質に富んだ食品 肉類、卵類、乳類を班で分担して報告する

授 業 名	食品学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1312
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	堀越 昌子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	人間と食べ物のかかわりについて、食品の歴史の変遷と食物連鎖の両面から理解する。栄養成分のビタミンと無機質の特性を把握し、それらを含む食品と取り扱いを理解する。また嗜好性成分とその機能、微生物利用食品の成分と特性、利用法を習得する。食品成分の変化、調理特性、食品物性、食品の規格と表示を理解する。班で分担して食品のフィールド調査をして、授業の中で発表する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ビタミン、無機質を含む食品の特性、加工、利用法が理解できる。 2) 食品の嗜好性成分、食品の調理・加工特性、食品の規格・表示が理解できる。 3) 食品が健康に与える影響と役割を理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (汎用力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	栄養科学シリーズNEXT「食品学 食べ物と健康」辻 英明・小西洋太郎 編 講談社サイエンティフィク								
参 考 書	日本食品標準成分表(文部科学省)								
課題に対するフィードバックの方法	毎回、小テストを課して理解度を確認し、返却し、学習内容の定着をはかる								
留 意 事 項	授業で配布するプリント資料をしっかりと読むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	食品学 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品成分 ビタミン ビタミンの化学と機能 脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン	(学修内容) ビタミンの化学と機能、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン (事前事後学修課題の内容) (30分) ビタミンの化学と機能、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンについてテキストを予習し、分担して発表
第2回	食品成分 無機質 無機質の化学と機能	(学修内容) 食品成分 無機質 無機質の化学と機能 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品中無機質の化学と機能についてテキストを予習し、分担して発表
第3回	ビタミンと無機質に富んだ食品 a. 野菜類	(学修内容) ビタミンと無機質に富んだ食品の特性を把握し、利用法、管理法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) ビタミンと無機質に富んだ食品 野菜類の分類と利用法についてテキストを予習し、分担して発表
第4回	ビタミンと無機質に富んだ食品 b. 果実類	(学修内容) ビタミンと無機質に富んだ食品 果実類の分類と利用について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) ビタミンと無機質に富んだ食品 果実類の分類と利用について、テキストを予習し、分担して発表する。
第5回	ビタミンと無機質に富んだ食品 c. きのこと類 d. 海藻類	(学修内容) ビタミンと無機質に富んだ食品であるきのこ類、海藻類の利用 (事前事後学修課題の内容) (30分) ビタミンと無機質に富んだ食品 海藻類の分類と利用法についてテキストを予習し、分担して発表
第6回	食品中の嗜好性成分 色素成分の種類と特徴	(学修内容) 食品中の嗜好性成分 色素の種類と特徴、および機能性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品中の嗜好性成分 色素の種類と特徴、および機能について、テキスト該当部分を予習し、まとめておく。
第7回	食品中の嗜好性成分 呈味成分	(学修内容) 食品中の嗜好性成分 呈味成分の種類と特徴 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品中の嗜好性成分 呈味成分の種類と特徴について、テキスト該当部分の予習し、まとめたものを報告する。
第8回	食品中の嗜好性成分 香気成分	(学修内容) 食品中嗜好性成分 香気成分の種類と特徴 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品中嗜好性成分 香気成分の種類と特徴について、テキストで予習して、発表できる準備をしておく。
第9回	食品中の有害成分と化学	(学修内容) 食品中の有害成分の特徴と処理法、防御法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品中の有害成分の特徴と処理法、防御法について、テキスト該当部分の予習をして、まとめておく。
第10回	加工・保蔵における食品成分変化 酸化、加熱、 酵素反応、アミノカルボニル反応	(学修内容) 加工・保蔵における食品成分の変化 酸化、加熱、酵素反応、アミノカルボニル反応、成分間の反応、物性の変化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品成分の変化(酸化、加熱、酵素反応、成分間の反応、物性の変化)について、テキスト該当部分を予習しておく。
第11回	食品成分の調理特性	(学修内容) 食品成分の調理特性と調理操作 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品成分の調理特性と調理操作について、テキスト該当部分の予習
第12回	食品物性 コロイド、レオロジー、テクスチャ	(学修内容) 食品物性、コロイド、レオロジー、テクスチャなど物理的特性について理解し、食品加工、貯蔵、管理の仕方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品物性 コロイド、レオロジー、テクスチャについて、テキスト該当部分を予習しておく。
第13回	食品の官能検査と評価法	(学修内容) 食品の官能検査と評価法、嗜好試験について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品の官能検査と評価法、嗜好試験について、テキスト該当部分を予習しておく。
第14回	食品の規格と表示 国内規格と国際規格、期限表示	(学修内容) 食品の規格と表示 国内規格と国際規格、期限表示、成分表示について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品の規格と表示 国内規格と国際規格、期限表示、成分表示について、テキスト該当部分の予習と発表の準備をする
第15回	総まとめ 食品の摂取と健康	(学修内容) 総まとめ 食品の摂取が健康に与える影響、食品と健康との関わりをまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品の摂取が健康に与える影響、食品と健康との関わりについて、考えをまとめ、班ごとに発表する。

授 業 名	食品学実験 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN1313
英 文 名	Experiment of food science			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高村 仁知			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	食品中に存在する一般成分（水分、灰分、タンパク質、炭水化物、脂質）の定性・定量分析などの実習を通して、食品成分に関する理解を深め、日本食品標準成分表で示されている数値を理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品中の一般成分（水分、灰分、タンパク質、炭水化物、脂質）について理解する。 2) 分析器具および分析機器の使用法、ならびに食品の一般成分の分析法を修得する。 3) 食品成分の定性分析と定量分析を通して、それぞれの成分の特性を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学习支援）	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (観察力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	基礎からの食品・栄養学実験 村上俊男編著 建帛社、配布プリント								
参 考 書	日本食品標準成分表（文部科学省）								
課題に対する フィードバック の方法	必要に応じ、コメントを付けてレポート返却								
留 意 事 項	食品学で学んだことを実験で確認していくので、食品学の復習もしておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	食品学実験 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、基本操作法	(学修内容) 食品成分分析の基本操作 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第2回	卵の比重測定と鮮度検査	(学修内容) 卵の比重測定と原理 食品の鮮度 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第3回	比色分析 - 検量線の利用	(学修内容) 吸光度測定 検量線の作成と利用 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第4回	pH試験紙を用いた固体食品のpH測定	(学修内容) pH試験紙 固体食品のpH測定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第5回	pHメーターを用いた液体食品のpH測定	(学修内容) pHメーター 液体食品のpH測定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第6回	中和滴定による牛乳の酸度の測定	(学修内容) 中和滴定による牛乳の酸度の測定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第7回	ペーパークロマトグラフィーによるアミノ酸の分離と同定	(学修内容) ペーパークロマトグラフィー アミノ酸の分離同定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第8回	薄層クロマトグラフィーによる色素の分離と同定	(学修内容) 薄層クロマトグラフィー 色素の分離同定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第9回	キレート滴定法による水の硬度測定	(学修内容) キレート滴定 水の硬度測定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第10回	糖質の定性反応による構造決定	(学修内容) 糖質の構造 糖質の定性反応 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第11回	食品中のビタミンの分析 - 飲料に含まれるビタミンCの定性と定量	(学修内容) 飲料に含まれるビタミンCの定性と定量 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第12回	食品中のビタミンの分析 - 食品に含まれるビタミンCに対する酸化酵素の作用	(学修内容) 食品に含まれるビタミンCに対する酸化酵素の作用 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第13回	食品中の機能性成分の分析 - 緑茶飲料に含まれる緑茶タンニンの定量	(学修内容) 没食子酸エチルを用いた検量線の作成 緑茶タンニンの定量 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第14回	食品中の機能性成分の分析 - 茶葉抽出液に含まれる緑茶タンニンの定量	(学修内容) 茶葉抽出液の調製 緑茶タンニンの定量 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第15回	食品中の成分検出と特性のまとめ	(学修内容) 食品中の成分検出と特性のまとめ (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成

授 業 名	調理学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1302
英 文 名	Introduction on Cooking			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>本授業では、調理にかかわる食品の栄養特性、物性を理解し、さらに栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める調理について、その原理と方法を学ぶ。また、これらの調理に関する基礎的な知識とともに、日本の食生活の歴史の変遷について学び、献立作成を含む食事計画を立案する力を修得する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 調理過程でおこる食品成分の変化を科学的な視点で理解できる。 2) 献立作成を含む食事計画のための基礎知識を修得し、説明できる。 3) 食生活の指導において必要な調理や食事計画の基本的な知識を修得し、説明できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	エスカペーシック 食べ物と健康 - 調理学 - 渋川祥子編著 同文書院								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却する。								
留 意 事 項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理の役割について考えていくこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授業名	調理学 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	調理の意義と目的	(学修内容) 調理学で何を学ぶか、なぜ学ぶか (事前事後学修課題の内容) (10分) テキストp.1~2をよく読んでおくこと。
第2回	おいしさに関する要因1(食べ物の因子)	(学修内容) 食べ物の化学的特性、物理的特性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.15~33をよく読んでおくこと。
第3回	おいしさに関する要因2(食べる人の因子)	(学修内容) 人の特性要因とそれを取り巻く環境要因 (グループでいるいろいろな事例を考える。) (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.33~34をよく読んでおくこと。
第4回	調理操作1(予備操作)	(学修内容) 計測、洗浄、浸漬などの操作について (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.37および47~48をよく読んでおくこと。
第5回	調理操作2(非加熱操作)	(学修内容) 生食などの注意事項 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.48をよく読んでおくこと。
第6回	調理操作3(加熱操作)	(学修内容) 湿式、乾式、誘電・誘導それぞれの加熱の特徴 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.38~47をよく読んでおくこと。
第7回	調理操作4(調味)	(学修内容) 調味料の特徴と調理操作について (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.15~24をよく読んで復習しておくこと。
第8回	植物性食品の調理特性1(穀類)	(学修内容) 米、小麦の成分と調理特性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.63~82をよく読んでおくこと。
第9回	植物性食品の調理特性2(豆類、イモ類)	(学修内容) 豆類、イモ類の成分と調理特性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.82~91をよく読んでおくこと。
第10回	植物性食品の調理特性3(野菜類、果実類など)	(学修内容) 野菜、果物の成分と調理特性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.92~114をよく読んでおくこと。
第11回	動物性食品の調理特性1(食肉・魚介類)	(学修内容) 食肉、魚介類の体組織の構造と調理特性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.117~133をよく読んでおくこと。
第12回	動物性食品の調理特性2(卵類、乳・乳製品)	(学修内容) 卵の構造・成分および乳の成分と調理特性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.133~147をよく読んでおくこと。
第13回	成分抽出素材・調味料の調理特性	(学修内容) でんぷん、ゲル化剤、砂糖、塩などの調理特性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.149~164をよく読んでおくこと。
第14回	日本の食生活の変遷	(学修内容) 日本の食事の形態の変遷 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.2~8をよく読んでおくこと。
第15回	献立作成と食事計画	(学修内容) 栄養のバランスと献立の作成 (実際の自分の食生活を振り返りながら、より良い献立を作成する。) (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.8~13をよく読んでおくこと。

授 業 名	調理学実験 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN1310
英 文 名	Experiment of Cookery Science			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	調理学実験では、調理操作によっておこる化学的、物理的变化を観察し、その諸現象について科学的に解明することで、調理学の理論を理解する。また、これによって、食品の栄養特性、物性、食品材料の調理特性や調理操作の科学的必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行える能力を身につける。加えて、嚥下、咀嚼困難者用の食事などの理解を目的に、官能評価の方法や機器による物性測定などについても学ぶ。基本的にグループ単位で実験を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 実験を通して、調理操作による物質の変化を科学的に解明できる。 2) 調理操作の科学的必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行うことができる。 3) 官能評価や機器による物性測定を行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (分析力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	プリント配布、調理学のテキスト(エスカパーシク 食べ物と健康 - 調理学 - 渋川祥子編著 同文書院)を復習のため用いる								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	毎回提出のレポートは添削後返却する。								
留 意 事 項	プリントに目を通し、実験方法等を予習しておくこと。グループ単位で実験を行い、実験後はレポートを作成、次週に提出すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授 業 名		調理学実験 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実験を行う上での注意、基本操作 (事前事後学修課題の内容) (10分) 白衣、帽子等の準備をしておく。
第2回	植物性食品の調理特性 1 (米)	(学修内容) 米の種類とデンプンの 化 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第3回	植物性食品の調理特性 2 (小麦粉)	(学修内容) 小麦粉の種類とグルテン、添加物の影響 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第4回	植物性食品の調理特性 3 (いも)	(学修内容) デンプンの観察と加熱方法による変化 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第5回	植物性食品の調理特性 4 (野菜)	(学修内容) 生野菜の放水と吸水 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第6回	動物性食品の調理特性 1 (鶏卵 : 起泡性)	(学修内容) 卵白の起泡性と安定性 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第7回	動物性食品の調理特性 2 (鶏卵 : 熱凝固性)	(学修内容) ゆで卵、希釈卵液の熱凝固 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第8回	動物性食品の調理特性 3 (乳)	(学修内容) 酸による凝集 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第9回	抽出素材の調理特性 1 (ゲル化剤)	(学修内容) 寒天、ゼラチン、カラギーナンの特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第10回	抽出素材の調理特性 2 (砂糖)	(学修内容) 砂糖の加熱による変化 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第11回	抽出素材の調理特性 3 (油脂)	(学修内容) エマルションの中の油脂 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第12回	食品の官能評価	(学修内容) 官能評価の手法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第13回	だし汁に関する実験	(学修内容) さまざまだし汁のうま味の特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第14回	食品の物性測定 1 (テクスチャー測定法)	(学修内容) 機器を使用したテクスチャーの測定 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。
第15回	食品の物性測定 2 (物性に影響を与える因子)	(学修内容) 温度、水分、経過時間等が及ぼす影響 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布するプリントをよく読み、実験操作の流れを確認しておく。 今回の実験のレポートを作成する。

授 業 名	調理学実習 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN1303
英 文 名	Practical Exercise Cooking			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	本実習では、基本的な調理操作と調理の基礎知識を修得する。また、食品の安全性や衛生管理についての基本的な手法を学び、その重要性の理解につなげる。また、栄養的効率を高め、嗜好的に美味しい食事を提供できる実力を身につけるとともに、調理学と関連させながら、調理過程における食品材料の化学的・物理的变化を確認および把握する。5～6名を単位としたグループで実習を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 調理に関する基礎知識を修得し、基本的な操作ができる。 2) 安全・栄養・嗜好性を考慮した食事を提供できる。 3) 調理学の理論と調理過程で生じる化学的・物理的变化を関連付けて説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (基本的な調理技術の習得)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	これからの調理学実習(基本手法から各国料理・行事食まで) 新調理研究会・編 オーム社 調理のためのベーシックデータ 女子栄養大学出版部 新カラーチャート 食品成分表 教育図書								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後返却する。								
留 意 事 項	5～6名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。また、食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授 業 名		調理学実習 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション（食品の安全性、衛生管理等）	（学修内容）調理学実習を行う上での基本的な注意事項 （事前事後学修課題の内容）（15分） テキストp.2～3をよく読んでおくこと。	
第2回	調理の基本（計量・包丁法）	（学修内容）計量と廃棄率、庖丁の扱い方と切り方 （事前事後学修課題の内容）（15分） テキストp.3～6をよく読んでおくこと。 今回のポイントをまとめておくこと。	
第3回	日本料理の基礎1（炊く、ゆでる、だしをとる）	（学修内容）白飯、青菜のお浸し、みそ汁 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第4回	日本料理の基礎2（すし飯、蒸す）	（学修内容）ちらしずし、茶碗蒸し （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第5回	日本料理の基礎3（揚げる、和える）	（学修内容）天ぷら、和え物、すまし汁 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第6回	日本料理の基礎4（焼く、煮る）	（学修内容）魚の照り焼き、炊き合わせ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第7回	西洋料理の基礎1（スープストックをとる、ひき肉の調理）	（学修内容）コンソメスープ、ハンバーグ、サラダ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第8回	西洋料理の基礎2（魚の扱い方、ゼラチンの扱い方）	（学修内容）ムニエル、サラダ、ゼリー （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第9回	西洋料理の基礎3（パスタの扱い方）	（学修内容）スパゲティ、クッキー （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第10回	中国料理の基礎1（湯をとる、炒める）	（学修内容）炒飯、湯菜 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第11回	中国料理の基礎2（乾物の扱い方、寒天の扱い方）	（学修内容）炸菜、炒菜、点心 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第12回	中国料理の基礎3（特徴的な調理法）	（学修内容）溜菜、拌菜 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第13回	食べる機能に合わせた食形態の展開の基本（離乳食・介護食）	（学修内容）離乳食・介護食づくり （事前事後学修課題の内容）（15分） 配布プリントをよく読んでおくこと。	
第14回	菓子づくりの基本	（学修内容）米粉を使った和菓子 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第15回	パン生地づくりの基本	（学修内容）ピザ、ラタトゥイユ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	

授 業 名	調理学実習 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN1311
英 文 名	Practical Exercise Cooking			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	調理学実習 で学んだ基本的な技術や知識を基に、栄養面、安全面、嗜好面を考慮した食事の整え方の理解を深める。日本料理、西洋料理、中国料理の各様式別に実習を行い、それぞれの国の食文化についても学ぶことで、幅広い献立作成の力を身につける。また、献立作成についてその基本を修得し、実際に調理し、それについてグループで討論して献立構成や嗜好性の評価、また栄養評価を行い、計画の改善につなげることができる力を修得する。5～6名単位のグループで実習を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本、西洋、中国、それぞれの食文化について理解し、説明できる。 2) 季節のもてなし料理や行事食、郷土食についての知識を持ち、提供できる。 3) 給食実習に向けて、献立作成、調理、評価まで行うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (調理技術の習得)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	これからの調理学実習(基本手法から各国料理・行事食まで) 新調理研究会・編 オーム社								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後返却する。								
留 意 事 項	5～6名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。また、食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授業名	調理学実習 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 調理学実習を受講するにあたっての諸注意 (事前事後学修課題の内容) (10分) 実習のに必要な白衣、帽子等を準備しておく。
第2回	日本料理1 (煮物、でんぶんの種類と特徴)	(学修内容) 鯖のみそ煮、けんちん汁、わらびもち (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第3回	日本料理2 (味付飯、和え物の応用)	(学修内容) 栗飯、土瓶蒸し、黄身酢和え (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第4回	日本料理3 (刺身)	(学修内容) 刺身、あら煮 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第5回	西洋料理1 (魚介だし、油脂の調理特性)	(学修内容) ブイヤベース、パウンドケーキ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントおよびテキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第6回	西洋料理2 (塊肉の調理、シュー生地)	(学修内容) ボルシチ、サラダ、シュークリーム (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第7回	西洋料理3 (パイ生地)	(学修内容) アップルパイ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第8回	中国料理1 (パン生地の応用、砂糖の調理特性)	(学修内容) 肉包子・豆沙包子、西湖魚羹、拔絲地瓜 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第9回	中国料理2 (魚介の調理、中国の特殊材料の扱い方)	(学修内容) 炒墨魚、冷拌 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第10回	中国料理3 (点心)	(学修内容) 粽子、水果西米露 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第11回	行事食	(学修内容) 正月吉例料理、雑煮 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第12回	郷土料理	(学修内容) 京都のおばんざい (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第13回	テーブルセッティングとマナー	(学修内容) テーブルセッティングとマナーの基本 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストをよく読んでおくこと。
第14回	自由献立1 (計画)	(学修内容) 班ごとにメニューを考案 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考にするレシピを集めておくこと。
第15回	自由献立2 (調理と評価)	(学修内容) 班ごとに調理、全体で評価 (事前事後学修課題の内容) (30分) 材料の準備、手順の確認をしておくこと。

授 業 名	基礎栄養学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN1401
英 文 名	Basic Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	田代 操			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	基礎栄養学では栄養の概念、食物摂取のメカニズム、栄養素の消化・吸収・排泄の仕組みについて学び、栄養とは何かについて正しく理解する。さらに健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割および体内における栄養素やエネルギーの代謝とその生理的意義について理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養の概念について解説できる。 2) 食物摂取のメカニズムと栄養素の消化・吸収の仕組みについて説明できる。 3) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について解説できる。 4) 体内における栄養素の利用やエネルギー代謝について説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (栄養の全体像の把握)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学(第4版) 鈴木和春・真鍋祐之・上原万里子 著 第一出版								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	筆記試験および口述レポート後に解答の解説を行います。								
留 意 事 項	予習復習を必ず行うこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	基礎栄養学 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養の概念	(学修内容) 栄養の定義、健康・疾患予防における栄養の役割 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第2回	食物の摂取	(学修内容) 摂食行動について (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第3回	消化・吸収と栄養素の体内動態(1) 消化器系	(学修内容) 1. 消化器系の構造と機能 2. 消化の概要 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第4回	消化・吸収と栄養素の体内動態(2) 消化の調節	(学修内容) 1. 管腔内消化と膜消化 2. 栄養素別の消化・吸収 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第5回	消化・吸収と栄養素の体内動態(3) 栄養素の体内動態	(学修内容) 1. 門脈系とリンパ系 2. 食物繊維の作用 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第6回	タンパク質の栄養(1) 代謝	(学修内容) 1. タンパク質・アミノ酸の体内代謝 2. アミノ酸の臓器間輸送 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第7回	タンパク質の栄養(2) 栄養	(学修内容) 摂取するタンパク質の量と質の評価 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第8回	糖質の栄養(1) 代謝	(学修内容) 糖質の体内代謝 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第9回	糖質の栄養(2) 血糖	(学修内容) 血糖とその調節 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第10回	脂質の栄養(1) 代謝	(学修内容) 脂質の体内代謝 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第11回	脂質の栄養(2) 栄養	(学修内容) 摂取する脂質の量と質の評価 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第12回	ビタミンの栄養	(学修内容) 1. ビタミンの種類と構造 2. ビタミンの栄養学的機能 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第13回	ミネラルの栄養	(学修内容) ミネラルの種類と機能 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第14回	水・電解質の意義	(学修内容) 水の出納と電解質代謝 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく
第15回	エネルギー代謝	(学修内容) エネルギー代謝の概念と測定法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキストの該当部分を読んでノートにまとめておく

授 業 名	基礎栄養学実験 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN1402
英 文 名	Experiment of Basic Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	田代 操			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	基礎栄養学で学んだ栄養の意義について実験を通して深く理解していく。まず栄養素の消化・吸収に関する実験や生体内の栄養素の測定を通して、栄養素の体内動態とその生理的な意義について理解する。さらにエネルギー代謝測定を行い身体の活動とエネルギー代謝の関連性について深く理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 消化吸収の実際を解説できる。 2) 栄養素の代謝と生理的な意義について説明できる。 3) エネルギー代謝と身体活動の関連性について解説できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (計画力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	生化学実験 田代 操 編著 化学同人、およびプリント								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	提出レポートにコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	基礎栄養学と共に生化学の内容についても復習しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	基礎栄養学実験 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション(1) 実験の基礎	(学修内容) 1. 実験の心構え 2. 実験器具と機器操作の説明 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第2回	オリエンテーション(2) 基本操作	(学修内容) %濃度やモル濃度の溶液調製 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストを読んで濃度の単位を理解し、ノートに整理しておく
第3回	in vitro 酵素消化(1) 糖質	(学修内容) パンクレアチンによるデンプンのin vitro消化 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第4回	in vitro 酵素消化(2) 脂質とタンパク質	(学修内容) パンクレアチンによる乳脂肪とゼラチンのin vitro消化 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第5回	肝臓グリコーゲンの分離と定量(1) 分離	(学修内容) ラット肝臓からのグリコーゲンの抽出分離 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第6回	肝臓グリコーゲンの分離と定量(2) 定量	(学修内容) グリコーゲンの定量 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第7回	肝臓脂質の分離と定量(1) 分離	(学修内容) ラット肝臓からの脂質の抽出分離 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第8回	肝臓脂質の分離と定量(2) 定量	(学修内容) ラット肝臓からの中性脂肪とコレステロールの定量 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第9回	尿中ビタミンの定量(1) 前処理	(学修内容) 尿中試料の調製 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第10回	尿中ビタミンの定量(2) 定量	(学修内容) 尿中総ビタミンCの定量 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第11回	ミネラルの定性と定量(1) 定性	(学修内容) 尿中ミネラルの定性 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第12回	ミネラルの定性と定量(2) 定量	(学修内容) 尿中Clイオンの定量 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第13回	エネルギー代謝(1) 行動調査	(学修内容) 行動調査による消費エネルギーの算出 (事前事後学修課題の内容)(30分) エネルギー代謝について復習し、ノートにまとめておく
第14回	エネルギー代謝(2) 食事調査	(学修内容) 食事調査による摂取エネルギーの算出 (事前事後学修課題の内容)(20分) 食事摂取基準について復習し、ノートにまとめておく
第15回	まとめ	(学修内容) 行った実験について目的、方法、結果、考察を確認する (事前事後学修課題の内容)(30分) 行った実験の内容を確認し、ノートに整理しておく

授 業 名	健康管理論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Health Management			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	里村 一成・岩永 資隆			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	健康の概念、健康増進や生活習慣病等疾病予防の考え方やその取り組みについて理解する。WHO憲章における健康の定義、国民健康づくり運動、健康管理の実際を学ぶ。個人および集団での健康管理、データヘルス計画等を学ぶ。テーマに沿ったディスカッションを行い、理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	健康の概念とその変遷について理解する。 世界と日本の保健・医療・福祉制度の歴史、仕組み、法律、問題点と今後の方向を理解する。 EBM(Evidence-based medicine)の考え方や方法を理解する。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (分析力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	社会・環境と健康 健康管理概論 東あかね/関戸啓子/久保加織・編 講談社サイエンティフィック								
参 考 書	公衆衛生がみえる 医療情報科学研究所編 メディックメディア社 プリント配布								
課題に対する フィードバック の方法	レポートに対する質問への回答と解説を行う。								
留 意 事 項	自分の健康、家族の健康、地域社会の健康を捉えながら、理解すること。 復習に充分時間をとること								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に実施								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：臨床医。産業医。京都府内、兵庫県内、滋賀県内の複数の市の健康づくり部会長。滋賀県後期高齢者医療広域連合健康づくり基盤事業アドバイザー。国際協力機構(JICA)「フィリピン共和国母子保健・家族計画プロジェクト」専門家。認定特定非営利活動法人AMDA のボランティア医師として国内外の災害被災地、難民キャンプなどにおける保健医療活動に従事								

授 業 名		健康管理論 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	世界の健康	(学修内容) 健康の概念の変遷 健康の概念についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、についてノートにまとめておく	
第2回	日本の健康 1. 日本における健康の概念の変遷	(学修内容) 第一次国民健康づくり対策。第二次国民健康づくり運動。健康日本21 健康づくり政策についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、健康日本21についてノートにまとめておく	
第3回	日本の健康 2. 日本における健康の現状	(学修内容) 寿命と死亡。日本の健康管理システムの変遷と現状 日本の医療と福祉施設 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本の健康管理システムについて調べておく	
第4回	健康管理を担う施設と従事するスタッフ	(学修内容) 健康管理にかかわる施設。メディカルスタッフとコメディカルスタッフ 介護・福祉関連スタッフ (事前事後学修課題の内容) (60分) 保健医療、介護・福祉施設について調べておく	
第5回	胎児と妊婦の健康 1. 胎児と妊婦の健康管理システム	(学修内容) 母子保健法。妊婦健康診査。健やか親子21 (事前事後学修課題の内容) (60分) 健やか親子21について調べておく	
第6回	胎児と妊婦の健康 2. 胎児と妊婦の健康の現状と課題	(学修内容) 胎児と妊婦の健康にかかわる指標 (事前事後学修課題の内容) (60分) 胎児と妊婦における食育について調べておく	
第7回	乳児の健康 1. 乳児の健康管理システム	(学修内容) 乳児健康診査と予防接種 (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児健康診査について調べておく	
第8回	乳児の健康 2. 乳児の健康の現状と課題	(学修内容) 乳児の健康にかかわる指標 乳幼児突然死症候群 (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児における食育について調べておく	
第9回	幼児の健康	(学修内容) 幼児の健康管理システム 幼児の健康の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼児における食育について調べておく	
第10回	児童の健康	(学修内容) 児童の健康管理システム 児童の健康の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 児童における食育について調べておく	
第11回	生徒の健康	(学修内容) 生徒の健康管理システム 生徒の健康現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 中学生、高校生における食育について調べておく	
第12回	学生の健康	(学修内容) 学生の健康管理システム。学生の健康の現状と課題 学生の健康についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 学生における食育について調べておく	
第13回	成人の健康 1. 成人の健康管理システム	(学修内容) 成人、就業者における健康管理システム (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、成人の健康管理システムについてノートにまとめておく	
第14回	成人の健康 2. 成人期における健康の現状と課題	(学修内容) ストレス、薬物、運動、喫煙 成人期における健康についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 成人における食育について調べておく	
第15回	高齢者の健康	(学修内容) 高齢者の健康管理システム 高齢者の健康の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 高齢者における食育について調べておく	

授 業 名	健康栄養概論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Health and Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	人間やその生活を生態系に位置づけて、理解を深めるとともに、人間の行動特性とその基本的メカニズムを理解する。社会・環境が人間の健康に及ぼす影響や、健康を保持増進するためのライフステージ別の栄養のあり方を学び、地域の食生活を通して、健康寿命の延伸に寄与する管理栄養士の役割を理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 人間やその生活を生態系に位置づけて理解できる。 2) 社会・環境が人間の健康に及ぼす影響について理解できる。 3) ライフステージ別の栄養のあり方を学び、健康寿命の延伸に寄与する管理栄養士の役割を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学习支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	東あかね・関戸啓子・久保加織編 『栄養科学シリーズNEXT 社会環境と健康 健康管理概論 第3版』講談社 2017年								
参 考 書	日本栄養士会編 『管理栄養士・栄養士必携-データ・資料集』第一出版 2019年度版								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説をする。								
留 意 事 項	食に関する報道や話題に関心を持ち、常に正しい情報を得るように心掛けておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		健康栄養概論 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	私たちの求める健康の概念（個人と社会における健康等）	<p>（学修内容）授業の進め方の説明をする 健康の概念について理解する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスの内容を確認しておく 健康状態評価の調査の種類について、テキストp.2～11を読んでおく</p>	
第2回	社会環境と人々の生活	<p>（学修内容）社会環境と人々の生活の関連を理解する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 社会環境と人々の生活の関連について、テキストp.13～24を読んでおく 、授業開始時にディスカッションを行うので準備する</p>	
第3回	生態系の理解	<p>（学修内容）地球温暖化態について理解する 地球温暖化に関するDVDを視聴する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 地球温暖化について調べておくこと、授業開始時にディスカッションを行うので準備する、次回の授業までにDVDに関するレポートを提出</p>	
第4回	人間の行動特性と基本的メカニズム	<p>（学修内容）人間の行動特性と関連して、社会環境と健康問題について理解する 公害に関するDVDを視聴する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 社会環境と健康問題に関連する公害について調べておく 次回の授業までに視聴したDVDに関するレポートを提出</p>	
第5回	社会環境等の変化と生活行動の変化	<p>（学修内容）社会環境等に伴う生活行動の変化として、食料自給率などを理解する 食料自給率に関するDVDを視聴する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 食料自給率について調べておくこと 次回の授業までに視聴したDVDに関するレポートを提出</p>	
第6回	社会・環境と健康問題	<p>（学修内容）健康管理を担う施設などを理解する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 健康管理を担う施設について、テキストp.37～45を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する</p>	
第7回	日本における健康づくり運動と健康日本21	<p>（学修内容）健康増進法、健康日本21を理解する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 健康づくり運動に関連するテキストp.24～34を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する</p>	
第8回	疾病予防の取り組み	<p>（学修内容）疾病予防に対する公共の施策を理解する 第1回～7回の授業の理解度確認テストと解説</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 感染症について、公衆衛生学のテキストの関連ページを復習しておく 第1回～7回の授業の理解度確認テストのための復習をしておくこと</p>	
第9回	「国民健康・栄養調査」の結果と食生活の課題	<p>（学修内容）「国民健康・栄養調査」の結果を考察し、理解する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 「国民健康・栄養調査」について、厚生労働省のホームページから「国民栄養調査の結果」のサイトを読んでおく</p>	
第10回	食育における課題 - 胎児期から乳幼児期の健康・栄養・食生活の現状と課題	<p>（学修内容）胎児期、乳幼児期の健康・栄養・食生活の現状と課題を理解する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 胎児期から乳幼児期について、テキストp.48～63を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する</p>	
第11回	食育における課題 - 学童期から青年期の健康・栄養・食生活の現状と課題	<p>（学修内容）学童期、青年期の健康・栄養・食生活の現状と課題を理解する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 学童期、青年期について、テキストp.93～111を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する</p>	
第12回	食育における課題 - 成人期・高齢期の健康・栄養・食生活の現状と課題	<p>（学修内容）成人期、高齢期の健康・栄養・食生活の現状と課題を理解する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 成人期、高齢期について、テキストp.142～164を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する</p>	
第13回	地域社会における食生活の課題（食環境の在り方と食事、調理、栄養）	<p>（学修内容）地域社会における食生活の課題における地域の活動を理解する 地域社会における食生活についてのDVDを視聴する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 次回の授業までに視聴したDVDに関するレポートを提出</p>	
第14回	地域社会における健康づくりと管理栄養士の役割	<p>（学修内容）地域社会における食生活の課題について、管理栄養士の役割を理解する 高齢者の健康・栄養問題に関するDVDを視聴する</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 地域社会での管理栄養士の役割について調べておく 次回の授業までに視聴したDVDに関するレポートを提出、</p>	
第15回	健康と栄養のまとめ - 地域社会の健康増進と栄養・食生活の課題解決	<p>（学修内容）授業のまとめ 授業を振り返り、健康・栄養・食生活に関するディスカッションを行う</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） これまでの授業の配布プリントを復習し、疑問点などの質問の準備をする</p>	

授業名	解剖・生理学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Anatomy and Physiology			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	武曾 恵理			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	解剖・生理学 に続き、正常な人体の各組織・器官の構造と機能および恒常性の維持に必要な調節機構について系統的に理解していく。解剖・生理学 では、生殖器系、内分泌系、運動器系、神経系、感覚器系および免疫系について学ぶとともに、人が行う食事、運動、休養などの基本的な生命維持活動の仕組み、並びに生活環境の変化に対する調節機構を理解していく。								
学修成果到達目標	1) 生殖器系、内分泌系、免疫系、運動器系、神経系、感覚器系および自律神経系の構造とその機能が理解できる。 2) 日常生活に関わる身体機能および生体防御とそのバランスについて理解できる。 3) 身体恒常性を保つシステムの生理学について理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (判断力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 (統合力)		
テキスト	高野廣子著 解剖生理学 南山堂 志村二三夫、岡 純、山田和彦編 解剖生理学ノート 人体の構造と機能 羊土社								
参考書	多久和 紀子、多久和 陽 著 なるほど なっとく! 解剖生理学 南山堂								
課題に対するフィードバックの方法	教科書で用いる「解剖生理学ノート」のテストで理解度を確認し、解答の解説を行う。								
留意事項	解剖・生理学 で学んだことは復習しておく。 学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官(講師)として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院(699床)での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士(管理栄養士を含む)認定制度の整備を行っている。								

授 業 名		解剖・生理学 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	生殖器系 (男性生殖器、女性生殖器の発育過程・構造・機能、生殖器の発生)	(学修内容) 生殖器の構造と機能および生殖器の発生について (事前事後学修課題の内容) (60分) 生殖器の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp307-327	
第2回	生殖器系 (性周期、排卵の機序、受精・分娩)	(学修内容) 性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について (事前事後学修課題の内容) (60分) 性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について調べておく「解剖生理学」pp327-335	
第3回	内分泌系 (ホルモン分泌の調節機能)	(学修内容) 視床下部および脳下垂体でのホルモン分泌の調節機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 視床下部および脳下垂体でのホルモン分泌の調節機能について調べておく「解剖生理学」pp336-345	
第4回	内分泌系 (ホルモンの種類とその働き)	(学修内容) ホルモン分泌器の種類とその働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) ホルモン分泌器とそのホルモン作用について調べておく「解剖生理学」pp346-354	
第5回	免疫系 (免疫系の構造とその機能)	(学修内容) 免疫系の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 免疫系の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp204-220	
第6回	免疫系 (生体防御機構とアレルギー)	(学修内容) 生体防御機構とアレルギーについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 生体防御機構とアレルギーについて調べておく「解剖生理学」pp204-220	
第7回	運動器系 (全身の骨格と筋肉の構造とその運動機能)	(学修内容) 運動器系(全身の骨格と筋肉)の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 全身の骨格と筋肉の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp78-147	
第8回	神経系 (神経系の一般的特性と、中枢神経系の構造と機能)	(学修内容) 神経系の電気生理学的特性、中枢神経系の構造と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 神経系の電気生理学的特性や中枢神経系の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp355-396	
第9回	神経系 (反射系および末梢神経系の構造と機能)	(学修内容) 反射系および末梢神経系の構造と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 反射系および末梢神経系の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp396-412	
第10回	神経系 III (自律神経系の構造と機能)	(学修内容) 自律神経の構造と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 自律神経の全身の臓器への影響と機能について調べておく「解剖生理学」pp413-416	
第11回	皮膚 (皮膚の構造とその機能)	(学修内容) 皮膚の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 皮膚の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp417-432	
第12回	感覚器系 (感覚器の構造とその機能)	(学修内容) 体性感覚：感覚器の構造とその機能について 内蔵感覚：内蔵感覚の特徴とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 体性感覚器の構造および内蔵感覚の特徴その機能について調べておく「解剖生理学」pp433-447	
第13回	感覚器系 (味覚、臭覚、視覚、聴覚、平衡覚)	(学修内容) 特殊感覚；味覚、臭覚、視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 味覚、臭覚、視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp433-447	
第14回	体液の恒常化 (体液の組成、酸塩基平衡)	(学修内容) 体液の恒常性維持、体液の組成、酸塩基平衡について (事前事後学修課題の内容) (60分) 体液の恒常性維持、体液の組成、酸塩基平衡について調べておく「解剖生理学」pp459-465	
第15回	体液の恒常化 (体温の調節機能、生活環境への適応)	(学修内容) 体液の恒常性維持、体温の調節機能、生活環境への適応について (事前事後学修課題の内容) (60分) 体液の恒常性維持について調べておく解剖生理学 pp466-468	

授業名	解剖・生理学実験 a・b			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Experiment of Anatomy and Physiology			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	堀江 登			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	この実験では、臓器の模型や実際の組織標本の観察および微細構造のスケッチ、ラットの解剖を通して、各臓器の構造と機能について理解する。さらに各自の身体で機器類を用いた各種測定を行い、正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルの構造や機能についての理解を深めていく。								
学修成果到達目標	1) 哺乳動物の基本構造や機能を理解できる。 2) 特に消化器系について肉眼レベル、顕微鏡レベルで説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (51%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (49%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	プリントを配布								
参考書	解剖生理学 高野廣子著 南山堂								
課題に対するフィードバックの方法	実験結果に対する考察を重視する。提出したレポートを返却し講評する。								
留意事項	解剖生理学で学んだことを復習しながら進めていく。配布する資料をよく理解し、積極的、主体的に参加する。レポートの提出は、期限を厳守すること。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		解剖・生理学実験 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 実験の目的、心構えと一般的注意、実験方法など	(学修内容)オリエンテーション 「実験の目的、心構えと一般的注意、実験方法など」 (事前事後学修課題の内容)(45分) 実験ノートの作成	
第2回	顕微鏡の取り扱い方 組織標本の観察 消化管(胃と小腸)の観察	(学修内容)「顕微鏡の取り扱い方」「四つ組織(上皮組織、支持組織、筋肉組織、神経組織)」「消化管の一般的構造」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第3回	組織標本の観察 消化管(胃と小腸)の観察	(学修内容)「胃と小腸の構造と機能」「外分泌腺の構造」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第4回	組織標本の観察 消化管の付属器官(肝臓と膵臓)の観察	(学修内容)「肝臓における基本的構造体(肝小葉)の構造と機能」「三つ組」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第5回	組織標本の観察 消化管の付属器官(肝臓と膵臓)の観察	(学修内容)「膵臓における外分泌と内分泌」「ランゲルハンス島の構造」「膵液の分泌機序」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第6回	一般感覚 皮膚感覚と深部感覚に関する実験	(学修内容)「感覚神経系の特徴」「感覚点の検出」「二点弁別閾」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第7回	一般感覚 皮膚感覚と深部感覚に関する実験	(学修内容)「重量感覚」「ウェーバーの法則」「原始的感觉と判別的感觉」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第8回	特殊感覚 味覚に関する実験	(学修内容)「味覚に於ける感覚点の検出と分布」「ウェーバーの法則」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第9回	特殊感覚 味覚に関する実験	(学修内容)「味覚における閾値の検出と分布」「対比効果」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第10回	血液に関する実験 貧血に関する実験	(学修内容)「ラットの解剖と各器官と器官系」「ヘマトクリット値」「赤血球数」「血色素量」「比重」「塗抹標本の観察」「赤血球膜の浸透圧抵抗」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第11回	血液に関する実験 貧血に関する実験	(学修内容)「貧血」「赤血球指数」「貧血のタイプの判定」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第12回	消化に関する実験 たんぱく質の消化に関する実験	(学修内容)「消化管(食道、胃、小腸、大腸)の肉眼的観察」「胃液と腸液の採集」「ペプシンとトリプシン」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第13回	消化に関する実験 たんぱく質の消化に関する実験	(学修内容)「消化管における食塊の移動と消化作用」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第14回	循環器系に関する実験 血圧に関する実験	(学修内容)「心音(第1音と第2音)の観察」「心臓における血液循環」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第15回	循環器系に関する実験 血圧に関する実験	(学修内容)「静水圧」「暑受容器反射」「化学受容器反射」「ホメオスタシス」「環境と血圧」「運動と血圧」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	

授 業 名	栄養生化学実験 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Experiment of Nutrition Biochemistry			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	田代 操			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	本科目では、生化学、栄養生化学において学んできた生体内成分と栄養素の代謝について、実験を通して理解を深めていく。特に栄養状態による生体の成分の変化や代謝にかかわる酵素の活性に影響を与える因子などについて検討し生体成分と代謝について理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生体成分の多様性を理解できる。 2) 栄養素の代謝と生体成分の関連性について解説できる。 3) 代謝にかかわる酵素の特性を説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	栄養生理学・生化学実験(栄養科学シリーズNEXT) 加藤秀夫・木戸康博・桑波田雅士 編 講談社サイエンティフィック、およびプリント								
参 考 書	実験テーマごとに紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	提出レポートにコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	「生化学」、「基礎栄養学」、「栄養生化学」の関連部分を読んで復習しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	栄養生化学実験 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実験項目の概略説明 (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	実験の基本操作(1) 溶液の調製	(学修内容) 溶液の調製と濃度表示 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第3回	実験の基本操作(2) 溶液の希釈と吸光度	(学修内容) 希釈の実施と希釈液と吸光度との関係 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第4回	生体成分の定性(1) アミノ酸	(学修内容) アミノ酸の定性と同定 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第5回	生体成分の定性(1) タンパク質	(学修内容) タンパク質の定性 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第6回	血清タンパク質の定量(1) 血清総タンパク質	(学修内容) ビウレット法による血清総タンパク質の定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第7回	血清タンパク質の定量(2) 血清アルブミン	(学修内容) BCG法による血清アルブミンの定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第8回	血清ミネラルの定量(1) 鉄	(学修内容) 血清鉄の定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第9回	血清ミネラルの定量(2) カルシウム	(学修内容) 血清カルシウムの定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第10回	尿中成分の定量(1) 尿素窒素	(学修内容) 尿中尿素窒素の定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第11回	尿中成分の定量(1) 尿酸、クレアチニン	(学修内容) 尿酸、クレアチニンの定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第12回	血清酵素(1) AST	(学修内容) アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼの活性測定 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第13回	血清酵素(2) ALT	(学修内容) アラニンアミノトランスフェラーゼの活性測定 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第14回	肝臓酵素(1) 酵素試料の調製	(学修内容) 肝臓ホモジネイトからの試料調製 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第15回	肝臓酵素(2) 酵素の活性測定	(学修内容) 肝臓グルコース 6 ホスファターゼの活性測定 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく

授 業 名	病理病態学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Physiological Pathology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武曾 恵理			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	病理病態学Ⅰでは、主要疾患特に栄養障害と代謝疾患、消化器系疾患、循環器系疾患、腎・尿路系疾患、内分泌系疾患等の病態について、疾病の成り立ちと進行、病態とその診断および治療法について学んでいく。さらに臨床検査結果などによる病態の評価や診断について学び治療の基本的な考え方について理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 疾病の成り立ちについて細胞、組織の変化および治療の原理が理解できる。 2) 疾病を患っている人の生活の問題点にたいして理解できる。 3) 栄養学を理解し、疾病の予防やその病因と回復の促進などの基礎的な知識が理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () () ()			
テ キ ス ト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ 臨床病態学 伊藤節子編 武曾恵理他著 第11刷版 化学同人社								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	テキスト各章にある設問に取り組み、解答状況を把握し、解答の解説をおこなう。								
留 意 事 項	病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」を理解しておく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回講義時に知らせます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官(講師)として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院(699床)での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士(管理栄養士を含む)認定制度の整備を行っている。								

授 業 名		病理病態学 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	疾患による細胞、組織の変化 (炎症と創傷治癒、変性萎縮などの理解)	(学修内容) 疾患による細胞、組織の変化 (炎症と創傷治癒、変性萎縮などと、疾病との関係を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第1章を読んでおくこと。
第2回	疾患の診断 (問診・診察、主な症候)	(学修内容) 疾患診断の概要 (問診・診察、主な症候で実地での状況を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第2章を読んでおくこと。
第3回	臨床検査I (種類と特性、基準値と検体の理解)	(学修内容) 臨床検査I (種類と特性、基準値と検体の臨床現場で状況を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第4章(4.1-4.4)を読んでおくこと。
第4回	臨床検査II (一般検査、尿血液検査、画像検査の実際)	(学修内容) 臨床検査II (一般検査、尿血液検査、画像検査の実際について理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第4章(4.5-4.10)を読んでおくこと。
第5回	疾患の治療I (種類と特徴、治療の方法の理解)	(学修内容) 疾患の治療I (種類と特徴、治療の方法を末期、急性期についても理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第3章(3.1-3.6)を読んでおくこと。
第6回	疾患の治療II (薬物代謝に及ぼす食品の影響)	(学修内容) 疾患の治療II 薬物代謝に及ぼす食品の影響について実地の状況を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第3章(3.7)を読んでおくこと。
第7回	糖代謝とその異常I (血糖調節、糖尿病の理解)	(学修内容) 糖代謝とその異常I (血糖調節、糖尿病の病態、診断を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第5章(5.1-5.2)を読んでおくこと。
第8回	糖代謝とその異常II (糖尿病続き、糖尿病、低血糖)	(学修内容) 糖代謝とその異常II (糖尿病、低血糖について理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第5章(5.2-5.4)を読んでおくこと。
第9回	脂質代謝とその異常I (脂質の種類、脂質代謝異常)	(学修内容) 脂質代謝とその異常I (脂質の種類、脂質代謝異常を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第6章(6.1, 6.2)を読んでおくこと。
第10回	脂質代謝とその異常II (高脂血症(脂質異常症)の治療)	(学修内容) 脂質代謝とその異常II (高脂血症、メタボリックシンドロームへの対応の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第6章(6.3)を読んでおくこと。
第11回	蛋白質、核酸の代謝とその異常 (蛋白質の代謝、核酸代謝異常の理解)	(学修内容) 蛋白質、核酸の代謝とその異常 (蛋白質の代謝、核酸代謝異常の診断と治療の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第7章を読んでおくこと。
第12回	栄養障害 (肥満とやせ、各栄養素異常症の理解)	(学修内容) 栄養障害 (肥満とやせ、各栄養素異常の臨床所見と治療の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第8章を読んでおくこと。
第13回	摂食障害 (発症と進行の機序、症状、食事指導の理解)	(学修内容) 摂食障害 (発症と進行の機序、症状、食事指導の実際を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第9章を読んでおくこと。
第14回	消化管の疾患 (嚥下を含む口腔から肛門までの病態と治療)	(学修内容) 消化管の疾患 (口腔から肛門までの嚥下を含む消化管の疾患の病態の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第10章(10.1-10.11)を読んでおくこと。
第15回	肝臓、胆道系、膵臓疾患 (肝、胆、膵臓の病態と治療)	(学修内容) 肝臓、胆道系、膵臓疾患 (肝、胆、膵臓の病態、診断と治療の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第10章(10.12-10.21)を読んでおくこと。

授 業 名	病理病態学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Physiological Pathology			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武曾 恵理			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	病理病態学 に引き続き、神経系、呼吸器系、運動器系、生殖系などの主要疾患の成因、病態、診断、治療を理解する。また、がんの発症のメカニズムや人体と微生物や毒性物質との相互関係について理解し、病原微生物の感染から発症、その防御の機構についても理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 疾患の発症や進行を理解できる。 2) 疾患の症状や治療法を理解できる。 3) 疾病の回復促進や予防などの知識が理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ 臨床病態学 伊藤節子編 武曾恵理他著 第11刷 化学同人社								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	テキスト各章にある設問に取り組み、解答状況を把握し、解答の解説をおこなう。								
留 意 事 項	病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」、「病理病態学」を理解しておく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回講義時に知らせます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（699床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行っている。								

授 業 名		病理病態学 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	循環障害と循環器疾患I (循環障害の理解)	(学修内容)循環障害と循環器疾患 (虚血、うっ血、血栓症、塞栓症、梗塞の疾患との関連を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第11章(11.1)を読んでおくこと。
第2回	循環障害と循環器疾患II (循環器疾患)	(学修内容)循環障害と循環器疾患II (高血圧、動脈硬化症、虚血心疾患、心不全の病態と治療の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第11章(11.2)を読んでおくこと。
第3回	脳血管障害と神経疾患I (老年者の疾患である脳血管、神経疾患を学ぶ)	(学修内容)脳血管障害と神経疾患I (脳血管障害、認知症、パーキンソン病の診断、治療対応を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第12章を読んでおくこと。
第4回	腎・尿路疾患I (腎・尿路系の構造と働き)	(学修内容)腎・尿路疾患I (腎・尿路系の構造と働きを理解する) (事前事後学修課題の内容)(50分) 事前にテキスト第13章(13.1)を読んでおくこと。
第5回	腎・尿路疾患II (腎・尿路疾患の分類)	(学修内容)腎・尿路疾患II (腎・尿路それぞれの疾患の診断と治療を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第13章(13.2)を読んでおくこと。
第6回	腎・尿路疾患III (腎不全、慢性腎臓病)	(学修内容)腎・尿路疾患III (腎不全と慢性腎臓病の食事療法も含めた治療法の概要を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第13章(13.3, 13.4)を読んでおくこと。
第7回	内分泌疾患 (内分泌器官とホルモンの役割と調節機構)	(学修内容)内分泌疾患 (下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患などの病態と治療を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第14章を読んでおくこと。
第8回	骨代謝と筋・骨格疾患 (骨代謝異常の病態の理解)	(学修内容)骨代謝と筋・骨格疾患 (骨と軟骨、カルシウム代謝と骨粗鬆症などの理解と対応) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第15章を読んでおくこと。
第9回	呼吸器疾患I (ウイルス、細菌などの肺感染症の理解)	(学修内容)呼吸器疾患I (ウイルス、細菌などの肺感染症の病態と予防治療の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第16章(16.1-16.4)を読んでおくこと。
第10回	呼吸器疾患II (喘息、COPD,間質性肺炎、肺がん)	(学修内容)呼吸器疾患II (喘息、COPD,間質性肺炎、肺がんについて病態を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第16章(16.5-16.8)を読んでおくこと。
第11回	血液疾患 (血液成分と血液疾患、凝固系の理解)	(学修内容)血液疾患 (血液成分と血液疾患、凝固系の異常と治療を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第17章を読んでおくこと。
第12回	免疫・アレルギー疾患I (免疫現象の概要、アレルギー疾患)	(学修内容)免疫・アレルギー疾患I (免疫現象の概要、アレルギー疾患の食物との関係も含めて学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第18章(18.1, 18.2)を読んでおくこと。
第13回	免疫・アレルギー疾患II (自己免疫疾患、膠原病、免疫不全症候群)	(学修内容)免疫・アレルギー疾患II (自己免疫疾患、膠原病、免疫不全の診断と治療を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第18章(18.3, 18.4)を読んでおくこと。
第14回	小児の疾患I (小児の成長と発達)	(学修内容)小児の疾患I (小児の成長と発達の理解と診断について学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第19章(19.1, 19.2)を読んでおくこと。
第15回	小児の疾患II (小児の栄養の特徴と、栄養の病態と疾患)	(学修内容)小児の疾患II (小児の栄養の特徴と、病態を理解し、治療をまなぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第19章(19.3-19.4)を読んでおくこと。

授業名	微生物学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Microbiology			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	小川 順			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	人と微生物との相互関係を理解し、微生物の特徴と一般的性状について学ぶ。微生物の分類法を把握し、食中毒微生物、病原微生物の感染から発症、免疫、防御の機構を理解する。食品加工有用微生物についても、細菌、酵母、カビそれぞれの特性を理解し、その利用法を修得する。また、授業の双方向性を高めるべく、適時プレゼンテーションを求めます。								
学修成果到達目標	1) 微生物と人間とのかわりについて理解できる。 2) 食中毒菌や病原微生物による危害を防ぐ方法を理解できる。 3) 有用微生物の特性と利用法が理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (微生物利用に関する理解)	プレゼンテーション能力 (微生物制御に関する理解)	課題発見・解決能力 (微生物制御に関する理解)				
テキスト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ 微生物学 小林秀光、白石淳 編集 化学同人								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	各回に簡単なレポートを求め、それに対してコメントします。								
留意事項									
オフィスアワー	開講日の午後、微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。								
実践的教育									

授 業 名		微生物学 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	微生物学イントロダクション	(学修内容) 微生物学とは、微生物学の歴史 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第2回	微生物の基礎	(学修内容) 微生物の基礎、種類、一般性状、分類について 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第3回	微生物の基礎	(学修内容) 微生物の基礎、代謝について 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第4回	食品と微生物	(学修内容) 食品中の微生物相と食中毒微生物 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第5回	食品と微生物	(学修内容) 食品の腐敗と保存 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第6回	微生物を利用した食品	(学修内容) 微生物を利用した食品、細菌の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第7回	微生物を利用した食品	(学修内容) 微生物を利用した食品、酵母、カビの例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第8回	病原微生物	(学修内容) 病原微生物の感染機構 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第9回	病原微生物	(学修内容) 病原微生物、細菌(腸内細菌)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第10回	病原微生物	(学修内容) 病原微生物、細菌(消化器系感染)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第11回	病原微生物	(学修内容) 病原微生物、細菌(呼吸器系感染)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第12回	病原微生物	(学修内容) 病原微生物、真菌(真菌症)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第13回	病原微生物	(学修内容) 病原微生物、ウイルス、原虫の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第14回	免疫	(学修内容) 免疫の仕組みと微生物 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第15回	応用微生物学	(学修内容) 微生物のバイオテクノロジー 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	

授業名	微生物学実験 a・b			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Experiment of microbiology			開講時期	春学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	小川 順			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	食中毒微生物、病原微生物の感染を防御するために、微生物を扱うための基本的操作、滅菌操作技術、培地調製、培養法と単離法、検出法を学び、菌数測定、植菌の方法、微生物の正しい扱い方を修得する。また食品有用微生物を中心に形態を顕微鏡観察し、スクリーニング法を学ぶ。実験は、グループワークを基本として取り組む。また、授業の双方向性を高めるべく、適時プレゼンテーションを求める。								
学修成果到達目標	1) 微生物の培養法、単離法、検出法などの基本操作が理解できる。 2) 食中毒微生物、病原微生物の取扱法の基本を理解できる。 3) 有用微生物の形態、利用法が理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (微生物活用技術の習得)	プレゼンテーション能力 (微生物制御技術の習得)	課題発見・解決能力 (微生物制御技術の習得)				
テキスト	適時資料を配付する。								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	各回に簡単なレポートを求め、適時コメントを行う。								
留意事項	微生物学を復習しておくこと。								
オフィスアワー	開講日の微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション、微生物を扱うための基本、無菌操作と滅菌 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第2回	微生物の培養と形態観察(1)	(学修内容)培地調製、微生物の培養 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第3回	微生物の培養と形態観察(2)	(学修内容)細菌の培養、細菌の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第4回	微生物の培養と形態観察(3)	(学修内容)酵母の培養、酵母の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第5回	微生物の培養と形態観察(4)	(学修内容)糸状菌の培養、糸状菌の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第6回	微生物の採集とコロニーの分離(1)	(学修内容)環境からの微生物の培養と単離 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第7回	微生物の採集とコロニーの分離(2)	(学修内容)空中落下菌、表面付着菌の測定、微生物の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第8回	大腸菌の増殖観察(1)	(学修内容)培地調製、大腸菌の培養 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第9回	大腸菌の増殖観察(2)	(学修内容)大腸菌の生育の定量分析 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第10回	抗生物質による細菌の生育阻害(1)	(学修内容)培地調製、細菌の抗生物質処理 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第11回	抗生物質による細菌の生育阻害(2)	(学修内容)生育阻害の観察、定量分析 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第12回	食品からの発酵微生物の分離(1)	(学修内容)培地調製、食品微生物の培養 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第13回	食品からの発酵微生物の分離(2)	(学修内容)食品微生物の単離と形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第14回	乳酸発酵と乳酸の測定(1)	(学修内容)乳酸菌を用いた乳酸発酵 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第15回	乳酸発酵と乳酸の測定(2)	(学修内容)乳酸発酵物中の乳酸測定 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	

授業名	食品学実験 a・b			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Experiment of food science			開講時期	春学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	高村 仁知			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	食品学実験 を踏まえ、実習を通して、主要な食品の特性を成分分析から捉えるとともに、食品成分間の化学変化や脂質の酸化について学ぶ。さらに、食品加工や調理が栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高めることを理解して、加工原理・方法を修得する。								
学修成果到達目標	1) 食品ごとに含有成分の特性をつかみ、定性分析の方法を修得している。 2) 食品成分の単離、精製、定量法を修得している。 3) 食品の特性について理解し、加工方法を修得している。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (観察力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	基礎からの食品・栄養学実験 村上俊男編著 建帛社、配布プリント								
参考書	日本食品標準成分表(文部科学省)								
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じ、コメントを付けてレポート返却								
留意事項	食品学で学んだことを実験で確認していくので、食品学の復習もしておくこと。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	食品学実験 a・b		
授業計画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 食品成分の分析と加工実験に関するオリエンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第2回	食品加工実験 微生物を用いた食品加工 (味噌作り)	(学修内容) 微生物を用いた食品加工として、味噌作りを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第3回	食品加工実験 微生物を用いた食品加工 (味噌作り)	(学修内容) 微生物を用いた食品加工として、味噌作りを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第4回	食品加工実験 水産物を用いた食品加工 構造	(学修内容) 魚肉の筋肉の構造の種類による違いを調べる (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第5回	食品加工実験 水産物を用いた食品加工 加工特性	(学修内容) 練り製品の加工原理と特徴について調べる (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第6回	非酵素的褐変	(学修内容) 非酵素的褐変として、アミノカルボニル反応による褐変を調べる (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第7回	非酵素的褐変	(学修内容) 非酵素的褐変として、アミノカルボニル反応による褐変を調べる (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第8回	酵素的褐変	(学修内容) 酵素的褐変として、リンゴのポリフェノールオキシダーゼによる褐変を調べる (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第9回	酵素的褐変	(学修内容) 酵素的褐変として、ダイコンのペルオキシダーゼによる褐変を調べる (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第10回	油脂の変敗試験	(学修内容) 油脂の変敗試験として食用油の酸価を測定する (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第11回	油脂の変敗試験	(学修内容) 油脂の変敗試験として食用油の過酸化物質価を測定する (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第12回	デンプンの分離と確認	(学修内容) ジャガイモからデンプンを分離する (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第13回	デンプンの分離と確認	(学修内容) 各種デンプンについて顕微鏡観察を行う (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第14回	官能評価法	(学修内容) 味噌を用いた識別実験および嗜好テストを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第15回	食品成分の分析と加工実験のまとめ	(学修内容) 食品成分の分析と加工実験のまとめを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	

授 業 名	食品衛生学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Food Hygiene			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	堀越 昌子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>食物を介してもたらされる健康被害を予防するための知識と技術の体系、食品関連の衛生法規を学び、食品の変質、食中毒、感染症、環境汚染物質、微生物汚染の予防法、食品の安全性や衛生管理の基本を把握し安全な管理法を修得することにより食品の衛生的な管理や調理を理解することにつなげていく。H A C C P 課題では、班活動で重要管理点を決めて、結果を発表し、衛生的管理の仕組みを修得する。班で食品店のフィールド調査をして、グループで食品衛生管理の課題を討論し、発表する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 食品衛生の課題をつかみ、食物による健康被害を起こす原因物質と対策が理解できる。 2) 食を介した健康被害を予防するために、食品の衛生的取扱い、安全管理が理解できる。 3) 食品衛生管理のための H A C C P システムを理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用(双方向型授業)		グループワーク I C T 活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	『カレント食べ物と健康 食品衛生学』川井英雄、丸井正樹、河村堅編著 建帛社								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	小テストを毎回実施して返却して、フィードバックをしていく。								
留 意 事 項	テキストの予習と授業で配布するプリント資料をしっかりと読むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授 業 名		食品衛生学 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品衛生と法規	(学修内容) 食品衛生に関する「食品安全基本法」、「食品衛生法」など関連法規と食品衛生行政の仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「食品の安全性の確保とリスク分析」について予習し、発表する。
第2回	食品衛生と国際化	(学修内容) 国際化が進行する中、世界保健機構、食糧農業機関、コーデックス委員会などの国際機関の果たす役割を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 世界保健機構、食糧農業機関、コーデックス委員会などの国際機関の役割について予習し、グループ討議の準備をしておく。
第3回	食品衛生と微生物	(学修内容) 微生物の形態、構造、特性を捉えて、食品衛生のあり方を探る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品汚染の中で微生物に起因する事例は多く、微生物と食品衛生との関係をテキスト、参考文献で調べておく。
第4回	食品の変質とその防止	(学修内容) 微生物、油脂の酸化、処理加工による食品の変質を把握し、その防止策を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品の変質の仕組みとその防止法について予習し、グループ討議、発表できるように準備する。
第5回	食中毒と発生状況	(学修内容) 食中毒と発生状況を季節、病因物質別、施設別、年代別に分析していき、食中毒を起こさない予防策を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日本における食中毒の発生状況について予習し、グループ討議、発表できるように準備しておく。
第6回	病因物質別食中毒	(学修内容) 細菌、ウイルスなど病因物質別に食中毒発生状況を把握していく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食中毒発生の病因物質について、テキストで予習し、調べておく。
第7回	自然毒、化学性食中毒	(学修内容) 動物性自然毒、植物性自然毒、化学性食中毒について、それぞれの特徴と危険度を学んでいく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自然毒の種類、化学性食中毒の原因物質について予習し、班で分担して発表する。
第8回	食品による感染症と寄生虫症	(学修内容) 食品による経口感染症と人畜共通感染症、寄生虫症について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 経口感染症と人畜共通感染症、寄生虫症について、テキストの予習をしておく。
第9回	食品中有害物質 カビ毒、化学物質、放射性物質、発がん物質、混入異物	(学修内容) 食品中の有害物質であるカビ毒、化学物質、放射性物質、発がん物質、混入異物などとそれらの環境への影響について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 地球環境および食品に脅威を与えている物質について、ディベートできるように準備しておく。
第10回	食品添加物使用の歴史と安全性の評価	(学修内容) 食品添加物の歴史、働きとデメリット、分類と表示、用途について学び、安全性の評価法を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品添加物の使用の実態について、歴史的に、効用とデメリットについて、自分なりの意見が発表できるように準備しておく。
第11回	食品添加物の分類と表示、用途	(学修内容) 食品添加物の分類と表示、用途について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品添加物の分類と表示、用途について、分担発表の準備をしておく。
第12回	食品衛生管理と対策	(学修内容) 食品衛生管理と対策について、HACCP概念、衛生管理方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) HACCPについて、テキストをしっかりと読んで予習をし、安全な食品衛生環境を維持するための管理システムを理解しておく。
第13回	食品用の器具、容器包装材の安全性	(学修内容) 食品用の器具、容器包装材の安全性を素材ごとに学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品用の器具、容器包装材からの危険性を素材ごとに調べて、発表する。
第14回	食品の新しい安全性問題	(学修内容) 食品の新しい安全性問題「遺伝子組換え食品」「ゲノム編集食品」「放射線照射食品」「アレルギー物質を含む食品」について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「遺伝子組換え食品」「ゲノム編集食品」「放射線照射食品」について、世界での使用状況を把握し、日本の扱いについて考えておく。
第15回	食品衛生をめぐる諸課題	(学修内容) 食品衛生をめぐる諸課題をまとめ、対策について考えていく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品衛生をめぐる諸課題を自分でまとめ、食の安全をまもるために、対策についてグループ討議していく。

授 業 名	応用栄養学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Applied Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>応用栄養学 では、健康の維持増進や疾病の予防、治療・重症化予防を目指して、様々な対象者の栄養状態に応じた栄養管理のための基礎的な事項について学んでいく。また「日本人の食事摂取基準」についてその策定の理論について理解し、栄養管理において正しく活用するための基本的な事項について学ぶ。さらに応用栄養学 、 、 を通して各ライフステージ別の栄養管理や特殊環境下の考え方について詳しく学んでいくが、 ではその基本となる成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化およびその特徴について学んでいく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養管理の考え方を正しく理解できる。 2) 食事摂取基準について正しく理解できる。 3) 成長・発達・加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化について理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	<p>カレント応用栄養学 辻悦子 編 建帛社 日本人の食事摂取基準(2015年版) 菱田明 佐々木敏 監修 第一出版</p>								
参 考 書	<p>応用栄養学 柏下 淳、上西一弘 羊土社 食事摂取基準 そのころを読む 佐々木 敏 同文書院</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>課題プリントは授業で解説し、小テストは実施後、答え合わせを行い説明します。</p>								
留 意 事 項	<p>専門用語の理解に努めること。 まとめたノートは提出することとします。 また、単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりとしておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	<p>オフィスアワーの設定曜日・時間を研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。</p>								
実践的教育									

授 業 名	応用栄養学 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 応用栄養学の位置づけ	(学修内容)オリエンテーション 応用栄養学の位置づけ (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを見て、教科書(第1章)を予習する。
第2回	栄養管理(栄養ケア・マネジメント)の概念と意義	(学修内容)栄養ケア・マネジメントとは。 PDCAサイクルについて。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第3回	栄養管理の進め方	(学修内容)栄養学的リスクの有無の判断と栄養スクリーニングについて (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第4回	栄養評価・栄養診断について	(学修内容)栄養評価の方法と栄養アセスメントの種類、方法について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第5回	栄養管理計画の作成および実施について	(学修内容)目標設定と栄養管理計画の作成、実施方法について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第6回	栄養モニタリングと評価、修正、	(学修内容)栄養モニタリングと評価・検証、修正、フィードバックおよびアウトカム評価とその管理について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第7回	日本人の食事摂取基準の策定方針	(学修内容)食事摂取基準の策定の方向性、対象、対象とするエネルギー及び栄養素、指標の目的と種類 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第8回	食事摂取基準の策定の基本的事項	(学修内容)指標の概念と特徴、科学的根拠と留意事項 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第9回	推定エネルギー必要量の策定	(学修内容)推定エネルギー必要量の策定方法 エネルギー代謝と身体活動レベル (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第10回	栄養素の策定について	(学修内容)栄養素(たんぱく質、脂質、炭水化物、エネルギー産生栄養素バランス、ビタミン、ミネラル)の策定方法 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第11回	食事摂取基準の活用に関する基本的事項 食事改善を目的とした食事摂取基準の活用	(学修内容)活用の基本的考え方と留意点、食事摂取状況に関する調査方法、個人の食事改善と集団の食事改善を目的とした食事摂取基準の活用について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第12回	成長・発達・加齢と身体的変化	(学修内容)成長・発達・加齢に伴う身体的変化 発育の5原則、スクヤモンの発育曲線 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第13回	成長・発達・加齢と身体的変化	(学修内容)成長・発達・加齢に伴う身体的変化 体組成、消化・吸収、代謝 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第14回	成長・発達・加齢に伴う身体的、精神的変化と栄養	(学修内容)社会性の発達と栄養状態の変化 摂食機能の発達 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第15回	加齢に伴う身体的変化と栄養状態 全体のまとめ	(学修内容)加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化、評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をする。 ノートにまとめておく。

授 業 名	応用栄養学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Applied Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>応用栄養学 で学んだ栄養管理のあり方、および成長・発達、加齢による人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化について理解したうえで、応用栄養学 では、妊娠期・授乳期および新生児期から成人期のライフステージごとの身体的・生理的特徴とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の考え方、およびその栄養管理について理解を深める。同時に関連する疾病や健康に影響するリスク管理の基本的な考え方や方法について学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ライフステージ各期の身体的・生理的特徴と栄養状態の評価・判定について理解できる。 2) ライフステージ各期の栄養管理について理解できる。 3) リスク管理の基本的な考え方について理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	カレント応用栄養学 辻 悦子編 建帛社 (応用栄養学 で使用のテキスト)								
参 考 書	日本人の食事摂取基準(2015年版) 菱田 明 佐々木 敏 監修 第一出版								
課題に対するフィードバックの方法	課題プリントは授業で解説し、小テストは実施後、答え合わせを行い説明します。								
留 意 事 項	応用栄養学 を復習し、専門用語の理解を深める。 単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりとしておくこと。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	応用栄養学 a・b		
第1回	妊娠期の胎児の成長と母体の変化	(学修内容) 妊娠期の胎児の成長と母体の変化、栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト(4章)を読んでおく。	
第2回	妊娠期の栄養	(学修内容) 妊娠期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第3回	授乳期の栄養	(学修内容) 授乳期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第4回	乳児の成長・発達と健康	(学修内容) 乳児期 身体の成長・発達の特徴と栄養特性 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第5回	乳児期の栄養	(学修内容) 乳児期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第6回	幼児の成長・発達と栄養	(学修内容) 幼児期 幼児期の身体の成長・発達の特徴と栄養特性 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第7回	幼児の栄養アセスメント、ケア	(学修内容) 幼児期 幼児期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第8回	学童期の成長・発達と栄養	(学修内容) 学童期 身体の成長・発達の特徴と栄養特性 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第9回	学童期の栄養アセスメントとケア	(学修内容) 学童期 栄養状態の評価と判定および栄養必要量について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第10回	学童・思春期の学校給食の役割	(学修内容) 学童・思春期の学校給食の役割と栄養管理 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第11回	思春期の身体の成長・発達と栄養	(学修内容) 思春期の身体の成長・発達の特徴と栄養特性 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第12回	成人期の身体の変化と栄養	(学修内容) 成人期 身体状況の変化および栄養状態の変化 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第13回	更年期の身体の変化と栄養	(学修内容) 成人期 更年期の身体状況の変化と栄養状態の変化 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第14回	成人期の生活習慣病のリスクと管理について	(学修内容) 成人期 生活習慣病のリスクと管理について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第15回	成人期の栄養と判定、栄養必要量、栄養管理について 全体のまとめ	(学修内容) 成人期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をする。 ノートにまとめておく。	

授 業 名	栄養教育論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Nutrition Education			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>栄養教育論 では、栄養教育・指導の概念・定義、目的や沿革、歴史について学ぶ。また、健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養うとともに、食行動の変容の指導に必要な行動科学やカウンセリングについての理論と技法を学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養教育の概念・目的・必要性を理解できる。 2) 栄養教育に必要な情報の収集と分析、それらを総合的に評価・判定することができる。 3) 食行動の変容の指導に必要な行動科学やカウンセリングについての理論と技法を理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』 建帛社 2017年								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説を行う。								
留 意 事 項	食に関する報道や話題に関心を持ち、常に正しい情報を得るように心掛けておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		栄養教育論 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方の説明をする 「栄養教育の概念」「ヘルスプロモーション」について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの内容を確認しておく	
第2回	栄養教育の概念、目的、歴史	(学修内容) 栄養教育の目的、意義を理解する 栄養教育の歴史について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.1~3を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する	
第3回	栄養教育の対象と機会	(学修内容) 栄養教育の対象と機会、特にライフステージからみた対象と機会について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.3~8を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する	
第4回	行動科学理論と栄養教育	(学修内容) 栄養教育論における行動科学理論の概要について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.9~11を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する	
第5回	行動科学の理論とモデル - 刺激反応理論、ヘルスブリーフモデルなど	(学修内容) 刺激反応理論、ヘルスブリーフモデル、合理的行動理論、計画的行動理論について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.11~16を読んでおく	
第6回	行動科学の理論とモデル - (社会的認知理論、プリシード・プロシードモデルなど	(学修内容) トランスセオレティカルモデル、社会的認知理論、ソーシャルネットワーク、プリシード・プロシードモデルなどについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.17~36を読んでおく	
第7回	行動変容技法と概念 - 刺激統制、オペラント強化など	(学修内容) 刺激統制、反応妨害・習慣拮抗、行動置換、オペラント強化などについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.17~36の刺激統制、オペラント強化の部分を読んでおく	
第8回	行動変容技法と概念 - 認知再構成など	(学修内容) 行動変容技法の認知再構成、意思決定バランス、目標宣言・行動契約などについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.17~36の認知再構成の部分を読んでおく	
第9回	行動変容技法と概念 - セルフモニタリング、自己効力感など	(学修内容) 行動変容技法のセルフモニタリング、自己効力感、ストレスマネジメント、ソーシャルスキル・トレーニングなどについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.17~36のセルフモニタリング、自己効力感の部分を読んでおく	
第10回	健康・栄養に関する情報の収集・分析	(学修内容) 食環境づくりとの関連について理解する 行動科学の授業の理解度確認テストと解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.36~43を読んでおく 行動科学を復習しておく	
第11回	栄養カウンセリングの意義	(学修内容) 栄養教育におけるカウンセリングについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.43~44を読んでおく	
第12回	栄養カウンセリングの基本技法	(学修内容) 栄養カウンセリングの基本技法を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.44~47を読んでおく	
第13回	栄養カウンセリングのための食行動変容にかかわる援助技法と理論	(学修内容) 食行動変容にかかわる援助技法の実際を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.47~51を読んでおく	
第14回	栄養カウンセリングの技法と手順	(学修内容) 栄養カウンセリングの技法と手順を理解する 栄養カウンセリングに関するDVDを視聴する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.51~55を読んでおく	
第15回	グループカウンセリングの意義と技法	(学修内容) 栄養教育におけるグループカウンセリングを理解する 栄養教育論 の授業の理解度確認テストと解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) 栄養教育論 の全体の内容を復習し、疑問点などの質問点を準備する	

授 業 名	栄養教育論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Nutrition Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>栄養教育論 で学んだ行動変容技法やカウンセリングの方法等の事項を踏まえて、栄養教育マネジメントのP D C Aサイクルやアセスメントなどの、健康やQOLの向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を修得し、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる力を身につける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養教育のマネジメントサイクルが理解できる。 2) 栄養教育のアセスメントの種類と方法が理解できる。 3) 栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる知識が理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』 建帛社 2017年								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説を行う。								
留 意 事 項	栄養教育論 を充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		栄養教育論 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方の説明をする 栄養教育論 の復習をし、理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	栄養教育マネジメント - 栄養教育マネジメントの概要、P D C A サイクル	(学修内容) 栄養教育マネジメントの概要を理解する (栄養教育マネジメントの概要、P D C A サイクル) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.57~62を読んでおく
第3回	栄養教育マネジメント - 栄養教育のためのアセスメントの種類	(学修内容) 栄養教育のためのアセスメントの種類について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.62~67を読んでおく
第4回	栄養教育マネジメント - 栄養教育のためのアセスメントの方法	(学修内容) 栄養診断のステップについて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.67~69を読んでおく
第5回	栄養教育マネジメント - 目標設定	(学修内容) 栄養教育の目標設定について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.70~72を読んでおく
第6回	栄養教育マネジメント - 評価の意義と目的	(学修内容) 栄養教育の評価の意義と目的について理解する 栄養教育マネジメント (前半) の理解度確認テストと解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.72~78を読んでおく
第7回	栄養教育マネジメント - プログラム作成: 学習者の決定、学習指導案の作成	(学修内容) 栄養教育のプログラムの作成 (学習者の決定と学習指導案の作成) について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.78~79を読んでおく
第8回	栄養教育マネジメント - プログラムの作成: 時間・場所の設定、実施者の決定	(学修内容) 栄養教育のプログラムの作成 (時間・場所の設定、実施者の決定) について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.79~80を読んでおく
第9回	栄養教育マネジメント - プログラムの作成: 教材の選択と作成	(学修内容) プログラムの作成 (教材の選択と作成) について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.80~85を読んでおく
第10回	栄養教育マネジメント - プログラムの作成: 学習形態の選択	(学修内容) 栄養教育における学習形態の種類と選択について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.85~90を読んでおく
第11回	栄養教育マネジメント - プログラムの実施: コミュニケーション技術	(学修内容) 栄養教育におけるコミュニケーション技術について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.43~51のカウンセリングについて復習しておく
第12回	栄養教育マネジメント - プログラムの実施: プレゼンテーション技術	(学修内容) 栄養教育におけるプレゼンテーション技術について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.87~90のプレゼンテーション技術の部分について復習しておく
第13回	栄養教育マネジメント - 参加者個人の評価、集団の評価	(学修内容) 栄養教育における参加者個人の評価および集団の評価について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.72~78の評価の部分を復習しておく
第14回	社会生活と栄養教育	(学修内容) 社会生活と栄養教育の関連を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会生活と栄養教育の関連について調べておく、授業開始時にディスカッションを行う
第15回	組織づくり・地域づくり・食環境づくり	(学修内容) 社会生活 (組織づくり・地域づくり・食環境づくり) と栄養教育の関連を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養教育論 の内容を復習しておく これまでの授業の復習をし、疑問点などの質問の準備をしておく

授 業 名	栄養教育論実習 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Practice in Nutrition Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>本授業では、健常者や傷病者の集団を対象とし、教材・媒体を用いた模擬教育を体験することで、様々な場において、栄養問題のアセスメントからプログラムの作成・栄養教育の実施・評価のPDCAサイクルを実践できる力を養う。自らが対象者および教育者となってロールプレイングを行い、グループカウンセリングなど集団を対象とした栄養教育に必要な技術を修得する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 健常者の集団を対象にした栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。 2) 病態者の集団を対象にした栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。 3) 栄養教育のプレゼンテーション技術を修得する。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』 建帛社 2017年								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	各グループの模擬栄養教育実施後に講評を行う。								
留 意 事 項	グループごとの実習にそれぞれが積極的に関わって進めていくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		栄養教育論実習 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実習の概要と進め方の確認をする (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	栄養教育のための食事計画	(学修内容) 栄養価計算ソフトの使い方を修得する (事前事後学修課題の内容) (30分) 栄養価計算の復習をしておく
第3回	栄養アセスメント	(学修内容) ライフステージ別に学習者の栄養状態・健康状態の特徴を把握する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.78～80を読んでおく
第4回	栄養教育の基本技術	(学修内容) 栄養教育計画立案について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.80～85を読んでおく
第5回	健常者を対象とした集団教育：対象の選択、プログラムの立案、指導案の作成	(学修内容) グループごとにライフステージ別の対象集団のプログラムを決める (事前事後学修課題の内容) (30分) 栄養教育の対象集団の状況を考える
第6回	健常者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体作成	(学修内容) グループごとに対象者別の媒体を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 媒体作成の資料を準備する
第7回	健常者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体完成	(学修内容) 媒体完成と模擬栄養教育の準備をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬栄養教育の媒体の準備をする
第8回	健常者を対象とした集団教育：模擬集団教育リハーサル	(学修内容) 模擬栄養教育のリハーサルと仕上げをする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬栄養教育の準備をする
第9回	健常者を対象とした集団教育：模擬栄養教育実施と振り返り	(学修内容) 模擬栄養教育実施と各グループの教育内容に対する評価を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養教育の準備 実施した栄養教育の振り返りの表を完成させ提出
第10回	傷病者を対象とした集団教育：対象の選択、プログラムの立案、指導案の作成	(学修内容) グループごとに傷病者別の対象集団とプログラムを決める (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養教育の対象集団の状況を考える
第11回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体作成	(学修内容) グループごとに対象者別の媒体を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 媒体作成の資料を準備しておく
第12回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体完成	(学修内容) 媒体完成と模擬栄養教育の準備をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬栄養教育の媒体を準備をする
第13回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育リハーサル	(学修内容) 模擬栄養教育のリハーサルと仕上げをする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬栄養教育の準備をする
第14回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育実施と振り返り	(学修内容) 模擬栄養教育実施と各グループの教育内容に対する評価を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養教育の準備 実施した栄養教育の振り返りの表を完成させ提出
第15回	自分のグループの評価のまとめと改善点の検討	(学修内容) クラス全体で模擬栄養教育のグループごとの評価をまとめて改善点をディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) グループごとの模擬栄養教育全体を振り返っておく

授 業 名	臨床栄養学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>傷病者を総合的に評価・判定するために必要な栄養スクリーニング・アセスメントについて学ぶ。 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、疾病・病態の栄養ケアプランについて学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 様々な疾患・病態に対し、その疾患の定義、原因、疾病構造、社会的背景などの概要を正しく理解できる。 2) 傷病者の病態や栄養状態の特徴を説明できる。 3) 栄養アセスメント・栄養ケアプランの実施・評価について説明できる。 4) ライフステージ別の疾患について説明できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学、 第一出版								
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病協会 編・著(文光堂) ・適宜、参考文献などを紹介する。 								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の理解度確認テストは採点后、解答や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	毎回の予習と復習をして授業に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務する。</p>								

授 業 名		臨床栄養学 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション、臨床栄養の概念について	(学修内容) 授業の進め方。臨床栄養の意義と目的、及び傷病者や要介護者への栄養ケア・マネジメントの理解。医療・福祉の制度と栄養管理を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第2回	傷病者・要介護者の栄養アセスメントの意義と目的、栄養ケア計画と実施について	(学修内容) 栄養アセスメントの意義と目的(栄養スクリーニング～栄養必要量の算定)、栄養ケアの計画と実施について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第3回	傷病者・要介護者への栄養・食事療法と栄養補給方法について	(学修内容) 栄養・食事療法・栄養補給法(経口栄養補給法・経腸栄養補給法・静脈栄養補給方法)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第4回	傷病者・要介護者への栄養教育とモニタリング・再評価について	(学修内容) 傷病者・要介護者への栄養教育。臨床経過のモニタリングと再評価について学ぶ。(身体計測などを実際に練習する) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第5回	薬と栄養・食事の相互作用及び栄養ケアでの記録について	(学修内容) 栄養・食事が医薬品に及ぼす影響と栄養ケアの記録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第6回	栄養障害(P.E.M)、ビタミン、ミネラル障害の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 栄養障害、ビタミン、ミネラル欠乏・過剰症を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第7回	肥満と代謝性疾患(肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第8回	肥満と代謝性疾患(糖尿病とその合併症)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 糖尿病とその合併症を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第9回	肥満と代謝性疾患 糖尿病の食事療法における献立作成と工夫について	(学修内容) 糖尿病の食事療法における「糖尿病食品交換表」の使い方、献立作成と工夫について学び、単位計算による栄養量も算出する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。糖尿病食品交換表の使い方を必ず読んで予習しておくこと。	
第10回	肥満と代謝性疾患(高尿酸血症・痛風など)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 高尿酸血症・痛風などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第11回	消化器疾患(口内炎、胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍、たんぱく漏出性胃腸症)などの栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(口内炎～たんぱく漏出性胃腸症)を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第12回	消化器疾患(炎症性腸疾患:クローン病、潰瘍性大腸炎)過敏性腸症候群、便秘の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(炎症性腸疾患～便秘)を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第13回	消化器疾患(肝炎・肝硬変、脂肪肝・NAFLD、NASH)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(肝炎～NASH)を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第14回	消化器疾患(胆石症・胆嚢炎、膵炎など)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(胆石症～膵炎)などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第15回	循環器疾患(高血圧症、動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞、心不全、脳出血・脳梗塞など)の栄養アセスメント・ケアプランについて 全体のまとめ	(学修内容) 循環器疾患を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。全体のまとめと評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	

授 業 名	臨床栄養学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	臨床栄養学 に引き続き、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、疾病・病態の栄養ケアプランについて学ぶ。さらにライフステージ別の疾病・病態と栄養との関係についても学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 様々な疾患・病態に対し、その疾患の定義、原因、疾病構造、社会的背景などの概要を正しく理解できる。 2) 傷病者の病態や栄養状態の特徴を説明できる。 3) 栄養アセスメント・栄養ケアプランの実施・評価について説明できる。 4) ライフステージ別の疾患について説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()		プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学 第一出版								
参 考 書	・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清 中尾俊之、小沢尚、酒井謙 他編(医歯薬出版(株)) ・適宜、参考文献などを紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の理解度確認テストは採点后、解答や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	・臨床栄養学 をよく復讐して、理解しておくこと。 ・毎回の予習と復習をして講義に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務する。								

授 業 名		臨床栄養学 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	腎・尿路・泌尿器疾患 における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 急性糸球体腎炎～血液透析及び尿路結石症などを理解し治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第2回	腎・尿路・泌尿器疾患 腎臓病の食事療法における献立作成と工夫について	(学修内容) 腎臓病の食事療法における「腎臓病食品交換表」の使い方、献立作成と工夫について学び、単位計算による栄養量も算出する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。腎臓病の食品交換表の使い方を必ず読んで予習しておくこと。	
第3回	内分泌疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第4回	神経疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 認知症、パーキンソン病などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第5回	摂食障害における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 摂食障害(神経性食慾不振症・神経性大食症)を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第6回	呼吸器疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 呼吸器疾患、気管支喘息や肺炎などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第7回	血液系疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 貧血や出血性疾患などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第8回	筋・骨格疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 筋・骨格疾患などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第9回	免疫・アレルギー疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 免疫不全・食物アレルギーなどを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第10回	感染症、癌疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 感染症、癌疾患及び緩和ケア、終末期医療などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第11回	手術、周術期やクリティカルケアにおける栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 手術、周術期やクリティカルケアなどを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第12回	摂食機能障害、身体・知的障害の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 咀嚼・嚥下機能障害から身体・知的障害などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第13回	乳幼児・小児の疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化不良症から小児腎臓病などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第14回	妊産婦・授乳婦の疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	
第15回	老年症候群における栄養アセスメント・ケアプランについて 全体のまとめ	(学修内容) 老年症候群について理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。全体のまとめと評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。	

授 業 名	臨床栄養学実習 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Practical training for Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	栄養ケア・マネジメントのうち、治療食の提供による栄養補給法についての実習を行う。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために必要な献立作成を含めた栄養ケアプランを作成し、治療食の調理を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 対象者にあわせた栄養ケアプランを立てることができる。 2) 病態や栄養状態に応じた献立の作成と調理ができる。 3) 傷病者の栄養状態に応じた栄養補給法について理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()		プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	臨床栄養学実習(仮称) 岩井 達 編(みらい) ISBN 978-86015-457-8								
参 考 書	日本食品標準成分表(文部科学省) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会 編 文光堂 腎臓病食品交換表第9版 治療食の基準 黒川清監修 医歯薬出版								
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後返却する。								
留 意 事 項	臨床栄養学の学習内容を理解しておくこと。 主にグループでの実習となる。グループ内での役割分担等を決め、調理実習前には作業工程等を理解して授業に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院での管理栄養士及び部門責任者としての勤務経験を活かし、栄養管理業務の実際及び関連業務について実習及び講義する。								

授 業 名		臨床栄養学実習 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	病院食と管理栄養士	(学修内容) 病院食と管理栄養士 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第2回	病院での栄養部門の組織と業務	(学修内容) 病院での栄養部門の組織と業務 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 事前にテキストを読んでおくこと。	
第3回	病院食の種類と献立作成	(学修内容) 病院食の種類と献立作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 事前にテキストを読んでおくこと。	
第4回	高血圧症患者の食事計画(高血圧の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 高血圧症患者の食事計画(高血圧の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。	
第5回	高血圧症食の実習	(学修内容) 高血圧症食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。	
第6回	糖尿病患者の食事計画(糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 糖尿病患者の食事計画(糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。	
第7回	糖尿病食の実習	(学修内容) 糖尿病食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。	
第8回	脂質異常症患者の食事計画(脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 脂質異常症患者の食事計画(脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。	
第9回	脂質異常症食の実習	(学修内容) 脂質異常症食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。	
第10回	腎臓疾患患者の食事計画(腎臓疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 腎臓疾患患者の食事計画(腎臓疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。	
第11回	腎臓疾患食の実習	(学修内容) 腎臓疾患食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。	
第12回	要介護者の食事計画(要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 要介護者の食事計画(要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。	
第13回	介護食の実習	(学修内容) 介護食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。	
第14回	小児(食物アレルギー)の食事計画(アレルギー疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 小児(食物アレルギー)の食事計画(アレルギー疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。) 発表を実施し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。	
第15回	小児(食物アレルギー)食の実習	(学修内容) 小児(食物アレルギー)食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。	

授 業 名	公衆栄養学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Public Health Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	竹市 仁美			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>人々の健康増進や疾病予防にかかわる公衆栄養の歴史や施策を学習し、公衆栄養学の目的と意義を理解する。 集団（家庭・地域・職域・諸外国）の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然・社会・経済的要因を把握し、食生活や栄養に関する情報の収集と分析、課題の抽出、総合的評価・判定法について学ぶ。 また、保健・医療・福祉・介護システムにおける栄養上のハイリスク集団の特定と、総合マネジメント（適切な栄養プログラムの計画・実施・評価）に必要な理論と方法を学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 公衆栄養の歴史と意義を理解できる。 2) 地域における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスについて理解できる。 3) 公衆栄養プログラムを作成し、提供・協同できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	カレント公衆栄養学[第3版] 編者：由田克士・押野榮司 建白社								
参 考 書	日本人の食事摂取基準（2015年版） 栄養士必携2019年度 日本栄養士会編 公衆衛生がみえる MEDICMEDIA								
課題に対する フィードバック の方法	各課題について、コメントを添えて返却する。 プレゼンに対し、アドバイスをクラスで共有する。								
留 意 事 項	教科書や配布資料をしっかりと読むこと。 積極的に発言し、また他の意見への傾聴を心がけること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：管理栄養士として保健所勤務の経験を生かし、データの見方、調査などについて現場の実情を加えながら話します。								

授 業 名		公衆栄養学 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	公衆栄養学の概念と意義	(学修内容) 公衆栄養学の考え方、生活の中でどのように役立つかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第2回	公衆栄養学の歴史	(学修内容) 公衆栄養学の歴史や背景について学び、施策との繋がりを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第3回	国民健康・栄養調査の実施と食生活の変遷	(学修内容) 国の栄養データの基礎である国民健康・栄養調査の実施方法と日本人の食生活の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習 必要なインターネットホームページを検索する	
第4回	国民健康・栄養調査と栄養問題	(学修内容) 国民健康・栄養調査の結果を基に栄養課題について考える。 (レポート提出) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習 周辺の栄養問題について調べまとめる	
第5回	公衆栄養関連法規	(学修内容) 公衆栄養活動に関わる法律や他職種との業務の兼ね合いについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法律原案の参照とテキストの関連箇所の予習・復習	
第6回	健康政策：健康日本21(第二次)と健康づくり	(学修内容) 日本人の健康づくり運動“健康日本21(第二次)”と健康づくりについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読んでおくこと	
第7回	社会環境と健康・栄養問題	(学修内容) 人々を取り巻く社会環境と現存する健康・栄養問題の関係について学ぶ。 (プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習 環境問題の検索とまとめ	
第8回	食生活と健康栄養問題 情報の収集と分析 総合的評価・判定法	(学修内容) 身近な人々の食生活と健康や栄養の情報収集と分析の方法を学びます。また抽出された課題の総合的評価の方法を学びます。(演習) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第9回	食生活と健康栄養問題 地域の健康・栄養問題	(学修内容) 地域毎の健康・栄養問題の相違点や格差について学び、その取り組みを学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第10回	食生活と健康栄養問題 職域の健康・栄養問題	(学修内容) 職域としてとらえた食生活と健康・栄養問題について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第11回	地域における栄養サービスのプランと食事摂取基準の活用	(学修内容) 地域における栄養サービスのプランと食事摂取基準の活用 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第12回	わが国の健康栄養施策 地域における保健・医療・福祉・介護システム	(学修内容) わが国の保健・医療・福祉・介護システムについて学び、他職種との連携の大切さを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第13回	わが国の健康栄養施策 ハイリスク集団への提供サービス	(学修内容) わが国の健康ハイリスク集団への考え方やプログラムについて学ぶ。特定検診・特定保健指導のシステムを理解する。(演習) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第14回	諸外国の健康栄養問題と施策	(学修内容) 諸外国の健康・栄養問題と施策について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第15回	地域栄養マネジメントと公衆栄養プログラムの展開	(学修内容) 地域栄養マネジメントと公衆栄養プログラムの計画や展開について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	

授 業 名	給食経営管理論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Food Service Management			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	給食の運営に必要な給食実務（栄養・食事管理、組織・人事管理、会計・原価管理、施設設備管理、食材の流通・生産管理など）の基礎知識を修得し、効率的、かつ効果的な継続実施のためのシステム構築について理解する。さらに、給食経営の資源（食品流通や食品開発の状況、給食にかかわる組織や経費等）とあわせて総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。また、マーケティングの原理を理解し、給食におけるマーケティングの意義や目的、その機能について学ぶ。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 給食の意義を理解できる。 2) 給食経営管理を総合的にマネジメントできる力を修得している。 3) マーケティングの原理を理解し、組織経営などのマネジメントの基本的な方法を修得している。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	栄養科学シリーズNEXT 給食経営管理論（第4版） 幸林友男 編（講談社）								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	専門用語について充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務								

授 業 名		給食経営管理論 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション 授業の進め方と給食の概要について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスとテキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第2回	給食の概念 (給食の概要)	(学修内容)給食の概念 (給食の概要) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第3回	給食の概念 (給食システム)	(学修内容)給食の概念 (給食システム) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第4回	給食の概念 (給食を提供する施設と関係法規)	(学修内容)給食の概念 (給食を提供する施設と関係法規) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第5回	給食経営管理の概念 (給食経営管理の概要)	(学修内容)給食経営管理の概念 (給食経営管理の概要) (経営に関する問題点を話し合う) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第6回	給食経営管理の概念 (マーケティングの原理)	(学修内容)給食経営管理の概念 (マーケティングの原理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第7回	給食経営管理の概念 (給食とマーケティング)	(学修内容)給食経営管理の概念 (給食とマーケティング) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第8回	給食経営管理の概念 (給食経営と組織)	(学修内容)給食経営管理の概念 (給食経営と組織) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第9回	給食の生産(調理) (原価管理、食材管理)	(学修内容)給食の生産(調理) (原価管理、食材管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第10回	給食の生産(調理) (生産と提供)	(学修内容)給食の生産(調理) (生産と提供) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第11回	給食の安全・衛生 (安全・衛生管理の概要と実際)	(学修内容)給食の安全・衛生 (安全・衛生管理の概要と実際) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第12回	給食の安全・衛生 (事故・災害時対策)	(学修内容)給食の安全・衛生 (事故・災害時対策) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第13回	給食の施設・設備 (生産施設・設備計画)	(学修内容)給食の施設・設備 (生産施設・設備計画) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第14回	給食の施設・設備 (食事環境の設計と設備)	(学修内容)給食の施設・設備 (食事環境の設計と設備) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第15回	給食の人事・事務	(学修内容)給食の人事・事務 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	

授 業 名	給食経営管理論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Food Service Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	給食経営管理論 では、P D C Aサイクルに基づいたマネジメントを理解し、品質を管理された給食の経営管理の基本的な考え方や方法について学ぶ。さらに、大量調理の特性、生産工程管理、会計・財務管理、危機管理、情報管理、顧客管理についても給食経営管理論 で得た知識を基に、各種特定給食施設ごとの給食経営管理の実際を理解することで、対象者や社会環境に応じた給食のマネジメントが実習で実施できる能力を養う。								
学 修 成 果 対 象 業 業	1) 各種給食施設における特徴を理解しマネジメントできる力を修得している。 2) 対象とする人や集団に応じた健康・栄養政策や制度を理解し活用できる力を修得している。 3) 給食施設での経営管理の基本的な考え方や方法について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	栄養科学シリーズNEXT 給食経営管理論(第4版) 幸林友男 編(講談社)								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	給食経営管理論 を復習しておくこと。 専門用語について充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務								

授 業 名		給食経営管理論 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション（給食経営管理論 の復習）	（学修内容）オリエンテーション（給食経営管理論 の復習） （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスとテキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第2回	栄養・食事管理（栄養・食事管理の概要・意義・目的）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事管理の概要・意義・目的） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第3回	栄養・食事管理（栄養・食事のアセスメント）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事のアセスメント） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第4回	栄養・食事管理（栄養・食事の計画）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事の計画） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第5回	栄養・食事管理（栄養・食事計画の実施、評価、改善）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事計画の実施、評価、改善） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第6回	給食の品質	（学修内容）給食の品質 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第7回	給食施設別経営管理（病院給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（病院給食） （病院給食での栄養管理方法等について話し合う） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第8回	給食施設別経営管理（高齢者・介護福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（高齢者・介護福祉施設給食） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第9回	給食施設別経営管理（児童福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（児童福祉施設給食） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第10回	給食施設別経営管理（障害者福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（障害者福祉施設給食） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第11回	給食施設別経営管理（学校・幼稚園給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（学校・幼稚園給食） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第12回	給食施設別経営管理（事業所給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（事業所給食） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第13回	給食施設別経営管理（自衛隊給食・矯正施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（自衛隊給食・矯正施設給食） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第14回	給食施設別経営管理（院外給食・配食サービス・その他）	（学修内容）給食施設別経営管理（院外給食・配食サービス・その他） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第15回	健康増進法における特定給食施設の経営	（学修内容）健康増進法における特定給食施設の経営 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。	

授 業 名	食品衛生学実験 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Experiment of food hygiene			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	堀越 昌子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	食品の安全性の確保と衛生管理に必要な測定・分析の基礎技術を修得する。食品の生物学的汚染（微生物）、食品の化学的汚染（農薬、重金属、毒物など）、食品添加物の検出、食品の腐敗、変質の検査法、環境水の安全管理について学ぶ。H A C C P課題では給食提供を前提に班で、調理行程の重要管理点を決め、点検・記録して発表し、衛生的管理の仕組みを修得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品の安全確保と衛生管理のための実験手法を修得している。 2) 食品の生物学的汚染、化学的汚染を検出し、安全管理ができる。 3) H A C C Pシステムを理解でき、重要管理点のチェックができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	Nボックス実験シリーズ 改訂食品衛生学実験 後藤政幸 編著 建帛社								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	毎回提出されるレポートを確認し、見直し点などをフィードバックする。								
留 意 事 項	食品衛生学を復習しておくこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実 践 的 教 育									

授業名	食品衛生学実験 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 食品の安全性の確保と食品衛生学実験の基礎	(学修内容)オリエンテーション 食品の安全性の確保と食品衛生学実験の基礎 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1章1-4.食品衛生学実験の基礎の項(1-9頁)の予習
第2回	飲料水の水質検査 アンモニア窒素素 亜硝酸性窒素 硝酸性窒素	(学修内容)インドフェノール法によるアンモニア窒素素、ジアゾ法による亜硝酸性窒素素、サリチル酸Na定量法による硝酸性窒素を測定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章飲料水の水質検査の項、窒素形態別分析(11-13頁)の予習
第3回	飲料水の水質検査 残留塩素の測定	(学修内容)飲料水の水質検査の項、残留塩素をDPD法で測定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章飲料水の水質検査の項、残留塩素の分析(16-19頁)の予習
第4回	油脂の変質試験 チオバルビツール酸価の測定	(学修内容)油脂の変質過程をチオバルビツール酸価で測定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章2.油脂の変質試験の項(21-24頁)の予習
第5回	魚肉の変質・鮮度試験 ヒスタミンの検出	(学修内容)魚肉の変質をヒスタミンの検出で探り、新鮮度を測定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章3.魚肉の変質・鮮度試験の項(25-29頁)の予習
第6回	牛乳の鮮度試験と規格 牛乳の比重測定 乳脂肪測定	(学修内容)牛乳の比重と乳脂肪量を測定して、表示、規格に合致しているかを調べる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章4.牛乳の鮮度試験と規格の項(31-37頁)の予習
第7回	器具および容器・包装の有害化学物質の溶出 ホルムアルデヒドの検出	(学修内容)器具および容器・包装から有害化学物質を溶出し、ホルムアルデヒドを検出する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章7.器具・容器・包装の有害化学物質の項(48-50頁)の予習
第8回	食品添加物試験 発色剤(亜硝酸ナトリウム)の検出 酸化防止剤の検出	(学修内容)食品添加物の発色剤と酸化防止剤を検出する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第3章1-4 食品添加物試験の項(53-67頁)の予習
第9回	食品添加物試験 酸性タール色素の抽出と検出	(学修内容)食品中の着色料の酸性タール色素を羊毛法で抽出し、クロマトグラフィで種類を同定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第3章5.着色料の検出の項(68-70頁)の予習
第10回	微生物検査 手指の細菌検出	(学修内容)微生物検査 手指の細菌をグローブジュース法で分離し、培養し、検出する。皮膚の常在菌と手洗いの重要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章1.微生物の検査の項、手指の細菌をグローブジュース法(105-106頁)の予習
第11回	微生物検査 スタンプ法 ふき取り法	(学修内容)微生物検査を スタンプ法 ふき取り法で行い、一般衛生管理手法を修得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章1-2.衛生管理手法の項(105-113頁)の予習
第12回	清浄度検査 ATP測定 たんぱく質測定法 マスターテーブル法	(学修内容)衛生的管理手法として、ATP測定、たんぱく質測定法で清浄度を検査する。マスターテーブル法の方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章1-2.衛生管理手法の清浄度検査の項(113-117頁)の予習
第13回	HACCPシステムの構築(手順1~5, 手順 6~12) 重要管理点の設定 調理過程の内部温度測定	(学修内容)HACCPシステムの構築(手順1~5, 手順 6~12) 重要管理点の設定、調理過程の内部温度測定 (事前事後学修課題の内容)(30分) HACCPの概念をよく理解し、実際に給食管理運営実習でも回していきける力をつけておく。
第14回	HACCPシステム 重要管理点に関する実験 調理過程の内部温度測定 食中毒細菌の検出 まな板のタンパク質の検出	(学修内容)給食班で調理行程の重要管理点を設定し、実験する。調理過程の内部温度測定 食中毒細菌の検出 まな板のタンパク質の検出 (事前事後学修課題の内容)(30分) HACCPにのっとり、重要管理点のチェック項目を調理行程ごとに確認しておく。
第15回	食品の安全管理のまとめ	(学修内容)食品の安全管理法をまとめる。HACCP実習、重要管理点チェックで安全な食品環境を維持できる実践力を身につける。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品の安全管理手法をまとめ、給食班で、HACCP実習、重要管理点をチェックして、実践力を身につける。

授 業 名	応用栄養学 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Applied Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>応用栄養学 では、ライフステージの中で特に高齢期の加齢による身体的・生理的变化とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）、および栄養管理について学ぶ。さらに、運動や特殊環境下など身体への影響が考えられる状況でのリスク管理を踏まえた栄養管理のありかたについて学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 加齢による身体の変化について理解し、その栄養管理のありかたについて理解できる。 2) 加齢による変化に対応する食事の在り方について理解できる。 3) 運動負荷や特殊環境下における生体の状態を理解し、その栄養管理のありかたについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()		プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	カレント応用栄養学 辻 悦子編 建帛社 (応用栄養学 、 で使用のテキスト)								
参 考 書	応用栄養学 日本栄養改善学会監修 医歯薬出版(株)								
課題に対するフィードバックの方法	課題プリントは授業で解説し、小テストは実施後、答合わせを行い説明します。								
留 意 事 項	<p>応用栄養学 、 を復習しておくこと。 予習のためのプリントを配布しますので、必ずやってくること。 単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりとしておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	応用栄養学 a・b		
第1回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の生理的特徴 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト(第8章)を読んでおく。	
第2回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の病態・疾患 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第3回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の栄養アセスメント、食事摂取基準 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第4回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の栄養ケア・マネジメント (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第5回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 後期高齢者の食事支援 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第6回	運動・スポーツと栄養	(学修内容) 運動時の生理的特徴とエネルギー代謝 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第7回	運動・スポーツと栄養	(学修内容) 健康づくりと運動 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第8回	運動・スポーツと栄養	(学修内容) 運動と栄養ケア (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第9回	ストレス環境と栄養	(学修内容) ストレス環境下における生理的特徴 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第10回	ストレス環境と栄養	(学修内容) ストレス環境下における栄養ケア・マネジメント (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第11回	特殊環境と栄養	(学修内容) 高温・低温環境下における代謝変化 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第12回	特殊環境と栄養	(学修内容) 高温・低温環境下における栄養ケア・マネジメント (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第13回	特殊環境と栄養	(学修内容) 高圧・低圧環境下における栄養管理 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第14回	特殊環境と栄養	(学修内容) 無重力による影響と栄養管理 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第15回	栄養管理の実践上の問題点について まとめ	(学修内容) 栄養管理の実践上の問題点について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 ノートにまとめておく。	

授 業 名	応用栄養学実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Practical Applied Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>応用栄養学、 、 で学んだ成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能および栄養状態の変化、スポーツ時等における栄養状態の変化について、実習を通して理解を深める。対象者に応じた栄養スクリーニング、栄養アセスメント、短期・中期・長期の栄養管理目標の設定と栄養ケアプランを作成し、プランに即した献立を作成する力をつける。それら献立プランを実習し、評価・判定を行い、栄養管理の方法について理解を深め実践力を身につける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養アセスメントを理解し実践することができる。 2) 栄養管理の考え方を理解し、対象者に応じた栄養管理が実践できる基本的な技能を修得する。 3) 栄養ケアプランを実践できる力を身につける</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	<p>応用栄養学実習 五関正江・小林三智子 建帛社 配布プリント</p>								
参 考 書	<p>カレント応用栄養学 辻 悦子編 建帛社 (応用栄養学、 、 で使用するテキスト) 応用栄養学実習ワークブック 山本由喜子編 みらい 日本食品標準成分表(文部科学省) 日本人の食事摂取基準(2015年版) 菱田 明 佐々木 敏 監修 第一出版</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出課題は点検後、返却、授業内で解説し、理解を深めます。</p>								
留 意 事 項	<p>応用栄養学、 、 の復習をしておくこと。 プリントを配布しますので、予習しておくこと。 調理実習もしますので、身支度の準備をしておくこと。</p>								
オフィサー	<p>研究室に日時を貼付しますので、確認してください。</p>								
実践的教育									

授 業 名		応用栄養学実習 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 栄養マネジメントの概要	(学修内容)オリエンテーション、栄養マネジメントの理解、栄養スクリーニングと栄養アセスメントの方法と実際 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバス、テキスト(第1,2章)を読んでおく。	
第2回	日本人の食事摂取基準の活用とPDCAサイクル 必要栄養量の科学的根拠	(学修内容)食事摂取基準の復習 エネルギーと栄養素について (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第3回	栄養管理計画とその実践について	(学修内容)食品構成の理解、荷重平均成分表の作成、 適正栄養量の算定と献立作成 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第4回	妊婦・授乳婦を対象とした栄養管理(ケーススタ ディの検討)	(学修内容)妊婦(妊娠前期、中期、後期)・授乳婦を対象とした栄養管理の実際 ケーススタディの課題と改善、各班のまとめと発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第5回	非妊時と妊娠期の指定献立の実習	(学修内容)非妊時と妊娠期(妊娠前期、中期、後期)に適した展開食を調理し、栄 養評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第6回	乳児期、離乳期の栄養管理	(学修内容)乳児期の栄養管理(調製粉乳と特殊ミルク、調乳法、離乳食の進め方) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第7回	幼児期の栄養管理(ケーススタディの検討)	(学修内容)幼児期の栄養管理の実際 ケーススタディの課題と改善、各班のまとめと発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第8回	乳児期、離乳期、幼児期の栄養管理の実際	(学修内容)離乳食の展開、アレルギー献立の作成と評価 保育所給食と間食の献立作成と評価 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第9回	調乳、離乳食とアレルギー食の指定献立の実習	(学修内容)調乳を行い、離乳食とアレルギー食に適した献立を実習し、栄養評価を 行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第10回	学童、思春期の栄養管理の実際(ケーススタ ディの検討と献立作成)	(学修内容)ケーススタディ(肥満児、学校給食、貧血、やせの場合)の課題と改善 、各班のまとめと発表、献立作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第11回	成人期、更年期期の栄養管理の実際(ケース スタディの検討と献立作成)	(学修内容)ケーススタディ(メタボリックシンドローム、更年期障害の場合)の課 題と改善、各班のまとめと発表、献立の作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第12回	高齢期、運動負荷に対応したの栄養管理の実際(ケ ーススタディの検討と献立作成)	(学修内容) ケーススタディ(低栄養、咀嚼力低下、運動負荷の場合)の課題と改 善、各班のまとめと発表、献立の作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第13回	学童期～スポーツ時の課題解決に向けた食事の提 供(作成献立の実習)	(学修内容)学童期～スポーツ時の各班の作成献立を実習し、栄養評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第14回	各ライフステージに応じた栄養管理の実際 各班のまとめと発表	(学修内容)各ライフステージにおけるケーススタディーの課題について、各班で改 善に向けた検討を行いまとめる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第15回	各ライフステージに応じた栄養管理の実際 各班のまとめと発表	(学修内容)各班の検討課題に対する栄養ケア、食事プランを発表する。全体で評価 を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各班で課題をまとめ、発表準備をしておくこと。 課題を提出する。	

授 業 名	栄養教育論 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Nutrition Education			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>栄養教育論 ・ で学んだ基礎知識を実践として活用する方法を修得する。特に、臨床栄養学 ・ で学んだ傷病者、要介護者への栄養教育、栄養ケアプランをもとに、身体的、精神的、社会状況等のライフステージ、ライフスタイルに必要な栄養教育について理解し、栄養教育論実習と関連付けながら、そのあり方、方法を修得する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養教育を行うために必要な情報を収集・分析し、問題点を明確にできる。 2) ライフステージ・ライフスタイル別に、個々人に応じた栄養教育の展開ができる。 3) 栄養教育に関連する法律、ガイドラインを理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』 建帛社 2017年								
参 考 書	適宜参考書を紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説を行う。								
留 意 事 項	栄養教育論 ・ を充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること								
実 践 的 教 育									

授 業 名		栄養教育論 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方の説明をする ライフステージ別の栄養教育の概念について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	妊娠・授乳期の栄養教育	(学修内容) 妊娠・授乳期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.99～108を読んでおく
第3回	乳児期の栄養教育	(学修内容) 乳児期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.99～108を読んでおく
第4回	幼児期の栄養教育	(学修内容) 幼児期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.109～112を読んでおく
第5回	子育て支援と栄養教育	(学修内容) 保育所における栄養教育について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.112～116を読んでおく
第6回	学童期の栄養教育栄養	(学修内容) 学童期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.117～123を読んでおく
第7回	思春期の栄養教育	(学修内容) 思春期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.123～127を読んでおく
第8回	成人期の栄養教育(ワーク・ライフ・バランスと栄養教育)	(学修内容) 成人期の栄養教育について理解する 第1回～7回の授業の理解度確認テストと解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 確認テストの内容を復習しておく(妊娠・授乳期～思春期まで)
第9回	成人期の栄養教育(勤務形態と栄養教育)	(学修内容) 成人期の栄養教育の課題について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.138～147の復習
第10回	高齢期(施設および在宅)の栄養教育	(学修内容) 高齢期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.149～160を読んでおく
第11回	傷病者の栄養教育	(学修内容) 傷病者の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.161～174を読んでおく
第12回	障がい者の栄養教育	(学修内容) 障がい者の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.175～187を読んでおく
第13回	スポーツと栄養教育	(学修内容) アスリートの栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.188～195を読んでおく
第14回	社会生活と栄養教育	(学修内容) 食環境と栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 食環境の復習をしておく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する
第15回	食生活指針と栄養教育	(学修内容) 食生活指針・食事バランスガイドと栄養教育の関連について理解する 第8回～14回の授業の理解度確認テストと解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 食生活指針・食事バランスガイドの復習をしておく 確認テストの内容を復習しておく(成人期～スポーツ傷病者まで)

授 業 名	栄養教育論実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Practice in Nutrition Education			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>本授業では、栄養状態や食行動などのライフスタイルに応じた個人への栄養教育のあり方や方法について学ぶ。個人を対象とする栄養マネジメントの実践力を養うため、自らが対象者および教育者となってロールプレイングを行い、教材・媒体を用いた模擬教育を体験する他、食行動の変容が必要な個人を対象としたカウンセリングの実施については、講義で学んだ行動科学の理論を活用してその技術を身につけ、臨地実習で展開できる力を身につける。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析から、それらを総合的に評価・判定できる。 2) 対象者個人に応じた栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。 3) 対象者個人に応じたプレゼンテーション技術を修得する。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』 建帛社 2017年								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	各グループの模擬栄養教育実施後に講評を行う。								
留 意 事 項	グループごとの実習にそれぞれが積極的に関わって進めていくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		栄養教育論実習 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実習の概要と進め方の確認をする (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく	
第2回	個人を対象とした栄養教育：栄養教育のための食事調査の方法(秤量法)	(学修内容) 栄養アセスメント、食事調査について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp62～67を読んでおく	
第3回	個人を対象とした栄養教育：栄養教育のための食事調査の方法(24時間思い出し法)	(学修内容) 食事調査の聞き取り方を体験をする(秤量法と24時間思い出し法の比較) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自で1日分の食事調査(秤量法)を行っておく	
第4回	個人を対象とした栄養教育：栄養カウンセリングの話し方・聴き方(聞く時の位置関係)	(学修内容) 栄養カウンセリングにおけるクライアントと管理栄養士の位置関係の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.43～51を読んでおく 実習後にレポート提出	
第5回	個人を対象とした栄養教育：栄養カウンセリング話し方・聴き方(開かれた質問、閉ざされた質問)	(学修内容) グループに分かれて話し方・聴き方のロールプレイを行う(開かれた質問と閉ざされた質問を体験する) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.51～55を読んでおく(1時間) 実習後にレポート提出	
第6回	個人を対象とした栄養教育：栄養カウンセリング話し方・聴き方(ロールプレイ)	(学修内容) 生活習慣病に関して、管理栄養士・対象者・観察者のローテーションによる話し方・聞き方のロールプレイを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 各グループごとに生活習慣病の種類・予防について勉強しておく 実習後にレポート提出	
第7回	個人を対象とした栄養教育：栄養カウンセリング(気持ちを受けとめる)	(学修内容) 生活習慣病に関して管理栄養士・対象者・観察者のローテーションによるロールプレイを行う、(気持ちの受けとめ方) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習後にレポート提出	
第8回	個人を対象とした栄養教育：模擬患者への面接技法(生活習慣病)	(学修内容) 教育者・模擬患者・観察者のローテーションによるロールプレイと振り返りを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 各グループごとに生活習慣病について勉強しておく 模擬個人教育の振り返りの表を完成させ提出	
第9回	個人を対象とした栄養教育：在宅療養者への模擬訪問栄養食事指導について	(学修内容) 在宅療養者への模擬訪問栄養食事指導を理解する 訪問栄養指導のDVDを視聴する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.150～152を読んでおく 次の授業までに視聴したDVDに関するレポートを提出	
第10回	個人を対象とした栄養教育：在宅療養者への模擬訪問栄養食事指導のプログラムの立案、指導案の作成	(学修内容) 在宅療養者への模擬訪問栄養食事指導のプログラムの立案、指導案をグループごとに作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.152～157を読んでおく	
第11回	個人を対象とした栄養教育：在宅療養者への模擬訪問栄養食事指導のプログラムの媒体作成	(学修内容) グループごとに対象者への媒体を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 媒体作成の資料を準備する	
第12回	個人を対象とした栄養教育：在宅療養者への模擬訪問栄養食事指導の献立案作成	(学修内容) グループごとに模擬訪問栄養食事指導で使用する対象者への献立案を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬訪問栄養食事指導のための献立案作成の資料を準備する	
第13回	個人を対象とした栄養教育：在宅療養者への模擬訪問栄養食事指導のりハール	(学修内容) 模擬訪問栄養食事指導りハールと仕上げをする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬訪問栄養食事指導で使用する媒体などの準備をする	
第14回	個人を対象とした栄養教育：在宅療養者への模擬訪問栄養食事指導の実施	(学修内容) 模擬訪問栄養食事指導実施とグループごとの指導の評価を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬訪問栄養食事指導の準備をする	
第15回	個人を対象とした栄養教育：模擬訪問栄養指導の実施内容の評価	(学修内容) 模擬訪問栄養食事指導のクラス全体の評価をまとめて改善点をディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬訪問栄養食事指導の振り返りの表を完成させ提出	

授 業 名	臨床栄養学 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	臨床栄養学、で学んだ知識を基に臨床における管理栄養士が傷病者を対象とした適切な栄養管理について学習し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医療品の相互作用について修得する。さらに、チーム医療や在宅医療における栄養ケアについて学ぶ。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 栄養ケアの概念を理解し、栄養アセスメント、栄養ケアプランの実施、症候や各ライフステージでの栄養ケアを理解できる。 2) 各疾病の病態に応じた栄養食事療法と栄養アセスメント、栄養管理目標の設定、栄養食事療法の効果・判定を説明できる。 3) チーム医療や在宅医療における栄養ケアの実践について説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	・Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学 総論 監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子（中山書店） ・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病協会 編・著（文光堂）								
参 考 書	・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清、中山俊之、小沢尚、酒井謙 他編（医歯薬出版 株） ・適宜、参考文献などを紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の理解度確認テストは採点后、解答や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	・臨床栄養学、及び を復讐しておくこと。 ・毎回の予習と復習をしておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務する。								

授業名	臨床栄養学 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 医療の現状と管理栄養士の職務	(学修内容) 授業の進め方。医療の現状と管理栄養士の職務 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第2回	医療における栄養管理の意義	(学修内容) 医療における栄養管理の意義 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第3回	カルテ (診療記録) の見方、読み方と情報	(学修内容) カルテ (診療記録) の見方、読み方と情報 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第4回	P O S と栄養管理	(学修内容) P O S と栄養管理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第5回	クリニカルパスの基礎知識	(学修内容) クリニカルパスの基礎知識 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第6回	チーム医療	(学修内容) チーム医療 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第7回	I T と栄養教育	(学修内容) I T と栄養教育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第8回	食事記録法による栄養摂取量の把握とその問題点	(学修内容) 食事記録法による栄養摂取量の把握とその問題点 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第9回	栄養食事指導と食事療法の心理的要因	(学修内容) 栄養食事指導と食事療法の心理的要因 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第10回	栄養補給法の種類と摘要	(学修内容) 栄養補給法の種類と摘要 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第11回	食品と医薬品の相互作用	(学修内容) 食品と医薬品の相互作用 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第12回	個別栄養管理と管理栄養士	(学修内容) 個別栄養管理と管理栄養士 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第13回	治療基準と栄養ケア・マネジメント (N C M)	(学修内容) 治療基準と栄養ケア・マネジメント (N C M) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第14回	在宅医療 (地域連携) と栄養ケア (現状)	(学修内容) 在宅医療 (地域連携) と栄養ケア (現状) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第15回	在宅医療 (地域連携) と栄養ケア (役割) 全体のまとめ	(学修内容) 在宅医療 (地域連携) と栄養ケア (役割)、全体のまとめと評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。

授 業 名	臨床栄養学 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	臨床栄養学、 、 で学んだことを基礎にして、実際の疾患における栄養管理法の根拠と基本を学び、病態や栄養生理代謝と食生活との関係を理解する。さらに、発症の予防と治療、経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターについて学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 病態や栄養生理代謝と食生活との関係を理解できる。 2) 発症の予防と治療、経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターを説明できる。 3) 各疾病の病態に応じた栄養食事療法と栄養アセスメント、栄養管理目標の設定、栄養食事療法の効果・判定を説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	・Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学 各論 監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子(中山書店)								
参 考 書	・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清、中山俊之、他編(医歯薬出版(株)) ・糖尿病治療ガイド(2018-2019)日本糖尿病協会編・著(文光堂) ・適宜、参考文献などを紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の理解度確認テストは採点后、解答や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	・臨床栄養学、及びを復讐しておくこと。 ・毎回の予習と復習をしておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務する。								

授 業 名	臨床栄養学 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	疾患・病態別栄養ケア・マネジメント	(学修内容) 疾患・病態別栄養ケア・マネジメント (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第2回	栄養障害	(学修内容) 栄養障害 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第3回	代謝・内分泌系疾患の栄養管理 (飢餓、タンパク質、エネルギー栄養障害(PEM))	(学修内容) 代謝・内分泌系疾患の栄養管理 (飢餓、タンパク質、エネルギー栄養障害(PEM)) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第4回	代謝・内分泌系疾患の栄養管理 (ビタミン、ミネラル欠乏症・過剰症)	(学修内容) 代謝・内分泌系疾患の栄養管理 (ビタミン、ミネラル欠乏症・過剰症) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第5回	消化器系疾患の栄養管理 (クローン病)	(学修内容) 消化器系疾患の栄養管理 (クローン病) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第6回	消化器系疾患の栄養管理 (潰瘍性大腸炎)	(学修内容) 消化器系疾患の栄養管理 (潰瘍性大腸炎) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第7回	消化器系疾患の栄養管理 (肝炎、肝硬変)	(学修内容) 消化器系疾患の栄養管理 (肝炎、肝硬変) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第8回	循環器系疾患の栄養管理 (本態性高血圧病、妊娠高血圧病)	(学修内容) 循環器系疾患の栄養管理 (本態性高血圧病、妊娠高血圧病) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第9回	循環器系疾患の栄養管理 (動脈硬化症、心疾患)	(学修内容) 循環器系疾患の栄養管理 (動脈硬化症、心疾患) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第10回	腎・尿路疾患の栄養管理 (糸球体腎炎、ネフローゼ症候群)	(学修内容) 腎・尿路疾患の栄養管理 (糸球体腎炎、ネフローゼ症候群) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第11回	腎・尿路疾患の栄養管理 (慢性腎臓病、透析療法)	(学修内容) 腎・尿路疾患の栄養管理 (慢性腎臓病、透析療法) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第12回	腎・尿路疾患の栄養管理 (糖尿病性腎症)	(学修内容) 腎・尿路疾患の栄養管理 (糖尿病性腎症) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第13回	内分泌疾患の栄養管理	(学修内容) 内分泌疾患の栄養管理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第14回	神経疾患の栄養管理	(学修内容) 神経疾患の栄養管理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第15回	摂食障害の栄養管理 全体のまとめ	(学修内容) 摂食障害の栄養管理、全体のまとめと評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。

授 業 名	臨床栄養学実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド		
英 文 名	Practical training for Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択		
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養3回生					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学実習 では、臨床栄養業務に必要な栄養マネジメント手法を修得するため各種疾患に対する症検討を行う。 ・症例のアセスメントパラメータから栄養状態の評価、栄養補給法の検討、栄養教育など、専門的な知識及び技術を備えるための実習を行う。 ・この授業はグループ単位で行うことからチームワーク力を発揮して、患者向けの指導媒体を作成し、その内容をプレゼンテーションする。対象者が多い症例は献立作成と調理実習も行う。 									
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患ごとの症例に対して栄養アセスメントを実施し、問題点を見つけ出し解決するためのケアプランが作成できる。 2) チームワークでスライドや媒体を作成し、プレゼンテーションができる。 3) 疾患ごとの食事療法を理解し、献立作成から食材調達、調理、提供まで実行できる。 									
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能						
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力						
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション			
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技		
評 価 基 準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (グループワークでの相互協力と連携)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・症例から学ぶ 臨床栄養教育テキスト「第3版」監修：川崎英二・他、編集：本田佳子・他 (医歯薬出版(株)) ・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病協会 編・著(文光堂) 									
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> ・Nブックス 三訂臨床栄養管理「第3版」渡邊早苗、寺本房子 他共著(建帛社) ・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清、中山俊之、他編(医歯薬出版(株)) ・適宜、参考文献などを紹介する。 									
課題に対するフィードバックの方法	グループ発表では質疑への解答と分かりやすさを評価シートで判定する。課題提出により理解度の確認を行う。									
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学 ~ を復讐しておくこと。 ・毎回の予習と復習をしておくこと。 ・グループワークを主体とする授業のため、欠席、遅刻、早退はしないこと。(出席重視) 									
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。									
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実際経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務する。</p>									

授業名	臨床栄養学実習 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 臨床の実際と診療記録、及び栄養管理業務について	(学修内容) 授業概要の説明、臨床における患者心理、プライバシー保護、診療記録の見方・作成、及び栄養管理に必要な帳票と作成方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストのp2~24までを予習して臨むこと。
第2回	栄養ケアマネジメント手法により疾病の症例検討を学ぶ。 症例検討(例題)メタボリックシンドロームについて()	(学修内容) 栄養ケア記録(POSの活用)と、メタボリックシンドローム症例をSOAPにまとめてパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) SOAPの作成について復習しておくこと。メタボリックシンドロームと栄養管理を予習して臨むこと。
第3回	症例検討(例題)メタボリックシンドロームについて()	(学修内容) メタボリックシンドローム症例を通じて栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアの評価を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) SOAPの作成について復習しておくこと。メタボリックシンドロームと栄養管理を予習して臨むこと。
第4回	症例検討 肥満症、脂質異常症について()	(学修内容) 肥満症と脂質異常症の症例をSOAPにまとめてパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のメタボリックシンドロームのSOAPをまとめて提出する。肥満症、脂質異常症の病態と栄養管理を予習して臨むこと。
第5回	症例検討 肥満症、脂質異常症について()	(学修内容) 肥満症、脂質異常症の症例を通じて栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアの評価を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のメタボリックシンドロームのSOAPをまとめて提出する。肥満症、脂質異常症の病態と栄養管理を予習して臨むこと。
第6回	症例検討 高血圧症、うっ血性心不全について()	(学修内容) 高血圧症、うっ血性心不全の症例をSOAPにまとめてパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の肥満症、脂質異常症のSOAPをまとめて提出する。高血圧症、うっ血性心不全の病態と栄養管理を予習して臨むこと。
第7回	症例検討 高血圧症、うっ血性心不全について()	(学修内容) 高血圧症、うっ血性心不全の症例を通じて栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアの評価を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の肥満症、脂質異常症のSOAPをまとめて提出する。高血圧症、うっ血性心不全の病態と栄養管理を予習して臨むこと。
第8回	症例検討 糖尿病、腎臓病(CKD)について()	(学修内容) 糖尿病、腎臓病(CKD)の症例をSOAPにまとめてパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の高血圧症、うっ血性心不全のSOAPをまとめて提出する。糖尿病、腎臓病(CKD)の病態と栄養管理を予習して臨むこと。
第9回	症例検討 糖尿病、腎臓病(CKD)について()	(学修内容) 糖尿病、腎臓病(CKD)の症例を通じて栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアの評価を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の高血圧症、うっ血性心不全のSOAPをまとめて提出する。糖尿病、腎臓病(CKD)の病態と栄養管理を予習して臨むこと。
第10回	糖尿病食事療法の実践について()	(学修内容) 前回の糖尿病症例に適合する栄養量から、糖尿病食品交換表を用いて1日分の献立表を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の糖尿病、腎臓病のSOAPをまとめて提出する。糖尿病食品交換表の使い方を十分に予習して臨むこと。
第11回	腎臓病食事療法の実践について()	(学修内容) 前回の腎臓病(CKD)症例に適合する栄養量から、腎臓病食品交換表を用いて1日分の献立表を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の糖尿病食の献立表を提出する。腎臓病食品交換表の使い方を十分に予習して臨むこと。
第12回	糖尿病食事療法の実践について() 腎臓病食事療法の実践について()	(学修内容) 糖尿病食、腎臓病(CKD)食の試作と、食材料の集計及び発注量の確定と調理実習の準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 腎臓病(CKD)食の献立表を提出する。糖尿病、腎臓病の調理上の留意点などを予習して臨むこと。
第13回	糖尿病食、腎臓病食の調理実習	(学修内容) 糖尿病食、腎臓病食の調理実習と試食をする。改善点は他の受講生と共有し対応案も考えまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前の準備・確認を必ず行う。調理手順や自分の役割をよく理解し、他の受講生と協力して臨むこと。
第14回	症例検討 摂食・嚥下障害について(献立作成)	(学修内容) 摂食・嚥下障害の症例をSOAPにまとめてパワーポイントで発表し、症例からの栄養量に基づき、献立、食材料集計、発注準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の糖尿病食、腎臓病食についてのまとめを提出する。摂食・嚥下障害の状態や特徴、使用食品や調理上の留意点を予習して臨むこと。
第15回	摂食・嚥下障害食の調理実習 総合評価	(学修内容) 摂食・嚥下障害食の調理実習と試食をする。改善点は他の受講生と共有し対応案も考える。全体を通して総合評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前の準備・確認を必ず行う。調理手順や自分の役割をよく理解し、他の受講生と協力して臨むこと。

授 業 名	公衆栄養学 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Public Health Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	竹市 仁美			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	地域集団や職域等における保健・医療・福祉・介護システムにおける栄養関連の各種サービス、プログラムの調整、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理など、総合的にマネジメントするための理論と方法について学ぶ。また、実際に行われている公衆栄養プログラムの具体的取り組み事例から学び、人的資源など社会的資源の活用について理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 地域における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムが作成できる。 2) プログラムを実施し、評価し、総合的にマネジメントする方法を修得している。 3) 地域の健康、栄養課題を明確にして、施策を推進することの大事さに気づくことができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	カレント公衆栄養[第3版] 編著：由田克士・押尾榮司								
参 考 書	栄養士必携平成30年度 日本栄養士会編 日本人の食事摂取基準[2015年版] 公衆衛生が見える MEDICMEDIA								
課題に対するフィードバックの方法	各自の計画について、コメントを付けて指導を行う。 プレゼンテーションに対し、評価・改善策を伝える。								
留 意 事 項	総合的に理解できるよう、公衆栄養学 で学んだ栄養の現状や法規を理解したうえで、実践の幅を広げるよう								
オ フ ィ ス ア ワ ー	最初の授業で案内します								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：管理栄養士・健康運動指導士としての保健所での経験から、実技や計画策定などについて、実務に即した話をします。								

授業名	公衆栄養学 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養疫学の概要	(学修内容) 栄養疫学について学び、栄養疫学の位置づけと必要性を知る。 論文から各種研究手法を共有する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習 公衆衛生学のテキストを持参
第2回	暴露情報としての食事摂取量	(学修内容) 暴露情報としての食事摂取量や栄養素の考え方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習 疫学的手法について論文を検索しまとめる
第3回	食事摂取量の測定方法	(学修内容) さまざまな食事摂取量の測定方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第4回	食事摂取量の評価方法	(学修内容) 調査後の食事摂取量の評価方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第5回	公衆栄養マネジメント マネジメント	(学修内容) 公衆栄養マネジメントとは何かについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第6回	公衆栄養マネジメント アセスメント	(学修内容) 食事摂取基準や既存資料の活用方法について学ぶ。 公衆栄養アセスメントの目的と方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第7回	公衆栄養マネジメント 目標設定	(学修内容) 改善課題の抽出方法について学ぶ。 改善目標の設定の方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト関連箇所の予習・復習 目標の種類について確認し、ワークを仕上げる
第8回	公衆栄養マネジメント 計画・実施	(学修内容) 課題を改善するための計画を作成・実施の方法や留意点について学ぶ。 実際に計画を立案する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト関連箇所の予習・復習 各機関の計画書などを参照し、取り入れる
第9回	公衆栄養マネジメント 評価	(学修内容) 評価についてその方法や分析の視点について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第10回	公衆栄養プログラムの展開 地域栄養の課題	(学修内容) 地域栄養の課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習 地域データを収集する
第11回	公衆栄養プログラムの展開 地域栄養マネジメント	(学修内容) 各地域で実施されている施策について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習 地域での各種施策を収集する
第12回	公衆栄養プログラムの展開 妊娠期、授乳期、新生児期、乳幼児期のプログラム	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開 妊娠期、授乳期、新生児期、乳幼児期のプログラムの実際について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト必要箇所を読んでおくこと
第13回	公衆栄養プログラムの展開 成長期、成人期のプログラム	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開 成長期、成人期のプログラムの実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第14回	公衆栄養プログラムの展開 高齢者のプログラム	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開 高齢者のプログラムの実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第15回	地域における生活習慣病の発症予防と重症化予防、ハイリスク集団のプログラム	(学修内容) 特定健診特定保健指導、在宅栄養、地域ネットワークなどの包括的なシステムについて学ぶ。(レポート提出) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習

授 業 名	公衆栄養学実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Practical training for Public Health Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	竹市 仁美			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	公衆栄養関連のサービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。地域や職域等の健康・栄養情報を収集・分析・診断し、その改善のための活動・事業とそのマネジメント、活動・事業評価などに関する実習を行う。「日本人の食事摂取基準」の活用法、国民健康・栄養調査データの解析、食事・栄養素摂取量のデータ処理・統計解析などを行い理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 地域や職域等の健康・栄養情報を収集しそれを分析・診断し、集団の特性を把握できる。 2) 情報の分析・診断の結果から問題点を把握し、適切な栄養改善計画を立てることができる。 3) 地域の公衆栄養関連サービスに参加し、協力することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	現場で役立つ公衆栄養学 学内編 同文書院 配布プリント								
参 考 書	日本人の食事摂取基準2015年度版 栄養士必携 平成30年度 調理のためのベーシックデータ								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、添削し各自に返却します。								
留 意 事 項	班員と協力して積極的に課題に取り組み、時間内にまとめるよう努力すること								
オ フ ィ ス ア ワ ー	最初の授業時に伝えます								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：保健所管理栄養士としての実務経験を生かし、食事調査、地域診断など実務的な内容に取り組みます。								

授 業 名	公衆栄養学実習 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	公衆栄養学実習オリエンテーション	(学修内容) 公衆栄養学実習オリエンテーション (事前事後学修課題の内容) (60分) 履修済みの公衆栄養学を復習しておく
第2回	栄養プログラム計画の実際 健康日本21 第2次	(学修内容) 健康日本21第2次について、展開されている公衆栄養活動について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自既存のプログラムを検索し、持参すること
第3回	栄養プログラム計画の実際 食育基本計画	(学修内容) 栄養プログラム計画の実際 食育基本計画に基づき展開されているプログラムを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自既存のプログラムを検索し、持参すること
第4回	国民健康・栄養調査の実際と結果の分析	(学修内容) 国民健康・栄養調査の実際と結果の分析について学ぶ (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 国民健康・栄養調査の方法を復習しておくこと 栄養疫学部分を復習しておくこと
第5回	公衆栄養アセスメント 地域の実態把握とアセスメントの方法	(学修内容) 地域の実態把握とアセスメントの方法について学ぶ(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 社会調査法について復習しておくこと
第6回	「日本人の食事摂取基準 2015年版」の活用公衆栄養プログラム	(学修内容) 「日本人の食事摂取基準」の活用公衆栄養プログラムについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本人の摂取基準 総論をよく読んでおくこと
第7回	公衆栄養マネジメント：P D C A マネジメントサイクル	(学修内容) 公衆栄養マネジメント P D C A マネジメントサイクルの具体的な展開について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) P D C A サイクルの意義、目的について復習しておくこと プリシード・プロシードモデルについて確認しておくこと
第8回	公衆栄養マネジメント：栄養指導	(学修内容) 栄養指導について、媒体やデータの活用を総合的に学ぶ(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自課題について、栄養指導できるよう準備する
第9回	公衆栄養プログラム 計画と目標の設定	(学修内容) 公衆栄養プログラム 計画と目標の設定 (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 既存資料の活用について復習しておくこと
第10回	公衆栄養プログラム 栄養改善計画実施	(学修内容) 公衆栄養プログラム 栄養改善計画実施 (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 計画策定のための方法と配慮点について復習しておくこと
第11回	公衆栄養プログラム 事業の評価	(学修内容) 公衆栄養プログラム 事業の評価 (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 適切な評価内容について、各自考えておくこと
第12回	公衆栄養プログラム 改善案	(学修内容) 公衆栄養プログラム 改善案 (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 改善案の事例等を確認しておくこと
第13回	公衆栄養プログラム データ整備と解析	(学修内容) 公衆栄養プログラム データ整備と解析 (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 統計解析方法とエクセル操作について復習しておくこと
第14回	公衆栄養関連のプログラム	(学修内容) 公衆栄養関連のプログラムの展開について学ぶ (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 将来的な方向性を踏まえ、先進的なプログラムを検索する
第15回	公衆栄養関連サービスのプランと地域栄養ケアのためのネットワーク参加	(学修内容) 公衆栄養関連サービスのプランと地域栄養ケアのためのネットワーク参加 (事前事後学修課題の内容) (60分) 地域包括ケア等、福祉・医療との連携について復習しておくこと

授 業 名	給食経営管理実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Practice of Food Service Management			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	富安 広幸・村元 由佳利			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	本実習は、給食経営管理論 および で学んだ給食の経営の理論について、実習に取り組むことで理解を深め、P D C A サイクルに基づいたマネジメントができる力を修得する。給食の運営だけではなく、組織づくり、チームワーク、リーダーシップやコミュニケーションなどの全てが経営管理にとって不可欠なものであり、実習ではそれらの能力も養う。1クラスを3グループ(試作、管理、支援)に分け、グループごとにローテーションして全員が全ての役割を実習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 給食業務を総合的に理解し、給食運営に対する実践力と応用力を修得している。 2) 給食経営管理に関して臨地実習に生かす基本内容を修得している。 3) 給食の運営に必要な業務内容を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	給食経営管理論実習 石田裕美 編(建帛社) 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子 編(化学同人)								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削後返却する。								
留 意 事 項	給食経営管理論 ・ 等関連科目の復習を十分しておくこと。 グループでの実習となるため、グループ内での役割分担等を把握し、調理実習前には作業工程等を理解して授業に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務								

授 業 名		給食経営管理実習 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション 授業の進め方、実習を行う上での注意事項 (事前事後学修課題の内容)(30分) 給食の流れ等について復習しておくこと。
第2回	給食計画 (給食対象者のアセスメント、献立作成)	(学修内容)給食計画 (給食対象者のアセスメント、献立作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第3回	給食計画 (食材購入計画、調理作業手順書の作成)	(学修内容)給食計画 (食材購入計画、調理作業手順書の作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第4回	給食の実施運営 (A班:試作、B班:試作の準備、C班:試作の準備)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:試作、B班:試作の準備、C班:試作の準備) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第5回	給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第6回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第7回	給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第8回	給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第9回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第10回	給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第11回	給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第12回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第13回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:管理、C班:支援)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:管理、C班:支援) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第14回	評価	(学修内容)評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 評価方法の検討をしておくこと。
第15回	報告会	(学修内容)報告会 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備をしておくこと。

授 業 名	音楽の基礎（ピアノ・歌）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	HE1404
英 文 名	Fundamentals of Music (Piano and Song)			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	山中 信子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	音楽のごく初学者向け。秋学期開講の音楽（基本的に児童学コース・保育士・幼小教免取得希望者対象）に先立ち、ピアノ・歌唱および音楽理論の基本を学ぶ。毎回実技課題の到達度を個別レッスンによって確認しながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 読譜のための基礎的な音楽理論を理解することができる 2) 正しい音程で発声することができる 3) 簡単な楽譜のピアノ演奏ができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (実技能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	『改訂 音楽通論』教育芸術社 『新訂 バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業において実技課題の到達度を個別に確認する。								
留 意 事 項	実技練習を重視する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		音楽の基礎（ピアノ・歌）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ト音記号の読譜および視唱 ピアノを弾く際の注意事項および試奏	（学修内容）ト音記号による読譜と視唱およびピアノを演奏する際の基本的注意事項について （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト第1章「音の長さ」の項目を読んでおくこと。
第2回	ト音記号およびヘ音記号および視唱・試奏（個別レッスンを含む）	（学修内容）ト音記号およびヘ音記号による読譜について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第2章「音の高さ」の項目を読み、教則本での読譜練習をしておくこと。
第3回	音価 導入（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の基本的な考え方について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第1章「音の長さ」の項目を読み、教則本およびテキストでの読譜練習（視唱・演奏）をしておくこと。
第4回	音価 基本（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の作品中でのとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第1章・第2章のワークシートを記入し、音の長さについて理解しておくこと。
第5回	音価 発展（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の相対的な違いについて（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 音価に関する小品課題を復習しておくこと。
第6回	拍子 導入（個別レッスンを含む）	（学修内容）基本的な拍子について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 基本的な拍子のとり方を復習しておくこと。
第7回	拍子 基本（個別レッスンを含む）	（学修内容）子どもの歌によく用いられる拍子とその拍のとり方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業で取り上げた子どもの歌の拍子のとり方を復習しておくこと。
第8回	拍子とリズム 4分の4拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の4拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 4分の4拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第9回	拍子とリズム 4分の2拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の2拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 4分の2拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第10回	拍子とリズム 4分の3拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の3拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 4分の3拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第11回	拍子とリズム 総合演習（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出の拍子・リズムについて（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 拍子・リズム等既学習事項を復習しておくこと。
第12回	さまざまなリズム シンコペーション・タイ等（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出のリズム以外のリズム型（シンコペーション・タイ等）について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） シンコペーション・タイ等既学習事項の復習をしておくこと。
第13回	さまざまなリズム 応用（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出のリズムバリエーションの総合的な理解について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（120分） 既出のリズムの復習をしておくこと。
第14回	加線による読譜（ト音記号・ヘ音記号）（個別レッスンを含む）	（学修内容）加線が用いられた楽譜の読譜について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 加線読譜の復習をしておくこと。
第15回	既学習事項の総復習と課題の克服（個別レッスン・個別相談を含む）	（学修内容）14回目迄の既学習事項の確認と、読譜および演奏上の課題の解決方法について （事前事後学修課題の内容）（120分） 既学習事項の総復習と、授業で克服できなかった課題をまとめておくこと。

授業名	子どもの音楽 ua・ub・uc・ud・ue・uf			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1412
英文名	Music			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	山中 信子・阿久津 啓・服部 さやか・永峯 翠子			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	保育士および幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、子どもの歌の歌唱・ピアノ教則本のレッスン・ピアノによる弾き歌い・音楽理論とを組み合わせる授業を行う。また、ピアノ実技に関しては毎回課題を課し、個別レッスンによって実技の習熟度を確認しながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 子どもの歌の基本的な歌唱やピアノの技術を習得することができる 2) 弾き歌いの基礎を習得することができる 3) 子どもとの音楽活動に必要な音楽理論を習得することができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (実技)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編)								
参考書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	小試験は回収後、解答の解説を行う。 実技に関しては毎回課題を与え、それに対する個別レッスンを行う。								
留意事項	授業に出席するだけでなく、毎日のピアノ練習が必須。保育士・幼稚園・小学校免許取得希望者は必ず受講すること。 レベルに合わせてクラス分けを行う。								
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名	子どもの音楽 ua・ub・uc・ud・ue・uf	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) ピアノのレベルチェック、進度確認。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておく。
第2回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音部記号」	(学修内容) 子どもの歌の歌唱 ピアノレッスン 音楽理論「音部記号」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノおよび歌唱の予習復習・音楽理論「音部記号」の復習をしておくこと。
第3回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音価」	(学修内容) および 「音価」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「音価」の復習をしておくこと。
第4回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「リズム」	(学修内容) および 「リズム」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「リズム」の復習をしておくこと。
第5回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「調性」 音楽理論小試験	(学修内容) および 「調性」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「調性」の復習をしておくこと。
第6回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「八長調とそのカデンツ」	(学修内容) および 「八長調とそのカデンツ」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「八長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第7回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「へ長調とそのカデンツ」	(学修内容) および 「へ長調の音階とそのカデンツ」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「へ長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第8回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ト長調とそのカデンツ」	(学修内容) および 「ト長調の音階とそのカデンツ」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「ト長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第9回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「二長調とそのカデンツ」・音楽理論小試験	(学修内容) および 「二長調の音階とそのカデンツ」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「二長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第10回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「平行調」	(学修内容) および 「平行調」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「平行調」の復習をしておくこと。
第11回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「和声進行」	(学修内容) および 「和声進行」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「和声進行」の復習をしておくこと。
第12回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コードネーム(基本形)」	(学修内容) および 「コードネーム」(基本形)について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「コードネーム」(基本形)の復習をしておくこと。
第13回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コードネーム(転回形)」・音楽理論小試験	(学修内容) および 「コードネーム」(転回形)について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「コードネーム」(転回形)の復習をしておくこと。
第14回	歌唱総復習、歌唱小試験	(学修内容) 歌唱の総復習・小試験の実施 (事前事後学修課題の内容) (60分) 正しい発声・音程での歌唱および既習得のピアノ実技課題の復習をしておくこと。
第15回	ピアノ総復習、ピアノ小試験	(学修内容) ピアノ実技の総復習、小試験の実施 (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ実技課題の総復習をしておくこと。

授 業 名	子どもの図画工作 u a ・ u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1405
英 文 名	Arts and Crafts			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	平尾 隆史			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	絵を描いたり、ものをつくりたりする活動は、子どもの発達にとって「知識を知恵に変える」大切な活動である。この授業では子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶ。制作を楽しみながら、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力、構成力、集中力、計画性、正確さ、優しさや思いやり、伝統文化に対する「誇り」などが育つことに気付くことのできる授業にしたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 様々な表現方法を自らの体験を通して学び、その表現方法から柔軟な発想で作品をつくることのできる。 2) 作品や試みた表現方法について考察し、その記録を美しく分かりやすくまとめることのできる。 3) 制作した作品のプレゼンテーションができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (発想力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 (技術・技法)				
テ キ ス ト	新造形表現・実技編 花篤 實・岡田 敬吾 (三晃書房) 平成25年3月1日発行								
参 考 書	必要に応じて授業で指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出した制作物は、コメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参する。 小学校の公開授業参加、作品展(絵画造形展・アイデア展など)鑑賞、トイコンテストや作品展のボランティアを積極的に行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。また、研究室前に日時を掲示する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長								

授 業 名		子どもの図画工作 u a ・ u b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 図画工作科の目標	(学修内容) 授業の概要説明、受講のための諸注意。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの全体に目を通しておく。	
第2回	水彩絵の具による表現 (1) にじみ・ドリッピング	(学修内容) 水彩絵の具の使い方や技法 (1) (にじみ絵・ドリッピングなど) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストP.15～P.19を読んでおく。	
第3回	水彩絵の具による表現 (2) デカルコマニー	(学修内容) 水彩絵の具の使い方や技法 (2) (デカルコマニーなど) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストP.22などを読んでおく。	
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	(学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習した技法について調べておく。 水彩絵の具による表現・作品のまとめを完成する。	
第5回	パスによる表現 スクラッチ	(学修内容) パスによる技法 (スクラッチなど) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストP.25などを読んでおく。	
第6回	パスによる表現・作品のまとめ	(学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習した技法について調べておく。 パスによる表現・作品のまとめを完成する。	
第7回	身近な作品の鑑賞 (1) ～ 校内をそぞろ歩きながら鑑賞～	(学修内容) 校内をそぞろ歩きながら、校内のまわりを観察し、いろいろな場面を造形的にとらえ直す (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、テーマを考えておく。 デジタルカメラなど準備。	
第8回	身近な作品の鑑賞 (2) ～ 校内をそぞろ歩きながら鑑賞～	(学修内容) そぞろみポイントをまとめ、プレゼンテーションを行い、鑑賞し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 造形的にとらえた写真を準備しプレゼンテーション内容を考えておく。 鑑賞のまとめを完成する。	
第9回	動くおもちゃ制作の導入 (折紙による創作) しゃくとりむし・紙プロペラ制作	(学修内容) 子どものための造形活動と課題の説明。 動くおもちゃ制作 (折紙による創作) (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、配布プリントを読む。	
第10回	動くおもちゃ制作 クルクルロケット・折紙だこ制作	(学修内容) 感性と創造性を育てる活動を計画する。 折紙による創作について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 凧が飛ぶための条件を考えておく。	
第11回	動くおもちゃ制作 風車鳥	(学修内容) 鳥の動きから発想する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 鳥が飛ぶ様子を観察する。 配布プリントから、飛ぶ仕組みを理解しておく。	
第12回	ドリームカー制作 (車体づくり)	(学修内容) ゴム動力で走る車の車体と車輪制作。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ドリームカーのデザインを考えておく。 配布プリントから、動く仕組みを理解しておく。	
第13回	ドリームカー制作 (外装づくり)	(学修内容) ゴム動力で走る車の外装デザイン制作。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 外装デザインを考えておく。	
第14回	ドリームカー競技会・鑑賞会	(学修内容) ドリームカー競技会・鑑賞会の企画運営をグループで分担して考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの内容を考えておく。	
第15回	まとめ・プレゼンテーション	(学修内容) 授業全体の振り返り 作品返却。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 制作した作品をスケッチブックにまとめる。	

授業名	算数教育			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Elementary School Mathematics			開講時期	春学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	重松 敬一			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	算数指導において、関心・意欲・態度の目標をどう設定するか。数学的な考え方の目標をどう設定するかを中心として授業を進める。学習指導案を作る前段階となる目標分析について身につける。学習指導要領について数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解することを教授する。子どもを指導するときに、知識・理解にかかわる目標を教科書からとらえることができるような技術と表現について教授する。講義形式を中心に、ディスカッションやプレゼンテーションを加えて授業する。								
学修成果到達目標	1) 算数教育において、関心・意欲・態度や数学的な考え方の目標設定を理解し、学習指導案作成での算数の内容を理解できる。 2) 数学的及び社会的な視点で算数の内容を考察し、算数科教育の意義を理解できる。 3) 学習指導案作成にあたっての算数の教材研究が理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	文部科学省「小学校学指導要領解説算数編」(平成30年2月、日本文教出版、242円)、講義中にプリントなども配布する								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	毎時の提出課題や授業コメントに対しては、次時にコメントを返します。								
留意事項									
オフィスアワー	メールで対応します。								
実践的教育									

授 業 名		算数教育
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに - 算数の教科内容の学習の現状	(学修内容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる (事前事後学修課題の内容)
第2回	数学と算数の内容：数学の特徴	(学修内容) 自分の学習経験と算数の内容や考え方を比較する (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の学習経験を振り返る
第3回	数学のいくつかの側面と算数の内容	(学修内容) 算数の内容での数学的思考方など特徴を知る (事前事後学修課題の内容) (30分) 数学の持つ特徴をあらかじめメモする
第4回	歴史的な視点からの算数教育：戦前の算数の内容の特徴	(学修内容) 今日の算数の内容を戦前・戦後の歴史的な視点から振り返る (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 和算と今日の算数内容との関連を知る。
第5回	歴史的な視点からの算数教育：戦後の算数の内容の特徴	(学修内容) ものを数えることなどの算数の内容と考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する かけ算の教材研究で特徴を知る
第6回	現代的な課題からの算数教育(1)：自然数や整数に関する内容	(学修内容) ものを数えることなどの算数の内容と考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 幼児の算数からの数の教材研究を知る
第7回	現代的な課題からの算数教育(2)：整数の計算に関する内容	(学修内容) 整数の計算に関する算数の内容と考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 計算の教材研究を知る
第8回	現代的な課題からの算数教育(3)：分数や小数とその計算に関する内容	(学修内容) 分数や小数とその計算に関する算数の内容と考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 分数や小数とその計算の教材研究を知る
第9回	現代的な課題からの算数教育(4)：自然数・整数・有理数に関するまとめ	(学修内容) 数の持つ体系的な性質や考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 数や計算の構造的な教材研究を知る
第10回	現代的な課題からの算数教育(5)：図形に関する内容	(学修内容) 図形に関する算数の内容と考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第11回	現代的な課題からの算数教育(6)：測定に関する内容	(学修内容) 長さや広さなどに関する算数の内容と考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第12回	現代的な課題からの算数教育(7)：変化と関係、データの活用に関する内容	(学修内容) グラフなどに関する算数の内容と考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第13回	算数の内容と日常や社会との関係：生活的な視点から	(学修内容) 身近な生活への活用の視点から算数の内容と考え方を理解すると共に、教材研究をプレゼンテーションし、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (90分) あらかじめ配布するプリントを理解し、プレゼンテーションを準備する
第14回	算数の内容と日常や社会との関係：社会的な視点から	(学修内容) 社会での活用の視点から算数の内容と考え方を理解すると共に、教材研究をプレゼンテーションし、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (90分) あらかじめ配布するプリントを理解し、プレゼンテーションを準備する
第15回	補足とまとめ	(学修内容) 本講義の内容を振り返り算数の内容と考え方をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する

授業名	社会科教育			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Elementary School Social Studies			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	戦後誕生した社会科の歴史と意義について理解を深め、戦後の社会科学学習指導要領の変遷や、社会科教材づくりの視点と方法、社会科授業案づくりなどを学ぶ。具体的には、教材づくりとして、基礎的なデータを用いた地域社会の捉え方など実践しながら、イメージ豊かに社会の現場をとらえ、社会科の授業のありかたについて考察していく。								
学修成果到達目標	1) 戦後社会科の歴史を理解したうえで、社会科教材づくりの視点と方法を踏まえて社会科授業案作りができる。 2) 民間社会科の理論と実践の成果を理解した上で、21世紀の社会科の展望と課題をとらえることができる。 3) 現代の社会の状況を「自分の言葉」で分かりやすく伝えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	授業時に資料を配布します。								
参考書	前田賢次・荒井真一編『学力と教育課程の創造 社会認識を育てる教育実践とその歩み』同時代社 2013年、また適宜、紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、評価基準の具体的な内容を授業内あるいはメールにて解説します。								
留意事項	授業前に復習をしておくこと(受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります)。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実践的教育									

授 業 名		社会科教育
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 授業の概要と目標	(学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	社会科の歴史(1) 初期社会科と問題解決学習論	(学修内容) 社会科とは、戦後教育改革と1947年版学習指導要領、社会科の本質と性格 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「戦後教育と社会科の歩み1 社会科略史の講読」
第3回	社会科の歴史(2) 民間社会科の実践と系統学習論	(学修内容) 1955年版から1977年版までの社会科学学習指導要領、文部省社会科と民間社会科の違い、民間社会科の歴史・地理教育の実践 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「戦後教育と社会科の歩み2 社会科学力論の変遷」の講読
第4回	社会科の歴史(3) 社会科と生活科・総合学習の共存	(学修内容) 1989年版学習指導要領以後の社会科、生活科・総合学習と社会科の総合性、現代的課題と社会科 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「現代の社会科の学力を問う 3 生活科・総合学習と社会科」の講読
第5回	社会科の歴史(4) 現代の社会科の学力とシティズンシップ教育	(学修内容) 2008年版学習指導要領と「生きる力」、シティズンシップ教育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「現代の社会科の学力を問う 1 今、問われる社会科の学力」の講読
第6回	教材づくりについて	(学修内容) 教科書研究から教材づくりと教材化 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「社会科の授業づくりと学力」の講読
第7回	地域学習について	(学修内容) 地域に根ざす教材づくり (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の住んでいる地域の魅力を紹介するレジュメの作成
第8回	産業学習について	(学修内容) 産業学習と日本社会の産業構造 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「小学校社会科の授業づくりと学力」の講読
第9回	グローバル化と情報化社会の学習について	(学修内容) グローバリゼーションが進展し、情報化社会となった時代における日本社会の位置 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「小学校社会科の授業づくりと学力」の講読
第10回	指導案づくりの実習(1)	(学修内容) 各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業プランの作成
第11回	指導案づくりの実習(2)	(学修内容) 各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業プランの作成
第12回	模擬授業(1): グループワーク	(学修内容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案の作成
第13回	模擬授業(2): グループワーク	(学修内容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案の作成
第14回	模擬授業(3): グループワーク	(学修内容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案の作成
第15回	まとめ	(学修内容) グローバリゼーションが進展している現在における将来の社会科のありかたについて考えてみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「21世紀社会科の展望と課題」の講読

授 業 名	国語教育（書写を含む）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Elementary School Japanese and Calligraphy			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	水谷 隆			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>国語科の指導内容は「学習指導要領」によって規定されています。したがって、教員は指導要領に準拠しつつ、社会や児童の状況を踏まえた、具体的な指導内容を用意する必要があります。この授業では、学習指導要領の示している国語科の指導内容の枠組みについて説明し、理解を深めていきます。また、実際の教科書掲載作品の読解と、教材としての展開について、ディスカッションを交えながら考えていきます。</p>								
学 修 成 果 対 達 目 標	<p>1) 学習指導要領に示された国語科の指導内容の要点が把握できる。 2) 教材としての文学作品等を的確に読解できる。 3) 一つの教材を多方面からの指導に展開するためのアイデアが持てる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリントを配布します。								
参 考 書	水戸部修治・吉田裕久編著『小学校新学習指導要領の展開』明治図書 2017年								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントとともに返却します。								
留 意 事 項	国語辞典（スマホの辞書アプリ等でもよるしい）を携帯してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：帝塚山学院高等学校非常勤講師 公益財団法人日本漢字能力検定協会アドバイザー</p>								

授業名	国語教育（書写を含む）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 領域「言葉」と教科「国語」	（学修内容）授業の目的と内容等についての確認。指導要領についての解説。 （事前事後学修課題の内容）（10分） 予習として、シラバスを読んでおく。
第2回	学習指導要領の構成 国語科の目標	（学修内容）学習指導要領の構成、目標の具体的内容についての解説。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、学習指導要領に目を通しておく。
第3回	「話すこと・聞くこと」	（学修内容）〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」の内容についての解説。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 復習として、学習指導要領の当該箇所を熟読する。
第4回	「書くこと」	（学修内容）〔思考力、判断力、表現力等〕の「書くこと」の内容についての解説。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 復習として、学習指導要領の当該箇所を熟読する。
第5回	「読むこと」	（学修内容）〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」の内容についての解説。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 復習として、学習指導要領の当該箇所を熟読する。
第6回	教材研究 低学年 『おおきなかぶ』	（学修内容）『おおきなかぶ』の読解。教材としての配慮についての考察。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 復習として、『おおきなかぶ』での授業展開について考える。
第7回	教材研究 低学年 『スーホの白い馬』	（学修内容）『スーホの白い馬』の読解。道徳観についてディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 復習として、『スーホの白い馬』での授業展開について考える。
第8回	教材研究 中学年 『モチモチの木』	（学修内容）『モチモチの木』の読解。主人公の成長についてディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 復習として、『モチモチの木』での授業展開について考える。
第9回	教材研究 中学年 『ごんぎつね』	（学修内容）『ごんぎつね』の読解。「感想」についてディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 復習として、『ごんぎつね』での授業展開について考える。
第10回	教材研究 高学年 『注文の多い料理店』	（学修内容）『注文の多い料理店』の読解。文芸の愉しみについてディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 復習として、『注文の多い料理店』での授業展開について考える。
第11回	教材研究 高学年 『てつがくのライオン』	（学修内容）『てつがくのライオン』の読解。詩についてディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 復習として、『てつがくのライオン』での授業展開について考える。
第12回	「書写」の位置づけと内容	（学修内容）国語科における「書写」の位置づけ、各学年での内容の具体像についての解説。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 復習として、芸術としての書道との相違について考える。
第13回	「我が国の言語文化に関する事項」とは	（学修内容）指導要領における「我が国の言語文化に関する事項」の位置づけと内容についての解説。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 予習として、これまでに学んだ経験のある古典作品を想起しておく。
第14回	「我が国の言語文化に関する事項」の具体例	（学修内容）「我が国の言語文化に関する事項」の教材例の提示と考察。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、各学年の教材としてふさわしい素材について考える。
第15回	まとめ	（学修内容）多様化する社会における国語教育の役割についての考察。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 予習として、授業全体をふり返り、疑問点がないかどうか確認しておく。

授 業 名	家庭科教育			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Elementary School Home Economics			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	教科「家庭」の教育理念、教育目標、教育内容を理解する。学習指導要領で示された「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の3つの領域を基底に、家庭科を学ぶ意義を講義する。理解を深めるため、適宜ディスカッションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 教科「家庭」を学ぶ意義を説明できる。 2. 児童に「家庭」を教授するための基礎的知識が身につく。 3. 小学校で「家庭」を教授するための方法や工夫を理解できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	『小学校学習指導要領解説 家庭編』文部科学省 東洋館出版								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		家庭科教育
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 科目の概要と目的 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく
第2回	家庭科を学ぶ意義	(学修内容) 家庭科の特徴と学ぶ意義について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第3回	家庭科のあゆみ	(学修内容) これまでの家庭科の歩みについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第4回	子どもの発達と家庭科	(学修内容) 子どもの発達と家庭科で育む資質・能力について 適宜ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第5回	学習指導要領：家庭科の目標	(学修内容) 学習指導要領の理解：家庭科の目標と内容構成について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	学習指導要領：家族・家庭生活	(学修内容) 学習指導要領の理解：「家族・家庭生活」について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	学習指導要領：衣食住	(学修内容) 学習指導要領の理解：「衣食住の生活」について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	学習指導要領：消費生活・環境	(学修内容) 学習指導要領の理解：「消費生活・環境」について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第9回	家族・家庭生活	(学修内容) 「家族・家庭生活」に関する基礎知識 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第10回	食生活の基礎	(学修内容) 「食生活」に関する基礎知識 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第11回	衣生活の基礎1 衣服の材料・サイズ表示	(学修内容) 「衣生活」に関する基礎知識、衣服の材料とサイズ表示について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第12回	衣生活の基礎2 衣服の洗濯と管理	(学修内容) 「衣生活」に関する基礎知識、洗濯と管理について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第13回	住生活の基礎	(学修内容) 住生活に関する基礎知識 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第14回	消費生活・環境の基礎	(学修内容) 消費生活と環境に関する基礎知識 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第15回	総括	(学修内容) 家庭科の授業づくりに関して考えをまとめ、ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの内容を整理する

授業名	理科教育			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Elementary School Science			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	講義形式の授業を通して、小学校理科の内容の背景になっている4領域（物理・化学・生物・地学）について、指導に必要な基礎的概念・知識を教授し、自然科学現象に対する理解の深化を図ると共に、指導者としての資質の向上を図る。実験・観察に必要な基本的知識を教授し、効果的な実験技術・方法について具体例を挙げながら教授する。また、自然の中の科学的な事象について観察・分析し、アクティブラーニング形式でも行う。								
学修成果到達目標	1) 自然の事物・現象についての実感を伴った理解ができる。 2) 見通しをもって観察・考察し、科学的な言葉や概念で表現できる。 3) 小学校理科の基本が理解でき、実際の指導が可能となる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	石浦章一、鎌田正裕著 『わくわく理科6』 啓林館 2015年								
参考書	森本信也、森脇義孝編 『小学校理科教育法』 建帛社 2018年								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留意事項	4~5名を1グループとして模擬授業を行う。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授業名	理科教育	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション わたしたちの地球について考える	(学修内容) 水、大気、生命、緑について。 模擬授業のグループ分けを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 1~7を一読しておくこと。 模擬授業の担当箇所を考えておく。
第2回	ものが燃えるとき	(学修内容) 燃焼時の空気の変化について。 模擬授業の担当を決める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 8~21を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第3回	動物の構造	(学修内容) 消化と吸収のしくみについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 22~31を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第4回	動物の機能	(学修内容) 呼吸と循環のしくみについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 32~41を一読しておくこと。 模擬授業を担当するグループは準備しておく。
第5回	植物の構造	(学修内容) 維管束のしくみについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 42~50を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第6回	植物の機能	(学修内容) 光合成のしくみについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 51~59を一読しておくこと。 模擬授業を担当するグループは準備しておく。
第7回	生物のつながり	(学修内容) 食物と空気によるつながりについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 60~71を一読しておくこと。 模擬授業を担当するグループは準備しておく。
第8回	自由研究	(学修内容) 課題を決め計画をたて、まとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 72~77を一読しておくこと。 模擬授業を担当するグループは準備する。
第9回	水溶液の性質	(学修内容) 理科室の使い方や水溶液の性質 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 78~99を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第10回	月と太陽	(学修内容) 月の運動と太陽の動きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 100~113を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第11回	大地のつくり	(学修内容) 地層のでき方について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 114~129を一読しておくこと。 模擬授業を担当するグループは準備する。
第12回	大地の変化	(学修内容) 火山と地震について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 130~143を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第13回	てこのはたらき	(学修内容) てこの原理について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 144~157を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第14回	発電と電気の利用	(学修内容) 発電と蓄電、電気の変換について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 158~175を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第15回	自然とともに生きる	(学修内容) 自然の事象について科学的分析を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 176~207を一読しておくこと。 模擬授業を行うグループは準備しておく。

授 業 名	子どもの英語活動			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Children and English Activities			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	平成30年度より、「外国語活動」の授業が小学校3年生から引き下げられて実施、また教科「外国語」が小学校5年生から導入されています。小学校教諭免許を取得希望する学生は、外国語に関する授業を子どもたちに指導するスキルが必要です。この授業では、児童を対象にした外国語教育法に関する講義のほか、ビデオを見たり、クリッカー（ICT活用）を使用したりグループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進めます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 小学校の外国語に関する授業時の注意点を指摘することができる。 2) 学年に応じた指導案を書くことができる。 3) 簡単な教室英語を使用して、生徒に指示を出すことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	樋口忠彦他編著『新編小学校英語教育入門』研究者 2,100円＋税								
参 考 書	文部科学省著『Hi, friends!』東京書籍 2012年 文部科学省著『Let's Try! 1, 2』文部科学省 文部科学省著『We Can! 1, 2』文部科学省 文部科学省著『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』開隆堂 128円＋税								
課題に対する フィードバック の方法	提出された制作物については、コメントを付し答案返却期間（3月27日～4月6日予定）に返却します。 実技については、その都度コメントを返します。								
留 意 事 項	小学校の授業見学、ボランティアを積極的に行ってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実際経験など：精華町立精華西中学校、精華町立川西小学校 非常勤国際理解教育講師 京都市立横大路小学校、京都市立洛央小学校 外国語指導助手								

授 業 名	子どもの英語活動	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 1章：教育の目的と目標 ビデオ視聴	(学修内容) 授業概要説明、ビデオによる模擬授業視聴 学習指導要領、外国語活動、教科としての外国語他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：1章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：1章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第2回	2章：関連分野からみる外国語教育の意義と方向性	(学修内容) 第二言語習得、臨界期仮説、発達心理学他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：2章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：2章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第3回	3章：指導者の役割・資質と研修 ビデオ視聴	(学修内容) 指導形態、指導者の役割他について ビデオによる模擬授業視聴 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：3章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：3章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第4回	4章：教材の構成と内容	(学修内容) 日本で使用されるテキスト他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：4章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：4章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第5回	5章：指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例	(学修内容) 年間指導計画、指導目標他の立て方と具体例について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：5章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：5章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第6回	6章：言語材料と4技能の指導	(学修内容) 4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)の指導について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：6章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：6章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第7回	7章：教材研究 - 児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動	(学修内容) うた、チャンツ、クイズ、ゲーム、絵本活動の具体例について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：7章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：7章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第8回	8章：教材研究 - 児童が創意工夫し、生き生きと英語を使う活動	(学修内容) 自己表現活動、国際理解活動、プロジェクト活動他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：8章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：8章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第9回	9章：指導方法と指導技術	(学修内容) TPR、CLIL、ALや発達段階、学習段階他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：9章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：9章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第10回	10章：いろいろな教材・教具の活用法	(学修内容) 教材、教具、機器の活用方法と作成方法他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：10章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：10章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第11回	11章：評価のあり方、進め方	(学修内容) パフォーマンス評価、パフォーマンス課題、ルーブリック他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：11章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：11章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第12回	12章：授業過程と学習指導案の作り方	(学修内容) 学習指導案の構成と作り方他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：12章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：12章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第13回	13章：授業づくり	(学修内容) 学習指導案の作成他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：13章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：13章の学習課題を考え書きだして次回提出。
第14回	学生による模擬授業	(学修内容) プレゼンテーション：模擬授業発表(希望者のみ数名) (事前事後学修課題の内容) (180分) 事前：学習指導案作成 事後：模擬授業を振り返って学習指導案を修正
第15回	14章：豊かな小学校外国語教育をめざして	(学修内容) 外国語活動の成果と課題他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：14章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：14章の学習課題を考え書きだして次回提出。

授業名	保育内容（造形表現）			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Child Care : the Formative Arts for Expressions			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	山中 隆			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	造形表現の様々な演習を通して造形的感性、表現力、創造力を養い、用具や材料に関する知識や技能の向上を図る授業です。子どもの表現活動は本来主体的な活動で、保育者は発達をふまえた援助や指導方法を身につける必要があります。そのため授業では個人の創作活動にとどまらず学生相互の助言活動、協働の取り組みやプレゼンテーションなど様々なアプローチを用意して学修を深めるようにします。 描く、形に表す、試す、出来上がったものから新しい表現や遊びを展開するなどを自らの身体で直接体験することと、体験的に学んだ事から考察したり発見したりする事が重要です。								
学修成果到達目標	1) 授業での取り組みで自ら考えて表現する、ねらいをもとに表現を工夫する、上手下手という視点以外で活動を振り返ることができる。 2) 友だちのアドバイスを自分の表現に生かすことができる。友達の表現に適切なコメントをすることができる。 3) 演習から子どもの姿を想定し、表現力を育てる指導・支援のあり方をふまえた考えが持てる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 (取り組みに対する考察力)			課題発見・解決能力 ()				
テキスト	花篤實・岡田? 吾編 『新造形表現 実技編』(三見書房)(1回生春学期「図画工作」で購入のものを使用する)								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	制作物や取り組みに関するレポートについてはコメントを返す。 共同制作やインスタレーションなどについてはその都度評価をする。								
留意事項	1) 普段から造形表現とつながりのある「遊び」や「美術」に関心を持つようにすること。 2) 汚れを気にしなくても良い、活動しやすい服装で受講すること。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：安本音楽学園(幼稚園)に非常勤講師として絵画製作を担当。 京都教育大学教育学部附属京都中学校に文部教官教諭(担当科目：美術)として勤務。								

授業名	保育内容（造形表現）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（学修内容）領域「表現」について、本科目の概要と学修の意義を知る。履修上の留意事項 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（181ページ）に目を通しておく
第2回	材料体験：ねんど遊び	（学修内容）小麦粉でねんどを作り、触感を確かめつつたり遊んだりして子どもの造形について考える （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（33,133ページ）に目を通しておく。粘土を持ち帰り、材料の変化を確認する
第3回	触覚を重視した描画活動	（学修内容）自分たちで絵の具をつくり、フィンガーペインティングで身体全体を使い大きな画面に描く （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（24ページ）に目を通しておく
第4回	友達とつくるソフトスカルプチュア（身近材によるインスタレーション）	（学修内容）大量の新聞紙を用いて立体表現に挑む（共同で考えてつくる） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（49ページ）に目を通しておく
第5回	空間にかかわる造形遊び（線材によるインスタレーション）	（学修内容）身体全体でナイロンテープを用いて空間の変容に取り組む（共同で表現する） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（48ページ）に目を通しておく
第6回	多様な平面表現：凸凹を写し取る（フロッターージュ）	（学修内容）もの、場所の凸凹を発見しフロッターージュで紙に写し取る。重ねたりずらしたりして新しい表現を工夫する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（28ページ）に目を通しておく
第7回	多様な平面表現：前回の制作物によるコラージュの制作	（学修内容）フロッターージュ作品をもとにアイデアを練り、構成し貼り絵の作品に仕上げる （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（29ページ）に目を通しておく
第8回	グループで取り組む簡単な劇表現（人形の構想）	（学修内容）ペープサートのアイデアを考える（グループでの取り組み） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト関連箇所（86,87ページ）に目を通しておく
第9回	グループで取り組む簡単な劇表現（人形の制作）	（学修内容）ペープサートを制作する （事前事後学修課題の内容）（60分） 人形のデザインを考えておく
第10回	グループで取り組む簡単な劇表現（発表練習）	（学修内容）ペープサートを完成し発表練習をする （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表の内容を具体的に決める
第11回	グループで取り組む簡単な劇表現（人形を用いた発表）	（学修内容）ペープサートの発表をする、他のグループの発表を鑑賞する （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表の練習をしておく
第12回	材料研究：上質紙を用いた紙の加工法の探求	（学修内容）独自の紙の加工法を探求し、成果をまとめるとともに互いの成果を交流する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（151,152ページ）に目を通しておく
第13回	ケント紙を用いた造形遊び	（学修内容）グループでアイデアを考えてケント紙でできた高い塔をつくる（共同制作） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（80ページ）に目を通しておく
第14回	身近材を用いた造形遊び（材料、空間の特徴を生かした表現）	（学修内容）大量のA4判チラシを用いて表現する（共同制作） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（45,74,76,77ページ）に目を通しておく
第15回	「保育内容(造形表現)」学修のまとめ	（学修内容）各自の授業の振り返りと指導者のまとめ （事前事後学修課題の内容）（60分） 自身の授業の取り組みを振り返っておく

授 業 名	保育内容（音楽表現）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Child Care : Musical Expression			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	子どもの生活の様々な表現活動を音楽の側面から支援する意義と方法について学ぶ。音（楽）あそびや歌唱指導の実践等を通し、乳幼児の豊かな感性や表現能力を伸ばすことのできる保育者となるための指導法を習得する。このため、グループによる実践発表とそれに対するディスカッションを交えながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 領域（表現）に含まれる様々な音楽的表現について理解することができる。 2) 領域（表現）に含まれる様々な音楽的表現と、造形およびリズムの表現との有機的関連性について理解することができる。 3) 音楽的表現を伴った模擬保育を通して、発達に応じた実践方法および援助方法を理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	井口太編著『最新・幼児の音楽教育』朝日出版社								
参 考 書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省								
課題に対する フィードバック の方法	授業課題に対して理解度確認のための小レポートを課し、回収後、学生にコメントをつけて返却する。グループ発表に関しては発表後に全員が無記名でコメントシートに記入し、それをもとに討議を行う。シートは回収した後にコメントの再共有を授業で行い、その後発表したグループに返却する。								
留 意 事 項	グループでの実践発表を重視する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実 践 的 教 育									

授業名	保育内容（音楽表現）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業計画について （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	鍵盤和声	（学修内容）鍵盤和声について （事前事後学修課題の内容）（60分） 各調の主要3和音を復習しておくこと。
第3回	鍵盤和声実践・小試験	（学修内容）主要3和音の復習を踏まえた伴奏付けの演習（和音進行の把握）・和声・非和声音の把握 （事前事後学修課題の内容）（60分） 鍵盤和声の予習・復習をしておくこと。
第4回	保育実践における手あそびとその展開	（学修内容）手あそびとそのバリエーションについて。導入から展開方法について （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、今まで習得した手あそびとその展開方法について思い出し、実践できるよう準備しておくこと。
第5回	簡易楽器を使った合奏と楽器の活用	（学修内容）鈴・カスタネット等の簡易楽器を用いた合奏とその活用のバリエーションについて （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.114 - 123 「各簡易楽器の基本的持ち方や奏法」に関する小レポートを作成し、提出すること。
第6回	音あそび	（学修内容）様々な音素材を扱った音あそびについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め、楽器以外の身の回りの音素材を探し、授業時に持参すること。
第7回	歌唱指導（基礎）	（学修内容）幼児に歌唱指導をする際の流れ・留意点等について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.34 「指導計画の立案とその考え方」を読み、小レポートを作成して提出すること。
第8回	歌唱指導（応用）	（学修内容）歌唱指導教材の年齢別検討について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.34 「指導計画の立案とその考え方」を再度読み返し、返却された小レポートを再構成して提出すること。
第9回	歌唱指導（発展）	（学修内容）歌唱指導の指導案の作成について （事前事後学修課題の内容）（60分） p. 40-「音楽的表現の活動」を読み、小レポートを作成して提出すること。
第10回	歌唱指導発表（基礎）	（学修内容）基本的な指導の流れを踏まえた歌唱指導の発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表準備をしておくこと。 指導案を作成して提出すること。
第11回	歌唱指導発表（応用）	（学修内容）第1回目の発表を踏まえた歌唱指導の発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回授業での留意点を踏まえた発表準備をしておくこと。 歌唱指導小レポートを作成して提出すること。
第12回	歌唱指導（発展）	（学修内容）第2回目の発表を踏まえたグループ発表・小討議 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回授業での留意点を踏まえた発表準備をしておくこと。
第13回	歌唱指導（発展）	（学修内容）第3回目の発表を踏まえたグループ発表・小討議 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回授業での留意点を踏まえた発表準備をしておくこと
第14回	歌唱指導（討議）	（学修内容）全ての発表を終えてのグループディスカッション・クラスでの全体討議 （事前事後学修課題の内容）（60分） 実践発表の反省点等をまとめたレポートを作成し、提出すること。
第15回	まとめ	（学修内容）歌唱指導実践をはじめとした表現（音楽）の指導に関する総括（レポートを踏まえた振り返り） （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導案の訂正等を行い、再構成して提出すること。

授 業 名	保育内容（健康）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Child Care : Health			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	岸 優子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>(1)健康とは、どのような状態のことかを考えることができる。特に、乳幼児期の健康についての発達の意味を理解し、生涯にわたる健康課題を説明することができる。</p> <p>(2)保育者として、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育指導案を立案することができる。</p> <p>(3)子どもにとって安心・安全・快適な生活を創出し、子どものいのちを守る保育者としての職業規範・意識についての自覚を深めることができる。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>(1)子どもの心身や運動機能の発達の現状を理解し、健康で安心・安全・快適な生活を創り出すことができる。</p> <p>(2)領域「健康」についての基礎的知識を習得し、特に指導案の構造を理解し、具体的な保育場面を想定した「環境構成」及び「援助・指導のポイント」を考えることができる。</p> <p>(3)子どもが安心・安全・快適に過ごすために保育者が配慮すべき援助や配慮について、3分間のプレゼンテーションができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () ()			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月								
参 考 書	講義内でプリント等配布する。								
課題に対する フィードバック の方法	受講生は、毎回、「振り返り用紙（学びのポートフォリオ）」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。								
留 意 事 項	受講生の理解度に合わせ、十分な説明の上、シラバスの内容について柔軟に対応することがある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業終了後に知らせる。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：保育所で勤務。現場経験をもとに健康に関する事例を積極的に取りあげる。 子育て支援員。								

授 業 名	保育内容（健康）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ー「健康」概念についてー	（学修内容）全体の流れについて理解し保育者のあり方を「健康」の領域から学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（10分） 予習として、シラバスで授業の内容や評価の方法などを確認する。
第2回	子どもの健康と保育者の役割（その1） 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』から	（学修内容）「健康」領域についての概要を説明できる。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 予習として「健康」領域を中心に『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読んでくる。
第3回	子どもの健康と保育者の役割（その2） 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』から	（学修内容）保育者の「健康」領域についての基本的知識を説明できる。また、保育者の環境構成を説明できる。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、「健康」領域のポイントを3分間で説明出来るように簡潔な言葉でまとめておく。
第4回	領域「健康」のねらいと内容（その1） 領域「健康」と他領域との関係性	（学修内容）現代教育の保育改革の課題を理解できる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、領域「健康」を読んで保育場面の環境構成の要点をまとめてくる。
第5回	領域「健康」のねらいと内容（その2） 活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	（学修内容）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」などを取り上げる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読んで、「10の学びの姿」をまとめておく。
第6回	心の健康と発達課題 乳幼児の発達特性の理解	（学修内容）事例研究をもとに、幼児の発達を理解するために必要な保育者の視点を学ぶ。健康に関する援助の仕方・配慮事項を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、「発達課題」「発達過程」について要点をまとめる。
第7回	体の健康と発達課題 運動能力の低下とその要因	（学修内容）事例研究をもとに、子どもの体の健康について発達の多様性を説明出来る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 復習として、子どもの健康について、体・心・脳の間接関係を理解できるように簡潔な言葉でまとめる。
第8回	脳の健康と発達課題 乳幼児教育の現代的課題	（学修内容）事例研究をもとに、保育者として、脳の健康についての理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 復習として、子どもの脳の発達と健康について、簡潔な言葉で説明できるようにまとめておく。
第9回	保育指導案の構造（その1） 「子どもの姿」をとらえる視点	（学修内容）実際の保育場面を想定し、「幼児の姿」を理解する視点を理解できる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 復習として、配布プリントを参考に指導案の構造を理解する。
第10回	保育指導案の構造（その2） 「環境構成及び指導のポイント」の理解	（学修内容）保育場面の実践的事例を通して、保育者の援助・配慮や環境構成について理解できる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 具体的な保育場面を想定し、子どもが安心・安全・快適に生活できるための配慮・援助について箇条書きで書いてくる。
第11回	保育指導案の構造（その3） ICTを活用し、教材研究をして主活動をデザインする	（学修内容）「健康」のねらいにあった主活動を考え、指導計画の流れ（導入、展開、まとめ）を考える。チェックシートをもとに、指導案を完成する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、20分間の指導案の主活動を考える。
第12回	保育指導案の作成と模擬保育（その1） グループワーク：領域「健康」指導上の課題	（学修内容）保育場面での子どもの心身の健康や発達阻害要因・促進要因について説明できるようにする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 復習として、保育者が子どもの命を守るための具体的課題をまとめる。
第13回	保育指導案の作成と模擬保育（その2） グループワーク：領域「健康」の留意・配慮事項ー	（学修内容）健康管理に関する基本的な考え方を理解できる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、今後、社会で求められるリスクマネジメントの要点を考えてくる。
第14回	保育指導案の作成と模擬保育（その3） プレゼンテーションと振り返り	（学修内容）領域「健康」に関連する模擬保育をするープレゼンテーションー （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、模擬保育が出来るよう保育のシミュレーションしてみる。
第15回	領域「健康」のまとめ プレゼンテーションと振り返り	（学修内容）領域「健康」に関連する模擬保育をするープレゼンテーションー （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、模擬保育の振り返りをし、今後に関わる課題を簡潔にまとめる。

授 業 名	保育内容（人間関係）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Child Care : Human Relations			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	現在、子どものコミュニケーション能力の不足や自制心の不足などが指摘されている。人との関わる力の問題には、社会や家庭のあり方が関わっている。このような状況の中、乳幼児期の子どもの保育を担う幼稚園や保育所の役割は大きいものとなっている。ここでは、様々な体験を通して、人と関わる力をつけていくことができるような保育や親等との愛着関係、その他、親子関係を構築するための保護者支援について学ぶ。グループで相互交流をして、考え、思考について相互理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育領域としての「人間関係」の基本原則を理解することができる。 2) 体験を通して成長、発達する子どもたちの人間関係について理解することができる。 3) 家庭の変容から子どもたちの成長、発達において、人間関係をどのように獲得していくかを理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	小櫃智子・谷口明子編著『新版 実践 保育内容シリーズ2 人間関係』一藝社、2018年								
参 考 書	授業中に、随時、紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	課題レポートは、返却時し解説する。								
留 意 事 項	3回のレポート提出、ミニレポート（授業内で数回）を行う予定である。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示、演習室にも掲示をする。在室の時は可能である。（時間が取れない時は、調整して連絡する。）								
実践的教育									

授 業 名	保育内容（人間関係）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育の基本	（学修内容）保育とは何かについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト9頁から18頁を読み、理解しておく。
第2回	領域「人間関係」	（学修内容）領域「人間関係」とは何かについて、ねらいと内容を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト19頁から28頁を読み、理解しておく。
第3回	新生児の「人への関心」	（学修内容）赤ちゃんが持つ優れて能力について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト29頁から37頁までを読み、理解しておく。
第4回	人との関係の始まり	（学修内容）人から情報を得ることについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト38頁から47頁を読み、理解しておく。
第5回	人との関わりの基盤	（学修内容）アタッチメント関係の形成について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト48頁から56頁を読み、理解しておく。事後：「アタッチメントについて」レポート800字程度でまとめ提出。
第6回	自我の発達	（学修内容）自我の発達によって獲得されるものと保育者との関わりについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 事前に、テキスト57頁から66頁を読み、理解しておく。この時間にレポート提出する。
第7回	道徳性の芽生え	（学修内容）道徳性の定義と発達を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト67頁から76頁までを読み、理解しておく。事後：P72-73の事例を読み、考察し、レポート800字程度にして提出。
第8回	思いやりと社会性の発達	（学修内容）思いやりの心理と行動、共感性の発達について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 事前に、テキスト77頁から85頁までを読み、理解しておく。この時間に、レポート提出する。
第9回	家族との関わり	（学修内容）依存と自立、家庭の中で身につける様々なルールについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト86頁から95頁までを読み、理解しておく。
第10回	保育者との関わり	（学修内容）子どもを迎える時、日々の保育について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト96頁から105頁までを読み、理解しておく。
第11回	遊びの中での関わりの育ち	（学修内容）遊びの発達と人との関わりについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト106頁から116頁までを読み、理解しておく。
第12回	友達との関わり	（学修内容）友達との関わりの発達過程について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト117頁から126頁までを読み、理解しておく。
第13回	関わりが「気になる子」	（学修内容）特別な支援を必要とする子どもについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト127頁から135頁までを読み、理解しておく。
第14回	関わりの育ちを支える	（学修内容）親子の関係づくりを支援することについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト136頁から145頁を理解しておく。事後：本授業「人間関係」についての学びをレポート800字程度で提出。
第15回	領域「人間関係」の新しい課題	（学修内容）「人間関係」の授業を受け、課題について考える。 （事前事後学修課題の内容）（50分） 事前に、テキスト146頁から154頁までを読む。この時間にレポート提出する。

授業名	保育内容（環境）			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Child Care : Environment			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>1) 将来、教育者として、自ら好奇心や探求心をもって身近な自然や社会に関わることができるように、適宜、ワークを実施する。</p> <p>2) 子どもが周囲の環境に好奇心や探求心をもって関わることができるように、教育者として必要な「環境構成の仕方」や援助・配慮のポイント」を具体的事例を挙げて説明することができる。</p> <p>3) 子どもが安全で安心して取り組める「環境」の具体的指導場面を想定して、子どもの自発性を育てる指導計画案を構想し、模擬保育をすることができる。また、模擬保育を実践後、ディスカッションを行い、今後に繋ぐ観点を明確にすることができる。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における領域「環境」のねらいと内容について、教育改革のキーワードを使って説明することができる。</p> <p>2) 子どもを取り巻く身近な環境についての指導場面を想定し、「環境構成や教師の援助・配慮のポイント」についてプレゼンテーションすることができる。</p> <p>3) 子どもの生活や遊びの姿を理解し、身近な環境にかかわって指導する方法・配慮の仕方を身につけ、指導計画を構想できる。</p> <p>4) 乳幼児期だけでなく、小学校以降の生活や学習への円滑な接続をも視野に入れて、具体的な指導場面を想定した指導計画を立案し、模擬保育を実践し、PDCAサイクルを体験できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () () ()			
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月								
参考書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	受講生は、毎回、「振り返り用紙（学びのポートフォリオ）」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。								
留意事項	日頃から、各自、身近な「環境」についての興味・関心を持ち、自らの五感を磨いておくこと。多様なワーク（個人・グループ・フィールドなど）を実施するので、実際に体験することで学びを深めてほしい。なおワークについては、事前に受講生と充分相談・説明のうえ、施設の場所・実施時間等の都合により、授業時間外の曜日・時刻に変更することもある。やむを得ず欠席する場合は、必ず、事前に連絡すること。当日の無断欠席は、単位取得の意思がないものとみなすので、くれぐれも注意すること。								
オフィスアワー	初回の授業で伝える。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：保育所で勤務。現場経験をもとに環境に関する事例を積極的に取りあげる。 子育て支援員。								

授 業 名	保育内容（環境）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：「環境」とは	（学修内容）幼児を取り巻く環境の諸側面（物的・人的・社会的環境など）を理解し、発達段階を配慮した「環境」とのかかわりについて説明できる。 （事前事後学修課題の内容）（10分） 復習としてシラバスを再度読み、全体の流れや評価の方法などを確認する。
第2回	『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の改訂及び領域「環境」について 保育内容の考え方	（学修内容）三法令改訂の要点と領域「環境」について理解できる。乳幼児期の「三つの資質・能力（認知的能力と非認知的能力）」について説明できる。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、保育の基本：「環境を通して行う教育」「遊びを中心とした総合的な活動」について、ワークシートにまとめる。
第3回	『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の改訂及び領域「環境」について 子どもの環境と保育者の役割	（学修内容）『指導計画』のうち、「環境構成及び指導のポイント」欄を読み、保育の構造を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、保育者の役割を理解するために、子どもが環境とかわる際の「環境構成」「指導・援助」についてのワークシートを完成する。
第4回	『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の改訂及び領域「環境」について ワーク：子どもの活動や生活と「環境」	（学修内容）乳幼児の発達と環境（動物）との関わりについて理解するためワークを実施する。園外保育の下見を体験する。（場所：京都市動物園） （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、ワークを体験して気づいたことをワークシートに箇条書きでまとめる。
第5回	乳幼児の主體的な生活と領域「環境」 ワーク：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	（学修内容）「自然との関わり・生命尊重」などを体験するためワークを実施する。（場所：大学周辺） （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、ワークで気づいたことを3分間で説明できるよう、ワークシートに自分の言葉でまとめる。
第6回	園と地域社会とのかかわり 身近な地域社会との関わりについての教材研究	（学修内容）乳幼児が、発見する身近な自然や標識・文字、情報・施設について教材研究をし、1枚のポートフォリオでまとめる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、教材研究についての要点をまとめる。
第7回	季節の自然と保育活動 季節の自然との関わりについての教材研究	（学修内容）幼児が、身近にある自然に関心もてるような環境マップを作成する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、季節の自然とのかかわりについて、教材研究をして、1枚のポートフォリオでまとめる。
第8回	身近な環境と保育活動 身近な自然環境・社会環境についての教材研究	（学修内容）身近な環境についての教材研究をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、身近な動植物とのかかわりについての教材研究をして、1枚ポートフォリオでまとめる。
第9回	身近なあそびと子ども（1）子どもの生活と遊び ワーク：子どもの活動の類型について	（学修内容）幼児の身近な環境との関わりにおける生活と遊びについて理解する。ICTを活用して、主活動をデザインする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、これまでの教材研究を振り返り、活動について配慮すべき事項についてポイントを書き挙げる。
第10回	身近なあそびと子ども（2）主活動をデザインする	（学修内容）幼児の身近な環境との関わりにおける遊びについて、ICTを活用して主活動をデザインする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、振り返り、保育を改善する視点を箇条書きでまとめる。
第11回	身近なあそびと子ども（3）プレゼンテーション	（学修内容）幼児の身近な環境との関わりにおける遊びについて、ICTを活用して主活動をデザインしたことをまとめ、3分間のプレゼンテーションする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、プレゼンテーションを振り返り、保育を構想する視点を箇条書きにする。
第12回	保育指導案の作成と模擬保育（1） 領域「環境」指導上の課題	（学修内容）領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「環境」の該当箇所を読んで自分の言葉でまとめておく。
第13回	保育指導案の作成と模擬保育（2）プレゼンテーション 領域「環境」の留意事項	（学修内容）領域「環境」について「環境構成及び指導のポイント」の要点を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「環境」の該当箇所を読んで要点をまとめておく。
第14回	保育指導案の作成と模擬保育（3）プレゼンテーション 領域「環境」における保育者の役割	（学修内容）領域「環境」における保育者の役割について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、ICTの活用で、効果的な提示について工夫したことを箇条書きにしてまとめる。
第15回	領域「環境」との関連を踏まえ、次に？がる課題を見出す ワーク：アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの実践例	（学修内容）領域「環境」と小学校以降の生活や学習との関連を取り上げ、小学校との円滑な接続の必要性を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、これまでの内容を振り返り、ワークシートに要点をまとめ、指導計画を完成する。

授 業 名	保育内容（言葉）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Child Care : Language			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	ことばの特性を理解した上で、乳幼児期のことばの発達に基づいて、保育の留意点を解説する。その上で、絵本、ことばあそび、紙芝居、劇遊びなどの展開について体験的に学び、授業を進めていく。劇遊びについては、実際に上演することで、ものがたりの内容を深く理解し、劇をつくりあげる楽しさを実感できるようにする。								
学 修 成 果 対 達 目 標	幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	西川由紀子 子どもの思いにこころをよせて 0 . 1 . 2 歳児の発達 かもがわ出版 西川由紀子 かかわりあって育つ子どもたち 2 歳から 5 歳の発達と保育 かもがわ出版 文部科学省 『幼稚園教育要領』 厚生労働省 『保育所保育指針』								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	課題の成果やレポートについては、授業で発表や紹介などしながら解説する。質問や感想については、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の初回に連絡する。								
実 践 的 教 育									

授業名	保育内容（言葉）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ことばとは何か	（学修内容）ことばのもつ機能について解説し、授業の展開を説明する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） シラバスを読んでおく。
第2回	0歳、1歳、2歳児のことばの発達	（学修内容）0歳、1歳、2歳児のことばの発達を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） の0歳、1歳、2歳、の2歳の部分のことばの発達の部分を読んでくる。
第3回	3歳、4歳、5歳児のことばの発達	（学修内容）3歳、4歳、5歳児のことばの発達を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） の3歳、4歳、5歳児のことばの発達の解説部分を読んでくる。
第4回	絵本の楽しみ 絵の楽しさ	（学修内容）子どもの視点に立って、絵本を見る経験をし、絵本の楽しさを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） さまざまな絵本を見てくる。
第5回	絵本の楽しみ ものがたりを理解する力	（学修内容）ものがたりを理解する枠組みを説明し、絵本の楽しさを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 絵本の基本的な読み方について考えておく。
第6回	書きことばの世界の展開	（学修内容）幼児にとっての文字の魅力を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） の4歳、5歳児のことばの解説部分を読んでくる。
第7回	ことばあそび	（学修内容）おはなしづくり、しりとりをはじめとする、さまざまなことばあそびを体験しながら、幼児にとってのことばあそびの意義を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） ことばあそびについて、振り返ってくる。
第8回	絵本読みの実際	（学修内容）小グループで読み聞かせの体験をし、絵本の読み方のコツをつかむ。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 自分が子どもの頃好きだった絵本を探し出し、絵本紹介のレポートを作成し、読み聞かせをする練習をしてくる。
第9回	紙芝居の読み方	（学修内容）紙芝居の読み方の基本を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 紙芝居を聞いた経験を振り返ってくる。
第10回	教材研究の方法・指導案の作成	（学修内容）絵本や紙芝居の読み取りをどのように深めていくかを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 興味のある絵本や紙芝居を探し出し、読み深めてくる。
第11回	劇遊び 3歳児	（学修内容）3歳児の劇遊びのビデオ鑑賞し、保育における絵本の活用について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 3歳児の発達について復習しておく。
第12回	劇遊び 4歳児	（学修内容）4歳児の劇遊びのビデオを鑑賞し、子どもの好きな物語創作のポイントを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 4歳児の発達について復習しておく。
第13回	劇遊び 5歳児	（学修内容）5歳児の劇遊びのビデオを鑑賞し、保育における絵本の活用について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 5歳児の発達について復習しておく。
第14回	劇あそびの実際	（学修内容）小グループで劇をつくり上演する。 （事前事後学修課題の内容）（180分） 小グループで劇を練習してくる。
第15回	ビデオ画像による模擬保育のふりかえり	（学修内容）劇発表会を通して感じた、ものがたりの力、演じる楽しさを確認し、保育でたいせつにすべきことを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 劇発表会の振り返りをレポートとしてまとめてくる。

授業名	教育方法論（中・高・栄）			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Teaching Method			開講時期	春学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	松浦 真理			対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	教育方法はよりよい授業を展開するために、常に試行され、刷新されなければならないものである。教授内容を、どのような手順で、どのような技術・方法で教えるべきかを考えるだけでなく、教員がどのような姿勢で授業に臨むか、子どものどのような点を捉えて、授業を進めるべきか知ること重要になってくる。講義形式の授業を通して、教育方法が研究されてきた歴史を知ると同時に、教室内で生起するコミュニケーション過程を探り、カリキュラム研究や学習理論などについても学ぶことを目的とする。								
学修成果到達目標	1) 教育方法についての知識や見解を実践と結び付けて説明できる。 2) 教育方法の複合的性格や曖昧さを踏まえた上で、よりよい教育方法を試行錯誤する姿勢を身につける。 3) 教育の現代的課題について知り、それを踏まえた教育方法を考えたり、実践したりしようとする。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	田中耕治編著『教育方法と授業計画』（協同出版、2018）								
参考書	田中耕治編著『よくわかる授業論』（ミネルヴァ出版）、佐藤学『放送大学叢書011 教育の方法』（左右社）、田中耕治ほか著『新しい時代の教育方法』（有斐閣）など。								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートやリアクションペーパーは提出の翌週にコメントや回答をする。授業時の発表についてはその都度コメントする。								
留意事項	教育方法の理論部分を学ぶ授業ですが、応用としての発表をする場合があります。								
オフィスアワー	研究室の日時を貼りだすので、できるだけその時間に来ること。メールでのアポイントや質問は随時受け付ける。								
実践的教育									

授 業 名		教育方法論（中・高・栄）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	教育方法を学ぶことの意義、3つのキーワードから見る教育方法	(学修内容) 授業進め方説明の後、教育方法とは何か、なぜ重要かを考える。3つのキーワードから現代的な課題を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスに目を通し、授業経験を振り返る。	
第2回	教育方法をめぐる現代的課題	(学修内容) 子どもの実態を理解し、今後の教育方法の展望を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト1章2、3節を読んで課題をしておく。	
第3回	異なる二つの観点から見る教育方法	(学修内容) 生活か科学か、個別か協同か、技術か芸術か、という教育方法を捉える対立する観点を知る。 (事前事後学修課題の内容) (40分) テキスト2章や配布資料を参考に、課題をしておく。	
第4回	日本における教育方法の変遷	(学修内容) 日本における学力モデルと教育方法の歴史的展開を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト3章1節を読んで、課題をしておく。	
第5回	近年の学力モデルと教育方法	(学修内容) OECDによるコンピテンシーの考え方を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト3章2節を読んで、課題をしておく。	
第6回	授業設計の基本	(学修内容) 授業を構成する様々な要素とそれらの基本的な意味を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料とテキスト4章1節を参考に、課題をしておく。	
第7回	教材・教具と指導言	(学修内容) 授業を構成する要素それぞれの特徴とよりよい教育方法にするためのポイントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト4章2・3・4節を読んで課題をしておく。	
第8回	総合学習の展開	(学修内容) 総合学習の意味や食育の他教科との接点について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト5章を読んで課題をしておく。	
第9回	授業をどう評価するか	(学修内容) 授業の評価方法の基本的な考え方を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト6章を読んで課題をしておく。	
第10回	学級の意味と仲間づくり	(学修内容) 学級経営の基本的な考え方と、仲間づくりの意味を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト7章を読んで課題をしておく。	
第11回	教育方法の歴史的展開	(学修内容) 西洋と日本の教育方法の理論や歴史について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト8章を読んで課題をしておく。	
第12回	模擬授業計画をたてる	(学修内容) これまでの授業内容を踏まえ、模擬授業のための計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自取り上げたい分野や学年を設定し模擬授業の具体的な内容を考えておく。	
第13回	模擬授業	(学修内容) 各自10分程度の模擬授業を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 計画書の作成や具体的な準備をしておく。	
第14回	前回とは別の学生による模擬授業	(学修内容) 前回とは別の学生が、各自10分程度の模擬授業を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 計画書の作成や具体的な準備をしておく。	
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの内容を振り返り、重要な点の理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの学習を振り返り、質問点を整理しておく。(1時間程度)	

授業名	教育方法論（幼・小）			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Teaching Method			開講時期	春学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	松浦 真理			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	教育方法はよりよい授業を展開するために、常に試行され、刷新されなければならないものである。教授内容を、どのような手順で、どのような技術・方法で教えるべきかを考えるだけでなく、教員がどのような姿勢で授業に臨むか、子どものどのような点を捉えて、授業を進めるべきか知ること重要になってくる。講義形式の授業を通して、教育方法が研究されてきた歴史を知ると同時に、教室内で生起するコミュニケーション過程を探り、カリキュラム研究や学習理論などについても学ぶことを目的とする。								
学修成果到達目標	1) 教育方法についての知識や見解を実践と結び付けて説明できる。 2) 教育方法の複合的性格や曖昧さを踏まえた上で、よりよい教育方法を試行錯誤する姿勢を身につける。 3) 教育の現代的課題について知り、それを踏まえた教育方法を考えたり、実践したりしようとする。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	田中耕治編著 教育方法と授業の計画（協同出版、2018）								
参考書	田中耕治編著『よくわかる授業論』（ミネルヴァ書房）、佐藤学『放送大学叢書011 教育の方法』（左右社）、無藤隆『幼児教育のデザイン』（東京大学出版会）など。								
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーや小レポートについては提出の翌週にコメントや回答をする。授業時の発表は、その時にコメントやアドバイスをします。								
留意事項	テキストや資料の予習を前提に、質疑応答を含めた授業形式を取ります。理論を学ぶ授業ですが、応用としての発表をしてもらうことがあります。								
オフィスアワー	研究室に日時を貼りだすので、できるだけその時間に来ること。メールでの質問やアPOINTは随時受け付ける。								
実践的教育									

授 業 名		教育方法論（幼・小）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	教育方法を学ぶことの意義、三つのキーワードから見る教育方法	<p>（学修内容）授業進め方説明の後、教育方法とは何か、なぜ重要かを考える。現代的な課題を考える3つのキーワードについて学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（20分）</p> <p>シラバスに目を通し、授業経験を振り返る。</p>	
第2回	教育方法をめぐる現代的課題	<p>（学修内容）子どもの実態とこれからの教育方法の展望について理解する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>テキスト1章2、3節を参考に、課題をしておく。</p>	
第3回	異なる二つの論点からみる教育方法	<p>（学修内容）学びを教科か生活か、個別か協同か、科学か芸術かという二つの対立軸で考えて教育方法を理解する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（40分）</p> <p>テキストの2章や配布資料を読んで、わからない部分を明確にしておく。</p>	
第4回	日本の学力モデルと教育方法	<p>（学修内容）日本における学力モデルと教育方法の歴史的展開を把握する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>テキスト3章1節を参考に、課題をしておく。</p>	
第5回	近年の学力モデルと教育方法	<p>（学修内容）OECDによるコンピテンシーの考え方と教育方法について把握する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>テキスト3章2節を参考に、課題をしておく。</p>	
第6回	授業設計の基本的な考え方	<p>（学修内容）授業を構成している様々な要素を知る。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>テキスト4章1節や配布資料を読んで、課題をしておく。</p>	
第7回	教材教具・指導言など	<p>（学修内容）授業を構成している要素について、よりよい授業設計のポイントを知る。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>テキスト4章2、3、4節を読んで課題をしておく。</p>	
第8回	総合学習の展開	<p>（学修内容）総合学習の意味や幼稚園での学びの意味を考える</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>テキスト5章や配布資料などから、課題をしておく。</p>	
第9回	授業をどう評価するか	<p>（学修内容）授業の評価方法の基本的な考え方を理解する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>テキスト6章を読んで課題をしておく。</p>	
第10回	学級と仲間づくり	<p>（学修内容）学級経営の理論や仲間づくりの今日的課題について知る。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>配布資料やテキスト7章を参考に、課題をしておく。</p>	
第11回	教育方法の歴史	<p>（学修内容）西洋と日本の教育方法の思想や歴史について知る。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>テキスト8章を参考に、課題をしておく</p>	
第12回	模擬授業の計画を立てる	<p>（学修内容）これまでの学びを参考に、短い時間の模擬授業をするための計画を立てる</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>割り当てた領域や科目についてしたいことを考えておく</p>	
第13回	グループ別の模擬授業をする	<p>（学修内容）これまでの観点を盛り込んで、1グループ10分程度の模擬授業をする。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>模擬授業の準備をする。</p>	
第14回	前回とは異なるグループで模擬授業をする。	<p>（学修内容）前回とは別のグループが同様に模擬授業をする。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>模擬授業の準備をする。</p>	
第15回	まとめ	<p>（学修内容）これまでの内容を振り返り、重要な点の理解を深める。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>これまでの学習を振り返り、質問点を整理しておく。（1時間程度）</p>	

授 業 名	保育内容総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1417
英 文 名				開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	保育所、幼稚園、認定こども園の特徴について解説した後、保育の目標と保育内容の関連を解説する。続いて、保育の内容の歴史的な変遷を学ぶ。その後、実際の指導計画を参照しながら、保育内容の展開（長時間保育なども含む）を解説する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育所保育の特性を、保育内容の面で理解する。 2) 保育内容の変遷を理解する。 3) 保育内容の展開について理解する。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (55 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (45 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」（チャイルド本社） 保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」（ひとなる書房）								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートについては、いくつかを紹介しつつ、コメントする。授業に対する感想や質問は、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育所保育における保育の特性 1	(学修内容) 幼稚園、認定こども園との比較から特性を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所、幼稚園、認定こども園について予習してくる	
第2回	保育所保育における保育の特性 2	(学修内容) 保育の目標と保育内容の関連 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針第1章を読んでくる	
第3回	保育内容の変遷 1 明治期	(学修内容) 明治期の保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 明治期の生活を調べてくる	
第4回	保育内容の変遷 2 大正から昭和初期	(学修内容) 大正から昭和初期の保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大正から昭和初期の生活を調べてくる	
第5回	保育内容の変遷 3 系統的保育案の実際	(学修内容) 系統的保育案の実際と現代の保育への継承 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる	
第6回	保育内容の変遷 4 戦時下	(学修内容) 戦時下の保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 戦時下の生活について調べてくる	
第7回	保育内容の変遷 5 終戦後	(学修内容) 戦後の保育を教育要領・保育指針から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 終戦後の生活について調べてくる	
第8回	保育内容の変遷 6 1950年代	(学修内容) 戦後の保育の映像をみて、当時の保育を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる	
第9回	保育内容の変遷 7 1960年代以降	(学修内容) 今日の教育要領・保育指針ができるまでの経過 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針第1章を読んでくる	
第10回	保育内容の展開 1 指導計画	(学修内容) 指導計画にみる保育内容の展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針第1章を読んでくる	
第11回	保育内容の展開 2 年間計画 月案	(学修内容) 年間計画・月案の実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp54～、p147～を読んでくる	
第12回	保育内容の展開 3 保育の実際	(学修内容) 生きた保育の展開と指導計画の関連 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp184～を読んでくる	
第13回	保育内容の展開 4 保育の過程	(学修内容) 保育の過程の実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp40～を読んでくる	
第14回	長時間保育における保育内容	(学修内容) 長時間保育における保育者連携と保育の展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp249～を読んでくる	
第15回	異年齢保育における保育内容	(学修内容) 異年齢保育における保育内容の展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp216～を読んでくる	

授 業 名	社会的養護			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1415
英 文 名	Principles of Corporate Parenting			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>保育士として必要な社会的養護の知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。 1. 社会的養護とは何か 2. 児童養護施設や乳児院、母子生活支援施設等について 3. 児童虐待の定義やその対応について 4. 里親ケアの概要について 映像資料などを用いて理解を深め、自分自身の問題として捉えらえるよう、ディスカッションを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 児童養護施設等の入所施設や里親家庭に関する制度について説明できる。 2) 児童養護施設等の入所施設や里親家庭で生活する児童の現状が理解できる。 3) 社会的養護を必要とする児童の保護者支援について考え、職員の働きが分かる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	独自に配布するプリント等を用いる								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業期間中に2度、小テストを行い、採点して返却する。								
留 意 事 項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	社会的養護	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	児童虐待の理解 身体的虐待、ネグレクト	(学修内容) 身体的虐待とネグレクトの実際について (事前事後学修課題の内容) (45分) 厚生労働省が示している身体的虐待とネグレクトの定義を学ぶ
第2回	児童虐待の理解	(学修内容) 性的虐待と心理的虐待について (事前事後学修課題の内容) (45分) 厚生労働省が示している性的虐待と心理的虐待の定義を学ぶ
第3回	家庭的養護について 養育里親と専門里親	(学修内容) 里親ケアの登録、委託、手当について (事前事後学修課題の内容) (45分) 配布した資料を確認しておく
第4回	家庭的養護について 養子縁組里親と親族里親	(学修内容) 里親ケアの研修、里子について (事前事後学修課題の内容) (45分) 厚生労働省の資料を読む
第5回	特別養子縁組・里親ケアガイドライン	(学修内容) 特別養子縁組について (事前事後学修課題の内容) (45分) 配布した資料を読む
第6回	社会的養護経験児童の自立	(学修内容) 社会的養護経験児童の退所後の生活支援について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料を読む
第7回	乳児院のケア 入所児童と入所理由	(学修内容) 乳児院に入所する児童の特徴と入所理由の変遷について (事前事後学修課題の内容) (45分) 児童虐待の種類を調べておく
第8回	乳児院のケア 実家族との交流と養子縁組	(学修内容) 実家族との交流の実際と、養子縁組あっせん団体の実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料を読む
第9回	児童養護施設について 入所児童と入所理由	(学修内容) 児童養護施設に入所する児童の特徴と入所理由の変遷について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料を読む
第10回	児童養護施設について 実家族との交流と自立支援	(学修内容) 入所中の家庭との関係と家庭復帰について (事前事後学修課題の内容) (30分) 厚生労働省の資料を読む
第11回	少年非行の実際	(学修内容) 少年非行の背景と実態について (事前事後学修課題の内容)
第12回	保護処分について(少年院送致)	(学修内容) 少年院における処遇について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料を確認する
第13回	保護処分について(保護観察)	(学修内容) 保護観察の仕組みと保護司のはたらき (事前事後学修課題の内容) (45分) 保護観察の種別を調べておく
第14回	アタッチメント障がいについて	(学修内容) アタッチメント(愛着)障がいについて (事前事後学修課題の内容) (45分) 発達障害の定義を調べておく
第15回	児童心理治療施設について	(学修内容) 児童心理治療施設の役割と機能 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童心理治療施設の設置数を調べる

授 業 名	人間福祉論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC1710
英 文 名	Theory of Human Welfare			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、総合的体系的な生活保障を検討しつつ、社会福祉の役割について考える。生活問題の構造把握をもとに、社会福祉の果たす役割について検討する。生活問題対策として社会政策及び公共一般施策の役割も視野に入れながら社会福祉の位置と役割を考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 私たち人間のくらしにおいて総合的体系的な生活保障を理解できるようになる。 2) 社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3) これからの人生において社会福祉がいかに関わるかを理解できるようになる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (論理的な展開力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	テストの採点結果を返却し、その時に模範解答等を解説します。								
留 意 事 項	ノートをしっかり取ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にEメールしてください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：児童養護施設非常勤職員、高齢者通所介護施設非常勤生活指導員として勤務。								

授 業 名	人間福祉論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	社会福祉の対象理解	(学修内容)生活問題の構造把握について (事前事後学修課題の内容)(30分) くらしの実態について考える。
第2回	生活問題の構造	(学修内容)生活問題の構造と社会福祉の関係 (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活問題について考える。
第3回	総合的体系的な生活保障とは?	(学修内容)総合的体系的な生活保障について (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活問題対策について考える。
第4回	総合的体系的な生活保障 - 労使関係制度と社会福祉 -	(学修内容)労使関係制度の内容と課題について (事前事後学修課題の内容)(30分) 労使関係制度と社会福祉との関連考察。
第5回	総合的体系的な生活保障 - 雇用保障制度と社会福祉 -	(学修内容)雇用保障制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族の雇用実態を知る。
第6回	総合的体系的な生活保障 - 労働者保護制度と社会福祉 -	(学修内容)労働者保護制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族の労働条件について知る。
第7回	総合的体系的な生活保障 - 育児・介護休暇と社会福祉 -	(学修内容)育児・介護休暇制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族の育児・介護休暇制度を知る。
第8回	総合的体系的な生活保障 - 最低賃金制度と社会福祉 -	(学修内容)最低賃金制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族の賃金について知る。
第9回	総合的体系的な生活保障 - 年金保険制度 -	(学修内容)年金保険制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 高齢者に年金のことについて聴く。
第10回	総合的体系的な生活保障 - 医療保険制度 -	(学修内容)医療保険制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 医療機関での実情を考える。
第11回	総合的体系的な生活保障 - 介護保険制度 -	(学修内容)介護保険制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 高齢者に介護保険のことについて聴く。
第12回	総合的体系的な生活保障 - 雇用保険と社会福祉 -	(学修内容)雇用保険について (事前事後学修課題の内容)(30分) 失業している(した)人を探し、実情を聞く。
第13回	総合的体系的な生活保障 - 教育・医療・保健と社会福祉 -	(学修内容)教育・医療・保健について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教育・医療・保健に関して実情を考える。
第14回	総合的体系的な生活保障 - 住宅・生活環境施設と社会福祉 -	(学修内容)住宅・生活環境施設について (事前事後学修課題の内容)(30分) 住宅・生活環境施設について近隣の実情を考える。
第15回	社会福祉の課題 - 財政問題を中心に -	(学修内容)社会福祉の財政問題について (事前事後学修課題の内容)(30分) 政府予算に目を向け考察する。

授業名	小児保健 u			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Infant Health			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	花原 勢津子			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	現在子どもの出生や発育を取り巻く環境は急速に変化してきている。子どもが本来持っている能力を十分発揮でき、その可能性を伸ばすことができるように、より良い環境や病気の予防等を学ぶ。また安全の確保、感染予防、事故予防等の基礎知識を学ぶ。								
学修成果到達目標	1) 医学的基礎知識が理解できる 2) 子どもの病気の看護、予防対策が理解できる 3) 子どもの健康増進のための対策がとれる								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	子どもの保健(診断と治療社)								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	理解度テストは、回収後、解答の解説を行います。提出されたレポートは、コメントを付けて返却します。								
留意事項	小児の病気等保育における環境として衛生管理並びに安全の実施体制について、学びを深めることが大切である。また自分自身や子どもの健康について関心を持つこと。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：現在、宇治市役所保健推進課非常勤職員 保健師として勤務								

授 業 名	小児保健 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス・小児保健の意義 子どもをめぐる環境	(学修内容)小児保健の目的と意義・授業の進め方 子どもの生活環境 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書を読んでおくこと
第2回	子どもをめぐる環境と脳の発達	(学修内容)保育における小児保健上の留意点 子どもの脳の発達 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書・資料を読んでおくこと
第3回	新生児・低出生体重児の養護	(学修内容)新生児・低出生体重児の特徴と育て方 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第4回	子どもの育つ生活環境	(学修内容)子どもの育つ環境の現状と今後の課題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第5回	子どもの精神保健と保育の多様化	(学修内容)子どもの精神保健について・保育の多様化の種類について (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと
第6回	健康と病気とその症状	(学修内容)健康状態の確認と病気の症状について (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第7回	子どもの病気と看護	(学修内容)子どもの病気についての対応方法 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第8回	事故と応急処置	(学修内容)子どもの起こしやすい事故とその対応・応急処置 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第9回	感染症に対する対応と予防対策	(学修内容)子どもの特に多い感染症の症状と予防 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと
第10回	感染症と予防接種	(学修内容)感染症の対応・予防接種の仕方 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書・資料を読んでおくこと
第11回	免疫とアレルギー性疾患	(学修内容)アレルギーの出現の仕組みと対処法 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第12回	小児の生活習慣病	(学修内容)最近の子どもの生活習慣病について考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第13回	消化器系・呼吸器系の病気と看護	(学修内容)子どもにみられる特徴的な病気 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第14回	皮膚・運動器系の病気と看護	(学修内容)特に乳幼児期に多い病気と対応 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと
第15回	母子保健と保育・全体のまとめ	(学修内容)地域での母子保健・これまでの総復習をする (事前事後学修課題の内容)(40分) 教科書・配布資料を見直す

授業名	教育の方法と技術(中・高・栄)			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Teaching Methods and Techniques			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	<p>学校教育制度に位置づけられる中学校と高等学校の特質を理解し、その教育の方法と技術について学ぶ。変化の激しい時代を生きる子どもが生涯学び続ける力と習得するため、授業を設計し実践する教師の意識も「教える」から「学ぶ」重視への転換が求められる。本講義ではそのため主体的・対話的で深い学びの基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、技術指導、プレゼンテーションの方法を学習する。</p> <p>また、価値観の多様化、社会の複雑化により学校で教師が一人で解決できることは限界がある。そのため、さまざまな能力を持つ人々とチームになって新たな方法を(教えてもらうのではなく)自ら構想し、問題解決を図る力が必要となるため、本時において一人ひとりが役割をもち課題に取り組むチーム学習(グループワークやプレゼンテーション)を行う。</p>								
学修成果到達目標	<p>(1)次期学習指導要領を見通した学習者中心の考えを説明できる</p> <p>(2)主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりができる</p> <p>(3)チームでの学習を通して協働性を伸ばすことができる</p> <p>(4)レポート作成を通して論理的に考え書く力を伸ばすことができる</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)	グループワーク ICT活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	西之園晴夫・宮田仁・望月紫帆『学習ガイドブック教育の技術と方法第2版』ミネルヴァ書房 2011								
参考書	篠原正典他『教育の方法と技術』ミネルヴァ書房2018								
課題に対するフィードバックの方法	15回の授業の中でショートレポートを3回設けます。提出された課題について、コメントをつけて返却します。それらショートレポートを加筆修正し、最終レポートの提出につなげてください。								
留意事項	「学習ガイドブック教育の技術と方法」はテキストであると同時に、先々を見通して計画的に自分たちですすめていくために欠かせないワークブックです。どンドン書き込んで汚すつもりで使用してください。ガイドブックを入手することで、授業全体の見通しをある程度もつことができますので、忙しい日々の中で課題に追われることもなく、自分のペースに合わせて調整しながら取り組むことができるようになります。								
オフィスアワー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実践的教育									

授業名	教育の方法と技術（中・高・栄）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業内容と学習テーマについて知ろう 次週から15回目まで続くグループワークの流れを理解する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第1週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第2回	チーム学習の進め方と学校教育の変化 アクティブ・ラーニング	（学修内容）チームビルディング チームで取り組む課題への見通し 次期学習指導 要領 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第2週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第3回	学校における教育課題	（学修内容）今日の学校が抱える課題を話し合い チームで取り組む教育課題の決定 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第3週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第4回	チームの学校を構想しよう	（学修内容）情報収集方法と発想法の活用し、 教育課題に対して効果的な教育を実践する理想の学校を構想する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第4週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第5回	プレゼンテーション チーム発表の準備をしよう	（学修内容）チーム発表に向けて模造紙を使って理想の学校をまとめる （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第5週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第6回	学校説明会をしよう（チーム発表1）	（学修内容）準備した模造紙をもとにチーム発表をおこなう チーム間で相互評価をおこなう （事前事後学修課題の内容）（60分） チーム発表1の資料準備 テキスト第6週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第7回	前半のチーム学習を評価しよう	（学修内容）これまでのチームでの学習活動の振り返り、 後半に向けて見通しを立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） ショートレポート1の提出 テキスト第7週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第8回	学力と学習指導方法	（学修内容）多様な学習者と読解力をキーワードに学力を定義する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第8週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第9回	学習指導方法をまとめよう	（学修内容）前週に定めた学力定義に基づきそれらの力を伸ばすための 学習指導方法を検討する （事前事後学修課題の内容）（60分） ショートレポート2の提出 テキスト第9週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第10回	教材を設計しよう	（学修内容）実際に50分1コマの授業を計画し、授業内で使用する教材を作成する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第10週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第11回	学習評価方法をまとめよう	（学修内容）目的に合わせた評価方法を学び、自分たちの授業計画の評価指標を作成 する （事前事後学修課題の内容）（60分） ショートレポート3の提出 テキスト第11週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第12回	保護者懇談会の準備とリハーサル	（学修内容）来週のチーム発表に向けてこれまで検討してきた授業内容と方法につい てまとめた発表資料を作成と発表の段取りを決める （事前事後学修課題の内容）（60分） チームの各人がそれぞれの役割を果たす。 テキスト第12週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第13回	プレゼンテーション 保護者懇談会で説明しよう（チーム発表2）	（学修内容）チームで考えた授業案を発表する チーム間で相互評価を行う （事前事後学修課題の内容）（60分） チーム発表2の資料準備 チームレポートの提出 テキスト第13週を読 んで、問題の答えを書き込んでくる
第14回	レポートの評価視点を獲得する	（学修内容）最終レポートの提出に向けて、評価視点を明確にし、 チーム内で共有する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第14週を読んで、問題の答えを書き込んでくる
第15回	最終レポートの相互評価（全体的に流れをみ て再調整する可能性があります）	（学修内容）自らまとめた最終レポート初稿をチームメンバーにみせて本提出に向け た助言を得る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 最終レポート初稿の準備（授業後、加筆修正し試験提出期間に学修支援 課に本提出）。テキスト第15週を読んで、問題の答えを書き込んでくる

授 業 名	教育の方法と技術（幼・小）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Methods and Techniques			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	学校教育制度に位置づけられる幼稚園と小学校の特質を理解し、その教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、指導技術の方法を学習する。また、インターネット機能やプレゼンテーションソフトが搭載されたパソコンや電子黒板や各種デジタルコンテンツといったICTを用いた授業設計に関わる知識・技術を学ぶことにより、情報発信型の教育に対応した効果的な学習・教育を行うための方法を習得する。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史の変遷・理論など）を説明することができる。 2) ICTを用いた授業設計の方法を理解し、ICT活用教育の効果について説明することができる。 3) グループ学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法をプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	随時指示する。								
参 考 書	西之園晴夫『学習ガイドブック 教育の技術と方法』ミネルヴァ書房，2007年								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	プレゼンテーションはグループ単位で行う。グループ内で活発に意見交換をして、主体的に活動することが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授業名	教育の方法と技術（幼・小）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育の方法・技術に関する諸概念	（学修内容）幼稚園及び小学校における教育方法にはどのようなものがあるか。教育方法、教授法、学習指導などの諸概念について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	教育方法の史的変遷	（学修内容）教授法の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第4回	教育方法の史的変遷	（学修内容）教育の現代化と教授理論について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第5回	カリキュラム開発	（学修内容）カリキュラム開発の概念について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	教育課程と学習指導要領	（学修内容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第7回	ICTを用いた教育方法・技術について	（学修内容）ICTを用いた指導方法について概説する。効果的な授業設計の方法についてグループディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第8回	教育評価とは	（学修内容）教育における評価の意味や意義について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	教育評価の方法	（学修内容）相対評価、絶対評価などの評価方法について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	学習指導方法を考える	（学修内容）教育における今日的な課題を解決するための学習指導方法を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。
第11回	プレゼンテーション準備（学習指導方法）	（学修内容）提示された課題に対して適切な学習指導方法を提示できるよう準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第12回	プレゼンテーション（学習指導方法）	（学修内容）各グループが学習指導方法についてプレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第13回	学習評価方法を考える	（学修内容）各グループが提案した学習指導方法において、適切な学習評価方法を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 各人がそれぞれのグループに合った学習評価方法を考えておくこと。
第14回	プレゼンテーション準備（学習評価方法）	（学修内容）プレゼンテーションの準備をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第15回	プレゼンテーション（学習評価方法）	（学修内容）各グループが学習評価方法についてプレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。

授 業 名	室内デザイン実習			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Interior Design Training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	快適な室内空間を作り上げるために必要な知識を学び、それらを具体的な形にする力を身につける。床、壁、カーテンなどの住空間のデザイン、家具や照明など室内で使用されるモノのデザインについて実習を通して学ぶ。生活するうえで大切な場である住いを総合的にデザインし、さまざまな状況にある生活者にとって豊かな室内空間を創出する力を養う。製図と模型の制作などの実習をおこなう。2年時の「住空間とインテリア実習」にも関連する授業である。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な室内空間の仕組みが理解できる。 2) 簡易な部屋を設計できる力を身につけることができる。 3) 簡単な模型を作成することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリント配付								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートならびに作成した作品(図面・模型・プレゼンテーションボード)を回収後、								
留 意 事 項	簡単な製図道具ならびに模型制作道具が必要。現地見学がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授業名	室内デザイン実習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 室内デザイン実習を学ぶ意義 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容の確認
第2回	寸法体系	(学修内容) 寸法体系の話・畳の大きさ (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおく
第3回	部屋の構成	(学修内容) 部屋の仕組み (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおく
第4回	床・壁・天井の仕上げと素材	(学修内容) 室内の仕上げ・教室内で実地見学 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおく
第5回	家具	(学修内容) 家具の種類と特質 (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを読んでおく
第6回	室内環境工学	(学修内容) 室内と採光・換気・空調・騒音の関係 (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを読んでおく
第7回	現地見学1	(学修内容) 優れた室内空間の見学 (事前事後学修課題の内容) (30分) 見学先の住宅についての確認とカメラ・メジャーなどの用意
第8回	インテリア製図・平面図	(学修内容) 室内のプランニングの理解と図面作成 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第9回	インテリア製図・展開図	(学修内容) 室内の立体方向の図面の理解と図面作成 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第10回	インテリア・パース作図	(学修内容) 室内の完成予想図の作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第11回	模型制作1	(学修内容) スチレンボードで室内の模型の制作 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模型道具の使い方に慣れる
第12回	模型制作2	(学修内容) スチレンボードで室内の模型の制作 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模型道具の使い方に慣れる
第13回	現地見学2	(学修内容) 優れた商業空間の見学 (事前事後学修課題の内容) (30分) 見学先の建物についての確認とカメラ・メジャーなどの用意
第14回	部屋の設計	(学修内容) 与えられた条件で部屋の内部空間の設計 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第15回	設計作品の発表ならびに講評	(学修内容) プレゼンテーションと講評会 (事前事後学修課題の内容) (120分) プレゼンテーションの準備

授業名	家庭工学演習			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Home Engineering Practice			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	川島 智生			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	住まいの安全ならびに設備・機器について基礎科学を学ぶ。近代生活は電気・ガス・水道なくしてはなりたず、近年はあらかじめ設備計画に基づいて設備はビルトイン化している。そのためにそのしくみを知ることは重要である。また電気・ガス・水道に繋がれたそれらの機器類や家庭内の電化製品は生活上、大きな役割を果たしている。この授業では設備の工学ならびに、家庭生活に必要な電気・機械工学の基礎知識を習得し、機器類の安全な取り扱い方法から機器の適切な活用法など、能率的な生活の維持ができる技術を学習する。ビデオをみたりプレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 住宅内の電気・ガス・給排水の仕組みを理解できる。 2) 用いられる電化機器の科学的内容を理解できる。 3) 理想的な設備計画の提案をおこなうことができる。 4) 住まいの安全を総合的に考えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (図面解読能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	授業中に配布								
参考書	飯野秋成『図とキーワードで学ぶ 建築設備』学芸出版社 柏木博『日用品の文化誌』(岩波新書)								
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートを回収後、各自にコメントをつけて返す。								
留意事項	住宅見学を実施する。								
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出をしていただければ対応します。								
実践的教育	実践的教育 教員の業務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授業名	家庭工学演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	家庭工学演習を学ぶ意義	(学修内容) 家庭工学演習ガイダンス (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	住まいの性能1安全	(学修内容) 安全耐震・火災・防犯 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第3回	住まいの性能2設備	(学修内容) 給排水・電気・ガス・照明計画 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第4回	設備図面	(学修内容) 設備図面の読解ならびに簡単な作図 (事前事後学修課題の内容) (60分) 定規類
第5回	家庭の電気と安全性	(学修内容) 屋内電気配線・感電防止・安全マークなどを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第6回	現地見学1	(学修内容) 京都市内の住宅の内部見学 (事前事後学修課題の内容) (90分) 見学先の住宅についての事前調査と方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を学ぶ
第7回	空調機器・家庭の機器	(学修内容) エアコン・冷蔵庫・洗濯機などのしくみを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習と自宅の様態を観察、製品の使用書を確認
第8回	照明のシステムと器具	(学修内容) 照明器具の種類と選択のポイント (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第9回	給排水システムと器具	(学修内容) 湯沸かし機器・給湯システム・排水システム (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第10回	現地見学2	(学修内容) 京都市内の住宅の内部見学 (事前事後学修課題の内容) (90分) 見学先の住宅についての事前調査と方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を学ぶ方眼紙とメジャー、カメラなど
第11回	インテリア材料	(学修内容) インテリア材料に要求される性能を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第12回	ヘルシーハウジングに向けて	(学修内容) シックハウス症候群 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第13回	望ましい住まいの設備計画(1)	(学修内容) 与えられた条件で設備計画をおこなう (事前事後学修課題の内容) (60分) 製図道具の用意
第14回	望ましい住まいの設備計画(2)	(学修内容) 与えられた条件で設備計画をおこなう (事前事後学修課題の内容) (60分) 製図道具の用意
第15回	計画作品の発表ならびに講評	(学修内容) プレゼンテーションと講評会 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自がプレゼンテーションできる用意

授業名	簿記演習			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Bookkeeping Practice			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	平野 由美子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	個人商店や会社等は、儲け（利益）や財産、借金がどれだけあるのかを明らかにするために、日々行なう経済活動（取引）を記録して、最終的な儲け（利益）や財産等を計算している。この授業では、個人商店が日々行っている経済活動を記録する手段としての商業簿記について学習する。簿記の仕組みを演習を通して実践的に学び、損益計算書や貸借対照表の役割についても理解する。								
学修成果到達目標	1) 複式簿記の基本原則を理解し、個人商店における諸取引の処理に適用できる。 2) 商業簿記の日常的な経理事務から決算処理までの理解ができる。 3) 貸借対照表と損益計算書の役割を理解し、作成することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	スッキリわかる日商簿記3級第10版【テキスト+問題集】								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業で問題を解いてもらい、解答の解説を行います。								
留意事項	毎回の授業を受けるにあたって、予習・復習をしっかりと行うこと。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		簿記演習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 簿記の意義	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる 簿記とはなにか、なぜ必要なのかについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「簿記の基礎」を読み、全体像を把握しておく
第2回	簿記の基礎概念	(学修内容)貸借対照表、損益計算書の構造と簿記の基礎概念を説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「仕訳の基本」を読み、「仕訳」のルールを読んでおく
第3回	仕訳のルールと転記	(学修内容)仕訳のルールと総勘定元帳への転記を説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 資産、負債、純資産(資本)、収益、費用の5つの項目それぞれの役割を確認する
第4回	商品売買	(学修内容)商品売買取引の処理について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 商品売買取引の分記法・三分法の違いを把握する
第5回	現金と預金	(学修内容)簿記上の現金とは何か、小切手に関わる処理を説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 通貨代用証券・小切手について調べる
第6回	小口現金	(学修内容)小口現金と小口現金出納帳の作成を説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「小口現金出納帳への記入」を読む
第7回	手形	(学修内容)約束手形、手形の裏書について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 約束手形とは何か、小切手との違いを調べる
第8回	有価証券	(学修内容)有価証券について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 有価証券とは何かを把握し、有価証券を購入したときの仕訳を調べる
第9回	貸付金、借入金 その他の債権・債務	(学修内容)貸付金、借入金、その他の債権・債務について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) お金を貸したときと借りたときの仕訳を調べる
第10回	貸倒れと貸倒引当金	(学修内容)売掛金の貸倒れ処理と貸倒引当金の設定について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「貸倒れと貸倒引当金」を読み、「貸倒れ」とは何か、「引当金」とは何かを調べておく
第11回	固定資産と減価償却	(学修内容)固定資産の購入、売却と減価償却について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「有形固定資産と減価償却」を読み、固定資産とは何かを調べる
第12回	資本金	(学修内容)資本金について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「会社を設立して株式を発行したときの仕訳」を読み、「株式会社」とは何かについても調べておく
第13回	決算整理	(学修内容)決算整理仕訳について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 貸倒引当金と減価償却について復習しておく
第14回	試算表	(学修内容)各種試算表の作成方法と仕組みを説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「試算表」を読んでおく
第15回	精算表と帳簿の締め切り	(学修内容)精算表、帳簿の締め切りについて説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 貸借対照表と損益計算書の役割について復習しておく

授業名	会計演習			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Accounting Practice			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	平野 由美子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	財務会計に関する基本的知識を身につけることを目標とした演習方式の授業である。公開されている企業の貸借対照表・損益計算書などから企業の経営活動の情報を読み解き、さらには財務諸表分析ができるレベルを目指す。「会計」は、民間企業のみならず、官公庁や地方公共団体、非営利組織など、あらゆる組織・団体に利用されている。社会人になったときにも実践的に役立つような会計知識を学習する。								
学修成果到達目標	1) 貸借対照表、損益計算書の役割と構造を理解できる。 2) 収益の認識基準を理解できる。 3) 資産評価基準を理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	「知識ゼロでも2時間で決算書が読めるようになる!改訂版」佐伯良隆著 高橋書店								
参考書	スッキリわかる日商簿記3級第10版【テキスト+問題集】								
課題に対するフィードバックの方法	興味のある企業の決算書を用いて、決算書の数字を読み解き、分析してもらいます。企業分析に対し、コメントを付して返却します。								
留意事項	簿記演習も履修することが望ましい。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	会計演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 財務ディスクロージャー制度とは	(学修内容) 本授業の目標を理解し、学習計画を立てる 財務ディスクロージャー制度とは何かについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「決算書超入門」を読んでおく
第2回	決算書の種類と簿記	(学修内容) 仕訳のルールを確認し、会計のルールを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「そもそも会計って何？」を読んでおく
第3回	決算書の役割	(学修内容) 貸借対照表と損益計算書の役割を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「これが決算書の中身！」を読んでおく
第4回	損益計算書の役割	(学修内容) 損益計算書の役割と構造について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「損益計算書で何がわかる？」を読んでおく
第5回	損益計算書：利益	(学修内容) 利益について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「損益計算書のしくみ」を読んでおく
第6回	損益計算書：費用	(学修内容) 費用について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「損益計算書は、費用で見る！」を読んでおく
第7回	貸借対照表の役割	(学修内容) 貸借対照表の役割と構造について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「貸借対照表で何がわかる？」、「貸借対照表のしくみ」を読んでおく
第8回	貸借対照表：資産の部	(学修内容) 資産の部について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「3つの部 資産の部」を読んでおく
第9回	貸借対照表：負債、純資産の部	(学修内容) 負債の部、純資産の部について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「3つの部 負債の部」「3つの部 純資産の部」を読んでおく
第10回	キャッシュフロー計算書	(学修内容) キャッシュフロー計算書について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「キャッシュフロー計算書の話」を読んでおく
第11回	経営分析 - 収益性	(学修内容) 企業の収益性の分析指標を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「収益性の話」を読んでおく
第12回	経営分析 - 安全性	(学修内容) 企業の安全性の分析指標を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「安全性の話」を読んでおく
第13回	経営分析 - 成長性	(学修内容) 企業の成長性の分析指標を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「成長性の話」を読んでおく
第14回	決算書分析の方法	(学修内容) 企業の決算書を用いて、数値を分析する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「決算書から会社のホントの姿を見る！」を読んでおく
第15回	決算書分析まとめ	(学修内容) 企業の決算書から、企業分析を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 興味のある企業の決算書を用意しておく

授 業 名	販売論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Sales Theory			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤本 良介			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	現代社会において私たちの生活を支える衣食住には、財やサービスの交換が不可欠です。洋の東西を問わず、物々交換から貨幣経済、取引行為を介して有形の物品（食糧・衣類・住宅）やサービス（教育・知識・技術）を含め、無形の知的財産を交換する売買行為が営まれてきました。講義では、人類普遍の営みである交換・販売におけるマネジメントについて、現代のICT（情報通信技術）を利用した組織・管理・戦略の実際を事業・企業・経営を中心に講じます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	(1)販売マネジメントの歴史について主要な理論や概念を説明することができる。 (2)販売のイノベーションについて、事例をもとに分析ができる。 (3)ICTによる販売の革新について、考察し見解を述べることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (現代のマネジメントへの理解)	プレゼンテーション能力 (ICT最新事例の課題認識)	課題発見・解決能力 (ICT最新事例の課題認識)				
テ キ ス ト	渡部・角野・伊藤編 『やさしく学ぶ マネジメントの学説と思想』 ミネルヴァ書房								
参 考 書	授業中に適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で適宜講評します。								
留 意 事 項	ビデオで最新事例を紹介し、パワーで理論解説し、レポート提出してもらいます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義に関する質問があれば、授業の終了後をお願いします。								
実践的教育									

授業名	販売論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	1. 販売の背景：マネジメントとは？	(学修内容) 戦略・組織・管理の相補システム (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第2回	2. マネジメントの歴史	(学修内容) パナソニックとソニー、米国GMとフォード (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第3回	3. 販売の事業と企業	(学修内容) 商品開発、リテール、ストアオートメーション (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第4回	4. 意思決定と経営資源	(学修内容) マーケットと消費者心理、マインドシェア (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第5回	5. 販売の競争戦略	(学修内容) 知識情報イノベーション、研究開発、オンデマンド (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第6回	6. 販売戦略と流通革命	(学修内容) マーチャンダイジング、フランチャイズシステム (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第7回	7. 販促のマーケティング	(学修内容) ポジショニング、SWOT分析、4Pモデル、ポートフォリオ (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第8回	8. 販売のロジスティクスと情報管理	(学修内容) ICTブランド戦略、ウェブアドバイザー (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第9回	9. バリューチェーンとアントルプレナー	(学修内容) 事業創造とベンチャービジネス (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第10回	10. CSRとコーポレートガバナンス	(学修内容) 知識リーダーシップとモチベーション (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第11回	11. IoT販売革命	(学修内容) ビッグデータ知識化、産業クラスター、プラットフォーム戦略 (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第12回	12. クラウドソーシングによる販促革新	(学修内容) 人的資源管理のコンサルテーションとプロモーション (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第13回	13. ネット通販と電子決済	(学修内容) アマゾン、ファストファッション、ビットコイン (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第14回	14. 知識社会のビジネスモデル	(学修内容) コアコンピタンスとコンプライアンス、製造物責任 (PL法規制) (事前事後学修課題の内容) (60分) ICT最新事例を紹介しながら授業を進めるので、予習復習すること。
第15回	15. 気候変動と経営環境の変化	(学修内容) リスクヘッジと危機管理、減災のためのレジリエンス (事前事後学修課題の内容) (60分) 現代社会におけるマネジメントについての問題を考察すること。

授業名	情報処理論			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	HE1407
英文名	Information Processing			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	浅田 瞳			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養3回生・4回生				
授業の概要	<p>コンピュータ及びインターネットの発展に伴い社会生活も大きく変化しつつある。情報社会の基盤となっている基本的な技術や、人と人とのコミュニケーション方法の変化について理解するとともに、現代の情報システムと企業活動や社会基盤における役割、性質について学ぶ。</p> <p>授業では、現代の情報システムの事例について調べ学習を行い、授業内でプレゼンテーション資料を用いて発表する機会をもつ。また、レポート提出については原則メールを用いてやり取りをするので、web活用能力も求められます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 情報処理技術についての基礎的な知識について説明できる</p> <p>2) 情報処理システムの仕組みを理解し、知識を活用できる</p> <p>3) 情報社会の概要とその特徴について説明できる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	適宜、資料を配布する。								
参考書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	発表については、その場で課題や長所について指導する。 レポートはメールでの提出を行い、その都度にフィードバックを行います。								
留意事項	カタカナやアルファベットの専門用語が多く出てきますが、できるだけかみ砕いて説明したいと思います。								
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：神戸親和女子大学 情報教育センター 勤務								

授業名	情報処理論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション～コンピュータとは	(学修内容) コンピュータの仕組み (事前事後学修課題の内容) (60分) コンピュータとスマートフォンの違いについて発表できるようにする。
第2回	ハードウェアとソフトウェア	(学修内容) コンピュータを構成するパーツとプログラム (事前事後学修課題の内容) (60分) HD、キーボード、ディスプレイとアプリの違いについて発表できるようにする。
第3回	Society 5.0 について考える	(学修内容) 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の違いを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 上記の社会の特徴について発表できるようにする。
第4回	コンピュータ言語	(学修内容) RUBY、C、BASIC、JavaScript、JAVAなど (事前事後学修課題の内容) (60分) LINEとInstagramで使用されているコンピュータ言語を調べてくる。
第5回	ユーザインタフェース	(学修内容) キーボード、タッチパネル、スキャナの違い (事前事後学修課題の内容) (60分) それぞれの長所と短所について発表できるようにする。
第6回	コンピュータネットワーク	(学修内容) LAN、WAN、PAN、通信インフラ (事前事後学修課題の内容) (60分) 有線LANと無線LANの違いについて発表できるようにする。
第7回	インターネット	(学修内容) WWWの仕組み (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットがなぜ発生したのか、調べてくる。
第8回	データベース	(学修内容) データベースの仕組みと活用 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の生活で一番使うデータベースを探し、その特徴を発表できるようにする。
第9回	情報セキュリティ	(学修内容) ウイルス、個人情報保護、暗号化 (事前事後学修課題の内容) (60分) なぜウイルスソフトをインストールしなければならないのか、理由をこたえられるようにする。
第10回	インターネットリテラシー	(学修内容) SNS、情報の真偽、著作権、肖像権 (事前事後学修課題の内容) (60分) SNSのメリットとデメリットを発表できるようにする。
第11回	著作権	(学修内容) 著作権の概要、最新の法改正による事例 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネット上の著作権が侵害された事例を調べ、発表できるようにする。
第12回	IoTの実際	(学修内容) IoT活用について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) IoT活用されているものを調べ、パワーポイントで資料を作成し、発表できるようにする。
第13回	IoTの実際(2) どのような分野でIoTが進められているのか	(学修内容) IoTについての発表を行い、受講生同志の情報共有を図る (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表を聞いて一番印象に残った発表とその理由をレポートにまとめる。
第14回	高度情報社会の進展	(学修内容) ビッグデータの活用、自動運転システム、スマート家電 平成のネット史から考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 今後の社会の情報化はどんな方向に進むのかレポートにまとめる。
第15回	これからの情報社会のゆくえ	(学修内容) まとめ 身の回りの情報機器の変化について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分のもっている情報機器でもっとも進化したものを紹介する。

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t e			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	豊原 容子・坂本 裕子・竹市 仁美・堀越 昌子・塩 田 二三子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	各自が決定した卒論テーマに沿って、先行研究について調べ現状について理解するとともに、研究方法、結果の考察方法やまとめ方などについて学んでいく。研究方法については地域連携の取り組みや調査、実験など様々があるので適切な方法を考えて実践していく。さらに、ゼミ内での発表や意見交換および個人指導を通して自身の研究を深めていく。6月末には論文題目を提出する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自らが決定した課題について解決のために主体的に取り組むことができる。 2) 論理的に物事を考えることができる。 3) 得られた結果について適切な考察ができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	レジュメ等で行う								
参 考 書	各自に、ゼミ担当者が指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	個人指導において、各自の発表、研究成果における問題点など、さらに今後の進め方などを話し合う。								
留 意 事 項	積極的に自らのテーマに関して研究を進めていくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当教員のオフィスアワーについては、曜日、時間を一覧にして掲示します。研究室に在室している場合は、対応します。 。								
実 践 的 教 育									

授業名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t e	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	卒論論文作成に向けて、手引き等の確認、および各自進める上での問題点の整理などについて	（学修内容）先行研究で分かったことを整理し、研究の目的、方法、問題点などを明らかにし、研究の進め方について確認する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 先行研究論文などを読み問題点を整理しておく。
第2回	研究発表1 - 1 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況などについての発表	（学修内容）各自の研究内容について発表を行い、他のゼミ生と問題点などについて討議するとともにアドバイスなどをもらい、内容を検討する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表のためのレジユメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。
第3回	研究発表1 - 2 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況などについての発表	（学修内容）各自の研究内容について発表を行い、他のゼミ生と問題点などについて討議するとともにアドバイスなどをもらい、内容を検討する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表のためのレジユメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。
第4回	研究発表1 - 3 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況などについての発表	（学修内容）各自の研究内容について発表を行い、他のゼミ生と問題点などについて討議するとともにアドバイスなどをもらい、内容を検討する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表のためのレジユメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。
第5回	個別指導1 - 1 研究の進捗状況確認と内容の検討	（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化しておく。論文構成について考えておく。
第6回	個別指導1 - 2 研究の進捗状況確認と内容の検討	（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化しておく。論文構成について考えておく。
第7回	個別指導1 - 3 研究の進捗状況確認と内容の検討	（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化していく。論文構成について考えておく。
第8回	個別指導1 - 4 研究の進捗状況確認と内容の検討	（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化していく。論文構成について考えておく。
第9回	個別指導1 - 5 研究の進捗状況確認と内容の検討	（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化していく。論文構成について考えておく。
第10回	研究発表2 - 1 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの作成をしておく。データの解析結果について考察しておく。指摘された問題点について解決策を考える。
第11回	研究発表2 - 2 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの作成をしておく。データの解析結果についてよく考察しておく。指摘された問題点について解決策を考える。
第12回	研究発表2 - 3 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの作成をしておく。データの解析結果についてよく考察しておく。指摘された問題点について解決策を考える。
第13回	個別指導1 - 1 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	（学修内容）発表内容とその後の進捗状況について面談を行い、論文作成に向けて検討していく。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく。論文の章立てを書いておく。
第14回	個別指導1 - 2 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	（学修内容）発表内容とその後の進捗状況について面談を行い、論文作成に向けて検討していく。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく。論文の章立てを書いておく。
第15回	個別指導1 - 3 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	（学修内容）発表内容とその後の進捗状況について面談を行い、論文作成に向けて検討していく。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく。論文の章立てを書いておく。

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t e			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	豊原 容子・坂本 裕子・竹市 仁美・堀越 昌子・塩 田 二三子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	研究の進捗状況の報告やそれに関する討論や面談を行いながら、卒業論文内容を検討する。春学期に考えた章立てに沿って論文を仕上げていく。10月末に論文を提出し、12月末に口頭試問に臨む。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自らが課題とした研究テーマについて、主体的に考察し研究を深めていくことができる。 2) 得られた結果を正確に分析することができる。 3) 卒業論文としてふさわしい構成内容の論理的な文章を書くことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (論理的思考力)	プレゼンテーション能力 (文章表現力)	課題発見・解決能力 (文章表現力)				
テ キ ス ト	各自に担当教員より指示する。								
参 考 書	各担当教員より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	次週までに、提出された文章について問題点などの指摘を行う。								
留 意 事 項	わかったことを自分の言葉で表現するように、常に留意しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当者のオフィスアワーを一覧にして掲示板に掲示する。								
実践的教育									

授 業 名		卒業演習（論文を含む。）t a ~ t e	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	論文の書き方について確認および決定	（学修内容）論文作成手引きについて、特に参考文献の書き方などの確認を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 卒論の手引きをみて、自分の参考文献などを整理しておく。考察に関する問題点を把握しておく。	
第2回	発表1-1 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第3回	発表1-2 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第4回	発表1-3 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第5回	発表1-4 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第6回	個別指導1-1 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第7回	個別指導1-2 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第8回	個別指導1-3 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第9回	個別指導1-4 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第10回	個別指導1-5 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げっていく。	
第11回	卒業論文内容の発表準備	（学修内容）研究内容全体のプレゼンテーションおよび質疑応答のための準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） プレゼン用の資料の作成のため、研究内容を要約する。	
第12回	卒業論文内容の発表準備	（学修内容）研究内容のプレゼンテーションおよび質疑応答のための準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） プレゼン用の資料を作成する。	
第13回	卒業論文内容の発表	（学修内容）論文内容の発表を行い、質疑応答を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 質問事項の整理と解決策について考えておく。	
第14回	口頭試問準備	（学修内容）発表でだされた質問などをもとに、口頭試問での質疑応答に向けて内容の整理を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 口頭試問に向けてレジメを準備する。	
第15回	口頭試問準備	（学修内容）発表でだされた質問などをもとに、口頭試問での質疑応答に向けて内容の整理を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 口頭試問に向けてレジメを準備する。	

授 業 名	食生活実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Dietary Life Training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	食生活実習 で学んだ基本的な知識を基に、栄養面や安全性、嗜好性を考慮した食事の整え方の理解を高める。日本料理、西洋料理、中国料理の各様式別に実習を行い、それぞれの国の食文化についても学ぶことで、幅広い献立作成の力を身に付ける。また、日本人の食事摂取基準および日本食品標準成分表についてその基本を理解する。さらに、中学校、高等学校で指導するうえで必要な技術の実習を行い、知識を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本独自の食文化である季節のもてなし料理や行事食、郷土食について知識を持ち、提供できる力を修得している。 2) 日本だけでなく西洋や中国の食文化についても理解を深める。 3) 中学校、高校生の1日の献立や日常食の献立のための調理計画と調理ができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (調理技術の習得と献立作成能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	新調理研究会編「これからの調理実習 - 基本手法から各国料理、行事食まで - 」オーム社 2014年								
参 考 書	授業にて指示します								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、提出されたレポートは、コメントをつけて返却します								
留 意 事 項	4~5名を1グループとして実習を行う。食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回到授業で指示します。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション 授業計画と諸注意		(学修内容) 諸注意、レポートの書き方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の1日の食生活を振り返っておく
第2回	献立作成		(学修内容) 日本人の食事摂取基準や食品成分表の説明 グループごとに献立を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 1日の献立を作成し、次回に提出する。
第3回	和食の基本的な調理		(学修内容) 鯖の味噌煮、けんちん汁、わらび餅(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.54,64を読んで理解しておく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第4回	和食で用いられる食材(旬の食材について)		(学修内容) 刺身, あら煮(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読み理解しておく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第5回	郷土料理について		(学修内容) 栗飯、土瓶蒸し、黄身酢和え(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.48,204読み理解しておく。 レポートを作成し次回に提供する。
第6回	西洋料理の魚介だしや油脂の調理特性		(学修内容) プイヤベース。パウンドケーキ(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリント及び教科書 p.139を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第7回	西洋の肉料理、シュー生地		(学修内容) ボルシチ、サラダ、シュークリーム(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.126,138,169を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第8回	もてなし料理		(学修内容) アップルパイ(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.141を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第9回	砂糖の調理特性やパン生地の応用		(学修内容) 肉包子・豆沙包子、西湖魚羹(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.89,101,106を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第10回	魚介類を使った中国料理		(学修内容) 炒墨魚(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.76,90を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第11回	中国料理の点心		(学修内容) 水果西米露(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.83,171を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第12回	行事食		(学修内容) 正月吉例料理、雑煮(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.45,178~180を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第13回	京都の料理		(学修内容) 京都のおばんざい(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第14回	テーブルセッティングとマナー		(学修内容) テーブルセッティングとマナーの基本 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.34~37,72~73,110~113を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第15回	自由献立(調理と評価)		(学修内容) グループごとに計画した献立を調理し、全体で評価する。(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 献立の作り方や材料の準備の確認をしておく。 レポートを作成して指定の日時に提出する。

授 業 名	住空間とインテリア実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Living space and interior training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	住空間とインテリアについて基礎的な知識を学ぶ。それらを具体的な形にする力を身につける。住空間を成り立たせる三次元空間を理解するために、平面・率面・断面・展開の各図の作図をおこなう。くわえて椅子の模型を作成する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)住空間の仕組みが理解できる。 2)立体と平面の関係が理解でき、そのことを表現することができる。 3)簡単なインテリア空間の設計ができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリント配付								
参 考 書	特になし								
課題に対するフィードバックの方法	提出した作品・レポートについてコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	簡単な製図道具と模型制作道具が必要。現地見学がある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回に提示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授 業 名		住空間とインテリア実習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)住空間とインテリア実習を学ぶ意義 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの内容を確認
第2回	住空間の構成1 独立住宅	(学修内容)独立住宅の特質と意義 (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第3回	住空間の構成2 集合住宅	(学修内容)集合住宅の特質と意義 (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第4回	住空間の構成3 最小限住宅	(学修内容)最小限住宅の特質と意義 (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第5回	現地見学・現代建築フィールドワーク	(学修内容)現代の建築見学 (事前事後学修課題の内容)(60分) 見学先の住宅の事前確認、カメラの準備
第6回	平面図の読解	(学修内容)平面図の内容 (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第7回	平面図の作図	(学修内容)簡単な室内平面図の作図 (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、プリントを読んでおく
第8回	展開図の読解	(学修内容)展開図の内容 (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第9回	展開図の作成	(学修内容)簡単な展開図の作図 (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、プリントを読んでおく
第10回	現地見学・歴史的建築フィールドワーク	(学修内容)歴史的な住宅見学 (事前事後学修課題の内容)(60分) 見学先の住宅の事前確認、カメラの準備
第11回	家具模型の制作・基礎	(学修内容)ペーパー模型 (事前事後学修課題の内容)(60分) 模型作成道具の準備
第12回	家具模型の制作・応用	(学修内容)ペーパー模型、着色 (事前事後学修課題の内容)(60分) 模型作成道具の準備、絵の具・クレパス・色鉛筆の準備
第13回	家具の設計・作図	(学修内容)椅子とテーブルの設計 (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、プリントを読んでおく
第14回	家具の設計・図面の着色・透視図の作成	(学修内容)椅子とテーブルの設計・図面の着色・透視図の作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、絵の具・クレパス・色鉛筆の準備、プリントを読んでおく
第15回	設計作品の発表と講評	(学修内容)プレゼンテーションと講評会 (事前事後学修課題の内容)(120分) プレゼンテーションの準備

授 業 名	アパレルと流通			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名				開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	乾 眞理子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>若者の服への関心は依然高いが、人々の服への価値観は変化し、購入手段も多様化している。日本のアパレル業界は、今重要な局面に差し掛かっていると見える。関心の高いアパレルから今の日本を考えるきっかけとしたい。</p> <p>アパレル産業の基本用語やアパレル流通の構造などアパレル産業の概要を説明する。また、事例を示しながら、アパレル産業の現状を紹介する。そして、人々にとってのファッションの意味について考えていきたい。</p> <p>現状を理解するために、フィールドリサーチや事前調査の課題を課す。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレル産業に係る基本の専門用語の説明ができる。 2. アパレル産業の流れを知り、現状を説明できる。 3. アパレル製品の価値について自分の考えを述べられる。 								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	随時、プリントを配布する。								
参 考 書	文化ファッション体系 アパレル生産講座 ファッションビジネス 基礎編 文化服装学院編 文化服装学院学院教科書部 (1999) その他随時紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	授業中に提出したレポートについては、随時コメントをつけて、返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	事業の初めに提示する。								
実 践 的 教 育									

授業名	アパレルと流通	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	アパレル産業の基礎用語	(学修内容) アパレル産業にかかわる用語について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習: シラバスを読んでおく。 復習: 用語について、理解を深めておく。
第2回	アパレル産業に関する基礎知識(繊維・染色)	(学修内容) 原料から製品になるまでの過程とそれぞれの過程での仕事について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: プリント内容を事前に調べてプリントに記入し、提出する。
第3回	アパレル産業に関する基礎知識(卸・商社・総合アパレル)	(学修内容) アパレル産業の川中・川下について仕事の内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: プリント内容を事前に調べてプリントに記入し、提出する。
第4回	アパレル業界の仕事(ものと情報の流れ)	(学修内容) マーチャンダイジング、商品企画、展示会、製品管理について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: プリント内容を事前に調べてプリントに記入し、提出する。
第5回	アパレル業界の仕事(アパレル業界での専門職)	(学修内容) デザイナー、パタンナー、プロデューサー、FA、スタイリストの仕事について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: プリント内容を事前に調べてプリントに記入し、提出する。
第6回	アパレル産業の流通構造(流通の歴史)	(学修内容) 百貨店・GMSについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: プリント内容を事前に調べてプリントに記入し、提出する。
第7回	アパレル産業の流通構造(専門店)	(学修内容) 専門店について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: プリント内容を事前に調べてプリントに記入し、提出する。
第8回	アパレル産業の流通構造(セレクトショップ)	(学修内容) セレクトショップについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: プリント内容を事前に調べてプリントに記入し、提出する。
第9回	アパレル産業の流通構造(SPA)	(学修内容) SPAについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: プリント内容を事前に調べてプリントに記入し、提出する。
第10回	アパレル産業の流通構造(アウトレット、ショッピングセンター)	(学修内容) アウトレット、ショッピングセンターについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: プリント内容を事前に調べてプリントに記入し、提出する。
第11回	アパレル業界の現在 調査方法	(学修内容) アウトレット、ショッピングセンターについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドリサーチ: 割り振られた小売業に調査に行く。
第12回	ファッションとマーケティング	(学修内容) ファッションとマーケティングについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: フィールドリサーチの結果から資料を作成する。
第13回	アパレル業界の現在	(学修内容) インターネット通販ビジネスについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: フィールドリサーチの結果の発表原稿を作成する。
第14回	アパレル業界の現在(調査報告)	(学修内容) 調査結果をパワーポイントを用いて発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: フィールドリサーチ発表原稿を完成させ、提出する。
第15回	アパレル業界の今後	(学修内容) アパレル業界の現状をまとめ、今後について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習: プリントを読み返し、理解を深める。

授業名	生活とメディア			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名				開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>車の自動運転の実現、遠隔操作によって家の中の家事を進める「スマート家電」など、IoT(Internet of Things),人工知能(AI;Artificial Intelligence)といった技術革新によって私たちの生活は大きく変わりつつあります。また、SNSや動画投稿サイトなどスマートフォン・アプリによって国内外を問わずひととひととのつながりが広がり、新しい文化が生まれています。携帯電話の所持率の低年齢化または所持する年代の高年齢化、今後更にスマートフォンを中心としたインターネット上の各種メディアを老若男女が使用しそれぞれの生活をより善くしていこうとする傾向が強まると予想されます。一方で、日々のニュースで取り上げられるようにインターネット上のトラブルが絶えません。大学や若者の被害もみられます。そこで、本授業を通して、わたしの「生活とメディア」の現状を捉え、見つめ直す中で、最終的にメディアを介したコミュニケーション上で被害者にも加害者にもならない情報倫理を学修し、実践できる力の習得をめざします。ルールやマナーを理解するためには、自己理解と他者理解が欠かせないプロセスのため、グループワークを授業内で実施します。また、授業内容の理解を深めるために、自らの言葉で発表する、書くといった方法を取り入れます。</p>								
学修成果到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしの生活を支えるメディアの特徴を説明できる ・メールや各SNSの特徴を把握した上で適切な情報発信ができる ・情報セキュリティの基本的な知識・技術を説明し、また実践できる ・ネットトラブルの具体例と解決方法を説明できる ・Society 5.0が目指す社会像を説明できる 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	noa出版『2019年度情報倫理ハンドブック』								
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者庁ホームページ「インターネットをめぐる消費者トラブル」 https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/caution/internet/ ・警察庁ホームページ「サイバー犯罪対策プロジェクト」 https://www.npa.go.jp/cyber/ ・内閣府ホームページ「Society5.0 科学技術政策」 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html ・そのほか授業中に適宜指示します。 								
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出を求めるコメントカードを後日チェックし全体的あるいは個別にコメントを返す プレゼンテーションを行う場面では、評価項目を事前に伝え、プレゼンテーション終了後に、講評を行う								
留意事項	テキストでの学習をおこなうため必ず購入すること グループワークやプレゼンテーション等には積極的に参加すること 配慮事項がある場合は、事前に相談にくること (授業を欠席する場合も事前連絡を)								
オフィスアワー	授業期間中の毎週水曜日お昼休み								
実践的教育									

授業名	生活とメディア	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「生活とメディア」を通して学ぶこと	(学修内容) シラバス、テキストpp.1-6を読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習: シラバスを読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく
第2回	インターネット上の著作権、肖像権	(学修内容) インターネット上の著作権と肖像権について事例を挙げて説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習: テキストpp.7-13を読む。事後学修: 著作権、肖像権の侵害に関する事例を一つ調べ配布するコメントカードにまとめる
第3回	さまざまなSNSの特徴	(学修内容) 生活を送る上でSNSを使用する際のメリットとデメリットを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: テキストpp.14-16を読む。復習: 授業中に取り上げるSNSを一つ選ぶ、実際の利用者のトラブル事例をコメントカードにまとめる
第4回	情報を発信する際に意識すること	(学修内容) インターネット上で情報発信する際の注意事項を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: テキストpp.17-22を読む 復習: To, Bcc, Ccの使い分け方法をコメントカードにまとめる
第5回	1対1、1対特定多数、1対不特定多数の情報送受信	(学修内容) メールやSNS上の情報の送受信の範囲を説明することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: テキストpp.23-25を読む 事後学修: 1対特定多数、1対不特定多数のSNS上のトラブル事例を調べコメントカードにまとめる
第6回	情報セキュリティの3つの観点	(学修内容) パスワード管理、バックアップ、データ整理によるセキュリティ強化の方法を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: テキストpp.26-31を読む 事後学修: 情報セキュリティについてできているものとできていないものをコメントカードにまとめる
第7回	データの安全を脅かすもの	(学修内容) マルウェア、不正アクセス、ソーシャルエンジニアリング、フィッシング詐欺について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: pp.32-36まで読む 事後学修: データの脅威となる4つのうち1つを選び具体的な事例をコメントカードにまとめる
第8回	データの安全性を守る技術的対策	(学修内容) 情報を守るセキュリティソフト等の機能を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: pp.37-43まで読む 事後学修: 自身が使用しているセキュリティソフト等の情報を守る技術の特徴をコメントカードにまとめる
第9回	ネットワーク上のトラブル事例	(学修内容) 【グループワーク】大学生や若者に被害が与えているネットトラブルについて説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: pp.44-51まで読む 事後学修: 授業で取り上げたトラブル事例から1つ選び、それを回避する方法を考え、コメントカードにまとめる
第10回	ネットトラブルを避けるための注意点	(学修内容) 【プレゼンテーション】大学や若者がネットトラブルに遭わないための注意点を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: pp.52-55までを読む 事後学修: 授業で学修した注意点を広く学生や若者に周知理解させる方法を考えコメントカードにまとめる
第11回	ネット依存	(学修内容) ネット依存の特徴と対策を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: 日本のネット依存の現状を調べてくる 事後学修: ネット依存のスクリーニングを行い、結果を考察し、コメントカードにまとめる
第12回	子育てとメディア	(学修内容) 子どもたちの間で起こるネットトラブルとその予防を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: 現在の子どもインターネット使用時間や内容を調べてくる 事後学修: 家庭でのルールづくり案を考えコメントカードにまとめる
第13回	わたしたちの生活とSociety5.0	(学修内容) Society5.0が目指す社会像について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: 内閣府のSociety5.0のホームページを検索し、予習してくる 事後学修: わたしたちの生活の変化を予想しコメントカードにまとめる
第14回	情報倫理と生活	(学修内容) 【グループワーク、プレゼンテーション】授業2~10回を振り返って、情報倫理に関する要点を発表できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: テキストでもっとも興味をもった部分を再読してくる 事後学修: グループワークで話し合った内容をコメントカードにまとめる
第15回	これからの「生活とメディア」	(学修内容) 【PBL】授業11~13回を振り返って、これからの私の暮らしとメディアについて話し合い発表できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: 授業11~13回を振り返って興味をもった箇所を調べる 事後学修: グループワークで話し合った内容をコメントカードにまとめる

授 業 名	住居文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名				開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	住居文化の授業では住むことを歴史的に捉えることを主眼とする。町家、長屋、農村住宅、郊外住宅、団地、マンションと日本の住宅が辿ってきた住居の歴史を学習することで、日本人がどのような生活をおこなってきたのかを振り返り、今後どのような空間に住めばよいのかを総合的に考えていく。また日本の住居に影響を与えた欧米や中国、東南アジア、アラビア・アフリカの住居についても学び、共通点を探り、文化史的なつながりを理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)すまいの文化について歴史的な観点から説明することができる。 2)町家や集合住宅などについて特徴や成立を説明することができる。 3)日本と外国の住居について、違いと共通点を説明することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	プリント配付								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	現地見学会がある。私語・飲食は禁止								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回到に提示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授 業 名		住居文化
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 住居文化を学ぶ意義 (事前事後学修課題の内容) (45分) シラバスの内容の確認
第2回	日本古代・中世・近世の家	(学修内容) 日本古代・中世・近世の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) この時代の家の特徴ならびにイメージをつかむ
第3回	明治期の家	(学修内容) 明治期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料から気に入った家を見つけ、予習する
第4回	大正期の家	(学修内容) 大正期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料から気に入った家を見つけ、予習する
第5回	昭和戦前期の家	(学修内容) 昭和戦前期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料から気に入った家を見つけ、予習する
第6回	昭和戦後期の家	(学修内容) 昭和戦後期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 身近なところにある気に入った家を見つけ、予習する
第7回	平成の家	(学修内容) 平成期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 身近なところにある気に入った家を見つけ、予習する
第8回	歴史的住宅の現地見学	(学修内容) 歴史的住宅の現地見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 見学先の住宅建築の確認とカメラなどの用意
第9回	見学建物の評価に対するディスカッション	(学修内容) 見学建物の評価ならびに感想に対するディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) ディスカッションに対する自分自身の考えをまとめる
第10回	ヨーロッパの家	(学修内容) ヨーロッパの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) ヨーロッパの家のイメージを事前学習
第11回	アメリカの家	(学修内容) アメリカの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) アメリカの家のイメージを事前学習
第12回	中国・韓国の家	(学修内容) 中国・韓国の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 中国・韓国の家のイメージを事前学習
第13回	東南アジアの家	(学修内容) 東南アジアの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 東南アジアの家のイメージを事前学習
第14回	アラビア・アフリカの家	(学修内容) アラビア・アフリカの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) アラビア・アフリカの家のイメージを事前学習
第15回	住居のプレゼンテーション	(学修内容) 住居のプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自パワーポイントの作成と発表の準備

授 業 名	地域福祉論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名				開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>私たちのくらしは、地域福祉の存在で成り立っている。地域ごとでくらしの問題、生活問題は異なる。高齢者の多い地域、子どもの多い地域、低所得者の多い地域等で、くらしの課題は違ってくる。生活問題の地域性に注目して、誰もが安心して暮らしていける地域社会の実現に向けて、地域福祉の果たすべき役割と課題を考えていきたい。とくに地域住民の課題と専門機関である社会福祉協議会及び行政の課題、両者に視点を当てて考えていきたい。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)地域福祉とは何かが理解できるようになる。 2)地域福祉は生活問題の地域性を対象とした総合的体系的な社会制度であることを理解できるようになる。 3)社会保障の一環であること、まちづくりの一環であることの認識ができるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	なし								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	試験結果の返却時に、模範解答を解説する。								
留 意 事 項	居住している地域の活動に関心を持つこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室しているときは対応します。どうしてもというときには、事前にEメールしてください。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：児童養護施設非常勤職員、高齢者通所介護施設非常勤生活指導員として勤務。</p>								

授 業 名	地域福祉論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	私たちの暮らしと地域福祉	(学修内容) 私たちの暮らしと地域福祉について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認し、地域福祉のイメージづくりをする。
第2回	地域福祉の対象	(学修内容) 地域福祉の対象について、各地の状況を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住している地域に目を向け特性を理解してみる。
第3回	地域福祉活動の実際 - 鹿児島島の事例 -	(学修内容) 鹿児島島の地域福祉活動を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの地域福祉活動を調べる。
第4回	地域福祉活動の実際 - 豊中市の事例 -	(学修内容) 豊中市の地域福祉活動を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの地域福祉活動に関わってみる。
第5回	地域福祉活動の実際 - 滋賀県日野町の事例 -	(学修内容) 滋賀県日野町の地域福祉活動を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が実践できそうな地域福祉活動を考える。
第6回	地域福祉活動の実際 - 京都市の事例 -	(学修内容) 京都市の地域福祉活動を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの地域福祉活動の課題について考える。
第7回	地域福祉活動の実際 - 私の実践事例 -	(学修内容) 私の地域福祉活動の実践を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの地域福祉活動の方向性を考える。
第8回	地域福祉の推進と社会福祉協議会の役割	(学修内容) 社会福祉協議会とは何か、地域福祉の推進においてどのような役割があるか解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの社会福祉協議会について調べる。
第9回	地域福祉の推進と社会福祉協議会の課題	(学修内容) 地域福祉の推進において、社会福祉協議会が果たしていかなければならない課題について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの社会福祉協議会の課題について考える。
第10回	地域福祉と民生・児童委員	(学修内容) 民生・児童委員とは何か、彼らが果たしている役割と課題について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの民生・児童委員を知る。
第11回	地域福祉とボランティア活動	(学修内容) 地域福祉におけるボランティア活動の役割と課題について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ボランティア活動に目を向け、現状を知る。
第12回	地域福祉活動の事業と運動の統一	(学修内容) 地域福祉活動には事業的側面と運動的側面があり、両者の統一が大切であることを解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの地域福祉活動の事業と運動を知る。
第13回	社会保障の一環としての地域福祉	(学修内容) 地域福祉は社会保障制度を充実させていく中で発展していくことを解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域福祉と社会保障の関係を調べる。
第14回	まちづくりの一環としての地域福祉	(学修内容) 地域福祉はまちづくりの課題であることを指摘し、具体的な展開例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちのまちづくりと地域福祉との関連を考える。
第15回	住民自治と地域福祉	(学修内容) 住民自治の深まりの中で地域福祉は発展することを解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 住民自治について、自分のまちでどうなっているかを考える。

授業名	音楽 ua・ub・uc・ud			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Music			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	山中 信子			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	保育士および幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、音楽 に引き続き、子どもの歌の歌唱、ピアノ教則本および子どもの歌の弾き歌い、音楽理論を学ぶ。ピアノ教則本および子どもの歌の弾き歌いに関しては毎回課題を課し、習熟度確認のための個別レッスンをを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 子どもの歌の基本的な発声法と弾き歌いの技術を習得することができる。 2) ピアノ教則本は最低でもバイエルを終了を目標とする。 3) 音楽理論を通して音楽の諸活動に必要な基礎的知識を習得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (実技能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編)								
参考書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	小試験はその都度解説を行う。 実技に関しては毎回課題を与え、それに対する個別レッスンを行う。								
留意事項	レベルに合わせてクラス分けを行う。								
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名	音楽 ua・ub・uc・ud	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画の説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの授業の内容に目を通しておくこと
第2回	歌唱・ピアノレッスン・ハ・ヘ長調の伴奏付け	(学修内容) 子どもの歌の歌唱 ピアノレッスン 伴奏付け(ハ・ヘ長調)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・ハ・ヘ長調の伴奏付けの復習をしておくこと
第3回	歌唱・ピアノレッスン・ト長調の伴奏付け	(学修内容) および伴奏付け(ト長調)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・ト長調の伴奏付けの復習をしておくこと
第4回	歌唱・ピアノレッスン・ニ長調の伴奏付け	(学修内容) および伴奏付け(ニ長調)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・ニ長調の伴奏付けの復習をしておくこと
第5回	歌唱・ピアノレッスン・伴奏付け総復習	(学修内容) および伴奏付けの総復習と様々な伴奏パターンについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・伴奏付けの復習をしておくこと
第6回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ハ長調)	(学修内容) および視唱(ハ長調)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ハ長調)の復習をしておくこと
第7回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ヘ長調)	(学修内容) および視唱(ヘ長調)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ヘ長調)の復習をしておくこと
第8回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ト長調)	(学修内容) および視唱(ト長調)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ト長調)の復習をしておくこと
第9回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ニ長調)	(学修内容) および視唱(ニ長調)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ニ長調)の復習をしておくこと
第10回	歌唱・ピアノレッスン・視唱小試験	(学修内容) および視唱小試験 (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱課題の復習をしておくこと
第11回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち(付点)	(学修内容) およびリズム打ち(付点)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・リズム打ち(付点)の復習をしておくこと
第12回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち(シンコペーション)	(学修内容) およびリズム打ち(シンコペーション)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・リズム打ち(シンコペーション)および既習の音楽理論の復習をしておくこと
第13回	歌唱・ピアノ総復習および演習・音楽理論小試験	(学修内容) の総復習と演奏上の諸注意事項について (事前事後学修課題の内容) (60分) 既習の歌唱・ピアノ課題の復習をしておくこと
第14回	歌唱総復習・歌唱小試験	(学修内容) の総復習および小試験 (事前事後学修課題の内容) (60分) 既習の歌唱課題の復習をしておくこと
第15回	ピアノ総復習・ピアノ小試験	(学修内容) の総復習および小試験 (事前事後学修課題の内容) (60分) 既習のピアノ課題の復習をしておくこと

授 業 名	和食学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Japanese Food			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	堀越 昌子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	人は生きていくために、食物を獲得し、貯蔵・加工し、安全でおいしく食べる工夫と努力を重ね、食文化を発展させてきた。世界には気候風土によって、特色ある食文化圏が形成されている。東アジアの日本では、稲作を基盤とする伝統的な和食文化が生まれ、魚や野菜など四季ごとの豊かな食材で彩られ、健康的な食文化圏として注目されている。この和食文化を社会的背景や歴史の変遷を追って理解を深めていく。和食の優れた点を把握して、将来の食のあり方を考えていくとともに、健康的な食生活の維持、増進に役立てていくことを目指す。班を作り、フィールド調査を実施し、班で討論し、授業の中で発表する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 和食の特徴を気候風土、食材、加工法、調理法、食べ方などの面から捉えることができる。 2) 和食文化を自然風土、社会的背景、歴史的観点から考察することができる。 3) 世界の食文化を比較しながら、和食の優れた点を把握し、継承について考えることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	奥村彪生監修 『和食の基本がわかる本』農文協 2015年								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	毎回小テストし、返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実 践 的 教 育									

授業名	和食学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	和食の特徴	(学修内容)和食の特徴を捉える。ユネスコの世界遺産に登録された要因を探る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 和食の特徴を箇条書きでまとめておく。
第2回	世界の食文化と和食	(学修内容)世界の食文化と和食を比較する(グループで発表) (事前事後学修課題の内容)(30分) 世界の食文化と和食を比較しておき、発表できるように準備しておく。
第3回	気候風土と主食文化	(学修内容)気候風土と主食文化に基づいた食文化圏マップを見て、それぞれの特徴を把握する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した食文化マップについて、下調べして発表の準備をする。
第4回	日本の風土と和食の形成	(学修内容)日本の風土と和食の形成、アジアモンスーン圏の特徴と日本の和食 (事前事後学修課題の内容)(30分) アジアモンスーン圏の風土の特徴を調べておく。
第5回	縄文時代の採集・漁労生活と食構 雑穀と芋、半栽培から農業への移行と食の確保	(学修内容)縄文時代の採・漁労集生活はどのような食事構成であったかを探る。 雑穀と芋、半栽培から農業への移行と食の確保 (事前事後学修課題の内容)(30分) 縄文時代の食べ物を下調べをして発表する。
第6回	弥生時代の水田稲作の発展と「米と魚」食の形成	(学修内容)弥生時代の稲作と「米と魚」の組合せの成立 (事前事後学修課題の内容)(30分) 稲作が本格的に始まった弥生時代の社会について下調べし、稲作の日本における重要さと「米と魚」の組合せについて発表する。
第7回	奈良時代律令国家の成立と精進料理の発展	(学修内容)奈良時代律令国家の成立と獣肉食の後退、精進料理の発展過程を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 奈良時代律令国家の成立と獣肉食の後退、精進料理の発展過程を調べ、まとめておく。
第8回	平安時代の公家文化と宮廷料理	(学修内容)平安時代の公家文化、宮廷の饗応料理の特徴を探る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 平安時代の貴族社会と饗応料理、食料構成の特徴について、発表する準備をする。
第9回	鎌倉・室町時代の武家社会と本膳料理、茶の湯文化の発展と懐石料理	(学修内容)鎌倉・室町時代の武家社会と本膳料理、茶の湯文化の発展と懐石料理など、和食独自の発展を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 武家社会と本膳料理、茶の湯文化の発展と懐石料理など、和食独自の発展について予習しておく。
第10回	戦国時代と江戸時代の食、庶民文化の隆盛と飢饉時の食	(学修内容)戦国時代と江戸時代の食、庶民文化の隆盛をとらえるとともに、江戸時代に多かった飢饉時の食について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 戦国時代、江戸時代における食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。都市と町民文化の発展についても把握しておく。
第11回	明治・大正・昭和・平成の食	(学修内容)明治維新以降の日本の発展と食生活の変容を捉えていく。明治・大正・昭和・平成のそれぞれの特徴を把握する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。
第12回	日本の郷土食(1) 京都のおばんざい 正月の料理と節料理、ハレ食文化	(学修内容)日常の郷土食と京都のおばんざい、祝いと行事の郷土料理、正月の料理と節料理など、ハレ食文化の継承と発展を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 祝いと行事と結びついたの郷土料理、正月の料理と節料理など、ハレ食文化の継承の課題をまとめ、発表する。
第13回	日本各地の郷土食(2)山村・農村・漁村の食	(学修内容)日本各地の郷土食(2)について、山村・農村・漁村における食の特徴を把握する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日本各地の郷土食(2)について、山村・農村・漁村の食を分担して調べ、発表の準備をしておく。
第14回	和食のスタイルと食構成と健康	(学修内容)食生活の欧米化とともに、生活習慣病が増加している実態を捉えて、和食と健康とのあり方を考えていく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 和食の良さを確認し、食と健康のあり方をディベートできるように予習しておく。
第15回	和食文化の継承の課題	(学修内容)和食文化を継承していくための課題を考え、まとめて発表し議論する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 和食文化の優れた点をあげて、継承の課題をまとめておく。

授 業 名	生化学実験 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN1308
英 文 名	Experiment of Biochemistry			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	土居 純子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>本科目では、生化学で学んだ生体を構成する成分について実験を通じ、その特質を確認し正常な人体の仕組みについて理解を深めていく。また、遺伝子多型に関する実験を通じて遺伝子の発現に関する理解を深めていく。実験を円滑に進めるため、適宜グループワークを実施する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 生体を構成する成分について深く理解できる。 2) 生体における遺伝子の発現について理解できる。 3) 生体材料の取り扱いについて理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	田代操 編著 生化学実験 化学同人								
参 考 書	生化学等で使用した教科書								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に対応する。								
実 践 的 教 育									

授業名	生化学実験 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実験についての注意事項、実験ノート・実験レポート作成についてなど (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容をよく確認しておくこと。
第2回	実験の基礎事項 1	(学修内容) 実験器具・実験機器の取り扱い方、実験データの処理についてなど (事前事後学修課題の内容) (60分) 重量・容量の単位、溶液濃度の表し方について調べ、それぞれについてまとめておく。授業後、課題に取り組む。
第3回	タンパク質の定量 1	(学修内容) タンパク質の紫外外部吸収スペクトラムを測定し、その特徴を基に未知試料のタンパク質を定量する (事前事後学修課題の内容) (80分) タンパク質の紫外外部吸収の特徴とその特徴を用いた測定法の利点・欠点について調べ、まとめておく。実験後、実験レポート作成する。
第4回	タンパク質の定量 2	(学修内容) Bradford法によるタンパク質の定量 (事前事後学修課題の内容) (80分) Bradford法によるタンパク質の定量法の原理とその測定法の利点・欠点について調べ、まとめておく。実験後、実験レポートを作成する。
第5回	タンパク質の定量 3	(学修内容) Lowry法によるタンパク質の定量 (事前事後学修課題の内容) (80分) Lowry法によるタンパク質の定量法の原理とその測定法の利点・欠点について調べ、まとめておく。実験後、実験レポートを作成する。
第6回	タンパク質の性質に関する実験 1	(学修内容) タンパク質の電気泳動と分子量の解析 (事前事後学修課題の内容) (80分) ポリアクリルアミド電気泳動の原理と電気泳動からタンパク質の分子量の求め方を調べ、まとめておく。実験後、実験レポートを作成する。
第7回	タンパク質の性質に関する実験 2	(学修内容) 等電点によるタンパク質の単離 (事前事後学修課題の内容) (80分) タンパク質の性質について調べ、それぞれの性質についてまとめておく。実験後、実験レポート作成する。
第8回	実験の基礎事項 2	(学修内容) 実験データの処理、試薬の調製について (事前事後学修課題の内容) (80分) 主な緩衝液について調べ、それぞれの特徴についてまとめておく。授業後、課題に取り組む。
第9回	酵素反応に関する実験 1	(学修内容) アルカリホスファターゼ活性と反応時間の関係 (事前事後学修課題の内容) (80分) アルカリホスファターゼとはどのような酵素かを調べ、まとめておく。実験後、実験レポートを作成する。
第10回	酵素反応に関する実験 2	(学修内容) アルカリホスファターゼ活性と酵素量・基質量の関係 (事前事後学修課題の内容) (80分) 一般的な酵素活性と酵素量・基質量の関係について調べ、まとめておく。実験後、実験レポート作成する。
第11回	酵素反応に関する実験 3	(学修内容) アルカリホスファターゼ活性とpH・温度の関係 (事前事後学修課題の内容) (80分) 一般的な酵素活性とpH・温度の関係について調べ、まとめておく。実験後、実験レポート作成する。
第12回	核酸の抽出と定量	(学修内容) 生体材料からのDNAの抽出 (事前事後学修課題の内容) (80分) DNAの化学的性質を調べ、まとめておく。実験後、実験レポート作成する。
第13回	遺伝子多型分析 1	(学修内容) アルコール代謝系酵素遺伝子の増幅 (事前事後学修課題の内容) (80分) PCR法について調べ、まとめておく。実験後、実験レポートを作成する。
第14回	遺伝子多型分析 2	(学修内容) 電気泳動とパッチテスト (事前事後学修課題の内容) (80分) 遺伝子多型とは何か、またそれがどのように健康に関わるのかについて調べ、まとめておく。実験後、実験レポートを作成する。
第15回	全実験結果の考察	(学修内容) 実験を振り返り考察する (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでに行った実験や課題、実験レポートの内容を確認し、間違えた箇所などを正しく修正しておく。

授 業 名	生化学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1301
英 文 名	Biochemistry			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松田 広一			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	生体を構成する成分について、その構造と機能、遺伝子の発現と調節などを学び、正常な人体の仕組みについて分子および遺伝子レベルで理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生体を構成する物質の性質および機能について説明することができる。 2) 5大栄養素それぞれの特徴と相互の違いについて説明することができる。 3) 遺伝子の発現とその調節について説明することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 (基礎的な知識を応用する能力)			課題発見・解決能力		()		
テ キ ス ト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」第3版 園田勝編 羊土社 栄養科学イラストレイテッド演習版「生化学ノート」第3版 園田勝編 羊土社								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	栄養生化学の学習につながり、他の科目の基礎となる科目であるので復習をしっかりと行うこと。 なお、授業の際に行う小テストはスマホ・タブレット・携帯電話等を用いて行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授 業 名		生化学 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	生体を構成する成分について	(学修内容) 生体を構成する5大栄養素(タンパク質、糖質、脂質、ミネラル、ビタミン)について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第1章)を読んだ上で、5大栄養素について予習しておくこと。授業終了後は「生化学ノート」を使って復習しておくこと。	
第2回	タンパク質の種類と構造	(学修内容) 生体を構成するタンパク質の種類と構造について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第4章)を読んでおくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第3回	アミノ酸について	(学修内容) タンパク質を構成するアミノ酸の種類と性質について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第4章)を読んでおくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第4回	アミノ酸の構造と高次構造	(学修内容) アミノ酸の構造とタンパク質の高次構造について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第4章)を読んでおくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第5回	糖質の構造と機能	(学修内容) 生体を構成する糖質の構造と機能について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第2章)を読んでおくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第6回	脂質の構造	(学修内容) 生体を構成する脂質の種類と構造について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストを(第3章)読んでおくこと。 授業終了後は学習内容を復習しておくこと。	
第7回	リン脂質と糖脂質の構造と機能	(学修内容) 脂質の誘導体の種類と構造、役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第3章)を読んでおくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第8回	体液の組成	(学修内容) 血漿と細胞内液、組織液について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に主題内容について、生理学のテキストで予習しておくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第9回	ミネラルの機能	(学修内容) 生体内に分布するミネラルの種類と役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第8章)を読んでおくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第10回	生体膜と物質輸送	(学修内容) 生体膜の構造と性質、物質輸送における役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に主題内容について、テキスト(第1章)を読み、生理学のテキストで予習しておくこと。授業終了後は学習内容を復習しておくこと。	
第11回	電子伝達系	(学修内容) エネルギー生成における電子伝達系の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第12章)を読んでおくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第12回	酸化的リン酸化	(学修内容) 酸化的リン酸化と基質レベルのリン酸化について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第13章)を読んでおくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第13回	染色体とDNA	(学修内容) 生物の設計図である染色体について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第14章)を読んでおくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第14回	遺伝子の転写と調節	(学修内容) 遺伝子の発現とタンパク質の合成について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト(第15章)を読んでおくこと。 授業終了後は「生化学ノート」を使って学習内容を復習しておくこと。	
第15回	遺伝子多型について	(学修内容) 遺伝子の多型と遺伝性疾患について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に第13回・第14回の内容を復習しておくこと。 授業終了後は配付資料を使って学習内容を復習しておくこと。	

授 業 名	比較文化論 u			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1304
英 文 名	Theory of Comparative Culture			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	朝 田 郁			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生（発展科目）、現代家政・食物栄養3回生・4回生（基本科目）				
授 業 の 概 要	<p>地域固有の価値観や制度が解体して、地球規模でそれらが画一化していく流れをグローバル化と呼びます。その一方で、個々の文化的な差異が強調され、対立構造が先鋭化する動きも現れています。この相反する趨勢をふまえて、本講義ではアフリカ社会と中東社会に注目し、その文化的多様性や私たちの社会との共通性について検討していきます。そして身近な具体例から、これらの地域で暮らす人々が、私たちと地続きの世界を生きる同時代人であることを学びます。</p> <p>なお、授業の中で1人1回のプレゼンテーションの機会を設けます。受講生が多数の場合は、プレゼンテーションに代えてグループワークを実施します。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) アフリカと中東地域の文化的多様性と共通性について、基本的な知識を身に付ける。 2) 日本とは異なる生活様式を学ぶことで、自文化中心主義を相対化することができる。 3) 関連したニュース報道について、その背景と構造を多角的にとらえることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解							汎用的技能
		態度・志向性							総合的な学習経験と創造的思考力
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	指定はありません。講師が用意したパワーポイント資料で授業を進めます。								
参 考 書	必要に応じて適宜ご紹介します。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	各回の最後に理解度テストを実施します。解答の説明は、次回の最初におこないます。								
留 意 事 項	前提知識は必要ありません。基本的なことから順番にお話しします。新鮮な気持ちで臨んでください。講義内容をより多いものにするため、受講生のみなさんの積極的な授業参加を期待します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に時間を設けます。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：東アフリカ・中東湾岸諸国において複数回のフィールドワーク実施 京都大学アフリカ地域研究資料センター・機関研究員 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・特任助教 星槎大学 / 京都コンピュータ学院・非常勤講師</p>								

授業名	比較文化論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：アフリカと中東のイメージ	(学修内容) 講義全体の進め方・授業内容についてのガイダンス (事前事後学修課題の内容) (30分) アフリカと中東という言葉から連想するキーワードを5つずつ挙げる
第2回	聖なるものと人々の営み	(学修内容) アフリカと中東の精神文化・宗教文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受講者自身が宗教に対して持っているイメージについて挙げる
第3回	一神教の世界 1	(学修内容) 一神教(ユダヤ教・キリスト教・イスラーム)の相互関係と思想 (事前事後学修課題の内容) (30分) 世界宗教としての一神教が、世界のどの地域で興ったのか調べる
第4回	一神教の世界 2	(学修内容) 一神教に基づいた人々の日常的な暮らし (事前事後学修課題の内容) (30分) 受講者自身の日常生活における宗教的イベントについて挙げる
第5回	アフリカの衣食住	(学修内容) アフリカ社会における衣食住とその多様性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 衣食住に関して、普段の生活の中でアフリカに由来するものがあるか考える
第6回	中東の衣食住	(学修内容) 中東社会における衣食住とその多様性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 衣食住に関して、普段の生活の中で中東に由来するものがあるか考える
第7回	言葉がつむぐ文化	(学修内容) 言語をめぐる人々の営みと文化形成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 普段の生活の中で、受講生自身がどのような時に言葉の使い分けをしているか考える
第8回	家族の成り立ち	(学修内容) アフリカと中東における家族のしくみと名付け (事前事後学修課題の内容) (30分) 受講者自身の家系がどこまでたどれるか調べてみる
第9回	アフリカのメディア	(学修内容) アフリカ社会固有のメディア状況 (事前事後学修課題の内容) (30分) アフリカの携帯電話の普及率についてネット検索で調べる
第10回	中東のメディア	(学修内容) 中東社会固有のメディア状況 (事前事後学修課題の内容) (30分) 近年日本で公開された中東の映画についてネット検索で調べる
第11回	お祭と民衆	(学修内容) 社会のマジョリティを占める民衆と祝祭の関係 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の参加経験がある祝祭を挙げ、その社会的な機能について考える
第12回	伝統と革新のせめぎあい	(学修内容) 文化が内包する相反する動き・「伝統」の相対化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 伝統とはなにか、自分の言葉で考えてみる
第13回	人々の移動とネットワーク	(学修内容) なぜ人は移動するのか・移動する人々が作り出す文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) どのような機会に人は移動するのか、自分の言葉で考えてみる
第14回	アフリカと中東のポピュラー・カルチャー	(学修内容) アフリカと中東における大衆文化の諸相 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受講者自身の関心分野における異文化由来の要素を挙げる
第15回	グローバル化と異文化理解	(学修内容) 異文化理解に必要な視点・比較文化論のまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの学習を振り返り、異文化と自文化の連続性について考える

授業名	音楽 ua・ub・uc			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Music			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	山中 信子			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	ピアノによる初見、簡易伴奏法および弾き歌いを通して、保育、教育現場でのより高い音楽の実践力を身に付ける。実技に関しては定期的に小試験を課し、習熟度の確認および指導を行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 初見による弾き歌いの基礎を習得することができる。 2) 子どもの歌の弾き歌いだけでなく、簡易的な即興伴奏法を習得することができる。 3) 子どもとの音楽活動に必要な音楽理論を理解することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (実技能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）								
参考書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	実技課題等は定期的に小試験を実施し、課題の達成度を確認する。								
留意事項	レベルに合わせてクラス分けを行う。指定されたクラスで受講すること。								
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		音楽 ua・ub・uc	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	初見の基礎（調）および実践・弾き歌い	（学修内容）基本的な調判定の方法と初見演奏の際の留意事項について （事前事後学修課題の内容）（60分） 調判定の方法を復習しておくこと	
第2回	初見の基礎（拍子）および実践・弾き歌い	（学修内容）初見課題のテンポ設定と拍子の取り方について （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業中に与えられた初見課題を正しく演奏できるよう復習しておくこと	
第3回	初見の基礎（リズム）及び実践・弾き歌い	（学修内容）初見における理論的なリズム分割について （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業中に与えられた初見課題の復習をしておくこと	
第4回	第1回初見小試験・弾き歌い	（学修内容）初見課題の個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 既習の初見課題の復習および任意の初見課題の自主練習をしておくこと	
第5回	第1回弾き歌い小試験	（学修内容）弾き歌い課題曲の個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め与えられた弾き歌い課題曲の練習をしておくこと	
第6回	伴奏付け実践演習（ハ・ヘ長調）・コードネーム・弾き歌い	（学修内容）旋律譜（ハ・ヘ長調）の初見での伴奏付けについて （事前事後学修課題の内容）（60分） ハ・ヘ長調のコードおよびコード進行パターンの復習をしておくこと	
第7回	伴奏付け実践演習（ト・ニ長調）・コードネーム・弾き歌い	（学修内容）旋律譜（ト・ニ長調）の初見での伴奏付けについて （事前事後学修課題の内容）（60分） ト・ニ長調のコードおよびコード進行パターンの復習をしておくこと	
第8回	伴奏付け応用実践演習・弾き歌い	（学修内容）既習調性による伴奏付けの応用実践について （事前事後学修課題の内容）（60分） 各調コード進行パターンの総復習をしておくこと	
第9回	伴奏付け小試験	（学修内容）旋律課題に対する伴奏付けの個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 任意の旋律課題による伴奏付けの練習をしておくこと	
第10回	弾き歌い実践演習	（学修内容）弾き歌い小試験に向けた演奏上の個別課題についての検討 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め指定された弾き歌い課題曲の練習をしておくこと	
第11回	第2回弾き歌い小試験	（学修内容）課題曲の弾き歌い小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め指定された弾き歌い課題曲の練習をしておくこと	
第12回	初見応用編（付点リズム・タイ）・弾き歌い	（学修内容）初見における付点リズム・タイ等のパターンの読譜について （事前事後学修課題の内容）（60分） 符点のリズム・タイ等の含まれた初見課題の復習をしておくこと	
第13回	初見応用編（シンコペーション・弱起）・弾き歌い	（学修内容）初見におけるシンコペーションおよび弱起について （事前事後学修課題の内容）（60分） シンコペーション・弱起等の含まれた初見課題の復習をしておくこと	
第14回	初見・弾き歌い総合実践	（学修内容）既習の学習内容の総復習と課題の発見と克服について （事前事後学修課題の内容）（60分） 既習の学習内容の総復習をしておくこと	
第15回	第3回弾き歌い個別小試験	（学修内容）課題曲の弾き歌い個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め指定された弾き歌い課題曲の練習をしておくこと	

授 業 名	教職論（家庭・栄養）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Teaching			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>教職は、日々成長する子どもの教育に携わり、子どもの可能性や個性の伸長を図る創造的な仕事であり、これを担う教師は、子どもの人格形成に大きな影響を及ぼすという崇高な使命を負った存在である。教職の意義、教員の役割と使命、職務内容、教育制度や関係法規、服務規程等について認識を深めることを通して、教職に就く心構えやその責任について学ぶと同時に、教職を巡る課題、教師に求められる資質や能力を明らかにし、教職を志望する学生が、自身の進路選択とキャリア形成に関する課題意識をもてるようにする。</p> <p>授業では教師観についてグループワークを行い、教師を目指すうえでどのような価値観を持てばよいのか、教科種別の枠を超えた議論を行うようにしたい。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教職の重要性や職務内容について説明できる。 2) 教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の 資質・能力について説明できる。 3) 自分にとって理想の教師像とは何かを論じることができる。 4) 教師になるために、自分の課題について説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	原清治他監修 『教職論』 ミネルヴァ書房 ISBN 9784623081851								
参 考 書	授業時に適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては次回に解説を行う。 発表については、その場で指導・助言を行う。								
留 意 事 項	教職科目であるので、特に授業態度（協働的な学び、課題解決的な学び）を重要視する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週水曜日の昼休み								
実 践 的 教 育									

授 業 名		教職論（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	はじめに 授業の目的と到達目標	<p>（学修内容）科目のねらいと概要、授業の進め方について知る。各自の学校体験を振り返る。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 「教職について」の各自の考えをまとめておく。</p>	
第2回	教育の目的と教師の役割	<p>（学修内容）学校教育の目的を理解する中で、教員の役割や教職の意義、教職の魅力について考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 印象に残った教師について考えてくる。</p>	
第3回	教育の今日的課題	<p>（学修内容）教員を取り巻く社会の現状を、子ども・家庭・学校の視点から考え理解を図る。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 中・高校生の現状を示すデータを収集し、課題を見つけてくる。</p>	
第4回	教師に求められる資質・能力 責任感	<p>（学修内容）これまでの教師に何が求められてきたのかを考え、その教師像を探る。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 教師に求められる資質能力について調べておく。</p>	
第5回	教師に求められる資質・能力 主体性	<p>（学修内容）現代の教師に求められている資質・能力について、関係答申から考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 平成24年及び27年答申の下調べをしてくる。</p>	
第6回	教員養成の制度	<p>（学修内容）教員養成のための教育（教職課程）の仕組みや内容、教員免許制度について理解を深める。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 戦前と戦後の教員養成制度の違いについて下調べをしてくる。</p>	
第7回	教員の採用と研修	<p>（学修内容）教員採用のしくみ、また採用後の研修制度の理解を通して教員としての人材確保及び養成について考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 自分の居住地の教員採用試験の内容を調べておく。</p>	
第8回	教員の職務と専門性	<p>（学修内容）教科担任、学級担任、学校組織の一員としての教員等、多様な職務についての理解を図り、その専門性を考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 教師の1日の仕事や校務分掌について調べてくる。</p>	
第9回	教員の地位と身分	<p>（学修内容）教員の服務上及び身分上の義務について関連法案をもとに考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 地方公務員法、教育公務員特例法について下調べをしてくる。</p>	
第10回	教師に求められる専門的力量 教科指導	<p>（学修内容）学習と教授について理解し、授業計画や準備、実践と評価等について、次期学習指導要領改訂に向けた方向性から考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 教師の教科指導の留意点について調べておく。</p>	
第11回	教師に求められる専門的力量 生徒指導	<p>（学修内容）生徒指導の3機能、進路指導、教育相談等についての理解を図る。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 生徒指導、進路指導の留意点について調べておく。（60分）</p>	
第12回	教師に求められる専門的力量 学級担任	<p>（学修内容）学級経営の基本について考えると同時に教科担任と学級担任の連携についての重要性についての理解を図る。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 学級担任の「しんどさ」がどこにあるのかを調べておく。（60分）</p>	
第13回	教師に求められる専門的力量 学校運営	<p>（学修内容）学校の教員組織や学校運営協議会組織についての理解を図る中で「協働性」「コミュニケーション能力」について考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料（学校運営協議会資料）の下調べをしておく。</p>	
第14回	「私のめざす教師像」 教師になるために	<p>（学修内容）今までの授業をふりかえり、自己が目指す教師像を確立する。（信頼される教師、学び続ける教師など）</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 今までの学習資料の整理をしておく。</p>	
第15回	「私のめざす教師像」 自分の課題は何か	<p>（学修内容）「私のめざす教師像」に迫るための自己の課題について考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 「私のめざす教師像」をまとめてくる。</p>	

授 業 名	教職論（幼・小）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Teaching			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>保育者や教員に期待されている役割を理解したうえで、備えるべき倫理観、資質や能力を理解していく。また、保育者や教員が役割を推敲するために不可欠な連携の重要性を理解し、ひとりひとりが理想的な保育者像、教員像を思い描けるようにしてゆく。主体的に学ぶために、ディスカッションを行ったり、グループワークを行ったりしながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>保育者・教育者の存在意義を理解し、進路選択に向け、保育職・教育職の職業的特徴を理解している。保育者・教育者に求められる基礎的な資質能力を理解している。幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の職務を含めた保育者・教員の職務の全体像を理解している。保育者・教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。職場の同僚と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業時にプリントを配布する								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	レポートについては、いくつかを紹介して解説する。授業に対する感想や質問は、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後 オフィスアワーを設ける。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		教職論（幼・小）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	保育者・教員の役割	(学修内容) 保護者の立場から保育者・教員の役割を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) 保護者にとっての保育者、教員像を考えてくる	
第2回	保育者・教員の役割 法的な位置づけ	(学修内容) 法的な位置づけから保育者・教員の役割を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) プリントを読んでくる	
第3回	保育者・教員の倫理	(学修内容) 保育者・教員のもつべき倫理観を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 倫理綱領を読んでくる	
第4回	保育者・教員の資格と責務	(学修内容) 保育者・教員の資格と責務を解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) 大学のシラバスより、幼小の教員免許科目みてる	
第5回	保育者・教員の資質と能力	(学修内容) 保育者や教員の日を解説し、そこから必要とされる資質、能力について考える (事前事後学修課題の内容) (15分) プリントを読んでくる	
第6回	保育者・教員養成の歴史	(学修内容) 保育者、教員養成の歴史からその特性を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) プリントを読んでくる	
第7回	計画と実践・省察	(学修内容) 指導計画の立案から省察までの流れを解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) プリントを読んでくる	
第8回	計画立案の実際	(学修内容) 指導計画の立案を体験する (事前事後学修課題の内容) (30分) グループごとに作成する指導計画案を考えてくる	
第9回	計画の実践の体験	(学修内容) 指導計画を実施する (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導計画を完成させ、必要な教材を作成してくる	
第10回	保育者・教員の自己評価	(学修内容) 自らの実践を振り返ることから、自己評価の意義を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践の自己評価をまとめてくる	
第11回	連携に必要な資質	(学修内容) 連携に必要な資質をワークを通して考える (事前事後学修課題の内容) (15分) 職員連携に必要な資質を自分に引きつけて考えてくる	
第12回	保護者との連携	(学修内容) 保護者との連携について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 保護者対応について調べてくる	
第13回	保護者対応と職員連携	(学修内容) 保護者対応に職員連携が必要なことを解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) グループワークで感じた体験を思い出してくる	
第14回	保育施設と小学校の連携	(学修内容) 小学校のスタートをよいものにするための工夫を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) 自分の体験を思い出してくる	
第15回	保育者・教員に求められること	(学修内容) 保育者・教員に求められる資質を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) これまでの授業を振り返っておく	

授業名	教育課程総論 u (中・高・栄)			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Outline of Curriculum			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	浅田 瞳			対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	<p>2020年前後を境に学習指導要領は大きく転換します。とりわけ、「主体的・対話的で、深い学び」といった教育方法にまで言及した改革は戦後初といってもよいと思います。今後は教師が子どもたちの学力や深度を見据え、どのようにカリキュラムを考えるのかといったカリキュラム・デザインを行う力が求められます。</p> <p>この授業では主に中学・高等学校における学習指導要領の変遷を概観し、学習課程がどのような原理で編成されているのか、諸外国のカリキュラムは我が国とどのような点で異なるのかについて学習します。そこから、家庭科や栄養教諭として必要なカリキュラムの視点について学びを深めます。</p> <p>授業内では、グループワークを行い、各科目でのカリキュラムがどのように設定されているのかについて発表してもらいます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教育課程の編成・実施・評価・改善の過程(カリキュラムマネジメント)について説明できる。</p> <p>2) 学習指導要領の変遷と現行学習指導要領の求めるものやその内容について説明できる。</p> <p>3) 学習指導要領の内容を踏まえ、各自選んだテーマについて指導計画を作成できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 ()
テキスト	田中耕治著『よくわかる教育課程』第2版(ミネルヴァ書房)								
参考書	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」「学習指導要領解説 総則編」								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートについては次回解説を行います。 プレゼンテーションはその場で助言・指導を行います。								
留意事項	皆さんのこれまでの学校生活で、どのようなカリキュラムを受けてきたのか、教科内容、総合的な学習の時間での活動内容、道徳の時間での取組等、レポートなどでまとめることがあります。自分の経験を思い出し、発言できるようにしておきましょう。								
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み								
実践的教育									

授 業 名	教育課程総論 u (中・高・栄)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育課程とは何か	(学修内容) 授業を進めるうえでの留意点 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「教育課程」の意味を調べ、発表できるようにしておく。
第2回	カリキュラムの分類	(学修内容) これまでのカリキュラムの分類を概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第3回	カリキュラムと教育目標	(学修内容) リテラシーとコンピテンシーについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) OECDのEducation2030について調べ、発表できるようにしておく。
第4回	カリキュラムの編成原理	(学修内容) 系統主義と経験主義、スコープとシーケンスの違いについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第5回	中等教育のカリキュラム原理	(学修内容) 中学および高等学校におけるカリキュラム原理について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第6回	子どもの発達とカリキュラム	(学修内容) 発達の観点からカリキュラムを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 「合理的配慮」について調べ、発表できるようにしておく。
第7回	カリキュラムの社会学	(学修内容) 隠れたカリキュラムと社会・文化的再生産について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 「隠れたカリキュラム」について調べ、発表できるようにしておく。
第8回	カリキュラムを支える教育環境	(学修内容) 「開かれた学校づくり」や学習環境について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第9回	学習指導要領の変遷(1) 1947年～1958年改訂	(学修内容) 戦後間もない学習指導要領から、法的拘束力が付与された58年改訂まで概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第10回	学習指導要領の変遷(2) 1968年～1998年改訂	(学修内容) いわゆる「ゆとり教育」における学習指導要領について概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第11回	学習指導要領の変遷(3) 2008年～2017年改訂	(学修内容) 近年の学習指導要領の特徴について概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第12回	教科のカリキュラム	(学修内容) 家庭科および特別な教科道德のカリキュラムについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第13回	教科外のカリキュラム	(学修内容) 総合的な学習の時間、特別活動、生徒指導、進路指導について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第14回	教科のカリキュラムについて考える	(学修内容) 自分が取得予定の教科のカリキュラムについて発表する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 取得予定の教科のカリキュラムについて発表できるようにしておく。
第15回	まとめ 近年のカリキュラム改革の動向	(学修内容) 我が国のカリキュラム改革の動向について概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) 中教審答申などの資料をもとに、カリキュラム改革の動向について調べ、発表できるようにしておく。

授 業 名	教育課程総論 u (幼・小)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Outline of Curriculum			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>2020年前後を境に学習指導要領は大きく転換します。とりわけ、「主体的・対話的で、深い学び」といった教育方法にまで言及した改革は戦後初といってもよいと思います。今後は教師が子どもたちの学力や深度を見据え、どのようにカリキュラムを考えるのかといったカリキュラム・デザインを行う力が求められます。</p> <p>この授業では主に小学校における学習指導要領の変遷を概観し、学習課程がどのような原理で編成されているのか、諸外国のカリキュラムは我が国とどのような点で異なるのかについて学習します。また、幼稚園教育要領の変遷も概観し、小学校とどのような点に違いがみられるのかにも言及します。そこから、小学校教諭・幼稚園教諭として必要なカリキュラムの視点について学びを深めます。</p> <p>授業の後半では、取得予定の免許の校種ごとにグループをつくり、自分たちの取得予定の校種のカリキュラムの特徴についてプレゼンテーションを行います。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教育課程の編成・実施・評価・改善の過程(カリキュラムマネジメント)について説明できる。</p> <p>2) 学習指導要領の変遷と現行学習指導要領の求めるものやその内容について説明できる。</p> <p>3) 学習指導要領の内容を踏まえ、各自選んだテーマについて指導計画を作成できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	田中耕治著『よくわかる教育課程』第2版(ミネルヴァ書房)								
参 考 書	「小学校学習指導要領」「学習指導要領解説 総則編」「幼稚園教育要領」								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートについては次回解説を行います。 プレゼンテーションについてはその場で助言・指導を行います。								
留 意 事 項	皆さんのこれまでの学校生活で、どのようなカリキュラムを受けてきたのか、教科内容、総合的な学習の時間での活動内容、道徳の時間での取組等、レポートなどでまとめることがあります。自分の経験を思い出し、発言できるようにしておきましょう。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週水曜日の昼休み								
実践的教育									

授 業 名		教育課程総論 u (幼・小)
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育課程とは何か	(学修内容) 授業を進めるうえでの留意点 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「教育課程」の意味を調べ、発表できるようにしておく。
第2回	カリキュラムの分類	(学修内容) これまでのカリキュラムの分類を概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第3回	カリキュラムと教育目標	(学修内容) リテラシーとコンピテンシーについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) OECDのEducation2030について調べ、発表できるようにしておく。
第4回	カリキュラムの編成原理	(学修内容) 系統主義と経験主義、スコープとシーケンスの違いについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第5回	初等教育のカリキュラム原理	(学修内容) 小学校および幼稚園におけるカリキュラム原理について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第6回	子どもの発達とカリキュラム	(学修内容) 発達の観点からカリキュラムを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 「合理的配慮」について調べ、発表できるようにしておく。
第7回	カリキュラムの社会学	(学修内容) 隠れたカリキュラムと社会・文化的再生産について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 「隠れたカリキュラム」について調べ、発表できるようにしておく。
第8回	カリキュラムを支える教育環境	(学修内容) 「開かれた学校づくり」や学習環境について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第9回	学習指導要領の変遷(1) 1947年～1958年改訂	(学修内容) 戦後間もない学習指導要領から、法的拘束力が付与された58年改訂まで概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第10回	学習指導要領の変遷(2) 1968年～1998年改訂	(学修内容) いわゆる「ゆとり教育」における学習指導要領について概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第11回	学習指導要領の変遷(3) 2008年～2017年改訂	(学修内容) 近年の学習指導要領の特徴について概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第12回	教科のカリキュラム	(学修内容) 各教科および特別な教科道徳のカリキュラムについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第13回	教科外のカリキュラム	(学修内容) 総合的な学習の時間、特別活動、生活指導、キャリア教育について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 学校要覧作成に必要な資料を収集し、発表できるようにしておく。
第14回	小学校と幼稚園のカリキュラムの違いについて考える	(学修内容) 小学校と幼稚園のカリキュラムの違いについて発表する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 自分のグループの校種のカリキュラムについて調べ、発表できるように準備する。
第15回	まとめ 近年のカリキュラム改革の動向	(学修内容) 我が国のカリキュラム改革の動向について概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) 中教審答申などの資料をもとに、カリキュラム改革の動向について調べ、発表できるようにしておく。

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	家庭科は、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、より良い生活のあり方を考え、創造していく力を培う教科である。家庭科教育の成立経緯や教育政策、中学校・高等学校家庭科の教育内容の全体像を把握し、生活における現代的課題と家庭科教育の内容構成を考える。理解を深めるために、適宜ディスカッションを行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 「家庭科」の特徴と独自性、意義を理解できる。 3. 中学校・高等学校の「家庭科」の内容構成を理解できる。 3. 生活における現代的課題を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『実践的指導力をつける家庭科教育法』多々納道子・伊藤圭子編著【大学教育出版】								
参 考 書	中学校「新しい技術・家庭科 家庭分野」教科書(東京書籍)								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		中等教科教育法 (家庭)
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 現代社会における家庭科教育の意味	(学修内容) 科目の概要と授業の進め方、家庭科を学ぶ意義について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第2回	家庭科の歩み	(学修内容) 家庭科の歴史について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第3回	子どもの発達と家庭科の内容	(学修内容) 家庭科の内容と家庭科で育む資質について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第4回	家庭科の目標設定	(学修内容) 家庭科の目標と評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第5回	家庭科の授業の組み立て	(学修内容) 家庭科の授業の組み立てと教材研究について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	家庭科の特性と学習方法	(学修内容) アクティブ・ラーニングと家庭科の授業について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	家庭科の授業づくり	(学修内容) ユニバーサルデザインによる家庭科の授業について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	家庭科の授業環境	(学修内容) 授業の環境づくりと他の授業とのかかわりについて 適宜ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第9回	授業構成：家族・家庭生活	(学修内容) 家族・家庭生活分野の授業内容と課題 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第10回	授業構成：子どもの成長と発達	(学修内容) 子どもの成長と発達にかかわる分野の授業内容と課題 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第11回	授業構成：食生活	(学修内容) 食に関する授業内容と課題 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第12回	授業構成：衣生活	(学修内容) 衣生活に関わる授業内容と課題 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第13回	授業構成：住生活	(学修内容) 住まいに関わる授業内容と課題 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第14回	授業構成：消費生活と環境	(学修内容) 消費生活、環境問題に関する授業内容と課題 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第15回	これまでのまとめとディスカッション	(学修内容) 家庭科の特徴と内容構成のまとめ 適宜ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容をまとめておく

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>中学校・高等学校の学習指導要領の内容を理解する。さらに、「中等教科教育法 (家庭)」で明確化した生活に関わる現代的課題をふまえ、中学・高校家庭科で展開する授業構成を考える。理解を深め、実践力をつけるため、プレゼンテーションとディスカッションを行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. 学習指導要領を理解できる。 2. 家庭科で教える内容を理解できる。 3. 生活に関わる課題をふまえた授業構成を考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』文部科学省 開隆堂 中等教科教育法 (家庭) で使用した教科書								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		中等教科教育法 (家庭)
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 科目の内容と授業の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 中等教科教育法 の内容を振り返る
第2回	学習指導要領	(学修内容) 改訂の経緯と基本方針について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第3回	家庭分野の目標	(学修内容) 学習指導要領にみる家庭科の目標について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第4回	学習指導要領の理解: 家族・家庭生活	(学修内容) 家族・家庭・地域に関する授業内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第5回	学習指導要領の理解: 食生活	(学修内容) 食生活に関する授業内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	学習指導要領の理解: 衣生活・住生活	(学修内容) 衣生活・住生活に関する授業内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	学習指導要領の理解: 消費生活・環境	(学修内容) 消費生活・環境に関する授業内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	家族・家庭生活分野の教材研究	(学修内容) 家族・家庭生活分野の授業構成と教材について (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料の収集
第9回	家族・家庭生活分野の授業づくり	(学修内容) 家族・家庭生活分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備
第10回	食生活分野の教材研究	(学修内容) 食生活分野の授業構成と教材について (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料の収集
第11回	食生活分野の授業づくり	(学修内容) 食生活分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備
第12回	衣生活・住生活分野の教材研究	(学修内容) 衣生活・住生活分野の授業構成と教材について (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料の収集
第13回	衣生活・住生活分野の授業づくり	(学修内容) 衣生活・住生活分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備
第14回	消費生活・環境分野の教材研究	(学修内容) 消費生活・環境分野の授業構成と教材について (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料の収集
第15回	消費生活・環境分野の授業づくり	(学修内容) 消費生活・環境分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	守野 美佐子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	家庭科の特質を活かした学習計画を立て、領域ごとの講義、実習の効果的な指導できるように、基本事項を理解し、具体的な授業設計ができる力をつけ、深く学習指導計画の立案と展開、評価に関する実践的な力を習得する。授業を作る視点とその方法を理解し、教育現場に活かせる、家庭科教員としての指導能力と資質の育成を図る。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 実践的体験の学習を多く取り入れて授業が工夫できるようになる。 2) 生徒自身が学習意欲を持ち、主体的に取り組める家庭科模擬授業をすることができる。 3) 学習の評価を考えて指導計画が立てられる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	「新しい技術・家庭 家庭分野」東京書籍、「家庭総合」東京書籍 中等教科教育法 ・ (家庭) で使用した教科書								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削し講義時に返却する。模擬授業や教材研究の発表はその場で評価し助言する。レポートは採点し返却日に返却する。								
留 意 事 項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週、授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有								

授業名	中等教科教育法（家庭）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学習の動機付けとは	（学修内容）学習指導要領の確認 家庭科の目標と評価 指導法の特徴を復習する 生徒の学習動機を引き出す工夫を考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導要領の内容を復習しておく 生徒が家庭科を学ぶ動機を考えておく
第2回	参加型アクション志向学習法とは	（学修内容）参加型アクション志向学習法について学ぶ 視聴覚教材の活用や情報機器の活用についても学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 参加型学習法を調べてくる
第3回	実践例 家族・保育領域	（学修内容）家族・保育領域参加型アクション志向学習法 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 家族・保育領域の学習内容を復習しておく
第4回	実践例 食生活	（学修内容）食生活領域の参加型アクション志向学習法 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 食生活の領域の学習内容を復習しておく
第5回	実践例 衣生活・住生活	（学修内容）衣・住領域の参加型アクション志向学習法 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 衣生活・住生活の領域の学習内容を復習しておく
第6回	実践例 情報・環境	（学修内容）情報・環境領域の参加型アクション志向学習 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 情報・環境領域の学習内容を復習しておく
第7回	家庭科の教師としての資質、教育実習	（学修内容）教育実習に臨むにあたっての心構えと準備について話し合う （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習の目的、自分の目標を決めておく
第8回	実技、実習を含む授業の衛生と安全管理の指導	（学修内容）調理実習室や家庭科室の安全・衛生管理について考える 調理実習や被服製作実習の指導について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 実技・実習における事故と安全対策について考えておく 調理実習や被服製作の教材について考えておく
第9回	学習指導案の作成 消費生活	（学修内容）消費生活領域の主体的学習の計画 指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（60分） 消費生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第10回	学習指導案の作成 衣生活	（学修内容）衣生活領域の主体的学習の計画 指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（60分） 衣生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第11回	学習指導案の作成 住生活	（学修内容）住生活領域の生徒の主体的学習の計画 指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（60分） 住生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第12回	模擬授業 1回目 消費生活 数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業をする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第13回	模擬授業 2回目 衣生活 数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業をする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第14回	模擬授業 3回目 住生活 数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業をする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第15回	まとめ 学習集団とは	（学修内容）学習集団の保障と形成について考える （事前事後学修課題の内容）（30分） これまでの講義をふりかえっておく

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	守野 美佐子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	教育実習にむけて、具体的な授業教材についての研究とその準備を行う。また、学習効果を上げるため、生徒との学習場面での信頼関係の構築において配慮する点等を確認する。家庭科教育が担う使命を考える。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生徒自身の学習意欲を高め、主体的に考え取り組むことができるような授業の工夫ができるようになる。 2) 視聴覚教材や情報機器を効果的に活用して授業を計画することができる。 3) 生徒とのコミュニケーションのとりかたや、学習集団の形成についても考えることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()		プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	中等教科教育法 ・ ・ (家庭) で使用した教科書								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削し講義時に返却する。制作物等は採点し講義時に返却する。レポートは採点し返却日に返却する。								
留 意 事 項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週、授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有								

授業名	中等教科教育法（家庭）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育実習の準備	（学修内容）教育実習の準備 中・高の年間指導計画の立案例に学ぶ （事前事後学修課題の内容）（10分） 自分の教育実習の目標を書き出しておく
第2回	教育実習の準備 指導計画の立案	（学修内容）自身の教育実習で担当する領域について学習内容を確認し、指導計画をたてる （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習で担当する単元の内容に目を通しておく
第3回	教育実習の準備 指導詳案の作成	（学修内容）視聴覚教材や情報機器を活用した授業を視野に入れて、指導詳案を作成する （事前事後学修課題の内容）（15分） 指導案の書き方を復習しておく。教育実習で担当する単元の中での授業を考えて来る
第4回	教育実習の準備 指導詳案の発表と修正	（学修内容）指導詳案を発表し他者の意見を参考に修正する （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントの作成 視聴覚教材や情報機器を活用した授業を考えて来る
第5回	模擬授業1回目 2名	（学修内容）模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第6回	模擬授業2回目 2名	（学修内容）模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第7回	模擬授業3回目 2名	（学修内容）模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第8回	家庭科の学習集団の形成	（学修内容）実技や実習を通して主体的な学びを支援したい家庭科での、よりよい学習集団の形成に向けてディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（20分） 実技や実習時の注意点を復習しておく
第9回	教材研究 環境・消費	（学修内容）環境・消費についての領域で、シティズンシップ教育を軸として教材を考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 環境・消費者問題について復習しておく
第10回	教材研究 経済・生活設計	（学修内容）経済・生活設計についての領域で、将来生活を見通した生活の視点を軸として教材を考える （事前事後学修課題の内容）（30分） ライフサイクルについて復習しておく
第11回	教材研究 家族・保育	（学修内容）家族・保育の領域で、親となること、子どもと育ちあう家庭生活の視点をいれた教材を考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 子どもの生活環境について復習しておく
第12回	教育実習報告会 現場で気づいたこと	（学修内容）教育実習を終えてと題し、現場で気づいたことの報告と意見交換をし、今後の自身の課題を明確にする （事前事後学修課題の内容）（20分） 報告の準備をしてくる
第13回	教育実習報告会 研究授業報告	（学修内容）研究授業の報告と意見交換をし、生徒が学ぶ楽しさと充実感や達成感を得られる授業のあり方考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 自身の教育実習を振り返り、報告の準備をしてくる
第14回	家庭生活の抱える問題	（学修内容）現代の家庭生活の抱える問題について復習する 伝統と伝承について考える （事前事後学修課題の内容）（20分） これまでのふりかえりと、生活の中での伝統と伝承について、受け継ぎ伝え次ぐ必要のあることは何か考えておく
第15回	まとめ これからの家庭科の使命	（学修内容）これまでのまとめと、これからの家庭科の果たす使命について討議する （事前事後学修課題の内容）（30分） これまでのふりかえりと、家庭科の使命について考えておく

授 業 名	特別活動（中・高）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Special Activities			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤村 法子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、生徒の個性慎重を図ると同時に社会性の育成の場としての意義をもつ教育活動である。人としての生き方を学ぶ領域である。講義形式を中心に、グループワークや討議を取り入れ、学習指導要領や実践例をもとに、「特別活動」の教育課程上の位置づけ、基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）や、その教育的意義の理解を図る。特別活動の指導のあり方について、学級経営や生徒指導・ガイダンス機能との関連を踏まえながら理解を深める。簡単な指導計画を作成したり、模擬授業に取り組んだりする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解している。 2) 特別活動の目標と内容について理解している。 3) 特別活動の指導の基本を理解し、具体的な指導計画が立てられる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	文部科学省「中学校指導要領解説 特別活動編」「中学校学習指導要領解説 総則編」平成29年								
参 考 書	藤田晃之編 新学習指導要領の展開 特別活動編 明治図書 国立教育政策研究所 学級・学校文化を創る特別活動 東京書籍 適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	課題について次時に発表しディスカッションしたり、ミニレポート（ノート）に添削したりする。 毎時グループによる5分授業を課しており、模擬授業を行う。								
留 意 事 項	授業は教員学生双方で築き上げていくものであり、主体的、積極的な授業参画を求めていく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後 オフィスアワーを設ける。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市小学校教員38年（内教頭5年、校長10年、京都市教育委員会学校指導課3年）の実務経験有している。この間の生徒、教職員集団、保護者、地域の変容を目の当たりにしてきて、どのような力が各々に必要か研究してきた。中教審答申、学習指導要領の意味するところを実感してきており、教職志望の学生に、これからの生徒達に必要なとされる特別活動のありようを熱く伝えていく。								

授 業 名		特別活動（中・高）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育と特別活動	（学修内容）授業の進め方について知る。自己の経験してきた特別活動を想起する中で、学修課題を設定する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自己の経験してきた特別活動について考えてくる。
第2回	学校教育と特別活動	（学修内容）特別活動の基本的性格と教育的意義について、学習指導要領をもとに生徒の現状をも踏まえ理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領解説「特別活動編」P.1～5、P.23～29を読み重要と思えるところにラインをいれておく。
第3回	特別活動の目標と内容	（学修内容）改訂学習指導要領及び改訂に向けての中教審答申をもとに特別活動の目標と内容の概要を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領解説「特別活動編」P.5～22を読み、重要箇所と思われるところにラインを入れておく。
第4回	学級活動（ホームルーム活動）	（学修内容）「学級」という集団の教育的機能を視点に学級活動の目標と内容についての理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自己が経験してきたホームルーム活動を想起し、その役割について考えてくる。
第5回	学級活動（ホームルーム活動）	（学修内容）「学級づくり」について具体的な方法を通して、合意形成に向けた話し合い、意思決定、集団活動の意義の理解を図る指導のあり方を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「学級づくり」のためのコミュニケーションゲーム等を調べてくる。学習指導要領P.20～22までを読んで重要箇所にラインを入れておく。
第6回	生徒会活動	（学修内容）自治能力を育てるための「生徒会活動」の具体的な進め方について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領解説「特別活動編」の生徒会活動（P.71～77）の箇所を読み重要部分にラインを入れておく。
第7回	学校行事	（学修内容）学校行事（儀式的行事、文化的行事、体育的行事、宿泊的行事、奉仕的行事等）についての目標や具体的な指導についての理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領解説「特別活動編」の該当する箇所の下調べをしておく。
第8回	学校行事	（学修内容）学校行事の簡単な指導計画を作成し発表する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学校行事の中で特に興味のある行事についての指導計画を考えてくる。
第9回	特別活動と道徳、生徒指導	（学修内容）特別活動と道徳の関連について、道徳的実践指導の場としての視点から考える。生徒指導の機能を活かした特別活動の実践についても考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 中・高生の問題行動の現状について調べてくる。
第10回	キャリア形成と特別活動	（学修内容）キャリア形成に生きる特別活動の役割から、教育相談、進路相談等ガイダンス機能、インターンシップ、ボランティア等について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自己の経験してきたボランティア活動で学べたことをまとめてくる。
第11回	学級経営と特別活動	（学修内容）これまでの学習をもとに特別活動の機能を生かした学級経営について考える。（学級経営案の作成） （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領P.114～116までを読んで、どのような学級を作りたいか考えてくる。
第12回	学級経営と特別活動	（学修内容）学級づくりに生かす学級活動を考え、学習指導案を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学級活動の実践事例を調べてくる。 学級活動案を仕上げる。
第13回	学級経営と特別活動	（学修内容）学級活動の模擬授業 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導案の検討 教材準備（60分）
第14回	特別活動の評価	（学修内容）特別活動の評価の意義とその方法P-D-C-Aのマネジメントについての理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自身が受けてきた評価についてその意義や効果を考えまとめてくる。
第15回	まとめ	（学修内容）これからの特別活動のあり方について「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チーム学校」の視点からまとめる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 今までの学修ノートを読み返し重要事項をまとめておく。

授 業 名	特別活動（小）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Special Activities			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤村 法子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、児童の個性伸長を図るとともに社会性の育成の場としての意義を持つ教育活動である。人間としての生き方を学ぶ領域である。講義を中心に、グループワークや討議を取り入れ、学習指導要領を基に、教育課程上の位置づけ、特別活動の基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）及びその教育的意義の理解を図る。同時に、特別活動の指導のあり方について、学級経営や生徒指導との関連を踏まえながらその理解を深める。簡単な指導計画を作成したり、模擬授業に取り組んだりする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解している。 2) 特別活動の目標と内容について理解している。 3) 特別活動の実践的な指導の基本を理解し、簡単な指導計画が立てられる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	<p>文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」平成29年 文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」</p>								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	<p>課題については、次時に発表ディスカッションをしたり、ノート提出後添削をし返却する。 毎時5分間授業をグループに順番に課しており、前時に準備をしておき、当番時に実践する。</p>								
留 意 事 項	授業は教員学生双方で築き上げていくものであり、主体的、積極的な授業参画を求めていく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後 オフィスアワーを設ける。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：京都市小学校教員38年（内教頭5年、校長10年、京都市教育委員会学校指導課3年）の経験の中で、子ども、保護者、学校、地域の変容を実感する中で、各々にどのような力を育成していかねばならないか研究実践してきた。中教審答申・学習指導要領の意味するところを実感を伴い伝えると同時に、これからの特別活動の有り様について、教職を志望する学生と共にその解を求めていく。</p>								

授 業 名	特別活動（小）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育と特別活動	（学修内容）授業の進め方について知る。自己の経験してきた特別活動を想起する中で、学修課題を設定する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自己の経験してきた特別活動について考えてくる。
第2回	学校教育と特別活動	（学修内容）特別活動の基本的性格と教育的意義について児童の現状や学習指導要領をもとに理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領解説「特別活動編」第2章第1節の下調べをしておく。重要箇所にはラインを入れておく。
第3回	特別活動の目標と内容	（学修内容）改訂学習指導要領及び改訂に向けての中教審答申をもとに特別活動の目標と内容を概観する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領解説「特別活動編」第1章、第2章第2節の下調べをしておく。重要箇所にはラインを入れておく。
第4回	学級活動	（学修内容）学級集団の教育的機能を視点に学級活動の目標と内容についての理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自己の経験してきた学級活動で印象に残っていることをまとめてくる。
第5回	学級活動	（学修内容）学級活動における、合意形成に向けた話し合いや、意思決定について、またその実践についての具体的な指導法について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領第3章第1節の下調べをしておく。「学級づくり」のためのコミュニケーションゲーム等を調べておく。
第6回	学校行事	（学修内容）学校行事の目標と内容（儀式的行事、文化的行事、体育・健康安全的行事、遠足・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事）等の理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学校行事の5類の中で特に興味のある行事について、内容やねらいを調べてくる。（60分）
第7回	学校行事	（学修内容）学校行事の簡単な指導計画を作成し発表する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前時の学校行事の指導計画を発表するための準備をしてくる。（60分）
第8回	児童会活動 クラブ活動	（学修内容）児童会活動、クラブ活動の意義と指導の在り方について考え、具体的な活動計画を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自己の経験を想起し「クラブ活動から学んだこと」をまとめてくる。
第9回	道徳・生徒指導と特別活動	（学修内容）道徳的実践指導の場としての特別活動、児童理解の場としての特別活動のありようを考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 小学生の問題行動や教育課題について調べてくる。
第10回	指導計画の作成にあたっての配慮事項	（学修内容）特別活動の全体計画、年間指導計画の作成についての意義と配慮事項についての理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領解説「特別活動編」第4章第1節1項について下調べをし、全体計画の必要性を考えてくる。
第11回	学級活動と学級経営	（学修内容）学級集団の教育的意義について理解を図り、学級経営における学級活動の果たす役割について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領P.143～P.145を読み、どのような学級を作りたいか考えてくる。
第12回	学級活動と学級経営	（学修内容）学級づくりに生かす学級活動を考え、具体的な学習指導案を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表のための準備をしておく。
第13回	学級活動と学級経営	（学修内容）前時の「学級活動」の模擬授業を実践し、授業省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表のための教材研究、準備をしておく。
第14回	特別活動の評価	（学修内容）特別活動の評価の意義とその方法PDCAサイクルについての理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 評価はなぜ必要か、どんな方法があるか調べてくる。
第15回	まとめ	（学修内容）「これからの特別活動のあり方について」「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チーム学校」の視点からまとめる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 今までの学修ノートを読み返し、重要事項をまとめておく。

授 業 名	特別活動（道徳を含む。）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Special Activities (Moral Education)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	毛利 豊和			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>子どもたちは将来集団社会の中で生きる。集団社会の中でよりよく生きる力の育成として、「企画運営力とコミュニケーション力」は不可欠。学校教育における特別活動では、この2視点を自治的活動・実践活動を中心とした学習の中で進めていく。</p> <p>特別活動は、学校生活を円滑に進め、コミュニケーション能力を高めるためだけでなく、一人ひとりの心身の成長にも大きな力を与え、生きる力の育成の中心となるものである。講義形式の授業だけでなく、グループ活動やエンカウンター学習等を通して、学校における特別活動の意義と役割を理解する。また、道徳教育についても学習指導要領を理解し、実践例を体感し、今日の学校教育における道徳教育のあり方・指導方法・評価方法等についてのスキルを身につける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1．特別活動（道徳）の目標や意義を理解し、維新の主体者としての自覚を持つことが出来る。</p> <p>2．特別活動（道徳）の具体的実践についての指導案を書くことが出来る。</p> <p>3．特別活動（道徳）についての自分自身の思いを5分程度でプレゼンテーションできる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	「先生が楽しい！道徳授業の作り方」三晃出版 著者：毛利豊和 ¥1500 - (平成31年3月29日 出版)								
参 考 書	<p>小中学校学習指導要領 解説 特別活動編 文部科学省 H29年7月</p> <p>小中学校学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編 文部科学省 H29年7月</p>								
課題に対する フィードバック の方法	レポートは返還。 スピーチ学習は授業中のコメント評価。 テストは希望者に返還。								
留 意 事 項	特になし								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業前後、講師控室。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：実践してきた授業を模擬授業として紹介し、道徳授業を実感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校道徳授業・中学校道徳授業・特別活動授業 <p>実践してきた取り組みを紹介し、地域保護者との連携を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会・学校運営（掲示物等）・家庭教育学級 								

授 業 名		特別活動（道徳を含む。）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学習計画 特別活動 道徳教育 の目標と意義	(学修内容) <理論>特別活動 道徳教育 の目標と意義を理解する <実践例とスキル>特別活動:(孔子)道徳教育:(新垣結衣) (事前事後学修課題の内容)(15分) 教科書P7、8・指導要録解説(特別活動)P11
第2回	特別活動 学級活動の3領域(1) 道徳教育 魅力と意義	(学修内容) <理論>学級活動の3領域における生活作りへの参画<実践例とスキル> >*係活動・委員会活動*おしゃべりゲーム (事前事後学修課題の内容)(15分) 教科書P9~12・指導要録解説(特別活動)P43~45
第3回	特別活動 学級活動の3領域(2) 道徳教育 有名人に学ぶ	(学修内容) <理論>学級活動の3領域を理解する(2)日常生活や学習への適応と 自己の成長及び健康安全<実践例とスキル>*給食指導 *長谷部誠 (事前事後学修課題の内容)(15分) 教科書P28~31・指導要録解説(特別活動)P46、47
第4回	特別活動 学級活動の3領域(3) 道徳教育 名も無き人に学ぶ	(学修内容) <理論>学級活動の3領域を理解する(3)一人一人のキャリア形成と 自己実現<実践例とスキル>*総合学習と特別活動 *100人の夢 (事前事後学修課題の内容)(15分) 教科書P42、43・指導要録解説(特別活動)P46、47
第5回	特別活動 児童会活動 クラブ活動	(学修内容) <理論>児童会活動・クラブ活動目標と意義を理解する<実践例とスキル> >*代表委員会の議題*クラブ活動を考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材収集・整理
第6回	特別活動 学校行事 特別活動と各教科、道徳科 道徳教育 他教科における道徳的指導	(学修内容) <理論>学校行事の目標と意義 特別活動と各教科、道徳科 <実践例 とスキル> 各教科と道徳的 *運動会*宿泊学習(エンカウンター) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P136、137・指導要録解説(特別活動)P149 教材収集・整理
第7回	特別活動 集会活動の進め方 道徳教育 スピーチ学習「身の回りの教材」	(学修内容)集会活動スキル:司会・会場設営・掲示物等 友人に学ぶ*スピーチ学習「身の回りの教材」 (事前事後学修課題の内容)(30分) スピーチ学習を計画する
第8回	道徳教育 道徳の時間と道徳教育の違い 道徳の時間の教材	(学修内容) <理論>教材が持つ条件・教科書教材と自作教材<実践例とスキル>* 読み物教材:いい話*補助教材(まさかの教材):ポスター・漢字 (事前事後学修課題の内容)(15分) 教科書P60、61
第9回	道徳教育 領域A 自分のことに関すること	(学修内容) <理論>多様なものの見方・社会の一員<実践例とスキル>*りんご* パラリンピック (事前事後学修課題の内容)(15分) 教科書P14、15
第10回	道徳教育 領域B 他の人との関わりに関すること	(学修内容) <理論>思いやり・多様な教材<実践例とスキル>*アニメに学ぶ:(ドラえもん)*CMに学ぶ:ジョージアコーヒー・AU三太郎 (事前事後学修課題の内容)(15分) 教科書P16、17
第11回	道徳教育 領域C 集団社会との関わりに関すること	(学修内容) <理論>家族愛・身の回りの教材・先人の知恵<実践例とスキル> *読み物教材 *まさかの教材*先人の知恵:ゲゲゲの鬼太郎 (事前事後学修課題の内容)(15分) 教科書P18、19
第12回	道徳教育 領域D 生命や自然、崇高なものとの関わりに関 すること	(学修内容) <理論>自然愛護・感動資料<実践例とスキル>*自然との共生:屋久 杉・りんご・人ふみ10年*奇跡の逆転:高校野球決勝戦 (事前事後学修課題の内容)(15分) 教科書P20、21
第13回	道徳教育 道徳の時間の作り方・評価 特別活動 評価	(学修内容) <理論>道徳の時間の流れ・評価・自作資料の作り方<実践例とスキル> >*1回読み・2回読み・中心発問*板書・基本君 *評価 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P134・指導要録解説(特別活動)P162
第14回	特別活動 友人に学ぶ「スピーチ学習」	(学修内容)友人に学ぶ*スピーチ学習「主体的対話的で深い学び」*リーダーシ ップとフォロアシップ (事前事後学修課題の内容)(15分) スピーチ学習振り返り
第15回	特別活動 まとめとテスト 道徳教育 まとめとテスト	(学修内容)特別活動・道徳教育もまとめとテスト 目標・意義・魅力を振り返る (事前事後学修課題の内容)(15分) 教科書P3・P166

授 業 名	教育実習事前・事後指導 u a (中・高)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的など、その意義を理解するとともに、実習への心構えを確かなものにする。実習に備えて、指導案作成、模擬授業及び児童生徒理解につながるロールプレイ等を通して実習に臨むために必要な力を身につける。実習校の学校組織や教育目標、重点取り組み等の理解を図る中で、実習に向けての自己の課題を明らかにする。ビデオを見たり、グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えを發表することができる。 2) 教育実習に臨むにあたり、学習指導、児童生徒理解、学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解し、説明することができる。 3) 必要な教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (55 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (45 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (学習指導案作成能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	京都華頂大学教職課程編『教育実習事前事後指導テキスト』								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。校種別に活動することもある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授業名	教育実習事前・事後指導 u a (中・高)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業のねらい、進め方を知る。介護等体験を含め、教育実習の意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育の目的 学校文化の理解	(学修内容) 学校教育の目的・学校組織・教師の職務等を再認識する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付されたテキストの1章をよく読んでおくこと。
第3回	教師に求められる資質・能力	(学修内容) 各学校段階に求められる教師の資質・能力について、共通するものと異なるものを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テーマについて、既存の知識をまとめておく。
第4回	生徒理解	(学修内容) 生徒理解および生徒指導についての基本認識を確かなものにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所の下調べをしておく。
第5回	人権と教育	(学修内容) 「人権と教育」について、発達障害の生徒の理解を中心に考える。支援を要する生徒への指導の在り方についてグループ討議を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発達障害について調べてくる。
第6回	教育実習報告会	(学修内容) 上級生の実習報告を聴講し、実習に向けての心構えを構築する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) これまでの授業を振り返り、実習の意義を確認する。
第7回	観察実習記録の取り方	(学修内容) 観察実習の意義と記録の取り方、授業省察について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業記録(資料)を読み、記録の取り方を考えてくる。
第8回	実習記録作成と省察	(学修内容) 実際の授業を観察し、記録を作成し、グループで省察する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 前回の授業ポイントを整理しておく。
第9回	指導案作成の方法	(学修内容) 学習指導案の意義とその作成法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業をする教科や活動の教材研究
第10回	指導案作成の実際	(学修内容) グループごとに学習指導案の作成、教材研究をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自で学習指導案の構想を立ててくる。
第11回	模擬授業と教材研究	(学修内容) グループ毎に模擬授業をし、その省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案を完成してくる。
第12回	模擬授業と教材研究	(学修内容) 授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第13回	模擬授業と教材研究	(学修内容) 授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第14回	教師とコミュニケーション能力	(学修内容) 実習校でのオリエンテーションを想定し、コミュニケーション能力を高める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習カードを作成してくる。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返り、4春の教育実習に向けての自己の課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習ノートの該当箇所を考えてくる。

授業名	教育実習事前・事後指導 u a (幼・小)			開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	松浦 真理・林 静香・加藤 倫子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	教育実習事前事後指導は、教育実習に臨む心構えを確かなものにするために、演習形式の授業を通して、教員として求められる姿勢や態度、知識、技能の基本を身につけることを目的とする。具体的には、学習指導要領や幼稚園教育要領などに基づいて、教員として必要な要件を確認したのち、子ども理解の基本を復習する。学校現場での観察、指導案作成、模擬授業などによって実践力をつけていく。								
学修成果到達目標	1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。 2) 教育実習に臨むにあたり、子どもの発達段階や関わり方、学級経営の基本を理解し、保育・学習指導計画を立てることができる。 3) 教育実習に向けての自己の課題を明確にし、実習に必要な基本的実践力を身につける。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	小学校学習指導要領総則、幼稚園教育要領、『京都華頂大学教職課程4年間の学び』、「教育実習ノート」								
参考書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	グループ討議の発表や個人・グループの発表後には必ずコメントやアドバイスをする。提出物については、翌週にコメントや解説をする。								
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。校種別に活動することもある。								
オフィスアワー	所定の日時を掲示するので、できるだけその時間に来ること。その他メールでのアポイントや質問は随時受け付ける。非常勤教員については授業後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：担当者のうち1名は天津市の療育センター勤務経験がある。非常勤教員は天津市公立幼稚園園長および教育委員会勤務経験がある。								

授業名	教育実習事前・事後指導 u a (幼・小)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業のねらい、進め方を知る。介護等体験を含め、教育実習の意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認し、(ある場合は)これまでの実習について振り返る。
第2回	学校文化の理解	(学修内容) 学校教育の目的・学校組織・教員の職務等を再認識する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自の経験から学校文化について整理しておく。
第3回	教員に求められる資質・能力	(学修内容) 各学校段階に求められる教員の資質・能力について、共通するものと異なるものを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教員にとって大切資質能力を最低10項目あげておく。
第4回	子ども理解	(学修内容) 幼児理解および生徒指導についての基本認識を確かなものにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 小学校学習指導要領総則、幼稚園教育要領からそれぞれの時期の子どもの特性を考えておく。
第5回	人権と教育	(学修内容) 子どもの一人一人の背景を多面的に見ることを通して、子どもの人権について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 困りを持った子ども、虐待が疑われる子ども、性に関する困りを持った子どもなど人権に関する諸問題についてわかる範囲で調べてくる。
第6回	教育実習報告会	(学修内容) 上級生の実習報告を聴講し、実習に向けての心構えを構築する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) これまでの授業を振り返り、実習の意義を確認する。事後課題として、発表から自分なりの課題を整理してみる。
第7回	観察実習記録の取り方	(学修内容) 観察実習の意義と記録の取り方、授業省察について理解する。ビデオなどの視聴を通して実際の記録を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業記録(資料)を読み、記録の取り方を考えてくる。
第8回	実習記録作成と省察	(学修内容) 実際の授業を観察し、記録を作成し、グループで省察する。(幼稚園実習予定者は華頂幼稚園での観察実習を行う。) (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業ポイントを整理しておく。
第9回	指導案作成の方法	(学修内容) 学習指導案の意義とその作成法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業をする教科や活動の教材研究
第10回	指導案作成の実際	(学修内容) グループごとに学習指導案の作成、教材研究をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自で学習指導案の構想を立ててくる。
第11回	第1グループによる模擬授業と教材研究(校種別で実施)	(学修内容) グループ毎に模擬授業をし、その省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案を完成してくる。
第12回	第2グループによる模擬授業と教材研究(校種別で実施)	(学修内容) 授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第13回	第3グループによる模擬授業と教材研究(校種別で実施)	(学修内容) 授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第14回	教員とコミュニケーション能力	(学修内容) 実習校でのオリエンテーションを想定し、コミュニケーション能力を高める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) オリエンテーションで知りたい情報について書きあげてくる
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返り、4春の教育実習に向けての自己の課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習ノートの該当箇所を考えてくる。

授 業 名	教育実習事前・事後指導 u b (中・高)			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的、課題を理解するとともに、指導案作成の方法や学校組織の理解、教科外指導のあり方等、実習に臨むために必要な力を身につける。実習後には、各自が実習を振り返り反省し、実習の結果を踏まえた教材研究並びに指導案の再検討など今後の課題を明らかにする。グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えを発表することができる。 2) 教育実習に臨むにあたり、学習指導、児童生徒理解、学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解し、説明することができる。 3) 教育実習に向けての自己の課題を明確にし、論述することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学习支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (55 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (45 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (授業力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	京都華頂大学教職課程編『教育実習事前事後指導テキスト』								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	主体的、積極的授業参画を求める。校種別に活動することもある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		教育実習事前・事後指導 u b (中・高)
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業のねらい、進め方を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストを読み返しておく
第2回	実習目標の策定	(学修内容) オリエンテーションに際しての注意事項を確認すると同時に、自己の実習目標を確かなものにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習生カードを仕上げておく。
第3回	オリエンテーション計画	(学修内容) オリエンテーションに際して実習校についての理解を図る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習校の概要について調べておく。
第4回	オリエンテーション結果考察	(学修内容) オリエンテーションの結果交流を図ることにより、さらに課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) オリエンテーション報告を作成しておく。
第5回	模擬学級指導	(学修内容) 実習校での子どもへの自己紹介等の模擬指導の実践及び省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学級指導の略案を立ててくる。
第6回	授業実践	(学修内容) 略案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教材研究 略案の作成。
第7回	生徒実践的理解	(学修内容) 生徒の参与観察をし、その省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 生徒の観察記録の作成
第8回	授業実践	(学修内容) 細案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教材研究 学習指導案の作成
第9回	生徒実践的理解	(学修内容) 生徒の参与観察及びその省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 生徒の観察記録の作成。
第10回	教育実習の振り返り	(学修内容) 教育実習ノートをもとに実習の振り返り(主に教科指導)その成果と課題を明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習ノートの内容を確認する。
第11回	教育実習の振り返り	(学修内容) 教育実習ノートをもとに実習の振り返り(主に児童・生徒理解)その成果と課題を明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習ノートの内容を確認する。
第12回	教育実習報告会に向けて	(学修内容) 実習報告会の計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習ノートをもとに報告する内容を考える。
第13回	教育実習報告会に向けて	(学修内容) 教育実習報告会の発表資料を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習ノートや成果物などを読み返し、資料作成の準備をする。
第14回	教育実習から学んだこと	(学修内容) 教育実習の振り返り及び教育実習報告会から自己の成果と課題を再度考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 成果物を整理する。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる (事前事後学修課題の内容) (30分) 履修カルテを作成する。

授 業 名	教育実習事前・事後指導 u b (幼・小)			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松浦 真理・林 静香・加藤 倫子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	教育実習事前・事後指導ua(3回生担当)に引き続き、目前の教育実習に向けた、より個別的・具体的な指導を行うことが目的である。実習後には、各自が実習を振り返って、課題を見出し、さらに良い教員を目指して、身につけるべき知識・技能を明らかにする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。 2) 教育実習に臨むにあたり、幼児・児童生徒の理解、保育・学習指導、学級経営、学校組織のあり方等の基礎的・基本的な事柄を理解し、主体的に実習に向けて態度や行動をとることができる。 3) 教育実習に向けての自己の課題を明確にすることができる。 4) 上記1)や2)の観点から客観的に実習を振り返り、教員になるための自分の長所や課題などを明確にすることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	「教育実習ノート」のほか、必要な資料を適宜配布する								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	個人やグループでのプレゼンテーションなどはその場でコメントやアドバイスを。提出物は翌週に解説やコメントをする。								
留 意 事 項	主体的、積極的授業参画を求める。校種別に活動することもある。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室に日時を貼り出すので、できるだけその時間に来ること。メールでのアポイントや質問は随時受け付ける。非常勤教員については授業後に設定する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：担当者のうち1名は天津市の療育センター勤務経験がある。非常勤教員は、天津市公立幼稚園園長および教育委員会勤務経験者である。								

授 業 名		教育実習事前・事後指導 u b (幼・小)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の目的、進め方を確認し、実習に向けての課題を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習事前・事後指導uaの最終講で作成した、課題を見直しておく。	
第2回	実習意義の確認と実習生カードの作成	(学修内容) 教員にとって大切な資質能力などについて再確認し、実習生カードを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 実習生カード作成のため、所有する資格や健康状態、ピアノレベルなどの正確な状況を把握しておく。	
第3回	オリエンテーションのねらい	(学修内容) 実習前オリエンテーションについて、その意味を知り、事前準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習校の概要について調べておく。	
第4回	オリエンテーション事後確認と実習直前準備	(学修内容) オリエンテーション後の確認作業をもとに、実習前の最終準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習ノートの該当部分にオリエンテーション報告を記述しておく。	
第5回	学級観察と子ども理解	(学修内容) 実習校に溶け込もうとし、配属学級における授業や子どもの活動観察とその省察を行う。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 担当教員の授業記録をとり、授業の略案をたてる。	
第6回	授業実践	(学修内容) 略案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 部分的な実習や略案による授業実践のためのシミュレーションなどをしておく。	
第7回	児童・生徒実践的理解	(学修内容) 教員と子どもの関係性の理解、子ども同士の関係性の理解。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 児童・生徒の観察記録の作成。	
第8回	授業実践	(学修内容) 細案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 教材研究 学習指導案の作成。	
第9回	実習直後の振り返り	(学修内容) 実習直後の記憶を頼りに、自己設定目標との差異を明確にし、そのために必要な今後の課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 振り返りシートの作成。	
第10回	実習記録の振り返り	(学修内容) 教育実習ノートをもとに、一定時間経過後の実習を振り返り(主に教科指導や研究保育などの)成果と課題を明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 返却された実習ノートの記述から振り返りを整理しておく。	
第11回	グループによる振り返りの共有	(学修内容) グループによる話し合いをそれらのプレゼンテーションによって、自分たちの現状を把握し、課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 振り返りシートと教育実習ノートの持参、事前課題をしておく。	
第12回	教育実習報告会の計画立案	(学修内容) 実習報告会の計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習ノートなどから報告会のためのテーマを考える。	
第13回	教育実習報告会の資料作成	(学修内容) 教育実習報告会の発表資料の作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テーマ別の事前課題をグループでしておく。	
第14回	報告会の具体的な役割分担とシュミレーション	(学修内容) 先週に引き続き、資料を作成すると同時に、主体的な報告会を進めるための下準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループごとに役割を分け、プログラムなどの作成案をつくっておく。	
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 履修カルテの実習部分を記述しておく。	

授業名	教職実践演習(中・高)			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Teaching Practice(Junior High School・High School)			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>教職実践演習は、教員養成課程全体を通して、教員として適切な最小限度の資質能力を有機的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。これまで身につけた資質能力を、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、確実なものとすることを目的としている。中学生・高校生の発達特性を踏まえ、現代社会の諸課題とも照らし合わせながら、個々の学生に応じた指導を行う。ビデオを見たり、グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教師として必要な教科指導力について理解し、主体的で対話的な学びを促す授業のための学習指導案を作成することができる。 2) 教師として必要な生徒指導力や学級経営力について理解し、学級経営に対する自己の見解を説明することができる。 3) 教育実習の成果と課題についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (55%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (45%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	授業中に指示する。								
参考書	授業中に指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	「教師を目指すため」の演習であるから、子どもの前に立つ人間としての姿勢を示すべく、主体的な授業参画を求める。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授業名	教職実践演習(中・高)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 演習の意義とその進め方を理解する。履修カルテに記入する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 履修カルテの整理をしておくこと。
第2回	自己のこれからの研修課題	(学修内容) 教職の意義、教員の役割、職務内容、子どもに対する責任など、実習から気づいたこと、考えたことを振り返る。(グループ討議) (事前事後学修課題の内容)(30分) 自己の課題をまとめておくこと。
第3回	社会性や対人関係能力についての振り返り	(学修内容) 教員組織の一員としての自覚、保護者・地域の関係者との人間関係について考える。(グループ討議) (事前事後学修課題の内容)(30分) 課題についての自己の経験をまとめておくこと。
第4回	生徒理解、授業づくりについての振り返り	(学修内容) 生徒理解、授業づくりについて振り返る。(グループ討議) (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習校の生徒観をまとめておくこと。
第5回	教育実習報告会	(学修内容) 教育実習を振り返り、教育実習の概要や実習の成果・課題について発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教育実習の概要、実習の成果や課題をまとめた発表資料を作成しておくこと。
第6回	生徒理解と場面指導	(学修内容) 実際の生徒指導についてロールプレーやグループ討議を通して考える。(いじめ等) (事前事後学修課題の内容)(30分) 課題について効果的な指導法を調べてくる。
第7回	生徒理解と学級経営	(学修内容) 生徒同士の人間関係づくり、学習ルールの確立などを考えた学級経営案を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学級のルールや教室経営について調べる。
第8回	現在の教育課題について	(学修内容) 教育委員会より講師を招き、「現在の教育課題について」の講義を受け、授業法について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教育実習の授業省察をまとめておく。
第9回	生徒理解と教育方法(特別な支援を要する子どもへの教育支援について)	(学修内容) マルチメディアコンテンツ製作を通して、特別な支援を要する子どもへの教育支援の在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習校の特別支援教育の内容についてまとめておくこと。
第10回	これからの教師に求められる資質・能力について	(学修内容) 教育委員会より講師を招き、「これからの教師に求められる資質・能力について」の講義を受け、求められる教師像について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教育委員会HPを調べ、求められる教師像についてまとめておくこと。
第11回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業の実施 相互評価、省察をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究、学習指導案の作成。
第12回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業の実施 相互評価、省察をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究、学習指導案の作成。
第13回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業の実施 相互評価、省察をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究、学習指導案の作成。
第14回	教師と保護者の関係づくりについて	(学修内容) 教師と保護者の関係づくりについてロールプレイやグループ討議を通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 家庭との連携の必要性について考えておくこと。
第15回	まとめ	(学修内容) 演習のまとめをする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 履修カルテへの記入を済ませておくこと。

授 業 名	初等科教育法（国語）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Elementary School Students (Japanese)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	遠藤 純			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>小学校国語科の教科専門の力を育てることを目的に、国語科教育について学ぶ。小学校国語科の内容について解説、物語・民話・説明文等の構造と特徴、教材として扱う目的と留意点、読解の方法等をふまえて、実際に教材研究および模擬授業を実施することで、小学校における国語科授業の実践的スキルを身につける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 小学校国語科教育の目標・内容・方法・評価について理解することができる。 2) 小学校国語科の授業を計画・立案・実施することができる。 3) 模擬授業を通して、発問や板書など授業プランを自ら立案することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業開始時に別途指示する。								
参 考 書	授業開始時に別途指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	毎回実施する小レポートについては、次回の授業時にその要点を整理して説明する。								
留 意 事 項	実習や演習形式が主となる。積極的な受講態度で臨むこと。下記シラバスに記載されている実践教材名は予定であり、受講生の要望等により変更することがある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の初回時に時間およびメールアドレスについて連絡する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		初等科教育法（国語）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業の概要と目標	（学修内容）授業の目的や趣旨、内容、具体的な取り組みについて詳述する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前にシラバスを読み、授業の概要を把握しておくこと。
第2回	国語科教育とは何か	（学修内容）国語科教育の全体像、領域、範囲について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（45分） あらためて学習指導要領の国語を読んでおく。
第3回	学習指導案の作成	（学修内容）国語科学習指導案の作成について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導案作成の方法について学習しておく。
第4回	教材研究の内容と方法	（学修内容）教材研究の内容および方法について学び、実践事例を収集して教材研究を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 実践事例の収集方法について調べておく。
第5回	模擬授業の実践 「スイミー」	（学修内容）「スイミー」の模擬授業を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「スイミー」の教材文を読み、授業プランについて考えておくこと。
第6回	模擬授業の実践 「かさこじぞう」	（学修内容）「かさこじぞう」の模擬授業を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「かさこじぞう」の教材文を読み、授業プランについて考えておくこと。
第7回	模擬授業の実践 「わらぐつのなかの神さま」	（学修内容）「わらぐつのなかの神さま」の模擬授業を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「わらぐつのなかの神さま」の教材文を読み、授業プランについて考えておくこと。
第8回	模擬授業の実践 「おてがみ」	（学修内容）「おてがみ」の模擬授業を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「おてがみ」の教材文を読み、授業プランについて考えておくこと。
第9回	模擬授業の実践 「ひとつの花」	（学修内容）「ひとつの花」の模擬授業を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「ひとつの花」の教材文を読み、授業プランについて考えておくこと。
第10回	模擬授業の実践 「ちいちゃんのかげおくり」	（学修内容）「ちいちゃんのかげおくり」の模擬授業を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「ちいちゃんのかげおくり」の教材文を読み、授業プランについて考えておくこと。
第11回	模擬授業の実践 「モチモチの木」	（学修内容）「モチモチの木」の模擬授業を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「モチモチの木」の教材文を読み、授業プランについて考えておくこと。
第12回	模擬授業の実践 「スーホの白い馬」	（学修内容）「スーホの白い馬」の模擬授業を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「スーホの白い馬」の教材文を読み、授業プランについて考えておくこと。
第13回	模擬授業の実践 「ごんぎつね」	（学修内容）「ごんぎつね」の模擬授業を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「ごんぎつね」の教材文を読み、授業プランについて考えておくこと。
第14回	模擬授業の実践 「ありのぎょうれつ」	（学修内容）「ありのぎょうれつ」の模擬授業を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「ありのぎょうれつ」の教材文を読み、授業プランについて考えておくこと。
第15回	授業のまとめ	（学修内容）全授業をふりかえり、学んだことの総括とまとめを行う。 （事前事後学修課題の内容）（45分） 全授業をふりかえり、自分なりの総括をまとめをしておくこと。

授 業 名	初等科教育法（社会）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Elementary School Students (Social Studies)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	木全 清博			対 象 学 生	現代家政3回生				
授 業 の 概 要	<p>1) 小学校社会科の本質・目標等について論述するとともに、歴史的な変遷を踏まえて、今日的な社会科の諸課題について考察する。</p> <p>2) 学習指導案の作成や模擬授業等の作業を組み込みながら、授業づくりの方法を体験的に学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 社会科の成立の歴史を理解して、学習指導要領の内容や民間社会科を説明できる。</p> <p>2) 目標と内容構成と授業展開を工夫した学習指導案が書けるようになる。</p> <p>3) 社会科の授業設計について模擬授業を行うなかで、自分なりの見通しが持てるようになる。 他の人の模擬授業を受けて、自分なりに批評ができるようになる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	適宜配布するプリント資料を使って講義・模擬授業を行う								
参 考 書	<p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社 2018年3月</p> <p>臼井嘉一監修『戦後日本の教育実践』三恵社 2013年</p> <p>前田賢次他編『学力と教育課程の創造－社会認識を育てる教育実践とその歩み－』同時代社 2013年</p>								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	提出レポートはコメントして返却する								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：大阪教育大学附属平野中学校教諭、大阪市教育研究所所員、滋賀大学教育学部附属小学校長として勤務</p>								

授 業 名		初等科教育法（社会）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	社会科とは何か、社会科と子どもの社会認識	（学修内容）社会科とはどんな教科か、社会科は戦後生まれの教科、小学校社会科の目標と公民的資質、社会科と社会諸科学/社会認識と市民的資質 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自分の「社会科体験」を書いてくる、自分の気に入った社会科の内容、面白くなかった社会科、学習指導要領に目を通しておく。	
第2回	社会科の歩みと論争（1）1947年版・1951年版学習指導要領から1955年版・1958年版・1968年版・1977年版までの変遷	（学修内容）戦後社会科の成立と問題解決学習論、文部省社会科と民間社会科の論争－2つの系統学習の対立、社会科における道徳教育論争 （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導要領に目を通しておく。	
第3回	社会科の歩みと論争（2）1989年版・1998年版・2008年版・2017年版の学習指導要領の変遷	（学修内容）生活科と地歴科公民科の成立、問題解決学習の復権、学力論「生きる力」と国際教育・環境教育・情報教育・総合学習と社会科の関係 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第4回	社会認識形成のための社会科学習（1）鈴木正気の地域に根ざす社会科論	（学修内容）民間社会科における地域に根ざす社会科学習論－鈴木正気による教材づくりと授業方法、鈴木正気の授業記録を読む （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第5回	社会認識形成のための社会科学習（2）安井俊夫の「わかる」社会科教材づくりと授業	（学修内容）民間社会科の「わかる」社会科学習論－「わかる」・「できる」の意味と学び直し、子どもが「わかる」を探究する教材と授業過程 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第6回	社会認識形成のための社会科学習（3）2つの「元寇」の授業を比較検討する	（学修内容）小学校6年歴史「元寇」授業の比較検討－倉持祐二と平野昇の教材研究と授業方法、ビデオ視聴と授業記録で比較検討し、討論する （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第7回	学習指導案の作成（1）教科書研究の方法、単元の構成	（学修内容）各自作成する指導案で単元をしぼり、社会科教科書の記述内容を分析。単元案を書くことの意味、単元設定の理由、目標・展開・評価等 （事前事後学修課題の内容）（60分） 作成したい指導案の学年の単元の教科書を選定してコピーして持参する	
第8回	学習指導案の作成（2）本時の構成	（学修内容）指導案を実際に作成する。本時案を書くことの意味、本時の教材観/児童観/指導観、目標・展開・評価、板書・資料等を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第9回	模擬授業（1）中学年社会科、社会認識を中心とした授業づくりの実践	（学修内容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第10回	模擬授業（2）中学年社会科、作業や活動を中心とした授業づくりの実践	（学修内容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。地図や歴史資料の扱い方・作業や活動の組み込み方 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業分析用紙を提出できるよう準備する。	
第11回	模擬授業（3）高学年社会科、討論や話し合いを中心とした授業づくりの実践	（学修内容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業分析用紙を提出できるよう準備する。	
第12回	模擬授業（4）高学年社会科、歴史・地理の授業づくり	（学修内容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業分析用紙を提出できるよう準備する。	
第13回	模擬授業（5）高学年社会科、社会科と評価	（学修内容）指導案による模擬授業と授業批評を行う。評価観の変遷（相対評価と絶対評価、評価規準と評価基準、PISA型学力観の意味するもの） （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業分析用紙を提出できるよう準備する。	
第14回	社会科と生活科・総合的な学習（1）伊那小学校の実践	（学修内容）伊那小学校の総合学習の授業ビデオ視聴から、総合学習と社会科学習の共通点、差異点を考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業の復習をしておく。	
第15回	社会科と生活科・総合的な学習（2）奈良女子大附小の実践	（学修内容）奈良女子大附小の「しごと」学習の授業ビデオ視聴から、生活科学習と社会科学習の共通点、差異点を考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業の復習をしておく。	

授 業 名	初等科教育法（算数）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Teaching Method of Mathematics in Elementary School			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	重松 敬一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>小学校算数科の目的・内容・方法・評価について、実際の授業の在り方を中心に、児童の数学的思考方の育成について考察する。これまでの算数科教育の歩みを概観し、低・中・高の各学年の算数指導のポイントについて理解を深める。よりよい授業について具体的に考察するため、指導要領に基づいて課題を想定した授業プランの作成を行う。授業は講義形式を中心に、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 小学校算数科の指導内容及び指導方法の基本的な事項を理解できる。 2) 小学校算数科の学習指導案の作成について理解できる。 3) 小学校算数科の本時案に基づく授業実践を理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	<p>文部科学省「小学校学指導要領解説算数編」（平成30年2月、日本文教出版、242円）、講義中にプリントなども配布する</p>								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題や講義のコメントに対しては、次時の授業においてコメントする。</p>								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>メールで対応します。</p>								
実践的教育									

授 業 名		初等科教育法（算数）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに - 何のために算数を教えるのか	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる （事前事後学修課題の内容）
第2回	数学的活動とはどういうことか	（学修内容）算数的活動の趣旨を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分の学習経験を振り返る
第3回	算数科の目標を理解する	（学修内容）算数科の目標を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 算数の目標の持つ特徴をあらかじめメモする
第4回	算数科の内容構成とその概観	（学修内容）算数科の内容構成について自分の経験を生かして理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） あらかじめ配布するプリントを理解する
第5回	低学年の内容（数と計算）とその指導	（学修内容）算数科の低学年の内容の指導を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） あらかじめ配布するプリントを理解する
第6回	低学年の内容（図形、測定、データの活用）とその指導	（学修内容）算数科の低学年の内容の指導を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） あらかじめ配布するプリントを理解する
第7回	中学年の内容（数と計算）とその指導	（学修内容）算数科の中学年の内容の指導を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） あらかじめ配布するプリントを理解する
第8回	中学年の内容（3学年の内容（図形、測定、データの活用）、4学年の内容（図形、変化と関係、データの活用））とその指導	（学修内容）算数科の中学年の内容の指導を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） あらかじめ配布するプリントを理解する
第9回	高学年の内容（数と計算）とその指導	（学修内容）算数科の高学年の内容の指導を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） あらかじめ配布するプリントを理解する
第10回	高学年の内容（図形、変化と関係、データの活用）とその指導	（学修内容）算数科の高学年の内容の指導を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） あらかじめ配布するプリントを理解する
第11回	算数科の学習指導案をどのように作成するか	（学修内容）算数科の学習指導案の作成について理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） あらかじめ配布するプリントを理解する
第12回	算数科の授業をどのように設計するか	（学修内容）算数科の授業の設計について理解する （事前事後学修課題の内容）（90分） あらかじめ配布するプリントを理解する
第13回	学習指導案作成演習とマイクロティーチング（その1）、授業1	（学修内容）算数科の模擬授業のプレゼンテーションとディスカッションを実施する （事前事後学修課題の内容）（90分） あらかじめ分担任準備した授業を実施する
第14回	学習指導案作成演習とマイクロティーチング（その2）、授業2	（学修内容）算数科の模擬授業のプレゼンテーションとディスカッションを実施する （事前事後学修課題の内容）（90分） あらかじめ分担任準備した授業を実施する
第15回	補足とまとめ	（学修内容）本講義の内容を振り返り算数科の指導方法等をまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） あらかじめ配布するプリントを理解する

授 業 名	初等科教育法（理科）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Science in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	中野 英之			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	実験・実習を中心に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら学習を進める。基本的な工具や実験器具の使用方法を習得し、ものづくりや実験・観察を柱とした教材開発・授業のあり方について考える。また、授業を通して、初等理科担当教員に必要な基礎知識の充実を目指す。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な工具の使用方法を修得する。 2) 基本的な実験・実習や観察方法のスキルを修得する。 3) 今日の初等理科教育の問題点や課題について理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	特になし 毎回プリントを配布する								
参 考 書	特になし（自分で参考書を探すのも勉強のうちです）								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたポートフォリオについてはコメントを付けて返却します。プレゼンテーション等についてはその都度コメントを返します。								
留 意 事 項	天候・その他の理由により、授業内容を変更する場合がある。 はさみ、のり、カッターナイフは必ず持参すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：元獨協埼玉中学高等学校教諭。福島県伊達市立大石小学校、三重県津市立美杉小学校、木津川市立加茂小学校などで理科教育に関するグスティージャーを担当している。								

授 業 名		初等科教育法（理科）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンスおよび小学校理科について	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。学習指導要領を理解する（事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領を予め読んで要点をまとめて提出する。
第2回	ふりこの指導について	（学修内容）実験を通じた授業の理解、教科書研究と教材研究、グループディスカッション （事前事後学修課題の内容）（90分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第3回	水の状態変化の指導について	（学修内容）実験を通して授業設計の方法を理解する。グループディスカッション （事前事後学修課題の内容）（90分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第4回	身近な飲料水に関する化学実験について	（学修内容）実験を通して授業設計の方法を理解する。グループディスカッション （事前事後学修課題の内容）（90分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第5回	身近な材料を用いた指示薬づくり	（学修内容）実験を通して授業設計の方法を理解する。グループディスカッション （事前事後学修課題の内容）（90分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第6回	大地のつくり（地層）の指導について	（学修内容）実験・観察を通して授業設計の方法を理解する。グループディスカッション （事前事後学修課題の内容）（90分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第7回	大地のつくり（火山）の指導について	（学修内容）実験・観察方法とICTの活用方法の理解。グループディスカッション （事前事後学修課題の内容）（90分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第8回	身近な材料を使った望遠鏡の作製実習	（学修内容）実習を通してものづくりの意義を理解する。グループディスカッション （事前事後学修課題の内容）（90分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第9回	生物分野の指導について（実習を通して授業設計の方法を理解する）。	（学修内容）実習を通して授業設計の方法を理解する。グループディスカッション （事前事後学修課題の内容）（90分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第10回	問題解決型学習と先行学習	（学修内容）学習の評価についての理解と指導案の作成方法 （事前事後学修課題の内容）（120分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめるとともに指導案を完成させる。
第11回	星座早見の作成と使い方の指導について	（学修内容）実習を通して授業設計の方法を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第12回	テスターづくりの指導について	（学修内容）実習を通して授業設計の方法を理解する。グループディスカッション （事前事後学修課題の内容）（90分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第13回	星座の学習指導と模擬授業	（学修内容）班毎の模擬授業を通して授業設計の方法を理解する。グループワーク、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容）（180分） 授業案の作成、プラネタリウムパンフレットの作成
第14回	電磁石の学習指導と模擬授業	（学修内容）班毎の模擬授業を通して授業設計の方法を理解する。グループディスカッション （事前事後学修課題の内容）（90分） 本授業で行った内容について、調べ学習を含めてポートフォリオにまとめる。
第15回	これまでの学習の振り返り	（学修内容）これまでの授業を振り返り、小学校における理科の指導について総括する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） ポートフォリオの総仕上げを行う

授 業 名	初等科教育法（生活）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Elementary School Students (Life Environment Studies)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	木全 清博			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	生活科の成立から今日的課題に至る基礎的理解を深めるとともに、教科の目標、内容、方法および評価に関する理論と実践について学ぶ。生活科で育てるべき能力や態度についての理解を深めるとともに、生活科の指導計画、学習指導案の作成を含む実践的な指導力の向上を図る。生活科の特質について、成立の意義や現代的課題との関係に基づきながら理解を深め、実践的な知見を含めた学習指導案を作成することをめざす。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生活科の指導に必要な基礎的・基本的な教育論としての教育原理と実践を理解する。 2) 目標や指導内容、指導方法、評価等に関する知識・技能等の総合的な習得を図る。 3) 自分が教壇に立って生活科の指導ができる自信とスキルを身につける。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	鎌倉博・船越勝編『生活科教育』ミネルウ"ア書房 2018年								
参 考 書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』2017年								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却する								
留 意 事 項	教職を強く志望する学生の履修を望む。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：大阪教育大学附属平野中学校教諭、大阪市教育研究所所員、滋賀大学教育学部附属小学校長として勤務								

授業名	初等科教育法（生活）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	生活科とは何か、生活科とはどのような教科か、本授業「初等科教育法生活」の講義の概要を知らせる	（学修内容）「生活」の授業の概要－15回の内容を知らせる。グループ活動・発表と提出物について説明。自分の生活科経験を書いて、発表する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領「生活科」を読んでくる。
第2回	生活科の目標と内容－2018年版学習指導要領「生活」の内容をつかむ	（学修内容）2018年版学習指導要領「生活科」を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領「生活科」を読んでくる。筆記具、ファイル
第3回	生活科の歴史（1）生活科誕生の背景、戦前からの低学年の生活教育の流れ	（学修内容）1989年に新設された生活科の歴史を知る。大正期からの低学年教育の歴史を学び、理解する。1989年版学習指導要領の意味を知る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第1章生活科という教科を読んで、まとめてくる。
第4回	生活科の歴史（2）1998年版、2009年版、2017年版の学習指導要領の変化をつかむ。背景と教育方法学的意義。	（学修内容）1998年版から2008年版へと学習指導要領の変化・発展をとらえる。社会的背景について、教育方法の視点からとらえる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の講義内容をまとめてくる。
第5回	生活科の授業（1）子どもの体験活動の重視	（学修内容）低学年の子どもの学び方の特性を、子どもの生活作文・生活発表から学び合う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第2章の内容をまとめてきて、発表する。
第6回	生活科の授業（2）生活科の教材開発1	（学修内容）テキスト第4章自然から学ぶ、第5章・第6章の栽培活動の事例の実践記録を読む中で教材開発の意義をつかむ （事前事後学修課題の内容）（90分） 第4・5・6章のテキストを要約したレポートを提出する。
第7回	生活科の授業づくり（1）生活科の実践活動と教師の役割	（学修内容）生活科の授業づくりの前提になる学校現場の実践活動を解説し、発展した展開を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第7章の飼育活動の実践記録をまとめてくる。
第8回	生活科の授業づくり（2）生活科を実践・指導する上で必要な知識とスキル	（学修内容）テキスト第8章の地域探索活動の実践記録を読み、話し合う。生活科に必要な知識とスキルを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第8章の内容よ読んで、実践記録をまとめてくる。
第9回	生活科の授業づくり（3）生活科の評価と総合的な学習の時間へのつながり	（学修内容）生活科の評価はどうあるべきかを考えて発表するとともに、総合的な学習との異同を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布した資料をまとめてくる。筆記具、ファイル
第10回	生活科の模擬授業（1）生活科の授業と構想1 模擬授業の発表者の決定と学習グループ（班分け）	（学修内容）各自が構想してきた単元・授業案を、グループ内で発表し、意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自がこの日までに学習指導案のテーマと構想をまとめてくる。講義中に互いに発表しあう、講義後に教員に提出。
第11回	生活科の模擬授業（2）生活科の授業と構想2	（学修内容）3人が模擬授業を行う。3人の授業者の学生に対して、各グループごとからコメントを発表させ、全員が批評を書いて授業者に渡す。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 参考資料として、テキスト第9章集団遊びを読んでくる。
第12回	生活科の模擬授業（3）生活科の授業と構想3	（学修内容）3人が模擬授業を行う。3人の授業者の学生に対して、各グループごとからコメントを発表させ、全員が批評を書いて授業者に渡す （事前事後学修課題の内容）（30分） 参考資料として、テキスト第10章遊べるものをつくるを読んでくる。
第13回	生活科の模擬授業（4）生活科の授業と構想4	（学修内容）3人が模擬授業を行う。3人の授業者の学生に対して、各グループごとからコメントを発表させ、全員が批評を書いて授業者に渡す （事前事後学修課題の内容）（30分） 参考資料として、テキスト第11章自分の成長を見つめるを読んでくる。
第14回	生活科の模擬授業（5）生活科の授業と構想5	（学修内容）3人が模擬授業を行う。3人の授業者の学生に対して、各グループごとからコメントを発表させ、全員が批評を書いて授業者に渡す （事前事後学修課題の内容）（30分） 参考資料として、テキスト第12章家族をを見つめるを読んでくる。
第15回	本授業のまとめ－生活科・総合的な学習の授業を振り返る	（学修内容）生活科の講義全体のまとめをする。生活科授業づくりと模擬授業をお経験して、良い生活科授業がイメージできたかを討論する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第13章学び方を育む生活科をレポートにまとめてくる。

授 業 名	初等科教育法（音楽）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Music in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	小学校における音楽科教育の意義を踏まえ、音楽指導の内容等に関する知識および技術について習得する。また、小学校音楽科教育の諸活動（表現・鑑賞）について学習指導案を作成し、グループでの模擬授業およびディスカッション等を行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)小学校音楽科教育の学習内容および指導方法についての基本的な事項を理解することができる。 2)模擬授業を実施することで、授業の全体構成および指導実践の留意点について理解することができる。 3)小学校音楽科の学習指導案の作成方法について理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲		プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()				
テ キ ス ト	『最新 初等科音楽教育法[改訂版]』（初等科音楽教育研究会編 音楽之友社）								
参 考 書	『小学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省）								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートは、コメントを付けて返却する。 模擬授業は毎回振り返りのためのディスカッションおよび助言を行い、実践によって明らかとなった課題の確認を行う。								
留 意 事 項	グループでの模擬授業と取り組みを重視する。 ソプラノリコーダーを準備しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認しておくこと。								
実 践 的 教 育									

授業名	初等科教育法（音楽）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の進め方の諸注意事項 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	小学校音楽科学習指導要領の概要	（学修内容）新小学校音楽科学習指導要領の概要と改訂の要点について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの序章「これからの初等科音楽」を読み、概要を小レポートにまとめて提出すること。
第3回	小学校音楽科学習指導要領の解説	（学修内容）小学校音楽科の目標と指導内容について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの第1部第2章「音楽科の指導内容」第3章「音楽科の学習指導計画」を読み、概要を小レポートにまとめて提出すること。
第4回	歌唱共通教材（指導案の作成法を含む）	（学修内容）歌唱共通教材の指導実践例と指導案の作成法について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.33「学習指導案の作成」を読み、共通事項を踏まえた歌唱共通教材の指導法を考えて指導案を作成すること。
第5回	模擬授業発表（歌唱）	（学修内容）歌唱共通教材を使った模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは、歌唱共通教材の選定と模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第6回	模擬授業発表（器楽：鍵盤ハーモニカ）	（学修内容）器楽（鍵盤ハーモニカ）教材を使った模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは、器楽（鍵盤ハーモニカ）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第7回	模擬授業発表（器楽：リコーダー）	（学修内容）器楽（リコーダー）の模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは、器楽（リコーダー）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第8回	模擬授業発表（器楽：合奏）	（学修内容）器楽（合奏）による模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは、器楽（合奏）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第9回	音楽づくり	（学修内容）音楽づくり指導および指導上の留意点について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの第2部第4章「音楽づくりの学習と指導」を読み、概要を小レポートにまとめて提出すること。
第10回	模擬授業発表（音楽づくり）	（学修内容）模擬授業（音楽づくり）のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは音楽づくりの模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第11回	鑑賞	（学修内容）鑑賞の意義および指導上の留意点について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの第2部第5章「鑑賞の学習と指導」を読み、概要を小レポートにまとめて提出すること。
第12回	模擬授業発表（鑑賞：日本の伝統音楽）	（学修内容）鑑賞（日本の伝統音楽）の模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは鑑賞（日本の伝統音楽）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第13回	模擬授業発表（鑑賞：世界の音楽）	（学修内容）鑑賞（世界の音楽）の模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは鑑賞（世界の音楽）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第14回	模擬授業発表（鑑賞：西洋音楽）	（学修内容）鑑賞（西洋音楽）の模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは鑑賞（西洋音楽）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第15回	まとめ	（学修内容）発表を終えた振り返りと授業全体のまとめ・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導案の再提出および模擬授業実践の総括レポートを提出すること。

授 業 名	初等科教育法（図画工作）			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Arts and Crafts in Elementary School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史			対 象 学 生	現代家政4回生				
授 業 の 概 要	<p>小学校図画工作科の指導にあたって必要となる基礎的な知識を修得するとともに、授業づくりの実践的技能を身に付けるための科目である。</p> <p>この授業では、講義と実際の創作体験を組み合わせ、子どもの発達と造形活動の意味を理解し、学習指導要領で示されている図画工作科の目標や内容を理解する。その上で子どもたちが、創造力・構成力・集中力・計画性・正確さ・優しさ・思いやり・我が国の伝統に対する「誇り」などが育つ指導法（知識を知恵に変える活動）や学習指導計画書の作成方法を学ぶ。</p> <p>また、子どもたちが創作活動を通して表現することの喜びを感じることができるように、材料、道具などの環境構成についての知識や教科指導の工夫や動機づけについての力を、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業を行ないながら養う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教師として必要な図画工作の知識と表現力、また、それを実際に指導できる。</p> <p>2) 指導計画や学習指導案を作成できる力などを身に付け、説明できる。</p> <p>3) 小学校教育の中での図画工作科の意義について、自分の考え方をプレゼンテーションできる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知 識 ・ 理 解						汎 用 的 的 技 能	
		態 度 ・ 志 向 性						総 合 的 な 学 習 経 験 と 創 造 的 的 思 考 力	
ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ 対 象 授 業	P B L 実 習 ・ フ ィ ー ル ド ワ ー ク	デ ィ ス カ ッ シ ョ ン ・ デ ィ ベ ー ト I C T 活 用 (双 方 向 型 授 業)	グ ル ー プ ワ ー ク I C T 活 用 (自 主 学 習 支 援)					プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	
評 価 方 法	定 期 試 験 (5 0 %)	筆 記 試 験 口 述	レ ポ ー ト 実 習	制 作 物 実 技	平 常 試 験 (5 0 %)	筆 記 試 験 口 述	レ ポ ー ト 実 習	制 作 物 実 技	
評 価 基 準	主 たる 評 価 の 観 点	知 識 ・ 理 解 授 業 態 度 ・ 参 加 意 欲	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 (技 術 ・ 技 法)	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 能 力 ()	課 題 発 見 ・ 解 決 能 力 ()				
テ キ ス ト	『小学校 図画工作科教育法』山口 喜雄著（建帛社）平成30年3月発行								
参 考 書	文部科学省著 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」 必要に応じて授業で指示する。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	提出された制作物は、コメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	教職を強く希望する学生の履修を望む。理論と実践力をむすびつける。 小学校の公開授業参加、作品展（絵画造形展・アイデア展など）鑑賞、トイコンテストや作品展のボランティアを積極的に行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。また、研究室前に日時を掲示する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長								

授 業 名		初等科教育法（図画工作）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 図画工作教育の目的と課題	（学修内容）授業内容についてオリエンテーション、自己紹介。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「図画工作科のベースと初授業」に目を通しておく。
第2回	子どもの発達と造形活動	（学修内容）子どもの発達と図画工作で育てる力（知識を知恵に変える活動）。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「個性概念と造形表現の発達」に目を通しておく。
第3回	学習指導要領の発展と図画工作	（学修内容）学習指導要領の変遷を学び、これからの図画工作の指導を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「学習指導要領の発展と図画工作」に目を通しておく。
第4回	教育評価の視点	（学修内容）子どもの作品をどう評価するか、作品鑑賞とディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト「共通事項をふまえた学習指導」に目を通しておく。 評価の視点をレポートにまとめ提出する。
第5回	教材研究・場所と人と関わる造形遊び	（学修内容）造形遊びとコミュニケーション ビデオによる授業視聴とディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「子どもの造形と造形遊びの指導」に目を通しておく。
第6回	教材研究・伝統美術文化と図画工作	（学修内容）地域の伝統的な造形作品と図画工作との関わり。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「伝統文化に関する教育と図画工作」に目を通しておく。
第7回	教材研究・工作に表す活動（1）	（学修内容）動きのおもしろさを楽しむ表現（1） 身近な材料で動きのある工作の仕組みをつくる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「適応表現と工作の表現活動」に目を通しておく。
第8回	教材研究・工作に表す活動（2）	（学修内容）動きのおもしろさを楽しむ表現（2） 身近な材料で動きのある工作の外装を仕上げる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「適応表現と工作の表現活動」に目を通しておく。
第9回	教材研究・鑑賞活動	（学修内容）制作した作品から見ること、感じること、調べることをつなぐ活動。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「立体作品の鑑賞」に目を通しておく。
第10回	指導計画について 作成の留意点	（学修内容）図画工作科における授業の特色と授業の組み立てプロセスについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布資料に目を通しておく。
第11回	指導計画について 全体計画	（学修内容）制作した教材をもとに学習指導案作成（1）をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布資料に目を通しておく。
第12回	指導計画について 本時の細案	（学修内容）教材をもとに学習指導案作成（2）をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導案を完成する。
第13回	指導計画について 学習指導案検討会	（学修内容）各自の学習指導計画案を持ち寄りグループ討議。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導案について説明できるように考えておく。
第14回	学習指導案をもとに模擬授業	（学修内容）学習指導案をもとにグループで模擬授業を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導案をもとに模擬授業の準備をしておく。
第15回	まとめと考察・プレゼンテーション	（学修内容）図画工作科の意義について5分程度でプレゼンテーションする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自、授業を振り返りプレゼンテーションを考える。

授 業 名	初等科教育法（家庭）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Elementary School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	守野 美佐子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>小学校家庭科の各領域について基本的な内容を概説する。「子どもたちが家庭生活をみつめ、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育て、創造していける基礎能力をつけていく」ために、小学校家庭科の指導や教材研究に必要な基礎的知識・技能を修得する。生活課題を把握し、それに即した指導内容と指導方法を習得する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 小学校家庭科の教科としての特徴と独自性を理解する。 2) 小学校家庭科の目標、内容を把握して、教科指導ができる。 3) 小学校家庭科で教える技能を習得し、それらを教えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	「新しい家庭5・6」東京書籍								
参 考 書	「小学校学習指導要領」文部科学省、「小学校 新学習指導要領の展開」長澤由喜子編著 明治図書 (2017)								
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削し講義時に返却する。模擬授業や教材研究などの発表はその場で評価し助言する。レポートは採点し返却日に返却する。								
留 意 事 項	授業で配布するプリント資料もしっかり読むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有								

授 業 名		初等科教育法（家庭）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	小学校家庭科の新学習指導要領	（学修内容）新学習指導要領の改訂のキーポイントを理解する 家庭科の目標と評価、内容構成について復習する （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導要領を読んでくる 家庭科で育てたい力について考えておくこと
第2回	家庭科の指導計画と授業の方法	（学修内容）主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業時数や題材構成を考慮して指導計画を立てる視点を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 小学校の家庭科の教科書に目を通しておくこと
第3回	指導案の書き方と授業の工夫	（学修内容）ICT活用とプログラミング教育、実践的・体験的授業の充実、個に応じた指導、家庭や地域との連携、実習指導における配慮点を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 指導案の書き方を復習しておくこと
第4回	家庭科の内容 A. 家族・家庭生活	（学修内容）A. 家族・家庭生活 の内容についてと、家庭生活と家族の今日的課題について1時間の授業を計画する（グループ活動） （事前事後学修課題の内容）（30分） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる
第5回	家庭科の内容 B. 衣食住の生活 1. 食生活	（学修内容）B. 衣食住の生活 1. 食生活 の内容についてと、食生活の今日的課題について調理実習の指導について学ぶ 調理実習の教材を考える （事前事後学修課題の内容）（60分） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 調理実習の意義と調理実習の内容を考えてくる
第6回	家庭科の内容 B. 衣食住の生活 2. 衣生活・住生活	（学修内容）B. 衣食住の生活 2. 衣生活・住生活 の内容についてと、衣生活・住生活の今日的課題について学び、布を用いた製作教材を考える （事前事後学修課題の内容）（60分） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 布を用いた製作実習の意義と製作実習の内容を考えてくる
第7回	布を用いた製作	（学修内容）手縫いでできる作品作り 実技指導を含む授業について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 作品作りに必要な布、道具等を準備し、忘れず持参する
第8回	家庭科の内容 C. 消費生活・環境	（学修内容）C. 消費生活・環境 の内容についてと、衣生活・住生活の今日的課題について学び、視聴覚教材を活用した授業の計画をする （事前事後学修課題の内容）（60分） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 実生活で実践できることを考えてくる
第9回	模擬授業 A. 家族・家庭生活	（学修内容）4回目の講義で計画した指導案を元に模擬授業をする（2グループ） 発表者以外は、教師の目で授業を評価する （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業をする者は、配布プリントや板書計画、ITC活用などに必要な準備をしておくこと
第10回	家庭科の新授業プラン B. 衣食住の生活	（学修内容）新授業プランの例から学び、自身の授業のアイデアを話し合う 5回目の講義で各自計画した調理実習の教材を展示し、意見交換する （事前事後学修課題の内容）（60分） この内容で自分が授業をするイメージをし、自身のアイデアが話せるようにしておく
第11回	模擬授業 C. 消費生活・環境	（学修内容）8回目の講義で計画した、視聴覚教材を活用した授業を発表する。（2～3名）発表者以外は、教師の目で授業を評価する （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業をする者は、配布プリントや板書計画、ITC活用などに必要な準備をしておくこと
第12回	単元の導入にあたる授業の計画	（学修内容）学習の単元の導入（単元の1時間目）の授業の学習指導案を書く 学習の動機付けができるよう工夫する （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導案を書く単元を決めてくること 児童の学びたい気持ちを引き出せるような授業を考えてくる
第13回	児童が主体的に学べる授業の計画	（学修内容）アクティブラーニングの学習方法や、ICT活用、プログラミング教育、実践的・体験的授業などを効果的に取り入れた授業の学習指導案を書く （事前事後学修課題の内容）（60分） 児童が主体的に学べる1時間の授業をイメージしてくる 参考になる実践例や必要な情報を調べておくことよい
第14回	単元の導入にあたる授業の発表	（学修内容）先に提出した指導案の中から数人発表してもらい、意見やアドバイスを交換する （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表は誰に当たるかわからないので、全員発表するつもりで準備しておくこと
第15回	児童が主体的に学べる授業の発表	（学修内容）先に提出した指導案の中から数人発表してもらい、意見やアドバイスを交換する （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表は誰に当たるかわからないので、全員発表するつもりで準備しておくこと

授 業 名	初等科教育法（体育）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Physical Education in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山口 孝治			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	小学校体育教育の特質と目標、学習指導要領の変遷、内容と指導方法についての知識や技術を習得する。小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健等）を理解することで教師として自己成長するための方法を探究する。学習指導要領作成の留意点や体育科評価の視点について学び、指導のポイントを習得する。授業はグループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 体育科の目標・内容を理解することができる。 2) 体育科の学習指導案を作成することができる。 3) 模擬授業を通して体育授業を行う上での留意事項を理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	石田智己・山口孝治編著『初等体育科教育 新しい教職課程講座 教科教育編9』ミネルヴァ書房 2018年								
参 考 書	・小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 ・梅野圭史編著『小学校ボールゲームの授業づくり』創文企画 2017年								
課題に対する フィードバック の方法	小テストやレポートは、チェックを行い要点を解説する。								
留 意 事 項	運動の得意・不得意は評価に関係しない。積極的な参加を期待する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市小学校教員，京都教育大学附属京都小学校及び中学校教員として勤務								

授 業 名		初等科教育法（体育）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	体育科教育の概念と歴史的変遷	（学修内容）体育科教育の意義と歴史的変遷を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの概観し、学びのイメージを深める。
第2回	体育の目標と内容	（学修内容）体育科の目標と領域内容を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト「体育科の目標」「内容」を読んでおく。
第3回	学習指導の実際 体づくり運動、器械運動、陸上運動の学習指導	（学修内容）体づくり運動、器械運動、陸上運動の内容や指導法の理解を深めるためのディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第4回	学習指導の実際 水泳、ボール運動の学習指導	（学修内容）水泳、ボール運動の内容や指導法の理解を深めるためのディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第5回	学習指導の実際 表現運動、保健の学習指導	（学修内容）表現運動、保健領域の内容や指導法の理解を深めるためのディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第6回	学習資料、教育機器の活用	（学修内容）I C Tを活用した授業展開を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） デジタル機器を活用した授業展開を考えておく。
第7回	実技指導の実際 低学年の運動指導	（学修内容）低学年の実技指導の留意点についてグループワークを通して理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 低学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第8回	実技指導の実際 中学年の運動指導	（学修内容）中学年の実技指導の留意点についてグループワークを通して理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 中学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第9回	実技指導の実際 高学年の運動指導	（学修内容）高学年の実技指導の留意点についてグループワークを通して理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 高学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第10回	体育科の年間指導計画	（学修内容）体育科における年間計画の作成の仕方について知る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト「年間計画の作成」を読んでおく。
第11回	学習指導案の作成 単元目標、指導計画	（学修内容）学習指導案の作成の仕方について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布した資料を読んでおく。
第12回	学習指導案の作成 本時の計画	（学修内容）学習指導案の作成（本時案）の仕方について知る。 （事前事後学修課題の内容）（80分） 本時の展開部分を完成させておく。
第13回	体育の授業研究 模擬授業の実際	（学修内容）模擬授業（プレゼンテーション）を通して、指導技術について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業のイメージ作りをしておく。
第14回	体育の授業研究 模擬授業の実際	（学修内容）模擬授業（プレゼンテーション）を通して、特に評価のあり方を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト「評価の観点」を読んでおく。
第15回	優れた体育授業の創造をめざして（まとめ）	（学修内容）これまでの学習の総復習をする。 （事前事後学修課題の内容）（80分） これまでの学習内容を確認しておく。

授業名	教職実践演習(幼・小)			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Teaching Practice(Kindergarten・Elementary School)			開講時期	秋学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	松浦 真理・林 静香・加藤 倫子			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>教職実践演習は、教員養成課程全体を通して、教員として適切な最小限度の資質能力を多角的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。履修カルテや実習の振り返りをもとに、学生の個別的な課題、および、これからの社会情勢にかんがみ、教員が身につけるべき全体的な課題を掘り下げ、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、教員としての資質能力をさらに高めることを目的としている。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教員としての使命感、責任感を自覚し、言動に表すことができる。 2) 多様な子どもや保護者とのコミュニケーションを想定して対応することができる。 3) 新任教員として必要な教科・保育に必要な指導力を身につけ、指導案作成や模擬授業に活かすことができる。 5) 語彙力や表現力を豊かにして他者に働きかけができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『保育・教職実践演習』(小田・神長編著、光生館、2013)や『幼児理解と評価』(文部科学省、幼稚園教育指導資料第3集)などを中心に、各回の授業に必要な資料を適宜配布する。								
参考書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションやロールプレイなどについては、学生同士のピア評価と教員のコメントと解説をおこなう。リアクションペーパーや小レポートは提出の次週にコメントおよび質問への回答をおこなう。								
留意事項	「教師力を高める」演習形式の授業であるから、子どもの前に立つ人間としての姿勢を示すべく、主体的な授業参画を求める。								
オフィスアワー	所定の日時を掲示するので確認のうえ、できるだけその時間に来ること。その他メールでのアポイントや質問は随時受け付ける。非常勤教員については授業後の時間を設定する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：担当者のうち1名は、保育士として天津市の療育センター勤務経験がある。非常勤教員は天津市公立幼稚園園長および教育委員会勤務経験を有している。これ以外に京都市立小学校校長経験者や教育委員会経験者をゲストスピーカーとして招聘する。								

授 業 名		教職実践演習(幼・小)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス 教職実践演習の意義と目的	(学修内容)本授業の進め方を理解する。本授業の意義と目的を理解して、入学後これまでの教職課程および教育実習の内容を振り返る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「教育実習振り返りシート」「履修カルテ」の記述および整理。	
第2回	個別の課題設定と習得計画の作成	(学修内容)履修カルテや教育実習の振り返りから各自の研修課題を明確にし、必要な知識技能の習得に向けて計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自己の課題をまとめ、課題克服の計画を修正し提出する。	
第3回	教員の役割と使命感(対子ども、对学校組織、対保護者や地域という異なる観点から多角的に考える)	(学修内容)教師の使命感・責任感・情熱等について社会の現状や教育実習経験をふまえながらグループ討議を行い、グループごとに発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 課題についての自己の経験をまとめてくる。	
第4回	困りを抱える子どもの理解と援助方法	(学修内容)困りを抱える子どもへの指導について、事例をもとにロールプレーやグループ討議を通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 困りを抱える子どもについての特性や指導法について調べてくる。	
第5回	子ども同士のけんかやトラブルの理解と援助方法	(学修内容)ビデオを見ながら、子ども同士のけんかやトラブルについて考え、グループ討議する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習での実際のけんかやトラブルの場面を思い出して書き出し、その時の対応なども整理しておく。	
第6回	危機管理への備え	(学修内容)想定されうる危機管理について理解し、具体的な対応について話し合っ て深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習校の外内にある「危険」を書き出す。教員の備え、子どもとともに する行動について考えておく。	
第7回	これからの教員に求められるもの(外部講師)	(学修内容)校長経験者など講義をもとにこれからの教員に求められる資質能力につ いて考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 1今後の社会状況の変化と教員に求められる力について予測しておく。	
第8回	模擬授業の準備	(学修内容)第2回の授業うけて各自の課題を実践するための具体的な案をグループ で考え、次週以降の各グループごとの模擬授業の準備をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自の課題を再確認し、模擬授業にどのように取り組むかを考えておく 。	
第9回	第1グループから第3グループまでの模擬授業	(学修内容)第1-3グループが模擬授業を実施し、それについてピア評価、省察をす る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究 学習指導案作成。	
第10回	第4グループから第6グループまでの模擬授業	(学修内容)第4-6グループが模擬授業を実施し、それについてピア評価、省察をす る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究 学習指導案作成。	
第11回	第7グループから第9グループまでの模擬授業	(学修内容)第7-9グループが模擬授業を実施し、それについてピア評価、省察をす る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究 学習指導案作成。	
第12回	学校行事と学級通信作成	(学修内容)学校行事の意味を理解し、それらと関連付けながら、日々のクラス活動 を学級通信にまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) 学級通信を書きたい季節を選んで内容について考えておく。	
第13回	保護者対応と連携	(学修内容)学校と保護者の関係づくりについてロールプレイやグループ討議を通し て考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 保護者との連携の必要性について考えてくる。	
第14回	これからの学校教育	(学修内容)現場経験者の講義をもとに社会の変化と学校の在り方、子どもの育ちな どの関連をし整理する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) これまでの学びを踏まえ、各自が社会と学校、子どもの関連について考 えておく。	
第15回	総括	(学修内容)これまでの授業と教職課程全般を振り返り、今後の抱負を相互に伝え合 う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 履修カルテの総括欄に記入しておく。	

授業名	相談援助u			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Consultation Support			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	名賀 亨			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	相談援助の理論や意義を理解するとともに、相談援助の方法（主にケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク）に関して、発展過程や基本的枠組み、具体的な援助方法について保育と関連させながらその内容を学習する。授業の方法としてアクティブラーニングも組み入れて、事前に学習しまとめたことを適宜発表するとともに、それぞれが講義内容と照らし合わせながら学びを深めることができるようにする。								
学修成果到達目標	1) 相談援助の基本的な考え方や方法、また直接援助技術および間接援助技術の内容と方法について説明することができるようになる。 2) 学んだ知識を保育現場での対応に活用することができるようになる。 3) 援助方法の一つであるグループワークにおける相互作用を理解し、保育の現場で実践できるようになる 4) 課題を適宜プレゼンテーションすることを通して、まとめる力や発表する力の基礎を身につけることができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	「相談援助」 編著：大嶋恭二・金子恵美 出版社：建帛社								
参考書	「社会福祉援助技術論」 編：基礎からの社会福祉編集委員会 出版社：ミネルヴァ書房								
課題に対するフィードバックの方法	日常的な課題やレポートについて記載内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。								
留意事項	保育士も実践現場において相談援助の諸技術を活用し支援することが求められている。この授業では、相談援助の価値や原則、過程をワークショップなども交えて学ぶため、援助者としての保育士を意識して積極的にかつ主体的に授業に参加すること。								
オフィスアワー	水曜日 昼休み								
実践的教育									

授業名	相談援助Ⅱ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の内容と進め方、評価方法などを説明するとともに、15回の授業計画と概要を説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み相談援助を自分なりに整理し、15回の学びをイメージしておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第2回	相談援助の基本的な考え方	(学修内容) 相談援助の必要性や専門性から相談援助を学ぶ意義、相談援助の定義と内容を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター1を読み、保育現場での相談援助の必要性を整理しておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第3回	相談援助の理論、意義、機能	(学修内容) 保育業務と相談援助を関連させながら、相談援助の意義や機能について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター2を読み、相談援助の意義や機能を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第4回	相談援助とソーシャルワーク	(学修内容) 相談援助という観点から、ソーシャルワークの意味や原理・原則について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター3を読み、相談とは何か、援助とは何かについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第5回	保育とソーシャルワーク	(学修内容) 保育を通じたソーシャルワークの在り方や保育ソーシャルワークの基本原則について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター4を読み、保育ソーシャルワークの意味および基本原則を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第6回	相談援助の方法と技術 1 相談援助の対象	(学修内容) 相談援助の対象や対象理解の視点について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター5を読み、相談援助の対象とは何か整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第7回	相談援助の方法と技術 2 相談援助の過程	(学修内容) 相談援助の具体的な支援の過程とそれぞれの内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター6を読み、相談援助の支援の過程を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第8回	相談援助の方法と技術 3 相談援助の技術とアプローチ	(学修内容) 相談援助の具体的な方法についてその意味と意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター7を読み、直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第9回	相談援助の方法と技術 4 個別援助技術	(学修内容) 直接援助技術の一つとしてのケースワークについて、その内容、方法、原則について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター7を読み、ケースワークの原則について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第10回	相談援助の方法と技術 5 集団援助技術 1	(学修内容) 直接援助技術の一つとしてのグループワークについて、様々な定義を理解しその内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター7を読み、グループワークの意味について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第11回	相談援助の方法と技術 6 集団援助技術 2	(学修内容) グループワークの実践方法、支援者としてののかかわり方、ファシリテーションの在り方などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター7を読み、グループワークの原則、支援者と対象者との関係についてまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第12回	相談援助の方法と技術 7 地域援助技術	(学修内容) 間接援助技術の一つの方法としての、コミュニティ・ワークについてその基本的な考え方と実際について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター8を読み、コミュニティ・ソーシャル・ワークの意味を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第13回	相談援助の方法と技術 8 その他の援助技術	(学修内容) その他の間接援助技術について、それらの意味と実際の支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター8を読み、相談援助のアプローチを間接援助技術の視点で整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第14回	相談援助の方法と技術 9 基本資料の作成	(学修内容) 相談援助計画作成の意義・作成の視点・作成のプロセスなどについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター9を読み、相談援助計画とは何かを整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第15回	まとめ 授業全体の振り返り	(学修内容) 保育を軸にした相談援助に関する具体的な展開について、これまでの授業を振り返り、今後の保育における相談援助の在り方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ここまでの授業内容を振り返り、相談援助に必要な社会資源の活用や調整あるいは開発について整理しておく。

授 業 名	小児保健実習 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Infant Health Care Training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	中村 洋子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>子どもの健康が守られ、保育をより豊かなものにするため、保育者は子どもの発育発達状態、健康状態を正しく把握することが重要である。この授業では小児の発育発達状態を理解するとともに、小児の病気の予防、健康教育、疾病の早期発見、救急処置、看護、安全な保育環境についての知識と技術を習得することを目標とする。児童福祉施設等での保健活動について理解し、小児の成長・発達をサポートするうえでの基本的な知識と技能を習得する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>子どもの健康管理を適切にする乳幼児期の発育を理解できる。 個々に応じた養護・看護ができる。 感染予防、事故の予防等の方法を理解し、実践できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	兼松百合子他編 「子どもの保健・実習」(同文書院)最新版								
参 考 書	「赤ちゃん子どもの健康相談」(婦人之友社)「保育保健の基礎知識」(日本小児医事出版社)								
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施し、次回に解説をする。								
留 意 事 項	講義や演習により保育・子育てに役立つよう学んでいくため、事前に教科書等熟読しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室に在室しているときは応じます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実際経験など：市役所、医療少年院、保健師として勤務								

授 業 名	小児保健実習 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス・授業の目的等	(学修内容) 演習の目的と授業の進め方について 赤ちゃんの抱き方(実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでくること 配布資料をよく読んで復習をすること。
第2回	身体測定の実際とその評価方法	(学修内容) 身長・体重・頭囲等の測定、および評価法 (実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) 母子手帳持参し、各自のを発達を見ておくこと
第3回	バイタルサインの測定方法と健康状態の観察法 (体温・呼吸数)	(学修内容) 体温・呼吸の測定法、一般状態の観察法 (実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習した内容をまとめておくこと。 (次回発表)
第4回	バイタルサインの測定方法と健康状態の観察法 (脈拍数・血圧)	(学修内容) 脈拍数・血圧の測定方法 (実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料、教科書を読んでおくこと
第5回	乳幼児健診(視力・聴力の測定方法)	(学修内容) 乳幼児健診と視覚・聴覚の発達と測定方法 (実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料、該当する教科書の部分を読んでおく事
第6回	身体の清潔と沐浴	(学修内容) 身体清潔法、抱き方、着替え・沐浴の実際 (実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) エプロン、上靴持参のこと 実習内容をまとめておくこと。(次回発表)
第7回	母乳の与え方と調乳・咀嚼機能の発達	(学修内容) 母乳の与え方と調乳・哺乳瓶の消毒法 子どもの咀嚼機能の発達と離乳食の与え方(実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) エプロン、上靴持参のこと 該当する教科書の部分を読んでおく事
第8回	歯の健康と虫歯予防	(学修内容) 歯の発育と歯磨き・うがいの指導方法(ブラッシング指導) (事前事後学修課題の内容)(30分) コップ、歯ブラシ・手鏡持参のこと グループワークの内容をまとめて提出すること。
第9回	生活習慣の自立・生活リズムの確立・排泄の世話	(学修内容) 脳の仕組みと生活リズムの作り方と排泄の自立について (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおく事
第10回	薬の与え方・手の洗い方・消毒法	(学修内容) 薬の生理と取扱、正しい手洗いの方法、消毒の基本 (実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習内容を名止めること。 該当する教科書の部分を読んでおく事
第11回	異常症状の把握の仕方とその手当法	(学修内容) 発熱・ひきつけ・腹痛等異常症状の早期発見と手当 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおく事
第12回	感染症発生時の対処・予防	(学修内容) 感染症発生時の対処や予防、経口補水療法・吐物の処理等 (実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習内容をまとめておくこと。 該当する教科書の部分を読んでおく事
第13回	事故予防と応急処置	(学修内容) 子どもの事故と応急処置 (傷・怪我、骨折、打撲などの手当法等の実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおく事
第14回	心肺蘇生法等救急法	(学修内容) AEDの使い方、誤飲の時の対処法等 (実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習内容をまとめること。該当する教科書の部分を読んでおく事
第15回	保育環境と母子保健活動	(学修内容) 母子保健活動と保育環境・保育士としての職場環境 (事前事後学修課題の内容)(30分) 全体的な実習のまとめ、復習をすること

授 業 名	養護内容 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Social Corporate Parenting			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>保育者としての実践力を育成するために、以下の内容で授業を進める。 1．施設や里親家庭での生活について 2．被虐待児童への対応について 3．コミュニケーション技法の習得について 上記の内容が理解できるよう、映像素材を視聴したり、ポスターセッションを行ったりして、実践的な学びを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 児童福祉施設での生活を理解することができる。 2) 被虐待児童の行動特性を理解し、適切な援助とは何かが説明できる。 3) コミュニケーションの技法を理解し、少人数のグループで実践することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	安藤和彦・石田慎二・山川宏和 編著 「社会的養護内容演習」[建帛社]								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物にコメントを記述して返却し、小テストは採点して返却する。								
留 意 事 項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	養護内容 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	社会的養護における自立支援 高校生の進路選択	(学修内容) 自立援助ホームにおける高校生の暮らしについて (事前事後学修課題の内容) (45分) 社会的養護の学びを振り返る
第2回	社会的養護における自立支援 就職	(学修内容) 自立援助ホームにおける退所児童の支援について (事前事後学修課題の内容) (45分) 家計簿、各種の社会保険について調べる
第3回	社会的養護における自立支援 進学	(学修内容) 単身生活を送る退所児童の進学問題について (事前事後学修課題の内容) (45分) ブリッジ・フォー・スマイルの活動を知る
第4回	特別養子縁組制度について	(学修内容) 特別養子縁組あっせん法と諸団体について (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト13章を振り返る
第5回	記録について ジェノグラム	(学修内容) ジェノグラムの作成方法について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第4章を復習する
第6回	記録について エコマップ	(学修内容) エコマップの作成方法について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第4章を復習する
第7回	アドミッションケアについて 相談経路	(学修内容) 措置理由や入所時の留意点について (事前事後学修課題の内容) (30分) 子ども時代に自分が大切にしていたものについて調べる
第8回	アドミッションケアについて 自立支援計画について	(学修内容) 自立支援計画の内容と留意点について (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト第5章を復習する
第9回	インケア 施設処遇の留意点について	(学修内容) 問題を抱える児童に対する支援方法について (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト第6章を復習する
第10回	インケア 感情の整理に対する支援	(学修内容) タイムアウト、セラピューティックホールディングについて (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第10章を復習する
第11回	社会的養護における自立支援 アフターケア	(学修内容) 身元保証人確保対策事業、自立支援コーディネーターについて (事前事後学修課題の内容) (45分) 資料について復習する
第12回	ポスター作り	(学修内容) グループワークの成果をもとにポスターを作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容についてメンバーで話し合う
第13回	ポスターセッション	(学修内容) ポスターセッションを行ってグループワークの成果を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) ポスターセッションで寄せられた意見をまとめる
第14回	社会的養護における自立支援 経済的援助と非行	(学修内容) 非行少年と更生保護施設について (事前事後学修課題の内容) (30分) 再犯率について調べる
第15回	社会的養育ビジョンとフォスタリング機関	(学修内容) 社会的養育ビジョンの特徴とフォスタリング機関の課題について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第12章を復習する

授 業 名	保育実習指導 u a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子・山川 宏和・近本 佳子・芹澤 出			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	保育実習を行うために必要な事項について学ぶ。児童福祉施設の理解、実習の意義、目的を中心に、実習の事前学習を行う。実習日誌の記述方法や、目標設定について、グループワークを行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育実習を行うために必要な事項について理解する。 2) 授業で学んだことが、実践できるようにする。 3) はじめての保育実習に出るにあたって、それぞれの施設の役割、保育士の果たすべき役割を理解して実習に臨む。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業でプリントを配布する								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	実習日誌や実習目標を基に、事後面談や事前面談を個別に行い、評価をフィードバックする。								
留 意 事 項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為をおこなっている場合については、厳しく対応する。無断欠席、遅刻は認めない。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：芹澤 出先生 母子生活支援施設「野菊荘」施設長 近本佳子先生 元風の子保育園(京都市内)主任								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	保育実習指導 u a		
第1回	保育実習とは	(学修内容) 保育実習の目的を解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) 保育実習のイメージを自分なりに考えてみる	
第2回	保育実習について (保育実習全般について)	(学修内容) 保育実習の全体像を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをレポートする	
第3回	保育実習について (障害児施設について)	(学修内容) 障害児施設における実習の特性を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをレポートする	
第4回	保育実習について (養護系施設について)	(学修内容) 養護系施設における実習の特性を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをレポートする	
第5回	実習ノートの書き方の講義	(学修内容) 実習ノートの書き方を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業出だされた課題を仕上げる	
第6回	実習ノートの書き方の演習	(学修内容) 先週の講義を受けて演習を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業を受けて、課題を書き直す	
第7回	実習についての質問の会	(学修内容) 実習にあたっての質問を出す (事前事後学修課題の内容) (60分) 質問を考えてくる	
第8回	施設実習を成功させるためのポイント	(学修内容) 施設実習を成功させるためのポイントを解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容をまとめておく	
第9回	実習目標の立て方についての講義	(学修内容) 実習目標の立て方について解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設実習を成功させるために自分の目標を考える	
第10回	各自の実習目標を検討する	(学修内容) 小グループで実習目標を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習目標を立て直す	
第11回	実習にあたっての諸留意事項	(学修内容) 実習に対する心構え・諸手を伝える (事前事後学修課題の内容) (60分) 諸手を完了する	
第12回	春実習に向けての個人面談	(学修内容) 個人面談を実施する (事前事後学修課題の内容) (30分) 面談をうけて、課題を見直す	
第13回	名札作製など実習準備	(学修内容) 名札や自己紹介カードをつくる (事前事後学修課題の内容) (60分) 名札や自己紹介カードをつくる	
第14回	課題に基づいた事前学習	(学修内容) 自分の課題に基づいて事前学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の行く施設について調べる	
第15回	春実習直前指導	(学修内容) 春実習の諸注意を確認する (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習の準備ができているか確認する	

授 業 名	保育実習指導 u b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子・山川 宏和・近本 佳子・芹澤 出			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	演習形式の授業を通して、保育実習を円滑にすすめていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化する。施設実習の事後指導としては、実習の評価をみながら、各自の課題を見つけ、新たな学習目標を明確化させていく。保育所実習の事前指導としては、講義で保育士の役割、保育実習の意義、目的、内容について伝えていく。また、設定保育の指導案の立て方の解説を行ったうえで、指導案の立案から実施、振り返りまでを体験する。こうした取り組みをとおして、保育所実習の目標を具体的にしていく。実習日誌の記述方法や、目標設定について、グループワークを行う。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 保育実習を行うために必要な事項について理解する。 2) 授業で学んだことが、実践できるようにする。 3) 保育所の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。								
学位授与の方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業でプリントを配布する。								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	実習日誌や実習目標を基に事後面談や事前面談を個別に行い、評価のフィードバックする。								
留 意 事 項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為をおこなっている場合については、厳しく対応する。無断欠席、遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習 の単位が取得できることを条件とする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：芹澤 出先生 母子生活支援施設「野菊荘」施設長 近本 佳子先生 元風の子保育園(京都市内)主任								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	施設実習の振り返りと今後の実習について	(学修内容)施設実習を振り返り、保育所実習の課題を考える (事前事後学修課題の内容)(15分) 施設実習について振り返る	
第2回	施設実習交流会	(学修内容)施設実習での体験を交流する (事前事後学修課題の内容)(15分) 施設実習での体験をまとめておく	
第3回	施設実習事後面談	(学修内容)個人面談を実施する (事前事後学修課題の内容)(30分) 施設実習を振り返る	
第4回	施設実習からの課題抽出	(学修内容)施設実習を経て自らの課題を抽出する (事前事後学修課題の内容)(30分) 施設実習の学んだことをまとめる	
第5回	保育所についての事前学習	(学修内容)保育所について学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育所での自分の課題を考えるための資料を集める	
第6回	保育士倫理綱領、実習目標の立て方	(学修内容)保育士倫理綱領と実習目標の立て方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育士倫理綱領を読んでくる	
第7回	指導案の立て方・実習課題の再検討	(学修内容)指導案の立て方を学び実習目標を再検討する (事前事後学修課題の内容)(60分) 実習目標を立ててくる	
第8回	指導案の立て方の実際 乳児クラス	(学修内容)乳児クラスの指導案の展開を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 指導案についてイメージをつくってくる	
第9回	指導案の立て方の実際 幼児クラス	(学修内容)幼児クラスの指導案の展開を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 指導案についてイメージをつくってくる 実習目標を立て直してくる	
第10回	保育所実習記録の配布・記録の書き方	(学修内容)実習記録の書き方を解説する (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案を立案する	
第11回	指導案の実施 製作活動	(学修内容)小グループで指導案を実施する (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案が実施できるように準備する	
第12回	指導案の実施 からだを使った遊び	(学修内容)小グループで指導案を実施する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案実施についてのコメントを書いてくる 指導案が実施できるように準備する	
第13回	保育所実習にむけての面談	(学修内容)個人面談を実施する (事前事後学修課題の内容)(30分) 指導案実施についてのコメントを書いてくる	
第14回	課題に基づいた事前学習	(学修内容)自分の課題に基づいて事前学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育所実習の事前学習課題を実施する	
第15回	保育所実習直前指導	(学修内容)保育所実習の諸注意を確認する (事前事後学修課題の内容)(30分) 提出書類に必要なものを用意する	

授 業 名	総合演習 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	演習形式の授業によって、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得する。さらに、課題解決の過程と方法を学生自らが学習することをねらいとする。具体的には、保育実習によって得られた課題について、グループを形成し、資料やアンケートから分析・検討を行う。それに基づいて、ディスカッションやプレゼンテーションなどを行い、保育実習の課題を整理する。最後に、保育実習や保育職について、カルタを作成して文章力を養い、全員で経験を分かち合う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 児童問題や保育の課題など、児童福祉全般の問題から興味ある内容を探し、その解決のための方策を考える。 2) 専門職として取り組むべき内容、保育士としての倫理が理解できる。 3) グループワークを通じて、問題解決には何が必要か考え、プレゼン資料やレポートを作成することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	プレゼンテーションの際は、良かった点や改善点を口頭でフィードバックする。								
留 意 事 項	各人の演習への積極的な参加を求める。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	これまでの学修の振り返り 居住型	(学修内容) 居住型福祉施設の役割を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習等の体験を振り返る	
第2回	これまでの学修の振り返り 保育所	(学修内容) 保育所の機能を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの学習を振り返る	
第3回	自分の強みをいかす取り組み ストレngthス	(学修内容) ストレngthス視点について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自己の強みについてまとめておく	
第4回	自分の強みをいかす取り組み エンパワメント	(学修内容) エンパワメントについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育士を志望した理由を考える	
第5回	保育内容の研究 (グループ演習)	(学修内容) 保育の現状について意見を出し合う (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの学習を振り返る	
第6回	保育方法の研究 ディスカッション	(学修内容) 出し合った意見を整理してポスターにまとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) ポスター作成の案を考えておく	
第7回	保育方法の研究 ポスターセッション	(学修内容) ポスターをめぐる説明を聞き、質問する (事前事後学修課題の内容) (60分) 説明する内容についてグループ内で話し合う	
第8回	保育方法の研究のまとめ 発表	(学修内容) 保育方法についてまとめた意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) ポスターセッションを振り返る	
第9回	小論文の作成 効果的な小論文とは	(学修内容) 小論文の書き方や意見の展開方法について (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ演習を振り返る	
第10回	自分の強みをいかす取り組み PDCAサイクル	(学修内容) PDCAサイクルに従い自己課題を整理する (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己課題をまとめておく	
第11回	小論文の作成 小論文の執筆	(学修内容) みずから発表した内容を小論文にする (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表内容をふりかえる	
第12回	保育カルタの作成 歌を詠む	(学修内容) 保育実習で得られた体験や知識を文章で表す (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習の体験をふりかえる	
第13回	保育カルタの作成 グループ演習	(学修内容) 詠まれた歌について共有する (事前事後学修課題の内容) (60分) デザインを考えておく	
第14回	保育かるたの作成 カルタの作成	(学修内容) 実際にカルタ作りを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 作成した歌を整理する	
第15回	まとめ	(学修内容) カルタ鑑賞とカルタ取りを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) カルタ取りに適した服装	

授 業 名	ソーシャルワーク総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1701
英 文 名	Outline of Social Work			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択 必 修	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>ソーシャルワークとは、狭義には相談援助を指し、広義には社会福祉援助全般を指します。社会福祉（援助）の資格には社会福祉士、保育士、介護福祉士などが含まれますが、この授業では、広い意味でのソーシャルワークの立場から、ソーシャルワークの基盤となる理論と方法、基本原則や歴史的展開、それを担う専門職について学びます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ソーシャルワークの概要、体系について理解できるようになる。 2) ソーシャルワークの基本原則、基本姿勢について理解できるようになる。 3) 専門職としての価値、知識、技術について理解できるようになる（社会福祉、保育の各領域）。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	テストの採点結果を返却し、その時に模範解答を解説します。								
留 意 事 項	ノートをしっかりとること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	ソーシャルワーク総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス（導入） 社会福祉とソーシャルワーク	（学修内容）社会福祉の定義とソーシャルワークの実践活動について （事前事後学修課題の内容）（15分） シラバスに目を通しておく。
第2回	ソーシャルワークの価値基盤	（学修内容）ソーシャルワークの価値について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること
第3回	ソーシャルワークの価値基盤専門職倫理	（学修内容）専門職としての倫理について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第4回	ソーシャルワークの歴史的展開 前史	（学修内容）ソーシャルワーク前史を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第5回	ソーシャルワークの歴史的展開 発展史	（学修内容）ソーシャルワークの発展史について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第6回	ソーシャルワークの体系	（学修内容）専門援助技術の種類、概要、定義など体系を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第7回	ソーシャルワークの対象	（学修内容）ソーシャルワークの対象について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第8回	ソーシャルワークの担い手 職種から	（学修内容）専門職と種類、範囲について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第9回	ソーシャルワークの担い手 資格から	（学修内容）専門職特に社会福祉士、保育士について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第10回	ソーシャルワークの実践現場、機関	（学修内容）ソーシャルワークの諸機関の体系、種類について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第11回	ソーシャルワークの日本的展開 導入～近代	（学修内容）歴史の中で代表的な実践モデルを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第12回	ソーシャルワークの日本的展開 近代～現代	（学修内容）現在も活用される実践モデルを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第13回	ソーシャルワークの基本原則 国際ソーシャルワーク連盟の定義	（学修内容）定義について、用語を含め内容を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第14回	ソーシャルワークの基本原則 自立と自立支援など	（学修内容）自己決定の尊重を含め利用者本位の原則を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第15回	ソーシャルワークの基本原則 ノーマライゼーションと社会的包摂など	（学修内容）理念形成の過程を含め現代における意義を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。

授 業 名	ソーシャルワーク総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1711
英 文 名	Outline of Social Work			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択 必 修	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>社会福祉の援助実践活動ソーシャルワークは、今日様々な実践現場において、非常に重要になってきている。その援助の方法としては、それぞれこの社会での構成単位である、個人（個別）、集団、地域等の支援をはじめとして非常に多様化してきている。この講義を通じて、ソーシャルワークの基盤となる方法とそれを担う専門職について学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ソーシャルワークの概要、体系、基本原理、理論構築の歴史的経緯などが理解できるようになる。 2) ソーシャルワークの総体を理解できるようになる。 3) ソーシャルワークの現代的展開と実践の基礎を理解できるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学习支援）	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	テストの採点結果を返却し、その時に模範解答を解説する。								
留 意 事 項	今日の社会で生起する社会福祉問題に関心を向け、授業との関連を考えて欲しい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	ソーシャルワーク総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ソーシャルワークの視点(確認)	(学修内容)前期の振り返り。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 総論を受講した人は内容を確認しておく。
第2回	ソーシャルワーク専門職の体系 専門職の全体像を把握	(学修内容)関連領域を含む専門職の体系を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第3回	ソーシャルワークに係る専門職の体系 社会福祉領域における専門職	(学修内容)専門職の役割と機能を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第4回	ソーシャルワークに係る専門職の体系 社会福祉関連領域における専門職	(学修内容)専門職の役割と機能を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第5回	専門職の倫理 社会福祉士	(学修内容)社会福祉士会の倫理綱領等により学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第6回	専門職の倫理 精神保健福祉士	(学修内容)介護福祉士や保育士等、専門職の倫理を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第7回	専門職の倫理 保育士、介護福祉士等	(学修内容)介護福祉士や保育士等、専門職の倫理を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第8回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク 理論的統合	(学修内容)総合的かつ包括的なソーシャルワークをめぐる動向。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第9回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク 実践理論	(学修内容)包括的な実践理論を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第10回	ジェネラリストソーシャルワークの基礎	(学修内容)ジェネラリストソーシャルワークの基礎を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第11回	ジェネラリストソーシャルワークの展開	(学修内容)ジェネラリストソーシャルワークの展開過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第12回	事例研究 自殺をいかに防ぐか	(学修内容)ソーシャルワークの視点から事例を読む。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第13回	事例研究 児童虐待現場	(学修内容)ソーシャルワークの視点から事例を読む。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第14回	事例研究 保育現場	(学修内容)ソーシャルワークの視点から事例を読む。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第15回	講義の総括	(学修内容)まとめ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。

授 業 名	保育実習指導 U			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	保育実習 では、保育所において二回目の保育実習を行う。そのために、保育実習 を振り返り、保育所の役割の理解、保育者の援助の方法の理解を深めた上で、実習課題の設定、保育に関する課題への取り組みなどを学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育実習 を実施するために必要な事項について理解する。 2) 授業で学んだことが、実践できるようにする。 3) 保育所の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	保育所保育指針								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	実習日誌や実習目標を基に、事後面談や事前面談を個別に行い、評価をフィードバックする。								
留 意 事 項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為を行っている場合には厳しく、対応する。無断欠席・遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習 の単位が取得できることを条件とする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育実習 の振り返り	(学修内容) 保育実習 を振り返り課題を明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 で使用したメモや制作物をみて実習を振り返っておく	
第2回	保育実習交流会	(学修内容) 保育実習 での体験を交流する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 での体験を振り返っておく	
第3回	保育実習事後面談	(学修内容) 個人面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 で学んだことを整理しておく	
第4回	保育所実習からの課題抽出	(学修内容) 保育所実習を経て自らの課題を抽出する (事前事後学修課題の内容) (30分) 面談の内容をまとめる	
第5回	発展的実習のための事前学習	(学修内容) 抽出された課題を達成する方法を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 の日誌を見直す	
第6回	保育所についての解説	(学修内容) 保育実習 での課題を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育の制度について調べておく	
第7回	2 回生との交流	(学修内容) 2 回生と交流し実習での体験を伝える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 の学びを振り返る	
第8回	保育所についての解説 保育内容	(学修内容) 保育実習 の課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所での実習について振り返る	
第9回	保育実習 をふまえた実習目標の設定	(学修内容) 作成してきた保育目標を相互に見直す。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習目標を作成してくる	
第10回	公立・私立保育士の仕事の実際	(学修内容) 公立・私立の保育士の仕事の実際を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 関心のある項目をまとめておく	
第11回	実習記録の書き方	(学修内容) 二度目の保育所実習にふさわしい記録の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの実習記録を読み直す	
第12回	保育実習 に向けての個人面談	(学修内容) 個人面談を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 最後の保育実習で学びたいことを考えてくる	
第13回	課題に基づいた事前学習	(学修内容) 自分の課題に基づいて事前学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 最後の保育実習で必要な事前学習の資料を探す	
第14回	保育士になるための講座	(学修内容) 保育士になるために必要な学びを先輩から聞く。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 就職先の探し方、勉強の仕方など、聞きたいことを考えてくる	
第15回	保育実習 直前指導	(学修内容) 保育実習 の諸注意事項を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習 必要な事前準備を完了しておく	

授 業 名	保育実習指導 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>保育実習 では、児童館において保育実習を行う。そのために必要な事項として、保育実習 の振り返り、児童館の機能や対象者の理解、実習課題の設定、保育に関する課題への取り組みなどを学ぶ。これまでの実習日誌の記述内容を自ら分析し、よりよい記録の作成を目指すほか、保育職になるために必要な資質についても、公・私立の保育士の仕事の実際を学ぶなどして、さまざまな角度から考察する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 保育実習 を実施するために必要な事項について理解できる。 2) 児童館の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨むことができる。 3) 保育士に必要な資質を理解し、実習の目標に反映させることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	プリントを適宜配布する								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	実習日誌や実習目標を基に事後面談や事前面談を個別に行い、評価をフィードバックする。								
留 意 事 項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為を行っている場合には厳しく、対応する。無断欠席・遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習 の単位が取得できることを条件とする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育実習 の振り返り	(学修内容) 保育実習 を振り返り課題を明らかにする (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 で使用したメモや制作物を見て振り返っておく	
第2回	保育実習交流会	(学修内容) 保育実習 での体験を交流する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 での体験を振り返っておく	
第3回	保育実習事後面談	(学修内容) 個人面談を実施する (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育実習 での学びを振り返っておく	
第4回	保育所実習からの課題抽出	(学修内容) 保育所実習を経て自らの課題を抽出する (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談の内容をまとめる	
第5回	発展的実習のための事前学習	(学修内容) 抽出された課題を達成する方法を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育実習 の日誌を見直す	
第6回	児童館についての解説	(学修内容) 児童館の現状や機能を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設・保育所での実習について振り返る	
第7回	2 回生との交流	(学修内容) 2 回生と交流し実習での体験を伝える (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 の学びを振り返る。これまでの日誌を持参する	
第8回	保育実習 の目標について説明	(学修内容) 保育実習 の課題を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童館の機能について復習する	
第9回	保育実習 をふまえた実習目標の設定	(学修内容) 作成してきた保育目標を相互に見直す (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習目標を作成してくる	
第10回	公立・私立保育士の仕事の実際	(学修内容) 公・私立の保育士の仕事の実際を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 関心のある項目をまとめておく	
第11回	実習記録の書き方	(学修内容) 実習施設にあわせた記録の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの実習記録を振り返る	
第12回	保育実習 に向けての個人面談	(学修内容) 個人面談を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習目標を作成する	
第13回	課題に基づいた事前学習	(学修内容) 自分の課題に基づいて事前学習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 個人面談の内容を振り返る	
第14回	保育士になるための講座	(学修内容) 保育士になるために必要な学びを知る (事前事後学修課題の内容) (60分) 関心のある項目をまとめておく	
第15回	保育実習 直前指導	(学修内容) 保育実習 の諸注意事項を確認する (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習に必要な事前準備を完了しておく	

授 業 名	ビジネス実務総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1702
英 文 名	Business Routine Concept			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	安本 貴子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>ビジネスの概念、ビジネス環境の変化、ワークスタイルの変化について学習し、基本的なビジネス実務に必要な職務遂行にあたって求められる考え方・知識を身に付けていきます。社会人としてビジネスに必要なビジネス実務の基本知識を身につけ、ビジネスの諸活動に適切に対応できる能力と態度を育成していきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ビジネス実務士の資格を取得し、ビジネス実務の基本を身につける。 2) 組織の一員としての自分をイメージできる。 3) ビジネスに関する基本的な用語が理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『ビジネス実務総論 付加価値創造のための基礎実務』全国大学実務教育協会編 紀伊国屋書店								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	理解度テストを行った後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	企業で働くことを希望する学生が履修すること。教科書は常に用意し、予習・復習をする。 新聞の経済記事やニュースを見るようにすること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業前後に実施する								
実 践 的 教 育									

授業名	ビジネス実務総論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について。 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスの内容を確認しておく。
第2回	ビジネスの概念	(学修内容) 営利企業と非営利企業の違い。ビジネスの6要素について。 グループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1章を読んでおく。 ビジネスで利用するIT用語についてどんな用語があるか調べる。
第3回	ビジネス環境をとらえる(1) 経済グローバル化、高度情報化	(学修内容) 経済グローバル化、高度情報化について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2章を読んでおく。 IT用語の意味を確認しておく。
第4回	ビジネス環境をとらえる(2) 地球環境問題、少子高齢化	(学修内容) 地球環境問題、少子高齢化について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2章続きを読んでおく。 現在の日本の人口を調べておく。
第5回	ビジネス現場をとらえる(1) 日本の雇用システムの転換	(学修内容) 日本の雇用システムの転換について。 社会保障について (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章を読んでおく。 社会保障について調べておく。
第6回	ビジネス現場をとらえる(2) ワークスタイルの変化	(学修内容) ワークスタイルの変化について。 社会保障について (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章続きを読んでおく。
第7回	ビジネス実務を学ぶ	(学修内容) ビジネス実務学習のねらいについて。 社会保障について (事前事後学修課題の内容) (60分) 第4章を読んでおく。
第8回	ビジネス実務の基本とは何か(1) 仕事の進め方	(学修内容) ビジネス実務の基本を学ぶ。 社会保障について 理解度テスト (事前事後学修課題の内容) (60分) 第5章を読んでおく。
第9回	ビジネス実務の基本とは何か(2) ビジネスとサービス・表現活動	(学修内容) サービス・表現活動について。 税金について (事前事後学修課題の内容) (60分) 第5章続きを読んでおく。 税金の種類について調べておく。
第10回	ビジネス実務の基本とは何か(3) ビジネスと情報・組織活動	(学修内容) 情報・組織活動について。 税金について (事前事後学修課題の内容) (60分) 第5章続きを読んでおく。
第11回	ビジネス実務の活動をとらえる(1) オペレーション・マーケティング活動	(学修内容) オペレーション・マーケティング活動について。 税金について (事前事後学修課題の内容) (60分) 第6章を読んでおく。
第12回	ビジネス実務の活動をとらえる(2) キャリア形成・コストパフォーマンス	(学修内容) キャリア形成・コストパフォーマンスについて。 税金について 理解度テスト (事前事後学修課題の内容) (60分) 第6章続きを読んでおく。
第13回	ビジネス実務を創造する(1) 選択と共生、自己管理・自己責任の時代	(学修内容) 選択と共生、自己管理・自己責任の時代について。 ライフプランについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 第7章を読んでおく。 自分自身の将来をイメージしておく。
第14回	ビジネス実務を創造する(2) キャリアデザインを描く	(学修内容) 自分のキャリアデザインを描く。 ライフプランについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 第7章続きを読んでおく。
第15回	ビジネス実務の事例研究	(学修内容) 事例研究。 ライフプランについて プレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) (60分) 第8章を読んでおく、今までの復習をしておく。

授 業 名	応用ビジネス実務論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC1708
英 文 名	Applied Business Routine Concept			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>変化の激しい現代社会の中にあつて、社会人として必要な資質や役割を理解し、ビジネス実務の存在する意義は何か、ビジネス行動の最適化を図るにはどのように考えて行動すべきかなど理論的に考察していく。「ビジネス実務総論」で学んだことをベースに、ビジネスコミュニケーション、アクティブリスニング、ビジネスプレゼンテーション、KT法による意思決定・問題解決、メンタルヘルス、ビジネス法律などを学習する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 創造的なビジネス実務を行うための知識・技能について理解を深めることができる。 2) 対話の能力、課題発見・課題解決能力を培うことができる。 3) 論理的に学ぶことによって、ビジネス実務能力を発揮できるような考え方を学修することができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	全国大学実務教育協会編『ビジネス実務総論 付加価値創造のための基礎実務論』紀伊国屋書店								
参 考 書	適宜授業内に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に関して、評価基準を授業内あるいはメールにて解説する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育									

授業名	応用ビジネス実務論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画・内容・注意事項等。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを一読しておく。
第2回	ビジネスを考える	(学修内容) ビジネスは何を目指しているのか、説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP10-23を読んでおく。
第3回	ビジネス環境をとらえる --グローバル化、情報化について	(学修内容) 経済のグローバル化、高度情報化について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP25-36を読んでおく。
第4回	ビジネス環境をとらえる --環境問題、少子高齢化について	(学修内容) 地球環境問題、少子高齢化の問題について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP36-49を読んでおく。
第5回	ビジネス現場をとらえる	(学修内容) 日本の雇用のありかたやワークスタイルについて解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP51-68を読んでおく。
第6回	ビジネス実務について	(学修内容) ビジネス実務とは何かについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP71-83を読んでおく。
第7回	ビジネス実務の基本について --仕事の進め方	(学修内容) 仕事の進め方などビジネス実務の基本について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP85-111を読んでおく。
第8回	ビジネス実務の基本について --情報活用	(学修内容) 情報活用などビジネス実務の基本について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP112-136を読んでおく。
第9回	ビジネス実務の活動をとらえる --オペレーションとマーケティング	(学修内容) オペレーション活動とマーケティング活動について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP137-152を読んでおく。
第10回	ビジネス実務の活動をとらえる --キャリア形成とコストパフォーマンス	(学修内容) キャリア形成とコストパフォーマンスについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP152-174を読んでおく。
第11回	ビジネス実務の創造	(学修内容) これからのビジネス実務について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP175-195を読んでおく。
第12回	業界研究	(学修内容) グループワークで、関心のある業界から始まり、それに関連する業種を整理していく (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の興味・関心のある企業を調べる。
第13回	業界研究	(学修内容) 前講から引き続き、グループワークで、業種から企業を絞り、歴史など調べてみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞記事など企業に関連する記事を収集してみる。
第14回	自分のキャリア形成の方向性について考える	(学修内容) 「生き方・働き方・休み方・楽しみ方」それぞれの選択肢をどのように組み合わせしていくのか考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分のキャリア形成について考え、整理する。
第15回	まとめ	(学修内容) 自己啓発について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートに向けた質問事項を整理する。

授 業 名	ビジネス実務演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1703
英 文 名	Business Manner Practice			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤田 恵美子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	IT化によるビジネス環境の変化とともに仕事の仕方も変化してきている。それに対応するビジネスワーカーの基礎能力を身につける。 ビジネスマナーをベースに電話・来客対応、メール・文書作成、情報分析、ビジネスワーカーとしての基礎知識などを問題と実習を通して身につけ、今後のキャリア形成に役立てる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ビジネスに必要なマナーやルールについて理解し、効率のよい仕事の進め方が実践できる。 2) コミュニケーションに関する知識を身につけ、状況に応じて適切な行動ができる。 3) 「知る」だけでなく「できる」ようになることを目標とする。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	2019年度版 要点と演習「ビジネス能力検定 3級」(実教出版)								
参 考 書	2019年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト(日本能率協会マネジメントセンター)								
課題に対する フィードバック の方法	毎回の提出物と課題には添削とコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	* 企業で働くことを希望する学生が履修し、新聞等から社会の動きに興味を持っておくこと。 * 教科書と配布プリントは常に用意すること。 * 次に学ぶ章の教科書部分を予習として読んでおく、また学んだ章の教科書演習問題を課題とし、復習を徹底すること。 * 恥ずかしがらず実習は積極的参加すること。 * 受講時の言動はオフィスワーカーにふさわしいように心掛けること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業前後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：国際線客室乗務員として勤務。 接遇インストラクターとして新入社員研修等各種企業研修を担当。 その経験を活かし、光陵女子短期大学・大阪国際大学非常勤講師、大阪学院大学短期大学部准教授として秘書実務・ビジネス実務・エアライン実務の教育指導。								

授業名	ビジネス実務演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 第1編キャリアと仕事へのアプローチ	(学修内容)本講義の目標理解。自分のキャリアについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の準備。第1編 演習1の問題を解く
第2回	会社活動の基本	(学修内容)組織人としての意識を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1編 演習2の問題を解く
第3回	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	(学修内容)服装と身嗜み、基本的なマナーについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1編 演習3の問題を解く
第4回	指示・命令の受け方と連絡・相談	(学修内容)仕事の基本の指示と報告について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1編演習4の問題を解く
第5回	話し方・聞き方のポイント	(学修内容)話し方の基本を身につける (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1編 演習5の問題を解く
第6回	ビジネスの場にふさわしい言葉	(学修内容)尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使い分ける (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1編 演習5の問題続きを解く
第7回	電話応対実習 - 受け方(取り次ぎ)	(学修内容)声だけのコミュニケーションの特殊性を実習を通して知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1編 演習6の問題を解く
第8回	電話応対実習 - 受け方(不在)、かけ方	(学修内容)不在電話応対の注意点を実習を通して知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1編 演習6の問題続きを解く
第9回	来客応対実習と訪問の基本マナー	(学修内容)来客応対と名刺の扱いを実習を通して知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1編 演習7の問題を解く
第10回	会食と冠婚葬祭マナー	(学修内容)慶事・弔事の留意点を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1編 演習8の問題を解く
第11回	第2編仕事の取り組み、仕事の進め方	(学修内容)効率の良い仕事の進め方を身につける (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2編 演習1の問題を解く
第12回	ビジネス文書の基本	(学修内容)ビジネス文書作成の基礎知識を身につける (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2編 演習2の問題を解く
第13回	社内文書・メールの種類と作成	(学修内容)社内文書の特徴と役割を理解し作成する (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2編 演習2の問題続きを解く
第14回	社外文書・メールの種類と作成	(学修内容)社外文書の特徴と役割を理解し作成する (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2編 演習2の問題続きを解く
第15回	統計データの作り方、会社の数字の読み方	(学修内容)表とグラフの読み方、会社のデータから企業研究をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2編 演習3・5の問題を解く、企業研究の結果をレポート提出する。

授 業 名	ビジネス実務実践演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1709
英 文 名	Business Manner Practice Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>IT革命はビジネスの進め方を根底から変えつつある。それによりオフィスでの仕事の進め方も様変わりしてきている。このようなビジネス社会で活躍するには、さまざまな実務能力や法的な知識を身につけることが必要である。「ビジネス実務演習」で学んだことをベースに、まず、仕事の管理や問題解決の方法について概説し、それらに関する演習を行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 社会人として必要な「ビジネス」や「仕事」の基本的視点を体得することができる。 2) 組織の課題やニーズから、問題発見・問題解決に向けて論理的思考ができる。 3) 目的に応じて情報収集ができ、統計的手法により分析ができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (チームワークカ	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	適宜、資料を配布する。								
参 考 書	『2019年版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて、評価基準の具体的な内容など解説します。								
留 意 事 項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育									

授 業 名	ビジネス実務実践演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、仕事のマネジメントとは	(学修内容) 授業計画・内容・注意事項等。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを一読しておく。
第2回	キャリアと仕事へのアプローチ	(学修内容) IT時代におけるキャリアと仕事へのアプローチについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) IT関連の新聞記事を収集してみる。
第3回	会社活動の基本	(学修内容) 会社のしくみについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 企業紹介などの新聞記事を収集してみる。
第4回	話し方と聞き方について	(学修内容) 話し方と聞き方のポイントについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「話し方と聞き方のポイント」を読んでおく。
第5回	接客と営業について	(学修内容) 接客と営業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「接客と営業の進め方」を読んでおく。
第6回	統計・データの読み方、整理の仕方	(学修内容) 統計・データに関する基本的な知識を理解し、データのとらえ方を検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「データ整理法」を読んでおく。
第7回	情報収集とメディアの活用	(学修内容) 各メディアの特徴と信頼性について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常生活において、どこから情報を収集しているのか、整理してみる。
第8回	データ分析と将来の予測	(学修内容) グラフのデータから問題点を探る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グラフなどを用いている新聞記事を収集してみる。
第9回	クレーム対応について	(学修内容) 不満を信頼に変えるクレーム対応について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「不満を信頼に変えるクレーム対応」を読んでおく。
第10回	産業と経済の基礎知識 --会社の数字の読み方	(学修内容) 会社の財務指標などに出てくる数字について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「会社数字の読み方」を読んでおく。
第11回	産業と経済の基礎知識 --法律・税金	(学修内容) ビジネスにおける法律・税金について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「ビジネスと法律・税金知識」を読んでおく。
第12回	P D C Aサイクルについて	(学修内容) P D C Aサイクルのプロセスについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「P D C Aサイクルのプロセス」を理解しておく。
第13回	ビジネスの応用事例 --会社を選定する	(学修内容) グループに別れて事例研究を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料収集と整理 (グループワークに向けて)
第14回	ビジネスの応用事例 --選定した会社の内容を分析する	(学修内容) グループに別れて事例研究を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料収集と整理 (グループワークに向けて)
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの内容を整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を整理してみる (整理するポイントは授業時に説明する)。

授業名	図書館概論 u			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1707
英文名	Introduction to Library			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。図書館をめぐる今日の課題についての理解を深めるために、実際の事例にもとづいたグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 図書館の機能・役割を理解し、基本的な専門用語については意味を説明することができる。 2) 図書館というものが人間の暮らしにおいて持つ意味、歴史の中で果たしてきた役割について説明することができる。 2) 図書館の今日的課題に関して、現状と課題について自己の見解をプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『図書館概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ 1)、塩見昇、日本図書館協会、2012年								
参考書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館について話をします。								

授業名	図書館概論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館とは	(学修内容)図書館の定義、種類について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.13~P.20をよく読んでまとめておくこと。
第3回	図書館の理念:図書館の自由など	(学修内容)「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.57~P.64をよく読んでまとめておくこと。
第4回	図書館の自由について考える	(学修内容)図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館の自由に関する宣言」(テキストP.65~P.67)を読んでおくこと。
第5回	図書館法規と行政	(学修内容)公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の歴史的展開(欧米)	(学修内容)欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.225~P.228をよく読んでまとめておくこと。
第7回	図書館の歴史的展開(日本)	(学修内容)日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.229~P.232をよく読んでまとめておくこと。
第8回	公共図書館の制度と機能	(学修内容)「図書館法」の構成と性格を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。
第9回	公共図書館のサービス	(学修内容)公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.146~P.150をよく読んでまとめておくこと。
第10回	公立図書館の管理運営について考える	(学修内容)公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	学校図書館の制度と機能	(学修内容)学校図書館の役割と機能について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.161~P.168をよく読んでまとめておくこと。
第12回	大学図書館の制度と機能	(学修内容)大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.177~P.183をよく読んでまとめておくこと。
第13回	専門図書館の制度と機能	(学修内容)専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.190~P.193をよく読んでまとめておくこと。
第14回	国立図書館の制度と機能	(学修内容)国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.203~211をよく読んでまとめておくこと。
第15回	出版文化と図書館	(学修内容)出版文化と図書館の貸出サービスとの関係についてグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.45~P.48をよく読んでまとめておくこと。

授 業 名	図書館制度・経営論 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Library System and Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。図書館経営やサービス計画に関して理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを実施する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2) 図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。 3) 図書館サービス計画に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館制度や経営について話をします。								

授業名	図書館制度・経営論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館の制度	(学修内容)図書館設置を規定する各法律について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	図書館法	(学修内容)図書館法の条文を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館法の条文をよく読んでおくこと。
第4回	他館種の図書館に関する法律	(学修内容)学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスと法律	(学修内容)著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 著作権法の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の管理運営の外部化 指定管理者制度	(学修内容)指定管理者制度について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定管理者制度について調べておくこと。
第7回	図書館の管理運営の外部化 PFI	(学修内容)PFIについて解説する。管理運営の外部化に関して問題点をグループ討議する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) PFIについて調べておくこと。
第8回	図書館のサービス計画	(学修内容)図書館サービスの計画について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	図書館のマーケティング	(学修内容)図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	図書館の建築計画	(学修内容)図書館建設手順の流れについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	レイアウト図をつくる ゾーニング計画	(学修内容)ゾーニング計画をつくる。適切なレイアウトについてグループで討議を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。
第12回	レイアウト図をつくる 書架	(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。
第13回	レイアウト図をつくる 閲覧席	(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。閲覧席を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の閲覧席配置について調べておくこと。
第14回	レイアウト図を発表する ゾーニング計画	(学修内容)作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。
第15回	レイアウト図を発表する コンセプト・レイアウト図	(学修内容)コンセプトをふまえてゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。

授業名	図書館情報技術論 u			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Library Information Technology			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	岡 紀子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題を行う。数回はグループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。								
学修成果到達目標	1) 図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。 2) 知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。 3) インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。 4) 情報サービス演習・情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (課題遂行能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	改訂 図書館と情報技改訂術(樹村房)2018年 4月発刊								
参考書	・メディアリテラシ(上田裕子・増永良文、Computer ScienceLibrary15) 植田裕子・増永良文(サイエンス社) ・最新 情報リテラシー第4版-インターネットと情報機器を上手に利用するために-(監修:久野靖他)大串 夏身(青弓社) ・デジタルアーカイブ 基点・手法・課題(文化とまちづくり叢書) 笠羽 晴夫(水曜社)								
課題に対するフィードバックの方法	・提出されたレポートは、発表の際に都度コメントします。 ・制作物などについては、その実習中に個別に対応します。								
留意事項	・授業で学ぶことは基本的なことだけです。この分野についてより広く深く知りたい場合は、活用場所を図書館に限定せずに各専門書を参照してください。現代の社会の情報技術の進歩は目覚ましいので、常に最新の情報を入手するよう心がけましょう。新しい技術を図書館でどのように活用できるかを考えるのが、これからの司書の重要な使命だと思いますので、既成概念にとらわれない自由な発想ができるように期待しています。 ・自ら図書館に足を運び、図書館における業務を把握し、情報技術がどのように活用・応用されているか確かめておく。								
オフィスアワー	担当授業後に質問を受け付ける								
実践的教育									

授 業 名		図書館情報技術論 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	(学修内容) IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第2回	コンピュータの基礎	(学修内容) コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第3回	ネットワークの基礎	(学修内容) ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第4回	情報技術と社会・法律	(学修内容) 情報化社会の特徴をふまえ情報技術との深い関わりを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第5回	データベースの仕組み	(学修内容) データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第6回	サーチエンジン(検索エンジン)の仕組み	(学修内容) ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	(学修内容) コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第8回	図書館の新たなITの活用 その1	(学修内容) 図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書管理システムの概要、ICタグ、自動化技術等を活用したシステムについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第9回	図書館の新たなITの活用 その2	(学修内容) デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリ、ディスクバリーサービスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第10回	図書館と電子資料	(学修内容) 図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第11回	デジタルアーカイブ ・最終レポート課題設定: 提出期限は13回目 ・図書館における障がい者支援のとりくみ DAISYの作成の概要: アカウントとPWを配布	(学修内容) デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。ウェブサイト例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第12回	マルチメディアDAISY作成の演習(1)	(学修内容) 障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。音声支援システムソフトを用いてmDAISY形式資料の編集を実践をする。 (事前事後学修課題の内容) (10分) アカウント・PWでアクセスの確認	
第13回	最終レポート提出 プレゼンテーション(1) マルチメディアDAISY作成の演習(2)	(学修内容) レポート提出期限 課題レポートの発表(1) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業を継続	
第14回	レポートのプレゼンテーション(2) マルチメディアDAISY作成の演習(3) 継続	(学修内容) 課題レポートの発表(2) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業を継続	
第15回	レポートのプレゼンテーション(3) マルチメディアDAISY完成・提出(4)	(学修内容) 課題レポートの発表(3) mDAISY編集完成版の提出 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業完成	

授 業 名	図書館サービス概論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Introduction to Library Services			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川瀬 綾子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	図書館サービスにかかる理念、構造、活動内容、規範について公共図書館を基本として解説し、学びを深めていく。図書館サービスとネットワーク化の必要性など、現代の図書館における様々なサービスについて、その意味や意義を理解する。また近年の情報社会において図書館で扱う資料や情報提供サービスの基本と展開についても学んでいく。授業では、図書館に関する映像を見たり、ディスカッションやレポートの作成、プレゼンテーションにも取り組む。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代の図書館サービスについて、その基本と意義、理念を把握することができる。 2) 図書館における様々なサービスを学び、その多様な在り方について理解し、考察を深める。 3) 今後の図書館サービスの在り方を考えることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	宮部頼子編『図書館サービス概論』樹村房、2012年								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	公共図書館等を積極的に訪れてその図書館でどのようなサービスが行われているかなどを注意深く観察してください。授業の予習・復習は欠かさずに行い、わからない点などがあれば次の授業までに調べるなど自ら学習を深める努力を行うようにしてください。出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位は与えません。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	担当授業終了時に実施する。また毎授業時にコメント等を書く用紙を配布するので、質問などがあればその用紙を活用すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：図書館司書として児童図書館、学校図書館、病院図書室に勤務。実務経験も踏まえて図書館サービスについて話をします。								

授業名	図書館サービス概論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業の概要説明、公共図書館における図書館サービスについて	(学修内容) 授業の概要(授業計画、内容、評価方法、本講義の進め方等についての説明)、図書館のサービスとはどのようなものであるのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 今まで自分が図書館で体験した、もしくは見聞きしたことのある図書館サービスについて考えておく。
第2回	図書館サービスの意義と理念1 - 図書館サービスの概要 -	(学修内容) 様々な図書館サービスについての解説、その意義や理念などを概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章1・2項を読んでおくこと。
第3回	図書館サービスの意義と理念2 - 図書館業務の概要 -	(学修内容) 図書館で行われている業務にはどのようなものがあるのかを考えてくる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章3 - 6項を読んでおくこと。
第4回	公共図書館サービスの変遷	(学修内容) 公共図書館サービスの基盤整備から市民の図書館への流れと今日の公共図書館サービスの確立についてを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第2章を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスの種類と方法	(学修内容) 公共図書館を主とした閲覧サービスと貸出サービスを中心に説明し、その意味を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章を読んでおくこと。
第6回	資料提供サービス	(学修内容) 資料提供サービスについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第4章を読んでおくこと。
第7回	情報提供サービス	(学修内容) レファレンスサービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書第5章を読んでおくこと。レファレンスサービスに関する課題を課す。
第8回	利用者対象別サービス - 児童サービス、ヤングアダルトサービスについて -	(学修内容) 利用対象者が幼児や児童などの場合、どのような図書館サービスが行われているかを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 公共図書館で行われている児童向けのサービスに参加し、その感想や意見をまとめて授業にのぞむこと。教科書第6章を読んでおくこと。
第9回	利用者対象別サービス - 多文化サービス、障害者サービス、高齢者サービスについて -	(学修内容) 外国の方への図書館サービスや、障害者、高齢者の方への図書館サービスについてを解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第6章を読んでおくこと。
第10回	図書館サービスとコミュニケーション	(学修内容) 利用者に対する接遇・広報について理解する。第7回の授業で課した課題の発表とディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 公共図書館のHPや広報物等を確認しておくこと。 教科書第7章を読んでおくこと。
第11回	図書館サービスと著作権1 - 著作権の概要 -	(学修内容) 著作権の意義と概要について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第8章を読んでおくこと。
第12回	図書館サービスと著作権2 - 図書館における著作権 -	(学修内容) 図書館で行われている複写サービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第8章を読んでおくこと。
第13回	図書館サービスの協力と連携	(学修内容) 図書館サービスにおける協力・連携の意義について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第9章を読んでおくこと。
第14回	図書館サービスの課題と展望	(学修内容) これまで学んできた内容を振り返り、現代の図書館サービスについての理解を深め、これからの課題、問題点などを考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 今まで学んできたことを振り返って復習し、図書館に必要なサービスとは何かを考えてくる。教科書第10章を読んでおくこと。
第15回	図書館サービスの未来：授業まとめ	(学修内容) これからの図書館の在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書を再度通読すること。

授業名	情報サービス論 u			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Information Services			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。図書館における情報サービスの実際を理解するために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 図書館における情報サービスの種類とその内容について説明することができる。 2) レファレンス事例とレファレンス資料に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	授業にて指示する。								
参考書	『情報サービス論』(現代図書館情報学シリーズ5)、山崎久道、樹村房、2012年								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館で勤務。実務経験をもとに情報サービスについて話をします。								

授業名	情報サービス論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(10分) シラバスを読んでおくこと。
第2回	情報社会と図書館	(学修内容)図書館の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報社会の特質についてまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第3回	情報サービスの実際 直接的サービス	(学修内容)情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1回授業で解説したレファレンスサービスの概要について復習し、まとめておくこと。
第4回	情報サービスの実際 間接的サービス	(学修内容)情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報サービスの種類と内容をまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第5回	レファレンスサービスの理論と実際	(学修内容)レファレンスサービスの理論を学習する。サービスの実施に関わる具体的問題についてグループディスカッションを行うことで理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスサービスの理論に関わる配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	レファレンスプロセス	(学修内容)レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスプロセスに関するプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第7回	情報検索と情報検索システム 種類と内容	(学修内容)情報検索の種類・内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 情報検索システムに関する配付資料をよく読んでおくこと。
第8回	情報検索と情報検索システム 検索過程	(学修内容)情報検索システムにおける検索過程の内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、OPACを用いて特定のテーマに関する情報検索を行い、結果をまとめておくこと。
第9回	情報サービスにおける各種情報源の利用法	(学修内容)個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、授業中に紹介した各種情報源を手に取り、利用すること。
第10回	情報サービスと知的財産権	(学修内容)著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。
第11回	オンラインデータベース	(学修内容)オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、いくつかのオンラインデータベースを用いて情報検索を行い、それぞれのオンラインデータベースの特徴をまとめておくこと。
第12回	電子ジャーナル	(学修内容)電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。
第13回	レファレンス事例について(プレゼンテーション)	(学修内容)レファレンス質問とその回答についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。
第14回	レファレンス資料の概要について(プレゼンテーション)	(学修内容)前回のレファレンス事例中にある参考資料について、レファレンス資料としての特徴をまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。
第15回	まとめ	(学修内容)今後の情報サービスあり方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回までの配付プリントを読んでおくこと。

授業名	児童サービス論 u			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Child Services			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>1) 児童図書館における児童サービスの理念や意義・役割について理解を深める。 2) IT時代を迎える現代の子どもたちにとって、より望ましい読書支援とはどうあるべきかを考える。 3) 子どものための文化財としてある絵本や児童文学などを具体的にとりあげ、その特質をふまえて児童図書館の蔵書構成や選書について検討する。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 児童図書館の蔵書を構成する児童文化関連資料の全体像について基本的知識を習得できる。 2) 1) を活用した利用者サービスの内容と方法について理解できる。 3) 選書やブックトークの内容について知り、実践することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	使用しない(適宜プリントを配布)。								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	受講生は、毎回、「振り返り用紙(学びのポートフォリオ)」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。								
留意事項	児童図書館や子どもの本についてのフィールドワークを数回実施するので、実際に見学をとおして体験することで学びを深めてほしい。フィールドワークについては、事前に受講生と充分相談・説明のうえ、見学先の開館日・時刻、場所等により、授業時間外の曜日・時刻に実施することもある。また受け入れ施設の都合により見学先を変更せざるを得ない場合もある。やむを得ず見学を欠席する場合は、必ず、事前に連絡すること。見学当日の無断欠席は、単位取得の意思がないものとみなす。								
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：子育て支援員。								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス 授業の概要および進め方	(学修内容) 本授業の目的やねらい、取り組み内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 予習として、シラバスを読んで授業内容や評価方法を確認しておく。	
第2回	児童サービスとは何か	(学修内容) 日本における児童図書館および児童サービスについて理解を深めることができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、児童図書の特徴について要点を3分間で説明できるようまとめておく。	
第3回	児童関係資料の種類と特質 フィールドワーク	(学修内容) 児童に関連する資料について、その種類や特質について学び、理解を深めることができる。(場所: 子ども絵本専門店) (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、各自が選書した絵本の概要をまとめ、読み聞かせの練習を3回しておく。	
第4回	選書の内容と方法 (絵本) 1 プレゼンテーション	(学修内容) 選書の内容と方法について知るとともに、選書する資料(絵本)の特質をふまえ、その視点を学ぶことができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、児童図書館について調べておく。	
第5回	選書の内容と方法 (絵本) 2 フィールドワーク	(学修内容) 選書の内容と方法について知るとともに、選書する資料(絵本)の特質をふまえ、その視点を学ぶ。(場所: こどもみらい館子育て図書館) (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、絵本の特徴について考えておく。	
第6回	選書の内容と方法 (絵本) 3 ワーク	(学修内容) 資料をいかに評価するか、実際に絵本の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、絵本の選書を行う際の重要な点について考えておく。	
第7回	選書の内容と方法 (絵本) 4 フィールドワーク	(学修内容) 資料をいかに評価するか、実際に絵本の選書を行うことで資料に対する見識を培う。(場所: 京都市中央図書館) (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、絵本の選書を行う際の重要な点について考えておく。	
第8回	中間まとめ	(学修内容) 選書を行う際の重要な点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでのフィールドワークについて振り返り、各自、得たこと、気づいたこと、疑問に思ったことについてまとめておくこと。	
第9回	選書の内容と方法 (読物) 1 フィールドワーク	(学修内容) 選書する資料の特質をふまえ、その視点を学ぶ。(場所: 京都府立図書館) (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、選書を行う際の重要な点について考えておく。	
第10回	選書の内容と方法 (読物) 2	(学修内容) 資料をいかに評価するか、実際に読み物の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、読み物の選書を行う際の重要な点について考えておく。	
第11回	児童関係コレクションの収集と構築 フィールドワーク	(学修内容) 選書のありかた、蔵書構成などについて、実際の図書館をサンプルに分析し、そのありようを学ぶ。(場所: 国立国会図書館関西館) (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、身近な児童図書館を見学して蔵書構成について考えておく。	
第12回	子どもと本をつなぐ活動1 ブックトーク/読み聞かせ	(学修内容) 読み聞かせやブックトークなど、主な活動について理解し、その特質と役割を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、ブックトークする題材を決めて3分間でプレゼンテーションする練習をしておく。	
第13回	子どもと本をつなぐ活動2 ワーク	(学修内容) 図書館の乳幼児サービス、特にブックスタート活動について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自の居住する地域のブックスタート運動について事前学習しておく。	
第14回	子どもと本をつなぐ活動3 地域における子どもと図書	(学修内容) オンラインを活用した児童向け検索システムについて知り、子どもと本との関係について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、各自の地域における子どもと図書の関係について調べておく。	
第15回	本授業を振り返り、次につながる課題を見出す 児童サービスの課題	(学修内容) 全回のまとめを行い、これからの児童サービスの課題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で取り上げてきたことを振り返り、自分なりの理想の児童図書館像を考えておく。	

授 業 名	情報サービス演習 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Information Service Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習を通して学習する。また、レファレンス質問事例をもとに冊子体の文献情報の読み方、利用法等を図書館の蔵書探索を通じて学習する。発信型情報サービスの理解を深めるために、グループワーク、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)を用いて情報探索することができる。 2) 情報検索理論を理解し、適切な情報検索技術を用いて検索することができる。 3) パスファインダーの調査成果についてプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	原田智子『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ7）、樹村房、2016年								
参 考 書	今まどこ『図書館学情報学基礎資料』、樹村房、2016年								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	毎回の講義で紹介された専門用語は意味・用法等を復習してマスターすること。 講義で紹介されたデータベースについては、授業後に再度利用し、そのデータベースの特性、内容、利用法等をしっかりと復習すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに情報サービス、レファレンスサービスについて解説を行います。								

授業名	情報サービス演習 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の概要を理解し、授業計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	情報サービスの設計と評価	(学修内容)情報サービス、レファレンスサービスの概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと。
第3回	情報探索の基礎	(学修内容)情報検索理論について、検索方式、検索語、トランケーションを中心に学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト2章を読んで予習しておくこと。
第4回	情報資源の探し方	(学修内容)さまざまな情報資源の種類、使い方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回講義の検索基礎理論を理解しておくこと。 テキスト3章を読んで予習すること。
第5回	Webページ、Webサイトの探し方	(学修内容)Webページ、Webサイト、検索エンジン、インターネット上の情報の探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト4章を読み予習すること。
第6回	図書情報の探し方	(学修内容)図書情報の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト5章を読み予習すること。
第7回	雑誌および雑誌記事の探し方	(学修内容)雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト6章を読み予習すること。
第8回	新聞および新聞記事の探し方	(学修内容)新聞の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト7章を読み予習すること。
第9回	言葉、事柄、統計の探し方	(学修内容)言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト8章を読み予習すること。
第10回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	(学修内容)歴史、日時、地理、地名、地図資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9章、10章を読み予習すること。
第11回	法律、判例、特許の探し方	(学修内容)法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト12章を読み予習すること。
第12回	発信型情報サービス	(学修内容)発信型情報サービス(パスファインダー)の構築する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト15章を読み予習すること。
第13回	人物、企業、団体の探し方	(学修内容)人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9、10章を読み予習すること。
第14回	レファレンスコレクションの整備	(学修内容)レファレンスコレクションの整備・評価の在り方について学習する。Web上に公開されているデータベースの調査、評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト14章を読み予習すること。
第15回	パスファインダーの調査成果発表まとめ	(学修内容)パスファインダー調査成果を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自調査結果の発表準備を行う。

授 業 名	図書館情報資源概論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Introduction to Library Information Resource			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	近年多様化している図書館情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識を習得することを目的とする。また、図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する基本的知識の習得も目指す。図書館情報資源をめぐる今日的課題に関してグループディスカッションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館が扱う資料(印刷資料、非印刷資料、電子資料)の種類と特性について理解し、説明できる。 2) 図書館で受け入れる資料の処理方法や取り扱い方の注意点、修復方法を理解し、説明できる。 3) ネットワーク情報資源や電子情報資源について理解し、説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	藤田岳久編『図書館情報資源概論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8),学文社 2016年								
参 考 書	今まど子編『図書館情報学基礎資料』樹村房,2016年 馬場俊明編『図書館情報資源概論 JLA図書館情報学テキストシリーズ 8』日本図書館協会,2012								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	図書館を積極的に利用し、図書館資料の種類・特色について調べておくこと。 積極的な授業参加が求められる。特に、グループディスカッションでは積極的に発言し、意見交換すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館資料について解説します。								

授 業 名		図書館情報資源概論 U	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業展開の解説、図書館が取り扱う知識と情報の性質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	図書館情報資源の経緯	(学修内容) 図書館資料全般の特質、歴史について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト2章p.12-17を読んでまとめておくこと。	
第3回	印刷資料・非印刷資料の類型と特質	(学修内容) 資料の類型、図書、逐次刊行物、小冊子、視聴覚資料、マイクロ資料、障害者向け資料の定義、種類、特徴、などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト3章p.18-25 を読んでまとめておくこと。	
第4回	電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質	(学修内容) 電子資料、ネットワーク情報資源の定義と特徴、ネットワーク型情報資源、パッケージ型電子資料の種類と特質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト4章p.26-31を読んでまとめておくこと。	
第5回	地域資料、行政資料、灰色文献	(学修内容) 地域資料の意義、地域資料、行政資料、灰色文献の定義について理解し、地域資料の収集、情報発信のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト5章p32-37を読んでまとめておくこと。	
第6回	情報資源の生産(出版)と流通	(学修内容) 出版の流通、図書の制作の過程について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト6章p. 38-43を読んでまとめておくこと。	
第7回	図書館業務と情報資源に知識関する知識 図書館と著作権	(学修内容) 図書館情報資源利用と著作権法の関わりについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「図書館と著作権法」に関する情報をインターネットで調べ、わからない言葉を書き出しておくこと。	
第8回	コレクション形成の理論	(学修内容) コレクション形成における資源、コレクション形成理論の史的展開について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト8章p. 50-57を読んでまとめておくこと。	
第9回	コレクション形成の方法	(学修内容) 蔵書構築と蔵書構成、選択、収集、形成、維持について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト9章p. 58-63を読んでまとめておくこと。	
第10回	人文・社会科学分野の情報資源とその特性	(学修内容) 人文・社会科学、科学技術分野、各分野の学問的諸領域、情報資源へのアクセスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト10章p.64-71を読んでまとめておくこと。	
第11回	科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性	(学修内容) 科学技術分野、生活分野の意味、科学技術情報、科学技術コミュニケーション、生活分野の学術文献の特色について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト11章p.72-77を読んでまとめておくこと。	
第12回	資料の受入・除籍・保存・管理の実際	(学修内容) 資料の受入、除籍、保存、資料管理のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト12章p.78-85を読んでまとめておくこと。	
第13回	情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源	(学修内容) クラウドソーシング、クラウドコンピューティング、オープンソース・オープンアクセスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト13章p.86-91を読んでまとめておくこと。	
第14回	電子書籍、電子ジャーナル	(学修内容) 電子書籍の現状と意義について学習する。電子ジャーナルに関してグループディスカッションを行い、現状と課題について考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト14章p.92-97を読んでまとめておくこと。	
第15回	まとめ	(学修内容) 総復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト15章p.98-117を読んでまとめておくこと。	

授 業 名	情報資源組織論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Informational Resource Organization			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	図書館の利用者に情報資源に関する情報を提示し、情報資源そのものを提供できるよう、目録作業、分類作業、件名付与といった間接サービスについて学習する。また、地域、一国、あるいは国際的なレベルでの書誌コントロール、急速な発展を遂げた書誌情報ユーティリティ、メタデータ、書誌データの活用などに関しても解説を行なう。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 情報資源の組織化を行う意義や目的について説明できる。 2) 情報資源の目録作成に関する基礎的事項を説明することができる。 3) 分類法を理解し、書架を管理する方法を理解できる。 4) 主題分析、統制語検索の手法について理解できる。 5) コンピュータを利用した書誌情報の作成とその活用について理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	講義内で配布するプリント								
参 考 書	講義で紹介。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物を添削し、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員								

授業名	情報資源組織論 U	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	情報資源組織化の意義	(学修内容) 情報資源組織の業務と意義 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、図書館員の業務内容をリストアップしておく
第2回	目録の役割と種類	(学修内容) 目録の役割、目録の種類 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第3回	目録記入の構成	(学修内容) 書誌記述の規則、『日本目録規則』の概要 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第4回	標目の役割	(学修内容) 標目の機能、標目の種類、典拠ファイル (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第5回	主要な書誌記述規則	(学修内容) 主要な目録規則の概要 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第6回	集中目録作業	(学修内容) 書誌データの流通、MARC (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第7回	共同目録作業	(学修内容) 総合目録、書誌ユーティリティ (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第8回	書誌コントロールと標準化	(学修内容) 書誌コントロールの種類と歴史 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第9回	OPACの管理と運用	(学修内容) OPACの機能と管理、メタデータ、RDF (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第10回	主題の分析と検索	(学修内容) 主題分析の意義、自然語、統制語 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第11回	件名標目表とシソーラス	(学修内容) 件名標目表、シソーラス、「基本件名標目表」の構成 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第12回	図書の配架方法	(学修内容) 案内板、図書の配架方法、分類の留意点 (事前事後学修課題の内容) (20分) 各自 図書館へ行き、図書の配架方法、および図書館利用者が目的の場所へたどりつけるよう配置された案内板の記載内容を確認しておく
第13回	日本十進分類法による分類作業	(学修内容) 分類法の概要、「日本十進分類法」の構成 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第14回	多様な情報資源組織の配架と分類記号の付与	(学修内容) 学内の図書館を見学し、別置資料の配架方法とその図書ラベルを確認。別置されている理由、課題について解説。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第15回	主要な分類法	(学修内容) 主要な分類法の概要 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする

授 業 名	情報資源組織演習 u			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Bibliographic Organization Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	多様な情報資源に関するデータを整理し、図書館の利用者に目的の情報資源を提供することができるための技術を習得する。情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、メタデータの作成などを理解し、情報資源の組織化に必要な能力を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 情報資源の組織化業務に必要な技術について説明できる。 2) 書誌データを作成することができる。 3) ネットワーク情報資源のメタデータの作成手法を理解できる。 4) 主題分析、分類作業、統制語彙適用を行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	志保田務・高鷲忠美編 『情報資源組織法 第2版』 第一法規 2016年								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中に行う課題については、添削をした後、解説をする。提出物に関しては、添削をして返却する。								
留 意 事 項	講義内容を復習すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員								

授 業 名		情報資源組織演習 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	書誌データの作成	(学修内容) 目録法及び記述に関する総則を解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「情報資源組織論」で学習した内容を復習しておくこと。	
第2回	各書誌的事項の記述	(学修内容) 和資料を中心に各書誌的事項の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第3回	書誌階層構造	(学修内容) 集合・基礎・構成単位の書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第4回	継続資料の書誌データの作成	(学修内容) 逐次刊行物に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第5回	非図書資料の書誌データの作成	(学修内容) 地図資料、電子資料、映像資料、録音資料に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第6回	標目の付与、『日本目録規則2018年版』	(学修内容) 標目の表記方法を解説、演習問題。今年出された『日本目録規則2018年版』の内容を解説。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第7回	書誌ユーティリティにおける目録作成	(学修内容) 集中化・共同化による書誌データ作成の実際、メタデータの作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第8回	書誌データ管理・検索システムの構築	(学修内容) 書誌データベースの構築。メタデータの作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第9回	主題分析と分類作業の実際	(学修内容) 主題分析の方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第10回	日本十進分類法の活用法	(学修内容) 日本十進分類法の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第11回	日本十進分類法による分類作業 形式区分	(学修内容) 日本十進分類法の形式区分に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第12回	日本十進分類法による分類作業 地理区分、海洋区分	(学修内容) 日本十進分類法の地理区分・海洋区分に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第13回	日本十進分類法による分類作業 言語区分、固有補助表	(学修内容) 日本十進分類法の言語区分、固有補助表(言語共通区分・文学共通区分など)に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第14回	分類規程・図書記号の付与	(学修内容) 分類規程、図書記号の付与に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第15回	基本件名標目表による件名付与	(学修内容) 基本件名標目表の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	

授業名	図書館基礎特論 u			開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Special Lecture on Library			開講時期	春学期	必修選択	必修	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	図書館司書資格の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。図書館におけるサービス内容を整理し、図書館サービスに関わるテーマを各自で設定し、関連する文献資料を収集、整理し、自己の見解をまとめ、伝達できるようにする。また、図書館の今日的課題の一つである広報活動の在り方について、グループワーク、プレゼンテーションを通して実践的に学習する。								
学修成果到達目標	1) 各自の関心のあるテーマについて、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。 2) 自らの考えを映像資料にまとめることができる。 3) 図書館サービスを紹介する映像資料を通して、プレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テキスト	授業中に指示する。								
参考書	授業中に指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小レポートを回収後に解説を行います。								
留意事項	講義形式ではなく、受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な資料を収集し、整理し、成果物を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の今日的課題について話をします。								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	図書館資料の探索と活用	(学修内容)図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館での情報検索の方法について考えておくこと。	
第3回	レファレンスサービスを考える	(学修内容)図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に出向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。	
第4回	レファレンス質問を考える	(学修内容)レファレンス質問を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターネット等を利用してレファレンス事例を探しておくこと。	
第5回	レファレンス回答をつくる	(学修内容)図書館資料を探索し、前回の授業で作成したレファレンス質問の回答を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に出向き、レファレンス資料に目を通しておくこと。	
第6回	図書館の広報活動について考える	(学修内容)図書館の広報活動の概要を説明する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 広報の意義について考えておくこと。	
第7回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するグループをつくる	(学修内容)レファレンスサービスを中心とした図書館紹介ビデオを作成する。グループをつくる。レファレンス質問を決める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レファレンス回答を完成させておくこと。	
第8回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオをつくる	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ストーリーを考えておくこと	
第9回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する絵コンテをつくる	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオの絵コンテを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオを完成させておくこと。	
第10回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する仮撮影	(学修内容)仮撮影を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオと絵コンテを完成させておくこと。	
第11回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオ修正	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを修正する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 仮撮影の内容を振り返る。	
第12回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する本撮影	(学修内容)本撮影を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオを完成させておくこと。	
第13回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する編集	(学修内容)撮影したビデオの編集作業を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) サウンドトラックなどの準備をしておくこと。	
第14回	発表	(学修内容)完成した図書館サービス紹介ビデオを発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) ビデオを完成させておくこと。	
第15回	まとめ	(学修内容)授業を振り返り、レポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要な資料があれば入手しておくこと。	

授業名	図書・図書館史 u			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	History of Books and Libraries			開講時期	春学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>図書の形態、印刷、普及、流通に関して歴史的に概説し、あわせて図書館の歴史的な展開についても解説する。古代知識の集積と図書館のはじまり、中世社会の思想と図書館との関係、近世図書館思想の広まりから公共図書館の誕生までの歴史を、西欧、中国、日本の視点から考えていく。図書館の歴史に対する理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を説明することができる。 2) 図書館の歴史的意義、文化的意義を説明することができる。 3) 日本の図書館の歴史に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (55 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (45 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	佃一可『図書・図書館史』(現代図書館情報学シリーズ11)、樹村房、2012年								
参考書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	普段から図書館に向かうよう心掛け、図書館の様子を観察しておいてもらいたい。グループワークやプレゼンテーションでは主体的な学びが求められる。積極的に授業に参加してもらいたい。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の歴史について解説します。</p>								

授 業 名		図書・図書館史 u
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	古代の図書館(西洋)	(学修内容)文字の発生と記録、古代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。
第3回	中世の図書館(西洋)	(学修内容)修道院図書館や大学図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.62~P.77をよく読んでおくこと。
第4回	近世の図書館(西洋)	(学修内容)ガブリエル・ノーデやライプニッツの図書館思想などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.94~P.111をよく読んでおくこと。
第5回	近現代の図書館(西洋)	(学修内容)大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.134~P.146をよく読んでおくこと。
第6回	中国の図書の歴史(古代・中世)	(学修内容)紙の発明、四部分類について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.27~P.40をよく読んでおくこと。
第7回	中国の図書の歴史(近世・近代)	(学修内容)印刷時代の図書について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.123~P.131をよく読んでおくこと。
第8回	古代の図書館(日本)	(学修内容)奈良時代・平安時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.50~P.60をよく読んでおくこと。
第9回	中世の図書館(日本)	(学修内容)鎌倉時代・室町時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.86~P.91をよく読んでおくこと。
第10回	近世の図書館(日本)	(学修内容)江戸時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.112~P.122をよく読んでおくこと。
第11回	近代の図書館(日本)	(学修内容)明治・大正・昭和前期の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.147~P.166をよく読んでおくこと。
第12回	現代の図書館(日本)	(学修内容)第二次世界大戦以降の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.183~P.204をよく読んでおくこと。
第13回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 図書館の概要	(学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の概要をワークシートに従って調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 取り上げる図書館について、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
第14回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 関わった人物	(学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の創立に関わった人物について調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、取り上げる図書館について記載されている資料を閲覧しておくこと。
第15回	日本の図書館の歴史について(プレゼンテーション)	(学修内容)前回までの調査で明らかになった事項をパワーポイントを用いて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 前回までの調査で明らかになった事柄を整理し、パワーポイント資料を作成する。

授 業 名	生涯学習概論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Introduction to Lifelong Learning			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>いま地域では、健康・福祉、防災・減災、若者の就業、青少年の健全育成など多くの課題を抱え、それは我が国全体の課題であるといえる。その背景には、少子高齢化、核家族化、都市化など、急激な社会の変化がみられる。変化の激しい時代、わたしたちはこれまで経験したことのないさまざまな課題に対して、自分たちが住む地域の未来について住民同士が考えを出し合い協力し課題を解決していく姿勢が求められている。その学び場づくりをコーディネートするのが社会教育行政、なかでも社会教育主事に期待される役割である。「人づくり」「地域づくり」「住民ネットワークづくり」がキーワードとなる。そのために、今日、社会教育主事に求められる資質は実に多様である社会教育、生涯学習に関する基礎基盤的な知識、施策立案能力、把握・分析能力、ネットワーク構築力、学習環境設計能力、学習支援能力などがあげられる。特に、地域の学びを支援する立場として、ファシリテーション能力も求められる。本講義では、そこで我が国の生涯学習や社会教育のこれまでの歴史と実態を学び知識の基盤を作りながら、グループワークやフィールドワークを通して上記の社会教育主事に求められる資質とは具体的にどんなものなのかを実体験を通して学び力をつけることを目標としている。これらは、将来、公務員をはじめ公的な仕事をめざすもの、民間企業をめざすもの、教員、保育士など、すべての職場や組織で求められる力でもある。「自分づくり」も視野に入れて受講することも可能である。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 生涯学習、社会教育の定義や具体的な内容を説明することができる。 2) 社会教育主事に求められる資質について、地域の現状と照らし合わせて、具体的に説明することができる。 3) フィールドワークや学習プログラムの作成・発表などを通して、社会教育主事に求められる力を伸ばすことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () ()			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	香川正弘他(2016) 『よくわかる生涯学習 改訂版』 ミネルヴァ書房 2016								
参 考 書	授業の進捗状況に合わせて適宜指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	フィールドワークやプレゼンテーションの際に事前に評価基準を提示します。受講生の感想や発表についてその評価基準に基づき評価し良かった点、さらに考える必要がある点などを適宜指摘します。授業中に集めたコメントカードは、チェックをしコメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	テキストは、生涯学習・社会教育を網羅したものを選びました。毎回のコメントカードや最終課題のレポートをまとめる際に必読です。また、社会教育主事(補)資格の課程のほかの授業の内容にも参考になると思います。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実 践 的 教 育									

授 業 名		生涯学習概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス 社会教育主事の役割について	(学修内容) 社会教育主事の資格と職務内容について、具体的な事例を踏まえながら、現場で求められる資質と能力 (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを読んでくる 「生涯学習」を検索サイトで調べ興味を持った記事を1つ次の授業時に紹介できる準備を行う	
第2回	生涯学習と社会教育	(学修内容) 生涯学習と社会教育の定義と意義の理解 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「生涯学習とは何か」を一読し興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	
第3回	生涯学習と社会教育の歴史	(学修内容) 生涯学習と社会教育が誕生してきた歴史的背景を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「伝統として息づく日本の生涯学習」を一読し興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	
第4回	生涯教育論の登場	(学修内容) これまで語られきた生涯学習論を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「生涯学習を支える思想」を一読し興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	
第5回	生涯学習と学校教育	(学修内容) 学校教育と生涯学習の関係を理解する 次回京都市学校歴史博物館のフィールドワークに臨む目的と注意事項を把握する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「生涯学習支援としての大学開放」を一読し興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	
第6回	フィールドワーク	(学修内容) 社会教育施設として京都市学校歴史博物館を訪問し、社会教育主事にインタビューをおこなう(様々な状況を鑑み変更する場合もある) (事前事後学修課題の内容) (60分) 京都市学校歴史博物館の概要についてホームページ等から情報を収集し基礎知識をおさえておく	
第7回	生涯学習の方法と内容	(学修内容) フィールドワーク先で実施されている学習プログラムを参考にし、生涯学習の方法や内容について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「施設に基づいた生涯学習活動」を読み興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	
第8回	生涯学習と社会教育の計画	(学修内容) 教育計画を策定するねらい、および長期的、中期的、短期的な計画のあり方について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「生涯学習の多様な学習方法」	
第9回	グループワーク 学習プログラムの編成	(学修内容) 教育計画の実現の実現に向けた学習プログラムの編成について理解する 実際に単発の学習プログラムをグループで作ってみる (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第7章「学習プログラムの編成」を一読し興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	
第10回	プレゼンテーション 学習プログラムの発表	(学修内容) 自ら計画した学習プログラムを発表する 受講生同士で相互評価を行う (事前事後学修課題の内容) (120分) グループで協力して発表資料の作成	
第11回	生涯学習関連行政の仕組み	(学修内容) 生涯学習を支える行政の仕組みについて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「行政による生涯学習の振興」を一読し興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	
第12回	生涯学習と社会教育職員	(学修内容) 生涯学習の現場を支える社会教育職員について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「生涯学習にかかわる人的支援」を一読し興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	
第13回	生涯学習と社会教育施設	(学修内容) 生涯学習が日々おこなわれている社会教育施設について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「民間団体・機関による生涯学習」を一読し興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	
第14回	生涯各期の教育課題	(学修内容) 生涯発達について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「生涯にわたる人間形成」を一読し興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	
第15回	生涯学習と社会教育をめぐる課題	(学修内容) 生涯学習と社会教育をめぐる課題を認識し自ら社会教育主事の資格を取得したあと、どのように貢献できるのか検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「生涯学習の現代的課題」を一読し興味を持った部分や分かりにくかった部分をチェックしておく	

授 業 名	生涯学習概論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Introduction to Lifelong Learning			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現のため、学習者の特性の把握、生涯学習・社会教育の内容・方法・形態、生涯学習関連機関相互の連携のあり方、学習情報の提供と相談などの効果的なあり方を学び、生涯学習の新しい可能性を切り拓く力を育成する。ビデオを見たり、グループディスカッションやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生涯学習社会の望ましい学習機会や環境について説明することができる。 2) 生涯学習支援者の支援のあり方について説明することができる。 3) 生涯学習振興策の内容と地域の生涯学習推進の実際についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	授業中に出示された課題に対して主体的に取り組むこと。地域の生涯学習施設を訪問し、学習活動に参加することが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	生涯学習概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	生涯学習とライフステージ	(学修内容)ライフサイクルの概念を理解し、人間形成と学ぶことの意味について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配付プリントを読んでおくこと。
第3回	学習者の特性と学習の継続・発展(子ども期)	(学修内容)ペダゴジーの概念を理解し、子ども期における発達課題や特性と学びについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子ども期における人間の発達について調べておくこと。
第4回	学習者の特性と学習の継続・発展(中年期)	(学修内容)アンドラゴジーの概念を理解し、中年期における発達課題や特性と学びについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 中年期における人間の発達について調べておくこと。
第5回	学習者の特性と学習の継続・発展(高齢期)	(学修内容)ジェロゴジーの概念を理解し、高齢期における発達課題や特性と学びについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高齢期における人間の発達について調べておくこと。
第6回	生涯学習の実施状況 生涯学習世論調査	(学修内容)最新の生涯学習世論調査における生涯学習の実践状況および、その特徴について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 身近なところから生涯学習に関わることがないかどうかを調べておくこと。
第7回	社会教育の官民連携	(学修内容)財政難のなかで、サービスの質を落とさないための官と民との連携の在り方について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 社会教育施設を訪問し、教育内容を調べておくこと。
第8回	学びの提供方法と内容	(学修内容)社会教育機関の学びの提供方法や工夫についてグループワークを通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 社会教育施設を訪問し、学習プログラムを入手しておくこと。
第9回	地域の社会教育機関の現状	(学修内容)自分達が住む地域の中で、最も関心を持った社会教育機関を取り上げ、調査し、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の社会教育施設の現状を調べ、まとめておくこと。
第10回	生涯学習の支援者に求められる力	(学修内容)各生涯学習の現場では、どのような力が必要とされているかを知り、自分が補うべき能力について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 生涯学習支援者の役割について考えておくこと。
第11回	生涯学習支援者の整理	(学修内容)さまざまな学びを実現するために、どのような支援者があり得るかを整理する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 生涯学習支援者に求められる資質について考えておくこと。
第12回	生涯学習提供のための形態と手法	(学修内容)効果的に学びを支援するためのさまざまな学びの手法や形態について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 生涯学習の学習形態にはどのようなものがあるかを調べておくこと。
第13回	我が国における生涯学習の展開と各種審議会答申について	(学修内容)社会教育審議会、中央教育審議会などにみられる生涯学習の理念と具体案について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読んでおくこと。
第14回	生涯学習振興策の立案と推進について	(学修内容)地方自治体が立案する生涯学習振興策の内容を調べ、生涯学習の推進の実際と関連させた上で、整理した内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地方自治体のHPなどから生涯学習振興策を調べてまとめる。
第15回	まとめ ふり返り	(学修内容)「生涯学習概論」で学んだことを整理し、わかったこととこれからまなぶべきことを説明する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) これまで学習した内容を整理しておくこと。

授 業 名	総合演習 (管理栄養士)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Integrated Study (national registered dietitian)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	竹市 仁美・富安 広幸・平 正人			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	専門分野の各講義や実習で学習した内容を発展させ理解を深めるために、少人数のグループで、臨地実習を想定した課題設定、情報収集、研究実践を行い、解決策を考案し、実践的に課題解決に取り組むことで、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。また、臨地実習の事前指導を行うことで、実習を効果的に行う準備とし、管理栄養士としての実践力をつける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 管理栄養士としての基礎を修得して、実践的な力をつける。 2) 臨地実習に向けて、総合力、応用力をつける。 3) マナーや言葉遣いなど、社会人として必要なスキルが身についている。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	適宜プリント配布 管理栄養士・栄養士養成課程における臨地・校外実習要録(後日配布)								
参 考 書	栄養士必携 日本人の食事摂取基準[2015年版]								
課題に対する フィードバック の方法	プレゼンテーション時のアドバイス・指導 提出物への各自コメント記入								
留 意 事 項	臨地実習における専門的知識および技術の統合を図るための事前指導を含む。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の最初に伝えます								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院勤務での栄養管理業務・政令市保健所勤務での栄養改善業務の経験を生かし、現場に即した総合的な指導にあたる。また、職種連携についても伝えていく。								

授 業 名		総合演習 (管理栄養士)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	管理栄養士の役割と業務について	(学修内容) オリエンテーション 管理栄養士の役割について確認する (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養士法など関連法規を再読しておく	
第2回	臨地実習の目的と意義	(学修内容) 臨地実習の目的と意義について詳しく学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 臨地・校外実習要録を熟読しておく	
第3回	臨地実習の心構え	(学修内容) 実習生としての心構えやマナーについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) マナーや敬語について各自復習しておく	
第4回	臨地実習課題への取り組み方法	(学修内容) 病院・福祉施設・保健所など各施設での設定課題取り組む(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各施設に置ける関連トピックについて検索し、施設の特徴を調べておく	
第5回	情報収集	(学修内容) 課題の状況や原因などについて現状を調べる(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (120分) 社会調査法を活用し、必要な資料の収集を行い持参する。	
第6回	研究実践	(学修内容) 課題解決策を提案しまとめる(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで協力し、課題解決策案をまとめる	
第7回	グループごとに発表	(学修内容) 課題への解決策と改善への取り組みを発表する(プレゼンテーション・ディスカッション) (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで協力し、パワーポイント作成とプレゼン準備	
第8回	特定給食施設における給食運営について	(学修内容) 特定給食施設における給食業務の実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 給食経営管理論(特にHACCP)について復習しておく	
第9回	臨地実習「給食の運営」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	(学修内容) 臨地実習での目標等を設定する (事前事後学修課題の内容) (90分) 各実習先にあった自己目標を設定できるよう、施設について調べる	
第10回	臨床現場での栄養食事指導の現状	(学修内容) 栄養指導における管理栄養士の役割と使命について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養教育論を復習しておく	
第11回	「臨床栄養学臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	(学修内容) 栄養管理計画の作成と評価、チーム医療活動の実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 臨床栄養学について復習しておく	
第12回	特定給食施設における給食マネジメントについて	(学修内容) 臨地実習先で確認・検討する点等をグループでまとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自の目標設定・実習計画を明確にしておく	
第13回	「給食経営管理臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	(学修内容) 臨地実習に向く際の準備や各自のテーマについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 給食の運営に関して、各自持ち寄った計画へのグループディスカッションを行う	
第14回	公衆栄養行政の現状と事業の実際	(学修内容) 栄養行政を取り巻く現状の課題と法律や施策との関係を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 公衆栄養学について復習しておく	
第15回	「公衆栄養学臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	(学修内容) 各事業に関してその方法を学ぶ PDCAサイクルに沿った地域課題解決策を提案する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 保健所と保健センターの機能について復習しておく 現場での動きや体制について調べておく	

授業名	食品加工学 u			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Food Processing			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	食品の加工は、食品原材料を精製、調味、発酵などの手法を用いて、貯蔵性に優れ、より安全で、人間の嗜好に合った食品を作ることを行われる。また、この加工によって食品素材よりも商品価値を高めた食品とすることができる。講義形式の授業を通して、食品加工についての理論を学び、主要な加工食品についての製造工程とその原理及び加工食品としての特質、貯蔵法について、また、近年市場に流通している多様な食商品についての知識を深める。								
学修成果到達目標	食品素材の特性を理解できる。 食品加工の原理と方法を理解できる。 食品の保存性と規格を理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	喜多野宜子、上村昭子、久木久美子共著 『食べ物と健康』 化学同人 2016年								
参考書	授業にて指示する								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして各章での理解度確認テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	食品の加工技術は日々進歩しています。新聞などのニュースに注意して最新の技術について調べておく。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	食をめぐる現状と課題	(学修内容) 食品の多様化と加工食品の急増時代における課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 食品の種類や特性を調べておく	
第2回	食品加工の原理	(学修内容) 食品の特性を活かした加工法の原理を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 加工食品の原理や食品の特性を調べておく	
第3回	穀類の加工食品	(学修内容) 米や小麦等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.1~14を読んでおく	
第4回	いも類の加工食品	(学修内容) ジャガイモやサツマイモ等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.15~20を読んでおく	
第5回	種実類と豆類の加工食品	(学修内容) 大豆やクリ等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.21~34を読んでおく	
第6回	野菜類の加工食品	(学修内容) 葉菜類などの特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.35~48を読んでおく	
第7回	果実類、きのこ類、海藻類の加工食品	(学修内容) 仁果類や椎茸、緑藻類等の加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.49~65を読んでおく	
第8回	魚介類の加工食品	(学修内容) 主な魚介類の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.66~86を読んでおく	
第9回	食肉類の加工食品	(学修内容) 牛肉や豚肉、鶏肉等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.87~98を読んでおく	
第10回	卵類の加工食品	(学修内容) 鶏卵等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.99~109を読んでおく	
第11回	乳類の加工食品	(学修内容) 牛乳等の特性とその加工品について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.110~122を読んでおく	
第12回	食用油脂	(学修内容) 食用植物油脂や動物油脂等の種類とその特性について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.123~127を読んでおく	
第13回	調味料、香辛料、嗜好品	(学修内容) 調味料と香辛料、嗜好品の種類と特徴について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.128~150を読んでおく	
第14回	食品の保存と規格	(学修内容) 食品の保存法や規格基準、保健機能食品、特別用途食品について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.151~168を読んでおく	
第15回	現代の加工技術について	(学修内容) 加工技術の発展と問題点 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループを組んで最新の加工技術について紹介する。 発表の準備をしておく。	

授 業 名	総合演習 (管理栄養士)			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Integrated Study (national registered dietitian)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	竹市 仁美・富安 広幸・平 正人			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	これまで学んできた専門分野の内容を横断的に理解するため、医療・行政・福祉施設などにおける食と栄養の課題を設定し、解決策を考察し課題解決に取り組むことで、管理栄養士として必要な栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 専門分野の内容を横断的に理解して、栄養評価や管理が行える力が身についている。 2) これまでの専門分野の学びと関連付けて各施設における食と栄養の課題を発見し、課題への解決策をマネジメントサイクルに沿って実施できる。 3) 応用的な現場課題に対し、自ら科学的根拠を基に改善策を提案できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()		プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	適宜プリント配布 管理栄養士・栄養士要請家庭における臨地・校外実習要録								
参 考 書	栄養士必携 日本人のための食事摂取基準[2015年版]								
課題に対する フィードバック の方法	提出物について、コメントを添えて指導を行う。 プレゼンテーションについて、教員・クラスメイトからのコメントを返す。								
留 意 事 項	臨地実習に万全な体制で臨めるよう、健康管理を含め積極的に力を発揮できるよう復習・準備をしっかりと行うこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日提示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院勤務での栄養管理業務・政令市保健所勤務での栄養改善業務の経験を生かし、現場に即した総合的な指導にあたる。また、職種連携についても伝えていく。								

授 業 名		総合演習（管理栄養士）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）臨地実習についてのスケジュールと準備について知る より成果のある実習記録の取り方について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 臨地実習の意義について法的な確認しておく
第2回	特定給食施設における給食マネジメントについてのこれからの課題	（学修内容）給食マネジメントについて、現場での取り組みの実際について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 給食経営管理論について復習しておく
第3回	臨床現場での栄養・食事指導におけるこれからの課題	（学修内容）病院や老健施設などでの栄養・食事指導の実際を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 臨床栄養学について復習しておく
第4回	公衆衛生行政におけるこれからの課題	（学修内容）保健所・保健センターにおける住民課題について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 公衆栄養学について復習しておく
第5回	管理栄養士の役割とその重要性について	（学修内容）改めて管理栄養士の仕事と役割について理解し、自己の目標を定める （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書のみではなく、住民の声や事業などを検索しておくこと
第6回	地域住民への管理栄養士の役割について	（学修内容）公衆栄養活動のための、地域における役割を確認し、活動方法を考える （事前事後学修課題の内容）（120分） 地域活動の実態について検索しておくこと 地域の情報を収集すること
第7回	公衆栄養行政における食と栄養の課題を発見する	（学修内容）社会における食と栄養の課題を抽出する （事前事後学修課題の内容）（60分） 住民を取り巻く食品や食環境の課題を検索すること
第8回	公衆栄養行政における食と栄養の課題の検討と改善策の提案	（学修内容）社会における食と栄養の課題を掘り下げ、PDCAサイクルに沿った改善策の提案を行う（グループワーク） （事前事後学修課題の内容）（120分） グループ全員で取り組むこと
第9回	課題解決の方法・方向性について	（学修内容）課題解決の方法・方向性について、優先性、実現可能性について考える （事前事後学修課題の内容）（60分） 課題の優先順位の付け方を復習しておくこと
第10回	具体的な課題解決方法の検討	（学修内容）具体的な課題解決方法の検討を行い、背景や理由を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 広く情報を収集し、多くの解決策を導きだせるよう準備すること
第11回	課題に対するそれぞれの具体的な解決方法の検証	（学修内容）考えた課題への取り組みについて、多角的に検証する （事前事後学修課題の内容）（60分） グループ全員でチームワークを発揮し準備すること
第12回	設定した課題に対する解決方法の地域社会への発信方法の検討	（学修内容）発信方法についての長所・短所を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 身の回りの様々な発信方法を見つけてくる
第13回	取り組んだ課題とその解決方法についての発表と相互評価（課題別プレゼンテーション1）	（学修内容）グループでの取り組みを発表する（プレゼンテーション・ディスカッション） （事前事後学修課題の内容）（120分） 他の班の発表に対して質問をおこなう
第14回	取り組んだ課題とその解決方法についての発表と相互評価（課題別プレゼンテーション2）	（学修内容）グループでの取り組みを発表する（プレゼンテーション・ディスカッション） （事前事後学修課題の内容）（120分） 他の班の発表に対して質問をおこなう
第15回	まとめと総括	（学修内容）栄養マネジメントサイクルの全体について確認する 臨地実習にむけて、自己の目標設定や達成度を確認する （事前事後学修課題の内容）（60分） 課題への取り組みや、臨地実習への自己評価を行っておくこと

授 業 名	学校栄養教育概論			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Nutrition Education at School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	堀越 昌子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	<p>栄養教諭は食育基本法に基づき、学校教育において、食育を推進していく主要な食の専門家として位置づけられている。栄養教諭としての使命、役割を把握し、子どもたちに食生活が健康な身体をつくっていく基本であることを教えていくための基礎的な知識と技能を修得する。班で学年ごとの食指導プラン、他教科との連携の在り方を討論し、学習指導案を仕上げて発表する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養教諭の使命を理解し、食に関する指導を実践するための専門知識及び技能を修得できる。 2) 児童・生徒の食生活の実態と課題を把握し、課題を解決する方策を考えることができる。 3) 学校給食の中で、また家庭科など他教科担任と連携して、食に関する学習指導案を作成できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	四訂栄養教諭論 理論と実際 第1版 金田雅代 編著 建帛社								
参 考 書	栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂 笠原賀子編著 医歯薬出版株式会社								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、小テストを実施し、コメントをつけて返却し、また発表、討論を通して、フィードバックをはかっていく。								
留 意 事 項	受講者間で課題について討論し、コミュニケーションをとって、優れた食育実践ができる力をつけていく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	学校栄養教育概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食育基本法と食育推進計画、栄養教諭制度創設の経緯、学校給食法とその教育学的意義、栄養教諭の使命と職務内容	(学修内容) 食育基本法と食育推進計画、学校給食法、栄養教諭の使命と職務内容について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	食に関する指導の全体計画の作成	(学修内容) 食に関する指導の全体計画(給食指導、他教科との連携指導、総合学習の中での指導)を学ぶ。班活動で指導計画案に取り組み (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を参考に食指導の全体計画の立て方を理解しておく
第3回	「全体計画」の内容と作成の手順 学校、学年、給食の時間の年間指導計画	(学修内容) 「全体計画」の内容と作成の手順、学校、学年、給食の時間の年間指導計画の立て方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 「全体計画」を構成要素ごとに組み立て、指導計画案をつくる
第4回	学習指導案の構造と作成の仕方	(学修内容) 学習指導案の構成要素と作成の仕方を学ぶ。グループ討議を通して、授業の展開法や評価法を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学年ごとの食指導内容に基づいて、学習指導案を作成する
第5回	食に関する指導の展開 1)小学校低学年 2)小学校中学年	(学修内容) 食に関する指導の展開1)小学校低学年、2)小学校中学年における内容と教材について、特徴と活用法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 小学低学年用、小学中学年用学習内容と教材を決めていき、組み立てていく
第6回	食に関する指導の展開 3)小学校高学年 4)中学校	(学修内容) 食に関する指導の展開3)小学校高学年、2)中学校における内容と教材について、特徴と活用法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 小学高学年用、中学生用の学習内容と教材を決めていき、組み立てていく
第7回	各学年における学習指導案の作成	(学修内容) 学習指導案の作成と模擬授業 (事前事後学修課題の内容)(60分) 班ごとに担当分野を決めて、学年ごとの学習指導案を作成し、授業の準備をする
第8回	特別支援学校における食の指導	(学修内容) 特別支援学校における食の指導に関連する事項について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 特別支援学校における食の指導について調べ、発表する
第9回	小学校「家庭科」における食の指導 学習指導要領「家庭」と食分野の指導	(学修内容) 学習指導要領「家庭」を確認し、小学生「家庭科」授業の目標と食に関する指導内容を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 小学校「家庭科」での食指導内容について、把握しておく
第10回	小学校「家庭科」における栄養教諭のかかわり方	(学修内容) 小学校「家庭科」における担当教員との連携作業のやり方、栄養教諭のかかわり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 家庭科担任との連携の在り方、栄養教諭の役割を考えておく
第11回	中学校「技術・家庭科」[家庭分野]における食の指導 学習指導要領「家庭分野」と食分野の内容	(学修内容) 中学校「技術・家庭科」[家庭分野]の指導要領を確認し、食分野の内容と指導方法を学ぶとともに、家庭科教員との連携の仕方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 中学校「技術・家庭科」の指導要領内容と指導内容、指導法の特徴を把握し、連携の仕方を考える
第12回	中学校「技術・家庭科」[家庭分野]における栄養教諭のかかわり方	(学修内容) 「技術・家庭科」[家庭分野]における家庭科教員との連携の仕方と栄養教諭のかかわり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 中学校「技術・家庭科」の授業の中で、栄養教諭のかかわり方、役割を討論する
第13回	「道徳・特別活動」における食に関する指導 道徳および特別活動の目標と指導内容	(学修内容) 「道徳・特別活動」における食に関する指導、道徳および特別活動の目標と指導内容について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 「道徳・特別活動」での食指導と評価法を検討し、発表する
第14回	「生活科」における食に関する指導 生活科の創設経緯と内容構成と栄養教諭の役割	(学修内容) 「生活科」における食に関する指導、生活科の創設経緯と内容構成、栄養教諭の役割について学び、効果的な食指導アイデアを出し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「生活科」における低学年小学生への食指導のアイデアを出して発表する。
第15回	「学校栄養教育概論」全体のまとめ	(学修内容) 「学校栄養教育概論」全体をまとめて、栄養教諭としての任務を把握する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学校栄養教育概論全体の復習し、任務を把握する。

授 業 名	学校栄養教育指導論			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Nutrition education in school			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	日本の食文化や児童を取り巻く社会背景をもとに、食の専門家である栄養教諭としての使命、役割、職務内容を理解する。本講義では学校教育において、食に関する専門的な知識・技能、および教育者としての基礎的な技能を修得する。また、模擬授業などを通して実践できる力をつける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養に関わる教育を実践するための専門知識及び技能を修得できる。 2) 児童・生徒の食生活の実態と課題を把握し、方策を考えることができる。 3) 学校給食の実際と食に関する指導について、家庭・地域との連携による食の指導について理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	金田雅代編著『四訂栄養教諭論』建帛社 2019年								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして模擬授業実施後に講評を行う。 提出されたレポートはコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	受講者間のディスカッションに積極的に参加すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション 学校給食の教育的意義と役割、学校給食の組織と 栄養教諭の位置づけ	(学修内容) 学校給食法、学校給食の組織と栄養教諭の位置づけ、学校保健委員会について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく	
第2回	学校給食の歴史と食文化の変遷	(学修内容) 学校給食の歴史、日本人の食生活と学校給食について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 1回目の配布プリントを復習しておくこと、授業開始時にその内容のプレゼンテーションを行う	
第3回	地場産物の活用と郷土食	(学修内容) 地場産物の活用と郷土食について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 地場産物の給食献立案を第5回の授業までに考えレポートにまとめ提出する	
第4回	子どもの発達と食生活	(学修内容) 子どもの健康、食生活、食習慣について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 3回目の配布プリントを復習しておき、授業開始時にその内容のプレゼンテーションを行う	
第5回	給食の時間における食に関する指導	(学修内容) 給食の時間における食に関する指導について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 地場産物の給食献立案のレポートをまとめて提出する	
第6回	給食の時間における食に関する指導の実際	(学修内容) 給食の時間における食に関する指導案の作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指導案の作成について考えをまとめておく	
第7回	給食の時間における食に関する指導の模擬授業	(学修内容) 給食の時間における食に関する指導の模擬授業を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導案を完成させ、模擬授業の準備をしておく	
第8回	「体育科・保健体育科」における食に関する指導	(学修内容) 小・中学生の「体育科・保健体育科」授業の目標と食育に関連する事項について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 小・中学生の「体育科・保健体育科」について調べ、授業開始時に受講者でディスカッションを行う	
第9回	「総合的な学習の時間」における食に関する指導	(学修内容) 「総合的な学習の時間」における栄養教諭の役割について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 「総合的な学習の時間」について調べ、授業開始時に受講者間でディスカッションを行う	
第10回	個別栄養相談指導の方法	(学修内容) 個別栄養相談指導に用いるカウンセリング技法について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 「個別栄養相談指導」の内容について調べ、授業開始時に受講者間でディスカッションを行う	
第11回	対象者別個別栄養相談指導	(学修内容) 食物アレルギーの児童・生徒など対象者別個別栄養相談指導について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 食物アレルギーについて調べ、授業開始時に受講者間でディスカッションを行う	
第12回	家庭・地域との連携	(学修内容) 家庭・地域との連携の方法について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 地場産物の給食献立案のレポートの栄養価計算をして完成させ、レポートにまとめて提出する	
第13回	学校給食だよりの作成	(学修内容) 家庭との連携のための学校給食だよりを作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 次回までに学校給食だよりを完成させる	
第14回	学校給食だよりの評価	(学修内容) 各自で作成した学校給食だよりを受講者間で評価する (事前事後学修課題の内容) (30分) 学校給食だよりに関するレポートを作成する	
第15回	「学校栄養教育指導論」全体のまとめと文部科学省の 新学習指導要領の確認	(学修内容) 文部科学省の新学習指導要領を確認する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第14回のレポート提出と学校栄養教育指導論全体の復習	

授 業 名	栄養教育実習事前・事後指導			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Guidance to Teaching Practicum (Nutrition Teachers)			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修	必修	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	<p>栄養教育実習を充実したものにすることが、より良い教員への第一歩であることを自覚し、実習に向けての心構えを身につける。これまでの教職に関する科目や食物の専門科目の学びを活かし、実習計画を立案し、対象の児童生徒に適した指導案の作成、準備を行うとともに、責任ある社会人としての態度を育成する。 実習後は、客観的に自己分析を行い、より専門職としての資質を高めるよう学びを深める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養教育実習の意義と目的を理解し、必要な知識・技能・態度を習得する。 2) 子ども理解、学校組織の理解ができ、栄養教諭の責任と役割が理解できる。 3) 積極的な態度で臨み、児童生徒の発達段階に応じた食に関する指導ができる。 4) 実習後は実習を振り返り、評価を行い、自己の課題を整理、明らかにし、改善することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	「学校栄養教育概論」「学校栄養教育指導論」で使用のテキスト(「栄養教諭論」金田雅代 建帛社)を使います。								
参 考 書	「食に関する指導の手引き - 第一次改定版 - 」 文部科学省 「栄養教諭のための学校栄養教育論」 笠原賀子 医歯薬出版								
課題に対する フィードバック の方法	実習前はレポート、指導案を点検、添削し、個々の学生に適したアドバイスをを行い、返却する。 実習後は報告会で個々にアドバイスをを行うとともに、学びの成果の共有化をはかる。								
留 意 事 項	実習に必要な伝達事項がある場合や、教育実習の時期に合わせて開講時期、時間が変則的になる可能性があります。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都府立高校で家庭科教員として勤務								

授 業 名		栄養教育実習事前・事後指導	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	栄養教育実習の法的根拠 学校経営、校務分掌など	(学修内容) 栄養教育実習実施の法的根拠、受け入れの根拠等、 校内の組織、教育計画などを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、テキストを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第2回	栄養教育実習の意義と目指す教師像	(学修内容) 栄養教育実習の意義、教師に求められる資質や職務内容等について理解 する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト、課題プリントを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第3回	教育実習の準備と心構え	(学修内容) 事前準備、一般的な注意事項を理解する。 実習ノートの作成、実習校への挨拶等、留意点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト、課題プリントを読む。実習校の状況を調べておく。 打合せ等実習準備を進める。	
第4回	児童心理の理解と指導	(学修内容) 児童理解と対象者に応じた指導法についての理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、課題プリントを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第5回	指導案の作成	(学修内容) 実習時における研究授業の指導案・教材を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導案を作成、教材研究する。	
第6回	指導案の作成	(学修内容) 実習時における研究授業の指導案・教材を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導案を作成、教材研究する。	
第7回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業を行い、研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業の指導案を読んでくる。 評価し、レポートにまとめる。	
第8回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業を行い、研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業の指導案を読んでくる。 評価し、レポートにまとめる。	
第9回	研究授業の指導案・教材を作成、完成	(学修内容) 評価を受けた研究授業の指導案・教材を完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指導案・教材を作成する。	
第10回	教育実習の準備(最終確認)	(学修内容) 実習準備を済ませる。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習準備を完了する。	
第11回	教育実習のまとめ	(学修内容) 実習ノートのまとめ、課題のまとめをする。 お礼状の作成と発送を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習ノートをまとめる	
第12回	教育実習のまとめ	(学修内容) 報告会の資料作り (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、課題プリントを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第13回	教育実習の報告会	(学修内容) 教育実習の報告をする。研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告会の資料を読んでおく。 レポートにまとめる。	
第14回	教育実習の報告会	(学修内容) 教育実習の報告をする。研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告会の資料を読んでおく。 レポートにまとめる。	
第15回	振り返り・まとめ	(学修内容) 栄養教育実習を総括する。 教育実習ノート、履修カルテを完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを作成する。 実習ノート、履修カルテを提出する。	

実 習 名	栄養教育実習	対 象 学 生	食物栄養4回生
担 当 者	坂本 裕子		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 実際の教育実践にふれながら、児童生徒や教職そのものについての理解を深める。教師としての基盤を確立するために、教育現場における教員の役割・責務等を理解し、教員としての基本的態度を身に付け、教職への使命感を育てる。児童生徒の置かれている食や生活状況の現状を把握し、食に関する指導にあたるための専門的、実践的指導力を身に付ける。また、教員として自らが高めなければならない資質や実践的指導力の課題を明らかにする。</p> <p>2. 内容 教員として必要な使命感や責任感、教育的配慮、児童生徒理解について学ぶ。 栄養教諭の役割と責任について学ぶ。 児童生徒の発達段階に応じた指導法を考え、実践することができる。 学校と家庭、地域との連携について理解する。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 実習担当、ゼミ担当教員が実習先を訪問し、実習校の担当教員との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 4回生の春学期～秋学期に、主に栄養教諭が配置されている小学校（中学校）で、1週間（30～40時間）の実習を行なう。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について 栄養教育実習事前指導を受けた者が、実習を行うことができるが、履修状況が悪い場合は実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理も求められる実習であり、事前指導への積極的な参加が求められる。また、実習後は実習報告会を行い、実習の学びを振り返り評価するとともに、実習中の課題を明確にし、課題の解決に向かう。実習ノート、出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>1. 実習受講の条件など ・総合基礎演習、総合基礎演習、現代家政学演習、現代家政学演習、人権と社会、教育原理、発達心理学が履修済みであること。 ・教育心理学、教育制度論、教育方法論、教育の方法と技術、生徒指導論、教職論、特別活動（道徳を含む）、学校栄養教育概論、学校栄養教育指導論、栄養教諭実習事前・事後指導、教育課程総論が履修済みまたは履修中であること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など ・プライバシー保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・実習先の好意により「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨む。体調管理をしっかり行い安全に実習を行う。</p>		

授業名	教職実践演習（栄養教諭）			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Educational practice seminar			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	坂本 裕子			対象学生	食物栄養4回生				
授業の概要	<p>大学での授業や栄養教育実習、地域活動やボランティア等を通して修得してきた知識や技能、履修カルテを用いた自己の振り返りを基に、栄養教諭として課題となった事柄や、今後、さらに必要とされる内容を明確にし、講義や演習、グループ討論、ロールプレイ、模擬授業、発表等、実際の教育現場を想定した学習活動等を通し、指導力のある栄養教諭として必要な資質や技能、実践力を習得していく。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 栄養教諭としての自己の課題を明確にし、課題を解決する力を身につける。 2) 教諭としての使命感、責任感を身につけ、学校での栄養教諭の役割を理解することができる。 3) 児童、生徒理解を深め、対象者に適した食に関する指導を行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	「学校栄養教育概論」「学校栄養教育指導論」で使用のテキストを使います。								
参考書	「食に関する指導の手引き - 第一次改定版 - 」 文部科学省 「栄養教諭のための学校栄養教育論」 笠原賀子 医歯薬出版								
課題に対するフィードバックの方法	発表については授業の中で評価、解説し、提出物についてはチェックを行い返却し、説明を行う。								
留意事項	栄養教諭担当教員が一部参加協力し授業を進める。 履修カルテ、実習ノートを持参すること。								
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：京都府立高校で家庭科教員として勤務								

授 業 名		教職実践演習（栄養教諭）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 自己の研修課題	（学修内容）履修カルテ、実習ノートからの振り返り （事前事後学修課題の内容）（30分） 履修カルテや実習ノートなどを振り返り、自己の課題を確認しまとめる。 教職の意義、学校現場についても振り返る。	
第2回	教職の意義、学校現場の理解	（学修内容）教員の仕事、学校の役割、責任について講義、グループ討議による事例研究 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教職の意義についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。	
第3回	学校での連携、学校と家庭、地域との連携	（学修内容）教職員とに協同、家庭・地域との連携のためのコーディネートについて 講義、グループ討議による事例研究 （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。	
第4回	栄養教諭の役割と責任について	（学修内容）栄養教諭の役割と責任について講義、グループ討議による事例研究 （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。	
第5回	社会性やコミュニケーション能力について	（学修内容）社会性やコミュニケーション能力の育成に講義、グループ学習 （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。	
第6回	児童・生徒理解、発達段階と指導法	（学修内容）児童・生徒理解、発達段階と指導法について講義、グループ討議による 事例研究 （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。	
第7回	食の指導力に関する実践研究 1	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 1 （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。	
第8回	食の指導力に関する実践研究 2	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 1 （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。	
第9回	食の指導力に関する実践研究 3	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 2 （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。	
第10回	食の指導力に関する実践研究 4	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 3 （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。	
第11回	食の指導力に関する実践研究 4	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 4 （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。	
第12回	食の指導の事後反省と教材研究	（学修内容）食の指導の事後反省と改善 教材研究のグループワーク （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。	
第13回	食育指導の模擬授業の構築 1	（学修内容）望ましい模擬授業の構築 1 （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。	
第14回	食育指導の模擬授業の構築 2	（学修内容）望ましい模擬授業の構築 2 （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。	
第15回	栄養教諭の役割 全体のまとめ	（学修内容）栄養教諭としての課題解決についてまとめる （事前事後学修課題の内容）（60分） 今日の授業についてまとめる。	

授 業 名	保育者論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Teacher			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	近年、保育所等に入所する子どもは、多くなっている。保育者の役割は大変重要となる。また、その専門性への期待も高まって、多くのことがらに対応しなければならなくなっている。この授業では、保育者の役割や倫理について理解する。制度による保育者の位置づけ、専門性について考え、理解する。また、保育者の連携・協働等についても学ぶ。グループで討議をし、課題や問題についての相互理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1, 保育者の役割と倫理について理解できる。 2, 保育士の制度的な位置づけを理解できる。 3, 保育士の専門性について考察し、連携や協働について理解できる。 4, 保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	矢藤誠慈朗他編『新基本保育シリーズ7 保育者論』中央法規 2019年								
参 考 書	授業内で、適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	課題レポート返却時に、説明、解説をする。								
留 意 事 項	課題レポートの提出。3回を予定している。他、授業内で課題を設定して、レポートの提出あり。。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室、演習室に掲示をする。在室時は、時間があれば対応する。(メールにて予約しても可能)								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育者の役割・職務内容	(学修内容) 保育士の役割と職務内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 2～12までを読み、理解する。	
第2回	保育者の倫理	(学修内容) 保育士の専門的倫理について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 14～22までを読み、理解する。	
第3回	保育者の資格と責務	(学修内容) 保育士の資格と研修について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 26～38を読み、理解する。事後: P 38のコラムを読み、キャリアアップ研修の実施について考えを、800字程度で提出。	
第4回	保育者の資質・能力	(学修内容) 保育者として必要な資質・能力について (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキスト P 40～50を読み、理解する。前回課題のレポート提出あり。	
第5回	養護および教育の一体的展開	(学修内容) 保育所保育における「養護」「教育」を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 52～62を読み、理解する。	
第6回	家庭との連携と保護者に対する支援	(学修内容) 家庭との連携の必要性について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 64～74を読み、理解する。事後: コラム P 74を読み、子育ての葛藤について考察し、800字程度でまとめ、提出。	
第7回	計画に基づく保育の実践と省察・評価	(学修内容) 保育の計画について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキストの P 76～86を読み、理解する。前回課題のレポート提出あり。	
第8回	保育の質の向上	(学修内容) 保育の資質の向上・保育の評価等について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト P 88～98を読み、理解する。	
第9回	保育における職員間の連携・協働	(学修内容) 保育における職員間の連携・協働・情報について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 100～112を読み、理解する。	
第10回	専門職間および専門機関との連携・協働	(学修内容) 専門職間・専門機関との連携・協働について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 114～124を読み、理解する。	
第11回	地域社会との連携・協働	(学修内容) 子どもを取り巻く地域社会について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 126～136を読み、理解する。	
第12回	関係機関等との連携	(学修内容) 関係機関等・保育事業について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 138～148を読み、理解する。	
第13回	資質向上に関する組織的取組	(学修内容) 資質の理解、組織的取組について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 150～159を読み、理解する。	
第14回	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	(学修内容) 保育者としての専門性向上について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストの P 162～172を読み、理解する。事後: コラム P 172の「保育カンファレンスについて」考察し、800字程度でまとめ提出。	
第15回	保育におけるリーダーシップ	(学修内容) 保育におけるリーダーシップとマネジメントについて。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキストの P 174～183を読み、理解する。前回課題のレポート提出あり。	